

天ヶ堤遺跡(2)

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域並びに
（一）香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊 旧石器・本文編

2008

東日本高速道路株式会社
群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

あま が つつみ
天ヶ堤遺跡(2)

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域並びに
（一）香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第1分冊 旧石器・本文編

2008

東日本高速道路株式会社
群馬県伊勢崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

天ヶ堤遺跡は伊勢崎市三和町に所在し、平成12年から15年にかけて北関東自動車道（伊勢崎～県境）及び県道香林羽黒線の道路工事に先立って発掘調査された遺跡です。

発掘調査は、東日本高速道路株式会社(旧日本道路公団)、群馬県県土整備部伊勢崎土木事務所からの委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施し、平成16年8月より整理作業を行っています。

本遺跡の周辺は、「あまが池」をはじめ多くの湧水点が存在し、太古より人々が暮らしを営んできた土地であることが知られています。今回の調査では旧石器時代の石器をはじめ、縄文、古墳、奈良時代の住居跡などが発見されました。特に縄文時代中期の遺物の出土量は大変豊富で、隣接する三和工業団地遺跡を含めこの地域には大規模な集落があり、多くの人々が生活していたことを物語っています。

本報告書は天ヶ堤遺跡の調査をまとめたものであり、既刊の天ヶ堤遺跡（1）とあわせてみることで、考古学の研究者はもちろん、郷土の歴史に関心をお持ちの県民の皆様、さらには学校教育における郷土学習にも大いに役立つものと確信しております。

最後に、東日本高速道路株式会社、伊勢崎土木事務所、伊勢崎市教育委員会、及び地元関係者の皆様には発掘調査から報告書刊行まで終始ご協力を賜り、感謝の意を表すとともに、発掘調査・整理作業に携わった担当者、作業員の方々、整理補助員の方々の労をねぎらい、序とします。

平成20年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇 夫

例 言

- 1 本書は、北関東自動車道路（以下、本線）建設工事および（一）香林羽黒線（以下、県側道）建設工事に伴い発掘調査された天ヶ堤遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 事業主体 本線 東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団）
県側道 群馬県県土整備部伊勢崎土木事務所（旧土木部道路建設課）
- 3 調査・整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査期間 本線 平成12年10月1日～平成15年1月31日
県側道 平成13年11月1日～平成15年1月31日
- 5 整理期間 平成16年8月1日～平成20年3月31日
- 6 調査組織
管理指導 平成12年度 小野宇三郎・赤山容造・住谷進・能登健
平成13・14年度東毛調査事務所 水田稔・能登健・津金澤吉茂・真下高幸
事務担当 平成12年度 相京建史・坂本敏夫・笠原秀樹・小山建夫・須田朋子・吉田有光・森下弘美・
柳岡良宏・片岡徳雄・今井もと子・内山佳子・佐藤美佐子・本間久美子・
北原かおり・狩野真子・若田誠・吉田茂・松下次男・蘇原正義
平成13・14年度東毛調査事務所 相京建史・笠原秀樹・柳岡良宏・田中健一・中澤恵子
調査担当 本線 平成12年度 石塚久則・金子伸也・杉田茂俊・久保学
平成13年度 関根慎二・小暮育秀・石坂聡
平成14年度 関根慎二・柿沼弘之・齋藤利子・長沼孝則
県側道 平成13年度 小暮育秀・田中雄・西原和久
平成14年度 小暮育秀
- 7 整理組織
管理指導 高橋勇夫・小野宇三郎・木村裕紀・住谷永市・津金澤吉茂・神保侑史・萩原勉・矢崎俊夫・
佐藤明人・中東耕志
事務担当 関晴彦・相京建史・笠原秀樹・丸岡道雄・石井清・宮前結城雄・竹内宏・高橋房雄・須田朋子・
吉田有光・柳岡良宏・斉藤恵利子・矢島一美・今泉大作・清水秀紀・佐藤聖行・齋藤陽子・
栗原幸代・阿久澤玄洋・今井もと子・内山佳子・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・
狩野真子・若田誠・武藤秀典
整理担当 本線 関根慎二・小暮育秀・齊田智彦
県側道 関根慎二・綿貫邦男・神谷佳明・齊田智彦
専門嘱託員 羽石智治・山賀和也
整理嘱託員 新井悦子・黒澤はるみ
整理補助員 阿部由美子・下境マサ江・深代初子・関口朝子・横谷純子・横塚由香・森田裕子・武井綾子・
増田政子・島村玲子・鈴木春美・佐々木雅子・佐藤知子・牧野敏美・品川秀美・小野寺仁子・
萩原光枝・小淵トモ子・安藤美奈子・真庭和子・笛木広美・福島和恵・長谷川公子・
大勝桂子・新井雅子・高橋とし子・島崎敏子・萩原由香

遺物写真撮影 佐藤元彦

遺物保存処理 関 邦一・土橋まり子・小材浩一

機 械 実 測 岸弘子・伊東博子・田所順子・廣津真紀子・酒井史恵・友廣裕子・富沢スミ江

8 執 筆 関根慎二・櫻井美枝・綿貫邦男・相京建史・齊田智彦・羽石智治・山賀和也

9 委託関係 アコン測量設計株式会社・株式会社アルカ・株式会社アルケリサーチ・株式会社シン技術
コンサル・株式会社測研・株式会社スカイサーベイ・株式会社パスコ・技研測量株式会社

10 石材同定にあたっては飯島静男氏（群馬地質研究会）にご教示を得た。

11 遺構図と石器実測トレースの一部及び遺構写真についてはデジタル編集をおこなった。

12 調査、整理に当たっては、下記の方々にご協力、助言を頂いた。記して感謝の意を表したい。

秋田かな子・阿部昭典・伊東正人・鶴飼堅証・江原英・岡田憲一・長田友也・金子直行・木下哲夫・

瀬瀬茂・小菅将夫・小林達雄・斉藤弘道・斉藤準・佐藤雅一・品田高志・渋谷昌彦・澁谷賢太郎・

菅谷通保・鈴木徳雄・鈴木保彦・勢藤力・芹澤清八・大工原豊・田中耕作・土肥孝・戸田哲也・

細田勝・堀江格・水沢教子・森嶋秀一・山田しょう・山本輝久・綿田弘実

（敬称略、順不同）

13 出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保存してある。

凡 例

1 遺構図中の方位は座標北を示す。

2 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構図 住居・溝 1：60、土坑・ピット・井戸 1：40、埋甕・炉・竈 1：20、1：30

遺物図 縄文時代完形土器 1：4 または 1：6 土器片・土製円盤 1：4 土師器および須恵器 1：3

大型石器 1：6 小型石器 1：1 または 1：2 その他 1：3

ただし、図によってその限りでなく、異なる場合には各々スケールを付した。



4 遺物写真の倍率は原則として遺物図に近づけたが、この限りでない。


5 遺構番号は、調査時の番号をそのまま付したが、一部整理の都合上変更した遺構もある。

6 遺物番号は、土器については各遺構ごとの、石器については調査区ごとの連番とした。なお、遺構図中
においては混乱を避けるために、石器の番号の最初にSを付した。

7 図中で使用したインレット・スクリーントーンは以下の通りである。

土器 ● 石器・自然石 ▲ 焼土・灰 

石器磨面  結晶片岩製石器における面的な加工範囲 

石器節理面 

目 次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

- 第1節 調査に至る経緯…………… 1
- 第2節 天ヶ堤遺跡本線調査経過(日誌抄)…… 1
- 第3節 天ヶ堤遺跡県側道調査経過(日誌抄)… 2
- 第4節 天ヶ堤遺跡整理作業経過…………… 3
- 第5節 遺跡の基本層序…………… 4

第2章 旧石器

- 第1節 概要…………… 5
- 第2節 第1文化層…………… 5
 - 1 出土した石器…………… 5
 - 2 接合資料…………… 8
 - 3 石器の分布……………22
- 第3節 第2文化層……………25
 - 1 出土した石器……………25
 - 2 接合資料……………30
 - 3 石器の分布……………32
 - 4 ブロック外出土の石器……………33
- 第4節 第3文化層 II・III区……………35
 - 1 出土した石器……………35
 - 2 接合資料……………46
 - 3 石器の分布……………58
- 第5節 第3文化層 IV区……………76
 - 1 出土した石器……………76
 - 2 接合資料……………90
 - 3 石器の分布……………100
 - 4 側道部出土の石器……………105
 - 5 その他の石器……………106

第3章 県側道1・2区 検出された遺構

- 第1節 遺構の概要……………120
- 第2節 県側道1区検出の遺構……………120
- 第3節 県側道2区検出の遺構……………121

第4章 本線III区・県側道3区 検出された遺構

- 第1節 縄文時代の遺構……………123
 - 1 遺構の概要……………123
 - 2 検出された遺構……………123
- 第2節 古墳時代～中・近世の遺構……………147
 - 1 遺構の概要……………147
 - 2 検出された遺構……………147

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

- 第1節 縄文時代の遺構……………153
 - 1 遺構の概要……………153
 - 2 検出された遺構……………153
- 第2節 古墳時代～中・近世の遺構……………165
 - 1 遺構の概要……………165
 - 2 検出された遺構……………165

第6章 出土遺物

- 第1節 出土土器……………176
- 第2節 出土石器……………301

第7章 分 析

- 第1節 天ヶ堤遺跡出土黒曜石の産地推定 ……346
- 第2節 自然科学分析……………352

第8章 まとめ

- 第1節 旧石器時代……………361
- 第2節 縄文時代以降……………364

抄録

挿 図 目 次

第 1 図	グリッドの設定と調査区	3
第 2 図	基本土層	4
第 3 図	旧石器時代遺物調査範囲及び試掘トレンチ位置図	6
第 4 図	第 1 文化層石器分布	7
第 5 図	第 1 文化層調査区北壁セクション	8
第 6 図	第 1 文化層出土石器(1)	9
第 7 図	第 1 文化層出土石器(2)	10
第 8 図	第 1 文化層出土石器(3)	折込
第 9 図	第 1 文化層出土石器(4)	13
第 10 図	第 1 文化層接合資料— 1	15
第 11 図	第 1 文化層接合資料— 1・2	16
第 12 図	第 1 文化層接合資料— 2・3	17
第 13 図	第 1 文化層接合資料— 4～6	18
第 14 図	第 1 文化層接合資料— 6	19
第 15 図	第 1 文化層接合資料— 7	20
第 16 図	第 1 文化層接合資料— 7・8	21
第 17 図	第 1 文化層器種・石材別石器分布	23
第 18 図	第 1 文化層石器接合状況	24
第 19 図	第 2 文化層調査区北壁セクション	25
第 20 図	第 2 文化層石器分布	26
第 21 図	第 2 文化層出土石器(1)	27
第 22 図	第 2 文化層出土石器(2)	28
第 23 図	第 2 文化層接合資料— 1～7	29
第 24 図	第 2 文化層 1 ブロック石器分布	31
第 25 図	第 2 文化層 1 ブロック石器接合状況	32
第 26 図	第 2 文化層ブロック外出土石器(1)	33
第 27 図	第 2 文化層ブロック外出土石器(2)	34
第 28 図	第 2 文化層ブロック外出土石器	34
第 29 図	第 3 文化層 (II・III区) 石器分布	36
第 30 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(1)	37
第 31 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(2)	38
第 32 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(3)	39
第 33 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(4)	40
第 34 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(5)	41
第 35 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(6)	42
第 36 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(7)	43
第 37 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(8)	44
第 38 図	第 3 文化層 (II・III区) 出土石器(9)	45
第 39 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 1・2	47
第 40 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 2～4	49
第 41 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 5～8	50
第 42 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 9～13	51
第 43 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 14～22	53
第 44 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 23～26	55
第 45 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 26・27	56
第 46 図	第 3 文化層 (II・III区) 接合資料— 28～33	57
第 47 図	第 3 文化層 (II・III区) 器種・石材別石器分布	59
第 48 図	第 3 文化層 (II・III区) 1 ブロック石器分布	60
第 49 図	第 3 文化層 (II・III区) 2 ブロック石器分布	61
第 50 図	第 3 文化層 (II・III区) 3 ブロック石器分布	62
第 51 図	第 3 文化層 (II・III区) 4 ブロック石器分布	63
第 52 図	第 3 文化層 (II・III区) 5 ブロック石器分布	64
第 53 図	第 3 文化層 (II・III区) 5 ブロック出土石器	65
第 54 図	第 3 文化層 (II・III区) 6 ブロック石器分布	65
第 55 図	第 3 文化層 (II・III区) 7 ブロック石器分布	66
第 56 図	第 3 文化層 (II・III区) 8 ブロック石器分布	67
第 57 図	第 3 文化層 (II・III区) 9 ブロック石器分布	68
第 58 図	第 3 文化層 (II・III区) 9 ブロック出土石器	69
第 59 図	第 3 文化層 (II・III区) 10 ブロック石器分布	69
第 60 図	第 3 文化層 (II・III区) 11 ブロック石器分布	70
第 61 図	第 3 文化層 (II・III区) 黒色安山岩接合状況	71
第 62 図	第 3 文化層 (II・III区) 黒色安山岩接合状況 (接合資料— 1～9)	72
第 63 図	第 3 文化層 (II・III区) 黒色安山岩接合状況 (接合資料— 10～25)	73
第 64 図	第 3 文化層 (II・III区) チャート・その他の 石材接合状況	74
第 65 図	第 3 文化層 (II・III区) 9 ブロック接合状況	75
第 66 図	第 3 文化層 (IV区) 石器分布	77
第 67 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(1)	78
第 68 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(2)	79
第 69 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(3)	80
第 70 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(4)	81
第 71 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(5)	82
第 72 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(6)	83
第 73 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(7)	84
第 74 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(8)	85
第 75 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(9)	86
第 76 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(10)	87
第 77 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(11)	88
第 78 図	第 3 文化層 (IV区) 出土石器(12)	89
第 79 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 1	91
第 80 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 2・3	92
第 81 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 4・5	93
第 82 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 6～8	95
第 83 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 9～11	96
第 84 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 12～16	97
第 85 図	第 3 文化層 (IV区) 接合資料— 17～24	99
第 86 図	第 3 文化層 (IV区) 器種・石材別石器分布	100
第 87 図	第 3 文化層 (IV区) 1 ブロック石器分布	101
第 88 図	第 3 文化層 (IV区) 2 ブロック石器分布	102
第 89 図	第 3 文化層 (IV区) 黒色安山岩接合状況(1)	102
第 90 図	第 3 文化層 (IV区) 黒色安山岩接合状況(2)	103
第 91 図	第 3 文化層 (IV区) その他の石材接合状況	104
第 92 図	第 3 文化層 (IV区) 側道部分石器分布	105
第 93 図	縄文時代の混入と思われる石器の出土位置	106
第 94 図	縄文時代の混入と思われる石器	107
第 95 図	県側道 1・2 区全体図	122
第 96 図	本線 III 区・県側道 3 区縄文時代住居位置図	124
第 97 図	本線 III 区古墳時代～中・近世面全体図	148
第 98 図	本線 IV 区・県側道 4 区縄文時代住居位置図	154
第 99 図	本線 IV 区・県側道 4 区中・近世面全体図	166
第 100 図	本線 IV 区・県側道 4 区古墳～平安時代面全体図	167
第 101 図	縄文土器変遷図	178
第 102 図	判別図 (縄文時代)	350
第 103 図	判別図 (旧石器時代)	351
第 104 図	各文化層の主要な石器	363
第 105 図	縄文時代住居の変遷図	368
第 106 図	縄文時代住居の変遷図	369
第 107 図	縄文時代住居の変遷	370

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

天ヶ堤遺跡は伊勢崎市三和町に所在し、中近世～縄文時代の遺物が多く散布しており、縄文時代の大集落であることが近接遺跡の事前の調査で明らかであり全面が調査対象地となった。本線部分の調査とほぼ同時期に県側道である一般県道香林羽黒線の事業を進めることとなった。このため、調査の効率化・経費の削減・安全対策等勘案し、用地の引渡しを受けた調査対象地は本線と側道が同時に調査を進めることができるよう各機関に協力を求めた。各機関で検討した結果了解が得られ、円滑に調査を進められる結果となった。近接して調査を行っていた遺跡から相次いで旧石器の出土報告があり、集落の調査を終了した部分にトレンチを入れ、文化層の確認を行ったところ、同一地形面から構成されている本遺跡にも旧石器の確認ができた。本線と側道の調査範囲を広く確保できたことにより、計画的に旧石器の調査まで終了させることができた。本線部分は平成12年10月1日から平成14年11月30日、側道部分は平成13年11月1日から平成15年1月30日までの期間で調査を実施した。報告書作成についても、資料として使い易く、効率的な整理期間と経費削減を目標として、各機関と協議し、承諾を得て事業実施を行ってきた。

第2節 天ヶ堤遺跡本線調査経過（日誌抄）

天ヶ堤遺跡本線は、北関東自動車道（伊勢崎～県境）事業による調査である。本遺跡の調査は、平成12年度秋から平成14年度にかけて約2年の調査であった。調査地が広範囲のためⅠ区～Ⅳ区に分け調査を行った。Ⅰ・Ⅱ区については、天ヶ堤遺跡（1）に掲載した。本項では、Ⅲ・Ⅳ区について調査経過の概要を掲載する。

平成12（2000）年度	平成13（2001）年度
10月1日 天ヶ堤遺跡調査開始	4月9日 本年度調査開始
16日～下旬 Ⅲ区表土掘削	19日 Ⅲ区縄文包含層遺構確認
11月7日 Ⅲ区中近世面遺構検出	26日 Ⅲ区古代遺構・縄文時代遺構調査
9日 Ⅲ区中近世面発掘	5月1～11日 Ⅲ区古代調査、縄文時代住居調査
16日 Ⅲ区古墳時代1～9号住居調査	11日 Ⅲ区古代住居調査終了
12月4日 Ⅲ区古代掘立柱建物等調査	17～31日 Ⅲ区縄文時代遺構調査
6日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	6月1日～下旬 Ⅲ区縄文時代包含層調査
22日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	20日 Ⅲ区土抗多数検出調査
1月10日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	7月2日～下旬 Ⅲ区縄文時代包含層遺構確認
31日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	30日 Ⅲ区縄文時代検出遺構調査
2月1日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	8月1～30日 Ⅲ区縄文時代検出遺構調査
28日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	9月3～28日 Ⅲ区縄文時代検出遺構調査
3月5日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	28日 調査区空撮
8日 Ⅲ区縄文時代遺構調査	10月2～25日 Ⅲ区縄文時代検出遺構調査
28日 本年度調査終了	30日 Ⅲ区旧石器試掘開始
	31日 Ⅲ区縄文面最終調査 旧石器試掘

第1章 調査に至る経過と遺跡の概要

11月1日	Ⅲ区縄文遺構残務調査、旧石器試掘	7月2～9日	Ⅳ区縄文時代遺構調査
26日	Ⅲ区旧石器試掘終了	10～20日	台風のため現場冠水・排水作業
30日	埋め戻し	30日	Ⅳ区縄文時代配石調査
12月3日	埋め戻し終了	31日	Ⅳ区空撮
1月8日	Ⅳ区表土掘削	8月1日～下旬	Ⅳ区縄文時代配石遺構調査
2月1日	Ⅳ区遺構確認	27日	Ⅱ・Ⅲ区間道路、Ⅲ・Ⅳ区間道路掘削調査
6日	Ⅳ区中近世面調査	28日	Ⅱ・Ⅲ区間道路掘削
13日	Ⅳ区縄文時代遺構調査	9月3日～下旬	Ⅳ区縄文時代配石調査
3月1日	Ⅳ区縄文時代遺構調査	10月2～4日	Ⅳ区縄文時代遺構、Ⅲ・Ⅳ区道下調査
14日	Ⅳ区遺物取り上げ・遺構確認	10～24日	Ⅳ区縄文時代遺構、Ⅳ区旧石器試掘
22日	本年度現場終了	31日	Ⅳ区旧石器調査
平成14(2002)年度		11月5日	Ⅳ区縄文時代遺構調査、旧石器調査
4月9日	Ⅳ区調査開始	12日	Ⅳ区縄文面調査終了、旧石器調査
11日	Ⅳ区中近世・縄文時代遺構調査	13～29日	Ⅳ区旧石器調査
24日	Ⅳ区全景写真撮影	12月2日～中旬	Ⅳ区旧石器調査
5月1日	Ⅳ区縄文時代遺構調査	1月20日	調査終了 道路公団引き渡し
29日	Ⅳ区縄文時代配石調査		
6月3日	Ⅳ区縄文時代遺構調査		
24日	Ⅳ区縄文時代包含層調査		

第3節 天ヶ堤遺跡県側道調査経過(日誌抄)

天ヶ堤遺跡県側道部分の調査は、地方道路香林羽黒線の事業として、平成13年度から平成14年度に行われた。調査地が本線部分と並行するため調査区割については、本線部と同様に行った。調査時期は、4区については、本線と並行して行ったが、その他の地区については、調査時期にばらつきがある。

平成13(2001)年度		14日	3区縄文時代遺構・土坑調査・旧石器試掘、4区遺構確認
11月1日	調査準備	21日	3区縄文時代遺構・土坑調査・旧石器試掘、4区遺構確認
21日	3区表土掘削開始		
12月3日	3区中近世遺構調査		
21日	3区遺構確認	平成14(2002)年度	
1月8日	3区縄文時代遺構確認	4月9日	3区、4区調査開始
31日	3区縄文時代遺構調査、4区遺構確認	11日	3区旧石器調査、4区中近世調査
2月1日	3区縄文時代遺構・包含層調査、4区中近世調査遺構確認	30日	3区旧石器調査
20日	4区中近世面全景撮影	5月1日	3区旧石器実測・写真
22日	3区縄文時代遺構、4区中近世土坑調査	24日	3区旧石器遺物取り上げ
25日	3区縄文時代遺構・土坑調査、4区近世土坑調査	28日	3区旧石器写真、調査終了
3月1日	3区縄文時代遺構調査、4区古墳面調査	29日	4区縄文時代遺構調査
		6月3日	4区縄文時代遺構調査
		19日	4区縄文時代遺構調査

第4節 天ヶ堤遺跡整理作業経過

7月2日	4区縄文時代遺構調査	10月2日	2区縄文面調査
10～12日	台風による冠水のため排水作業	3日	4区遺構確認
22日	4区縄文時代遺構調査	8日	2区遺構確認、4区旧石器試掘
31日	1区遺構確認	10～25日	2区遺構確認、4区旧石器試掘
8月1日	1区縄文包含層、4区遺物包含層調査	31日	2区旧石器調査
5日	1区縄文包含層調査	11月4日	2区旧石器調査、縄文時代遺構調査
6～8日	1区旧石器試掘調査終了	12日	2区旧石器遺物取り上げ、4区旧石器調査
20日～下旬	4区縄文時代遺構調査	13日	2区旧石器調査終了、4区旧石器調査
9月2日	4区遺構確認	14日	4区旧石器調査
3日	4区遺構確認	27日	調査終了
10～27日	2区近世面調査、4区遺構確認		

第4節 天ヶ堤遺跡整理作業経過

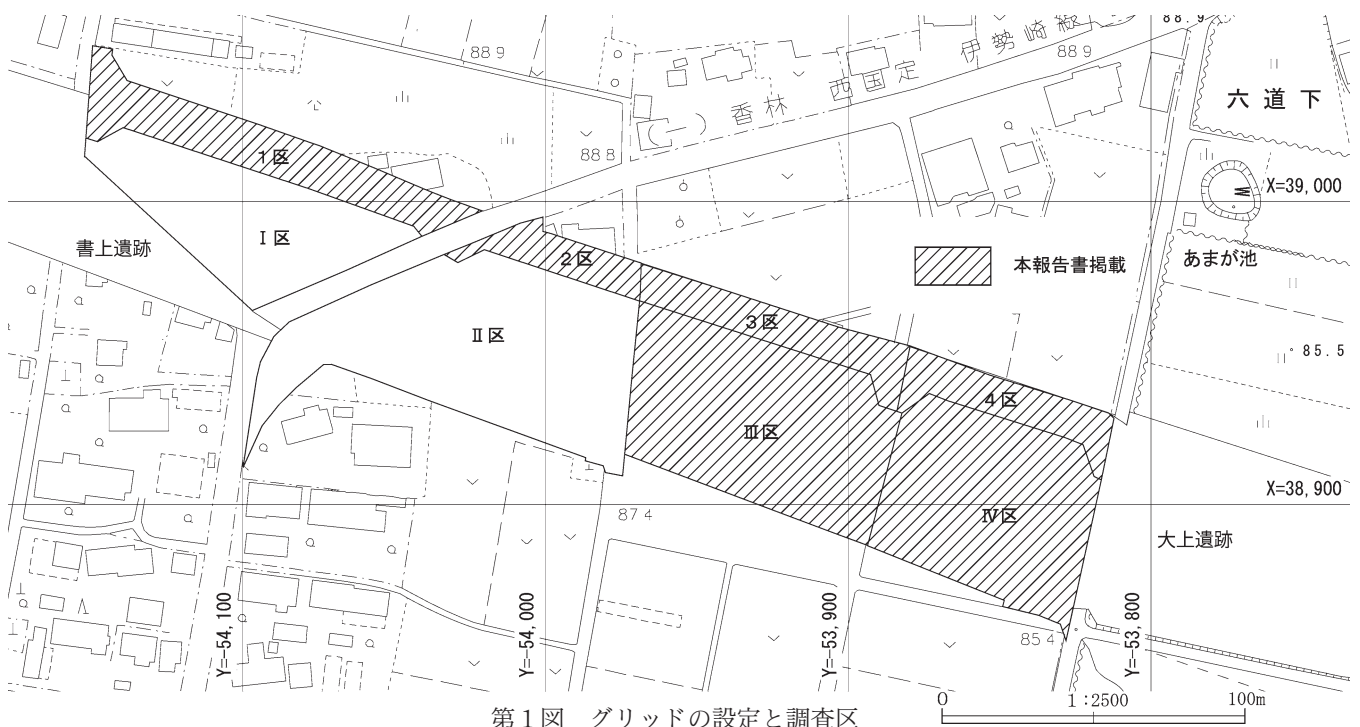
本遺跡の調査区は、北関東自動車道事業と県道事業に分かれているが、整理事業の効率化を図るため一体的に整理事業を行った。整理事業は、平成16年度からはじまったが、年度によって整理事業の主体者が異なっている。

平成16年8月から平成17年3月まで、県土木部事業として整理事業を開始する。県側道部の遺構出土遺物を中心として接合・実測作業をする。

平成17年度は、北関東自動車道事業となり、2班体制となる。北関東自動車道1区、2区の遺構・遺物を主体として整理業務を行い報告書刊行の準備をする。

平成18年度は、北関東自動車道と県土木事業の2班体制となる。高速道本線、側道部分整理業務、前年度まとめた1・2区部分の報告書を刊行した。

平成19年度は、整理事業の最終年度で北関東自動車道と県土木事業の2班体制で行う。前年度未報告部分の報告書（本書）を刊行する。



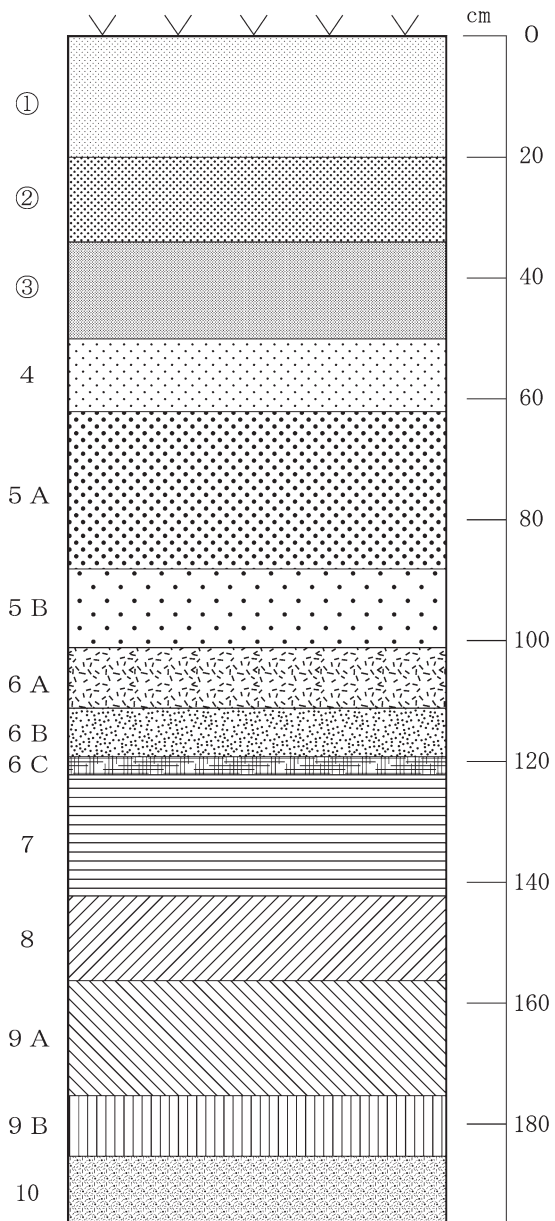
第1図 グリッドの設定と調査区

第5節 遺跡の基本層序

天ヶ堤遺跡は、大間々扇状地 I 面と呼ばれる桐原面にある。遺跡内は、大まかに近世～古墳時代までと縄文時代の文化層とローム層中の旧石器時代文化層に分かれる。ローム漸移層の縄文時代遺構確認面までの深さが、現地表面から30～60cm内にありローム漸移層より上位の土層については、耕作による攪乱を多く受けている。そのため、群馬で一般的に見られる浅間・榛名起源の軽石層は、耕作土中に混じってしまい本遺跡では、層位的に確認出来なかった。

基本層序は縄文時代以降については前回報告と同様であるが、旧石器時代については土層名称を変更し、下記の通りとした。

- 縄文時代以降の層序
- ① 細粒の黄褐色軽石に富む黒色土
現近代耕作土
 - ② 黒灰褐色土
古代～古墳時代遺構確認面
 - ③ 暗灰褐色土
縄文時代遺構確認面
- 旧石器時代ローム層序
- 4 黄褐色ローム。As-YP 含む。
 - 5 黄褐色ローム。As-OK 1 含む。部分的に軽石の少ない層（5 A）と多い層（5 B）に分層した。
 - 6 黄褐色ローム。As-BP グループ中・上部軽石含む。部分的に色調の明るい上層（6 A）と暗い下層（6 B）に分層した。IV区東側の低地に近い部分では、最下部に一次堆積の軽石層が確認できた（6 C）。
 - 7 暗褐色ローム。As-BP グループ下部軽石(As-MP) 含む。
 - 8 暗褐色ローム。AT 含む。
 - 9 暗褐色ローム(暗色帯)。部分的に色調の暗い上層（9 A）と明るい下層（9 B）に分層した。
 - 10 灰色シルト～粘質土。



第2図 基本土層

第2章 旧石器時代

第1節 概 要

天ヶ堤遺跡周辺では、湧水点から続く低地と、それに開析された低平なローム台地とが入り混じった地形の様相を呈す。本遺跡は、東側を「あまが池」、西側を「男井戸」から流下する低地によって画された、南北に長く伸びた台地上に位置している。やや幅広の台地は、東半を天ヶ堤遺跡、西半が書上遺跡と区分される。

隣接する三和工業団地遺跡や書上、大上、前道下遺跡などでは、湧水点に面した台地上で旧石器時代の石器分布が数多く確認されており、一大遺跡群を構成している。そのため、天ヶ堤遺跡でも、ローム台地上では旧石器時代遺物検出のための試掘調査を行った。調査は5×2mの試掘トレンチをほぼ5m間隔で設置し、暗色帯下の基本土層10層の上位まで掘削し、遺物の確認に努めた（第3図）。

試掘の結果、大きく4つの地点から石器が出土した。これらの石器群は、出土層位などから3枚の文化層に分けられ、上位から第1、第2、第3文化層とする。

第1文化層の石器群は、最も西よりのI区で発見された。出土層位は、As-YPを二次的に含む黄褐色ローム層（基本土層の4層）で、縄文時代の遺物包含層直下から出土している。I区では、ほぼ中央部で覆土中に縄文時代の遺物を包含する浅い谷が検出されており、その谷に向かってわずかに傾斜する西斜面に石器が分布していた。2ブロック、38点からなる小規模な石器分布である。

第2文化層の石器群もI区で発見された。第1文化層の石器分布より約20m北の地点で、標高値は20cmほどこちらが高くなっている。遺物の垂直分布は上下差が大きく、最大60cmほどの開きがある。出土層位も基本土層の4～7層と幅が広いが、As-Ok 1を二次的に含む5層下部から、As-BPのブロックを混入する6層にかけての範囲に最も集中している。1ブロック、83点の石器からなる。

第3文化層の石器群は、II区の東端からIII区の西端にかけてと、IV区中央部の2地点から発見された。II・III区の石器群は台地中央の平坦部に分布し、11ブロック、451点の石器からなる。このうち9カ所のブロックは直径20m程の環状に並び、いわゆる「環状ブロック群」を形成している。IV区の石器群は、東側の低地へ向かって傾斜する東斜面に分布しており、直径10m程の大型ブロックを中心とし、総数317点の石器からなる。両地点とも出土層位は暗色帯中で、基本土層の9層にあたる。2地点間での接合は確認できなかった。

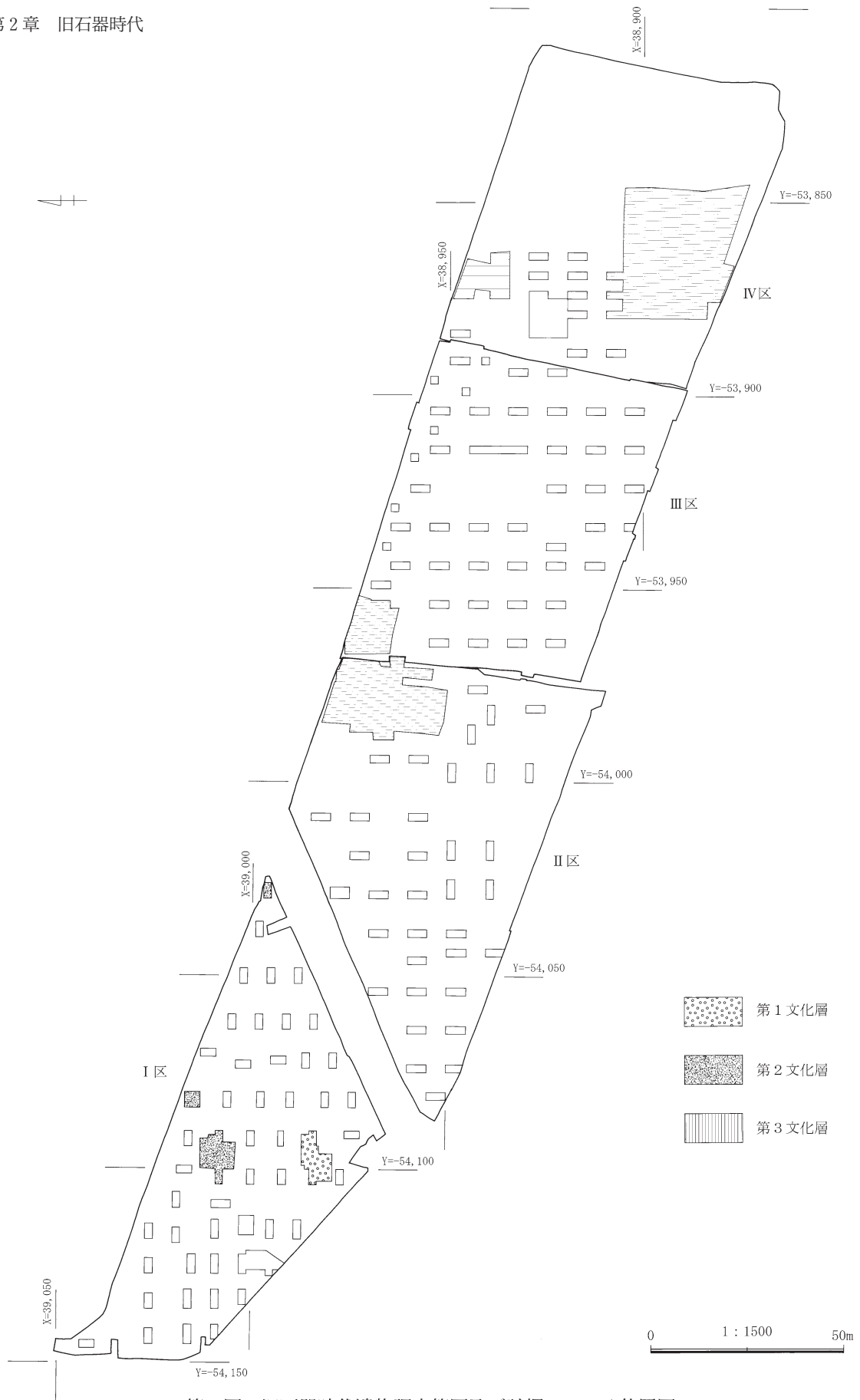
以下、各文化層ごとに記す。

第2節 第1文化層

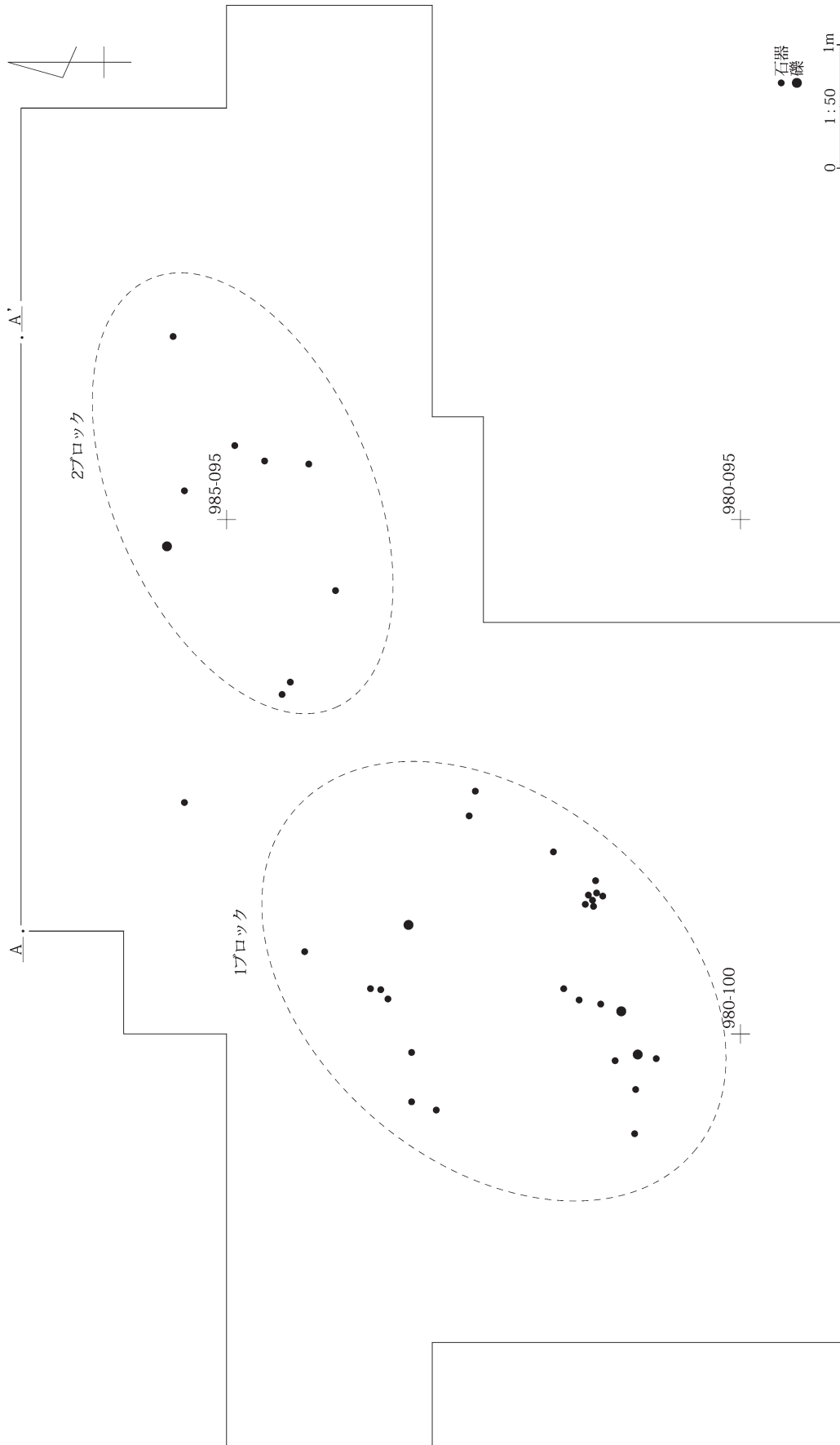
1 出土した石器（第6～9図）

I区の本線部分で、2つのブロックから合計38点の石器が出土している。石器の内訳は二次加工ある剥片1点(1)、石核7点(2～8)、礫器1点(9)、剥片23点、チップ1点、礫5点である。石材はホルンフェルスが21点、総重量2170.1gと最も多く、次いで溶結凝灰岩10点、8271.0g、変玄武岩3点、1205.8g、黒色安山岩3点、28.8g、チャート1点、2.8gとなっている。概して大型の石器が多く、全体の平均重量は307.3g、剥片の平均重量でも183.8gである。通常石器石材として多用される黒色安山岩やチャートなどが少なく、ホルンフェルスや溶結凝灰岩など、比較的粗粒の石材の比率が高いのが大きな特徴である。点数に比較して溶結凝灰岩の重量が大きいのは、5点の礫が全て含まれるからである。

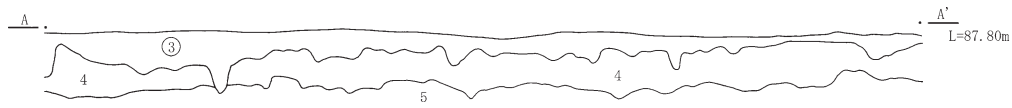
出土した石器は、大半が剥片剥離にかかわる大型の剥片や石核で、ツールの製作や使用の痕跡はほとん



第3図 旧石器時代遺物調査範囲及び試掘トレンチ位置図



第4図 第1文化層石器分布



第5図 第1文化層調査区北壁セクション

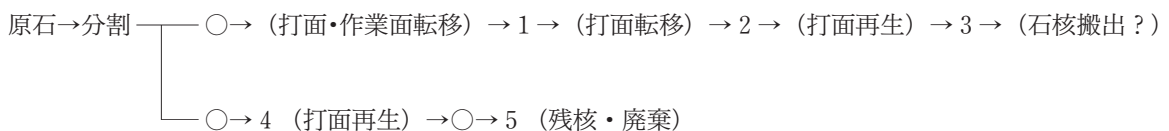
ど認められない。1は二次加工ある剥片で、唯一遺跡内で加工されたと思われる石器である。背面に大きく自然面を残す大型の縦長剥片先端部に、わずかに調整が加えられる。2ブロックからの出土で、石材は溶結凝灰岩である。接合資料—1に属し、遺跡内で剥片剥離から二次加工までが行われる。9は礫器で、円礫を薄く輪切りにした様な素材の末端部に、交互剥離によって刃部を作出する。調整は粗く、刃部は鋸歯状を呈する。石材は溶結凝灰岩。二次加工の際に剥離された調整剥片などが出土していないことから、遺跡外で加工され搬入されたものと考えられる。1ブロックから出土した。調整が施された石器はこの2点のみである。

2～8の石核は、大半が遺跡内で剥片剥離を行っている。2、3は溶結凝灰岩で、相互に接合する（接合資料—6）。2からは1の二次加工ある剥片を含む2枚の大型剥片が剥離されている。一方3は石核の両端部で小型の剥片を剥離しているが、この際に剥離された剥片は遺跡内からは出土していない。4と5も同じ接合資料に属している（接合資料—2）。2点とも大型の剥片を素材とし、剥片を1枚剥離したあとの残核であるが、剥片の剥離は単発で、石核に分類するにはやや躊躇される。特に4は、剥片を分割したものと捉えるのが妥当であろうか。石材はホルンフェルスである。6もホルンフェルスの石核で、接合資料—1に含まれる。大型の単設打面の石核で、両端部で連続して剥片剥離を行っているが、この際に剥離された剥片は遺跡内からは出土していない。7は黒色安山岩の石核で、他に比べて非常に小型である。剥片素材で、表裏の周辺から求芯状に小型の剥片を剥離しているが、剥離された剥片は遺跡内には残されていなかった。8は大型の変玄武岩製で、接合資料—7に含まれる。上位に打面を固定して、周囲で複数の大型剥片を剥離している。2のみ2ブロックからの出土で、他は1ブロックに分布していた。

2 接合資料

8例28点の接合資料が得られた。接合率は7割を超える。

接合資料—1（第10・11図）

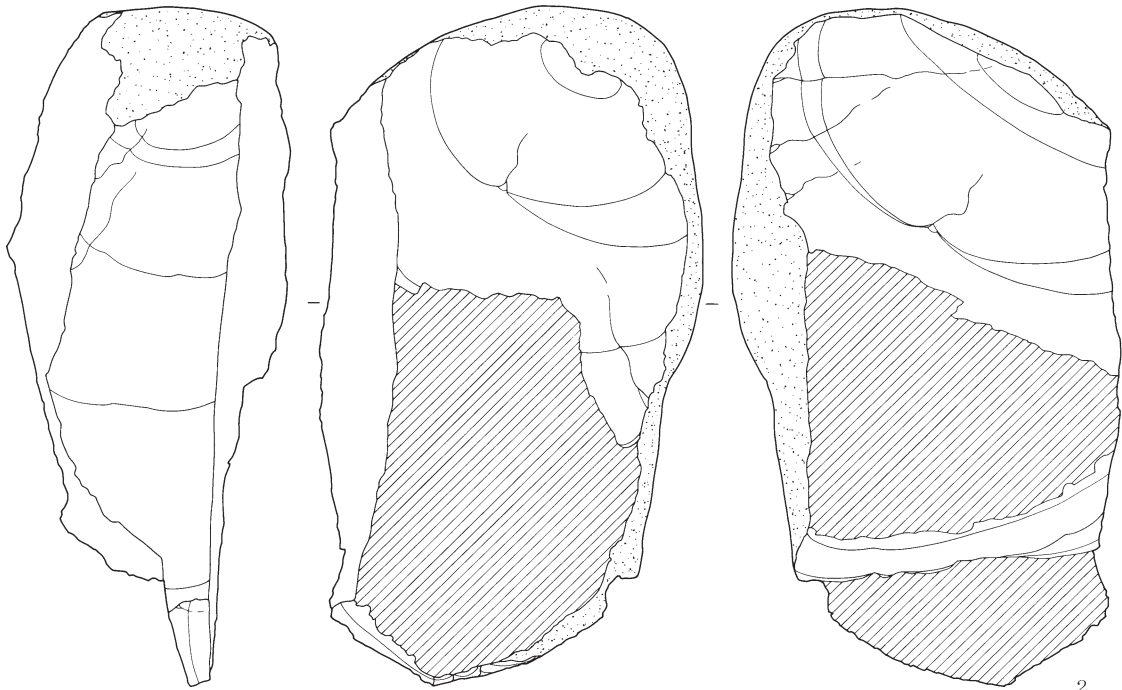
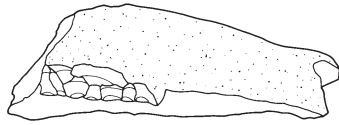


5点の資料からなる。円礫を二つに分割し、それぞれの個体で剥片剥離を行っている。接合図の上位の個体では、分割礫の一端で分割面を打面として少なくとも2枚の剥片を剥離、その後打面・作業面を転移して、その剥離面を打面として分割面で少なくとも2枚の剥片を剥離(1)している。ただし、1の剥片の剥離に先立って、接合図上面の右側面側からもやや大型の剥片が少なくとも1枚剥離されている。1の剥離後打面を移動し、個体側面の自然面を打面として複数の剥片を剥離(2)、その後打面を再生した後剥片剥離を継続している(3)。残核は遺跡内に残されていなかった。

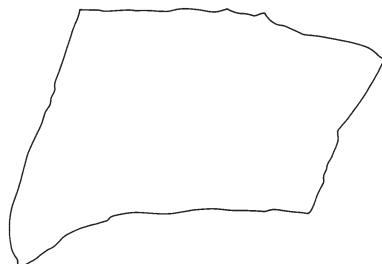
一方下位の個体では、楕円形の個体の両端で、分割面を打面として複数の剥片を連続して剥離している。



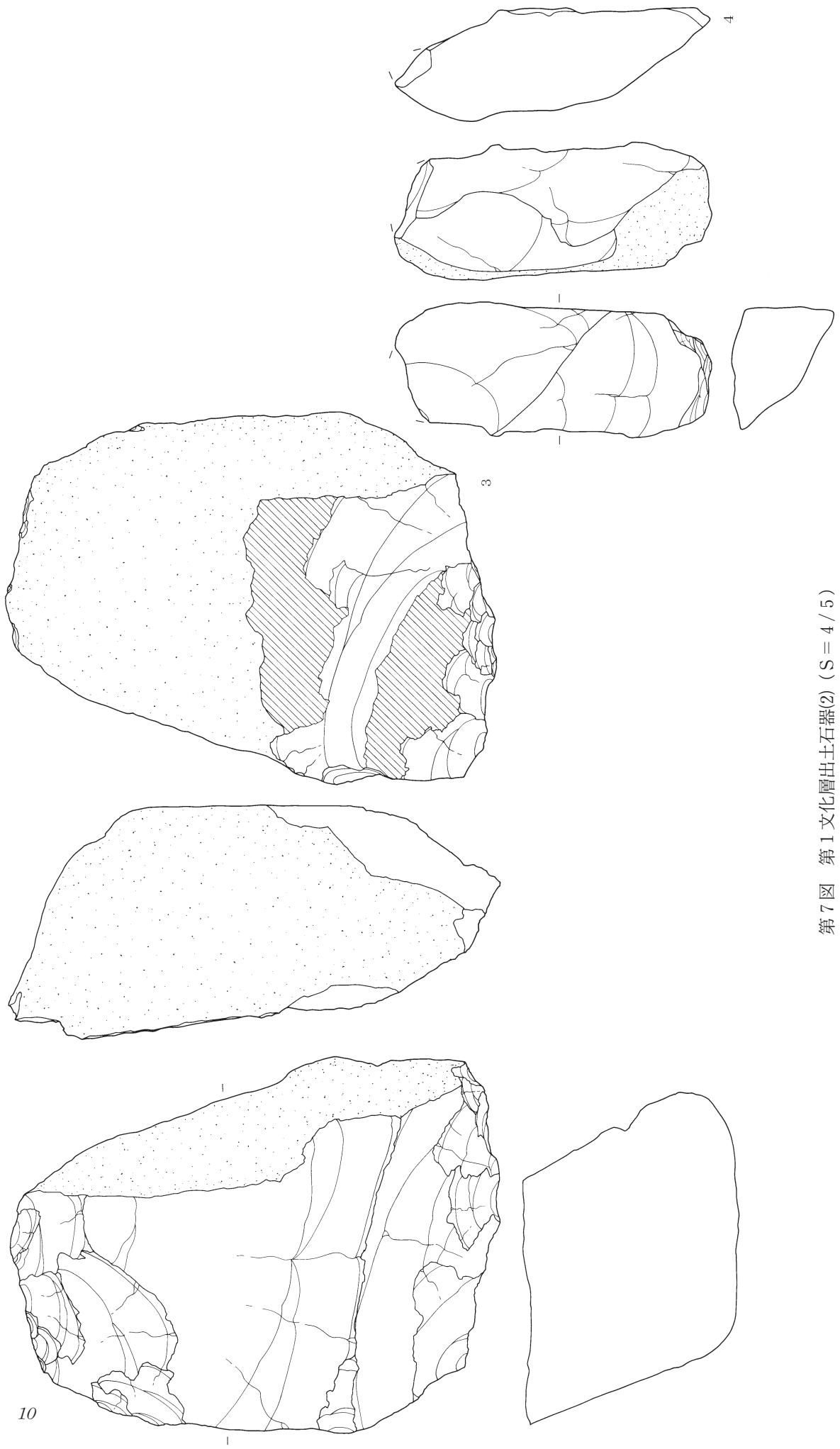
1



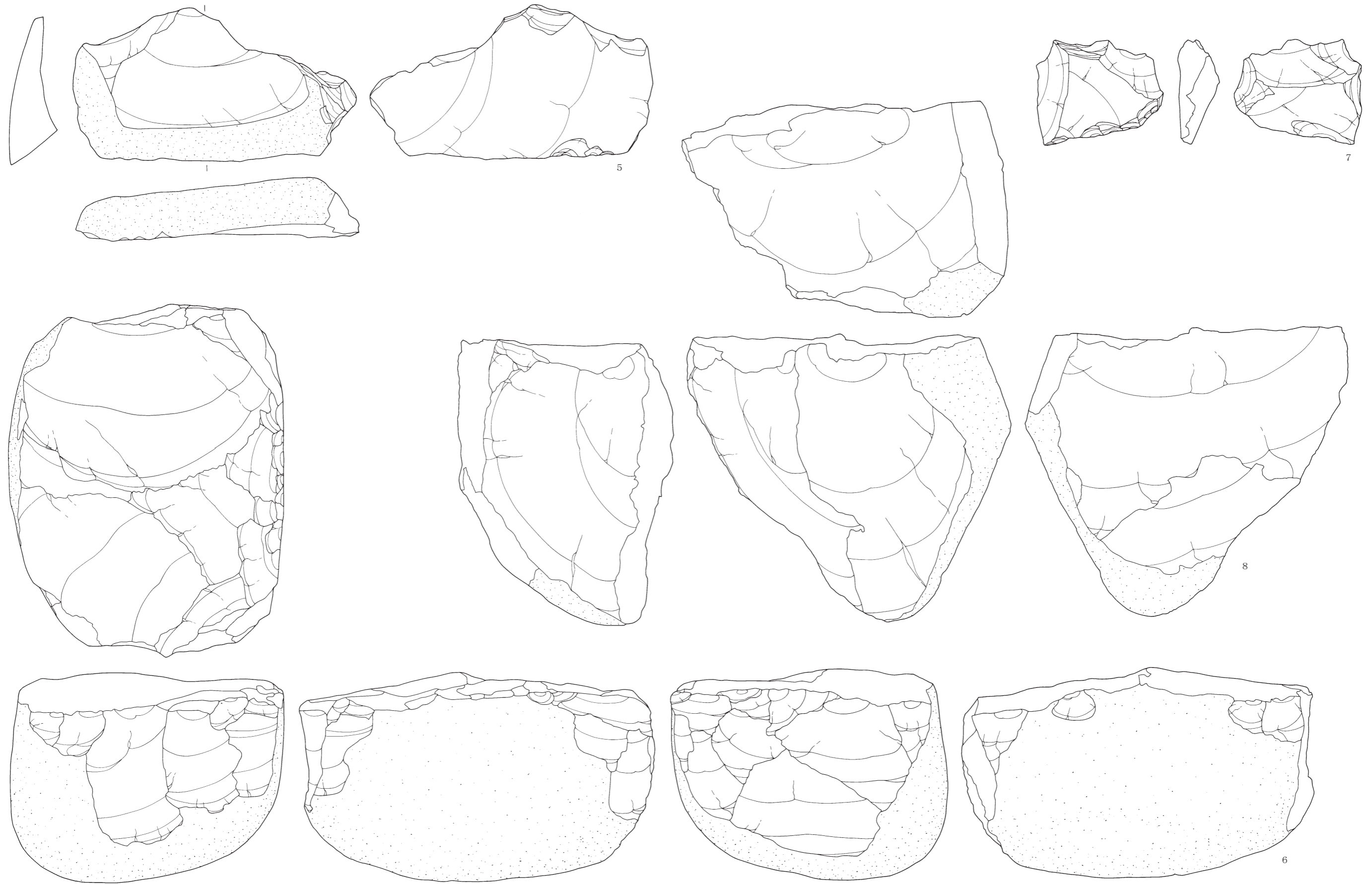
2



第6図 第1文化層出土石器(1) (S = 4 / 5)



第7図 第1文化層出土石器(2) (S = 4 / 5)



第8図 第1文化層出土石器(3)



第9図 第1文化層出土石器(4) (S = 4 / 5)

第2章 旧石器時代

その後接合図上面右側と上位からの加撃により複数の剥片を剥離して打面再生を行っている(4)。両端の作業面においてさらに剥片が剥離された後、残核は廃棄される(5)。2のみ2ブロックからの出土で、他は1ブロックに分布していた。石材はホルンフェルスである。

接合状況から復元される剥片剥離工程の中では、遺跡内から出土した5点の他に、多量の剥片・破片が剥離されているはずである。特に、4の打面再生剥片の剥離後には、大小合わせて7枚程度の剥片が剥離されているが、遺跡内からは1点も出土していない。発掘調査時に見逃した可能性はあるが、その一方で1グラムに満たないチップも検出していることから、全てを見逃したとは想定しがたい。5点の資料は、いずれもトールの素材や石核として十分な大きさを有しており、剥片や石核の形状で素材として遺跡内に搬入されたものと判断した。

接合資料—2 (第11・12図)

4点の資料からなる。表面が自然面に覆われ、ほぼ原石に近い石核から剥離された2枚の大型剥片を素材とし、それぞれにおいて剥片剥離や分割を行っている。まず最初に剥離された個体では、素材剥片の主要剥離面を打面として1枚の剥片を剥離(1)。その後も主要剥離面側から複数回加撃されるが、剥片剥離か二次加工か、どちらを意図して加えられたものかは判断できなかった(2)。もう一方の個体では、縦長剥片の中央部を加撃して、2点に分割している(3・4)。3は2ブロックからの出土であるが、その他は1ブロックに散在していた。

2つの個体のうち先に剥離されたのは1と2からなる剥片で、原石の端部から最初に剥離されたものと思われる。3と4からなる剥片の剥離に先行する工程としては、側面に新たな打面を作出し、打面・作業面を転移して少なくとも2枚の剥片を剥離している。1と2からなる剥片と側面の打面作出の前後関係は、切り合い関係を持たないため厳密には不明である。

このように、2枚の剥片を剥離する間には複数の工程が存在するにもかかわらず、その際に剥離された剥片類が全く出土していない。また石材については、本資料の他、接合資料—3～5までがホルンフェルスである。互いに接合関係は持たないが、外面的な特徴からこれら4個体の接合資料が同一母岩に属する可能性が高い。以上のことから、接合資料—2～5に関しては、先行する滞在地点で剥離、分割され、剥片や分割礫の形態で本遺跡内に搬入されたものと考えられる。

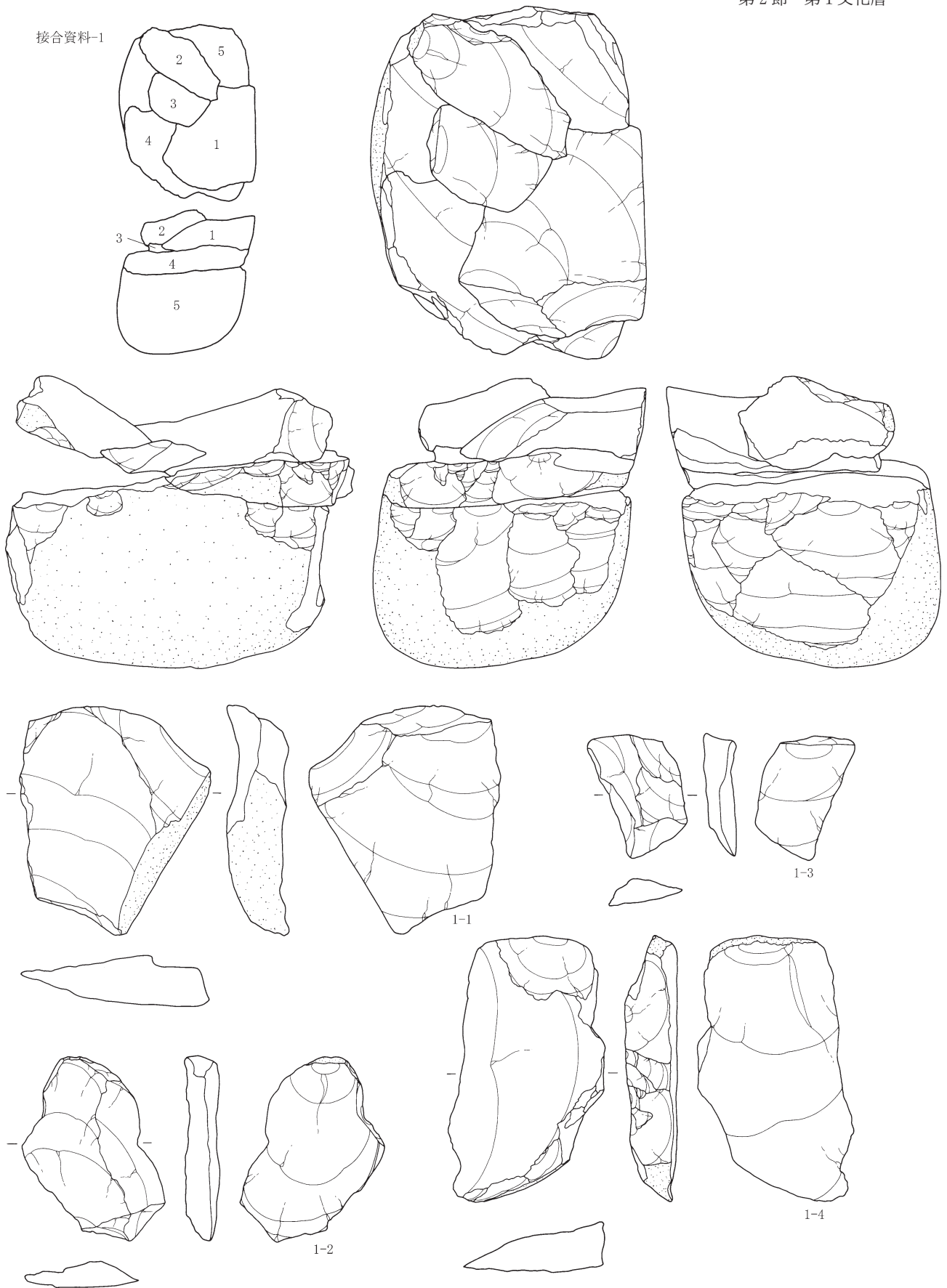
接合資料—3 (第12図)

4点の資料からなる。分割礫を素材とする。接合図表面の右側では分割面を打面として剥片を剥離(1)、左側では自然面を打面として分割面において小型の剥片を剥離している(2+3)。この剥片は、剥離時の加撃によって節理面から2つに割れている。この2枚の剥片の厳密な前後関係は不明であるが、1のみ1ブロックからの出土で、他の3点が2ブロックの狭い範囲にまとまって分布することから、1の剥離がより早い段階だったものと考えられる。その後、1の剥離によって生じた面を打面として、分割面側で剥片を剥離(4)。残核は搬出されて残存していない。

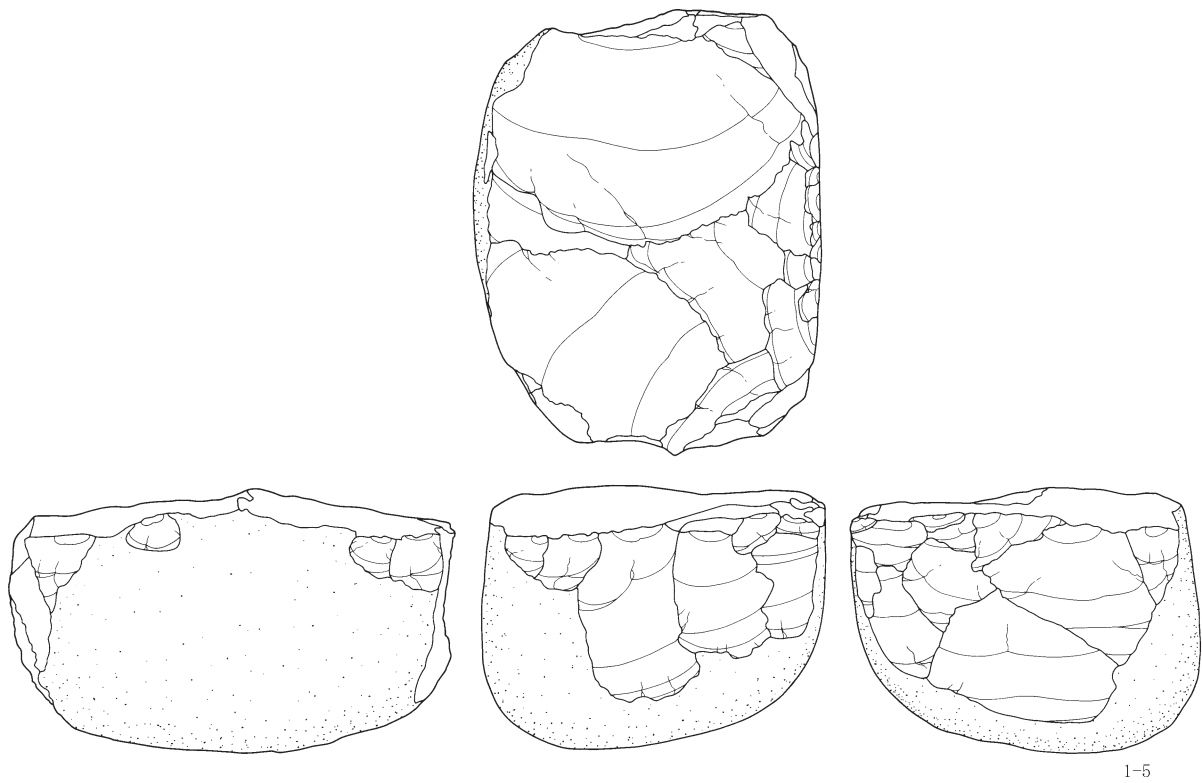
接合資料—4 (第13図)

2点の資料からなる。厚手の剥片、もしくは分割礫の側面で、接合図の表面右側を打面として剥片を剥離(1)。ただし、1は節理面から割れている。その後、この節理面からの加撃によって打面を作出し、節理面を作業面として複数の小型の剥片を剥離した後に2を剥離する。打面の作出と2の剥離に先行する小型剥片の剥離段階での資料は遺跡内から出土しておらず、この2点の資料が、剥片として搬入された可能性も想定される。ともに1ブロックからの出土である。

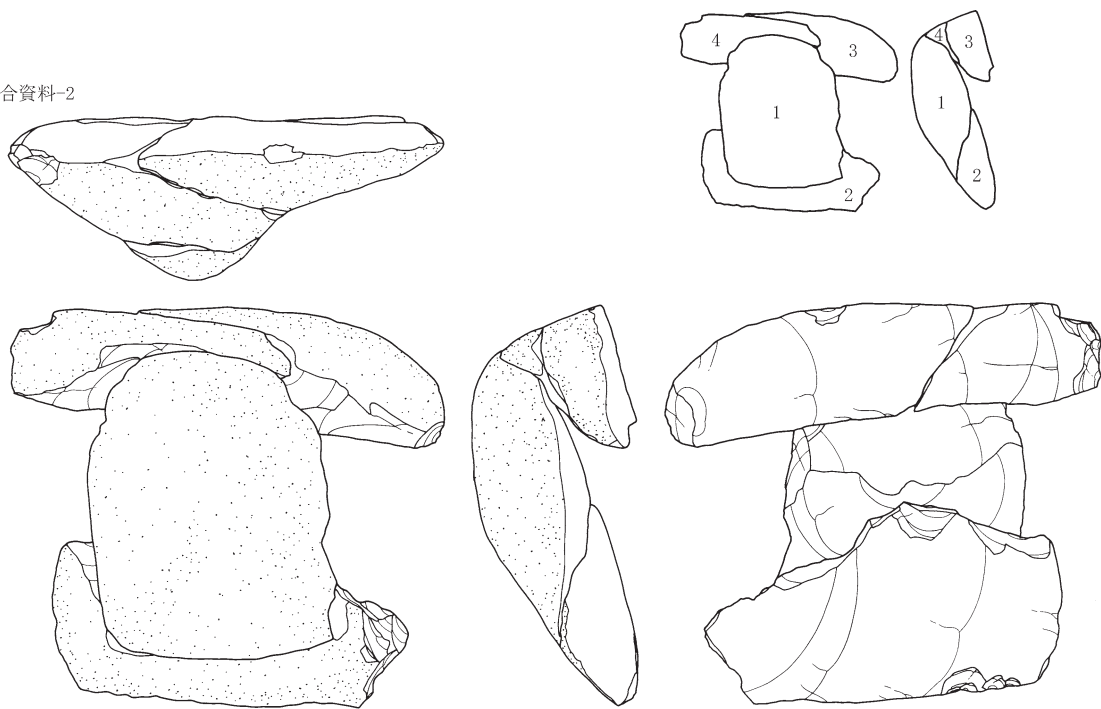
接合資料-1



第10圖 第1文化層接合資料-1 (S = 1/2)

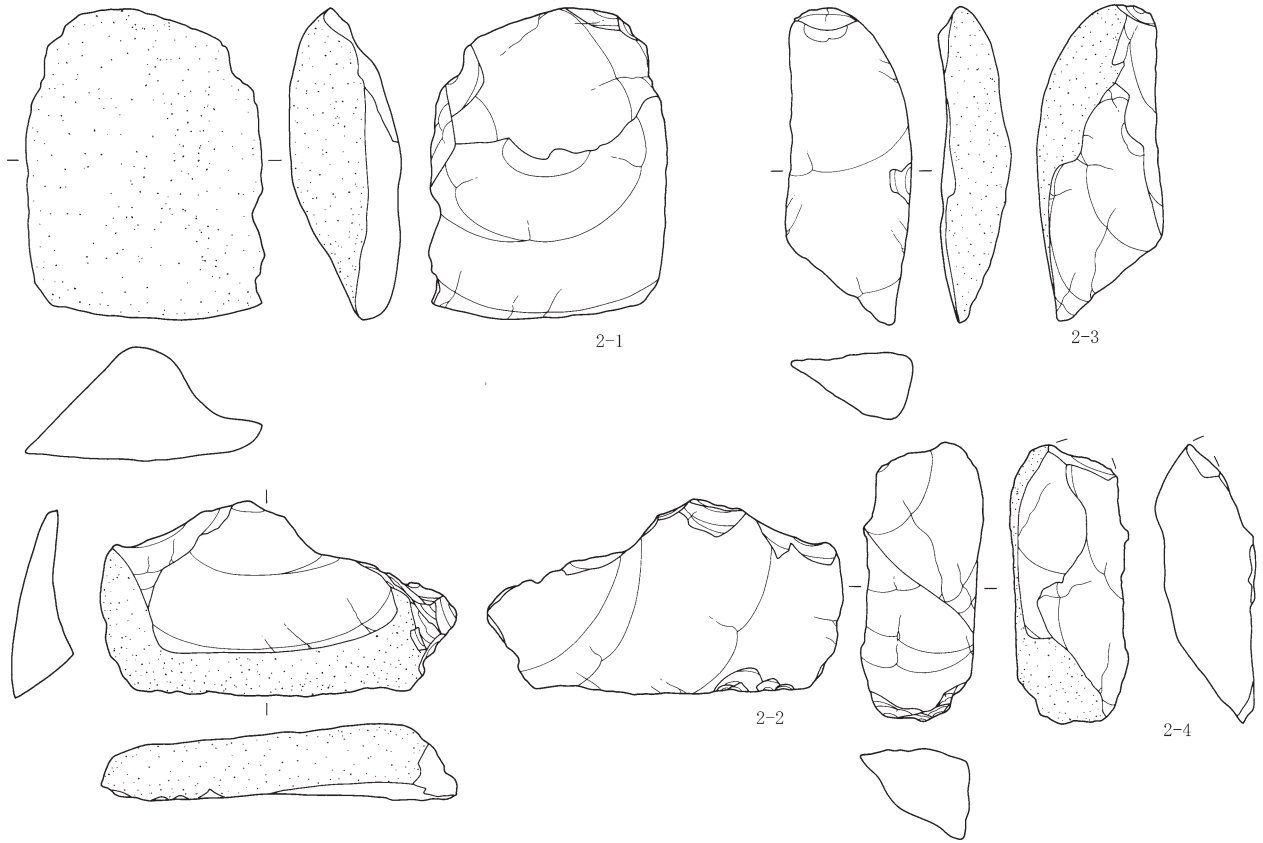


接合資料-2

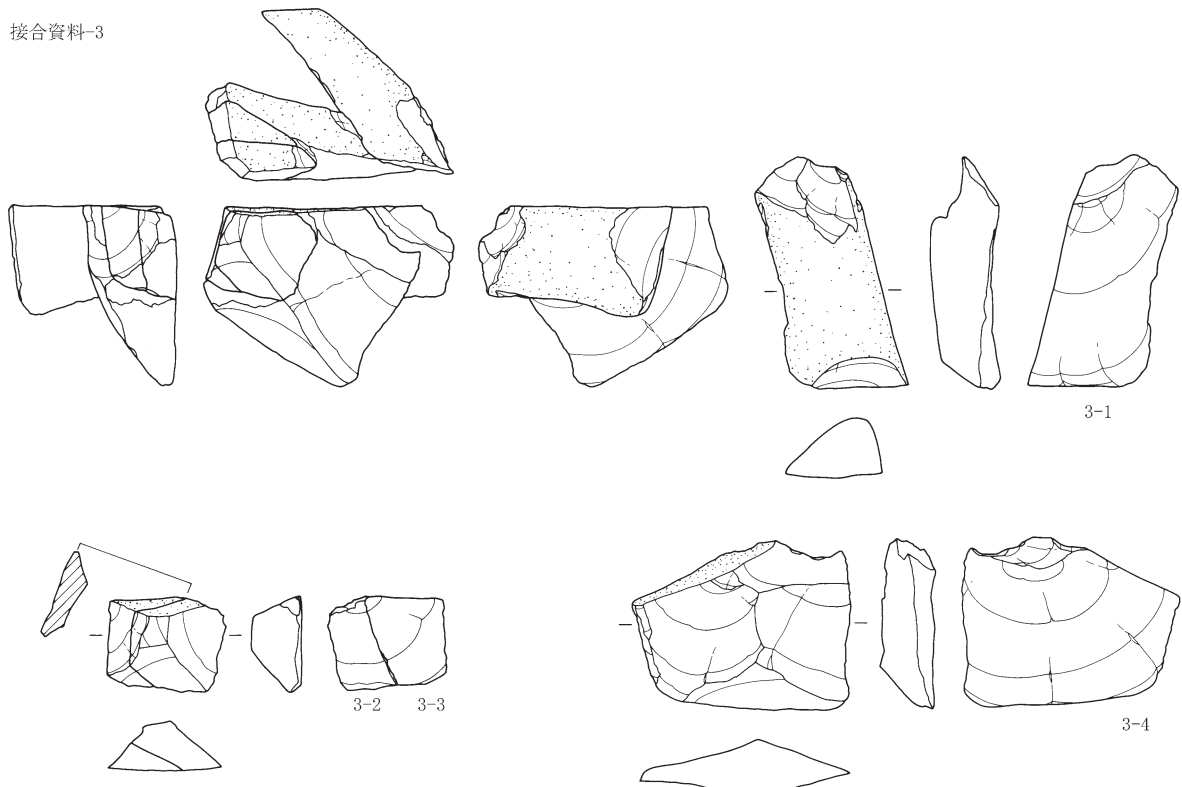


第11図 第1文化層接合資料—1・2 (S = 1/2)

第2節 第1文化層



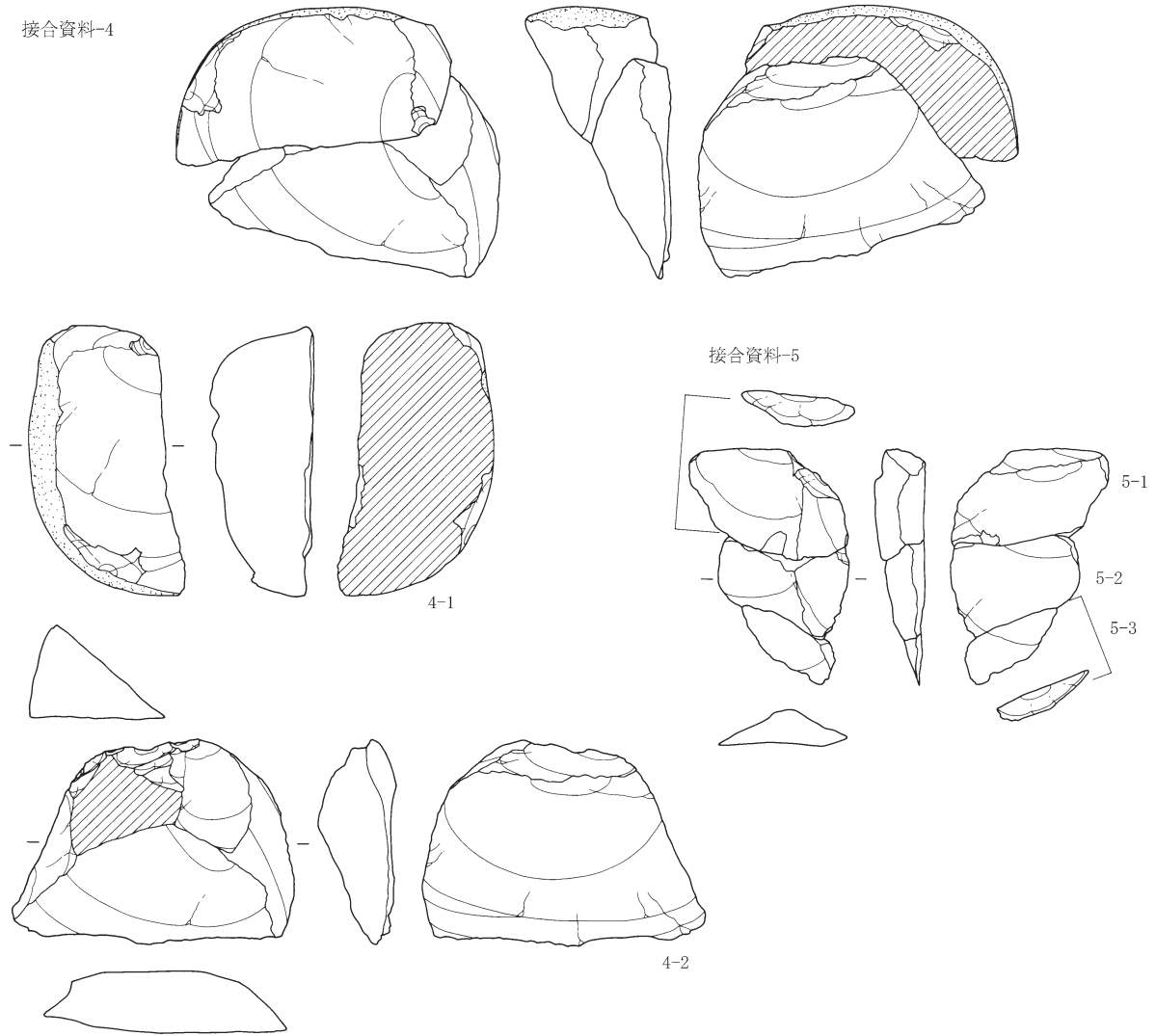
接合資料-3



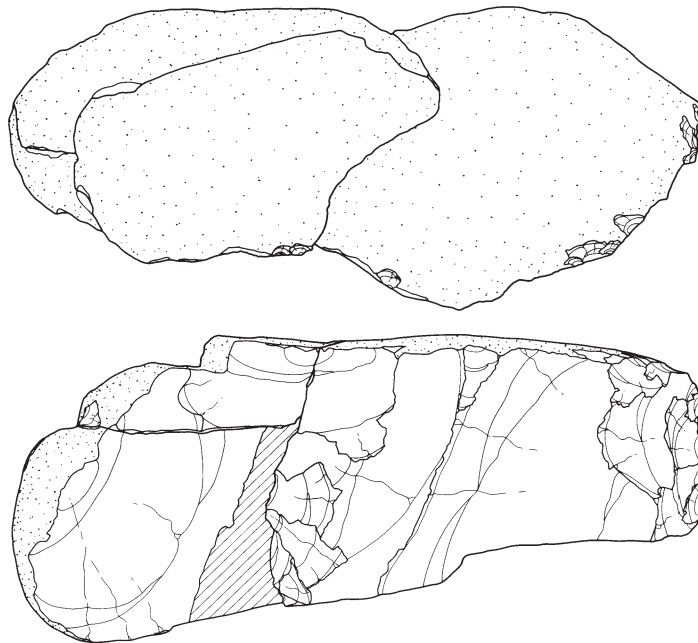
第12図 第1文化層接合資料—2・3 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

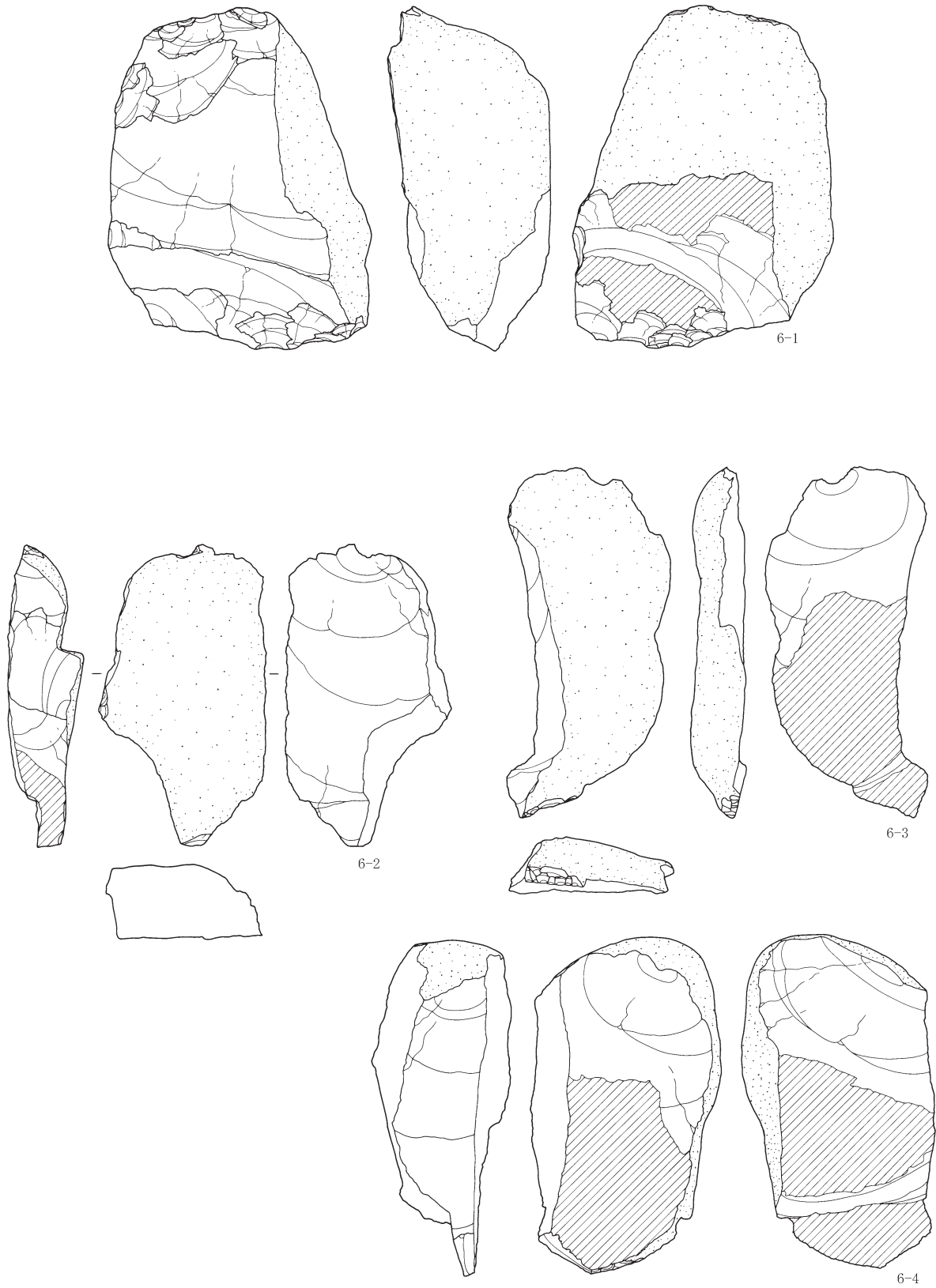
接合資料-4



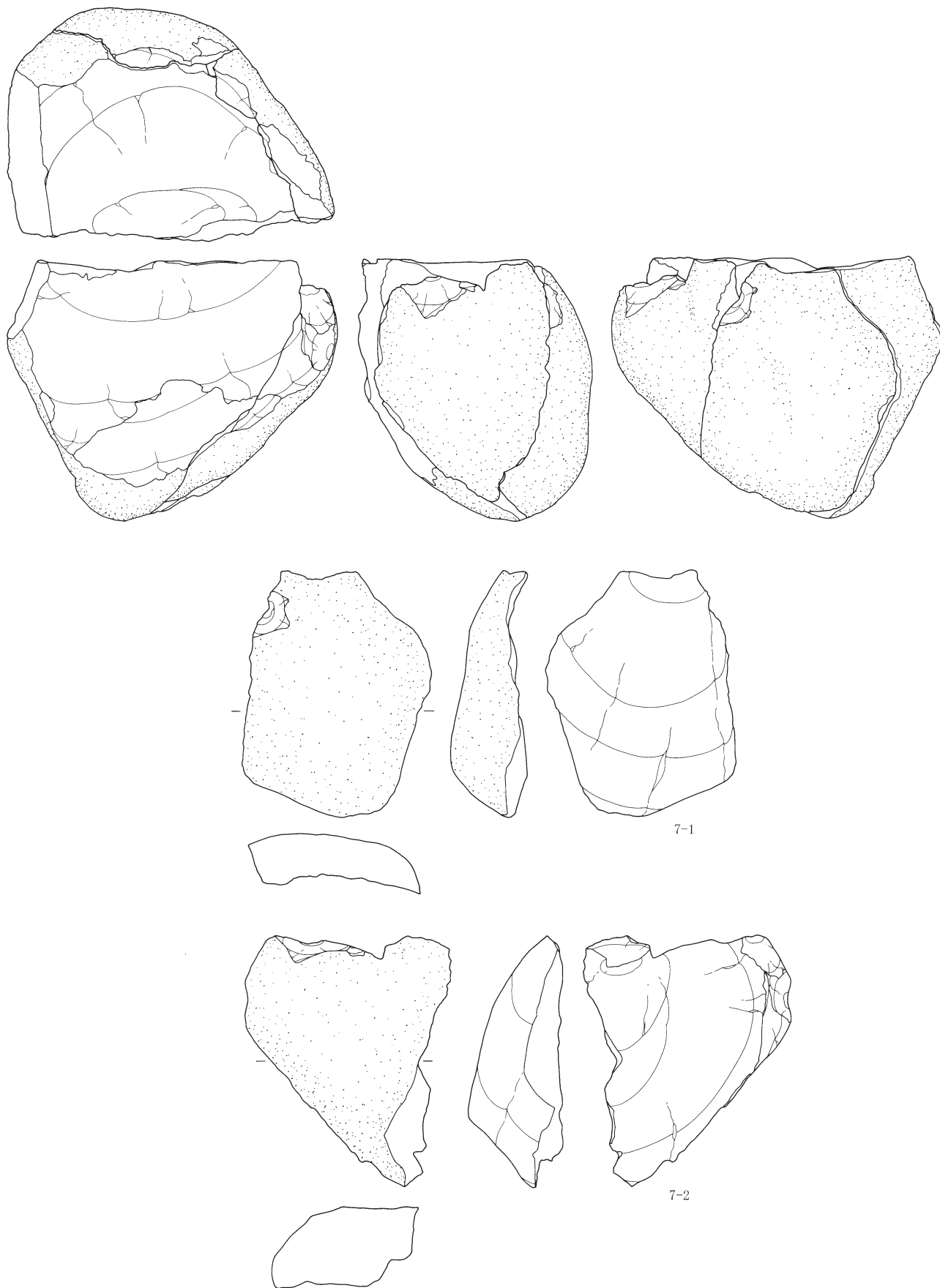
接合資料-6



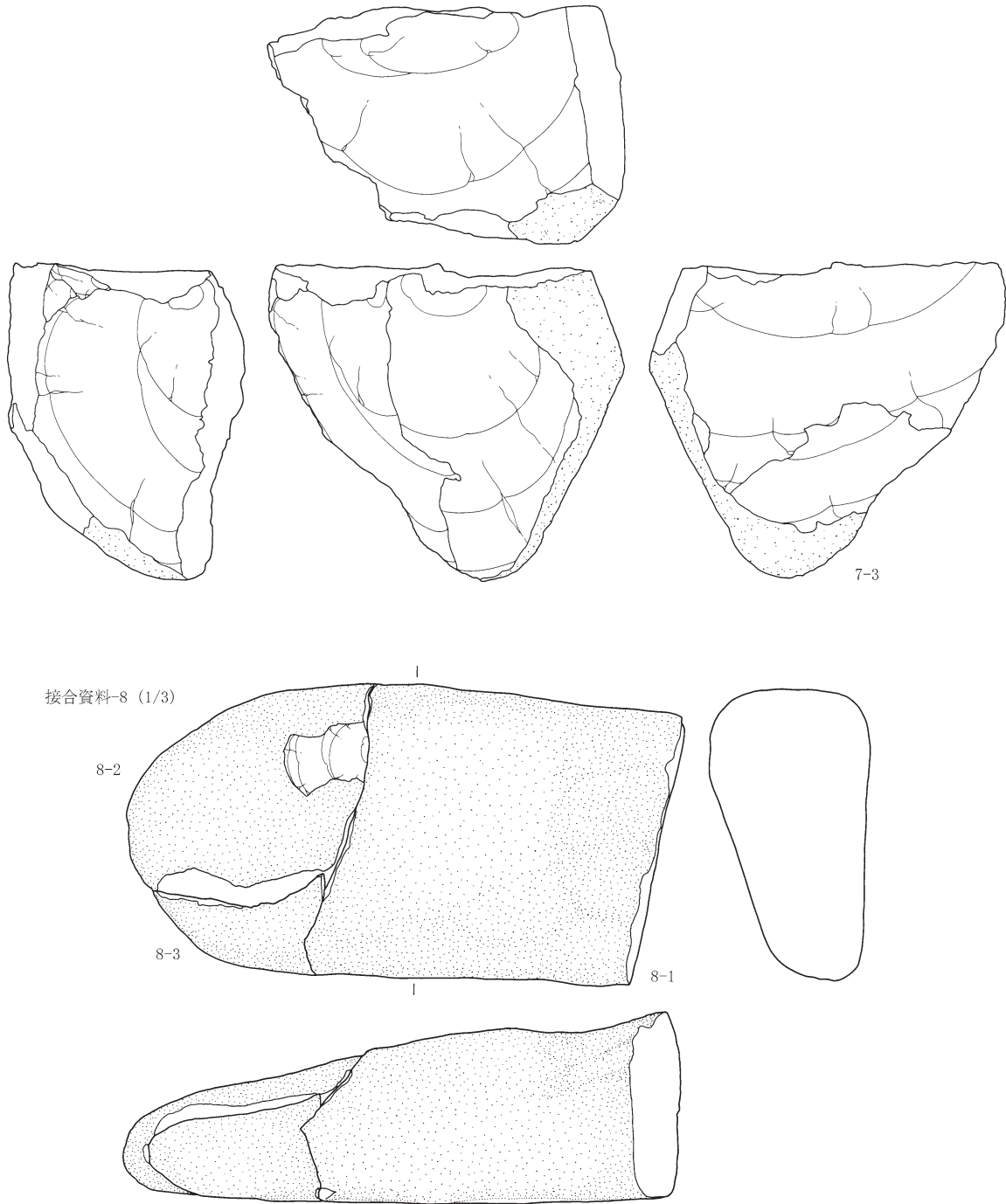
第13図 第1文化層接合資料—4～6 (S = 1/2)



第14圖 第1文化層接合資料—6 (S = 1/2)



第15図 第1文化層接合資料-7 (S = 1/2)



第16図 第1文化層接合資料-7・8 (S = 1/2・1/3)

接合資料-5 (第13図)

3点の資料からなる。縦長の剥片が3つに折れたものである。1ブロックのごく狭い範囲からまとめて出土した。

接合資料-6 (第13・14図)

4点の資料からなる。素材は棒状の分割礫で、図の上面から自然面を打面として分割面側で剥片を1枚剝離している。この加撃によって、内部の節理面から同時割れを生じ、大きく二つに割れている。本資料は節理面が多く、非常に複雑な割れ方をしている。

第2章 旧石器時代

右側の個体では、上部の自然面を打面とし、古い分割面で複数の剥片を剥離している。最も初期に剥離された剥片はかなり大型であるが、その後は小型の剥片のみである。ここでの剥片剥離工程は、先述の分割面と切り合いを持たないので、両者の前後関係については不明である。ただし、この工程に属する剥片が全く出土していないことから、遺跡に搬入される以前に剥離された可能性が高い。下端でも両面に剥離痕が認められるがいずれも非常に小型で、こちらの剥片も遺跡内からは出土していない。このことから、分割後に石核の状態でも搬入され、そのまま遺跡内に廃棄されたと考えられる(1)。

左側の個体でも、上面の自然面を打面として大型の剥片を剥離(2)、次いで作業面を90°移動してもう1枚剥離している(3)。3は、先端部にわずかに調整が加えられる。残核は遺跡内に残されていた(4)。1のみ1ブロックからの出土で、他は2ブロックの比較的狭い範囲にまとまって分布していた。石材は溶結凝灰岩。

接合資料—7 (第15・16図)

3点の石器が接合した。石核の状態でも遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。本遺跡に搬入される以前に、礫の片面で大型の剥片を複数枚剥離し、その後作業面側からの加撃によって打面再生を行っている。大きく自然面を残す裏面側で、再生した打面から大型の剥片を2枚剥離する(1・2)。その際、打面調整は行われない。残核は遺跡内に残される(3)。いずれも1ブロックから出土した。石材は変玄武岩で、内部に節理や潜在的な割れ面が発達していることから、未だ十分な大きさを有していながら廃棄されたと推測される。

接合資料—8 (第16図)

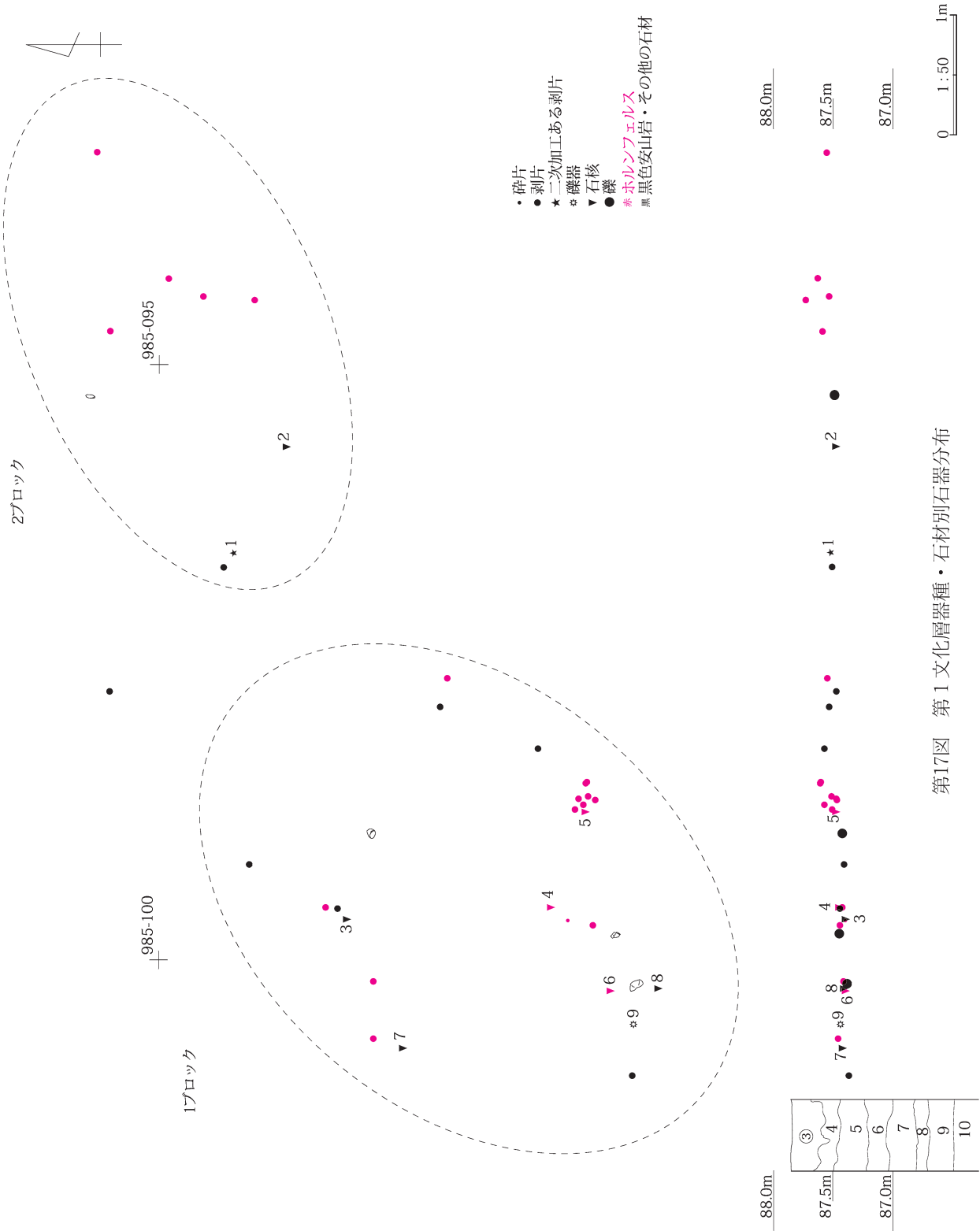
3点の礫が接合した。盤状の円礫で、一端は節理面である。中央付近で2点に分割した後、より小型の個体から礫片が剥がれている(3)。2の個体では分割面からの加撃による剥離面が1カ所認められるが、積極的に剥片剥離を意図したものか、偶発的なものかは判断できなかった。3のみ2ブロックからの出土で、他2点は1ブロックに分布していた。石材は溶結凝灰岩である。

3 石器の分布

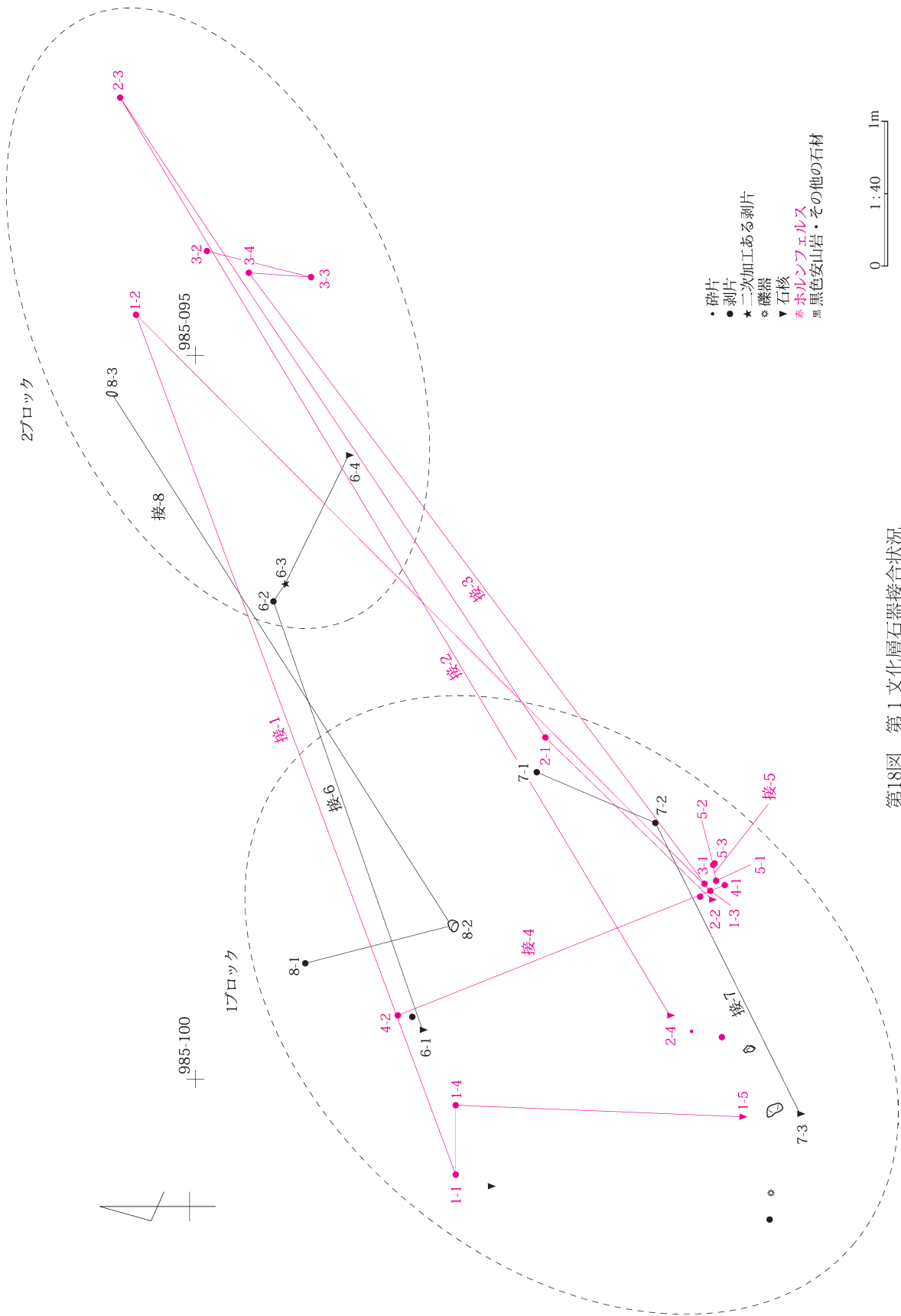
2つのブロックが確認された(第17図)。より西側の1ブロックは、4m×3m程の範囲から27点の石器が出土した。このブロックは、3つの小さな集中部に分離することができる。北部と南西部には大型の剥片や石核、礫がまとまって分布しており、南東部には比較的小型の剥片類が直径30cmほどの範囲に集中して出土している。東側の2ブロックは、4×2m程の範囲内に9点の石器が散漫に分布していた。2つのブロック間では、石器の器種や石材に大きな差は認められなかった。

接合資料は8例、28点が確認できた(第18図)。このうち接合資料—4・5・7は1ブロック内で完結しているが、他の接合資料は2つのブロック間にまたがって分布している。このことから、2つのブロックが同時期に残されたものと判断した。また、2ブロックから出土した石器は、全ていずれかの接合資料に含まれている。逆に、単品で持ち込まれた資料は、全て1ブロックに分布している。

ブロック間にまたがる接合資料の分布を見ると、接合資料—1では、剥片が1枚2ブロックに含まれる他は、全て1ブロックに分布している。先に述べたように、接合資料—1は遺跡内で剥片剥離は行われず、剥片や石核の状態でも持ち込まれた可能性が高い。従って、ブロック間に分布していても、直ちに同時存在を決定付ける資料とはならないが、大きな時間的間隙の存在も想定し得ないであろう。接合資料—2でも剥片1枚のみが2ブロックに属するが(2—3)、同一個体に属する資料(2—4)が1ブロックに分布しており、遺跡内で分割されてそれぞれのブロックに残されたものと考えられる。同じ接合資料に含まれる2—1、2—2が1ブロックに分布することから、1ブロックにおいて剥片剥離・分割が行われ、2—3のみ2ブロックに



第17図 第1文化層器種・石材別石器分布



第18図 第1文化層石器接合状況

持ち運ばれたとするのが妥当であろう。接合資料—3では全4点中1点が1ブロック、3点（接合後2点）が2ブロックに属している。このうち1ブロックに属する剥片(3-1)は、遺跡内で行われた剥片剥離工程の最初の段階に位置付けられる資料で、その他の剥片は継続して連続的に剥離されたものと考えられる。従って、剥片が持ち運ばれたと想定するほかに、剥片剥離作業を行った場所自体が1ブロックから2ブロックへと移動した可能性が考えられる。接合資料—6では分割した個体の一方が1ブロックに属し(6-1)、他方は2ブロックに分布していた(6-2~4)。遺跡内で個体の分割が行われた後に、それぞれのブロックに移動したとも考えられるが、6-1において個体分割後に剥離された小型の剥片が出土していないことから、分割された個体の状態で搬入された可能性が高い。接合資料—8は礫破片の接合例であるが、最も小型の礫片(8-3)のみが2ブロックに含まれていた。他の資料とは4mほど離れており、人為的に運ばれたものと考えられる。

以上のように、接合資料とその分布状況の検討からは、遺跡内で盛んに剥片剥離が行われていた状況は窺えない。剥片や石核の状態を持ち込まれた個体において、ごく少数の剥片が単発的に剥離されているのみである。搬入されたり遺跡内で剥離された剥片についても、ツールに加工されることはほとんど無く、搬入されたままの状態で遺棄されているものが多い。

第3節 第2文化層

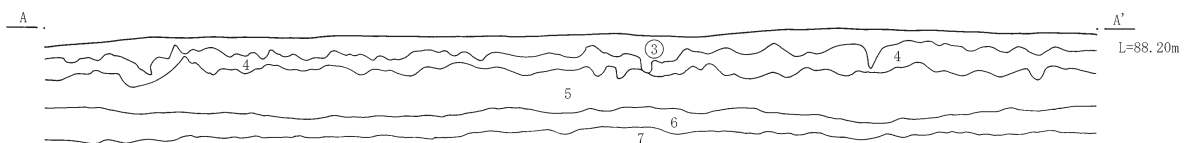
1 出土した石器 (第21・22図)

I区の本線部分から83点の石器が出土した。第1文化層の石器分布より20mほど北側の地点である。石器は直径6.5mほどの範囲に分布していた(第20図)。

器種の内訳は、ナイフ形石器6点(1~6)、二次加工ある剥片3点(7~9)、石核10点(接合後8点、12~19)、剥片33点(10・11)、チップ31点である。大半が小型の石器で、半数近い39点は重量が0.1gに満たない。比較的大型の石核も4~10g程度で、重量が10gを超えるものは第21図10の黒色頁岩製の剥片1点のみである。石材は、チャートが77点(155.9g)と点数では9割以上を占める。他は黒色頁岩3点(125.1g)、黒曜石1点(0.1g)、珪質頁岩1点(0.1g)、安山岩ガラス1点(0.1g)となっている。

ナイフ形石器は概して小型で、基部を欠損する5を除き、全て2.5~3.0cm程度の長さである。主として器体右側縁を刃部とし、左側縁に急角度の調整を加える。ただし6のみは左側縁に刃部を設定し、基部右側縁にわずかに調整を加えている。3は、左側縁中央にも浅く平坦な調整が加えられる。1・2は完形、3は先端をわずかに欠損、4・6も先端を欠き、5は基部を欠損している。素材は小型の剥片であるが、5・6は両設打面の石刃核から剥離された石刃を素材とする可能性もある。1・3・5・6は、素材剥片の打面側を基部とする。このうち、基部を欠損する5以外は素材剥片の打面を残置しているが、いずれも平坦打面である。2・4は素材剥片の先端部を基部に設定し、打面側は調整によって取り除かれる。石材は全てチャートである。

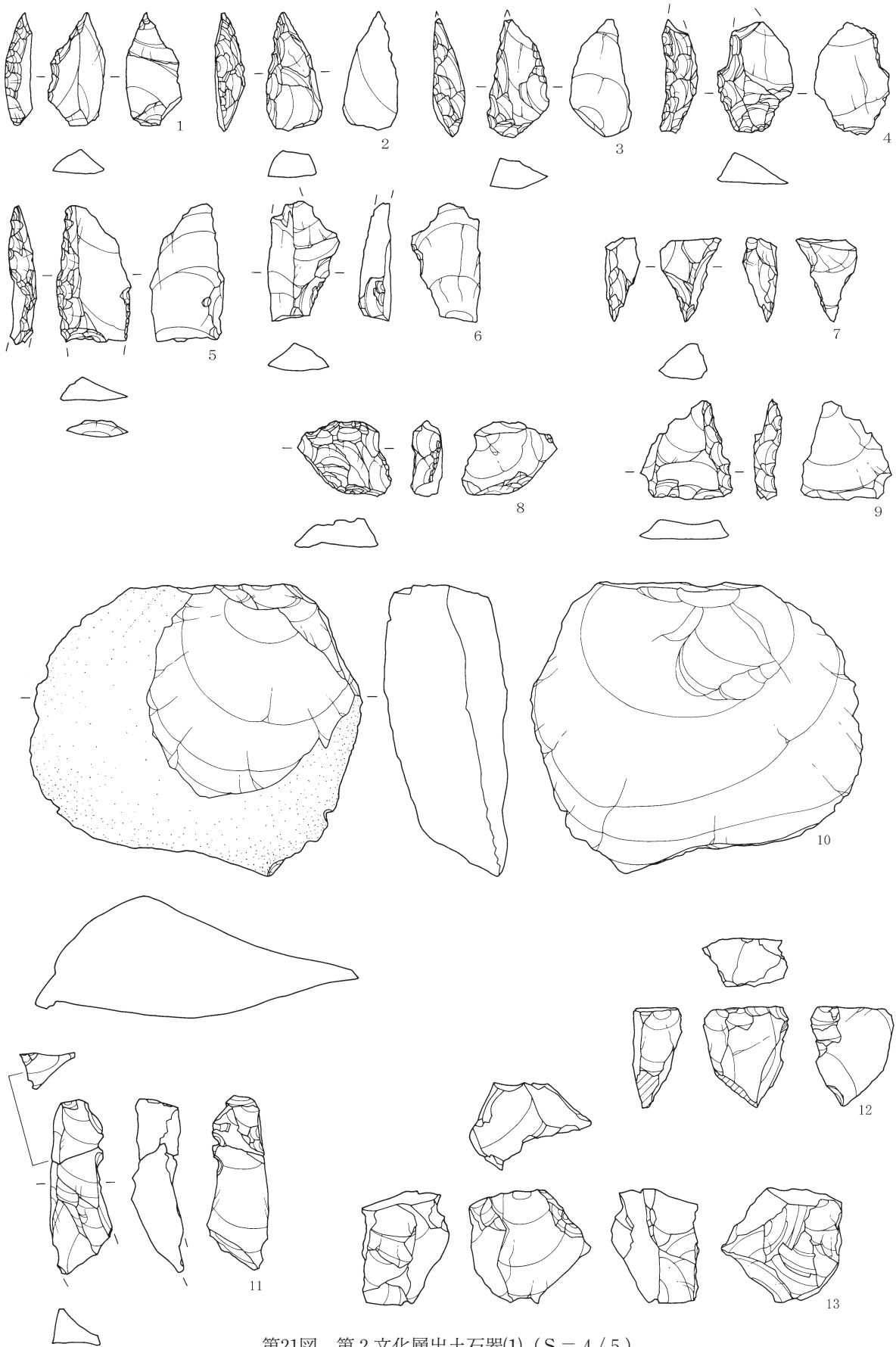
二次加工ある剥片は、3点全てが小型のチャート製の剥片を素材としている。7は器体の両側に急角度の



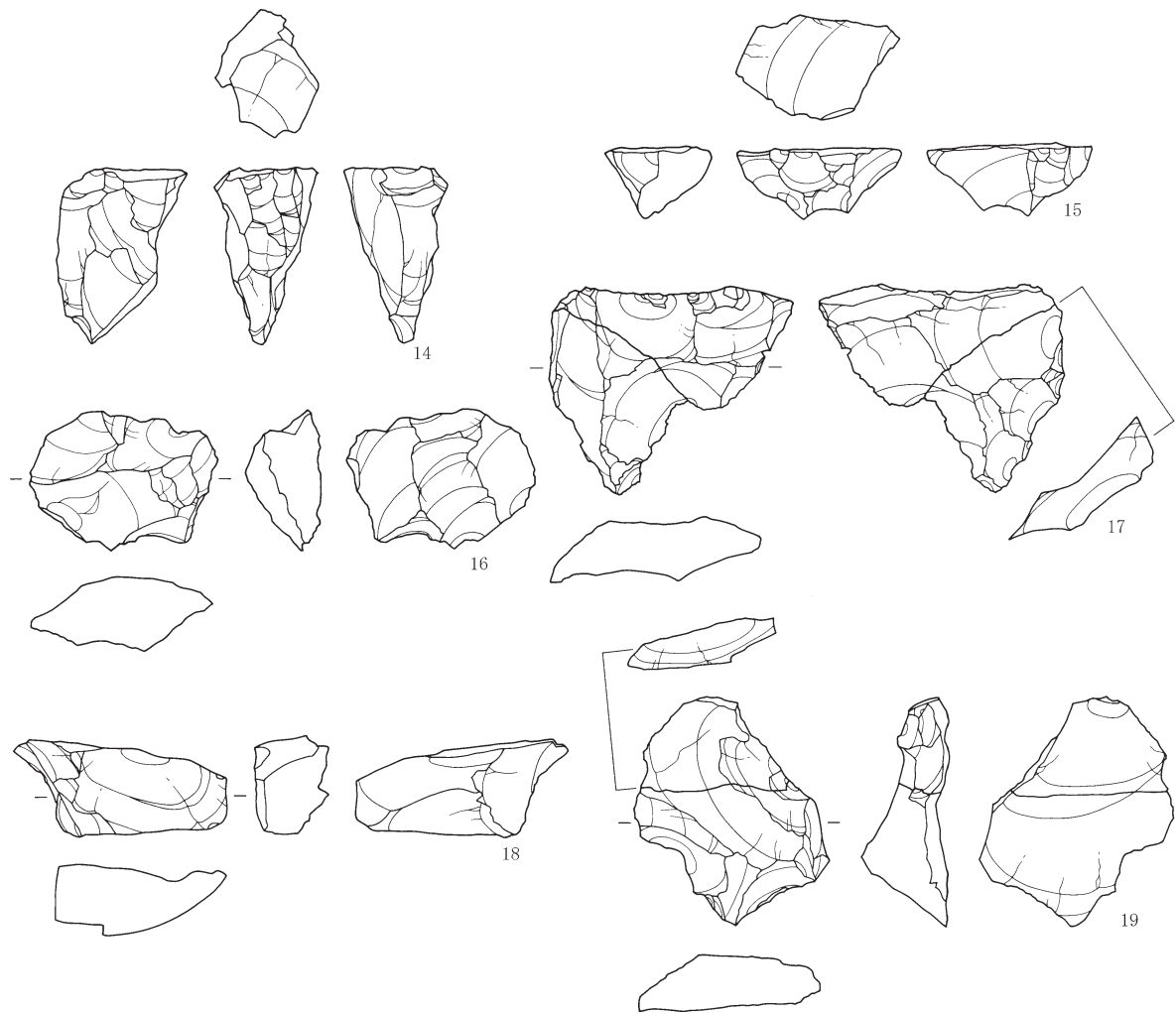
第19図 第2文化層調査区北壁セクション



第20図 第2文化層石器分布



第21図 第2文化層出土石器(1) (S = 4 / 5)



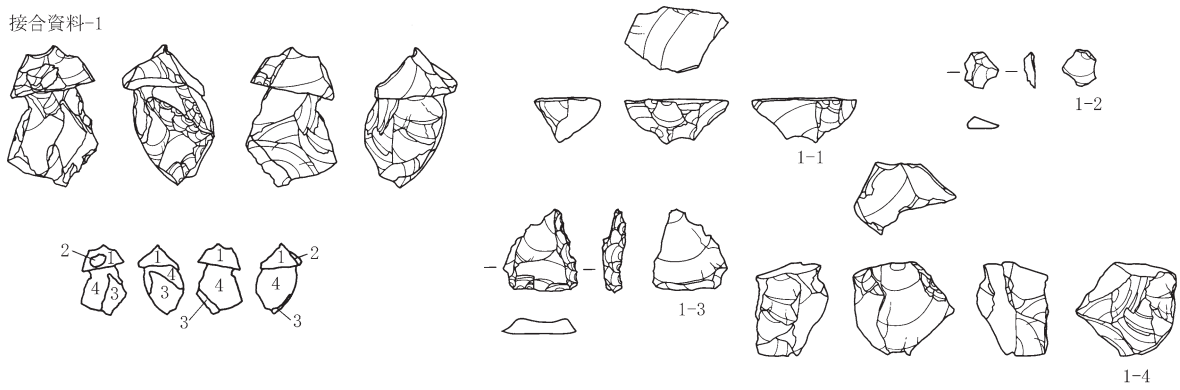
第22図 第2文化層出土石器(2) (S = 4 / 5)

調整を加え、先端を細く作り出している。左側に比較して、右側の調整は不規則で断片的である。ドリルとしての機能も考えられるが、摩耗や線状痕など、使用の痕跡は全く認められなかった。8は、剥片の端部腹面と背面右側縁に急角度の調整が加えられている。9は、剥片の背面右側縁に急角度の調整が加えられている。形状、調整の特徴ともにナイフ形石器に類似しており、ナイフ形石器と同様の用途に用いられた可能性が高い。接合資料-1に含まれる。7・8は平坦打面を持つ剥片を素材とし、9も接合の状況から、平坦打面の石核から剥離された剥片を素材としていることがわかる。

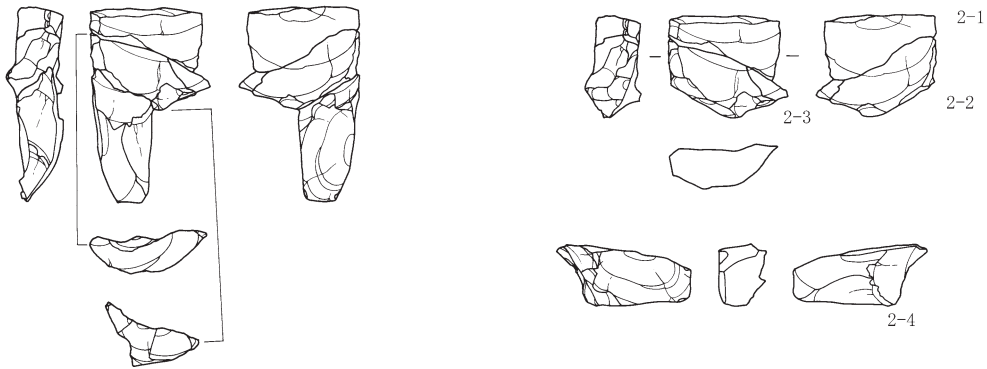
剥片類は大半が小型のチャート製で、長さは3cmに満たず、重量も5gを超えるものはごくわずかである。そのような中で、黒色頁岩製の10は、約120gと大型の剥片である。厚手の剥片で大型の平坦打面を持ち、背面には自然面を残す。他に同一母岩に属するものはなく、単体で搬入されている。11は縦長剥片が接合したもので、先端部は欠損している。両設打面の石核から剥離されたもので、連続して縦長剥片を剥離している様子が窺える。打面は平坦打面で、石材はチャートである。

石核は全てチャート製である。非常に小型の資料が多く、極限まで剥片剥離を行ってから廃棄されている。残核の形状としては、上面に打面を設定し、側面で剥片剥離を行うものが最も多い(12~15)。打面は分割面や素材剥片の主要剥離面で、いずれも平坦打面である。この他には、盤状の石核の両面で求芯状に剥片を剥離しているもの(16・17)、剥片の側面や主要剥離面などの平坦面を打面とし、ごくわずかの剥片を剥離する

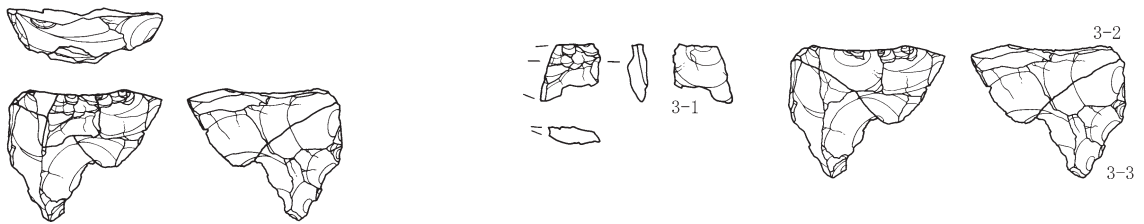
接合資料-1



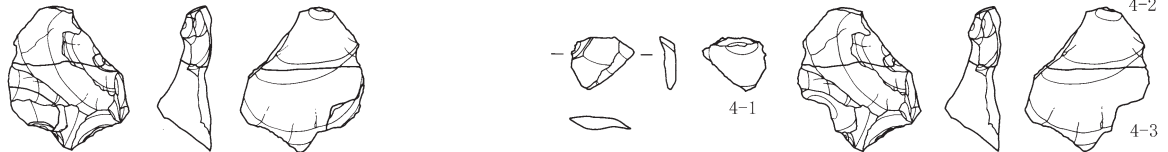
接合資料-2



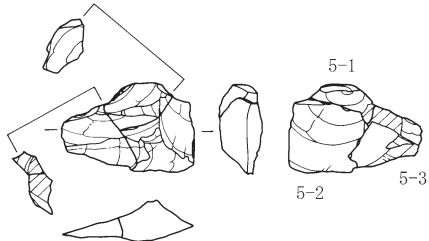
接合資料-3



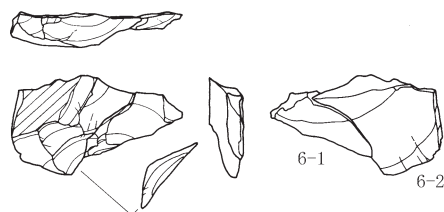
接合資料-4



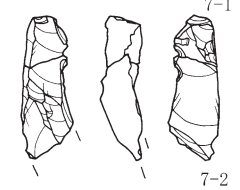
接合資料-5



接合資料-6



接合資料-7



第23圖 第2文化層接合資料—1～7 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

もの(18・19)がある。剥離された剥片は非常に小さく、調整剥片と判別しがたいものも多い。15の石核などはあまりに小さく、石核とするには躊躇される。ただし剥離は断片的で、ツールの整形を行う意図が看取できないことから石核と判断した。

2 接合資料 (第23図)

総数で7例、21点の接合資料が得られている。石材はチャートで、色調や節理の入り方などの外見的特徴がよく似ており、全て同一母岩に属する可能性が高い。剥片剥離を行っているものは非常に小型の剥片と石核から構成されており、石核が廃棄される直前の最終的な工程を示す資料である。その他は、折れた剥片が接合した資料である。

接合資料—1

4点の資料からなる。接合状況から判断すると、かなり剥離が進行した段階で遺跡内に持ち込まれていることがわかる。打面と作業面を頻繁に転移しながら小型の剥片を剥離した後、個体の上位で厚手の剥片を剥離する(1)。これは打面再生を意図したものと思われるが、剥離された打面再生剥片においても剥片剥離を試みている。主要剥離面を打面として剥離を行っているが、非常に小型の剥片・チップが剥出されたのみである(2)。1の剥離後、上面の分割面を打面として表裏でさらに小型の剥片数枚を剥離している。このうち、表面で剥離された1点には調整加工が施されている(3)。この他の剥片は、遺跡内からは出土していない。残核は遺跡内に残されていた(4)。1～3はブロック内に分布していたが、4の石核はブロック外のやや離れた位置から出土した。

接合資料—2

4点の石器が接合している。やや大型の縦長剥片が大きく3点に折れたものである(1・2+3・4)。折れ面の観察から、意図的に折り取られた可能性が高く、本来もう1点あったであろう破片(下部右半部)は遺跡内からは出土していない。3片のうち1点は石核に転用されており(4)、素材剥片の主要剥離面側で、側面を打面として非常に小型の横長剥片を1枚剥離している。剥離された剥片も遺跡内には残されていなかった。全てブロック内からの出土で、比較的狭い範囲にまとまって分布していた。

接合資料—3

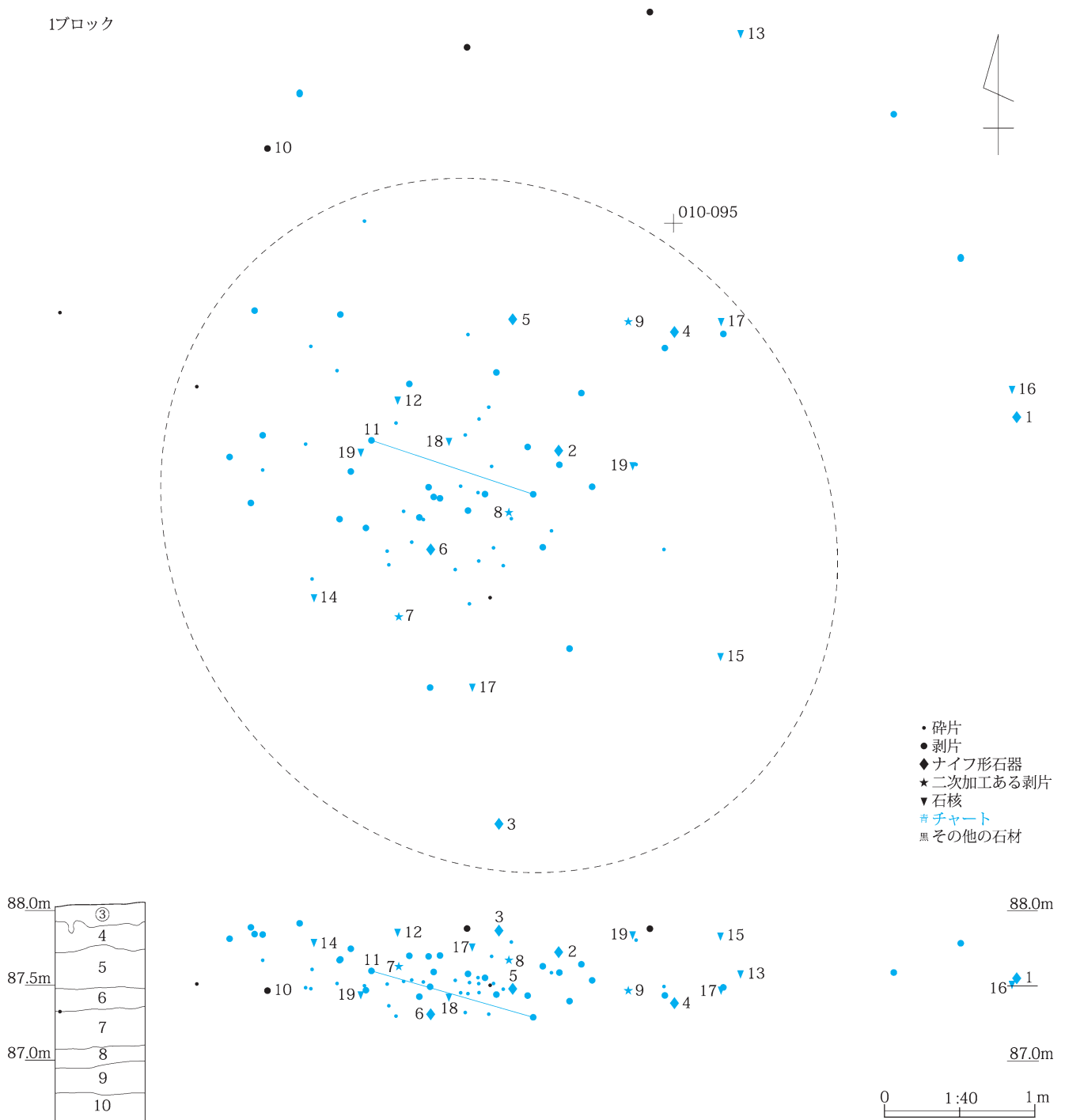
3点の資料が接合している。薄い小型の石核で、表裏両面で小型の剥片を剥離している。上位に打面が設定されていたが、石核の小型化に伴い、周囲から求芯状に剥離を試みている。最終的に上面の打面から小型の剥片(1)を剥離した後、石核がほぼ中央から割れて廃棄されている(2+3)。全て1ブロックからの出土であるが、互いに1.2～1.5mほどの間隔を開けて一直線上に位置していた。

接合資料—4

3点の石器が接合した。剥片末端部のやや肥厚した部分で、剥片の主要剥離面を打面として小型の剥片が剥離されている(1)。右側面でも小型の剥片が剥離されている。剥離された剥片は非常に小型で、素材剥片としての利用は想定しがたい。ただし、前述の接合資料—1・3の例のように、極限まで剥片剥離を試行する傾向が認められることから、同様に石核と判断した。残核は、中央よりやや上位で二つに割れて廃棄されている(2+3)。3点ともブロック内からの出土で、2m程の範囲に分布していた。

接合資料—5

3点の石器が接合した。節理面が多く、節理面を起点として3点に割れている。人為的に折られたものか否かは判別できなかった。全てブロック内に分布していた。



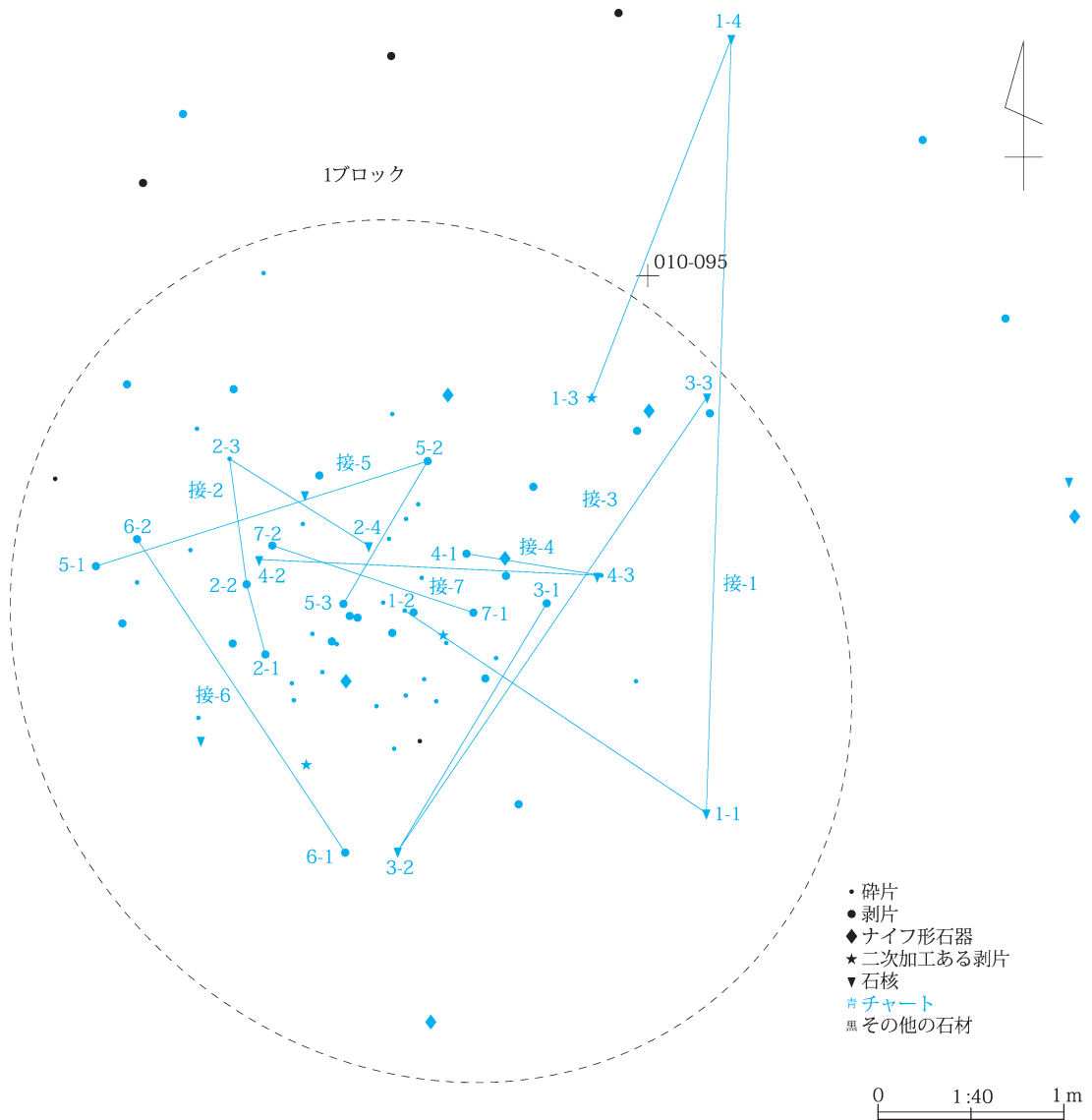
第24図 第2文化層1ブロック石器分布

接合資料一 6

2点の剥片が折れ面で接合した。上半は折り取られて欠損する。2点ともブロック内からの出土である。

接合資料一 7

小型の縦長剥片が、上位3分の1ほどの部分で接合している。剥離面の観察からは、人為的に折られたものか否かは確認できなかった。主要剥離面の上位に小さな剥離痕が認められるが、非常に断片的である。先端を欠損する。ともにブロック内出土。



第25図 第2文化層1ブロック石器接合状況

3 石器の分布（第24・25図）

ブロックは1カ所のみで、4×3.5m程の範囲の集中部と、その周辺に散在する少数の石器からなる。器種による分布の違いは認められないが、わずかしかないチャート以外の資料6点のうち、4点までがブロック外の周辺部に分布していた。

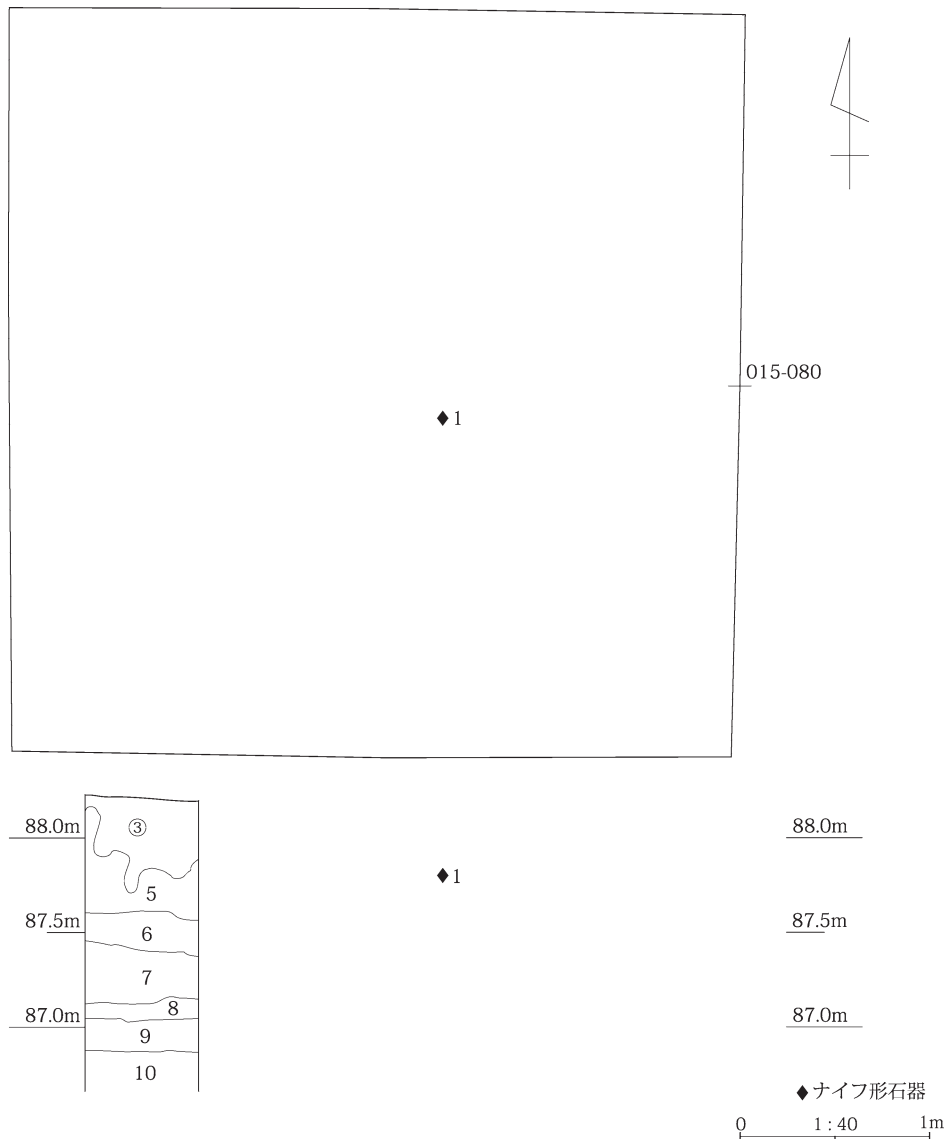
接合資料の観察から、ブロック内ではチャートの小型石核から剥片を剥離し、ナイフ形石器を含む小型の石器の製作と、それをを用いての作業が行われていたものと考えられる。遺跡内に残された石核は非常に小型で、かなり剥離の進んだ状態で搬入され、究極まで剥片剥離を行った後に廃棄されている。比較的大型の剥片を持ち込んで切断している例も見受けられ、全体として非常に石材が欠乏した状況が看取できる。本遺跡周辺の基盤礫層中には、少量ながらも石材として利用可能な良質なチャートが含まれており、石材の採取可能地域の様相としては異質である。わずかながら黒色頁岩や黒曜石のチップも認められることから、チャート以外の石材も保有していたと思われるが、遺跡内ではごく断片的な作業を行ったのみで、持ち去られた可

能性が高い。

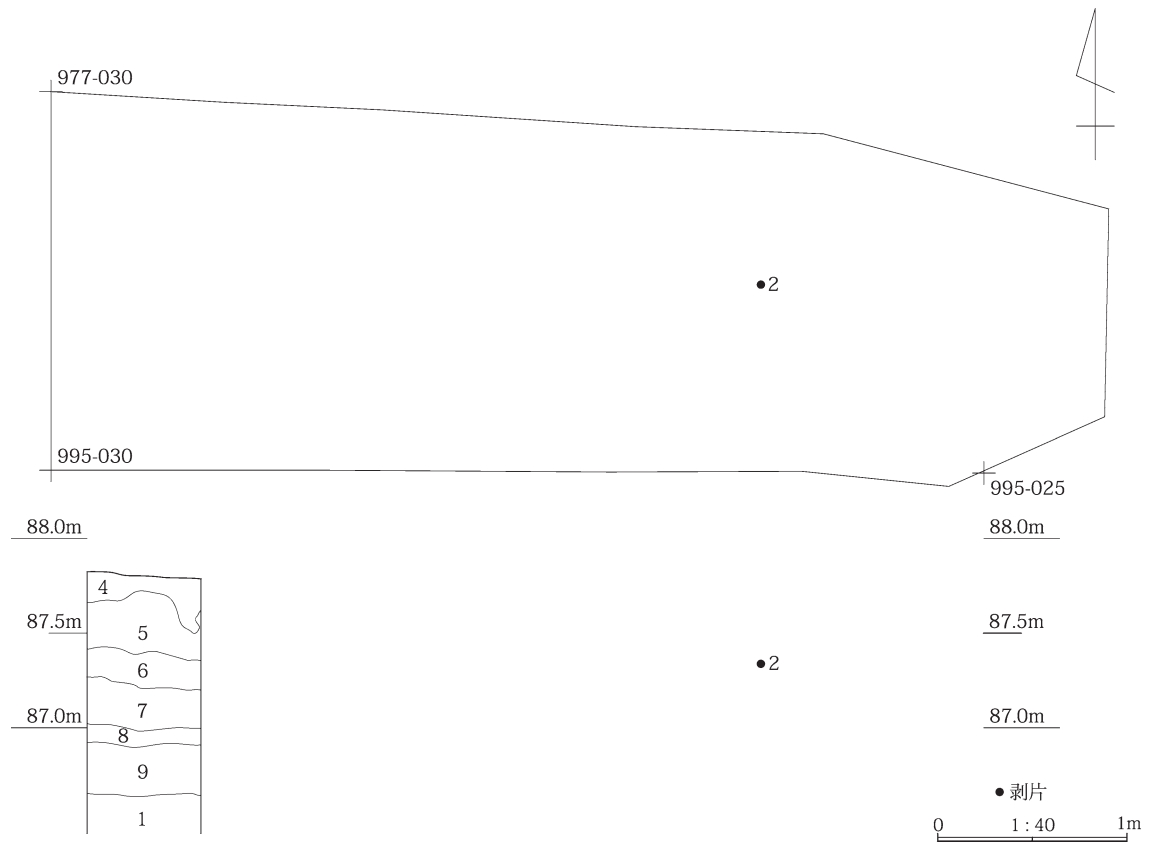
4 ブロック外出土の石器

I区の側道部分から2点の石器が出土している(第28図)。いずれも試掘トレンチ内から単独で出土したもので、周辺を拡張して調査を行ったが、この他には遺物は検出されなかった。出土層位から第2文化層に相当する時期の遺物と判断した。

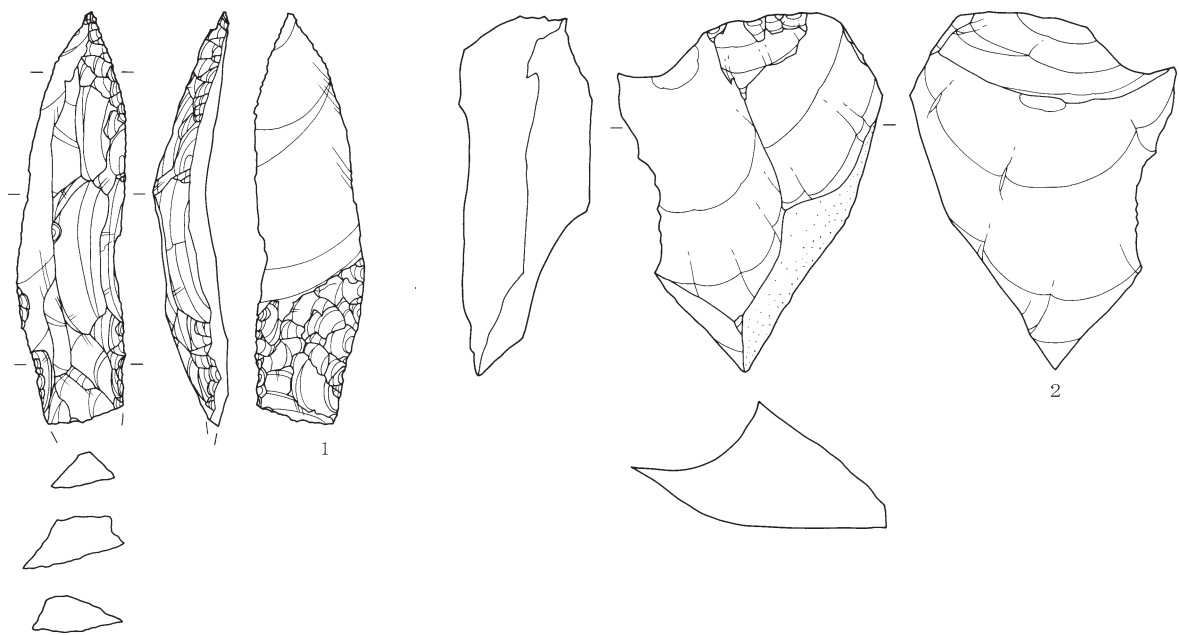
1は黒曜石製のナイフ形石器である。010—080グリッドから出土した(第26図)。器体右側の先端部に調整を加え、素材の縦長剥片の打面部を取り去っている。基部は背面両側に調整を加え、腹面の下3分の1ほどの範囲にも両側から平坦剥離を加えている。下端部は欠損している。出土層位は基本土層の6層である。原産地分析の結果、諏訪星ヶ台群の黒曜石を利用していることがわかった(第7章参照)。2は黑色頁岩製の剥片である。I区東端の995—025グリッドからの出土である(第27図)。表面に自然面を残し、上位の打面から縦長の剥片を剥離しているのが観察できる。出土層位は基本土層の7層である。



第26図 第2文化層ブロック外出土石器(1)



第27図 第2文化層ブロック外出土石器(2)



第28図 第2文化層ブロック外出土石器 (S = 4/5)

第4節 第3文化層 II・III区

1 出土した石器 (第30～38図)

II・III区境の北半部で、総数451点の石器が出土した(第29図)。基本土層の7～9層にかけて出土しているが、大半は暗色帯にあたる9層中に含まれる。

器種の内訳は、ナイフ形石器1点(1)、台形様石器2点(2・3)、二次加工ある剥片18点(4～21)、微細剝離痕ある剥片2点(22・23)、石核25点(接合後24点、40～63)、剥片257点、チップ122点、敲石4点、礫20点である。

石材は黒色安山岩が最も多く317点(合計重量1777.9g)で、点数で7割、重量では約2割を占める。次いでチャート43点(同419.1g)、黒曜石24点(同32.1g)、砂岩16点(同822.0g)、黒色頁岩14点(同170.3g)、ホルンフェルス14点(同231.8g)、粗粒輝石安山岩10点(同5196.0g)、溶結凝灰岩8点(同578.6g)、頁岩2点(同3.1g)、変玄武岩2点(同6.6g)、灰色安山岩1点(同46.4g)となっている。点数に対して重量の大きい粗粒輝石安山岩や溶結凝灰岩は、大半が敲石や礫である。黒曜石は、実測図を掲載した6点について原産地分析を行い、全て栃木県高原山産と推定された。

ナイフ形石器は1点のみ出土している(1)。素材の横長剥片を縦位に使用し、左側縁に連続して細かな調整を加えている。この調整はごく浅く、典型的なブランティング状ではない。基部欠損。厚手の剥片を素材としているため、かなり急角度の刃部となっている。2ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩である。

台形様石器は2点出土しており、いずれも石材は黒色安山岩である。2は小型剥片の側縁を刃部とし、相対する側縁にやや粗い調整を加えて尖頭状の基部を作り出す。3は比較的大型の剥片を素材とし、素材の打面側を基部にしている。器体右側を折り取り、折れ面から裏面側下半にわずかに調整加工を施す。左側でも裏面下半にやや急角度の調整が加えられる。2は6ブロック、3は1ブロックから出土した。

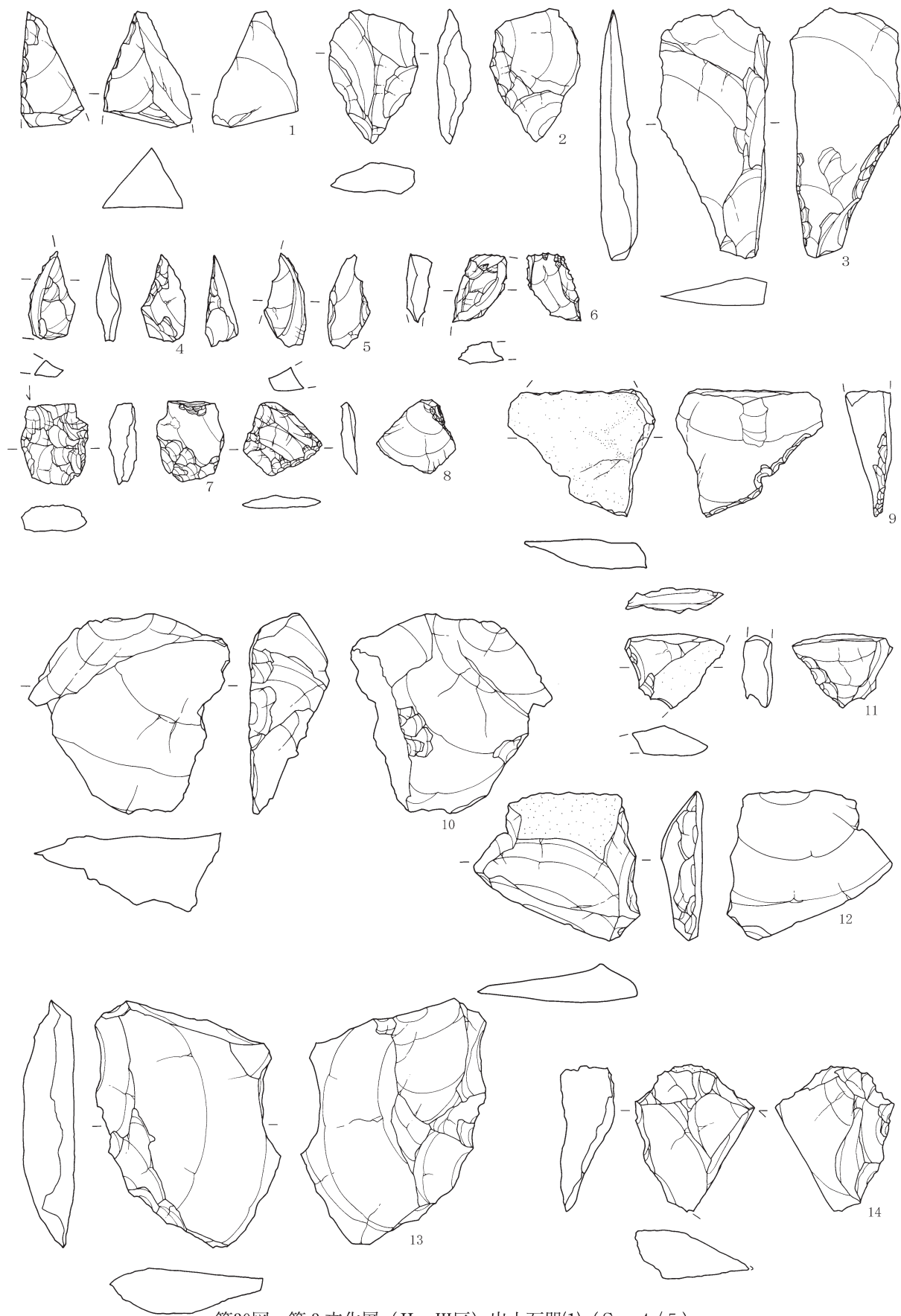
二次加工ある剥片は18点出土しているが、いずれも非常に断片的な調整が見られるのみである。4～6は黒曜石製であるが、小破片のため全体の形状は不明である。ブランティング状の急角度の調整であり、ナイフ形石器の破片である可能性が考えられる。4・6は2ブロック、5は3ブロックからの出土である。7は器体右側の両面に調整を加えた小型の石器で、上位を欠損する。黒曜石製で、4ブロックから出土した。8は小型の剥片の打面側と先端部に細かな調整が加えられる。5ブロックからの出土で、石材はチャート。9はチャートの剥片の先端裏面にやや不規則な調整が加えられる。上位を欠損。10もチャート製で、剥片の右側面にわずかに調整を加えノッチ状に整形している。接合資料-26に含まれる。11～21は黒色安山岩で、剥片の一部に粗い調整を加えた資料が大半を占める。このうち16は、器体の左側と先端部を折り取り、右側の基部にわずかに調整を加えている。形状は台形様石器に類似し、同様の機能を有する可能性も考えられる。石材ごとに分布の偏りが認められ、黒曜石製の4～7は東側の2～4ブロックから、チャート製の9・10は9ブロックから、黒色安山岩製のうち東側の1～3ブロックに分布するものが5点、5ブロックに分布するものが4点となっている。

22・23は微細剝離痕ある剥片であるが、ともに黒色安山岩製である。22は大型の縦長剥片で、先端の表面に微細な剝離痕が連続して認められる。上位を欠損。9ブロック出土。23は横長剥片の端部表面に微細な剝離痕が見られる。上下両端と左側を欠損する。1ブロックから出土した。

剥片は257点中198点が黒色安山岩である。その他はチャートや黒色頁岩、ホルンフェルス、黒曜石などがあるが、ごくわずかである。この中に、わずか1点ではあるが、刃部磨製の斧形石器の調整剥片が含まれていた(24)。刃部付近を側面から調整した際に剝離されたもので、表面に研磨面が認められる。上位から右側を欠損する。石材は変玄武岩で、5ブロックから出土した。その他の剥片では、25～29のように縦長の形状のものもあるが、大半は不定形で表面の剝離面構成もランダムである。25・39は黒色頁岩、26～37は黒色安山岩、38は黒曜石である。チャートが9ブロックに集中する他は、特に石材ごとの分布の偏りは見られない。

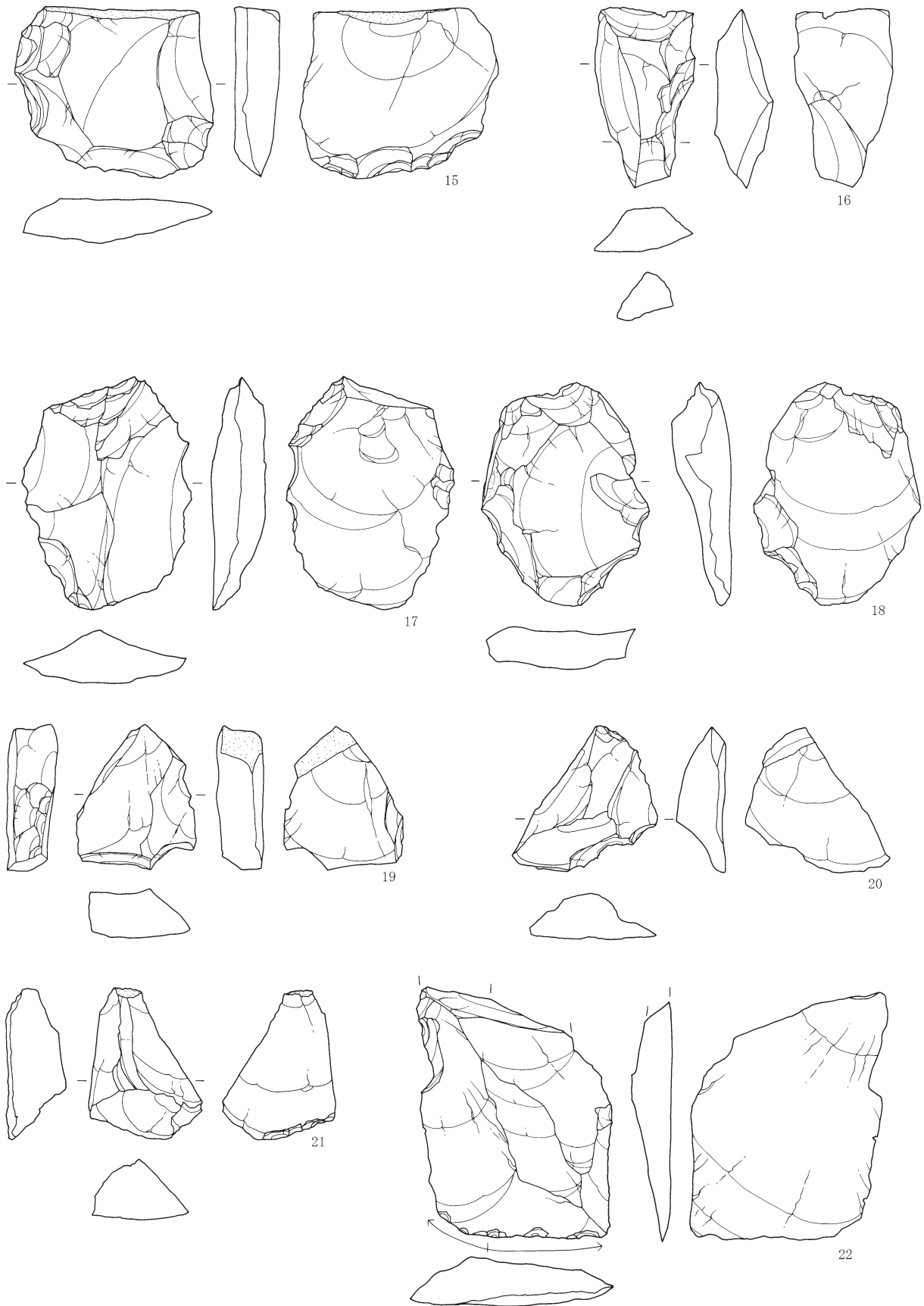


第29図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)石器分布

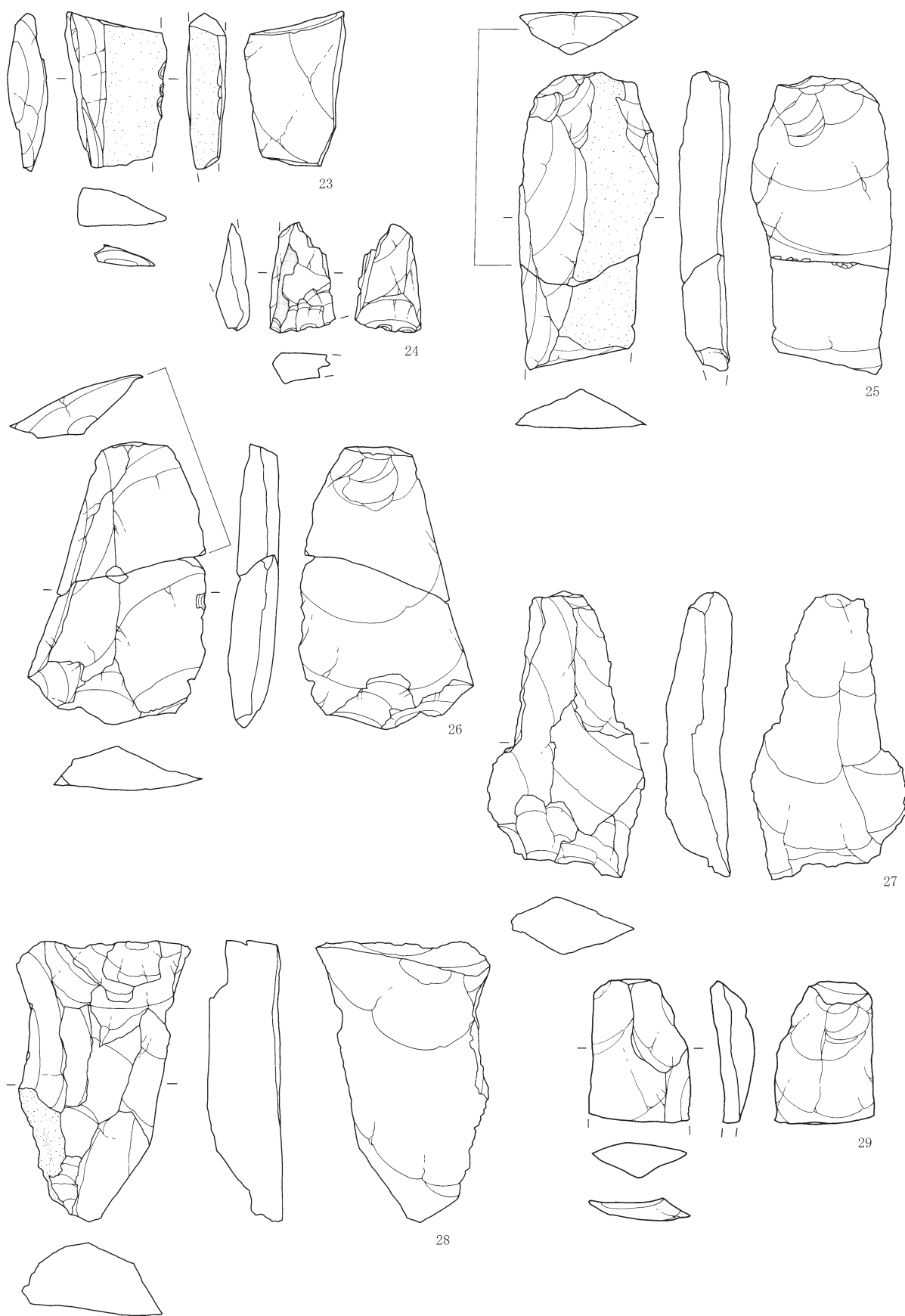


第30図 第3文化層 (II・III区) 出土石器(1) (S = 4 / 5)

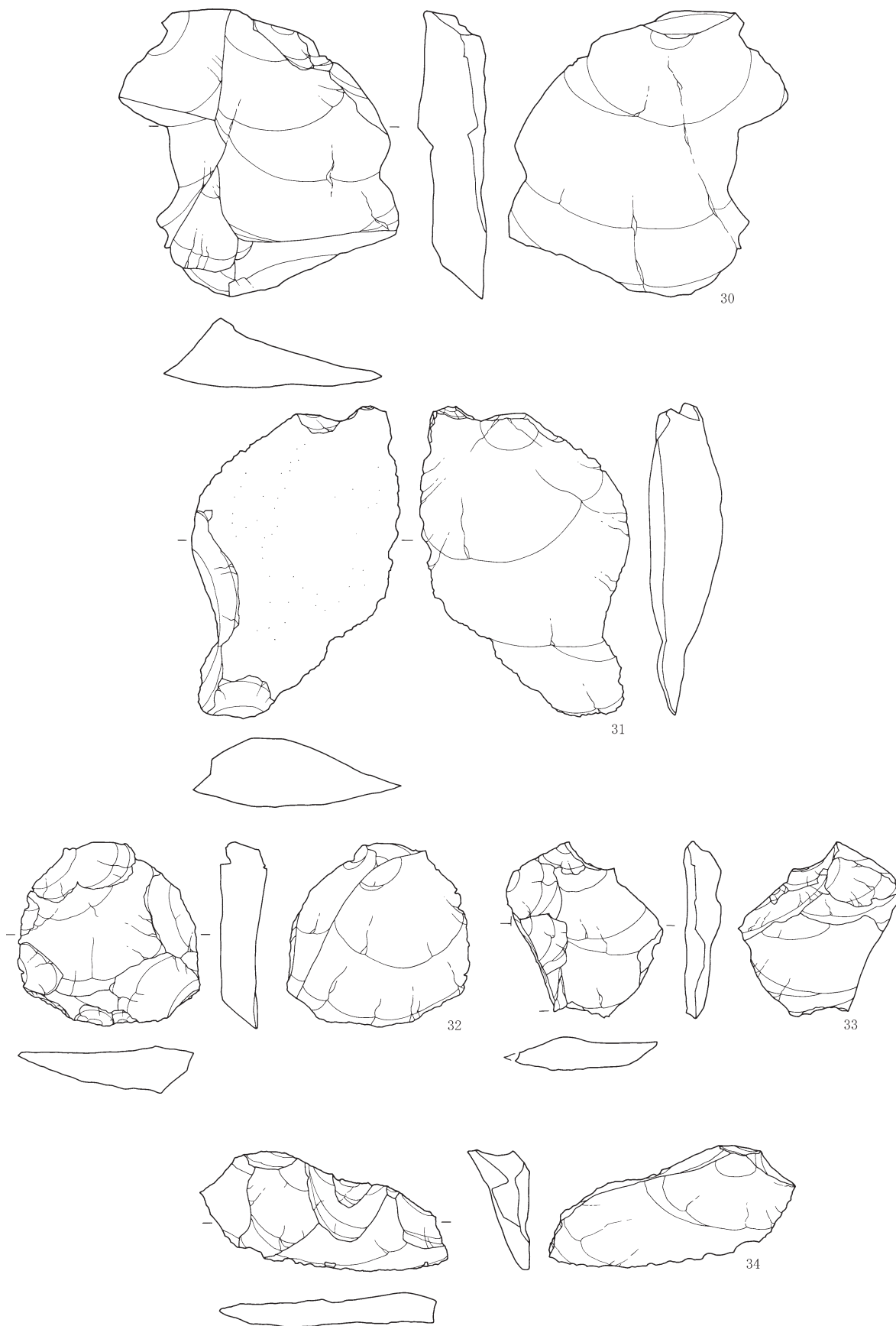
第2章 旧石器時代



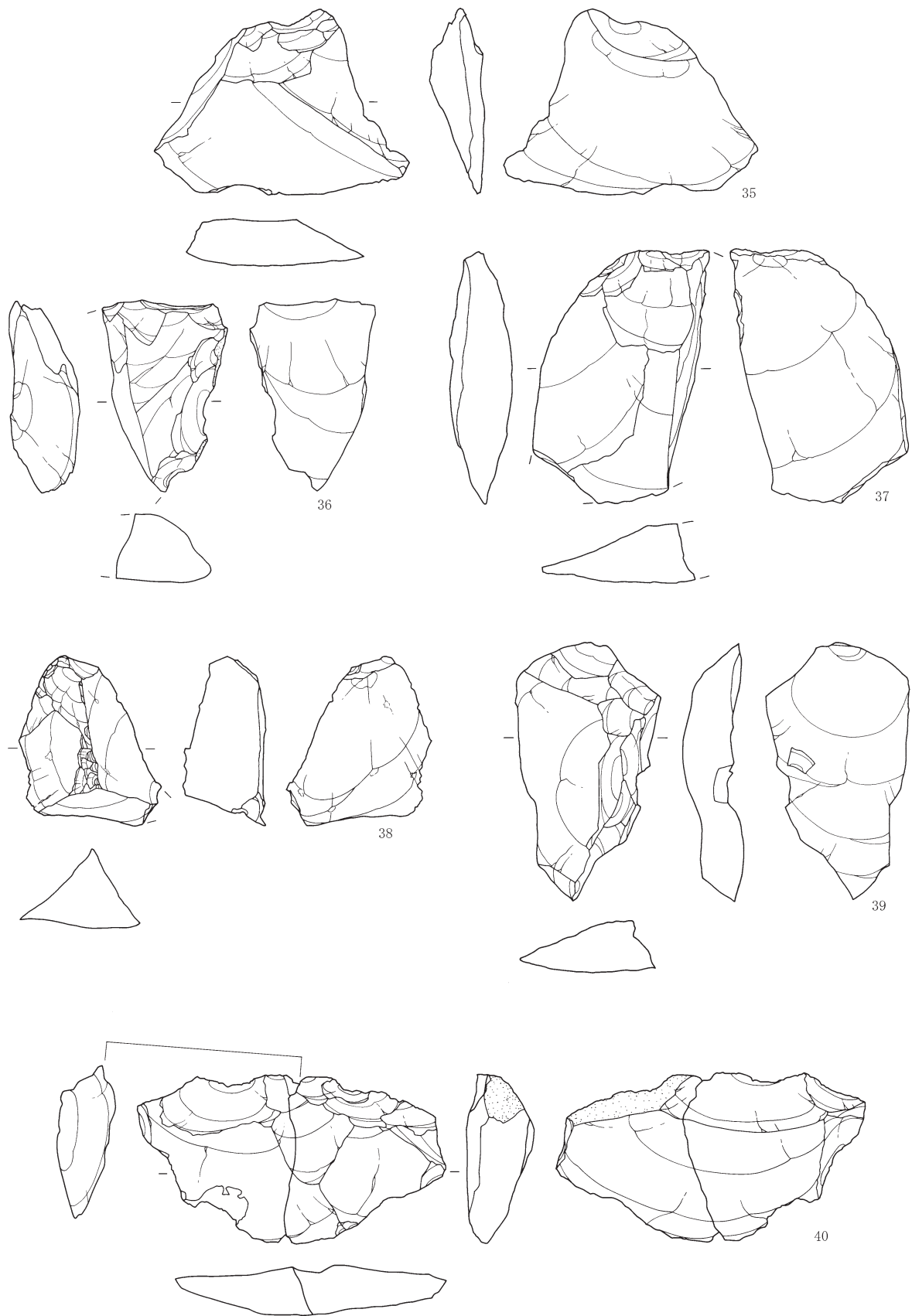
第31図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)出土石器(2)(S=4/5)



第32図 第3文化層 (II・III区) 出土石器(3) (S = 4 / 5)

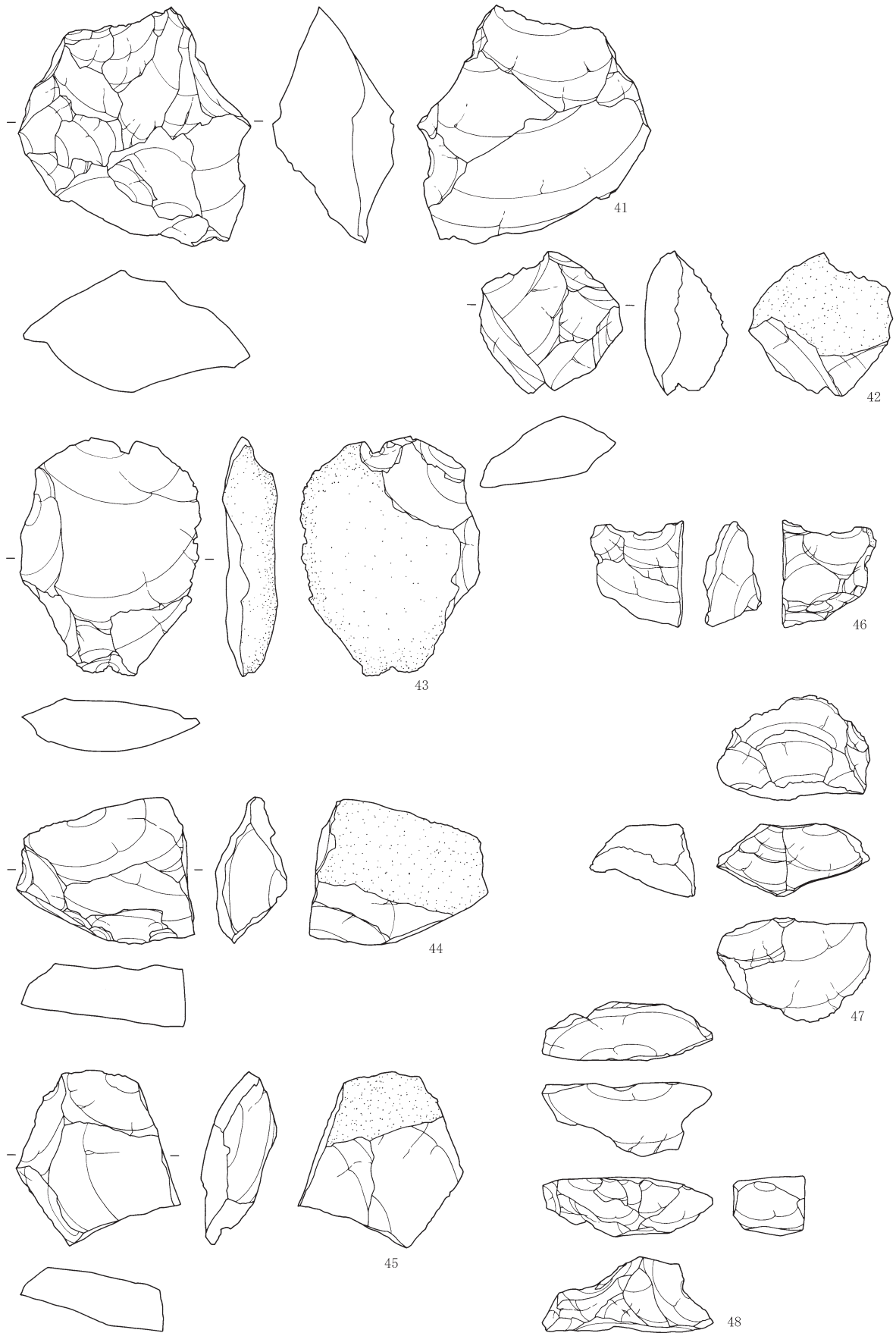


第33図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)出土石器(4)(S=4/5)

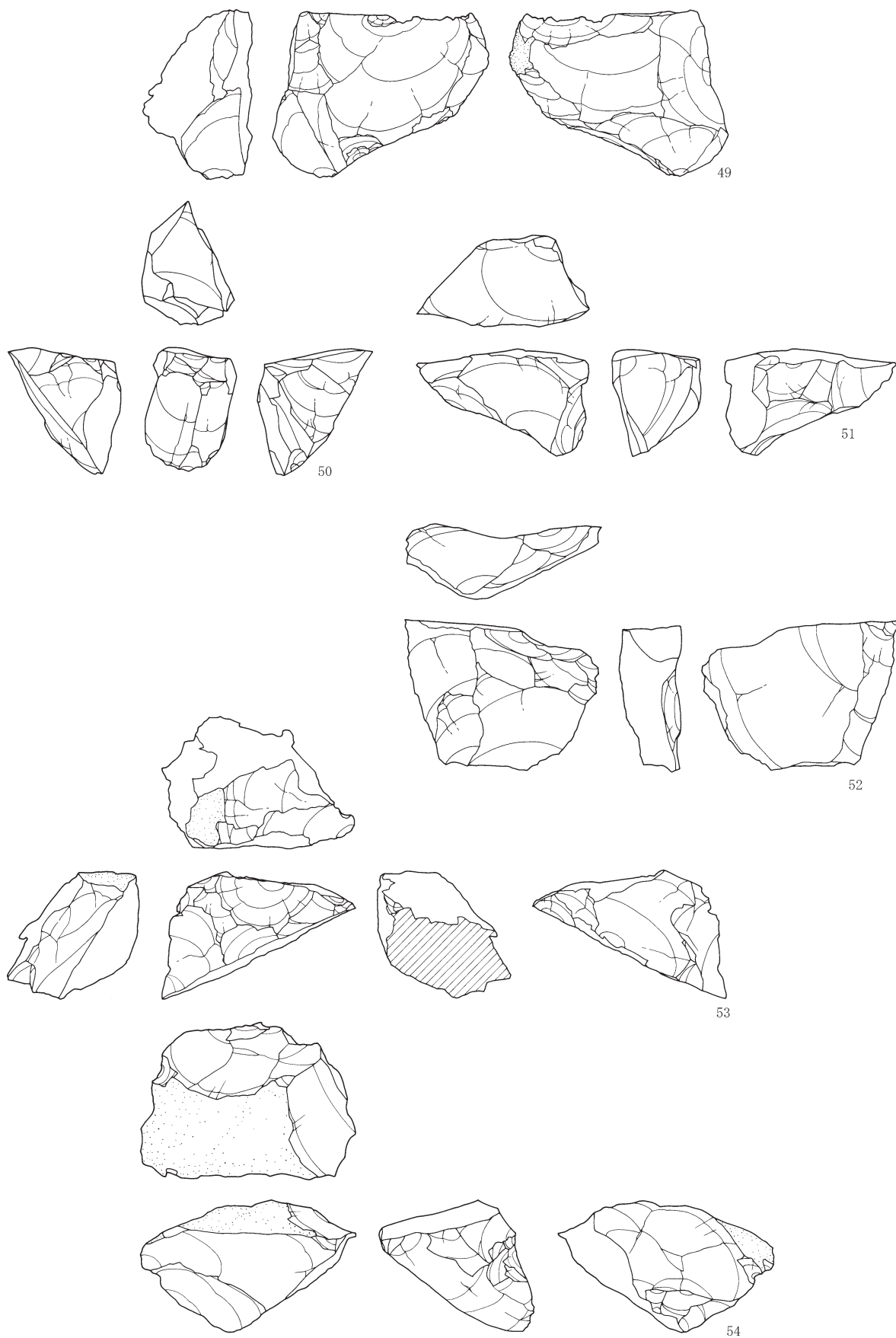


第34図 第3文化層 (II・III区) 出土石器(5) (S = 4 / 5)

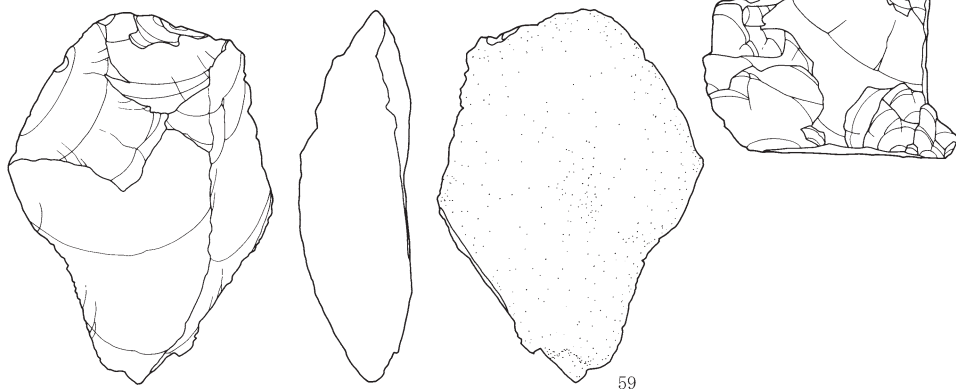
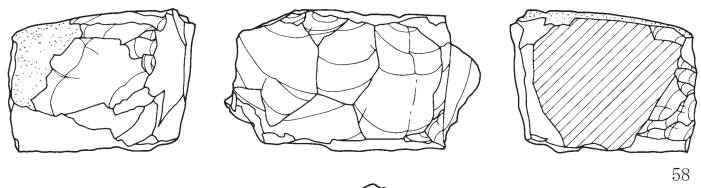
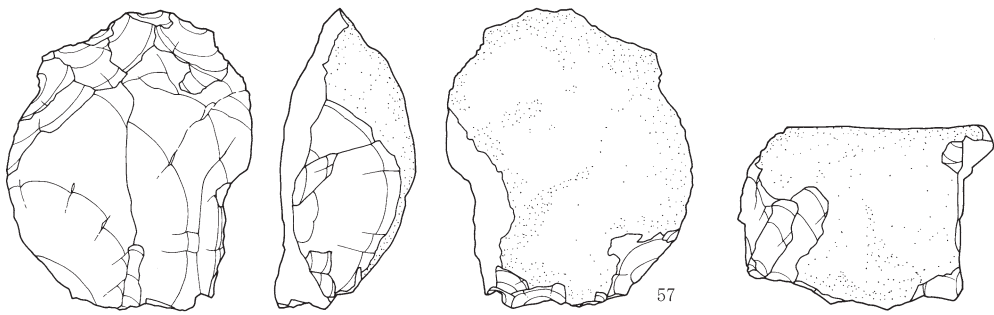
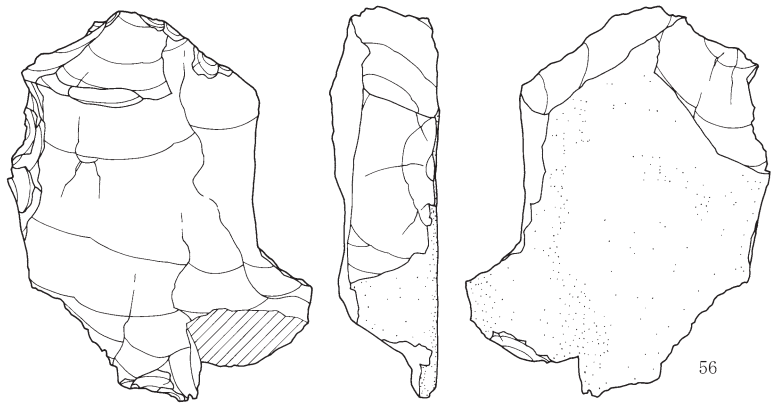
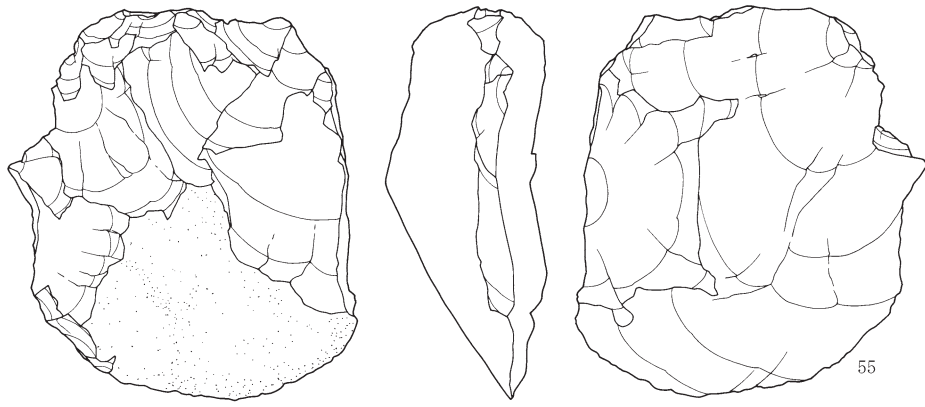
第2章 旧石器時代



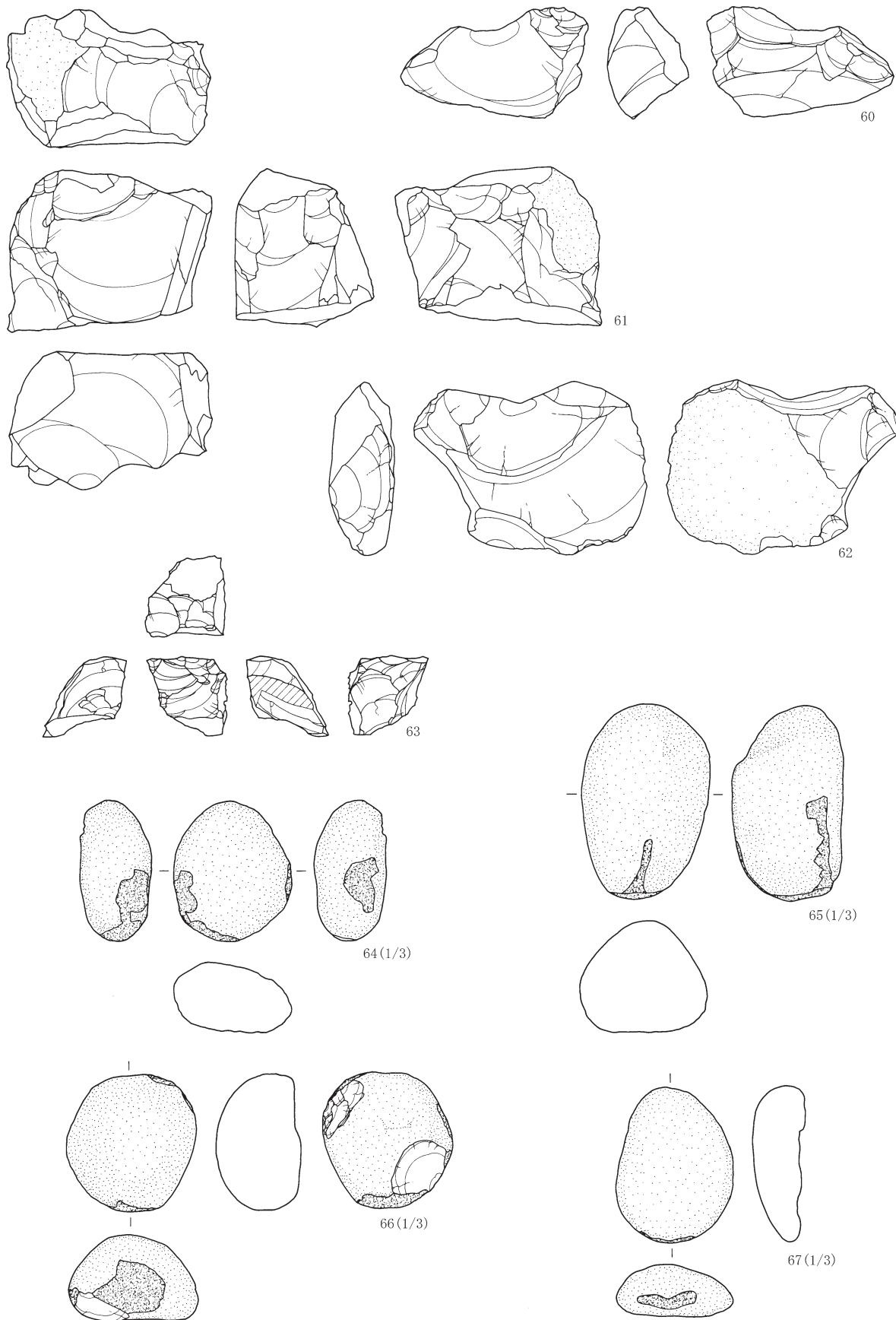
第35図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)出土石器(6) (S = 4 / 5)



第36図 第3文化層 (II・III区) 出土石器(7) (S = 4 / 5)



第37图 第3文化层(II·III区)出土石器(8) (S = 4 / 5)



第38図 第3文化層 (II・III区) 出土石器(9) (S = 4/5・1/3)

第2章 旧石器時代

石核は24点（接合後）中13点が黒色安山岩で(40～52)、その他はチャート6点(53～58)、灰色安山岩1点(59)、黒色頁岩3点(60～62)、黒曜石1点(63)である。黒色安山岩の石核は複数の特徴を示す一群が認められる。厚手の剥片の打面側で表裏交互に小型の剥片を剥離するもの(40・41)、剥片の表面を打面とし主要剥離面側で求芯状に剥片を剥離するもの(42～46)、打面を上面に固定して打点を左右に移動しながら徐々に作業面を後退させるもの(47・48)、分割面や折れ面を打面として小口部で少数の剥片を剥離するもの(50～52)などがある。このような特徴は剥片剥離の初期段階から不変なものではなく、素材の形状や剥離の進行によって適宜剥離方法を変えて、可能な限り剥片剥離を行おうとしている。剥片剥離工程の最終段階で剥離される剥片は、ツールの素材としては使用に適さないほどに小型化している場合が多い。チャートの石核は全て接合資料—26に含まれる。53～57は工程の中で剥離された大型の剥片を素材として、少数の小型剥片を剥離している。58はこの母岩の最終的な残核である。いずれの石核においても剥離された剥片は非常に小型で、ツールの素材として十分な大きさを備えたものはごくわずかであろう。61・63は、打面と作業面の90°転移を頻繁に繰り返し、直方体状の形状を呈している。60も直方体状の石核であったが、表面の大きな剥離面が生じた際に、剥片の末端部が作業面の裏面に抜けてしまった。62は、素材剥片の周辺部で少数の小型剥片を剥離している。チャート製の石核が全て9ブロックに集中して出土した以外は、特に分布に偏りは見られない。

敲石は66が砂岩である以外は、全て粗粒輝石安山岩である。いずれも円礫を素材とし、端部や側面に敲打痕が認められる。66は、敲打の際に礫面が一部剥離している。64・65は4ブロック、66は9ブロック、67はブロック外の調査区東南隅付近から出土している。

2 接合資料（第39～46図）

礫もあわせると、33例、106点が接合し、接合率は23.5%である。このうち6割以上が黒色安山岩である。

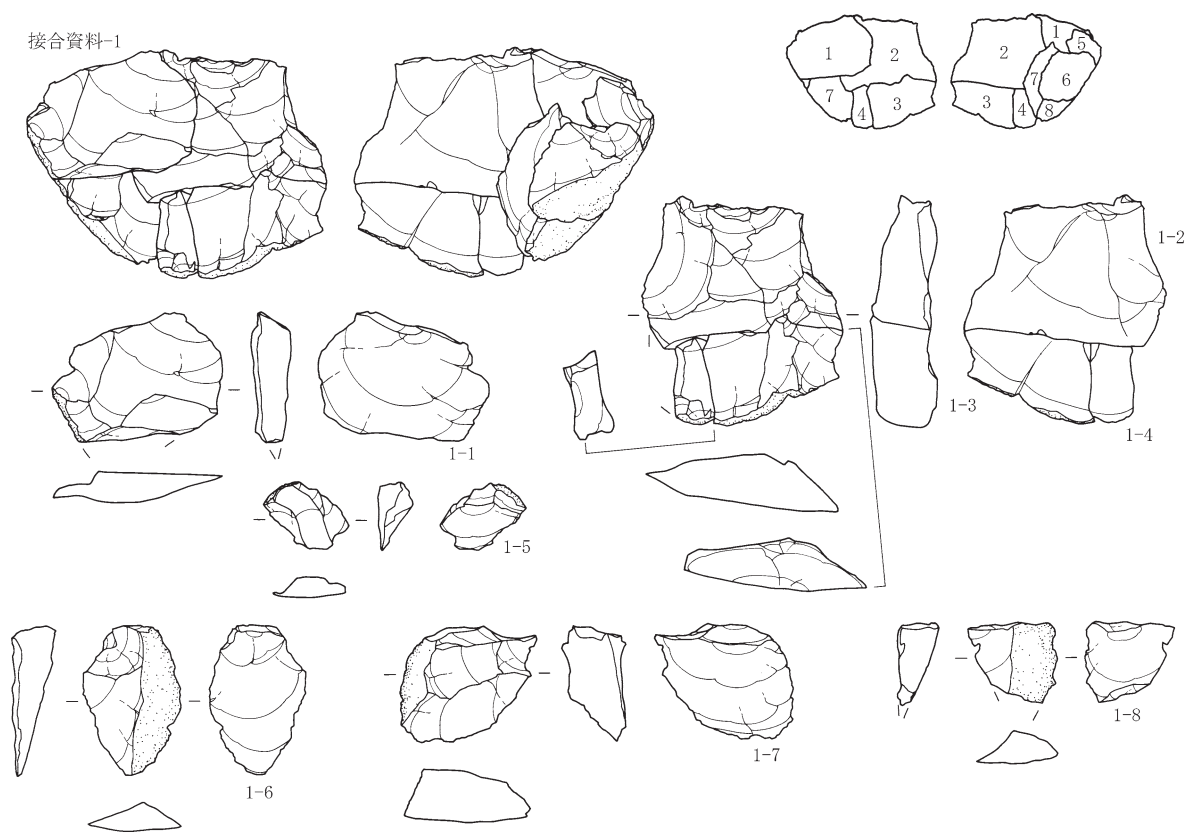
接合資料—1

8点の剥片が接合した。かなり剥離が進んだ状態で搬入されている。上面を打面とし、打点を左右に移動しながら連続して剥片を剥離する(1・2+3+4・5)。このうち最も大きな剥片は、3片に折り取られて最大10m近い間隔を開けて出土した。その後、打面と作業面を交互に入れ替えながら小型の剥片を剥離している(6・7・8)。残核は遺跡外に搬出された。剥離面の観察から、分割礫様の個体上面に打面を固定し、左右に打点を移動しながら徐々に作業面を後退していく剥離工程が窺える。裏面には大きく自然面を残していたものと思われる。剥離の進行によって石核が小型化したため、剥離方法を変更した可能性が考えられよう。1は5ブロック、2・3はブロック外、4～8は2ブロックからの出土である。石材は黒色安山岩。

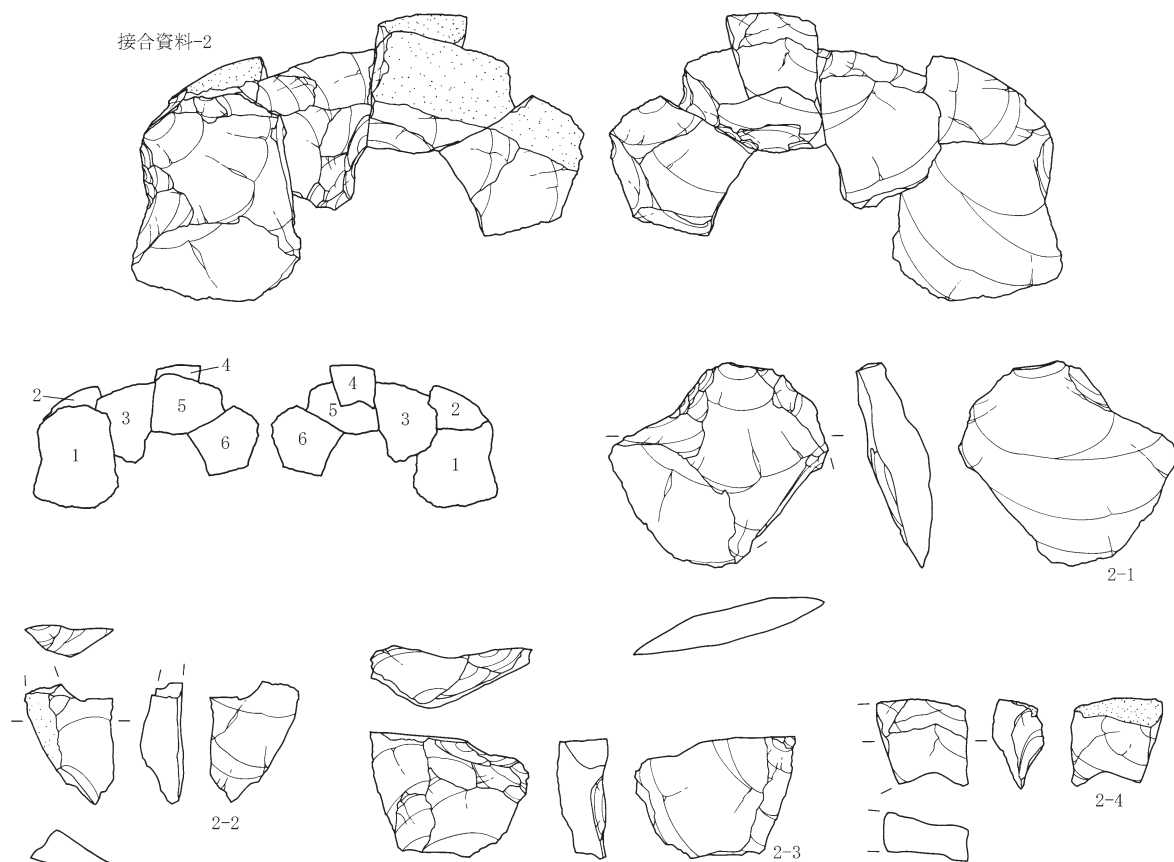
接合資料—2

6点が接合している。かなり大型の石核の周縁から求芯状に剥片を剥離し(1)、続いて大型の横長剥片を剥離している。この大型の横長剥片は、3分割されてそれぞれ石核として利用されている。まず左半の個体は、分割面を打面として、個体側辺の小口部分で剥片を1枚剥離している(2)。上半は欠損し、遺跡内からは見つからない。この剥片は、石核の末端部を大きく取り込んでおり、石核長を半分程度に減じる結果となった。この他、分割面で素材剥片の主要剥離面側からの剥離が認められるが、2の剥離との前後関係は不明である。石核は遺跡内に廃棄される(3)。右半の個体はさらに2分割され、それぞれにおいて小型の剥片を剥離している。いずれも素材剥片の表面を打面とし、主要剥離面側で小型の剥片を1～2枚剥ぎ取っている(4)。どちらの個体も残核は遺跡内に廃棄される(5・6)。比較的広範囲に分布しており、2は1ブロック、4は6ブロック、3・6は11ブロック、1・5はブロック外からの出土である。石材は黒色安山岩。

接合資料-1



接合資料-2



第39図 第3文化層 (II・III区) 接合資料-1・2 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

接合資料— 3

5点の資料からなる。分割礫、もしくは厚手の剥片を素材とし、周辺から求芯状に小型・不定形の剥片を連続して剥離している(1+2・3・4+5)。その際、適宜作業面からの加撃により打面を作出している。2を除いて8ブロックからまとまって出土しており、8ブロックで剥片剥離が行われたものと考えられる。2はブロック群中央部から出土した。右側辺を折り取った形状は台形様石器に類似しており、ツール素材として持ち込まれた可能性が高い。石材は黒色安山岩。

接合資料— 4

3点の石器が接合した。分割礫素材と思われ、上位の自然面を打面として、打点を左右に移動しながら連続して3枚の剥片を剥離している(1~3)。打面部には、一部剥離が加えられているが、この3点を剥離した際の打点は自然面上である。また、1の剥離後に、少なくとも1枚の小型剥片を剥離してから残りの2枚を剥離している。2と3は打点が近接していることから、同時割れの可能性もある。1は2ブロック、他の2点は7ブロックからの出土である。石材は黒色安山岩。

接合資料— 5

3点の資料からなる。剥離の進んだ石核の状態で搬入されている。まず、上面を打面として打点を左右に移動しながら少なくとも3枚の剥片を剥離(1・2)、その後作業面を90°転移してやや大型の剥片を1枚剥離している(3)。3は右半部を欠損している。1・2は6ブロック、3は11ブロックからの出土である。石材は黒色安山岩である。

接合資料— 6

3点の石器が接合した。石核素材は厚手の剥片で、表面の自然面上半に打面を作出し(1)、主要剥離面側で求芯状に小型の剥片を剥離している(2)。1と2は直接接合しないが、剥離面の観察から1が先行して剥離されたことがわかる。その後、右側からやや大型の剥片が剥離された後、石核は廃棄される(3)。この剥片は遺跡内から出土しておらず、搬出された可能性が高い。3点とも8ブロックからの出土で、当ブロックで剥片剥離から廃棄までが行われたものと考えられる。石材は黒色安山岩である。

接合資料— 7

3点の資料からなる。上位の打面から、打点を左右に移動しながら連続して3枚の剥片を剥離している(1~3)。石核は遺跡外に搬出される。2・3は8ブロックから出土、1も8ブロックに隣接する地点にあり、比較的狭い範囲にまとまって分布していた。石材は黒色安山岩である。

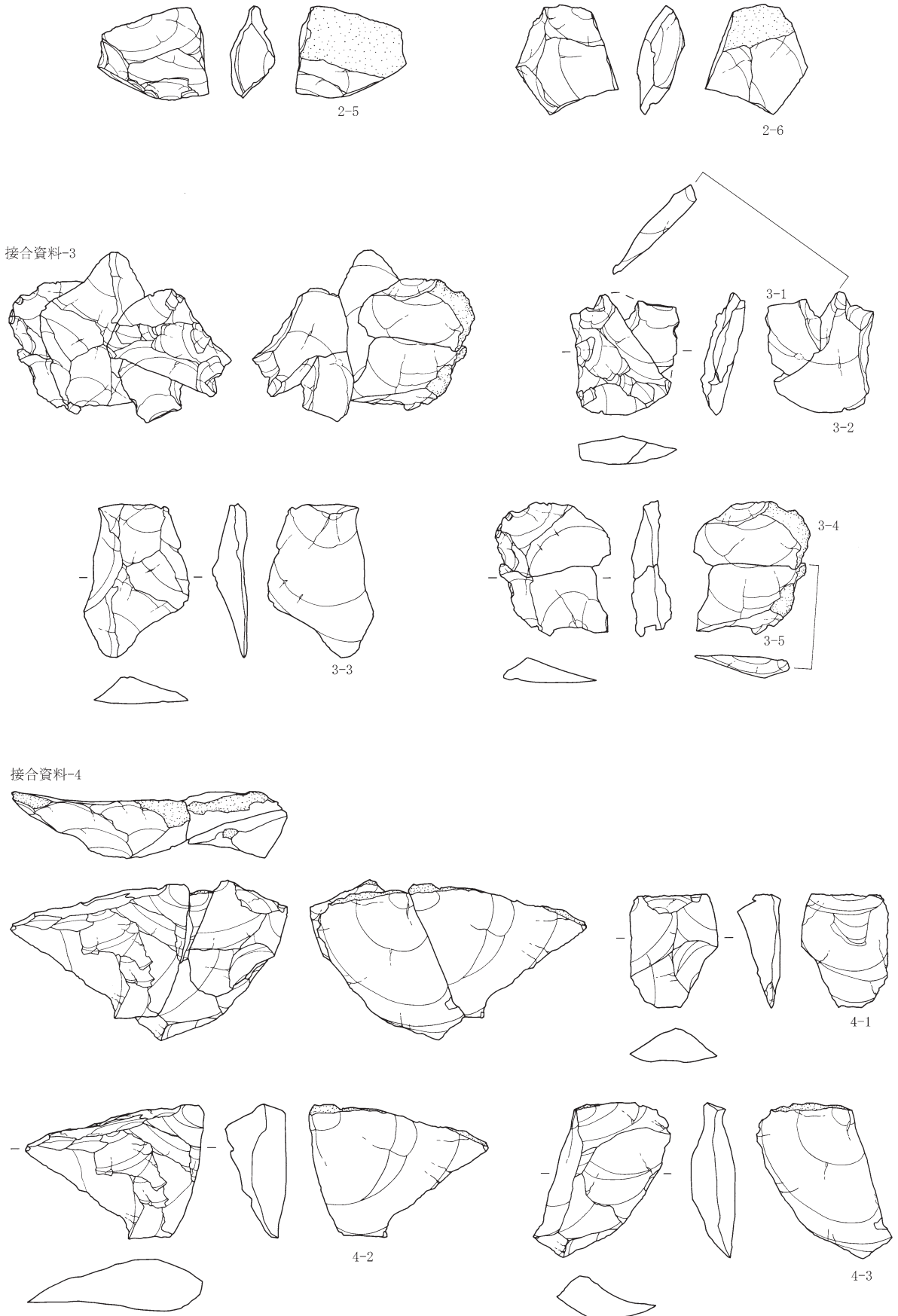
接合資料— 8

3点の石器が接合した。素材は盤状の剥片で、裏面の自然面を打面とし、周辺から求芯状に小型の剥片を剥離している(1・2)。1と2は直接の接合関係を持たないため、前後関係は不明である。残核は遺跡内に廃棄される(3)。残核は非常に小型で、左下面に折り取りの痕跡が認められる。全て4ブロックから出土した。石材は黒色安山岩。

接合資料— 9

3点の資料からなる。打面を上面に設定し、打点を左右に移動しながら複数の小型の剥片を剥離している(1+2)。その後、作業面側からの加撃によって打面再生を行い、打面・作業面を固定したまま剥片を1枚剥離している(3)。残核は遺跡内に残されていなかった。3点とも3ブロックに分布していた。石材は黒色安山岩である。

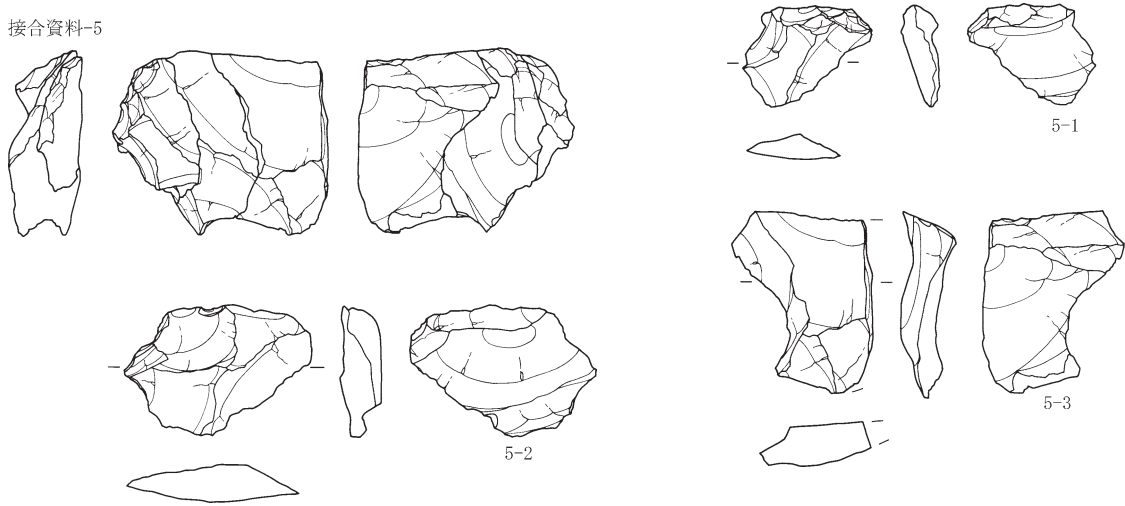
第4節 第3文化層 II・III区



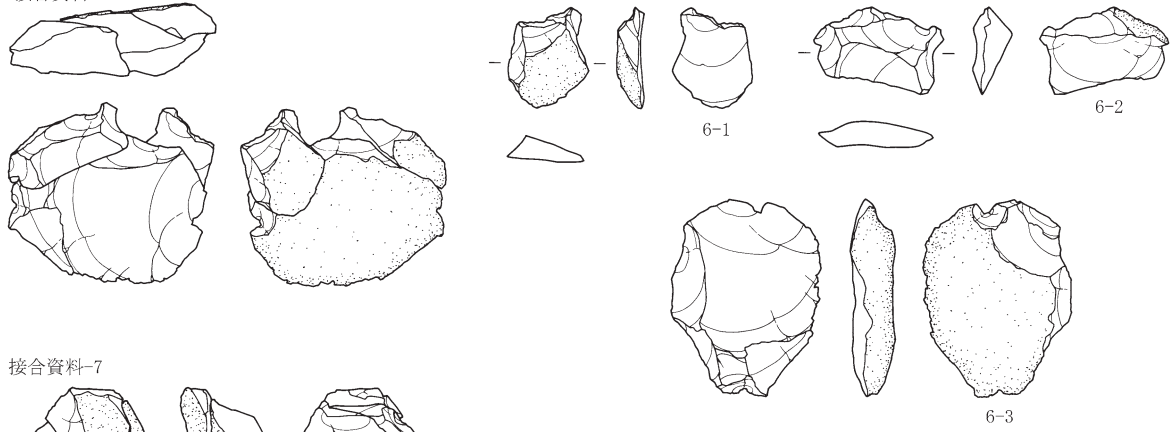
第40図 第3文化層 (II・III区) 接合資料-2~4 (S=1/2)

第2章 旧石器時代

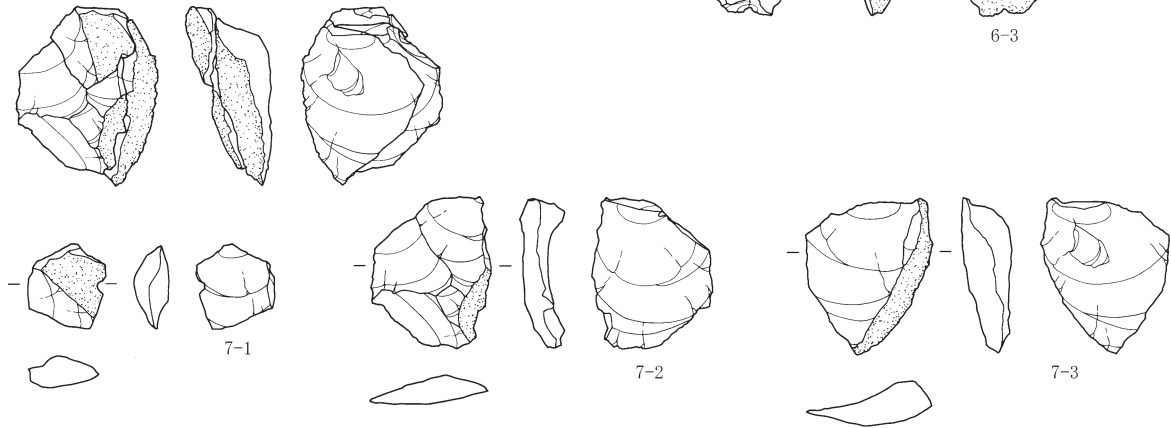
接合資料-5



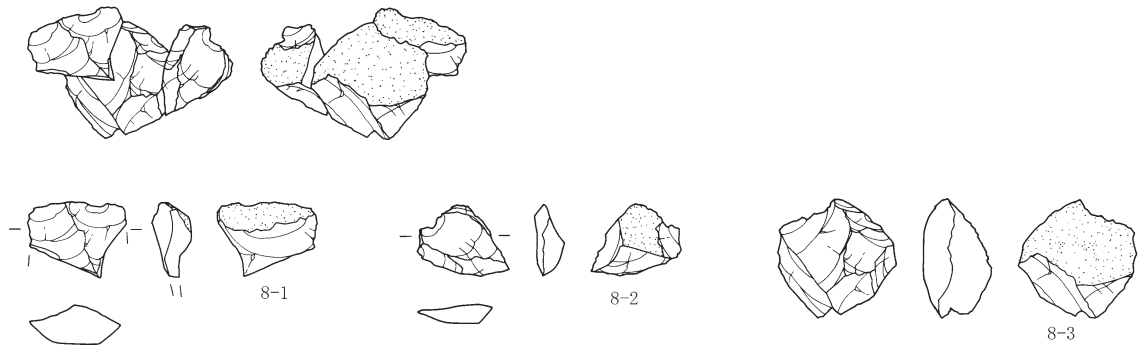
接合資料-6



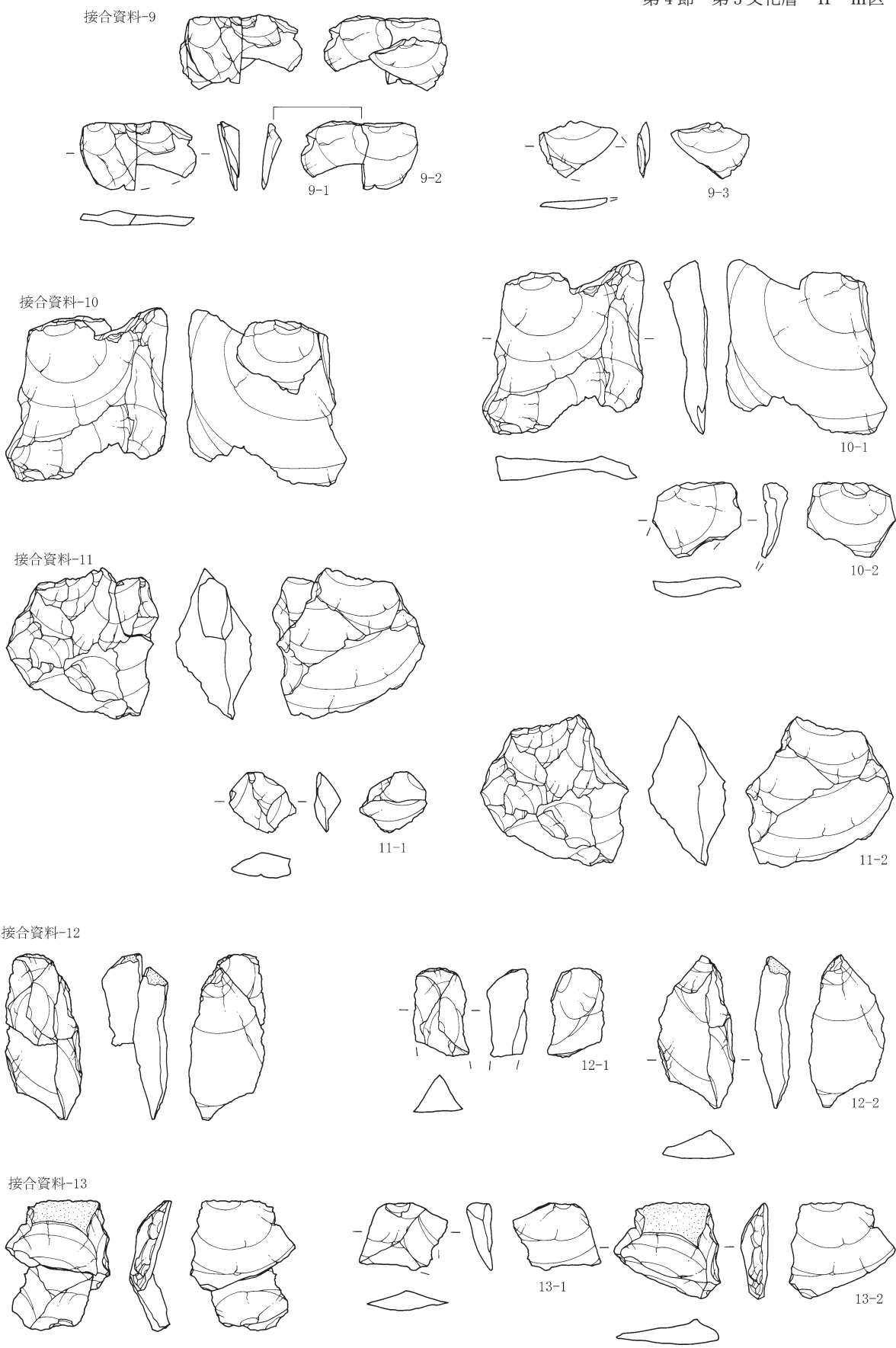
接合資料-7



接合資料-8



第41図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)接合資料-5~8 (S=1/2)



第42図 第3文化層 (II・III区) 接合資料-9~13 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

接合資料—10

2点の石器が接合している。直方体状の石核で、作業面を固定したまま、下面→左面→上面と打面を転移している。上面の打面からは、打点を左右に移動しながら少なくとも4枚の剥片が剥離されている(1・2)。石核は遺跡外に搬出される。1は9ブロックから、2は石器分布の西側から単独で出土した。石材は黒色安山岩である。

接合資料—11

2点の石器が接合した。厚手の剥片を素材とし、その上半部で打面と作業面を交互に入れ替えながら小型の剥片を剥離している(1)。残核は遺跡内に廃棄されていた(2)。ともに3ブロックからの出土である。石材は黒色安山岩である。

接合資料—12

2点の資料からなる。自然面を打面として連続して2枚の剥片を剥離している(1・2)。先行する1の表面には、稜形成と考えられる剥離痕が認められる。ともに1ブロック出土で、近接して分布していた。石材は黒色安山岩である。

接合資料—13

2点接合。盤状の石核で、下端の打面から複数の剥片を剥離した後(1)、上端に打面を移動して1枚剥離している(2)。2は右側辺に調整加工が加えられている。1は2ブロック、2は3ブロックからの出土である。石材は黒色安山岩。

接合資料—14

2点接合した。かなり剥離が進んだ段階の石核をほぼ中央で二分割している。1の石核では、左側面からの加撃によって、小口面で少なくとも1枚剥片を剥離している。分割面からも右側面でチップが1枚剥離されている。2の石核は、分割面を打面とし、小口から連続して小型の剥片を剥離している。最終的に打角が剥片剥離に適さなくなり、放棄されたものと考えられる。それぞれの石核から剥離された剥片は、遺跡内からは出土していない。ともに4ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩。

接合資料—15

2点の資料からなる。横長の剥片を素材とした盤状の石核がほぼ中央で縦に二つに割れている。ともに8ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩。

接合資料—16

3片に折れた剥片が折れ面で接合した。1は2ブロック、3は1ブロックからと比較的近距离にあったが、2だけは大きく離れて分布域の東側に単独で分布していた。石材は黒色安山岩。

接合資料—17

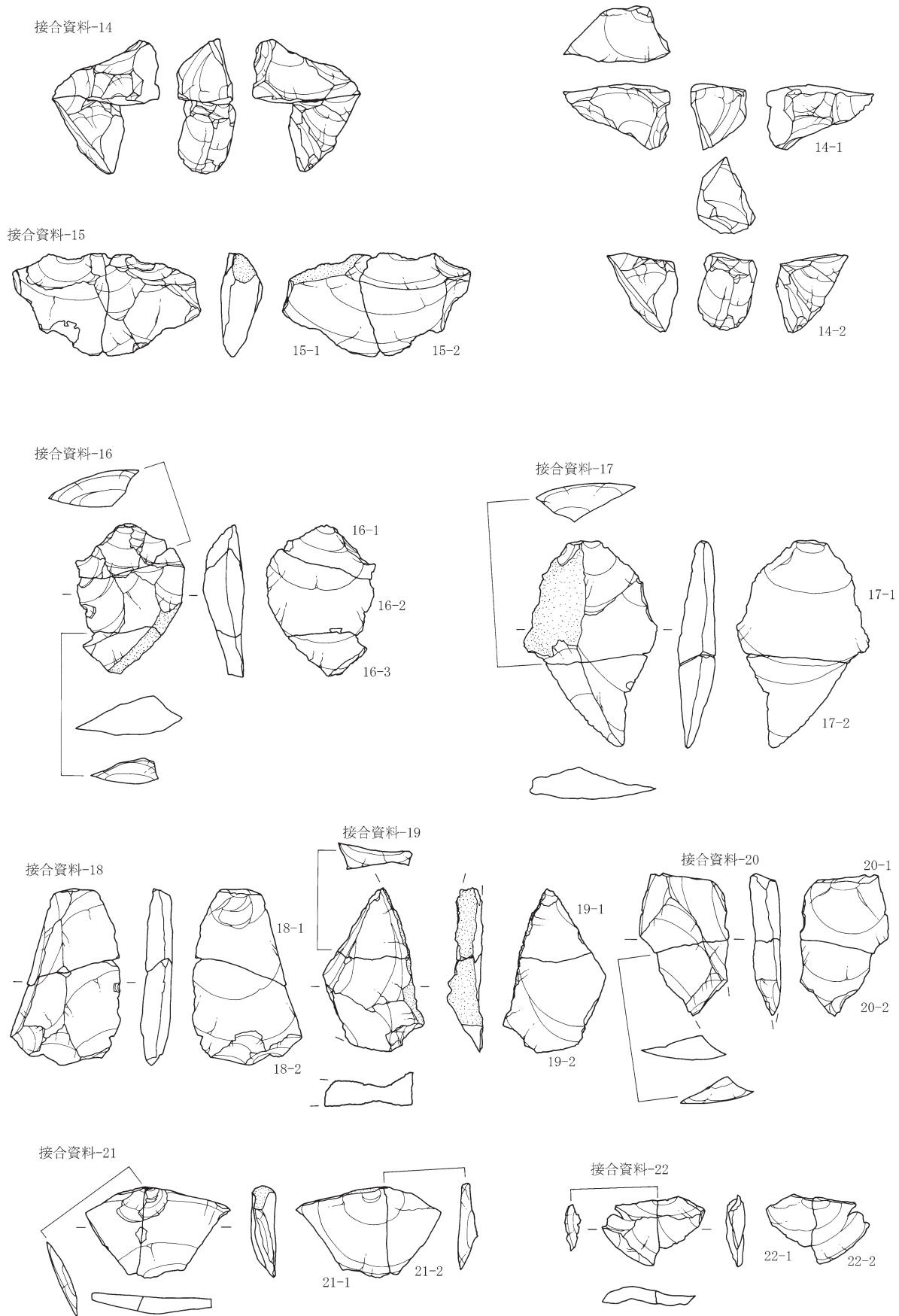
2片に折れた剥片の接合例。2点とも4ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩。

接合資料—18

ほぼ中央で二つに折れた縦長剥片が接合した。1は5ブロック、2は6ブロックと、隣接するブロック間に分布していた。石材は黒色安山岩。

接合資料—19

2片の剥片が折れ面で接合した。かなり大型の剥片で、上半から左側片を欠損している。2点とも5ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩。



第43図 第3文化層 (II・III区) 接合資料-14~22 (S = 1/2)

接合資料一20

ほぼ中央で2点に折れた剥片が接合したもの。先端部は欠損。ともに9ブロックでごく近接して分布していた。石材は黒色安山岩。

接合資料一21

2点に折れた横長の剥片が接合した。2点とも8ブロックに分布しており、石材は黒色安山岩である。

接合資料一22

2点に折れた剥片の接合例で、1は3ブロック、2は2ブロックから出土した。石材は黒色安山岩である。

接合資料一23

2点に折れた剥片が接合したもの。1は3ブロック、2は2ブロックからの出土で、石材は黒色安山岩である。

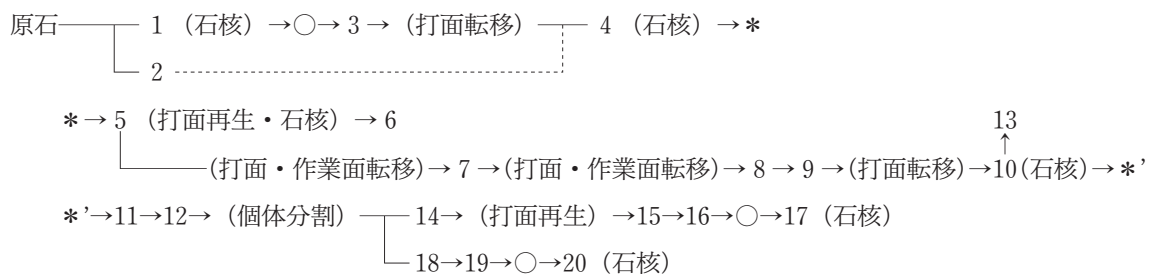
接合資料一24

2点の資料からなる。横長剥片をほぼ中央で二分割し、さらに上位を折り取っている。1は1ブロック、2は2ブロックからの出土であるが、1.5mほど離れているのみである。石材は黒色安山岩。

接合資料一25

1枚の剥片から細かく折り取られた2点の破片が接合。ともに1ブロック出土で、石材は黒色安山岩である。

接合資料一26

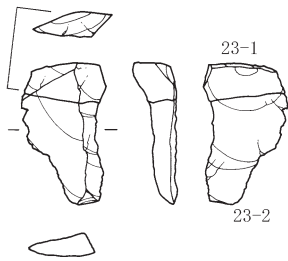


20点の石器が接合した。打面や作業面を頻繁に転移しながら大小の剥片を剥離し、大型の剥片については石核として利用している。

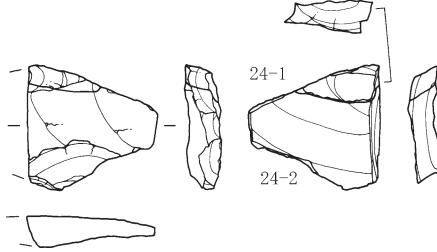
原石は棒状の亜円礫で、ほとんど未加工のまま搬入されたものと思われる。まず礫の上端で厚手の剥片を少なくとも2枚剥離して打面を作出している。この際に剥離された剥片は石核として利用され、端部で小型の剥片を剥離している(1)。下端でも1枚剥離されているが(2)、両者の前後関係は不明である。次いで上面に作出した打面から、縦長の剥片を1枚剥離する(3)。打面を90°転移して4を剥離した後、上面で打面再生を行う(5)。4・5ともに石核として利用されており、少数の小型の剥片が剥離されているが、遺跡内からは出土していない。5の剥離によって再生された打面からは、個体右側で小型の剥片を剥離している(6)。一方、左側面では打面や作業面を頻繁に転移しながら複数の剥片が剥離されている(7~12)。このうち、10は石核として利用され、小型の剥片が剥離されている(13)。その後個体を分割し、それぞれで剥片剥離を行っている。一方の個体では平坦面を打面として14を剥離後、打面を再生して複数の剥片を剥離している(15・16)。石核は廃棄される(17)。もう一方の個体では、直方体状の石核の、主に表面と下面において小型の剥片を剥離している(18・19)。石核は廃棄される(20)。

これらの資料は全て9ブロックに分布しており、原石の搬入から剥片剥離、廃棄に至るまで単独のブロック内で完結している。石材はチャートである。

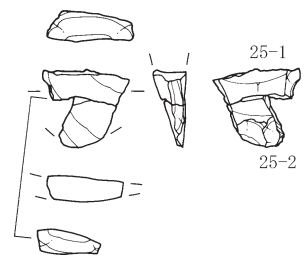
接合資料-23



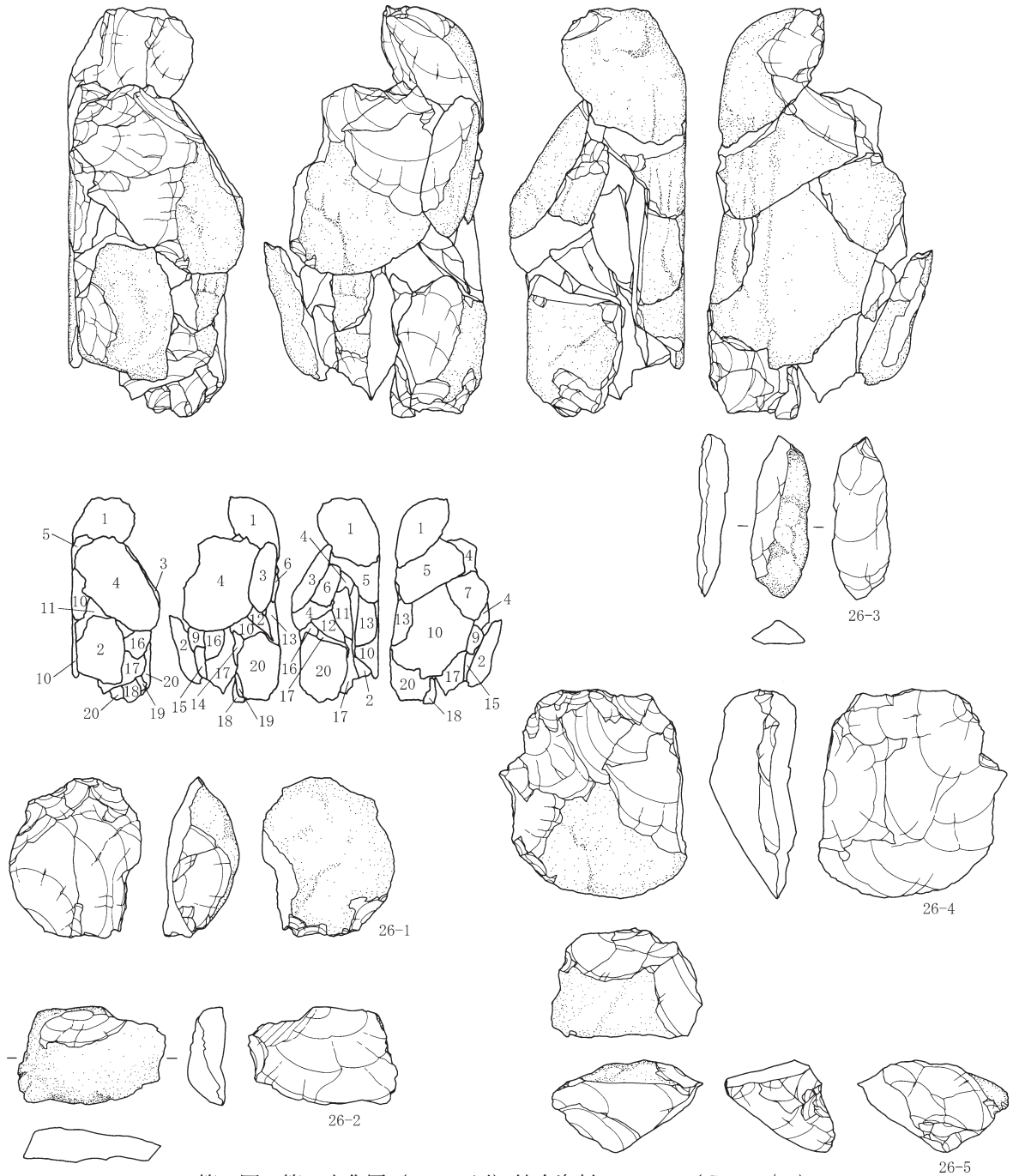
接合資料-24



接合資料-25

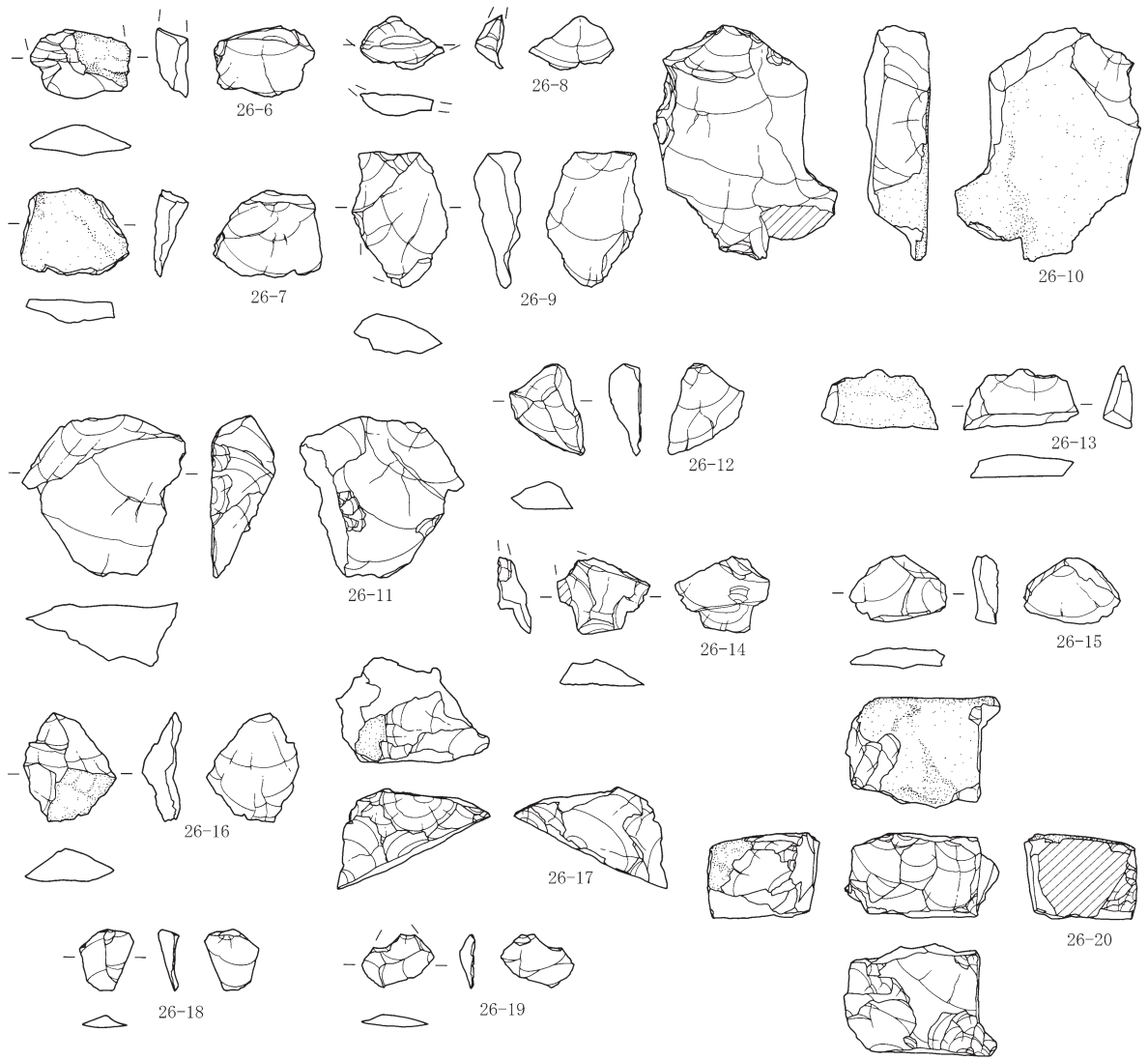


接合資料-26

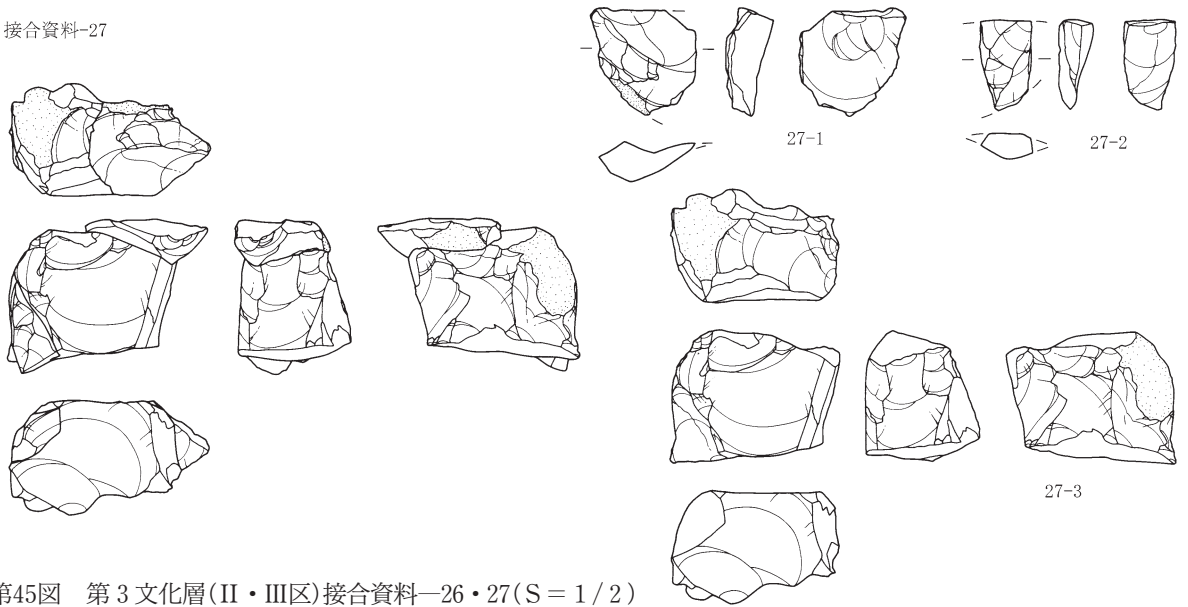


第44図 第3文化層 (II・III区) 接合資料-23~26 (S = 1/2)

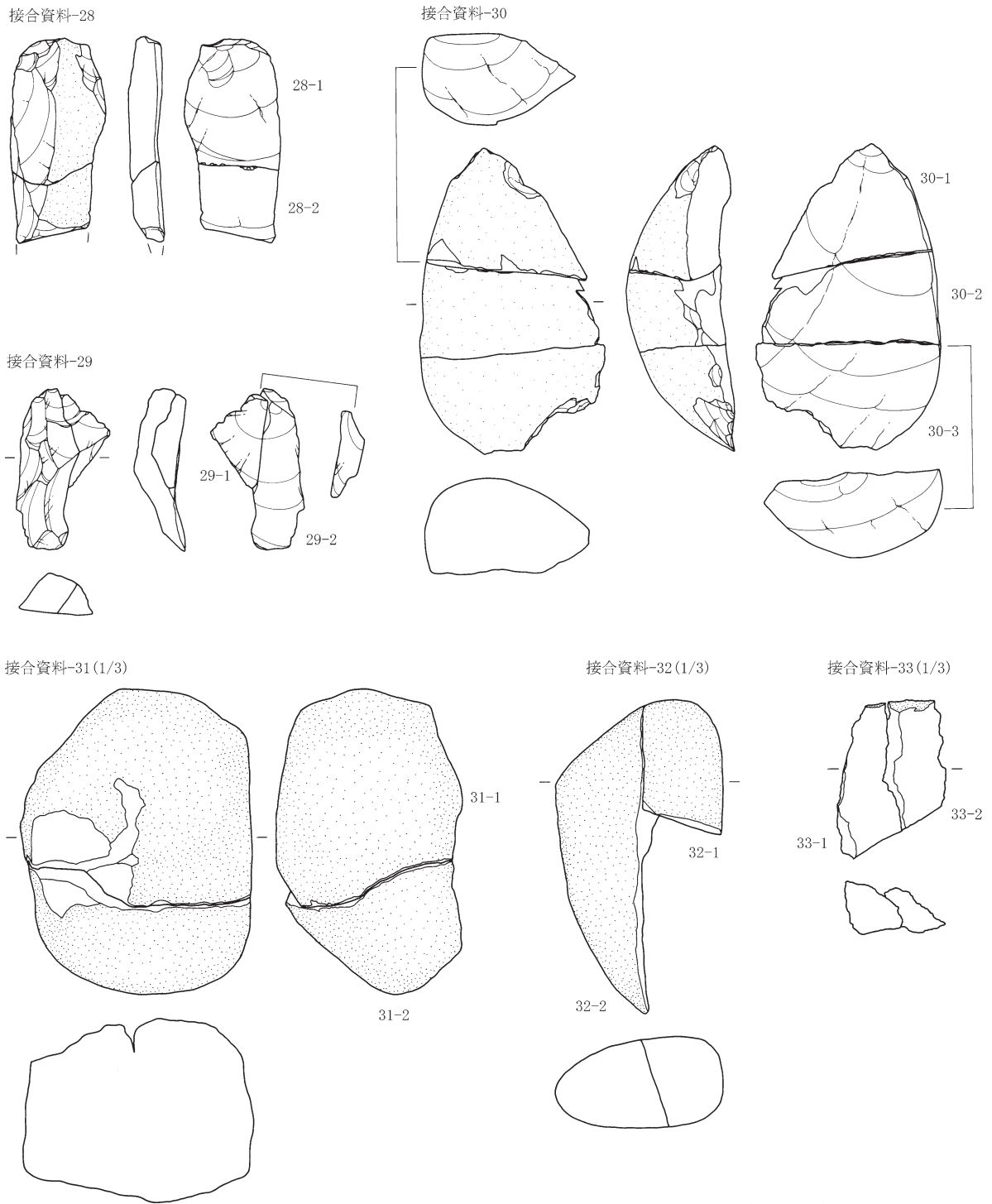
第2章 旧石器時代



接合資料-27



第45図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)接合資料—26・27(S = 1/2)



第46図 第3文化層 (II・III区) 接合資料—28~33 (S = 1/2・1/3)

接合資料—27

3点の石器が接合した。かなり剥離の進んだ直方体状の個体で、上面で打面再生を行った後(1)、再生した打面から複数の縦長剥片を連続して剥離している。この段階で剥離された剥片は、遺跡内からは出土していない。その後、下端に打面を作出し、この打面からの加撃によって小型の剥片を1枚剥離している(2)。残核は廃棄される(3)。2・3は9ブロック出土で、1も比較的近接した地点から出土している。石材は黒色頁岩である。

接合資料—28

石刃様の剥片が折れ面で接合した例である。石器分布域の北側、ブロック外の地点で近接して出土した。石材は黒色頁岩である。

接合資料—29

縦長の剥片が折れ面で接合した。打点付近から折れており、剥離時の同時割れの可能性が高い。ともに9ブロック出土。石材は黒色頁岩である。

接合資料—30

3点に折れた剥片が接合した例。1・3はごく近接していたが、2のみ7mほど離れた地点から出土した。石材はホルンフェルスである。

接合資料—31

2点の礫が接合。1は1ブロック、2は2ブロックからの出土で、約3.5m離れて出土した。被熱の痕跡は認められないが、表面に冬期の凍結によると見られる亀裂がある。石材は粗粒輝石安山岩。

接合資料—32

2点の礫が接合しているが、3分の1ほどは欠損している。2は5ブロックからの出土であるが、1は石器分布の西側から単独で出土した。両者の距離は13m程度である。石材は砂岩である。

接合資料—33

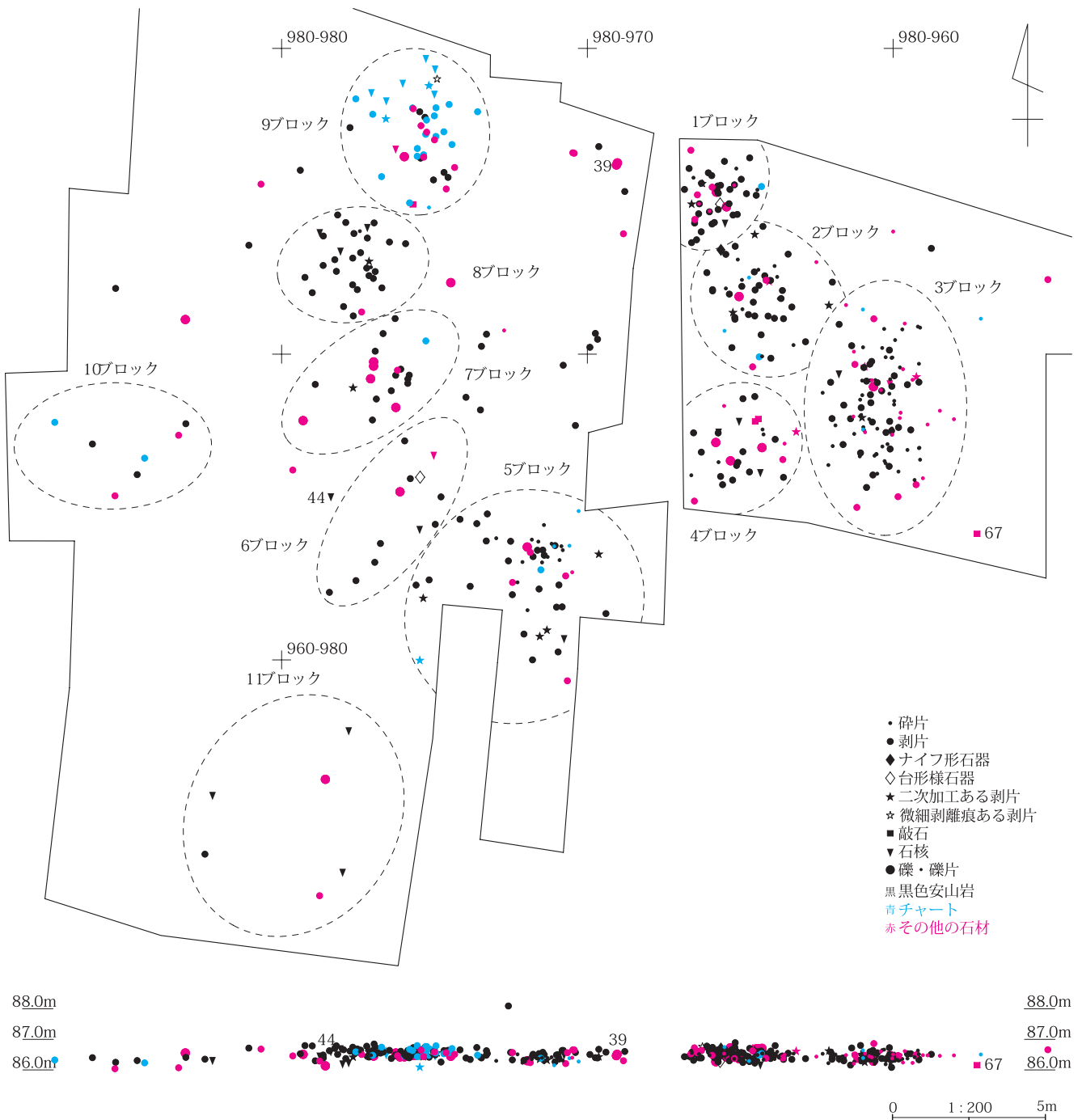
礫破片が2点接合した。ごく一部に自然面を残すが、ほぼ全面割れ面である。ともに7ブロックからの出土で、石材は溶結凝灰岩である。

3 石器の分布

30×30m程の範囲から石器が出土した(第47図)。ただし、本地点では石器分布の全てを検出していない。用地買収や工事工程の都合から、本線と側道を同時に調査できず、III区本線部分の調査を先行した。その際、旧石器時代遺物の確認のため試掘調査を行ったが、この時点では石器群の分布を確認できなかった。その後側道部分の試掘で分布を確認したが、すでに本線側は埋め戻され、調査事務所としてプレハブが建てられていた。また、II区とIII区の間には農道が走っていたため2回に分けての調査となったが、安全上の理由から、石器の分布が予想される範囲全てを掘削することはできなかった。従って、5ブロック南に半島状に突き出た部分、及びII・III区境に帯状に掘り残した部分については、石器分布が広がるものと予想される。また石器分布の状況から、3・4ブロック南側の本線部分にも分布が広がる可能性が高い。

このような状況ではあるが、現状で石器分布の様相を把握したい。取り上げた451点の石器は、11のブロックに分けられる。1～9ブロックは直径20mほどの環状にめぐり、いわゆる「環状ブロック群」として捉えられる。10・11はその外縁部に位置し、環状部分のブロックに比べて石器密度は低い。環状部分の中央は見かけ上10×8mほどの空白域となっており、少数の石器が散在している。仮に先述の掘り残し部分に石器が分布していたとしても、中央の空白域がやや狭くなる程度で、この傾向に大きな変更はない。

1ブロックは、4×3m程の範囲から48点の石器が出土した(第48図)。内訳は、台形様石器1点(3)、二次加工ある剥片1点(11)、微細剥離痕ある剥片1点(23)、石核2点(47・60)、剥片34点、チップ7点、礫2点である。接合資料—12・25はブロック内で完結するが、2ブロックとの間に3例の接合関係を有する(接合資料—16・24・31)。接合資料—12・31を除いてはいずれも折れた剥片の接合で、頻繁に剥片剥離を行っている状況は窺えない。3の台形様石器や、11や23など一部を欠損した石器が存在することから、それらを用い



第47図 第3文化層 (II・III区) 器種・石材別石器分布

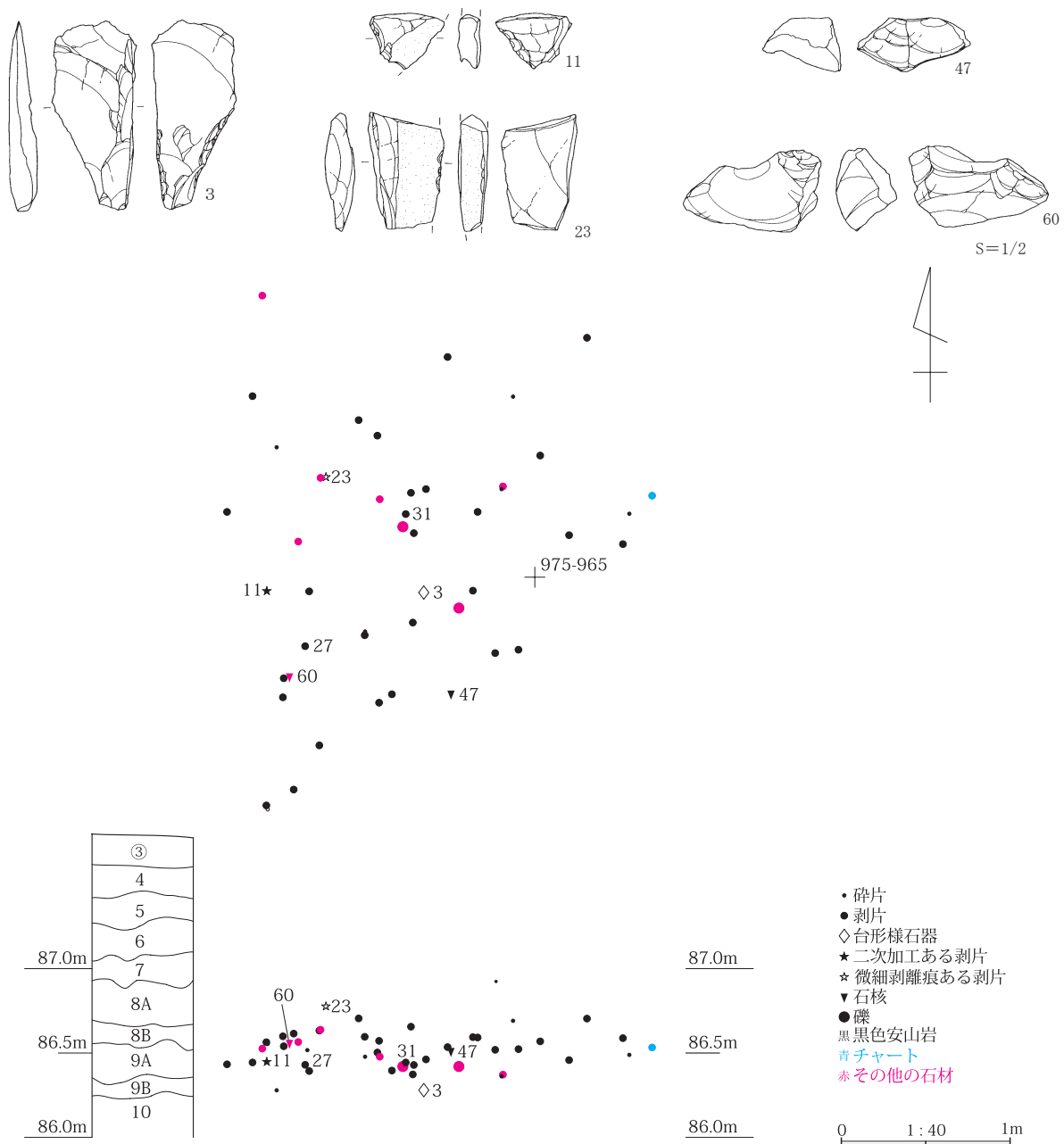
での何らかの作業を行った可能性が考えられる。

2ブロックは、5×4 m程の範囲に52点の石器が分布していた (第49図)。内訳はナイフ形石器1点(1)、二次加工ある剥片4点(4・6・17・20)、剥片33点、チップ13点、礫1点である。隣接する1・3ブロックと、5・7ブロックとの間に接合関係を持つ。5ブロックと接合関係を持つ接合資料一1は、全8点中5点が2ブロックに分布し、主として本ブロック内で剥片剥離が行われていた。他は5ブロックに1点(1-1)、

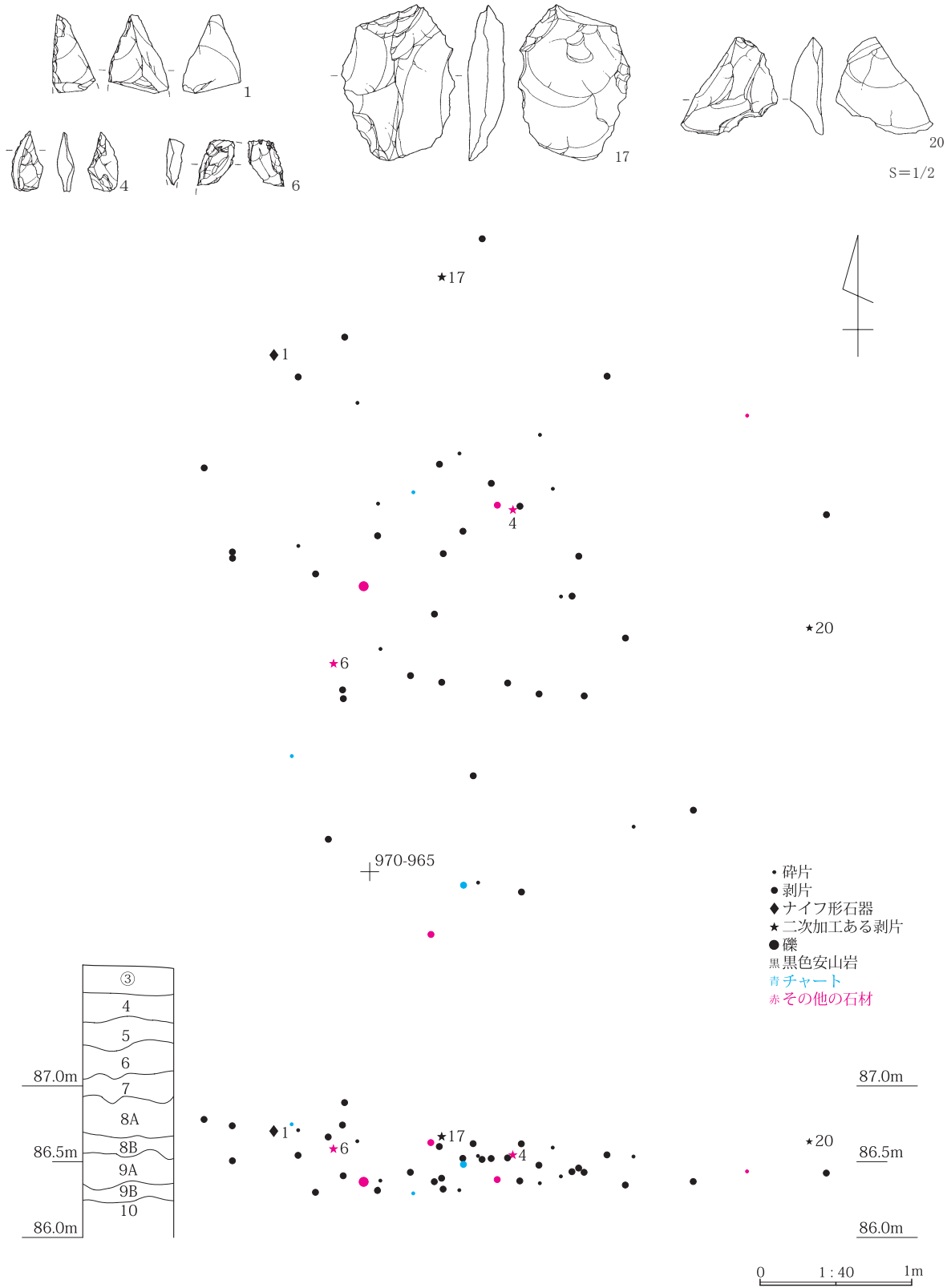
第2章 旧石器時代

中央部に2点(1-2・3)あるが、いずれも剥片剥離工程の初期の段階で剥離されたものであり、剥離された剥片がブロック外に持ち出された場合と、一部剥片剥離を行った個体が搬入された場合の二つの可能性が考えられる。7ブロックと接合関係を持つ接合資料-4では、最初に剥離された剥片が2ブロックにあり、残り2点が7ブロックに分布する。7ブロックの様相を見る限りでは、頻繁に剥片剥離を行っていた痕跡は認められず、本ブロックで剥離されたものが持ち込まれたとするのが妥当であろう。1・3ブロックとの間の接合例は、接合資料-13を除くと全て剥片が折れ面で接合したものである。接合資料-13は剥片と二次加工ある剥片の接合で、二次加工ある剥片(13-2)が3ブロックから出土している。以上から、2ブロックでは接合資料-1を中心として、剥片剥離が行われていたものと考えられる。ただし、ナイフ形石器(1)や二次加工ある剥片(4・6・17・20)なども含まれることから、ツールの製作もブロック内で行われていたと推測される。

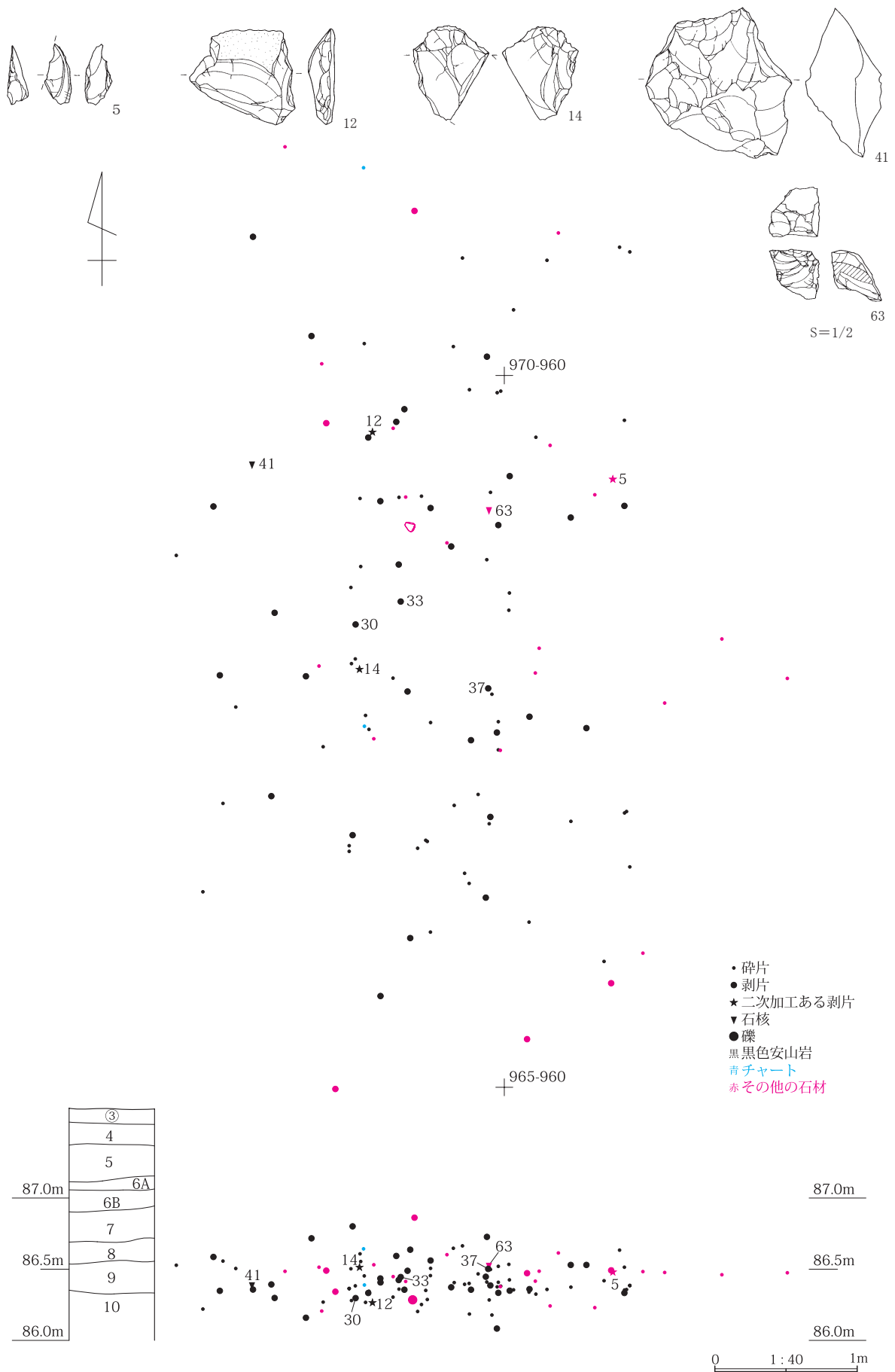
3ブロックは規模・石器点数ともに最も大きく、7×5m程の範囲から114点の石器が出土した(第50図)。



第48図 第3文化層(II・III区)1ブロック石器分布

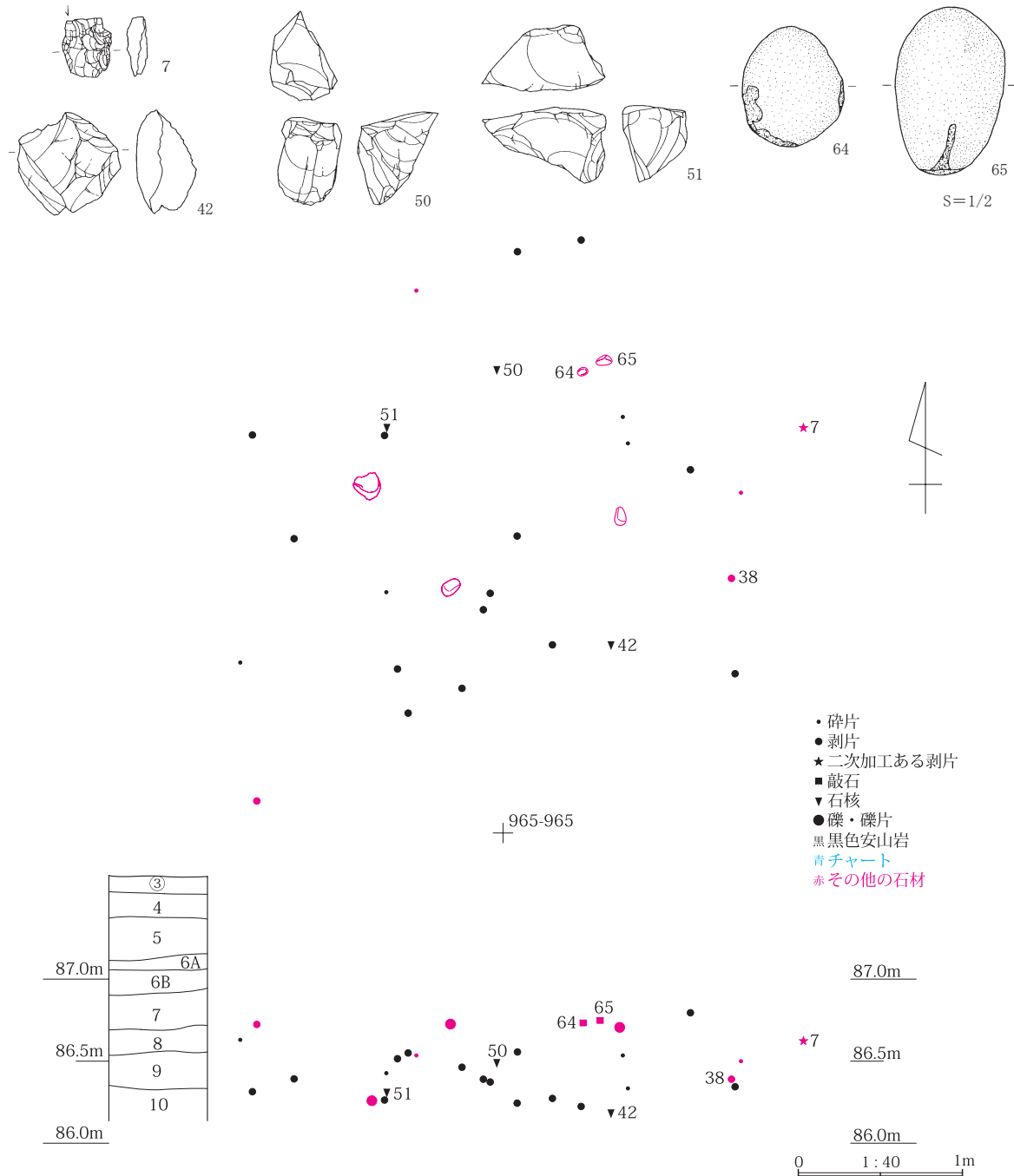


第49図 第3文化層 (II・III区) 2ブロック石器分布



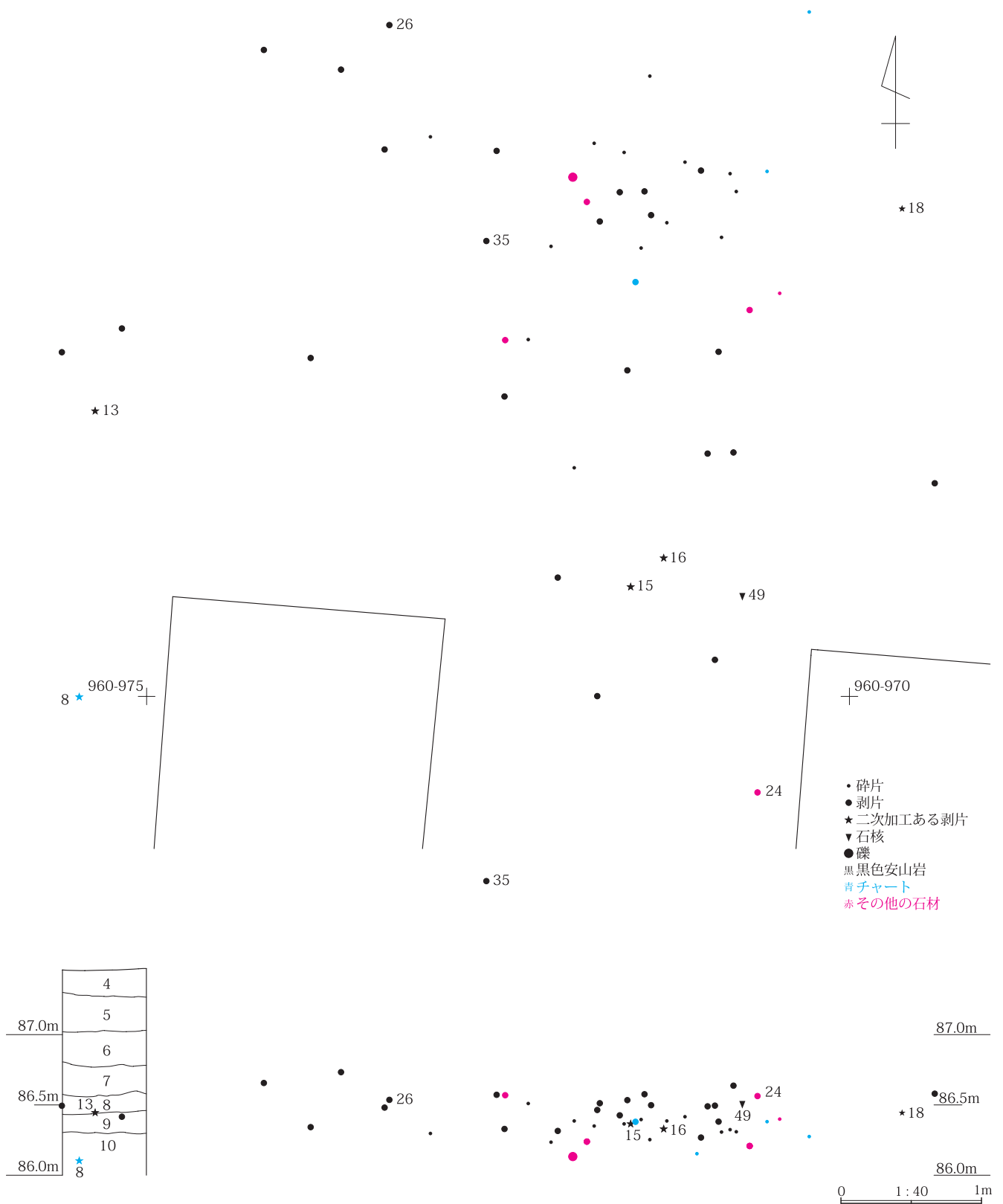
第50図 第3文化層(II・III区)3ブロック石器分布

第4節 第3文化層 II・III区



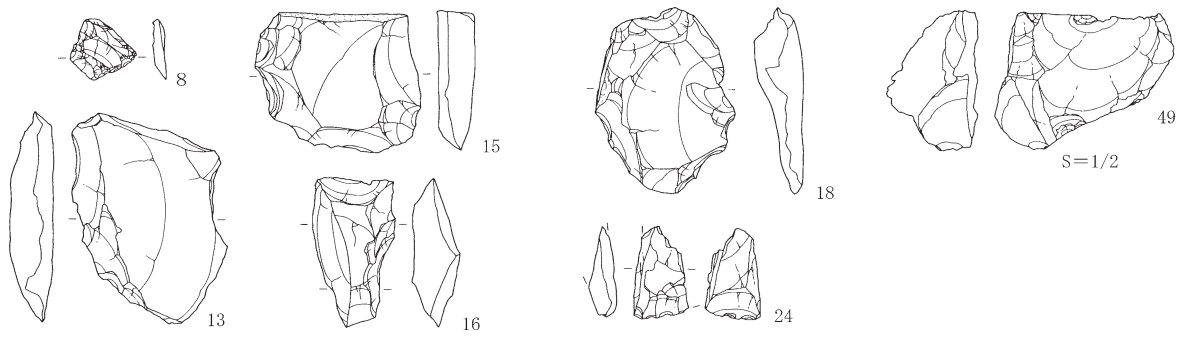
第51図 第3文化層 (II・III区) 4ブロック石器分布

内訳は二次加工ある剥片3点(5・12・14)、石核2点(41・63)、剥片37点、チップ71点、礫1点である。他のブロックと比較して、チップの比率が格段に高い。接合資料は、9・11がブロック内で完結するほか、2ブロックとの間に3例の接合例を有する(接合資料-13、22、23)。接合資料-9・11は、いずれも少数の小型剥片を剥離している。2ブロックとの間の接合例は、先述の接合資料-13を除くと折れた剥片が接合したものである。このような接合資料の様相とチップの出現率の高さから、小規模な剥片剥離とともにツールの製作が行われていた可能性が高い。2ブロックとの関連が強く、2ブロックから素材剥片が搬入された状況も窺える。また、ここでは黒曜石製の二次加工ある剥片(5)と石核(63)が出土しているが、この他にも黒曜石製のチップが13点出土した。本石器群で検出された黒曜石製の石器は全部で24点であるが、そのうち6



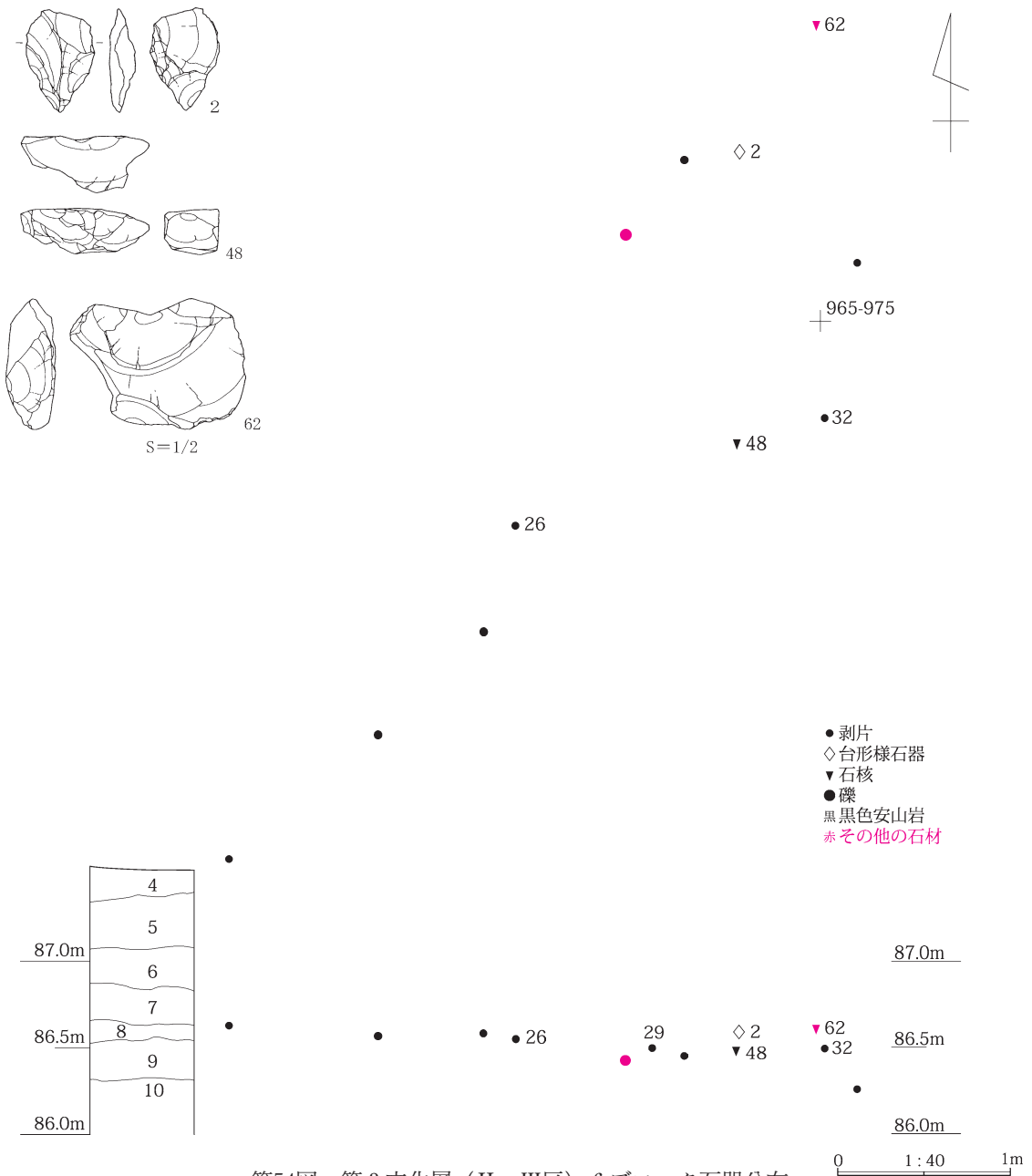
第52図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)5ブロック石器分布

第4節 第3文化層 II・III区



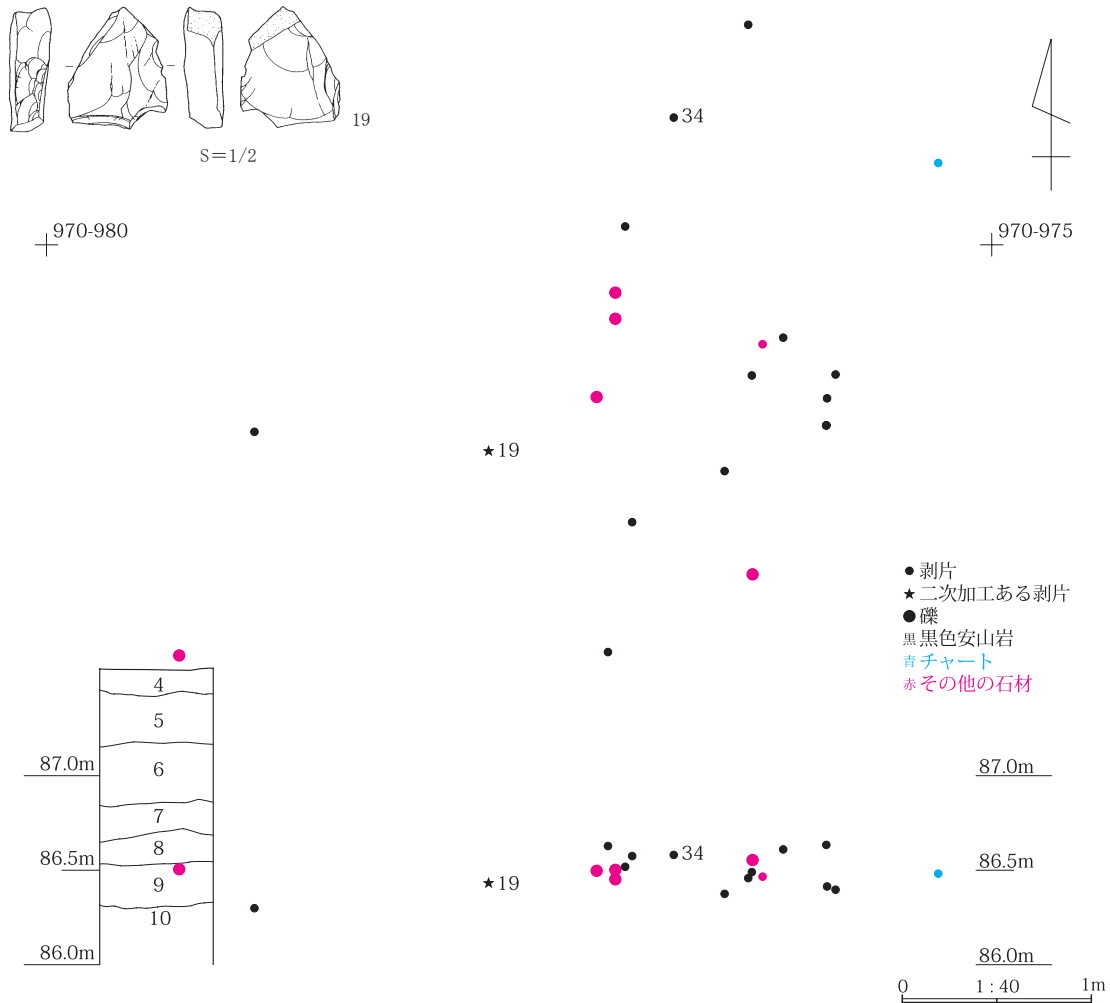
第53図 第3文化層 (II・III区) 5ブロック出土石器

●29



第54図 第3文化層 (II・III区) 6ブロック石器分布

第2章 旧石器時代



第55図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)7ブロック石器分布

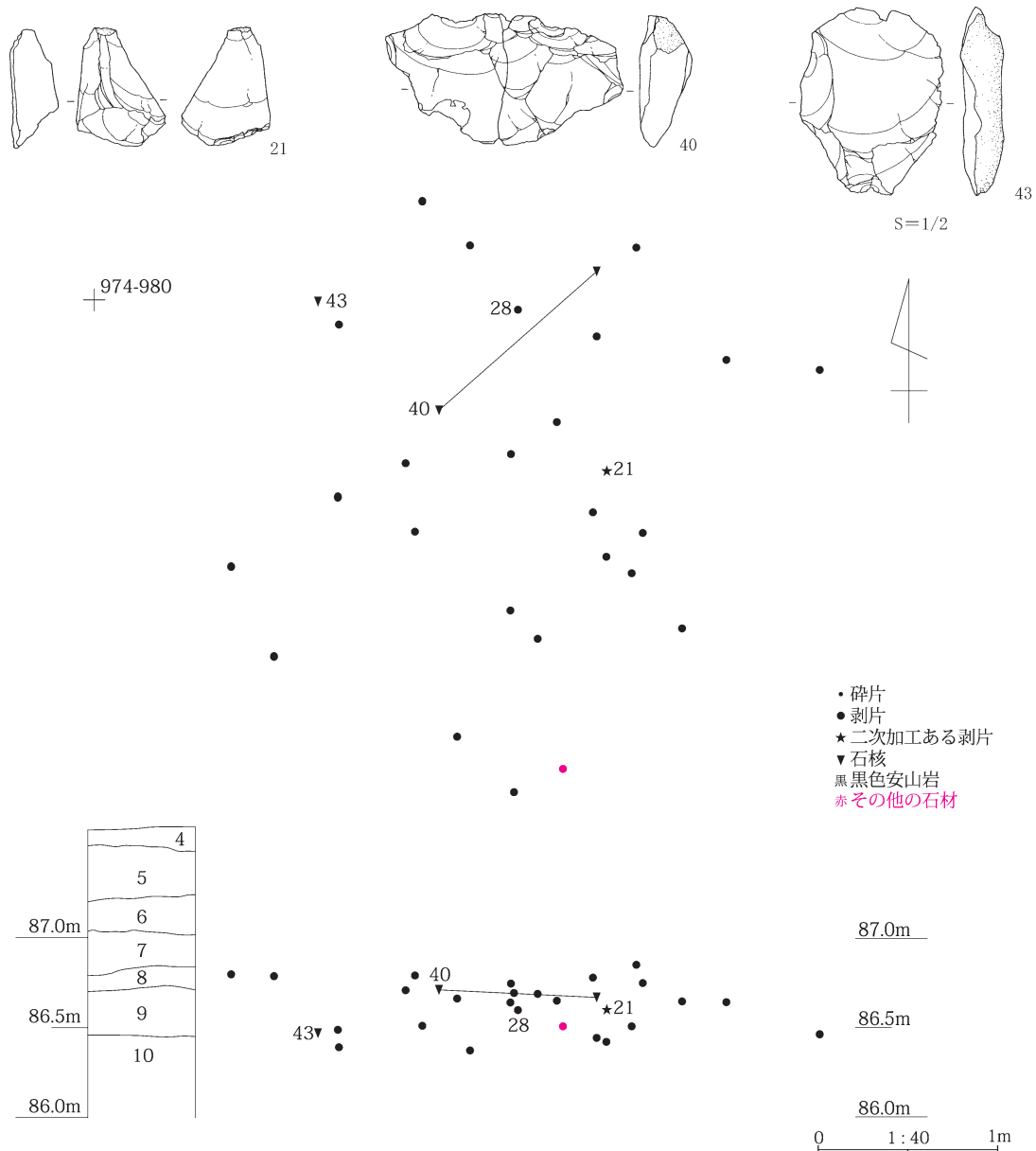
割以上にあたる15点が3ブロックに集中している。

4ブロックは4×3m程の範囲から32点が出土(第51図)。内訳は二次加工ある剥片1点(7)、石核3点(42・50・51)、チップ7点、剥片16点、敲石2点(64・65)、礫3点である。ブロック内で完結する3例の接合資料があるが(接合資料—8・14・17)、他のブロックとの間に接合関係は持たない。接合資料のうち、8と14は非常に小型の石核を含み、剥片剥離工程の最終段階に位置付けられる資料である。敲石も2点出土しており(64・65)、小規模な剥片剥離が行われたものと考えられる。

5ブロックは直径6m程の範囲から52点の石器が出土している(第52・53図)。内訳は二次加工ある剥片5点(8・13・15・16・18)、石核1点(49)、剥片28点、チップ17点、礫1点である。2ブロックと6ブロック間に各1例接合関係を持つ。器種組成や接合資料からは、ブロック内で頻繁に剥片剥離が行われた痕跡は窺えない。むしろ、他のブロックに比べ加工痕を有する石器が多いことから、素材剥片に調整を加える工程が主体となっていたものと思われる。本ブロックでは、刃部磨製の斧形石器の調整剥片が1点出土しており(24)、斧形石器の製作もしくは再調整が行われていたと推測される。

6ブロックは6×3m程の楕円形状の範囲から12点出土した(第54図)。内訳は台形様石器1点(2)、石核2点(48・62)、剥片8点、礫破片1点である。少数のブロックながら比較的接合資料が多く、5ブロックとの間に1例(接合資料—18)、11ブロックとの間に2例(接合資料—2・5)の接合関係を有する。

7ブロックは6×3m程の範囲から、20点の石器が出土している(第55図)。内訳は二次加工ある剥片1点



第56図 第3文化層 (II・III区) 8ブロック石器分布

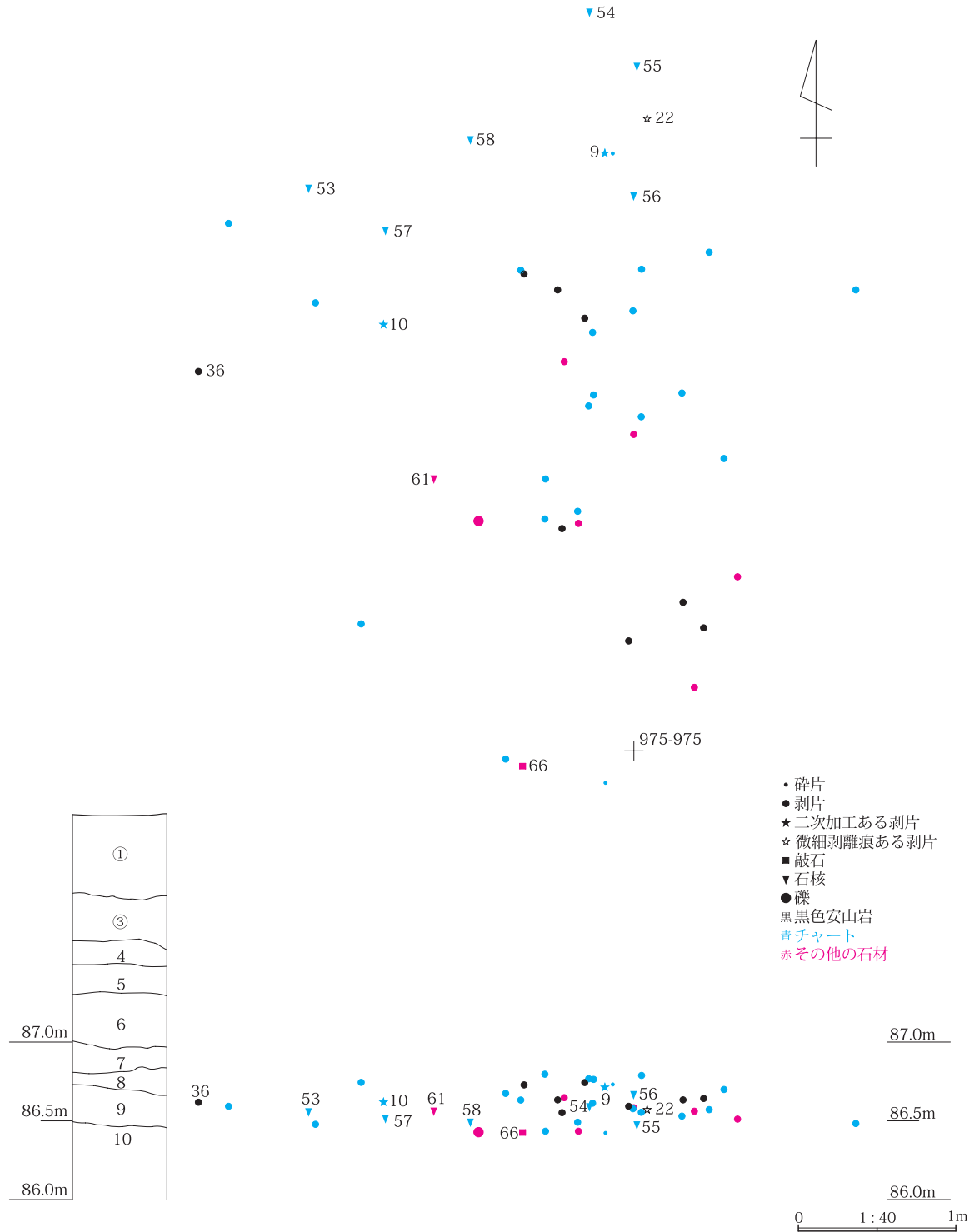
(19)、剥片14点、礫破片5点である。2ブロックとの間に接合例を有する(接合資料—4)。また、溶結凝灰岩の礫破片全8点のうち6点が本ブロックに集中し、うち2点が接合する(接合資料—33)。

8ブロックは直径4m程の範囲から31点の石器が出土した(第56図)。内訳は二次加工ある剥片1点(21)、石核3点(接合後2点、40・43)、剥片25点、チップ2点である。他のブロックとの間で接合例はないが、中央部のブロック外に位置する剥片と接合する(接合資料—3)。この接合資料—3は本ブロック内で剥片剥離が行われたもので、剥片1点が搬出されている。この他に、接合資料—6・7・15・21がブロック内とその周辺部で完結する。接合資料—6・7は剥片剥離に関する資料で、先の接合資料—3とあわせて、ブロック内で主として剥片を剥離する工程が行われていたことがわかる。

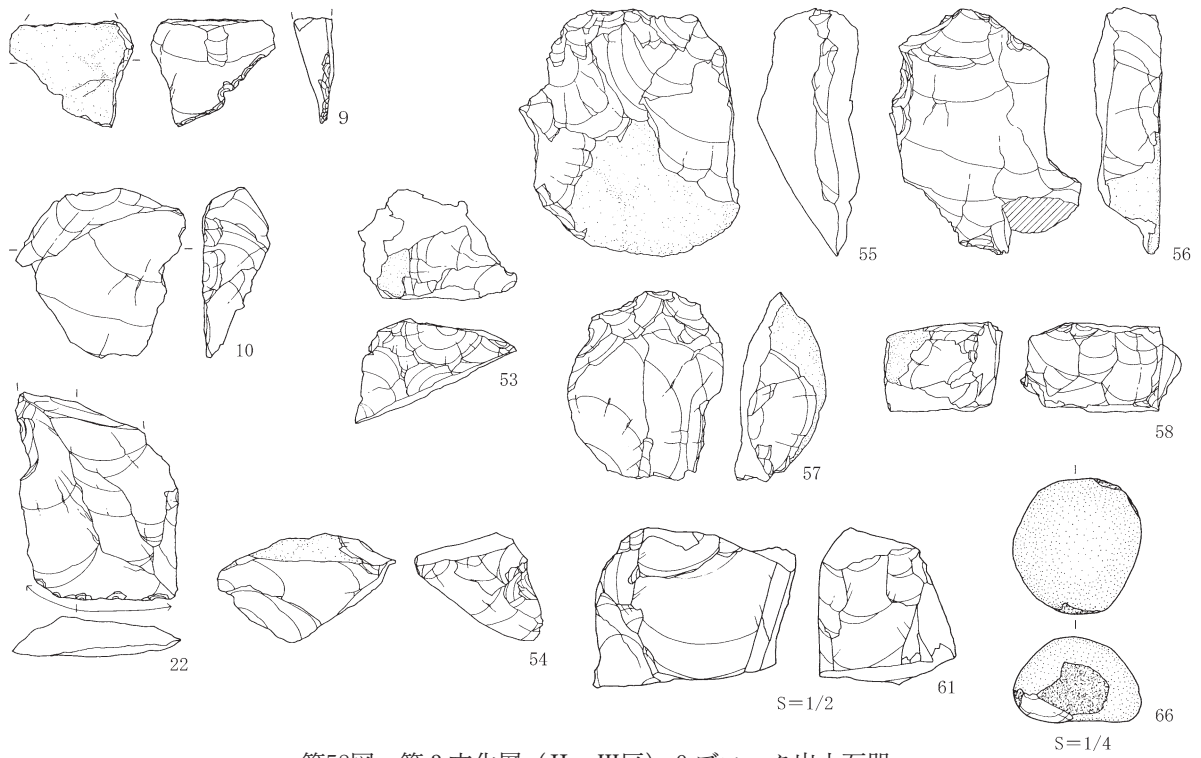
9ブロックは直径5m程で、44点の石器が出土した(第57・58図)。内訳は二次加工ある剥片2点(9・10)、微細剥離痕ある剥片1点(22)、石核7点(53~58・61)、剥片30点、チップ2点、敲石1点(66)、礫破片1点である。本ブロックには接合資料—26が全て含まれ(第65図)、集中的に剥片が剥離され、一部は二次加工も

第2章 旧石器時代

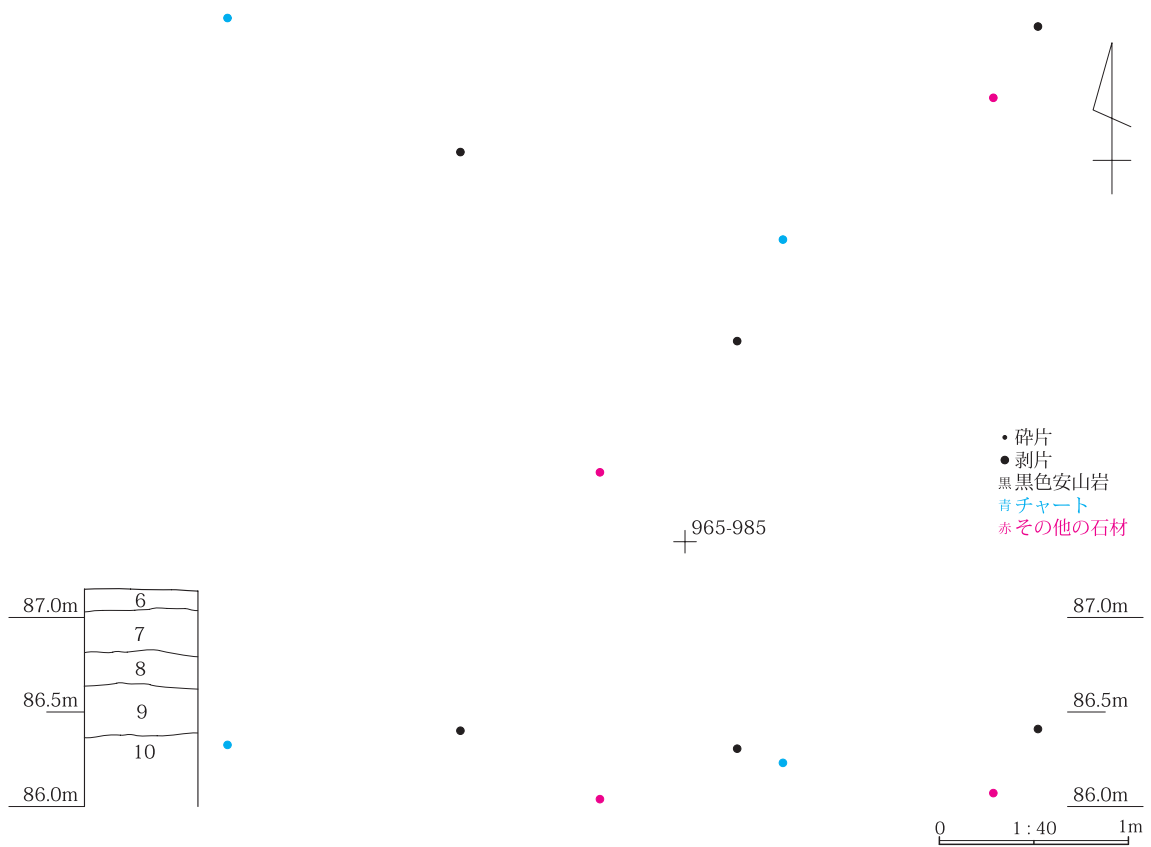
施される(10)。その他にも接合資料-10・20・27・29などが分布するが、接合資料-10・27がブロック外の資料と接合する以外は、他のブロックとの間に接合関係はない。ブロック内では上記の接合資料-26の他に、接合資料-27においても剥片剥離が行われている。接合資料-26はチャート、27は黒色頁岩製で、これらの存在によって石材組成が他のブロックと大きく異なっている。他のブロックと接合関係を持たないことや石材組成の特殊性から、現状では特異な存在に見える。ただし、本ブロック北側の調査区外に別のブロックが



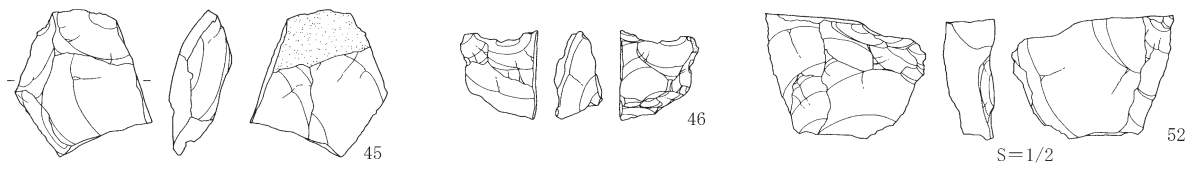
第57図 第3文化層(II・III区)9ブロック石器分布



第58図 第3文化層 (II・III区) 9ブロック出土石器



第59図 第3文化層 (II・III区) 10ブロック石器分布



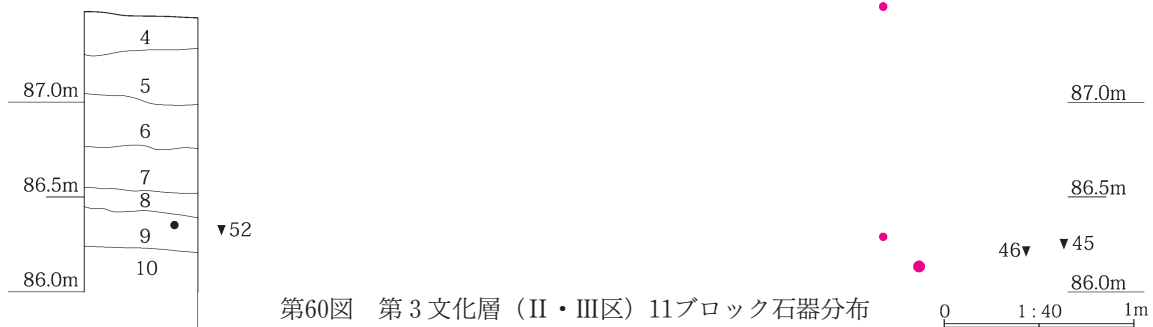
- 剥片
- ▼ 石核
- 礫
- 黒 黒色安山岩
- 赤 その他の石材



▼52

955-980

▼46

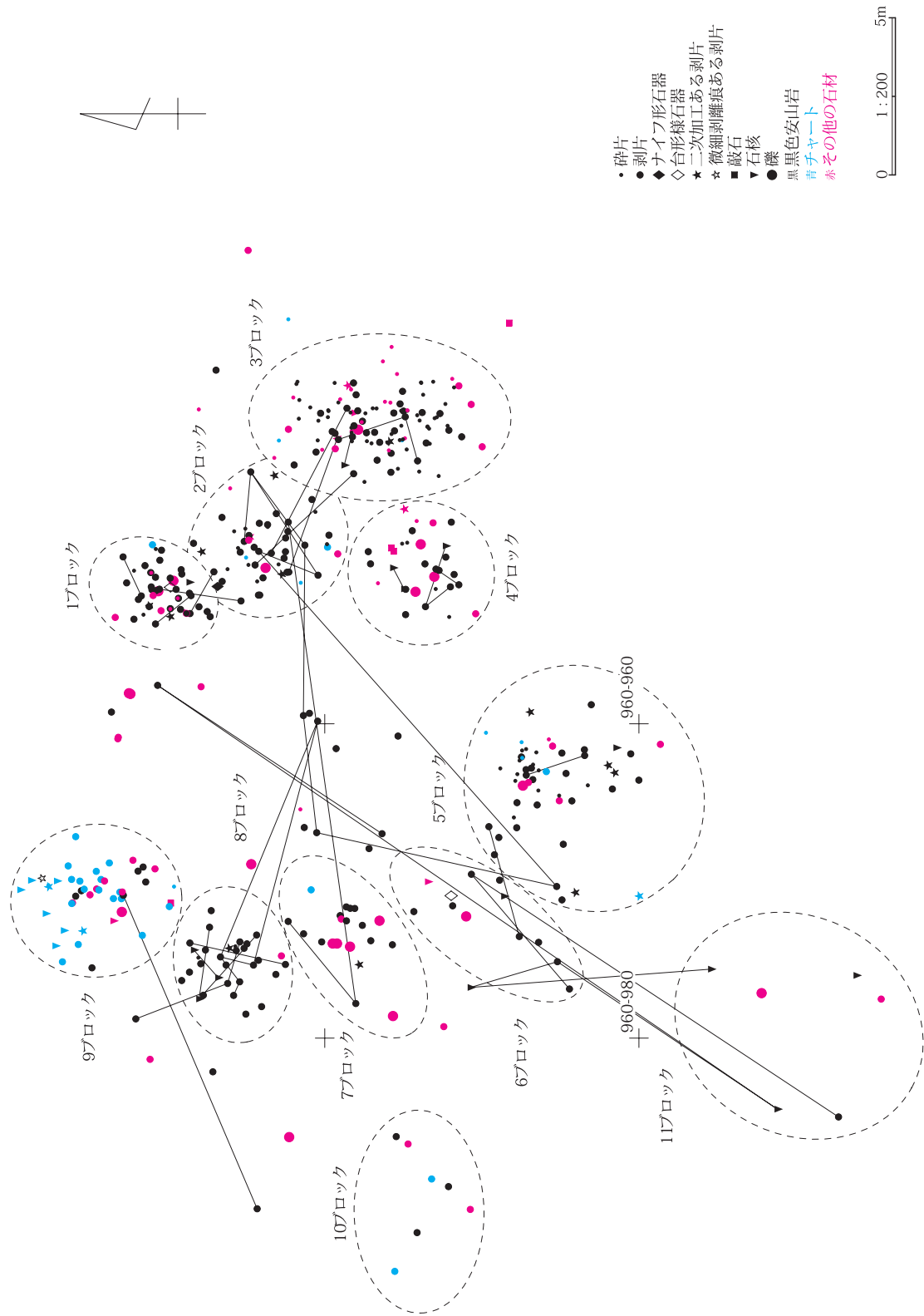


第60図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区)11ブロック石器分布

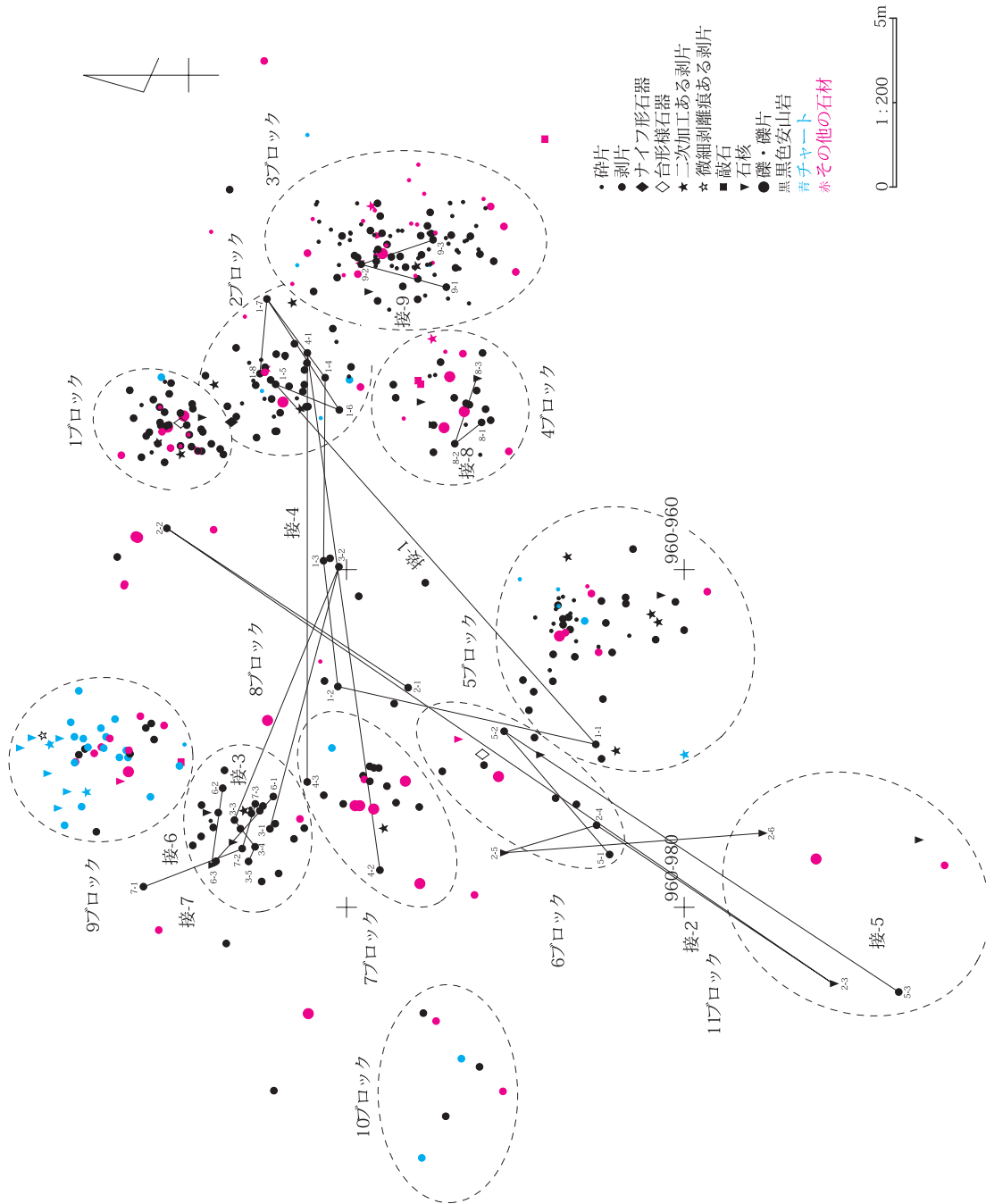
存在する可能性があること、石器分布範囲内に一部未掘の部分があることなど不明確な要素がある。

10ブロックは5×3m程の範囲から、7点の石器が出土した(第59図)。全て剥片で、接合するものは皆無であった。

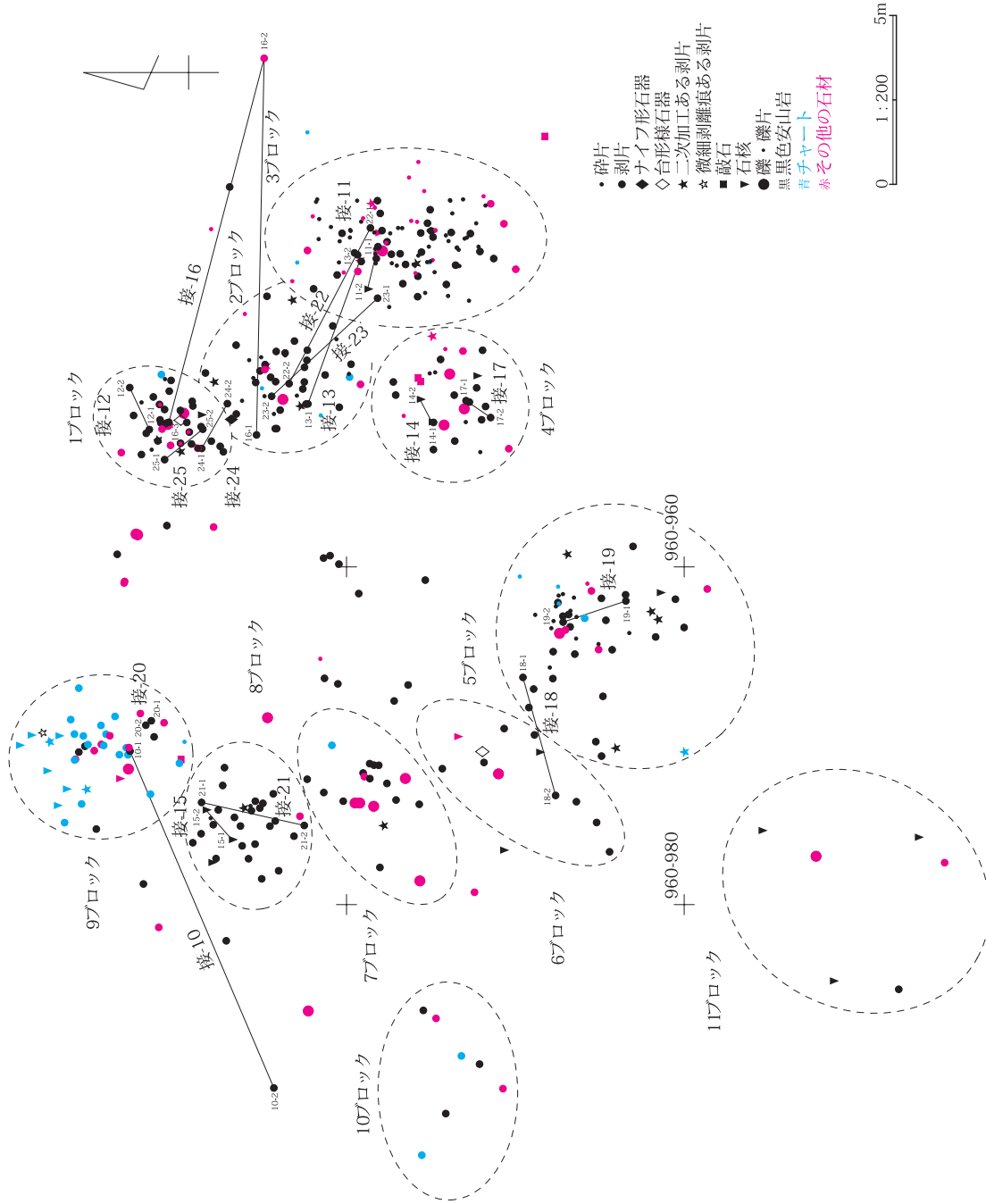
11ブロックは直径6m程の範囲に6点の石器が散漫に分布している(第60図)。内訳は石核3点(45・46・52)、剥片2点、礫破片1点で、点数の割に石核の比率が高い。6ブロックとの間に2例の接合関係を有する



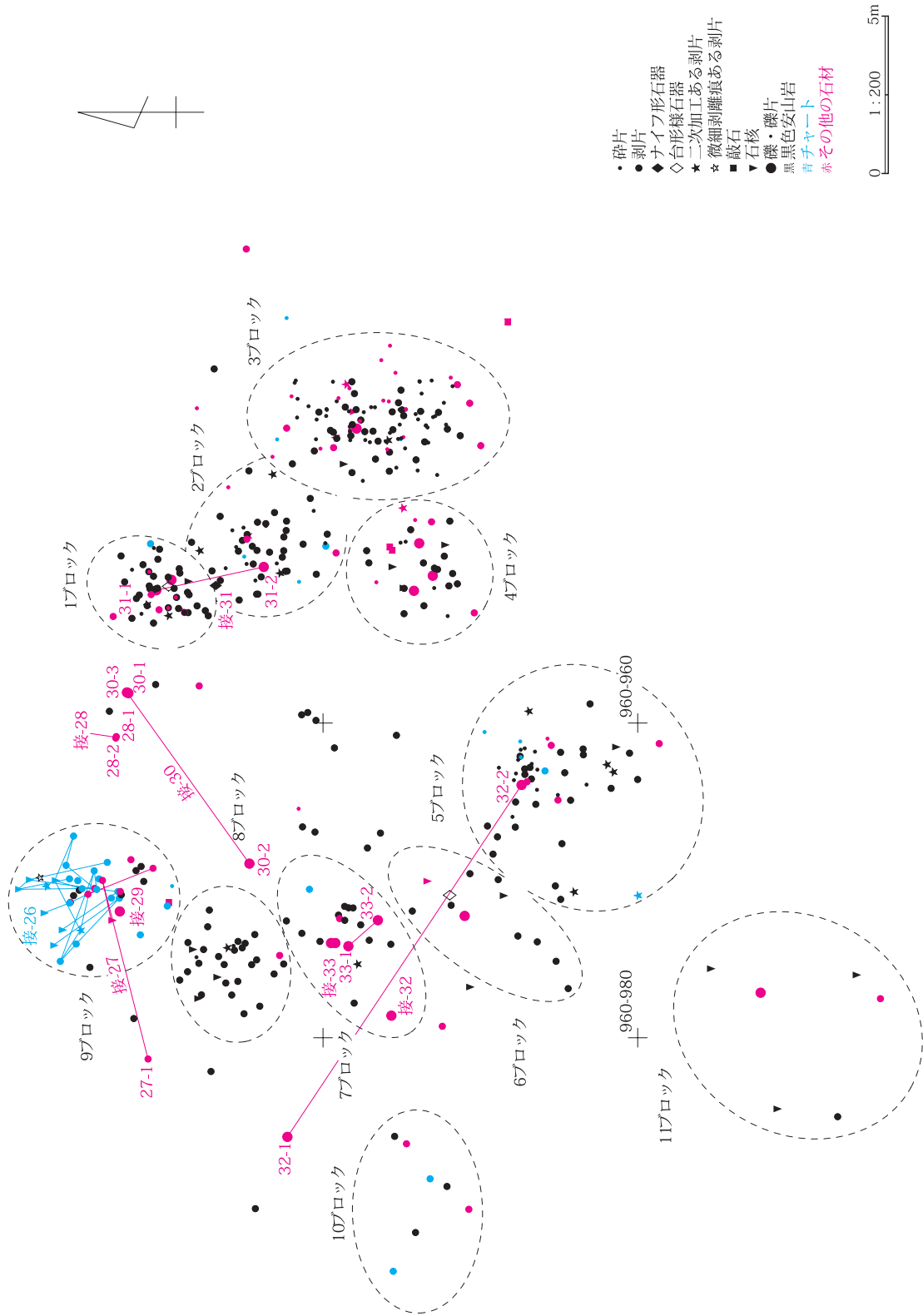
第61図 第3文化層 (II・III区) 黑色安山岩接合状況



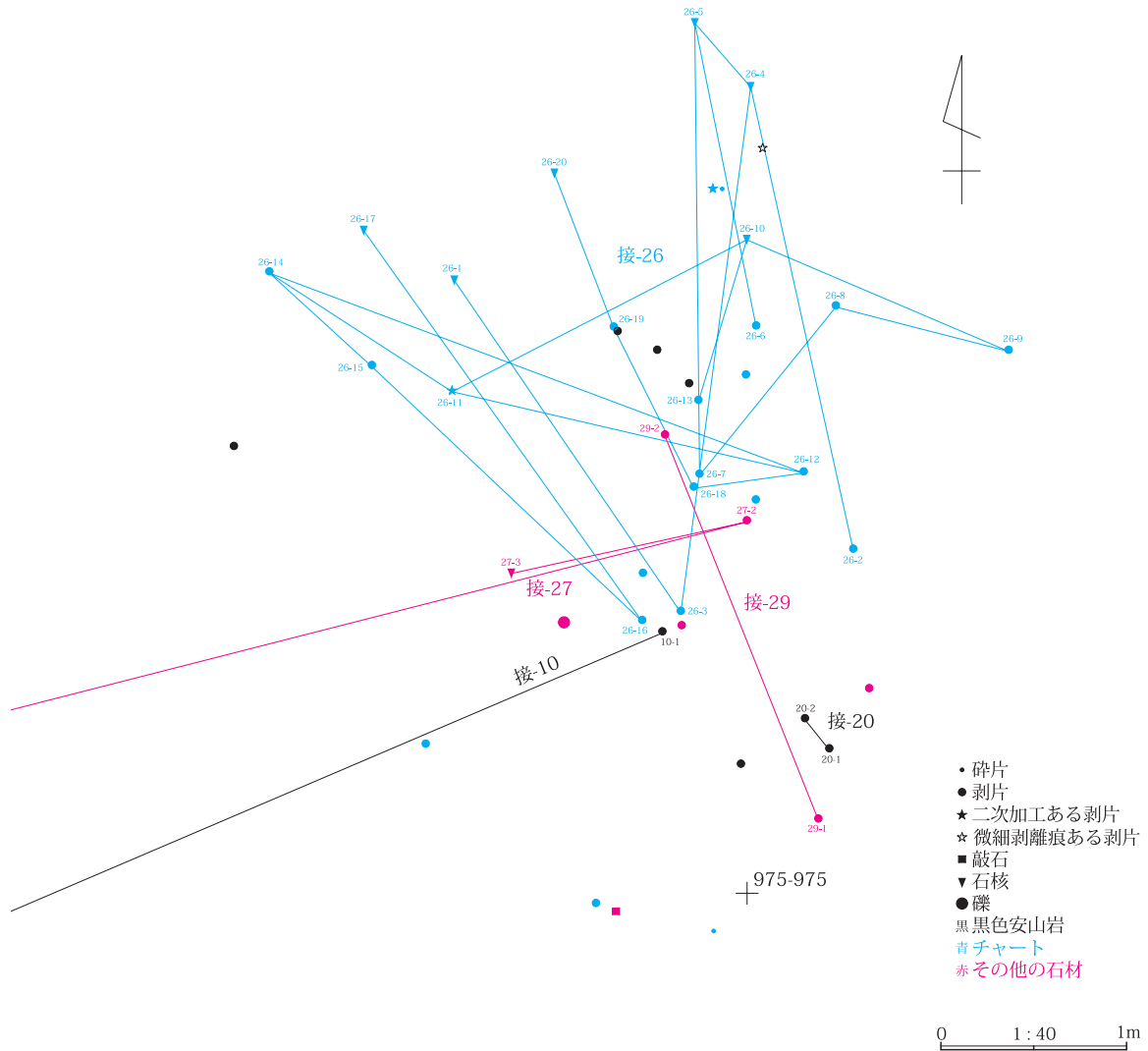
第62図 第3文化層(Ⅱ・Ⅲ区) 黒色安山岩接合状況(接合資料-1~9)



第63図 第3文化層 (II・III区) 黒色安山岩接合状況 (接合資料—10~25)



第64図 第3文化層（Ⅱ・Ⅲ区）チャート・その他の石材接合状況



第65図 第3文化層 (II・III区) 9ブロック接合状況

(接合資料一2・5)。

次に、接合資料の分布から、ブロック間の関連性を考えてみたい(第61～65図)。全33例の接合資料のうち、ブロック間での接合は11例、ブロック内で完結しているのが15例、その他ブロック外の資料と接合するものが7例ある。東側の1～3ブロックは、中央の2ブロックを介してそれぞれ接合関係を持ち結びつきが強い。一方、2ブロックは空白域を挟んで相対する5・7ブロックとも接合関係を有する。6・11ブロック間にも接合資料が存在するが、このうち接合資料一2には1ブロックに隣接して分布する資料が含まれる(2-2)。この2-2と1ブロックの間には未掘部があり、本来1ブロックに含まれていた可能性も考えられよう。このように、接合資料の分布からは、北東部の1～3ブロックと、南西部の5～7・11ブロックとの関連が窺える。これに対して、4・8・9ブロックは、他のブロックとの間に接合関係を持たない。北東部のブロック群と南西部のブロック群の間に挟まれながら、孤立した状況を呈している。

以上のように、現状では、接合資料を介して関連を有する北東部と南西部のブロック群と、その間に位置しながら孤立しているブロックとに分けられる。それぞれのブロックを残した集団との関わりを考えると、興味深い現象である。ただし、先述した様に予想される石器分布の範囲を完掘しておらず、回収できなかった石器が少なからずあることが、見かけ上このような状況をもたらしている可能性は否定できない。

第5節 第3文化層 IV区

1 出土した石器 (第67～78図)

直径15mほどの大きなブロック (1ブロック) とその南側の散漫な石器分布 (2ブロック)、及び周辺に散在する少数の石器からなり、総数で317点が出土している (第66図)。出土層位は基本土層の7～10層であるが、ほとんどの石器が9層の暗色帯中からの出土である。

器種の内訳はナイフ形石器1点、彫刻刀形石器1点、斧形石器2点、スクレイパー1点、二次加工ある剥片9点 (接合後7点)、石核24点、剥片199点、チップ55点、敲石4点、礫21点である。定型的なツールの比率はごく少ない。石材は、8割近い252点 (2439.5g) が黒色安山岩で、以下ホルンフェルス16点 (8869.9g)、チャート11点 (27.5g)、粗粒輝石安山岩10点 (13579.4g)、黒曜石5点 (5.5g)、黒色頁岩6点 (282.1g)、溶結凝灰岩5点 (13239.2g)、珪質頁岩4点 (9.1g)、変玄武岩3点 (26.6g)、石英斑岩2点 (1339.0g)、赤碧玉1点 (2.9g)、点紋頁岩1点 (230.3g)、細粒安山岩1点 (3.0g) である。点数に比較して重量の大きい粗粒輝石安山岩や溶結凝灰岩、石英斑岩などは、ほとんどが敲石や礫である。

1のナイフ形石器は、黒色安山岩の剥片を素材とし、左側辺の中央部に平坦な剥離を加えている。素材剥片は、背面に走る稜線に影響されて、打点から見て左側に大きく張り出した横長の形状を呈する。調整の頻度は低く、素材の形状をそのまま残している。1ブロックの西端から出土。

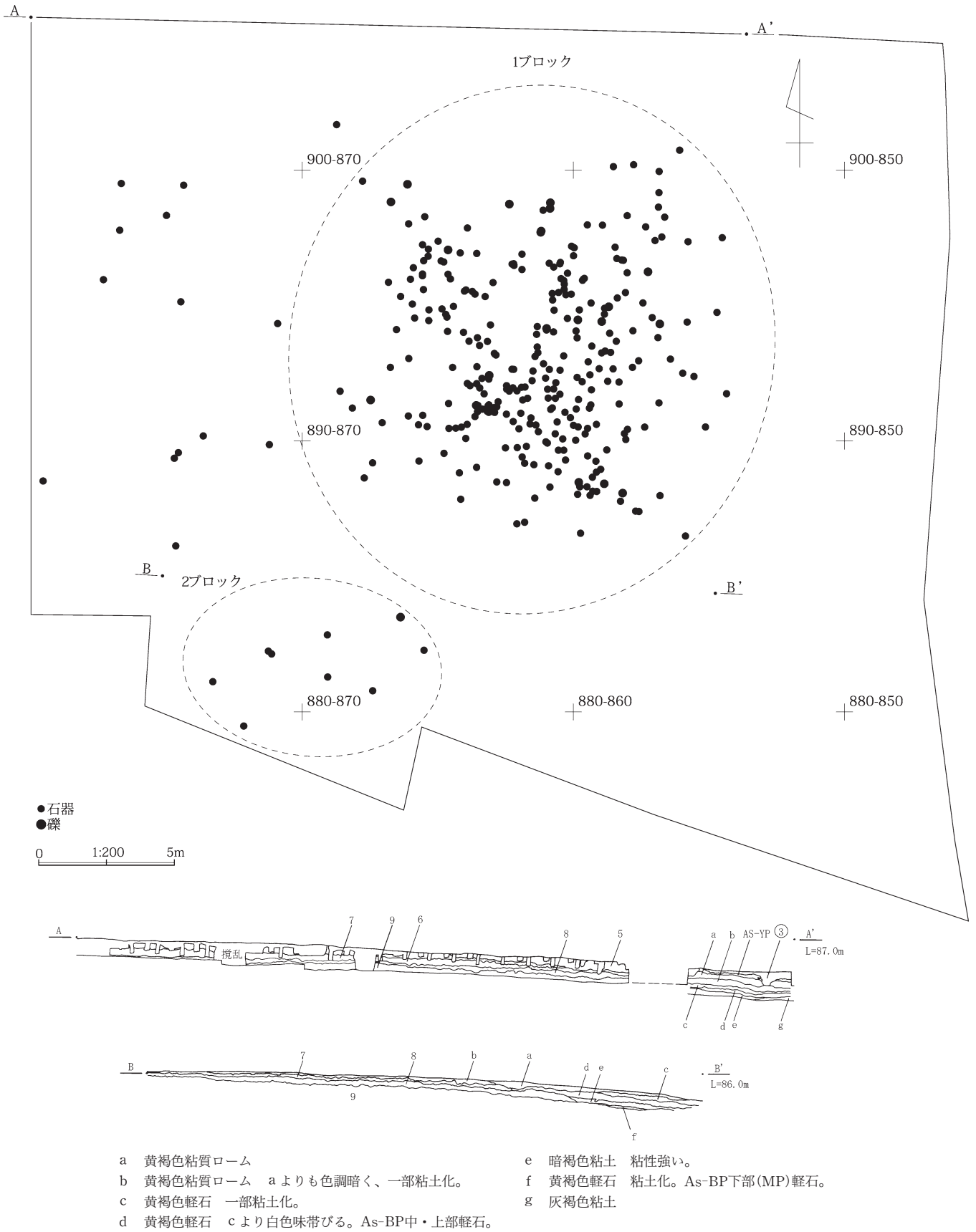
2は彫刻刀形石器で、縦長剥片の打面部に複数の打撃を加えている。1・2回目の加撃では細長い削片が剥出されるが、3回目以降は端部がステップ状になる。剥片剥離を意図した可能性もあるが、刃部のステップを解消できずに廃棄された彫刻刀形石器と判断した。石材は黒色頁岩で、西側のブロック外から出土した。

3の斧形石器は、背面に自然面を持つ大型剥片を素材とする。調整の頻度は低く、背面左側上位と腹面の両側に限られる。刃部は未加工で、使用の痕跡と思われる微細な剥離痕が並ぶが、研磨面や摩耗痕などは認められない。刃部左端をわずかに欠損する。1ブロックからの出土で、石材は黒色頁岩である。4はホルンフェルス製の斧形石器であるが、風化が激しく剥離面の観察は困難であった。表面右側は自然面で、扁平な円礫素材と思われる。基部を欠損。形状から縄文時代の磨製石斧の可能性も考えられるが、出土位置・出土層位ともに他の旧石器時代遺物と分離できなかった。1ブロック中央部からの出土である。

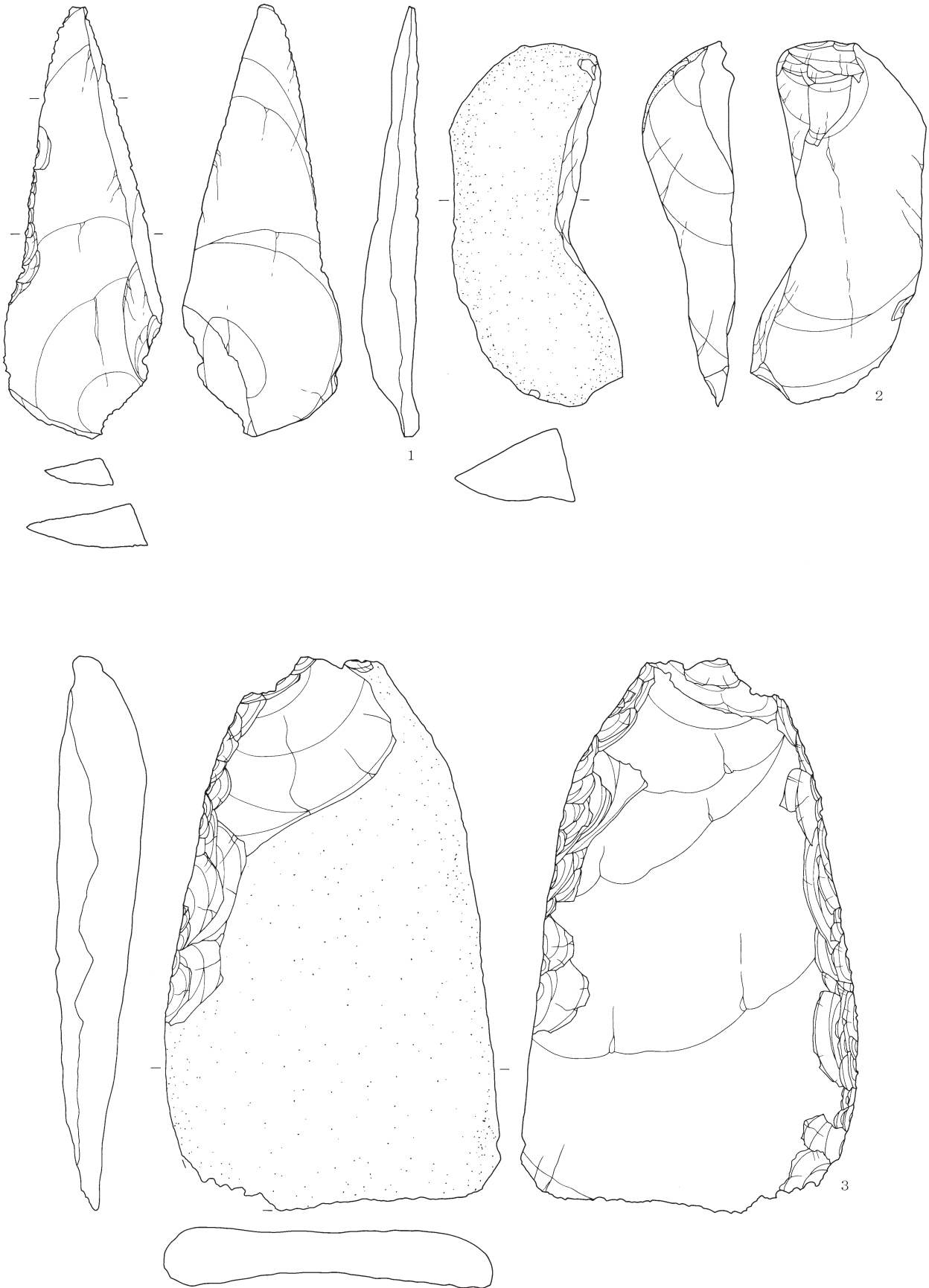
5のスクレイパーは、表裏に自然面を持ち、扁平な円礫を素材としている。器体裏面を大きく剥ぎ取った後、両側に調整を加えている。上半は欠損。石材はホルンフェルスで、1ブロックからの出土である。

6～12は二次加工ある剥片で、11のチャート、12のホルンフェルスを除いて全て黒色安山岩製である。6は剥片の側縁に急角度の調整が加えられているが、小破片のため詳細は不明である。7は小型の剥片の表面端部に、細かい剥離がわずかに加えられている。8は縦横比がほぼ等しい剥片の端部に調整が加えられている。調整は主として表面に加えられるが、裏面にもわずかに認められ、この調整後に3片に折られている。うち2点は1ブロックの南端に位置していたが、最も大きな1片は2ブロックの南端から出土した (接合資料一20)。9は大型の剥片裏面端部にわずかに調整を加え、ノッチ状に整形してある。10は素材剥片の表面端部にわずかに調整が加えられ、器体の右半は折り取られている。1ブロックの北東隅からの出土で、接合資料一7に含まれる。11は剥片に急角度の調整が加えられているが、小破片のため全体の形状は不明である。12は表面に自然面を持つ厚手の縦長剥片を素材とし、裏面一側に平坦剥離が加えられている。1ブロック出土。

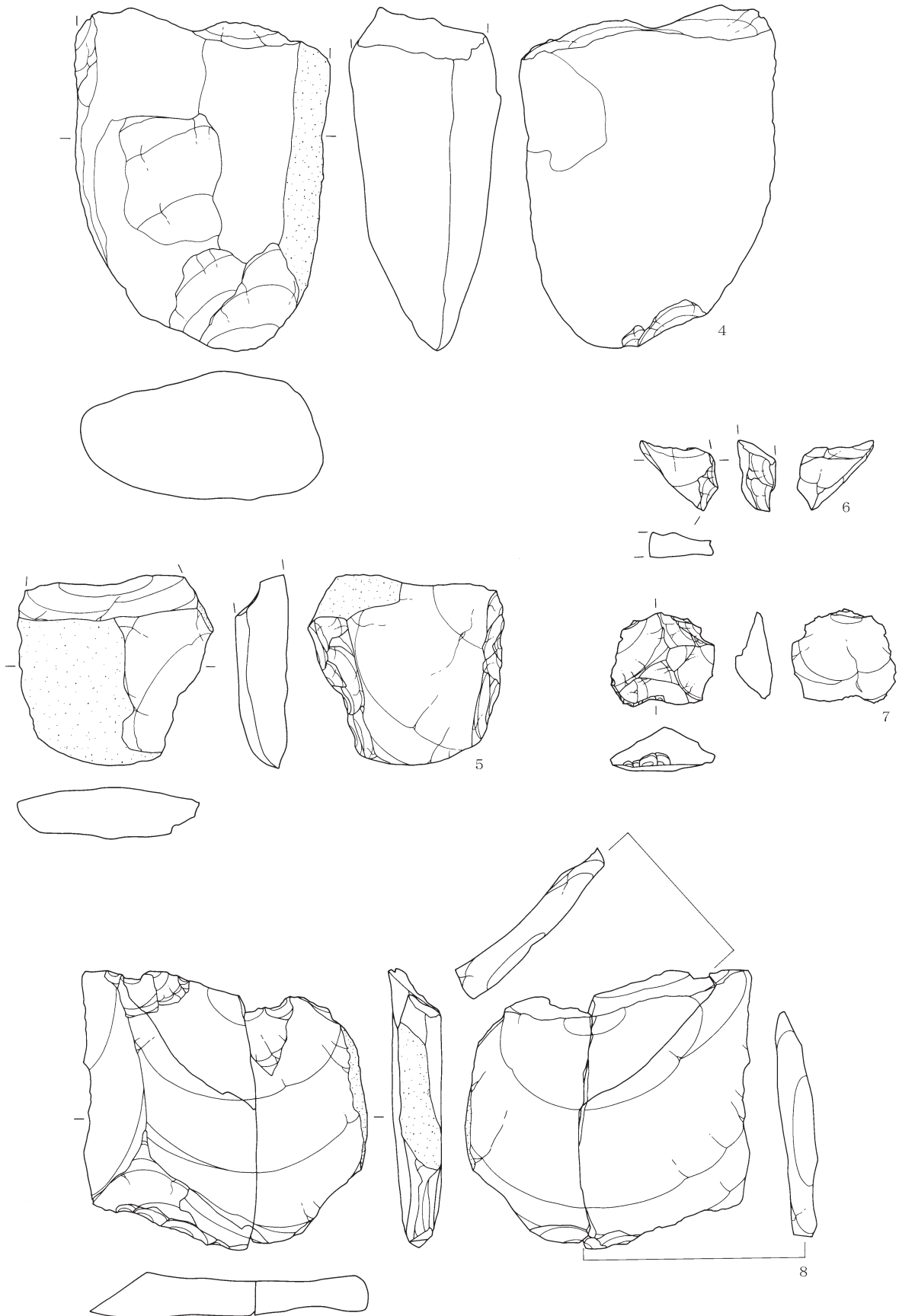
剥片は、全200点中9割近い179点が黒色安山岩である。その他にはチャート、ホルンフェルス、珪質頁岩、



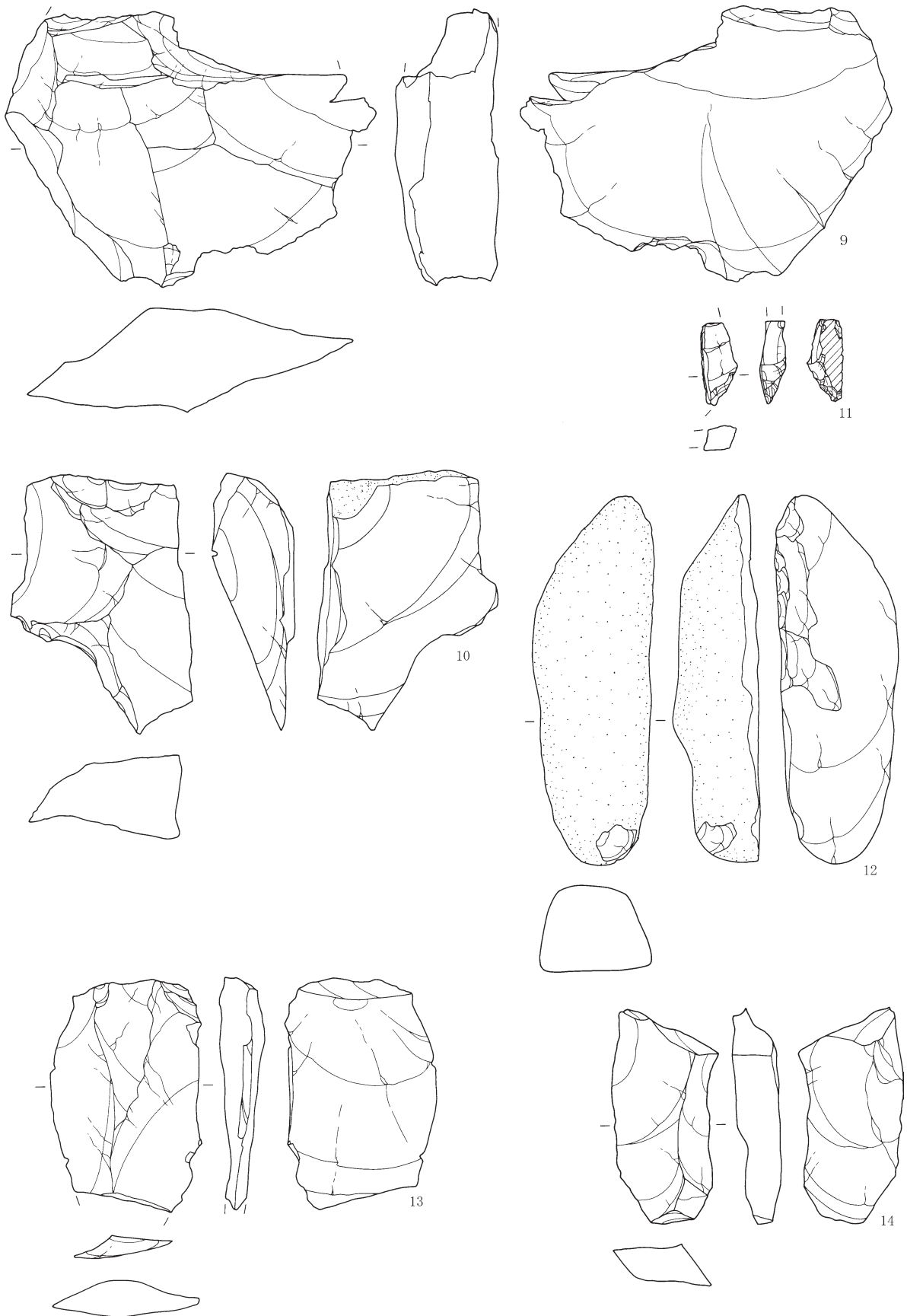
第66図 第3文化層 (IV区) 石器分布



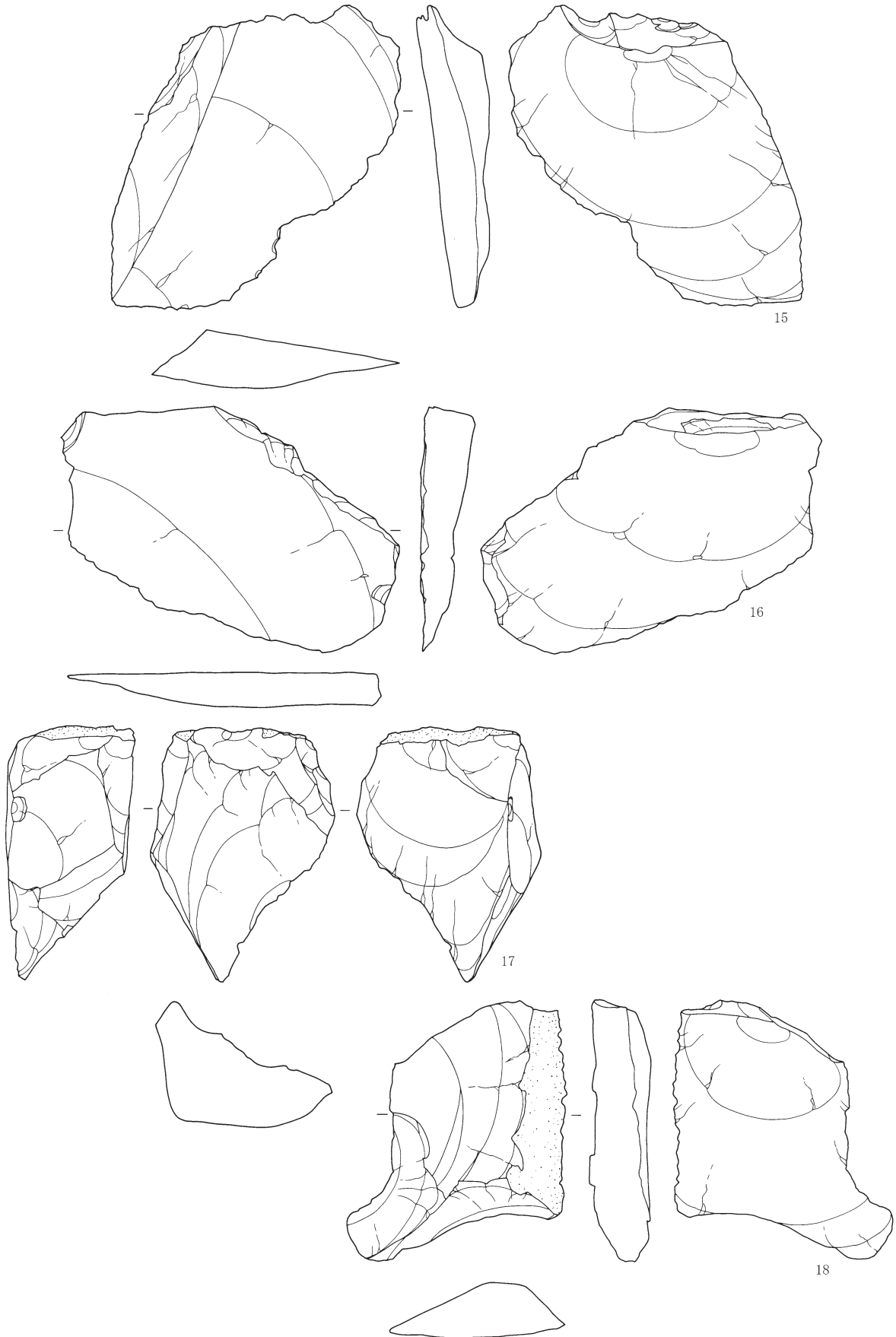
第67図 第3文化層(IV区)出土石器(1) (S = 4/5)



第68図 第3文化層 (IV区) 出土石器(2) (S = 4/5)



第69図 第3文化層 (IV区) 出土石器(3) (S = 4 / 5)

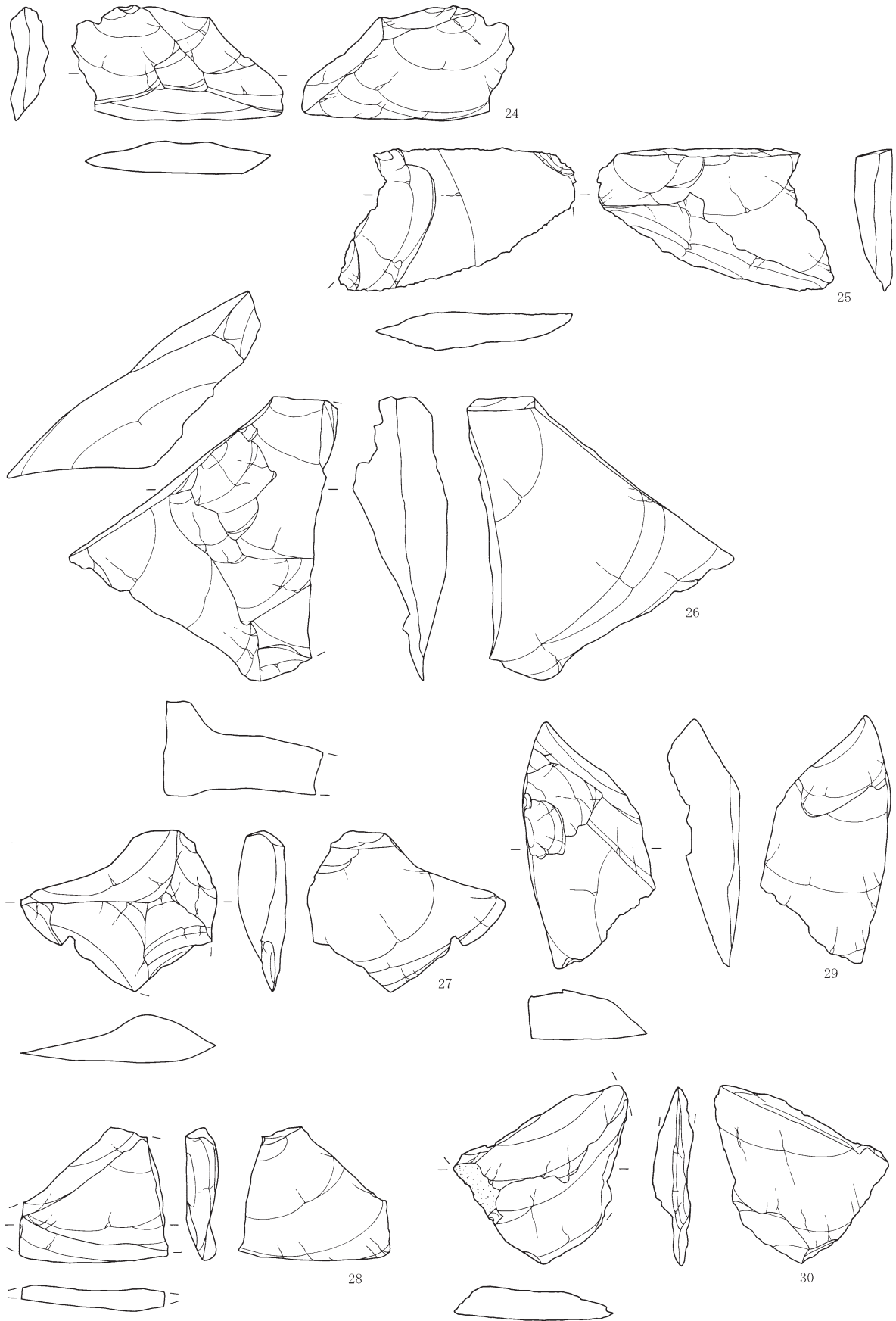


第70図 第3文化層 (IV区) 出土石器(4) (S = 4/5)

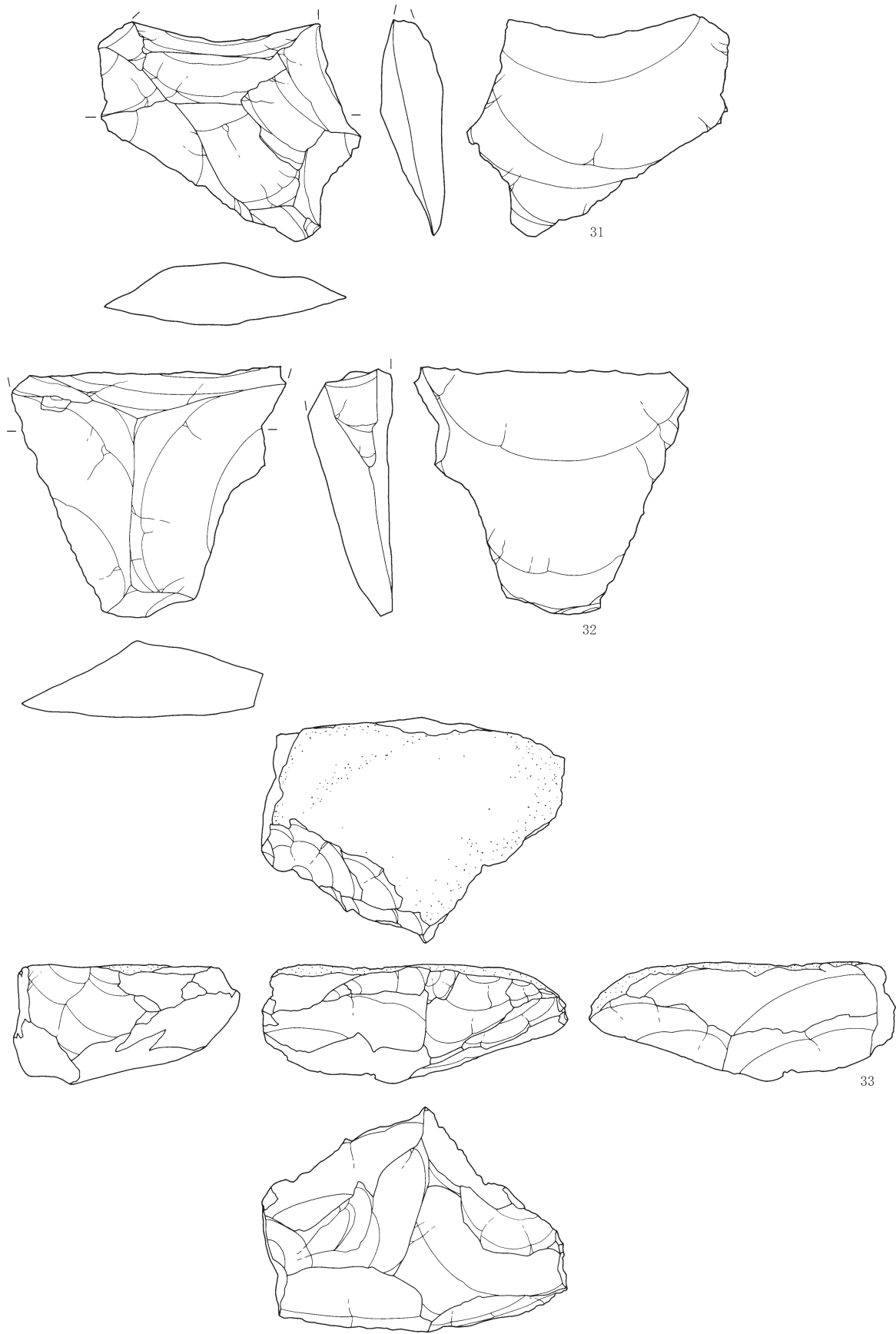
第2章 旧石器時代



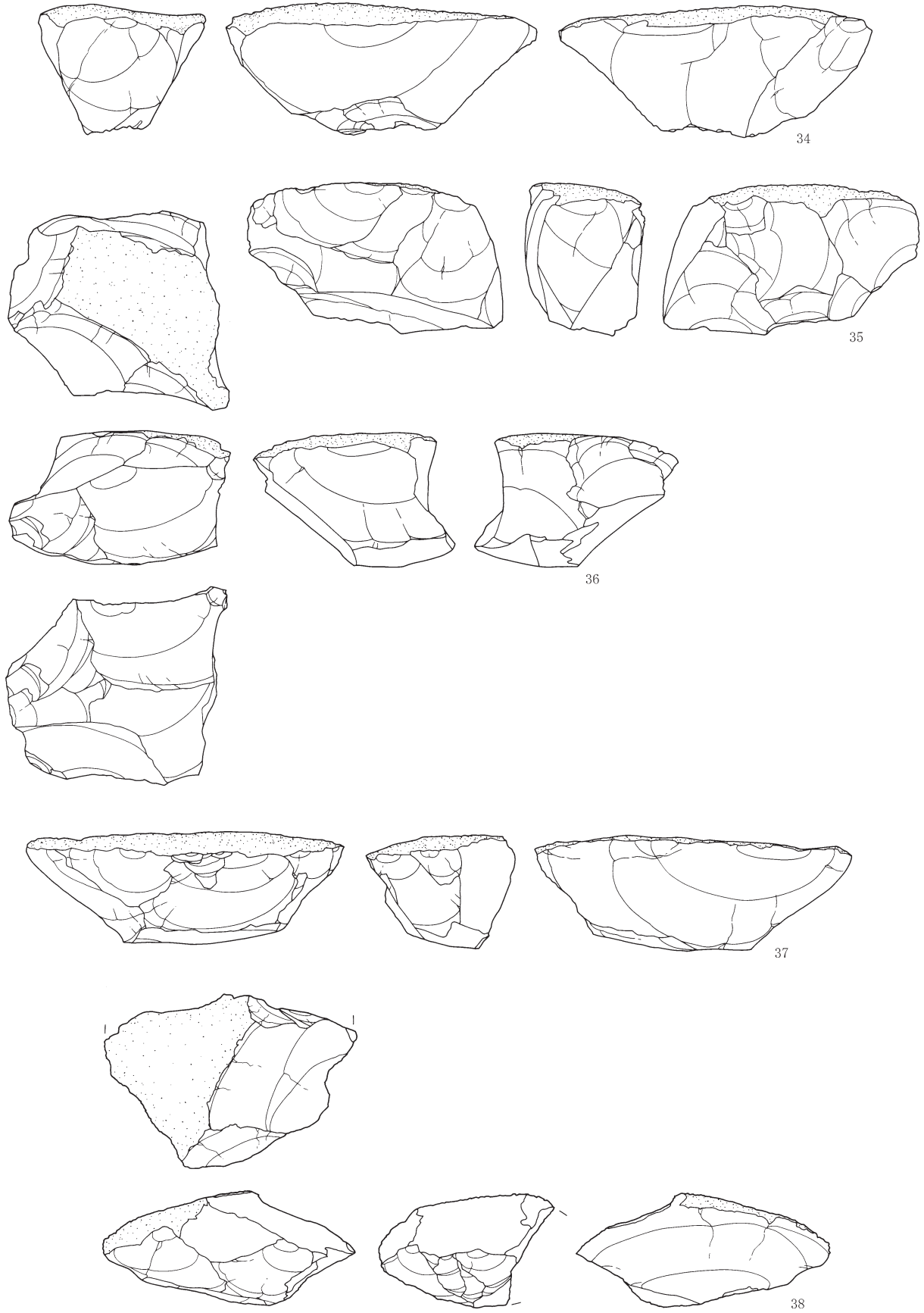
第71図 第3文化層 (IV区) 出土石器(5) (S = 4 / 5)



第72図 第3文化層 (IV区) 出土石器(6) (S = 4/5)

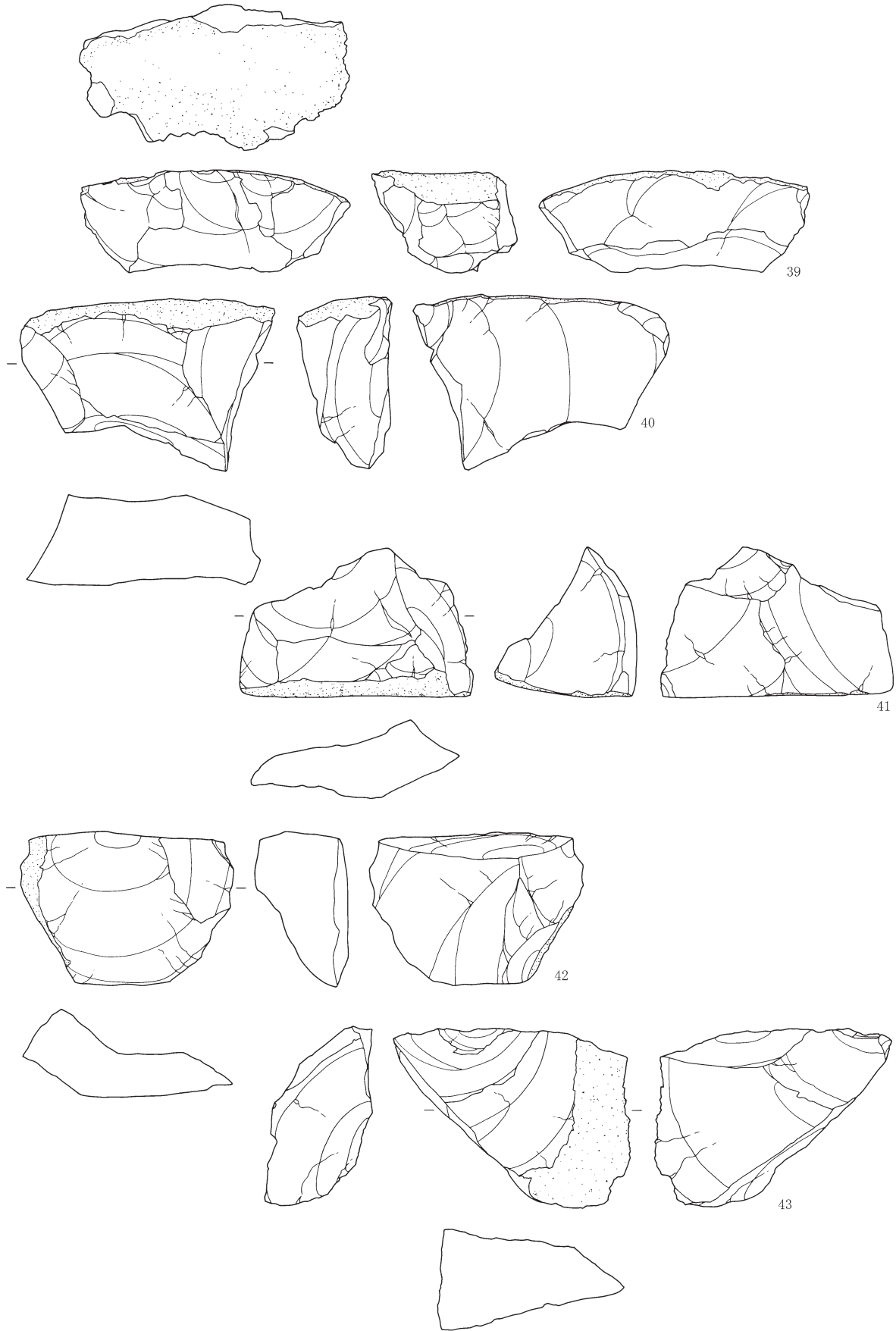


第73図 第3文化層 (IV区) 出土石器(7) (S = 4 / 5)

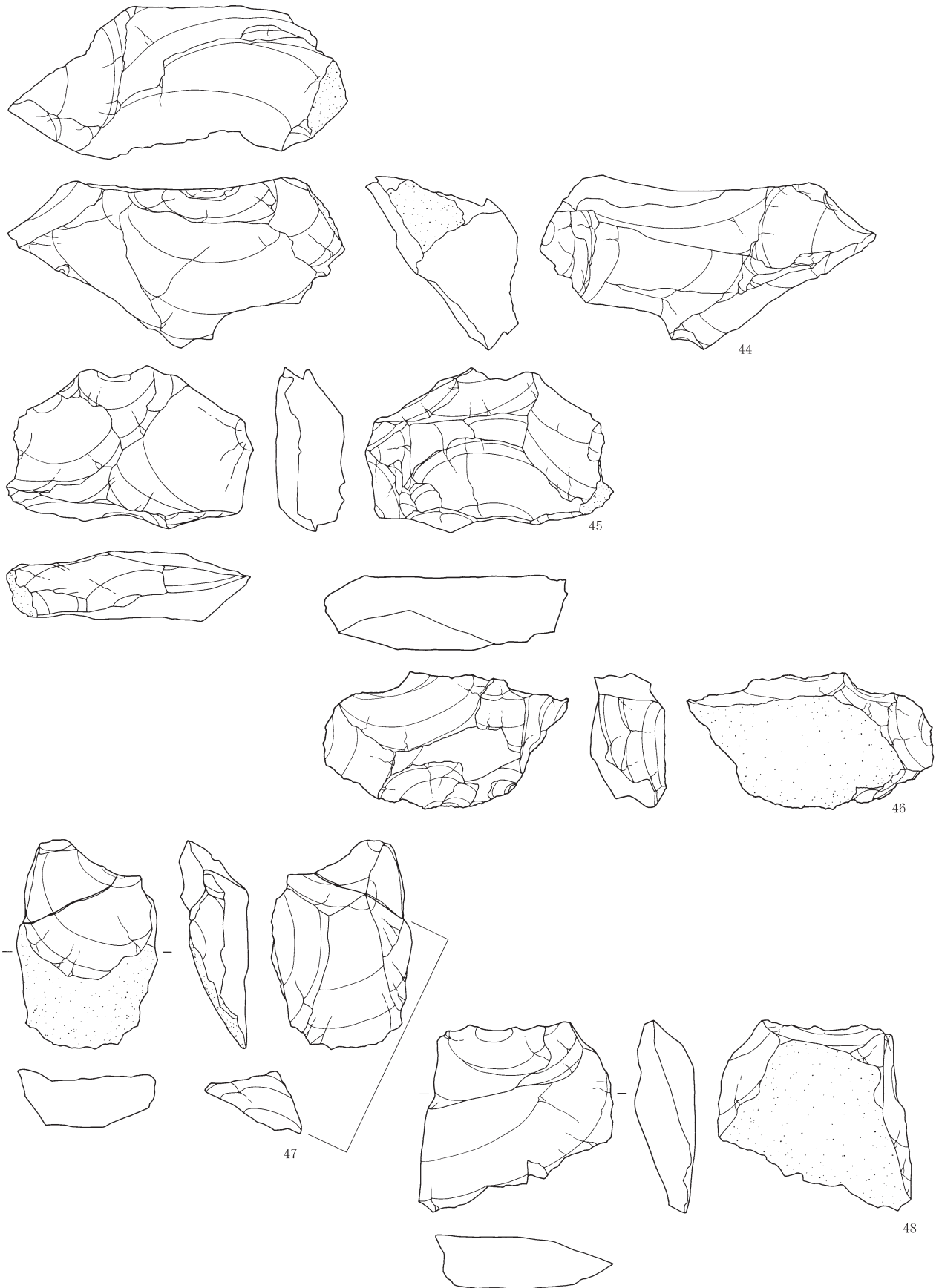


第74図 第3文化層 (IV区) 出土石器(8) (S = 4 / 5)

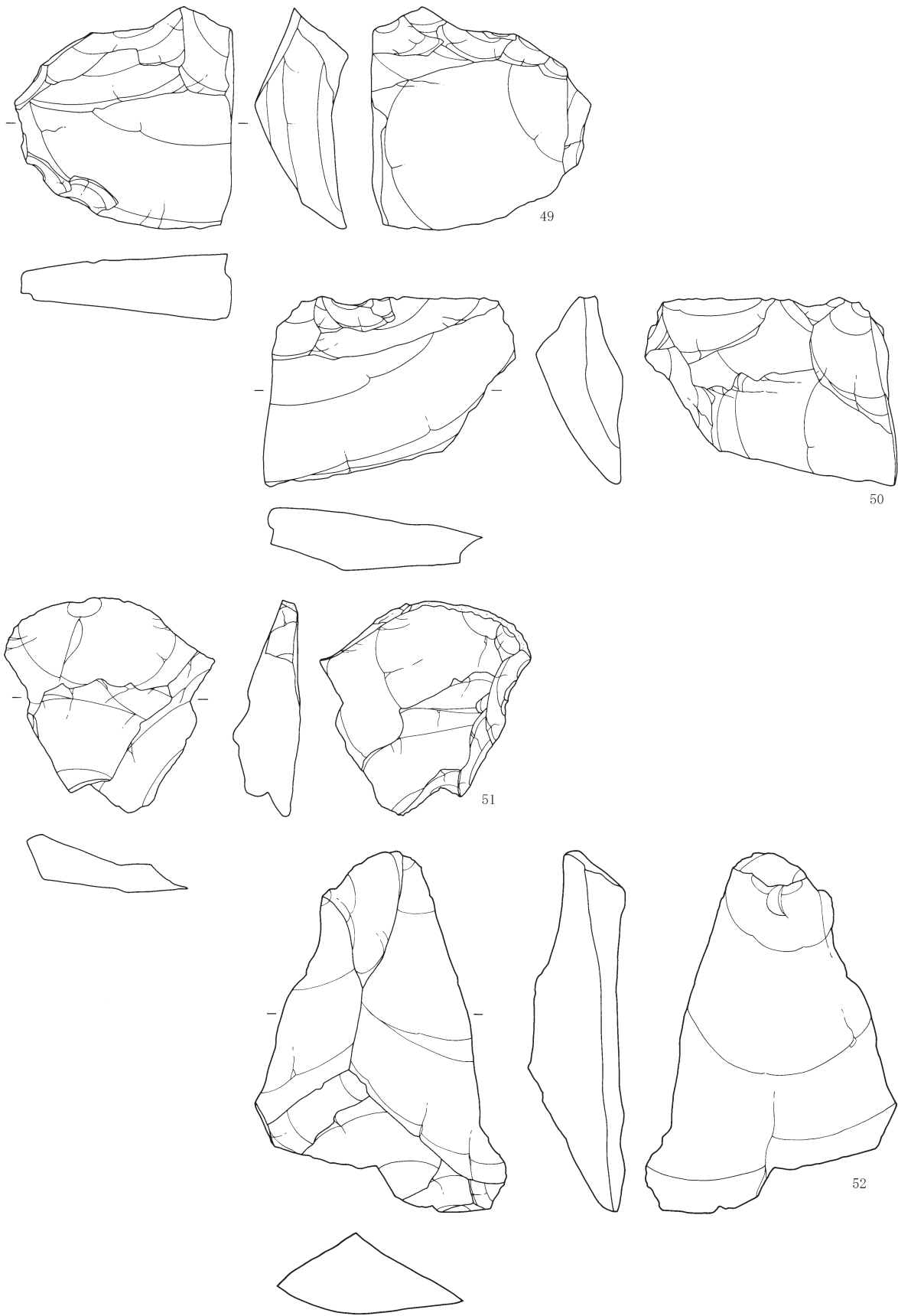
第2章 旧石器時代



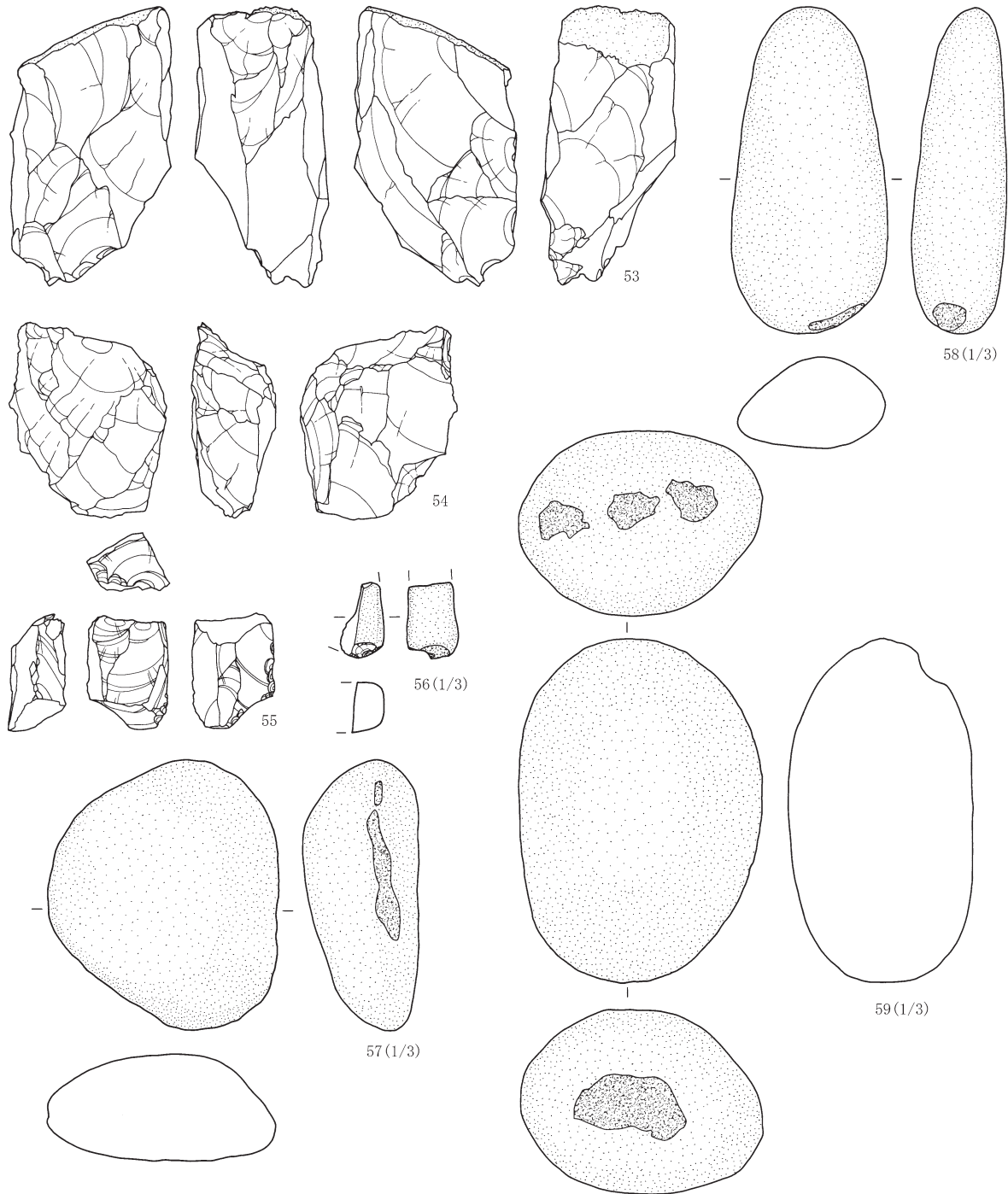
第75図 第3文化層 (IV区) 出土石器(9) (S = 4 / 5)



第76図 第3文化層 (IV区) 出土石器(10) (S = 4/5)



第77図 第3文化層 (IV区) 出土石器(I) (S = 4 / 5)



第78図 第3文化層 (IV区) 出土石器(12) (S = 4/5 · 1/3)

黒色頁岩、変玄武岩、黒曜石などがあるが、いずれも1～4点程度である。図示した13～32の剥片は全て黒色安山岩製である。13・14のように縦長で両側が平行するものはごく少なく、大半は不定型な剥片である。比較的大型の剥片では、側辺や端部、打面側などが折り取られる例が多い(25・26・28～32など)。

33～55の石核のうち、54がチャート、55が黒曜石である以外は、全て黒色安山岩である。黒色安山岩の石核は、最終的な形状によって分類できる。第1は上面に打面を固定して周辺で小型の剥片を剝離するもので、残核の形状は直方体状を呈する(33～39)。打面は大半が自然面で、完全に自然面に覆われているものも多い(34・35・37・39)。この形状の石核は、より大型の個体を分割しているものが多い。例えば、33と39、34と

第2章 旧石器時代

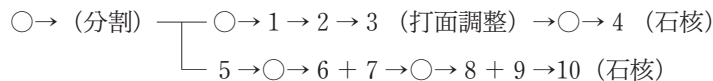
35、36と37は、それぞれ同一の個体から分割されたものである。大型の個体での剥片剥離が進行して薄くなった段階で、故意か偶発的な割れかは不明であるが、最大長が5～7cm程度の個体に分割される。かなり小型であるため、分割後は小型の剥片を少数剥離するにとどまる。その他の形状としては、打面と作業面を90°転移しながら剥片を剥離するもの(40・41・44・52)、盤状の石核の両面、もしくは片面で求芯状に剥片を剥離するもの(45・46)、剥片の折れ面を打面として裏面側で剥片を剥離しているもの(42)、剥片の打面側で表裏交互に剥片を剥離しているもの(47～50)などがある。51は剥片の打面側が薄いため、肥厚した端部で剥片を剥離している。52は大型の剥片の打面付近で、主要剥離面側を打面として小型の剥片を1枚剥離している。接合資料一5に含まれる。54は上位に打面を固定して表面で連続して剥片を剥離している。55は打面と作業面を90°転移しながら、極限まで剥片剥離を試みている。原産地分析の結果、長野県諏訪産と推定された。54が2ブロック、34・50がブロック外からの出土である他は、全て1ブロックに分布していた。

敲石は4点出土したが、そのうち56は小破片であった。その他の3点は完形で、円礫の端部や側面に敲打痕が認められた。57が2ブロックから出土した以外は、いずれも1ブロックに分布していた。石材は56が黒色頁岩で、その他は粗粒輝石安山岩であった。

2 接合資料(第79～85図)

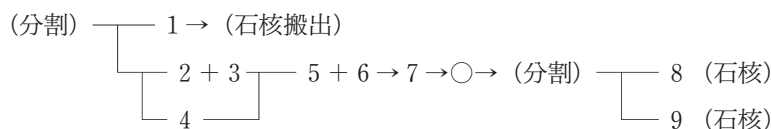
24例76点の接合資料が出土している。接合資料一24が珪質頁岩である以外は、全て黒色安山岩である。

接合資料一1



10点の資料が接合した。最大長11.7cmと比較的大型の個体である。分割礫素材と思われ、上位の自然面を打面として打点を左右に移動しながら小型の剥片を剥離する。この段階での剥片は遺跡内では出土しておらず、ある程度剥離の進んだ石核の状態では遺跡内に持ち込まれている。次いで、ほぼ中央で2個体に分割する。右半の個体では、作業面を打面として下面で少数の剥片を剥離後、打面を上位の自然面側に戻して剥片を剥離している(1)。その後打面を180°転移して下面から少なくとも1枚の剥片を剥離(2)、2の剥離後に上面で若干の打面調整を行っている(3)。さらに少数の剥片を剥離した後に残核は廃棄される(4)。左半の個体では、打面を上面に固定し、打点を左右に移動しながら小型で不定形の剥片を剥離する(5・6+7・8+9)。残核は廃棄される(10)。1と3を除き、1ブロック北西の直径3m程の範囲にまとまって分布していた。

接合資料一2



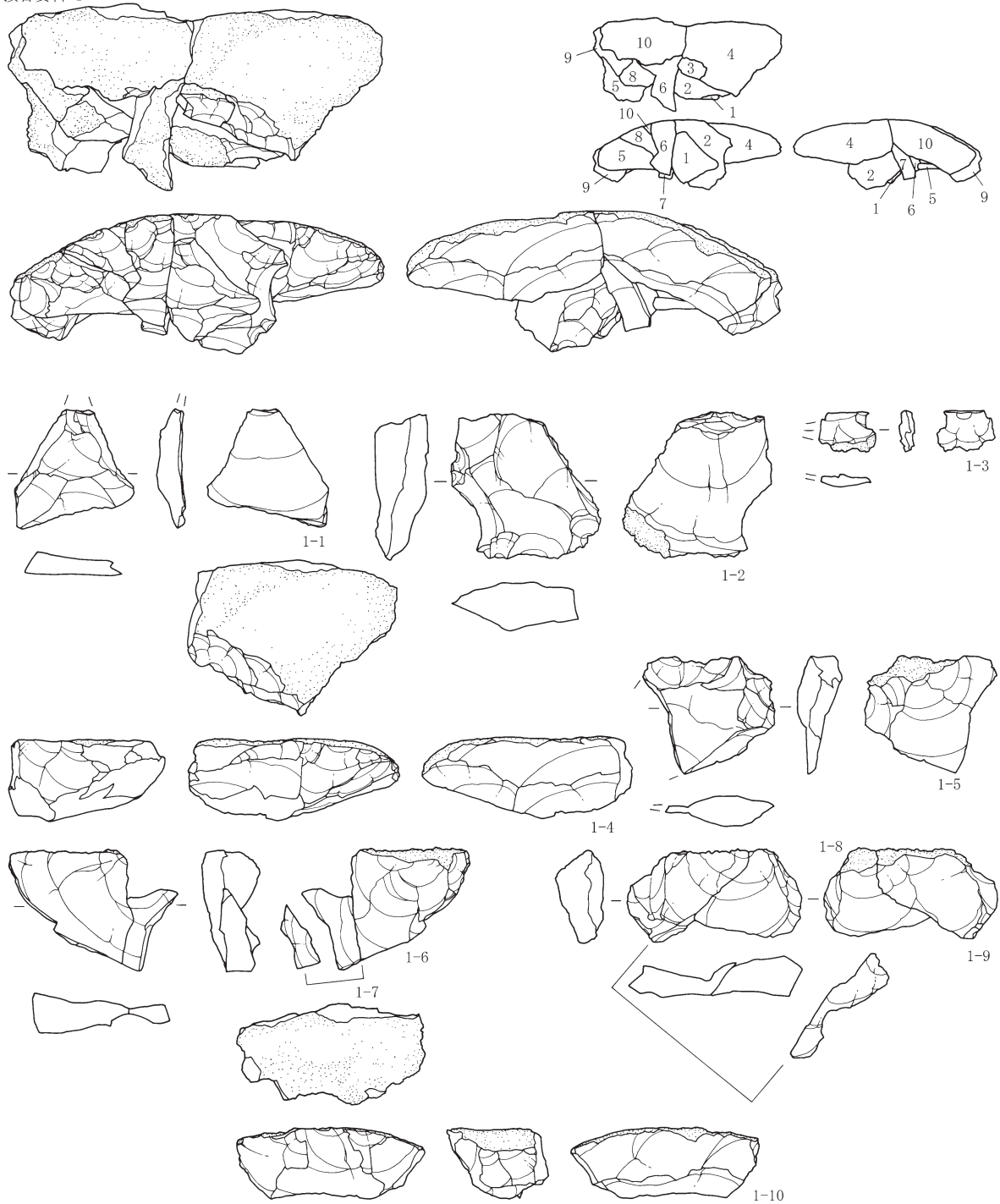
9点の石器が接合した。この資料も、最大長が12.5cmと大型の個体である。2個体の資料が含まれるが、うち1個体は剥片が1枚残されていたにすぎない(1)。1の剥片の表面側が個体の分割面で、この剥片を剥離した後に残りの個体は遺跡外に搬出されている。もう一方の個体では、分割礫の表面で周辺から求芯状に小型の剥片を剥離しているが、この段階に剥離された剥片は遺跡内からは出土していない。接合資料一1と同様に、石核の状態では搬入されている。その後、打面を上位の自然面に固定して打点を左右に移動しながら複数の剥片を剥離する(2+3・4・5+6・7)。次いで、石核を中央部で分割し、それぞれにおいて少数の小型剥片を剥離している。残核は廃棄される(8・9)。石器の分布は、8がブロックの西側に位置する他

は1ブロックにあり、連続して剥離された2～6は比較的狭い範囲にまとまっていた。

接合資料-3

5点の資料からなる。大型剥片の打面側で、表裏の交互剥離によって小型の剥片を複数剥離している(1)。その後ほぼ中央から2点に分割している。左半の個体は、さらに2点に割れて廃棄される(2+3)。右半の個体は、小型の剥片を1枚剥離(4)した後石核を廃棄する(5)。全て1ブロックにあり、長軸2m、短軸1

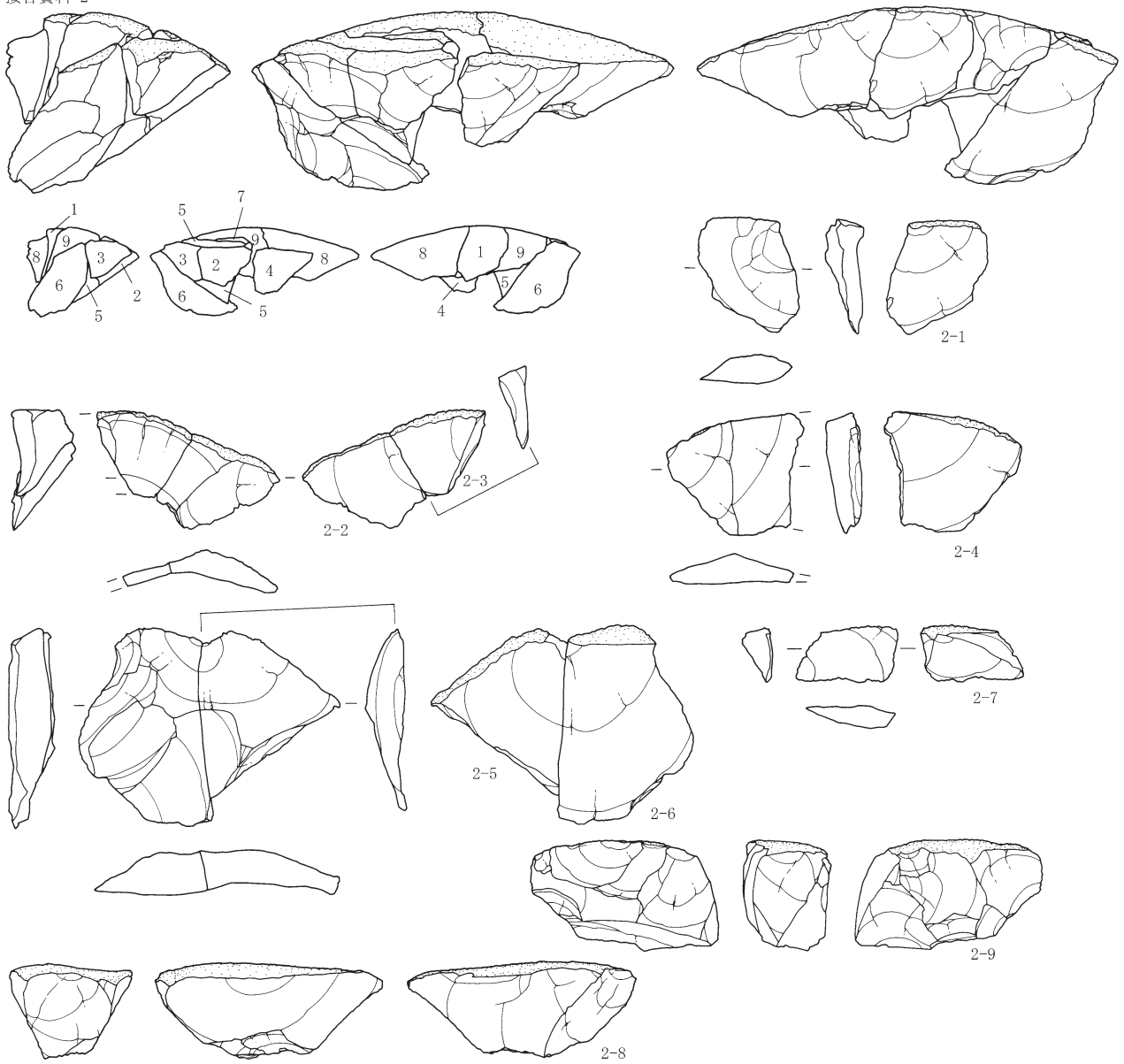
接合資料-1



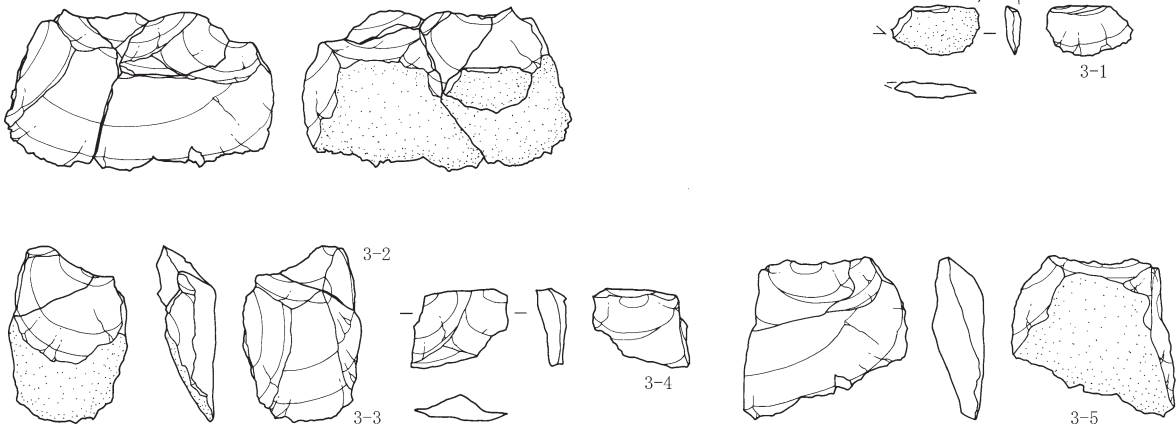
第79図 第3文化層 (IV区) 接合資料-1 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

接合資料-2

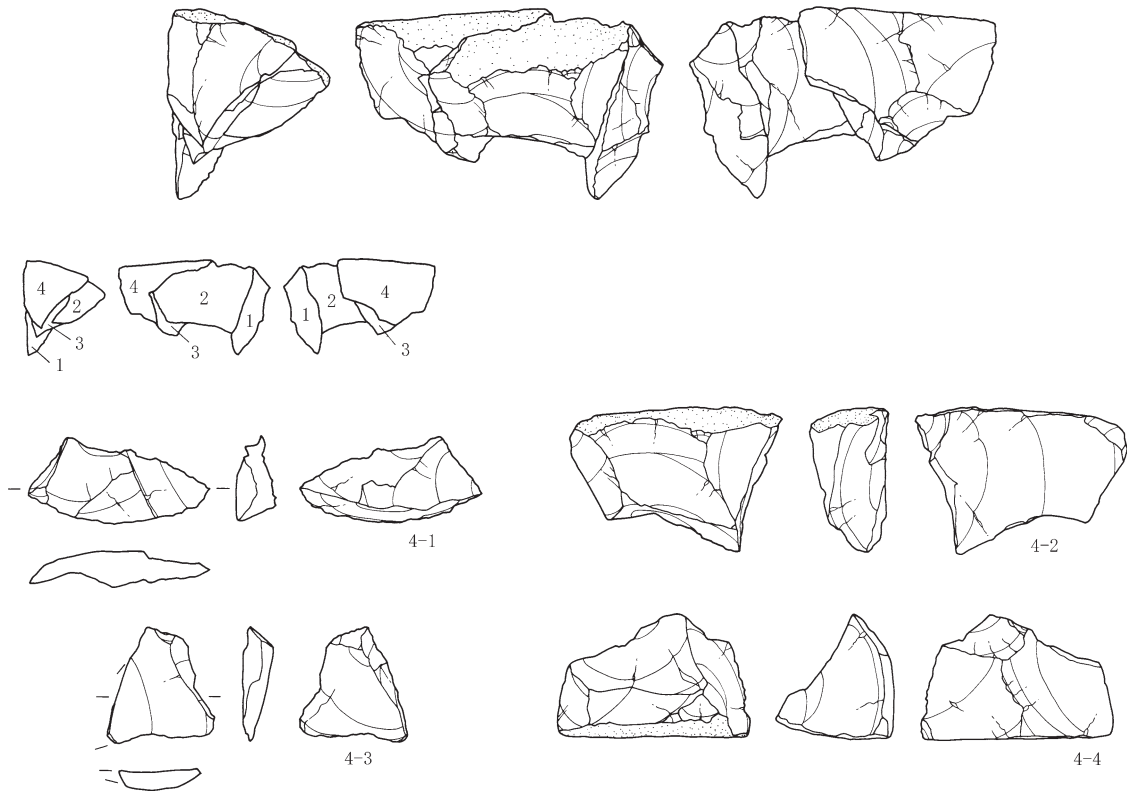


接合資料-3

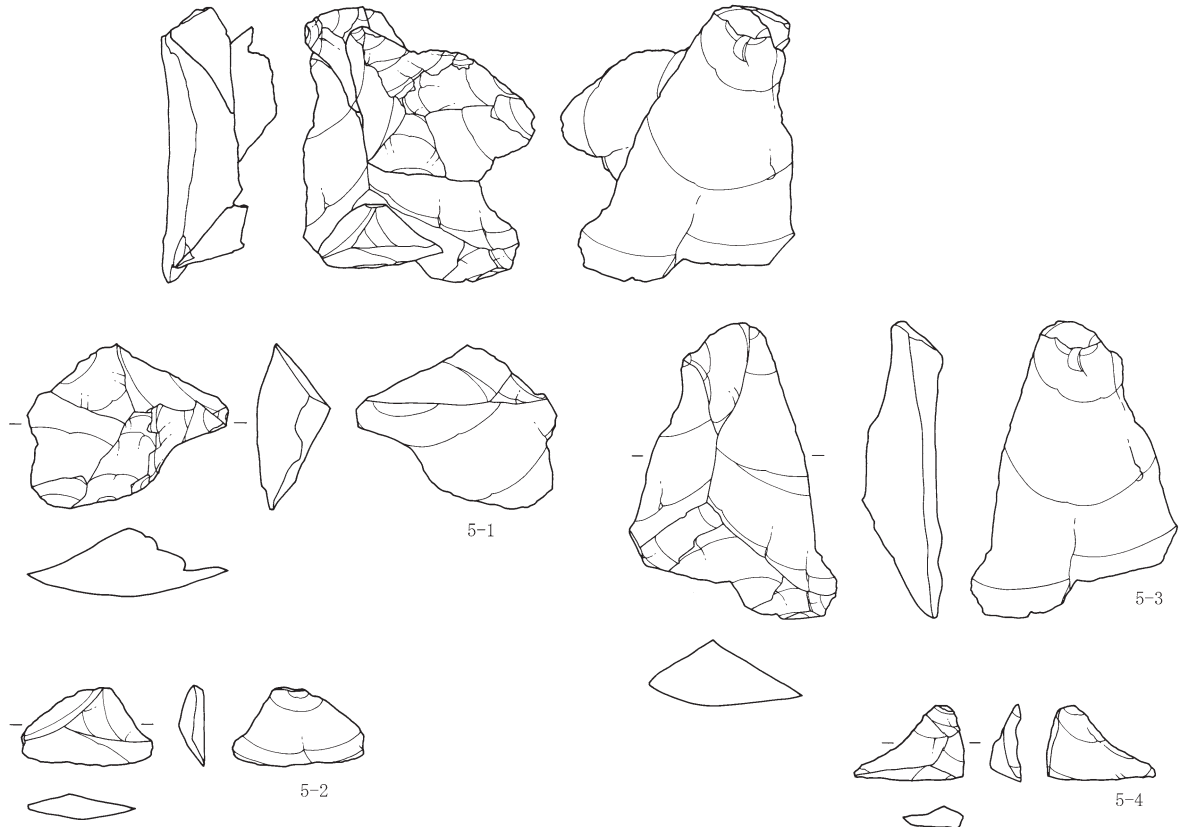


第80図 第3文化層 (IV区) 接合資料-2・3 (S = 1/2)

接合資料-4



接合資料-5



第81図 第3文化層 (IV区) 接合資料— 4・5 (S = 1/2)

第2章 旧石器時代

m程の範囲内にまとまって分布している。

接合資料—4

4点の資料からなる。分割礫を素材とし、打面と作業面を90°転移しながら剥片を剥離した後、2個体に分割する。表面側の個体でも、同様に打面と作業面の90°転移を繰り返しながら少数の小型の剥片を剥離している。その際、裏面側で上面の自然面からの加撃によって剥片を剥離した際に、右端部が同時割れを起こしているが(1)、その後も下面で剥片を剥離している。残核は遺跡内に廃棄される(2)。裏側の個体では、作業面を表裏で入れ替え、打面を90°転移しながら少数の剥片を剥離(3)、その後石核は廃棄される(4)。全て1ブロックからの出土であるが、1と2がごく近接していたのに対し、3・4はやや東側に離れて分布していた。

接合資料—5

4点の石器が接合した。分割礫素材と思われ、周辺から求芯状に不定型な剥片を剥離する。上面の打面から剥離された大型の剥片を石核として利用し、複数の剥片を剥離している(1)。残核は遺跡外に搬出される。石核に残るこの大型剥片の剥離面末端部を打面とし、小型の剥片を1枚剥離(2)、その後打面を90°転移して右側面から複数の剥片を剥離している。さらに上面に打面を戻して大型の剥片を剥離する(3)。こちらも石核として小型の剥片を1枚剥離している(4)。全て1ブロックに分布し、南西側に散在していた。

接合資料—6

3点の資料からなる。厚手の剥片を素材としている。表面を打面として側辺のほぼ全周で小型の剥片を剥離した後、2～3個体に分割されそれぞれの個体において少数の小型剥片を剥離している(1)。1の剥片が分割の前後どちらの段階で剥離されたかは、剥離面の切り合いの観察からは断定できなかった。石核は遺跡内に廃棄されている(2・3)。3点とも1ブロックからの出土で、北西隅にまとまって分布していた。

接合資料—7

3点の石器が接合した。横長の剥片を中央で二分割している。左半は端部にわずかに調整を加えノッチ状に整形している(1)。右半の個体は、折れ面を打面として、素材剥片の裏面側で1枚剥片を剥離している(2)。その後残核は廃棄される(3)。全て1ブロックからの出土で、北東側にまとまって分布していた。

接合資料—8

3点の資料からなる。厚手の剥片の表裏で、打面と作業面を交互に入れ替えながら、周辺から求芯状に小型の剥片を剥離している(1・2)。残核は廃棄される(3)。3点とも1ブロック北東部から出土した。

接合資料—9

3点の石器が接合した。まず石核から大型の剥片を剥離し2分割する。それぞれ石核として利用されており、一方では残核が(1)、もう一方では石核から剥離された剥片が1枚残されていた(2)。2を剥離した石核は、遺跡内からは出土していない。残った石核は、打面と作業面を入れ替え複数の小型剥片を剥離した後(3)、遺跡外に搬出される。1ブロックに散在しており、ともに5～6.5m程の距離を持って分布していた。

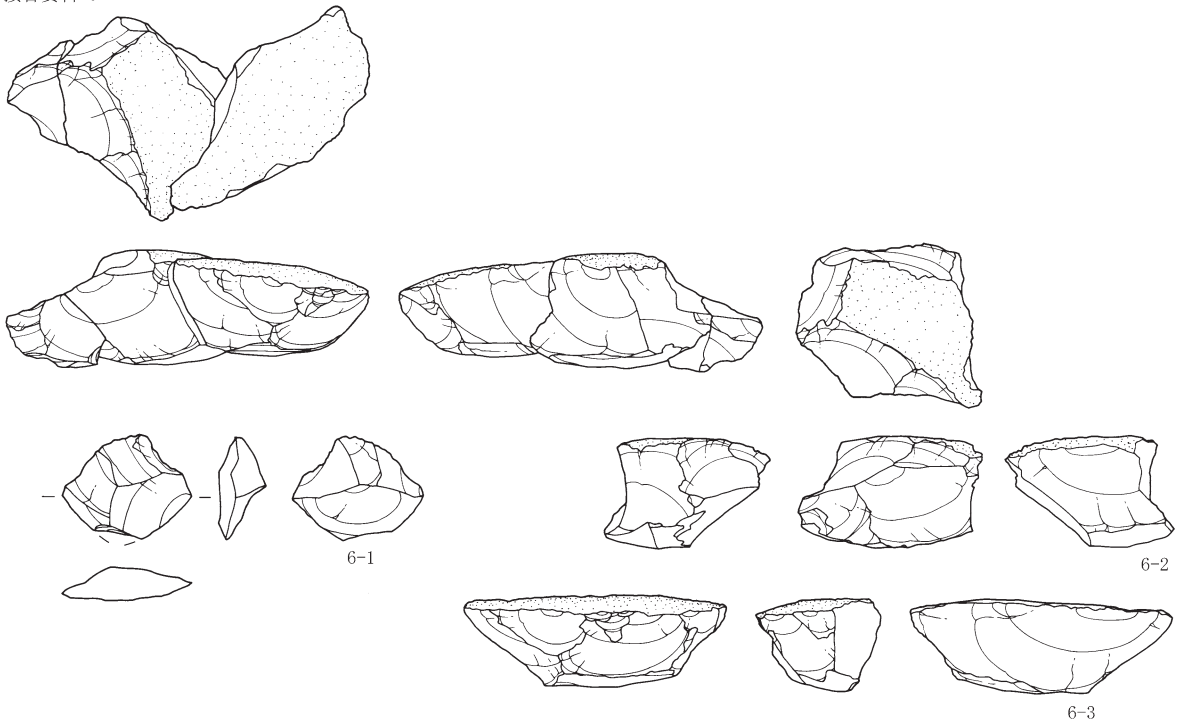
接合資料—10

3点の資料からなる。横長剥片を素材とし、素材の腹面側打面部で小型の剥片を連続して剥離する。その後ほぼ中央で分割し、左半の個体はそのまま廃棄(1)、右半の個体では小型の剥片を1枚剥離(2)した後廃棄される(3)。1・2は1ブロック内に分布していたが、3はブロック西側に離れて単独で出土した。

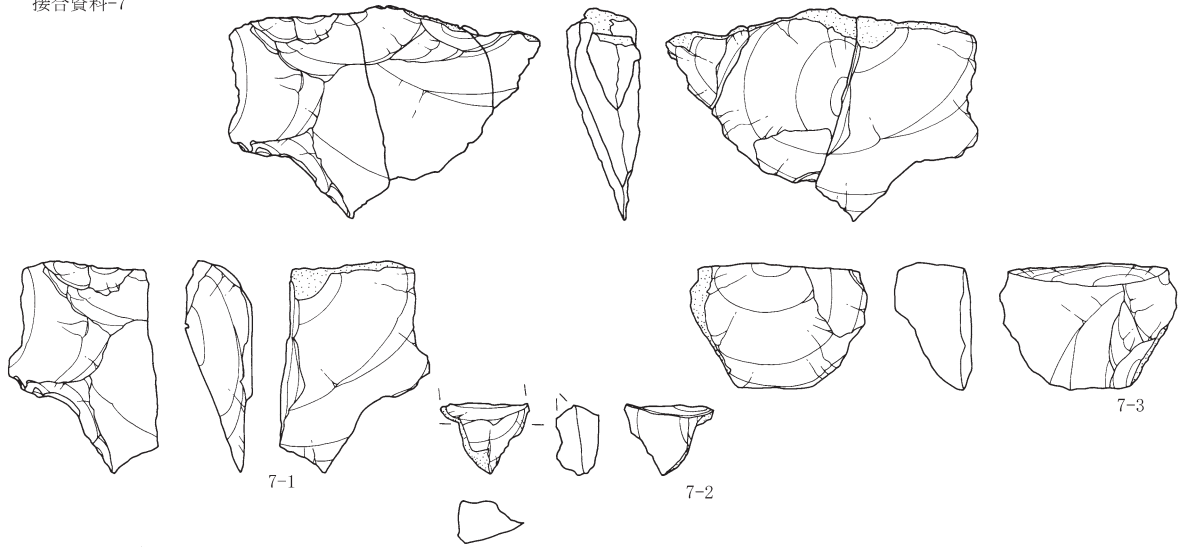
接合資料—11

2点の石器が接合した。上面の打面から連続して剥片を剥離している(1)。1の剥離後、少数の剥片を剥離して石核を廃棄する(2)。1ブロックの中央よりやや南西よりで、2点近接して出土した。

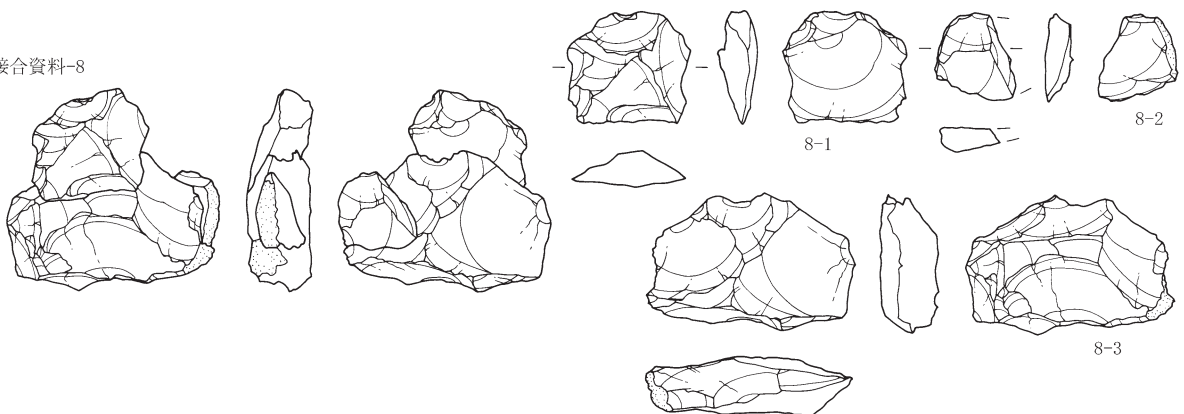
接合資料-6



接合資料-7



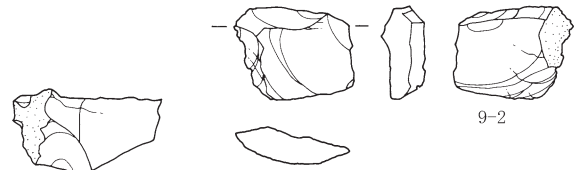
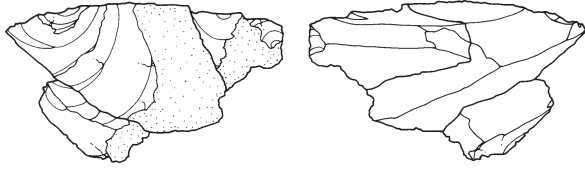
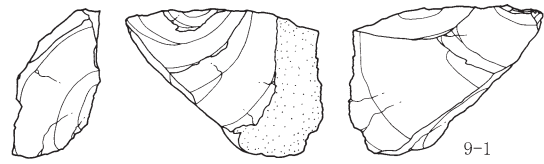
接合資料-8



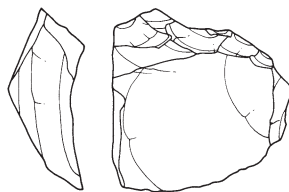
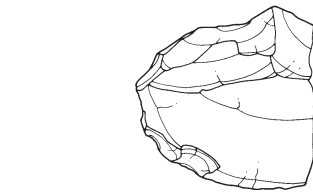
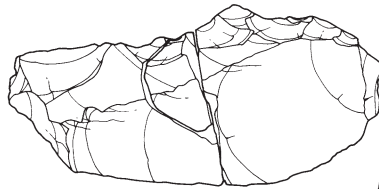
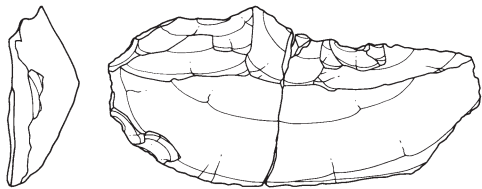
第82図 第3文化層 (IV区) 接合資料—6~8 (S=1/2)

第2章 旧石器時代

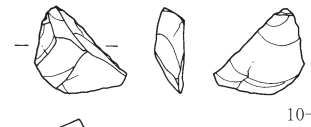
接合資料-9



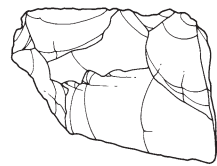
接合資料-10



10-1

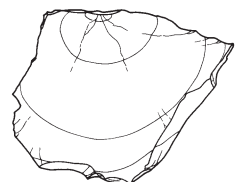
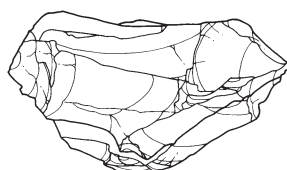
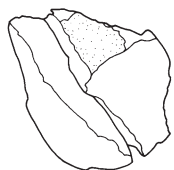
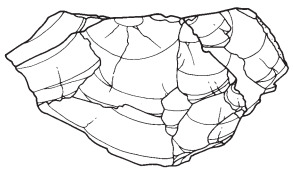
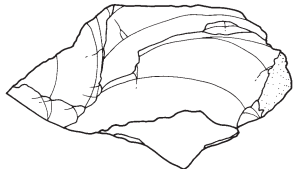


10-2

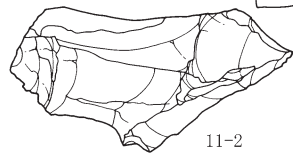
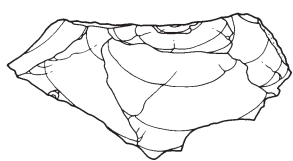


10-3

接合資料-11



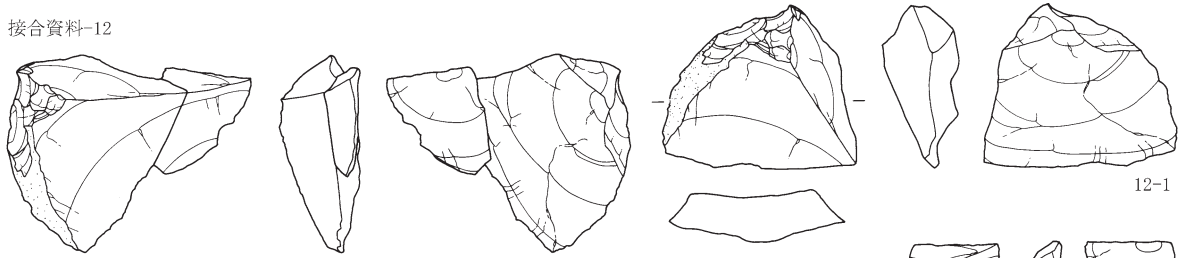
11-1



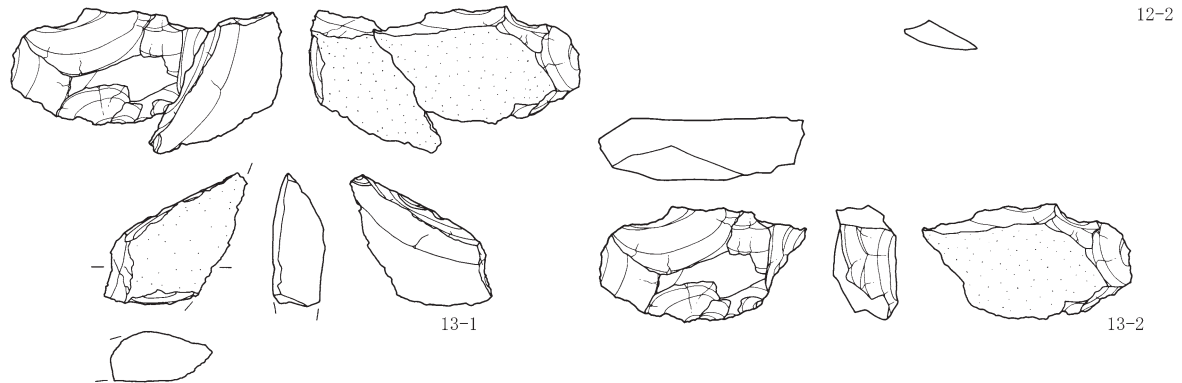
11-2

第83図 第3文化層 (IV区) 接合資料-9~11 (S = 1/2)

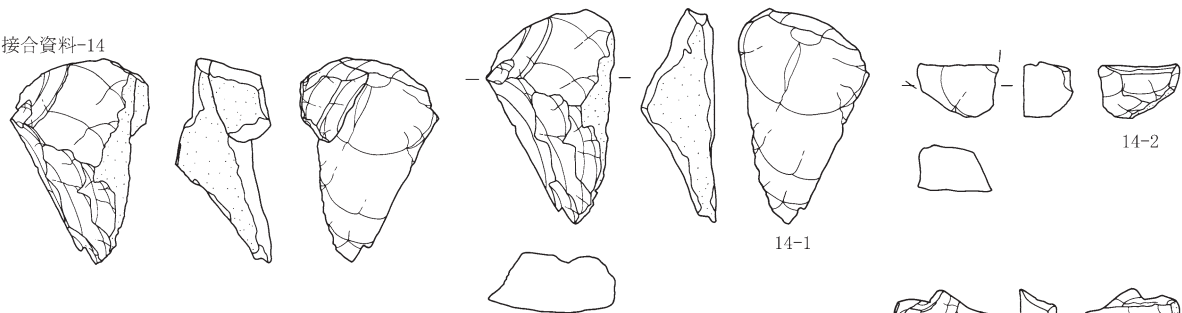
接合資料-12



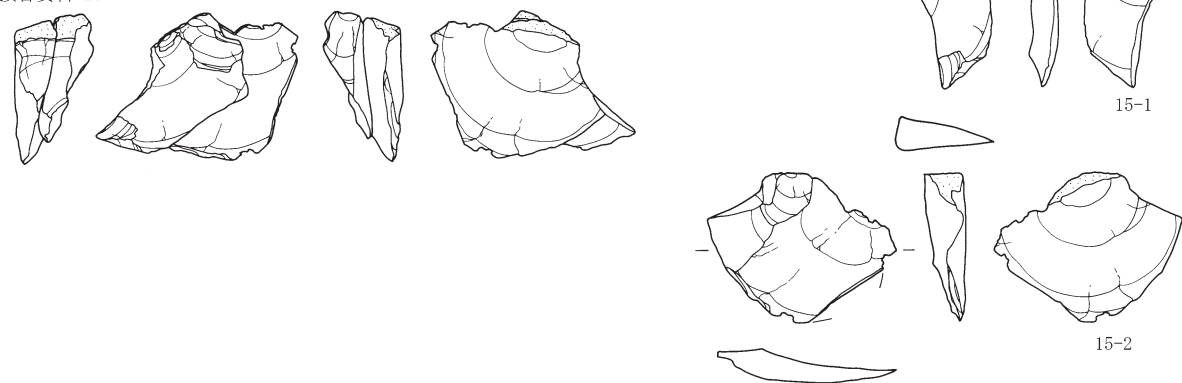
接合資料-13



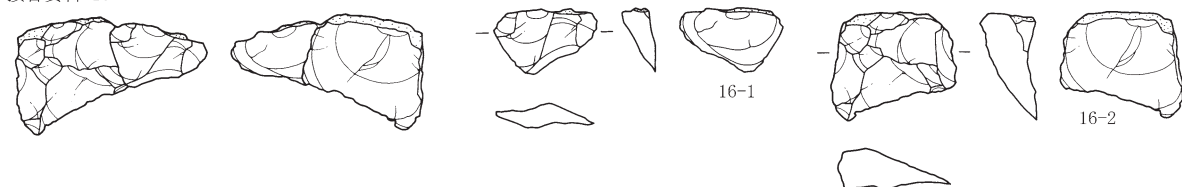
接合資料-14



接合資料-15



接合資料-16



第84図 第3文化層 (IV区) 接合資料-12~16 (S = 1/2)

接合資料—12

2点の資料からなる。石核の左側面からの加撃によって剥片を剥離(1)、次に打面を上面に転移して小型の剥片を剥離している(2)。石核は遺跡外に搬出される。1ブロックの東半で、5m程離れて出土した。

接合資料—13

2点の資料からなる。厚手の剥片を2～3個に切断し、そのうち1個体はそのまま廃棄する(1)。別の個体は石核として利用し、少数の小型剥片を剥離した後に廃棄される(2)。ともに1ブロックからの出土である。

接合資料—14

2点の石器が接合した。上面の打面から1を剥離した後、打面を90°転移して2を剥離している。1ブロックの東半部で約3m離れて出土した。

接合資料—15

2点接合した。自然面を打面として、求芯状に小型・不定形の剥片を剥離している(1・2)。1の剥離後や大型の剥片を1枚剥離しているが、遺跡内からは出土していない。1ブロック内で、約6.5m離れて出土した。

接合資料—16

2点の剥片が接合した。自然面を打面として連続して剥離される(1・2)。1ブロック南西部から出土した。

接合資料—17

2点の剥片が接合している。大型の剥片を素材とし、右側面の自然面を打面として、裏面側で小型の剥片を2枚剥離している(1・2)。ともに1ブロックに分布し、約9.5m離れて出土した。

接合資料—18

2点の資料からなる。素材の分割面、もしくは主要剥離面を打面として連続して2枚の剥片を剥離している(1・2)。表面には自然面が残る。1ブロック南西部で、約4m離れて出土した。

接合資料—19

2点の剥片が接合した。自然面を打面とする石核から連続して剥離される(1・2)。1ブロックの南半部で、約2m離れて出土した。

接合資料—20

3片に折れた二次加工ある剥片が接合した(1～3)。器体のほぼ中央で縦に二分割した後、左半の破片上位がさらに折られる。裏面末端に折れ面よりも古い調整加工が認められ、剥片に調整を加えた後に分割していることがわかる。1では、表面上端に分割後の調整がわずかに加えられ、別のツールに加工しようとした可能性が考えられる。1と2は1ブロックの南端で近接して出土したが、3は2ブロックに位置していた。

接合資料—21

剥片の破片が折れ面で接合した。大型の剥片をほぼ中央で二分割し、下半はさらに一側を折り取る。下半で折り取られた破片は、遺跡内からは出土していない。2点とも1ブロック内からの出土である。

接合資料—22

縦長の剥片が、ほぼ中央部で折れている。1ブロックの南西部で2m程離れて出土した。

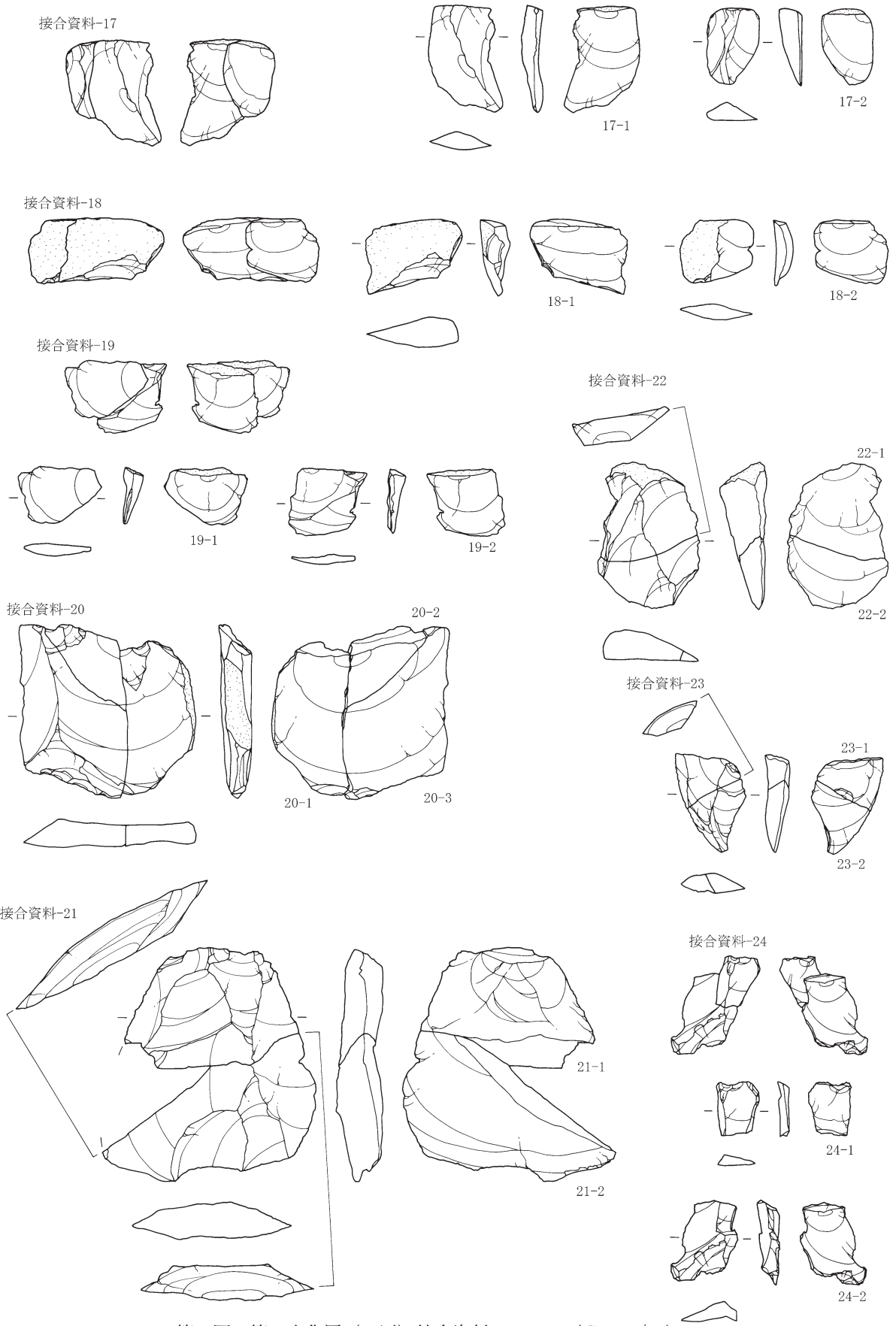
接合資料—23

縦長の剥片が、ほぼ中央で2片に折れたものが接合した。1ブロック南東部で4m程離れて出土した。

接合資料—24

2点の剥片が接合した。打面から連続して少なくとも2枚の剥片を剥離した(1)後、打面再生を行う。再生した打面から2を剥離する。1ブロック南西部で、2m程離れて出土した。

第5節 第3文化層 IV区



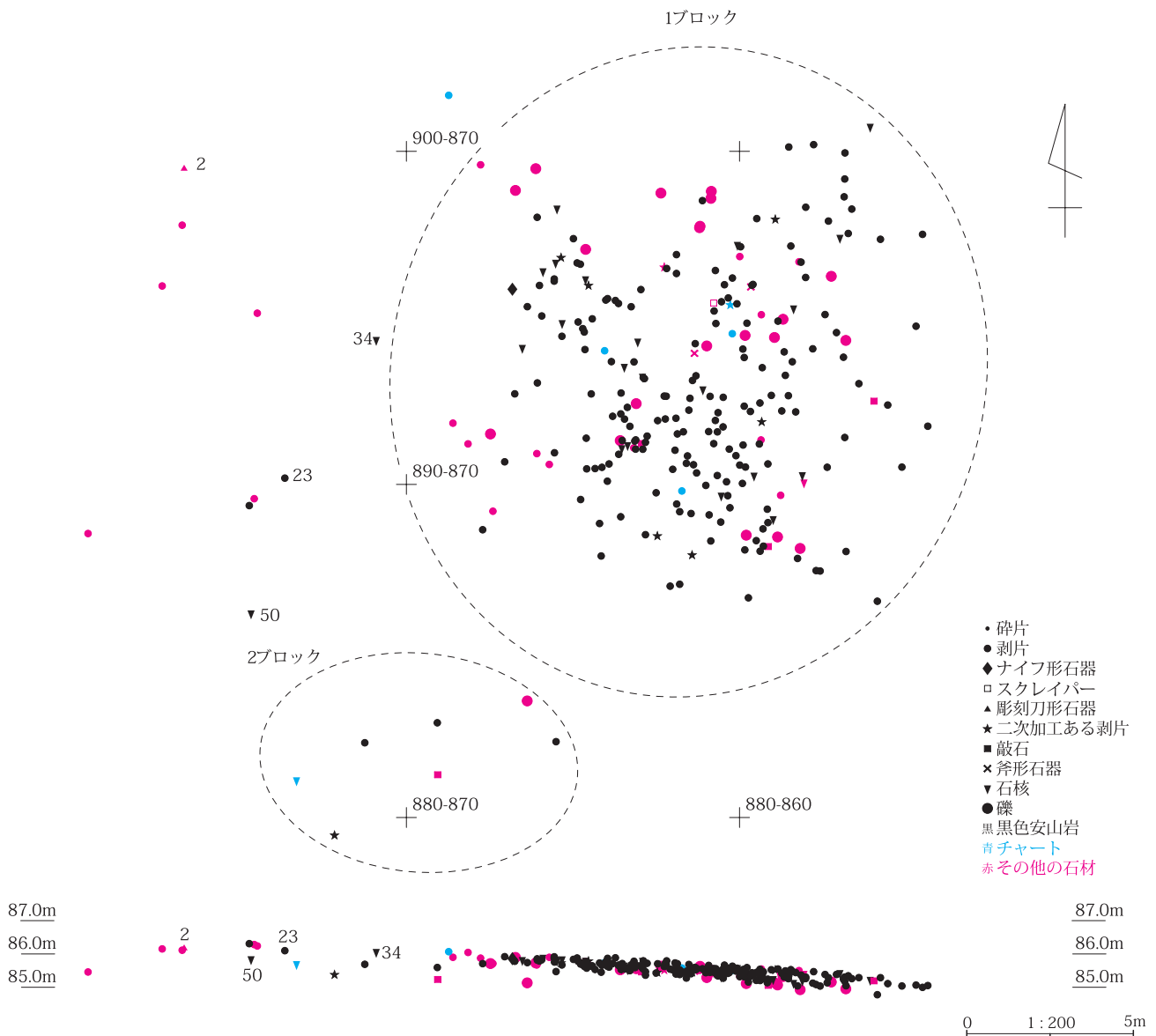
第85図 第3文化層 (IV区) 接合資料-17~24 (S = 1 / 2)

3 石器の分布

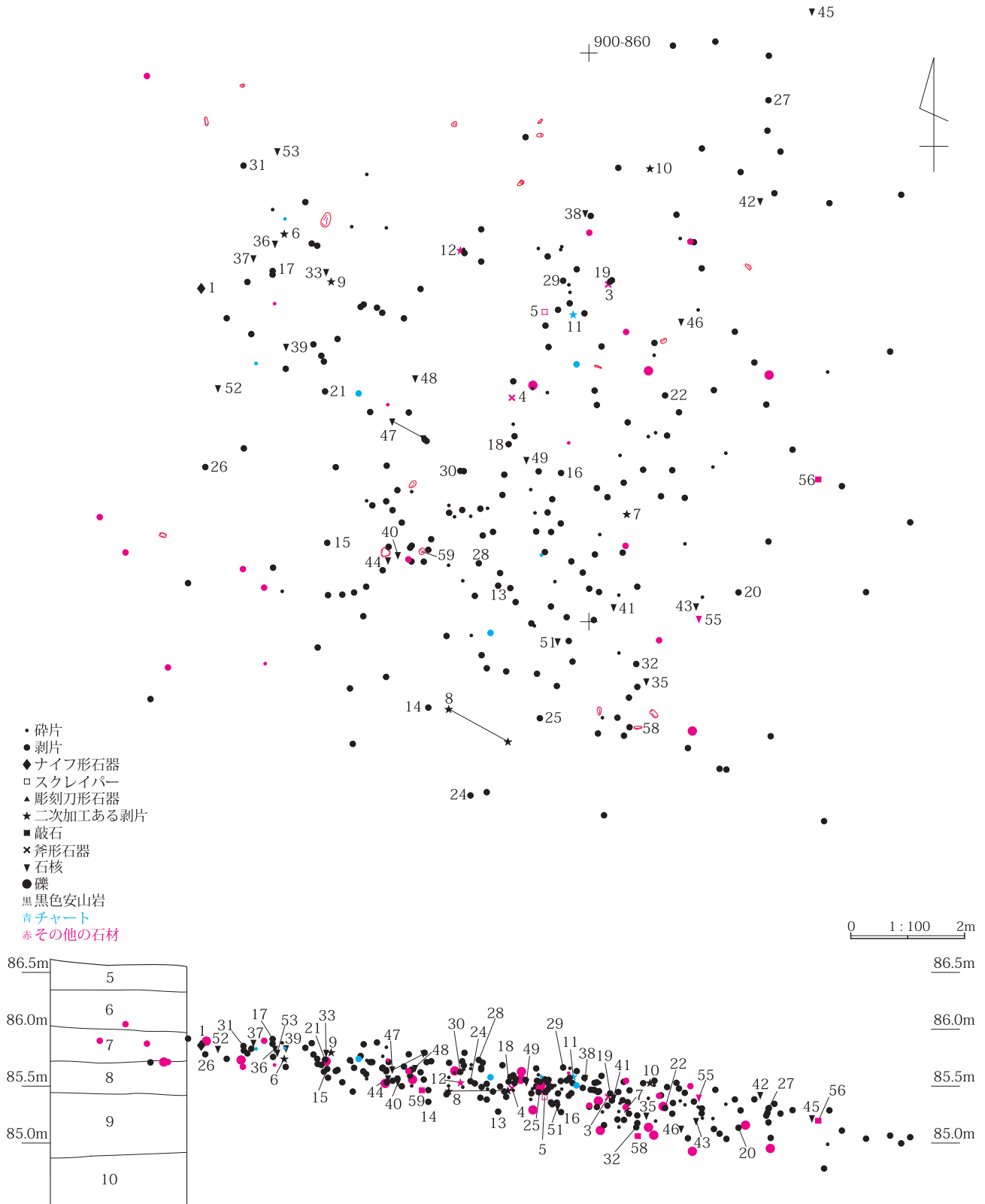
総数317点中、294点が直径15m程の範囲に集中しており、これを1ブロックとした(第86図)。この他、南西部で9点の石器がややまとまっている部分を2ブロックとした。1ブロックは部分的に疎密が認められるが分離するのは困難で、単独のブロックとして捉えることとした。ここからは、21点の礫が出土した。拳～人頭大の円礫であるが、礫群のように集中する状況は認められない。敲打や被熱などの使用の痕跡は無かったが、自然の状態で堆積層中に含まれるものではなく、分布域も他の石器と一致している。

接合資料はほとんどが1ブロック内で完結するが、ブロック外の資料との間に2例(接合資料-2・3)、2ブロックとの間に1例(接合資料-20)の接合例がある(第89~91図)。このことから、ほとんどの資料が同時に存在したものと判断したが、後述する一部の石器については縄文時代に属する可能性が高い。

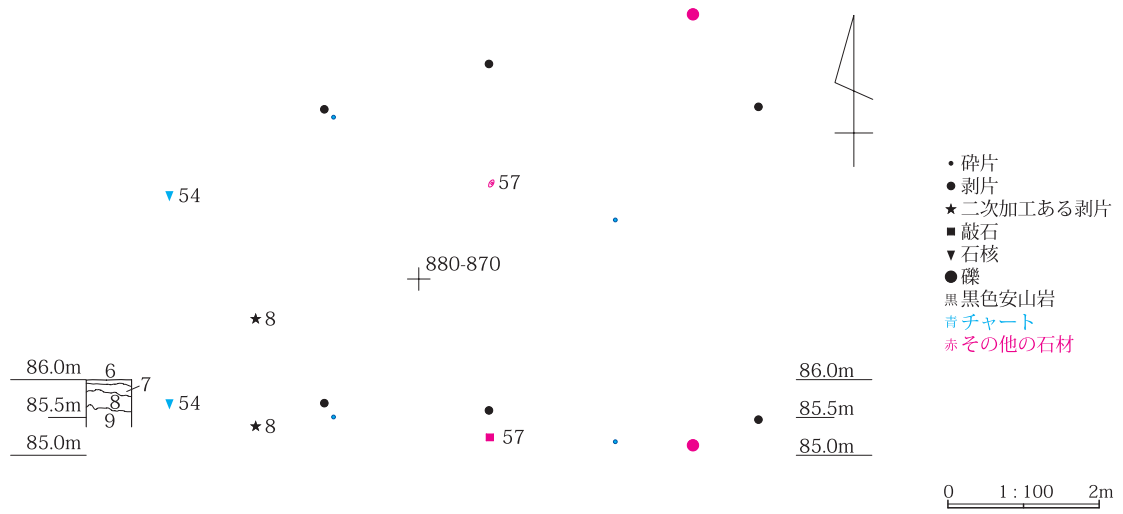
器種や石材による分布の偏りは、特に認められない。圧倒的多数の資料が1ブロックに分布しており、サイズの差が大きすぎて比較対象にならない。1ブロック内でも大きな分布の偏りは見られない。ただし、



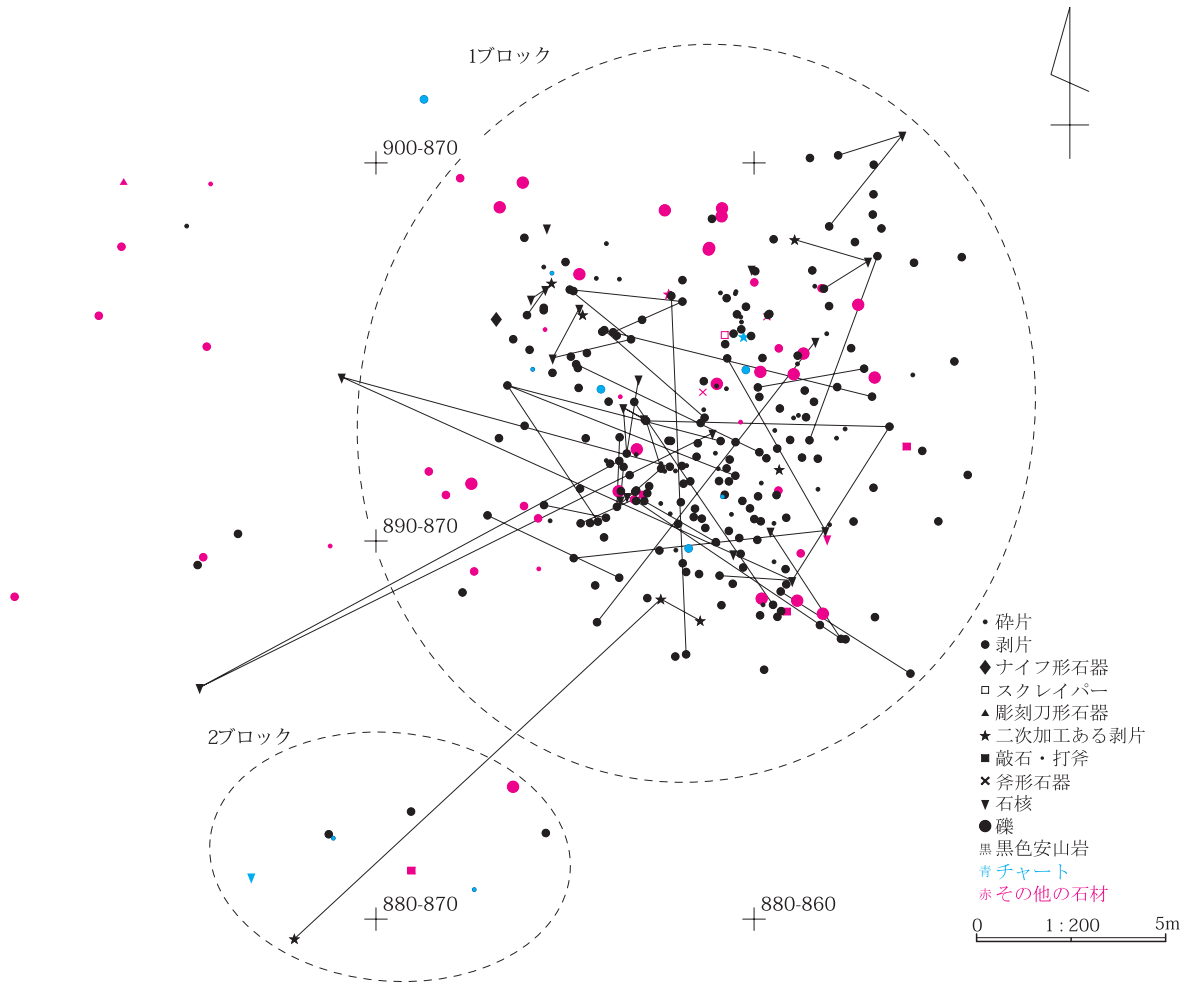
第86図 第3文化層 (IV区) 器種・石材別石器分布



第87図 第3文化層 (IV区) 1ブロック石器分布

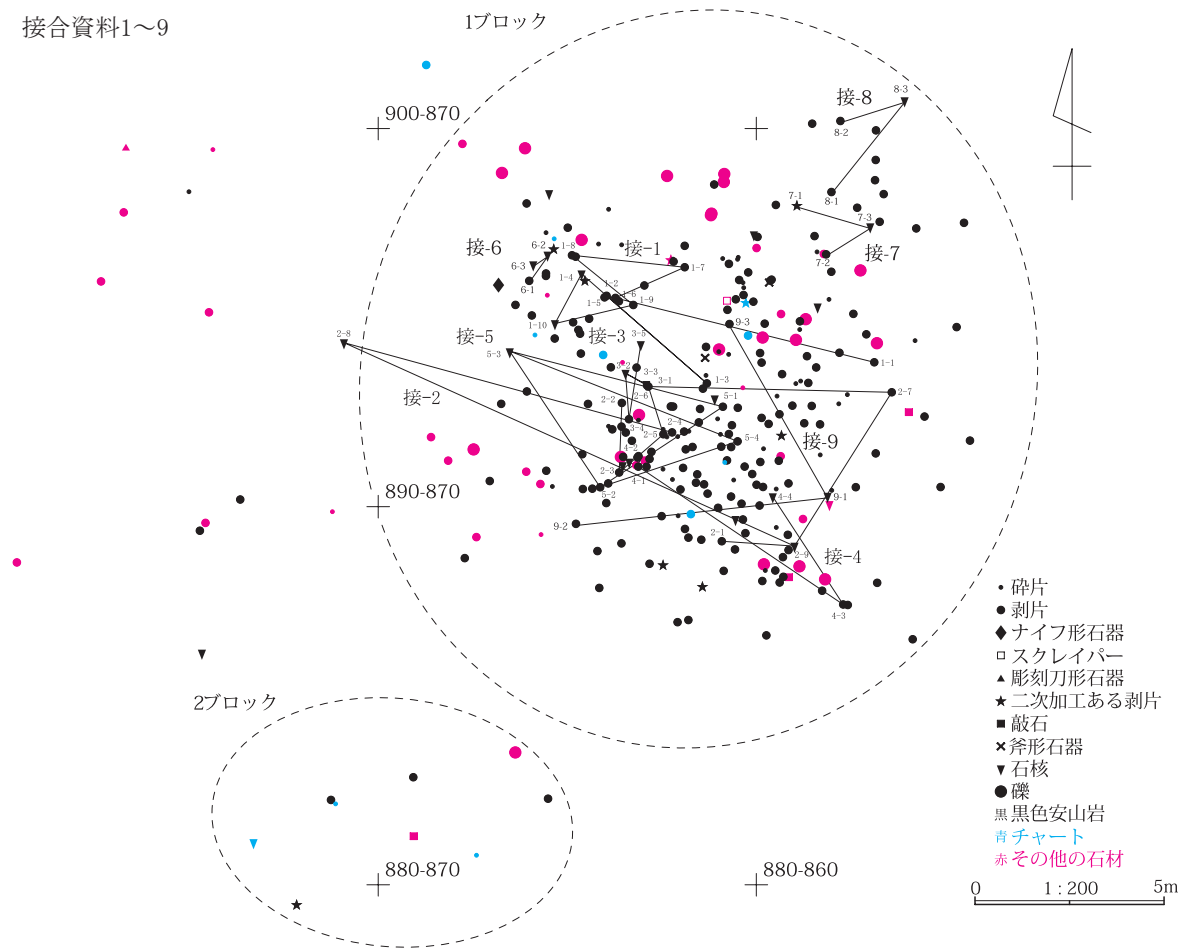


第88図 第3文化層 (IV区) 2ブロック石器分布

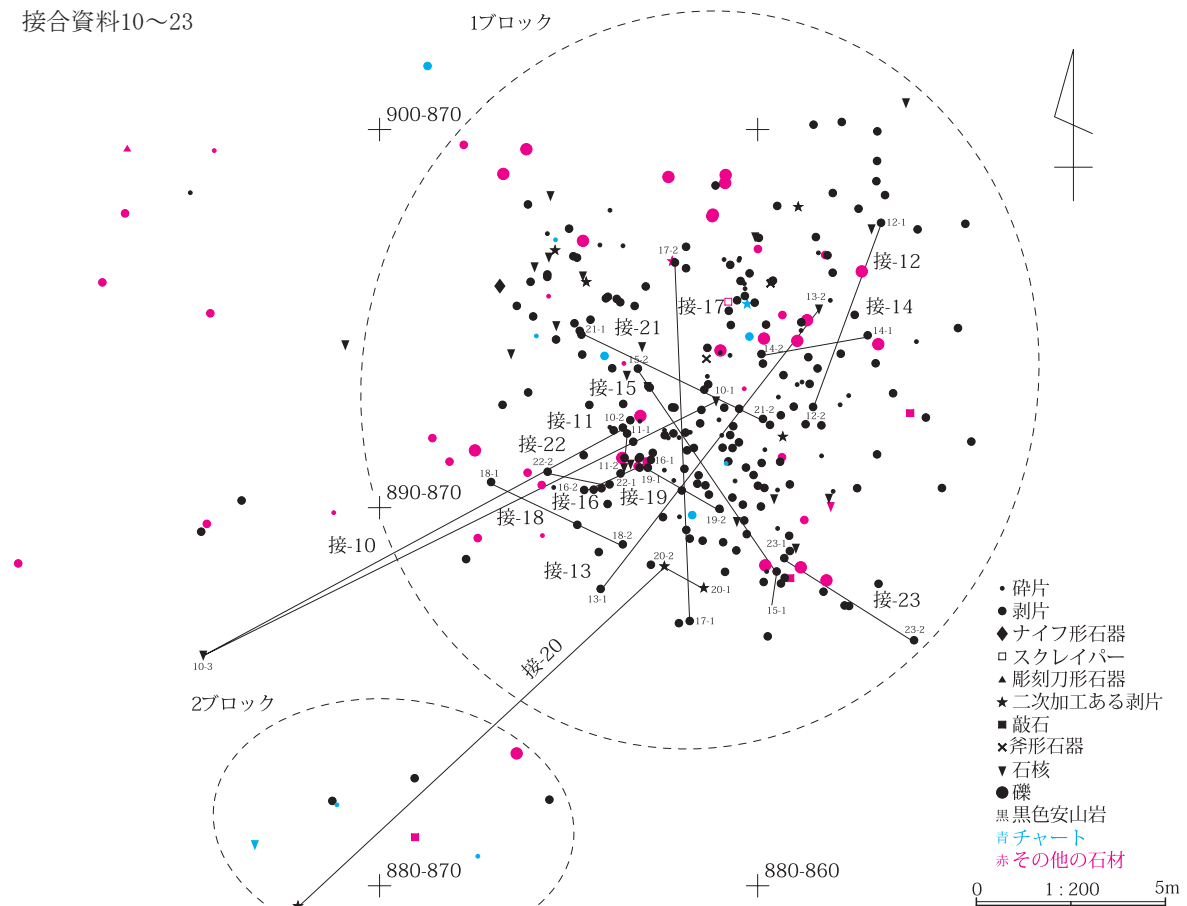


第89図 第3文化層 (IV区) 黒色安山岩接合状況(1)

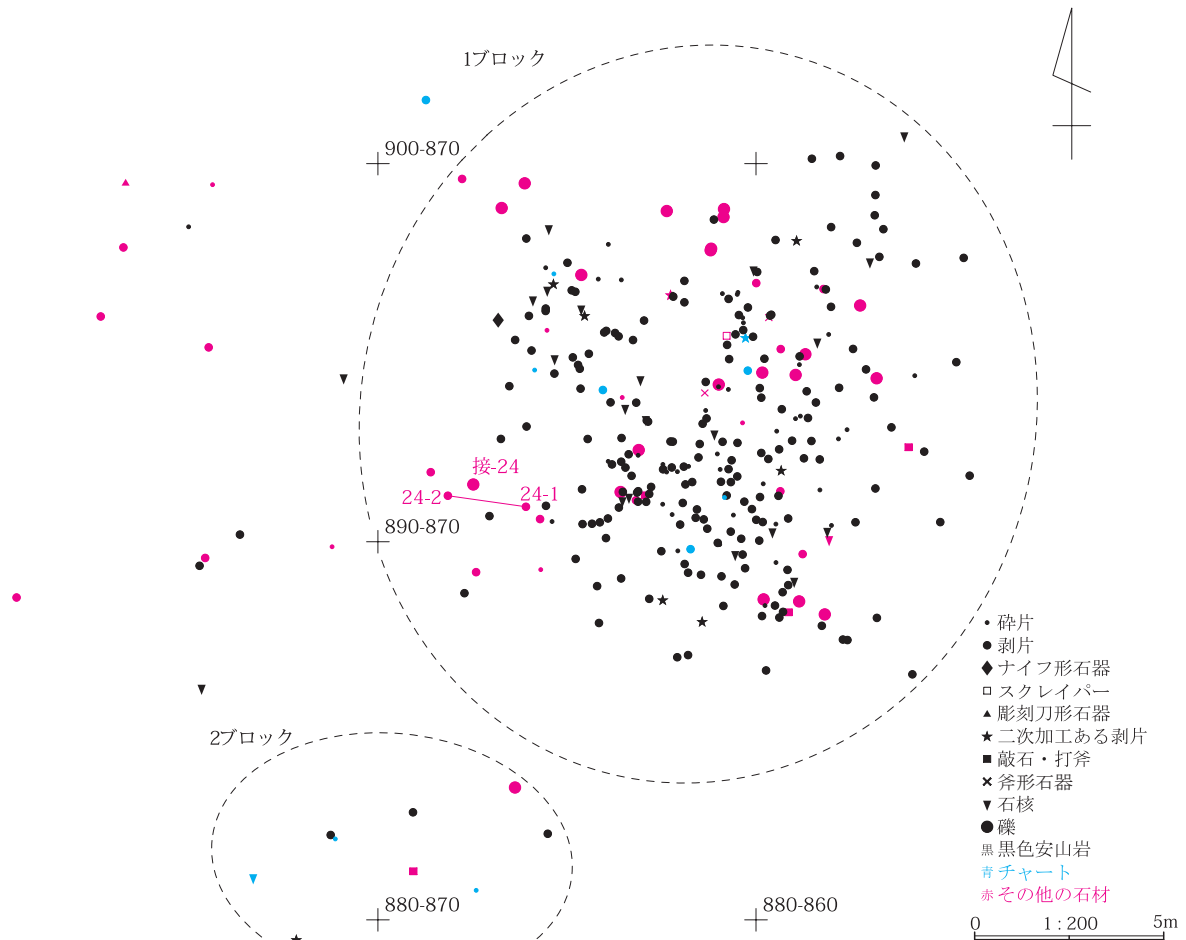
接合資料1~9



接合資料10~23



第90図 第3文化層 (IV区) 黒色安山岩接合状況(2)



第91図 第3文化層 (IV区) その他の石材接合状況

石材別の分布を見たとき、2ブロックやブロック外に黒色安山岩以外の石材が多い傾向は伺える。

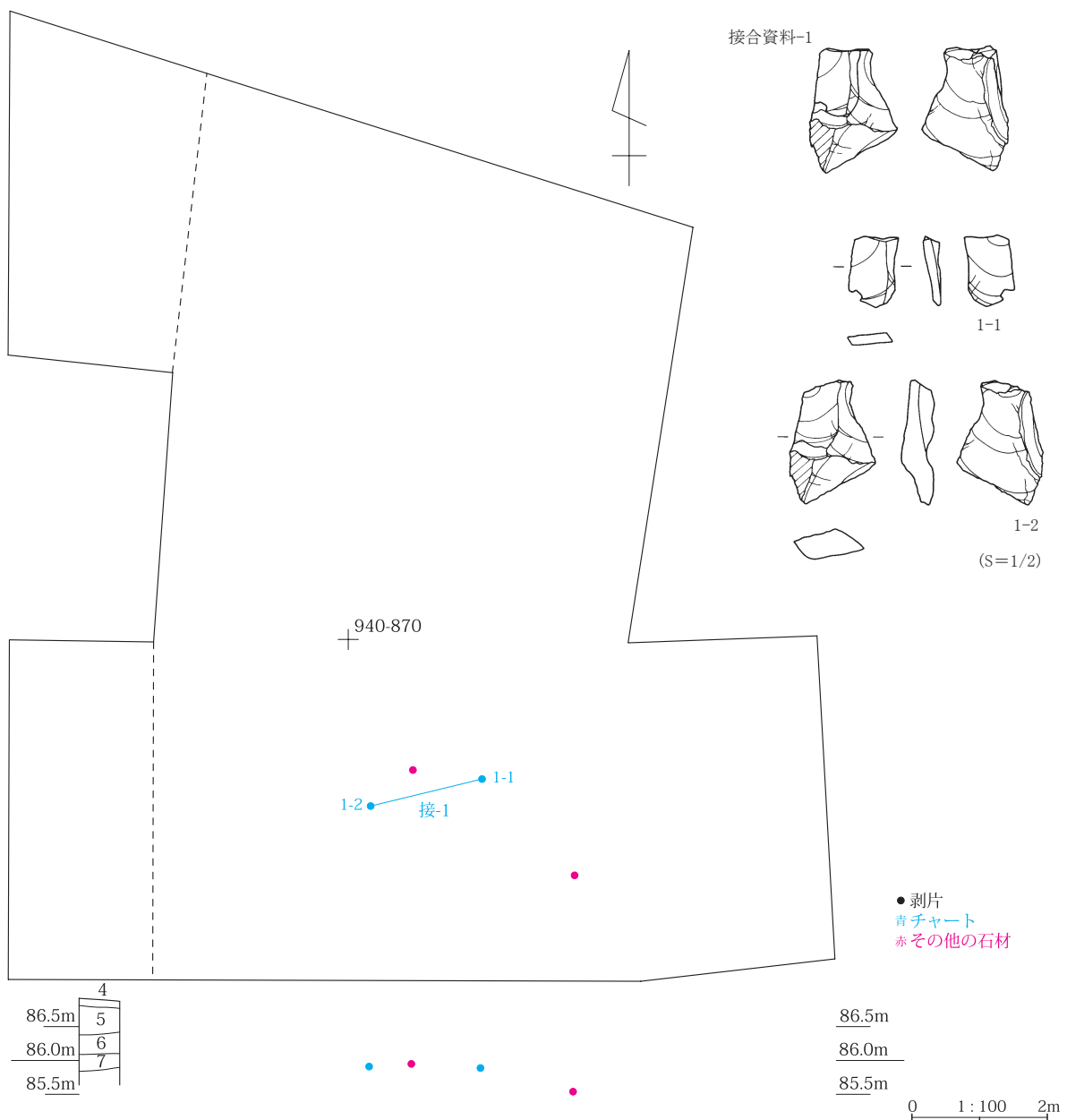
1ブロックには、全体の9割以上の資料が分布していた(第87図)。ナイフ形石器(1)に斧形石器(3・4)、スクレイパー(5)、二次加工ある剥片8点(接合後7点、6~12)、敲石3点(56・58・59)、石核21点(接合後20点、33・35~49・52~53・55)、剥片188点(13~22、24~32)、チップ50点、礫20点である。石材は、敲石と礫を除くと、9割が黒色安山岩である。接合資料もほとんどが1ブロックに分布し、全24例76点中、わずか3点が1ブロック外に位置していた。1ブロックに属さない3点の資料は、石核が2点(34:2-8、50:10-3)と二次加工ある剥片1点(8:20-3)で、いずれもブロック外に持ち出された可能性が高い。接合資料の内容を検討すると、折れた剥片の接合例(接合資料-20~23)を除き、全て剥片剥離の工程を表している。比較的大型の石核を持ち込んで遺跡内で消費してしまうもの(接合資料-1・2)、剥片剥離の進行した石核を搬入して消費するもの(接合資料-3・4・6・8・10・11・13)、複数の剥片を剥離した後石核が遺跡外に搬出されるもの(接合資料-5・12・14~19)など、主に3つのパターンに分けられ、頻りに剥片剥離が行われている状況が窺える。ただし、接合資料-7に含まれる二次加工ある剥片(7-1)のように、折り取られた後に二次加工が施される例も見受けられ、ツール類の調整加工も行われていた可能性は高い。

2ブロックは、8×4m程の範囲から9点の石器が出土した(第88図)。内訳は、二次加工ある剥片1点(8)、石核1点(54)、敲石1点(57)、剥片3点、チップ2点、礫1点である。石材は、礫と敲石を除くと、剥片類4点が黒色安山岩、石核とチップがチャートである。

以上のように、接合資料の検討から、本石器群において剥片剥離が盛んに行われていたことがわかった。一部の剥片は加工を施され、そのまま遺跡内に残されたり、外部に持ち運ばれたものと推測される。その一方、本石器群には斧形石器が2点含まれている(3・4)。この2点の斧形石器は1ブロックの中央部から出土したが、同一母岩と思われる調整剥片やチップなどは全く出土しておらず、遺跡外で製作されて搬入されたものと判断できる。4は基部を欠損するが、3は刃部を一部欠くものの、まだ十分に本来の機能を有している。本石器群が、黒色安山岩の剥片剥離とツールの製作の場であれば、このような石器が搬入され、遺棄される理由が見あたらない。2点の斧形石器は形態的な差異が大きく、同じ用途に供されたものか否かについてはなお検討の余地があるが、これらを利用した何らかの作業が行われていた可能性は考えられよう。

4 側道部出土の石器

側道部分から4点の石器が出土している(第92図)。本線部の石器出土地点からは北側に40m程離れている。



第92図 第3文化層 (IV区) 側道部分石器分布

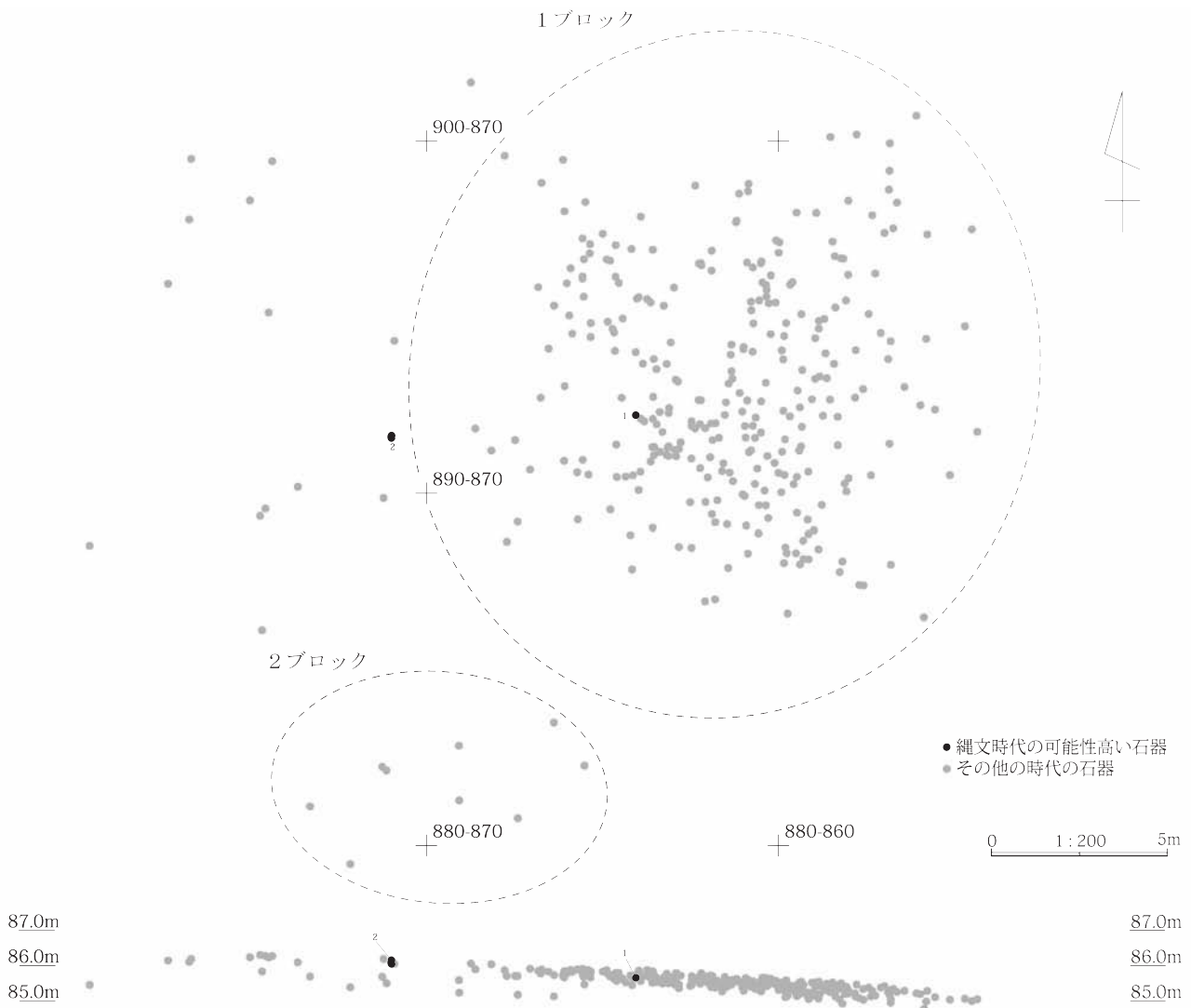
第2章 旧石器時代

出土層位は9層で、本線部と同じである。ただし、本線部との間に接合関係や同一母岩に含まれる資料などはなく、同時に存在したものか不明である。

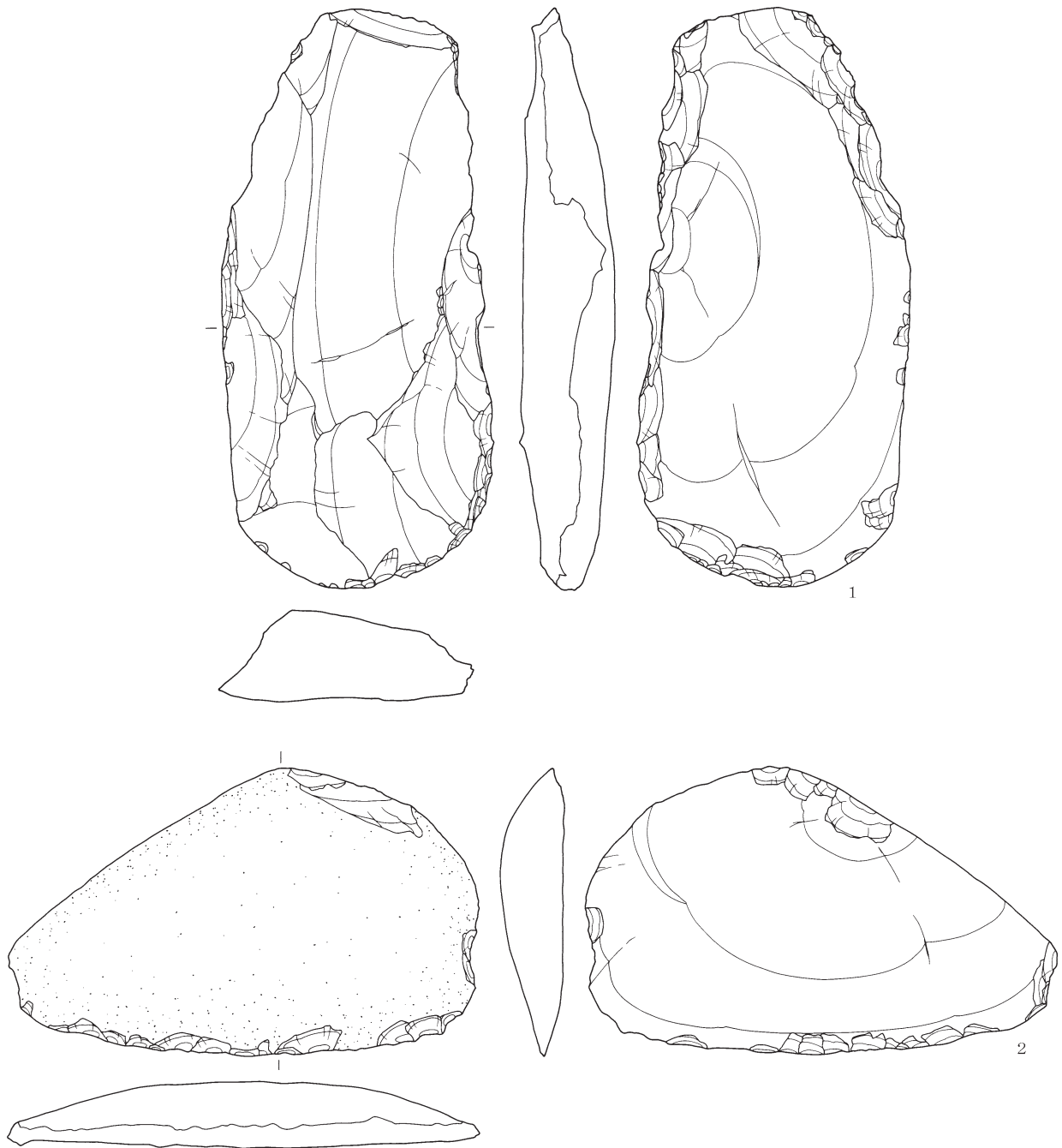
石器は3×1.5m程の範囲に分布しており、全て剥片であった。石材は黒色頁岩とチャートが2点ずつで、チャートの2点は接合する。この接合資料-1は、上面の打面から少なくとも2枚の剥片を剥離した後打面を再生し、連続して2枚剥離している(1・2)。

5 その他の石器

出土した石器のうち、縄文時代の混入と疑われるものが2点あった(第93・94図)。この2点は黒色頁岩製であるが、他の同一石材の石器と比較して風化の度合いが著しく低い。その一方、縄文時代の遺物と位置付けるには、確実な根拠に乏しい。出土層位は1が9層であるが、2は7層とやや高い位置であった。ただし、7層出土の石器でも他の資料と接合するものが複数あり、一概に縄文時代の遺物とは判断できない。その一方、調査の過程で、9層中から縄文時代の凹石が出土した例もあった。このような状況を鑑み、この2点については混入の可能性が高いものと判断した。そのため、前段の器種組成や石材組成にはこの2点を入れず、



第93図 縄文時代の混入と思われる石器の出土位置



第94図 縄文時代の混入と思われる石器

一連の分布図にも位置を落としていない。この地点の上層には縄文時代の遺構が多数存在し、深く掘り込まれた柱穴などが暗色帯にまで達し、内部に遺物が落ち込んだことは十分に想定できる。本来縄文時代の混入であれば出土位置や実測図などはここでは掲載しないが、先述のように時期を確定する根拠が弱いいため、後々の検討材料として取り上げておく。

1は打製石斧で、横長剥片を素材とし、主に裏面周辺に調整を加える。使用によると思われる微細な剝離や摩耗などは見られない。2はスクレイパーで、表面が自然面に覆われた横長剥片を素材とし、裏面の打面部と末端部表裏に調整を加える。1ブロック西側から他の2点の石器とまとめて出土した。この2点（遺物No.246・293）も縄文時代の遺物の可能性が高く、旧石器時代遺物の器種組成・石材組成からは除外した。

第2章 旧石器時代

旧石器時代 石器属性表 (単位は長・幅・厚:cm、重量:g)

第1文化層

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備	考
本I	1			剥片	チャート	3.4	1.4	0.7	2.78	1	5	38981.030	-54100.970	87.370		
本I	2	9		礫器	溶結凝灰岩	10.5	11.6	4.4	644.70	1	4	38981.020	-54100.540	87.440		
本I	3	8	7-3	石核	変玄武岩	9.6	10.7	7.2	845.90	1	4	38980.820	-54100.240	87.420		
本I	4			礫	溶結凝灰岩	13.3	11.8	7.4	1954.50	1	4	38981.000	-54100.200	87.385		
本I	5	6	1-5	石核	ホルンフェルス	11.7	9.2	7.0	1209.10	1	4	38981.220	-54100.260	87.405		
本I	6	7		石核	黒色安山岩	3.5	4.3	1.4	19.66	1	4	38982.960	-54100.740	87.430		
本I	7		1-1	剥片	ホルンフェルス	8.3	6.9	2.2	121.67	1	4	38983.200	-54100.660	87.460		
本I	8		1-4	剥片	ホルンフェルス	9.6	5.7	1.9	108.27	1	4	38983.200	-54100.180	87.415		
本I	9			礫	溶結凝灰岩	6.5	5.8	5.1	260.80	1	4	38981.160	-54099.780	87.450		
本I	10			剥片	ホルンフェルス	4.8	5.4	1.8	37.97	1	4	38981.360	-54099.710	87.445		
本I	11			チップ	ホルンフェルス	0.8	1.4	0.2	0.34	1	5	38981.570	-54099.670	87.400		
本I	12	4	2-4	石核	ホルンフェルス	5.3	3.1	2.7	59.07	1	4	38981.720	-54099.560	87.460		
本I	13	5	2-2	石核	ホルンフェルス	9.4	5.1	2.0	88.82	1	4	38981.430	-54098.760	87.485		
本I	14			剥片	ホルンフェルス	1.6	1.6	0.9	2.97	1	4	38981.510	-54098.740	87.510		
本I	15		1-3	剥片	ホルンフェルス	4.5	3.6	1.2	15.30	1	4	38981.440	-54098.700	87.575		
本I	16		3-1	剥片	ホルンフェルス	6.1	4.0	1.9	34.81	1	4	38981.480	-54098.650	87.475		
本I	17		4-1	剥片	ホルンフェルス	5.7	7.8	2.1	88.80	1	4	38981.340	-54098.660	87.470		
本I	18		5-1	剥片	ホルンフェルス	3.1	4.3	1.4	15.26	1	4	38981.400	-54098.630	87.515		
本I	19		5-2	剥片	ホルンフェルス	2.9	3.6	1.2	10.37	1	4	38981.420	-54098.520	87.610		
本I	20		7-2	剥片	変玄武岩	9.1	7.4	3.4	191.04	1	4	38981.820	-54098.230	87.575		
本I	21	3	6-1	石核	溶結凝灰岩	11.5	8.8	5.4	612.90	1	4	38983.430	-54099.660	87.405		
本I	22			剥片	黒色安山岩	1.8	3.6	1.1	4.81	1	4	38983.500	-54099.570	87.445		
本I	23		4-2	剥片	ホルンフェルス	7.4	4.3	2.8	83.93	1	4	38983.600	-54099.560	87.425		
本I	24		8-2	礫	溶結凝灰岩	11.1	10.1	6.7	984.70	1	4	38983.230	-54098.940	87.425		
本I	25		8-1	礫	溶結凝灰岩	17.0	13.6	8.8	3085.99	1	4	38984.240	-54099.200	87.410		
本I	26		7-1	剥片	変玄武岩	8.8	6.8	2.8	168.90	1	4	38982.640	-54097.880	87.535		
本I	27		2-1	剥片	ホルンフェルス	8.2	6.3	3.0	151.37	1	4	38982.580	-54097.640	87.550		
本I	28			剥片	黒色安山岩	3.3	2.1	0.8	4.36	外	4	38985.410	-54097.750	87.475		
本I	29		6-2	剥片	溶結凝灰岩	10.0	5.6	2.7	141.35	2	4	38984.460	-54096.700	87.510		
本I	30	1	6-3	RF	溶結凝灰岩	10.6	5.4	2.0	110.01	2	4	38984.380	-54096.580	87.525		
本I	31	2	6-4	石核	溶結凝灰岩	11.2	6.3	4.7	347.00	2	4	38983.940	-54095.690	87.485		
本I	32		8-3	礫	溶結凝灰岩	7.9	6.1	3.3	129.01	2	4	38985.580	-54095.260	87.490		
本I	33		1-2	剥片	ホルンフェルス	6.7	5.2	1.2	36.26	2	4	38985.410	-54094.720	87.590		
本I	34		3-3	剥片	ホルンフェルス	2.5	2.1	0.7	3.83	2	③	38984.200	-54094.460	87.730		
本I	35		3-4	剥片	ホルンフェルス	4.4	5.8	1.5	39.59	2	4	38984.630	-54094.430	87.535		
本I	36		3-2	剥片	ホルンフェルス	2.5	2.6	1.4	6.98	2	4	38984.920	-54094.280	87.630		
本I	37		2-3	剥片	ホルンフェルス	8.3	3.3	1.9	53.98	2	4	38985.520	-54093.220	87.555		
本I	38		5-3	剥片	ホルンフェルス	2.1	2.6	0.5	1.42	1	4	38981.410	-54098.510	87.605		

第2文化層

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備	考
本I	39	1		ナイフ形石器	チャート	2.5	1.3	0.5	1.55	外	6	39008.705	-54092.705	87.545		
本I	40	16		石核	チャート	2.3	3.2	1.3	7.69	外	6	39008.895	-54092.736	87.512		
本I	41			欠番												
本I	42			剥片	チャート	3.0	2.0	0.7	2.91	外	5	39009.770	-54093.077	87.778		
本I	43			剥片	チャート	2.0	1.8	0.7	2.16	外	5	39010.730	-54093.522	87.583		
本I	44	13	1-4	石核	チャート	2.5	2.6	1.9	9.77	外	5	39011.277	-54094.551	87.584		
本I	45			剥片	黒色頁岩	1.7	3.6	0.3	1.36	外	5	39011.413	-54095.157	87.878		
本I	46			剥片	黒色頁岩	2.7	2.8	0.3	2.45	外	5	39011.182	-54096.379	87.879	剥離したバルバスカ	
本I	47			剥片	チャート	2.0	1.6	0.9	1.86	外	5	39010.870	-54097.498	87.914		
本I	48	10		剥片	黒色頁岩	6.4	7.2	2.7	121.27	外	5	39010.499	-54097.713	87.464		
本I	49			チップ	チャート	1.1	1.4	0.4	0.56	1	5	39010.014	-54097.065	87.497		
本I	50	17	3-3	石核	チャート	3.1	2.3	1.1	4.92	1	6	39009.348	-54094.681	87.476		
本I	51			剥片	チャート	2.3	1.9	0.9	2.49	1	6	39009.260	-54094.666	87.486		
本I	52	4		ナイフ形石器	チャート	2.4	1.7	0.8	2.48	1	7	39009.273	-54094.993	87.381		
本I	53			剥片	チャート	1.5	2.0	0.7	1.22	1	6	39009.166	-54095.057	87.432		
本I	54	9	1-3	RF	チャート	2.2	2.0	0.6	2.30	1	6	39009.345	-54095.301	87.467		
本I	55			剥片	チャート	1.0	2.3	0.3	0.48	1	5	39008.865	-54095.615	87.640		
本I	56	19	4-3	石核	チャート	2.4	3.2	1.5	7.80	1	5	39008.385	-54095.272	87.845		
本I	57			欠番												
本I	58			欠番												
本I	59	15	1-1	石核	チャート	1.2	2.7	1.8	4.39	1	4	39007.111	-54094.685	87.837		
本I	60			欠番												
本I	61	3		ナイフ形石器	チャート	2.6	1.3	0.7	2.03	1	5	39005.987	-54096.166	87.866		
本I	62		6-1	剥片	チャート	1.7	2.6	0.5	1.13	1	6	39006.898	-54096.626	87.490		
本I	63	17	3-2	石核	チャート	2.1	4.0	1.1	7.10	1	5	39006.906	-54096.344	87.765		
本I	64			剥片	チャート	2.1	1.8	0.6	2.11	1	6	39007.158	-54095.694	87.394		
本I	65			チップ	チャート	0.8	0.8	0.2	0.16	1	6	39007.820	-54095.063	87.492		
本I	66		3-1	剥片	チャート	1.6	1.6	0.5	0.94	1	6	39008.239	-54095.543	87.533		
本I	67	2		ナイフ形石器	チャート	2.6	1.2	0.7	1.85	1	5	39008.480	-54095.767	87.722		
本I	68			剥片	チャート	1.6	1.6	0.4	0.79	1	5	39008.386	-54095.762	87.585		
本I	69		4-1	剥片	チャート	1.4	1.7	0.5	0.79	1	6	39008.505	-54095.974	87.431		
本I	70	11	7-1	剥片	チャート	1.4	1.1	1.0	1.56	1	7	39008.189	-54095.937	87.286		
本I	71			チップ	チャート	1.0	0.9	0.3	0.18	1	5	39007.945	-54095.815	87.584		
本I	72			剥片	チャート	1.6	1.7	0.6	1.09	1	5	39007.835	-54095.873	87.627		
本I	73			チップ	チャート	1.2	0.7	0.2	0.12	1	5	39008.026	-54096.083	87.789		
本I	74			チップ	チャート	1.2	1.0	0.5	0.57	1	6	39007.831	-54096.202	87.512		
本I	75			チップ	チャート	0.6	1.2	0.2	0.16	1	6	39007.712	-54096.137	87.474		
本II	76			チップ	チャート	0.9	0.9	0.4	0.32	1	6	39007.743	-54096.301	87.511		

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X 座 標	Y 座 標	Z座標	備 考
本I	77			チップ	チャート	0.7	1.2	0.2	0.25	1	5	39007.686	-54096.458	87.533	
本I	78			チップ	安山岩ガラス	0.6	0.6	0.4	0.13	1	6	39007.498	-54096.225	87.500	
本I	79			チップ	チャート	0.7	0.6	0.2	0.11	1	6	39007.457	-54096.363	87.518	
本I	80	7		RF	チャート	1.9	1.4	0.8	1.29	1	5	39007.373	-54096.835	87.628	
本I	81	14		石核	チャート	3.0	1.7	2.2	7.83	1	5	39007.503	-54097.402	87.794	
本I	82			チップ	チャート	0.6	0.7	0.2	0.07	1	5	39007.623	-54097.415	87.606	
本I	83			欠番											
本I	84			チップ	チャート	0.9	0.7	0.5	0.30	1	6	39007.718	-54096.902	87.363	
本I	85	6		ナイフ	チャート	2.6	1.5	0.7	2.23	1	7	39007.820	-54096.622	87.307	
本I	86			チップ	チャート	1.1	1.7	0.3	0.69	1	5	39007.869	-54096.749	87.535	
本I	87			チップ	チャート	1.2	0.5	0.3	0.15	1	6	39007.809	-54096.913	87.508	
本I	88			チップ	チャート	0.9	1.1	0.2	0.18	1	6	39008.075	-54096.803	87.526	
本I	89			チップ	チャート	0.9	0.9	0.3	0.21	1	6	39008.020	-54096.671	87.522	
本I	90		2-1	剥片	チャート	1.8	3.0	1.2	5.89	1	6	39007.964	-54097.055	87.467	
本I	91			剥片	チャート	1.5	2.6	0.8	2.91	1	5	39008.023	-54097.231	87.668	
本I	92		2-2	剥片	チャート	2.1	2.8	1.2	5.86	1	5	39008.341	-54097.156	87.744	
本I	93		5-3	剥片	チャート	1.7	2.0	0.6	1.68	1	5	39008.236	-54096.636	87.693	
本I	94			剥片	チャート	1.7	1.5	0.7	1.68	1	5	39008.162	-54096.560	87.699	
本I	95			剥片	チャート	1.3	1.9	0.6	0.88	1	5	39008.080	-54096.373	87.576	
本I	96			剥片	チャート	1.1	1.8	0.5	1.67	1	5	39008.190	-54096.259	87.550	
本I	97		1-2	チップ	チャート	0.9	0.9	0.2	0.18	1	5	39008.200	-54096.306	87.551	
本I	98			チップ	チャート	1.3	1.5	0.2	0.36	1	6	39008.243	-54096.422	87.450	
本I	99			チップ	チャート	0.8	1.0	0.1	0.08	1	5	39008.375	-54096.215	87.693	
本I	100	18	2-4	石核	チャート	3.6	1.6	1.2	6.76	1	6	39008.548	-54096.500	87.429	
本I	101			チップ	チャート	0.8	0.8	0.2	0.14	1	7	39008.585	-54096.391	87.318	
本I	102			チップ	チャート	0.7	1.7	0.3	0.34	1	6	39008.692	-54096.299	87.451	
本I	103			チップ	チャート	1.0	1.4	0.2	0.31	1	7	39008.771	-54096.234	87.307	
本I	104		5-2	剥片	チャート	1.9	2.1	1.1	4.18	1	6	39009.003	-54096.183	87.438	
本I	105			チップ	チャート	0.6	1.3	0.2	0.14	1	6	39009.256	-54096.373	87.444	
本I	106	5		ナイフ	チャート	3.0	1.7	0.6	2.57	1	6	39009.358	-54096.074	87.477	
本I	107	12		石核	チャート	2.2	1.8	1.0	4.60	1	5	39008.823	-54096.843	87.862	
本I	108			チップ	チャート	1.7	1.3	0.6	1.59	1	7	39008.665	-54096.854	87.294	
本I	109	11	7-2	剥片	チャート	2.8	1.3	1.1	2.97	1	5	39008.549	-54097.018	87.596	
本I	110	19	4-2	石核	チャート	1.7	2.7	0.9	3.36	1	6	39008.474	-54097.089	87.445	
本I	111			チップ	チャート	0.6	0.9	0.2	0.08	1	6	39008.524	-54097.458	87.484	
本I	112			剥片	チャート	1.6	1.7	0.5	0.95	1	5	39008.131	-54097.824	87.887	
本I	113			チップ	チャート	0.4	1.3	0.2	0.11	1	5	39008.351	-54097.745	87.667	
本I	114		5-1	剥片	チャート	1.3	1.8	1.0	1.92	1	5	39008.438	-54097.966	87.811	
本I	115		6-2	剥片	チャート	2.6	3.4	1.0	6.36	1	5	39008.583	-54097.745	87.839	
本I	116			チップ	珪質頁岩	0.6	0.6	0.2	0.07	1	6	39008.908	-54098.185	87.509	
本I	117			チップ	チャート	0.8	1.8	0.5	0.75	1	6	39009.177	-54097.423	87.477	
本I	118		2-3	チップ	チャート	1.3	0.5	0.3	0.17	1	6	39009.015	-54097.248	87.512	
本I	119			剥片	チャート	2.8	1.6	1.0	2.57	1	5	39009.390	-54097.226	87.673	
本I	120			剥片	チャート	1.2	2.4	0.4	0.96	1	5	39009.416	-54097.799	87.842	
本I	121			チップ	黒曜石	1.1	1.1	0.1	0.09	外	7	39009.403	-54099.100	87.324	
本I	122			チップ	チャート	1.1	0.7	0.2	0.12	1	5	39008.388	-54095.249	87.802	
本I	123	8		RF	チャート	1.7	2.1	0.7	2.42	1	5	39008.070	-54096.099	87.671	
本I	124			剥片	チャート	1.7	1.1	0.4	0.69	1	6	39008.034	-54096.698	87.424	
本I	125			剥片	チャート	1.8	1.7	0.9	2.97	1	5	39008.171	-54096.602	87.589	
本I	126			剥片	チャート	1.2	1.6	0.5	0.89	1	5	39008.926	-54096.765	87.697	

第2文化層 (ブロック外)

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X 座 標	Y 座 標	Z座標	備 考
側I	1	1		ナイフ形石器	黒曜石	6.8	1.8	1.2	9.61		6	014.83	081.57	87.800	原産地：諏訪星ヶ台群
側I	2	2		剥片	黒色頁岩	5.9	4.4	2.2	36.43		7	995.980	026.25	87.335	

第3文化層 II・III区

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X 座 標	Y 座 標	Z座標	備 考
本II	1			剥片	黒色安山岩	2.5	1.6	0.6	2.18	7	8	38969.045	-53975.875	86.634	
本II	2			剥片	黒色安山岩	1.6	2.3	0.8	2.33	7	8	38967.846	-53977.030	86.628	
本II	3	62		石核	黒色頁岩	3.8	5.1	1.4	25.72	6	8	38966.719	-53975.025	86.610	
本II	4	2		台形様石器	黒色安山岩	3.0	2.0	0.8	3.78	6	8	38965.976	-53975.470	86.590	
本II	5	44	2-5	石核	黒色安山岩	3.2	3.9	1.6	19.42	外	8	38965.361	-53978.388	86.623	
本II	6	26	18-2	剥片	黒色安山岩	3.8	3.9	1.1	14.13	6	8	38963.808	-53976.768	86.550	
本II	7			剥片	黒色安山岩	3.2	3.9	0.9	9.33	6	8	38963.192	-53976.953	86.581	
本II	8		2-4	剥片	黒色安山岩	2.3	2.4	1.4	7.36	6	8	38962.594	-53977.569	86.567	
本II	9		5-1	剥片	黒色安山岩	2.7	3.4	1.0	5.88	6	8	38962.210	-53978.437	86.628	
本II	10			剥片	黒色安山岩	1.5	1.8	0.3	0.58	7	9	38969.309	-53976.269	86.490	
本II	11			礫	溶結凝灰岩	8.7	5.4	1.9	98.41	7	9	38969.747	-53976.991	86.502	
本II	12			礫	溶結凝灰岩	5.2	5.8	2.9	56.53	7	9	38969.609	-53976.991	86.452	
本II	13			剥片	黒色安山岩	1.6	3.4	0.7	5.18	7	9	38969.188	-53975.871	86.414	
本II	14			剥片	黒色安山岩	3.8	2.2	0.9	4.41	7	9	38968.803	-53976.413	86.375	
本II	15		33-2	礫	溶結凝灰岩	6.2	3.3	1.8	35.74	7	9	38968.257	-53976.265	86.554	
本II	16		33-1	礫	溶結凝灰岩	6.1	5.0	2.4	57.36	7	9	38969.195	-53977.090	86.497	
本II	17			剥片	黒色安山岩	1.8	3.2	0.6	2.51	7	9	38968.533	-53976.902	86.575	
本II	18	29		剥片	黒色安山岩	3.1	2.2	1.0	5.70	6	9	38967.163	-53975.975	86.496	
本II	19			剥片	黒色安山岩	1.4	4.3	1.2	4.85	6	9	38965.929	-53975.791	86.451	
本II	20			礫	溶結凝灰岩	4.8	4.0	1.2	24.55	6	9	38965.499	-53976.129	86.425	
本II	21	32		剥片	黒色安山岩	4.0	4.0	1.0	15.55	6	9	38964.434	-53974.975	86.492	
本II	22	48		石核	黒色安山岩	1.3	3.7	1.6	7.90	6	9	38964.293	-53975.486	86.486	
本II	23		1-1	剥片	黒色安山岩	3.4	4.5	1.1	15.68	5	9	38962.617	-53975.176	86.416	

第2章 旧石器時代

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ック	出土 層位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考
本II	24			剥片	黒色安山岩	1.8	3.1	0.8	2.80	5	9	38962.448	-53975.603	86.494	
本II	25	13		RF	黒色安山岩	4.1	5.5	1.4	23.73	5	9	38962.033	-53975.366	86.448	
本II	26			剥片	砂岩	2.3	2.0	1.0	5.43	外	9	38966.210	-53979.635	86.459	
本II	27			礫	溶結凝灰岩	9.5	6.4	3.0	171.85	7	9	38967.828	-53979.298	86.505	
本II	28			欠番											
本II	29		32-1	礫	砂岩	6.5	5.2	3.5	157.47	外	9	38971.132	-53983.149	86.555	
本II	30			欠番											
本II	31	19		RF	黒色安山岩	3.2	2.6	1.1	10.00	7	9	38968.912	-53977.661	86.435	
本II	32	24		剥片	変玄武岩	2.5	1.4	0.7	2.46	5	8	38959.317	-53970.654	86.563	
本II	33			剥片	黒色安山岩	2.0	3.6	1.0	6.30	5	8	38960.260	-53970.957	86.495	
本II	34	49		石核	黒色安山岩	3.7	4.8	2.4	36.09	5	8	38960.721	-53970.762	86.510	
本II	35			剥片	黒色安山岩	1.9	1.2	0.7	1.40	5	8	38961.735	-53970.825	86.637	
本II	36			剥片	黒色安山岩	2.9	3.1	1.0	8.56	5	8	38962.319	-53971.580	86.534	
本II	37			剥片	黒色安山岩	3.2	2.9	1.2	10.86	5	8	38963.592	-53971.458	86.576	
本II	38			欠番											
本II	39			剥片	黒色安山岩	2.8	1.0	0.7	1.40	5	9	38960.002	-53971.794	86.464	
本II	40			欠番											
本II	41			欠番											
本II	42			剥片	黒色安山岩	1.4	2.4	0.8	2.20	5	9	38960.845	-53972.075	86.315	
本II	43	15		RF	黒色安山岩	3.7	4.4	1.0	18.40	5	9	38960.782	-53971.556	86.368	
本II	44	16		RF	黒色安山岩	3.9	2.2	1.3	9.22	5	9	38960.987	-53971.321	86.332	
本II	45		19-1	剥片	黒色安山岩	2.6	2.5	1.0	5.32	5	9	38961.727	-53971.009	86.490	
本II	46			チップ	黒色安山岩	1.0	0.9	0.2	0.18	5	9	38961.626	-53971.958	86.386	
本II	47			剥片	黒色安山岩	2.4	1.7	0.5	1.39	5	9	38962.133	-53972.454	86.329	
本II	48			剥片	ホルンフェルス	1.5	2.4	0.4	2.15	5	9	38962.534	-53972.449	86.569	
本II	49			チップ	黒色安山岩	1.2	0.7	0.3	0.23	5	9	38962.538	-53972.285	86.510	
本II	50			剥片	黒色安山岩	1.9	1.2	0.4	0.61	5	9	38962.451	-53970.931	86.381	
本II	51			チップ	砂岩	1.1	1.1	0.6	0.58	5	9	38962.867	-53970.496	86.399	
本II	52			欠番											
本II	53			剥片	チャート	1.0	2.0	0.8	1.39	5	9	38962.947	-53971.522	86.380	
本II	54			チップ	黒色安山岩	1.0	1.5	0.2	0.29	5	9	38963.201	-53972.123	86.235	
本II	55			剥片	黒色安山岩	1.7	2.3	0.4	2.02	5	9	38963.378	-53971.776	86.512	
本II	56			チップ	黒色安山岩	0.5	0.5	0.5	0.66	5	9	38963.189	-53971.482	86.396	
本II	57			剥片	黒色安山岩	1.4	1.5	0.4	0.72	5	9	38963.423	-53971.411	86.498	
本II	58			チップ	黒色安山岩	1.7	1.2	0.3	0.57	5	9	38963.369	-53971.299	86.386	
本II	59			チップ	黒色安山岩	1.0	0.5	0.2	0.32	5	9	38963.265	-53970.910	86.307	
本II	60			チップ	チャート	1.1	1.0	0.4	0.41	5	9	38963.734	-53970.586	86.381	
本II	61			チップ	黒色安山岩	0.8	0.7	0.2	0.07	5	9	38963.591	-53970.805	86.309	
本II	62			チップ	黒色安山岩	1.3	0.8	0.5	0.49	5	9	38963.718	-53970.849	86.324	
本II	63			チップ	黒色安山岩	1.9	0.7	0.3	0.36	5	9	38963.800	-53971.170	86.416	
本II	64			欠番											
本II	65		19-2	剥片	黒色安山岩	3.5	3.6	1.3	12.09	5	9	38963.586	-53971.634	86.426	
本II	66		32-2	礫	砂岩	14.7	5.4	4.2	357.10	5	9	38963.693	-53971.968	86.302	
本II	67			欠番											
本II	68			チップ	黒色安山岩	0.7	1.3	0.2	0.21	5	9	38963.869	-53971.603	86.365	
本II	69			チップ	黒色安山岩	1.5	1.0	0.2	0.29	5	9	38963.934	-53971.816	86.350	
本II	70			剥片	黒色安山岩	1.8	3.8	0.8	5.28	5	9	38963.880	-53972.510	86.572	
本II	71			チップ	黒色安山岩	0.9	1.0	0.1	0.12	5	9	38964.412	-53971.420	86.253	
本II	72			剥片	黒色安山岩	1.6	1.8	0.5	1.29	5	9	38963.740	-53971.056	86.268	
本II	73			剥片	黒曜石	1.8	2.3	0.6	2.01	5	9	38962.748	-53970.710	86.208	
本II	74			剥片	黒曜石	1.3	1.4	1.0	1.61	5	9	38963.517	-53971.868	86.239	
本II	75			チップ	チャート	0.5	0.6	0.3	0.07	5	9	38964.868	-53970.286	86.275	
本II	76			剥片	黒色安山岩	2.8	4.5	0.8	8.21	10	9	38967.725	-53983.133	86.410	
本II	77			剥片	頁岩	1.8	2.6	0.6	2.94	10	9	38967.348	-53983.369	86.071	
本II	78			剥片	チャート	1.6	1.2	1.2	1.70	10	9	38966.598	-53984.482	86.231	
本II	79			欠番											
本II	80			剥片	黒色安山岩	1.8	2.2	0.6	1.97	10	9	38966.061	-53984.724	86.306	
本II	81			剥片	砂岩	2.0	1.4	0.7	2.42	10	9	38965.367	-53985.450	86.039	
本II	82			剥片	黒色安山岩	1.0	2.1	0.4	0.65	10	9	38967.061	-53986.188	86.401	
本II	83			剥片	チャート	3.6	1.6	0.4	3.08	10	9	38967.770	-53987.420	86.326	
本II	84			欠番											
本II	85	8		RF	チャート	1.6	1.8	0.4	0.82	5	9	38959.999	-53975.479	86.106	
本II	86			礫	砂岩	2.2	2.5	0.9	4.78	11	9	38956.095	-53978.569	86.134	
本II	87	45	2-6	石核	黒色安山岩	3.9	3.6	1.7	16.87	11	8	38957.708	-53977.806	86.260	
本II	88			欠番											
本II	89	46		石核	黒色安山岩	2.3	2.1	1.3	5.65	11	8	38953.079	-53978.005	86.222	
本II	90			剥片	ホルンフェルス	1.8	1.2	0.4	0.78	11	8	38952.288	-53978.758	86.290	
本II	91			欠番											
本II	92		5-3	剥片	黒色安山岩	4.8	3.7	1.4	19.66	11	8	38953.646	-53982.508	86.352	
本II	93	52	2-3	石核	黒色安山岩	3.2	4.2	1.3	19.99	11	8	38955.594	-53982.260	86.334	
本II	94		4-2	剥片	黒色安山岩	6.3	4.7	2.1	43.99	7	9	38969.011	-53978.900	86.299	
本II	95		5-2	剥片	黒色安山岩	3.5	4.9	1.1	15.51	6	9	38965.332	-53974.787	86.257	
本II	96			欠番											
本II	97			チップ	チャート	1.7	1.0	0.4	0.40	5	9	38963.715	-53971.085	86.153	
本II	98	35		剥片	黒色安山岩	4.0	5.5	1.2	17.66	5	9	38963.239	-53972.583	88.092	
本II	99			剥片	黒色安山岩	1.4	3.4	1.2	4.15	5	7	38964.598	-53974.166	86.656	
本II	100			剥片	黒色安山岩	1.8	2.3	0.5	1.25	5	7	38964.458	-53973.617	86.733	
本II	101	26	18-1	剥片	黒色安山岩	3.4	3.2	0.9	8.45	5	9	38964.775	-53973.273	86.536	
本II	102			剥片	黒色安山岩	4.0	4.1	1.0	14.73	5	9	38963.890	-53973.307	86.481	
本II	103			チップ	黒色安山岩	1.7	0.9	0.4	0.58	5	9	38963.980	-53972.981	86.297	
本II	104			剥片	黒色安山岩	3.4	1.7	0.5	2.40	5	9	38962.407	-53973.833	86.342	
本II	105	18		RF	黒色安山岩	4.9	3.7	1.3	18.93	5	9	38963.471	-53969.625	86.446	
本II	106			剥片	黒色安山岩	4.0	2.2	1.1	9.04	5	7	38961.516	-53969.393	86.580	

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ッ ク	出土 層位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考	
側2	1		9		RF	チャート	2.8	3.3	1.0	7.31	9	8	38978.798	-53975.184	86.716	
側2	2		26-6		剥片	チャート	2.0	2.8	0.9	4.38	9	8	38978.058	-53974.951	86.788	
側2	3		26-7		剥片	チャート	2.4	3.0	0.9	4.42	9	8	38977.260	-53975.256	86.763	
側2	4		26-16		剥片	チャート	3.0	2.5	1.1	4.80	9	8	38976.472	-53975.565	86.796	
側2	5				剥片	黒色安山岩	1.8	3.7	0.6	3.06	9	8	38977.747	-53975.312	86.743	
側2	6				剥片	チャート	2.8	2.1	0.4	2.74	9	8	38975.806	-53976.731	86.744	
側2	7		26-2		剥片	チャート	3.0	4.6	1.2	17.10	9	8	38976.856	-53974.428	86.699	
側2	8				剥片	チャート	2.6	2.7	1.5	9.10	9	8	38974.948	-53975.814	86.674	
側2	9		21-1		剥片	黒色安山岩	3.2	3.3	0.8	7.46	8	8	38974.293	-53976.975	86.847	
側2	10		7-3		剥片	黒色安山岩	4.1	3.4	1.3	13.37	8	8	38972.701	-53976.939	86.746	
側2	11				剥片	黒色安山岩	2.3	1.6	0.9	2.34	8	8	38972.816	-53977.217	86.776	
側2	12				剥片	黒色安山岩	2.7	5.0	1.0	11.81	8	8	38973.141	-53977.674	86.743	
側2	13	40	15-1		石核	黒色安山岩	3.6	3.5	1.2	14.56	8	8	38973.394	-53978.075	86.717	
側2	14		7-2		剥片	黒色安山岩	4.0	3.2	1.3	11.43	8	8	38973.090	-53978.261	86.706	
側2	15		3-4		剥片	黒色安山岩	2.2	4.1	1.0	8.53	8	8	38972.708	-53978.209	86.788	
側2	16				剥片	黒色安山岩	2.3	2.0	0.5	1.74	8	8	38972.511	-53979.237	86.796	
側2	17				剥片	黒色安山岩	1.9	2.9	0.7	2.70	8	8	38972.010	-53978.998	86.786	
側2	18		27-1		剥片	黒色頁岩	2.9	2.8	1.2	7.33	外	8	38975.560	-53980.675	86.681	
側2	19				剥片	黒色安山岩	1.8	1.5	0.6	1.16	外	8	38973.561	-53981.072	86.714	
側2	20				剥片	黒色安山岩	2.5	3.6	3.1	23.29	9	8	38978.028	-53975.697	86.728	
側2	21				欠番											
側2	22				剥片	黒色安山岩	2.2	2.1	0.7	3.35	8	8	38971.556	-53977.974	86.660	
側2	23		21-2		剥片	黒色安山岩	3.1	2.1	0.5	3.63	8	8	38971.251	-53977.657	86.691	
側2	24				剥片	黒色安山岩	2.7	1.9	0.9	3.59	7	8	38969.509	-53976.103	86.610	
側2	25	34			剥片	黒色安山岩	2.6	5.3	1.3	9.78	7	8	38970.673	-53976.682	86.581	
側2	26	54	26-5		石核	チャート	2.9	4.7	3.4	32.81	9	9	38979.695	-53975.282	86.594	
側2	27	55	26-4		石核	チャート	6.5	5.8	2.7	83.25	9	9	38979.351	-53974.981	86.479	
側2	28	22			UF	黒色安山岩	5.4	4.4	1.1	20.95	9	9	38979.017	-53974.916	86.574	
側2	29	56	26-10		石核	チャート	6.4	5.0	1.8	51.24	9	9	38978.528	-53975.002	86.671	
側2	30	58	26-20		石核	チャート	2.4	4.2	3.6	44.56	9	9	38978.885	-53976.038	86.496	
側2	31		26-8		剥片	チャート	2.4	1.4	0.7	1.48	9	9	38978.166	-53974.522	86.571	
側2	32				剥片	チャート	1.9	2.1	0.7	2.68	9	9	38977.794	-53975.006	86.577	
側2	33				剥片	黒色安山岩	2.0	1.8	0.6	2.15	9	9	38977.927	-53975.484	86.633	
側2	34	57	26-1		石核	チャート	5.0	4.1	2.3	44.99	9	9	38978.309	-53976.577	86.519	
側2	35	53	26-17		石核	チャート	2.8	4.2	2.9	22.25	9	9	38978.577	-53977.065	86.562	
側2	36		26-14		剥片	チャート	2.1	2.6	0.9	2.99	9	9	38978.349	-53977.573	86.592	
側2	37		26-15		剥片	チャート	1.8	2.7	0.7	3.61	9	9	38977.845	-53977.021	86.478	
側2	38	10	26-11		RF	チャート	4.4	4.5	1.8	25.70	9	9	38977.710	-53976.589	86.622	
側2	39		29-2		剥片	黒色頁岩	5.2	1.7	1.8	10.47	9	9	38977.471	-53975.442	86.647	
側2	40		26-12		剥片	チャート	2.5	2.1	0.9	2.92	9	9	38977.272	-53974.695	86.530	
側2	41				剥片	チャート	2.1	1.8	0.4	1.72	9	9	38977.121	-53974.953	86.554	
側2	42		27-2		剥片	黒色頁岩	2.4	1.4	0.9	2.89	9	9	38977.009	-53975.001	86.583	
側2	43				剥片	チャート	1.6	1.7	0.6	1.44	9	9	38976.726	-53975.561	86.434	
側2	44		26-3		剥片	チャート	5.0	1.8	1.0	7.54	9	9	38976.521	-53975.357	86.491	
側2	45		10-1		剥片	黒色安山岩	6.0	5.5	1.5	30.23	9	9	38976.411	-53975.456	86.552	
側2	46				礫	溶結凝灰岩	2.2	1.9	1.0	3.96	9	9	38976.459	-53975.986	86.428	
側2	47	61	27-3		石核	黒色頁岩	3.5	4.4	3.0	57.52	9	9	38976.731	-53976.270	86.566	
側2	48	36			剥片	黒色安山岩	4.1	2.6	1.5	18.48	9	9	38977.409	-53977.764	86.618	
側2	49				剥片	黒色頁岩	2.7	2.7	0.8	4.48	9	9	38976.105	-53974.342	86.511	
側2	50		20-2		剥片	黒色安山岩	2.7	2.5	0.9	5.30	9	9	38975.943	-53974.688	86.633	
側2	51		20-1		剥片	黒色安山岩	2.8	3.1	1.1	8.77	9	9	38975.781	-53974.557	86.642	
側2	52				剥片	黒色安山岩	3.0	3.7	1.0	11.11	9	9	38975.698	-53975.033	86.592	
側2	53		29-1		剥片	黒色頁岩	3.0	1.9	0.9	2.99	9	9	38975.403	-53974.616	86.561	
側2	54				チップ	チャート	0.8	2.2	0.6	0.78	9	9	38974.797	-53975.180	86.423	
側2	55				欠番											
側2	56				剥片	黒色安山岩	1.4	1.9	0.2	0.48	8	9	38973.613	-53975.945	86.464	
側2	57		6-2		剥片	黒色安山岩	2.3	3.4	1.1	5.23	8	9	38973.666	-53976.473	86.640	
側2	58				剥片	黒色安山岩	2.4	3.3	1.0	6.20	8	9	38973.797	-53977.196	86.442	
側2	59	40	15-2		石核	黒色安山岩	3.6	3.9	1.3	14.71	8	9	38974.169	-53977.196	86.675	
側2	60				チップ	黒色安山岩	1.4	1.1	0.6	0.91	8	9	38974.022	-53977.441	86.605	
側2	61	28			剥片	黒色安山岩	6.1	3.8	1.6	33.65	8	9	38973.946	-53977.635	86.596	
側2	62				剥片	黒色安山岩	1.8	2.3	0.2	0.98	8	9	38974.553	-53978.168	86.509	
側2	63		7-1		剥片	黒色安山岩	2.1	2.2	0.9	3.51	外	9	38976.014	-53979.389	86.529	
側2	64	43	6-3		石核	黒色安山岩	5.2	4.0	1.2	29.28	8	9	38974.000	-53978.753	86.478	
側2	65		3-3		剥片	黒色安山岩	5.4	3.7	1.2	16.09	8	9	38973.319	-53977.418	86.648	
側2	66	21			RF	黒色安山岩	3.3	2.5	1.3	8.47	8	9	38973.049	-53977.139	86.601	
側2	67		30-2		礫	ホルンフェルス	3.2	5.7	3.0	79.23	外	9	38972.339	-53974.467	86.447	
側2	68		6-1		剥片	黒色安山岩	2.7	2.0	0.7	3.77	8	9	38972.168	-53976.720	86.644	
側2	69				剥片	黒色安山岩	2.0	1.9	0.4	1.03	8	9	38972.476	-53977.001	86.506	
側2	70				剥片	黒色安山岩	1.6	1.8	0.7	1.80	8	9	38972.568	-53977.142	86.420	
側2	71		3-5		剥片	黒色安山岩	2.4	3.9	1.4	9.19	8	9	38972.901	-53978.642	86.488	
側2	72		3-1		剥片	黒色安山岩	2.2	2.0	1.1	4.59	8	9	38972.268	-53977.677	86.638	
側2	73				剥片	黒色安山岩	1.8	1.4	0.7	1.51	8	9	38972.110	-53977.525	86.686	
側2	74				剥片	ホルンフェルス	2.3	1.8	0.5	2.53	8	9	38971.379	-53977.384	86.506	
側2	75		4-3		剥片	黒色安山岩	5.4	4.8	1.5	27.59	7	9	38971.164	-53976.288	86.458	
側2	77				剥片	チャート	1.3	2.4	0.9	2.37	7	9	38970.433	-53975.283	86.482	
側2	78				欠番											
側2	79				剥片	黒色安山岩	3.3	1.9	0.9	2.90	7	9	38969.314	-53975.826	86.397	
側2	80				剥片	溶結凝灰岩	7.7	6.3	2.4	130.24	7	9	38969.474	-53976.212	86.466	
側2	81				剥片	黒色安山岩	2.9	4.0	0.9	9.69	7	9	38970.097	-53976.939	86.518	
側2	82				チップ	チャート	1.1	0.8	0.3	0.28	9	9	38978.793	-53975.134	86.731	
側2	83		26-19		剥片	チャート	1.5	2.0	0.4	0.82	9	9	38978.052	-53975.718	86.632	
側2	84		26-13		剥片	チャート	1.7	3.2	0.8	3.81	9	9	38977.657	-53975.262	86.612	

第2章 旧石器時代

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロン	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備考	
側	2	85		剝片	チャート	1.7	1.5	0.6	0.84	9	9	38977.190	-53975.287	86.767		
側	2	86	66	敲石	砂岩	7.1	6.8	4.5	280.40	9	9	38974.904	-53975.706	86.427		
側	2	87		剝片	黒色頁岩	1.7	1.5	0.6	1.88	9	9	38976.444	-53975.352	86.434		
側	2	88		チップ	黒色安山岩	1.8	0.8	0.1	0.22	8	9	38972.844	-53977.080	86.480		
側	2	89		剝片	黒色安山岩	2.4	4.6	1.1	12.23	外	8	38967.667	-53970.391	86.571		
側	2	90		剝片	黒色安山岩	2.7	2.4	0.6	3.92	外	8	38969.638	-53970.790	86.638		
側	2	91		3-2	剝片	黒色安山岩	4.3	3.5	1.6	14.21	外	9	38970.225	-53969.917	86.504	
側	2	92		剝片	黒色安山岩	2.5	4.5	1.1	8.73	外	9	38970.487	-53969.667	86.392		
側	2	93		1-3	剝片	黒色安山岩	2.9	3.7	1.8	16.01	外	9	38970.679	-53969.738	86.401	
側	2	94		2-2	剝片	黒色安山岩	3.2	2.4	1.1	6.64	外	9	38975.320	-53968.777	86.603	
側	2	95		30-3	礫	ホルンフェルス	3.5	5.9	3.2	55.73	外	9	38976.232	-53969.028	86.510	
側	2	96	39		剝片	黒色頁岩	5.5	3.1	1.4	16.58	外	9	38976.193	-53969.049	86.494	
側	2	97		30-1	礫	ホルンフェルス	4.3	5.1	3.3	50.20	外	9	38976.186	-53969.050	86.467	
側	2	98		剝片	黒色安山岩	3.1	1.9	0.8	4.04	外	8	38976.789	-53969.627	86.675		
側	2	99	25	28-1	剝片	黒色頁岩	4.7	3.0	1.3	15.89	外	8	38976.571	-53970.430	86.654	
側	2	100	25	28-2	剝片	黒色頁岩	2.6	2.6	1.1	6.97	外	8	38976.586	-53970.477	86.655	
側	2	101		剝片	変玄武岩	2.2	1.7	1.3	4.17	外	9	38973.936	-53968.821	86.300		
側	2	102		10-2	剝片	黒色安山岩	2.6	3.1	0.9	5.12	外	9	38972.151	-53985.429	86.250	
側	2	103		剝片	黒色安山岩	1.3	1.9	0.5	0.83	8	9	38973.864	-53978.636	86.391		
側	2	104		剝片	黒色安山岩	1.1	1.8	0.4	0.77	8	9	38974.305	-53977.902	86.372		
側	2	105		26-9	剝片	チャート	3.7	2.6	1.3	9.61	外	9	38977.927	-53973.591	86.483	
側	2	106		剝片	黒色安山岩	1.3	2.5	0.6	1.40	外	8	38970.652	-53973.300	86.628		
側	2	107		1-2	剝片	黒色安山岩	4.1	5.3	1.7	31.61	外	9	38970.256	-53973.464	86.392	
側	2	108		剝片	黒色安山岩	2.4	1.3	0.3	1.01	外	9	38968.589	-53973.970	86.390		
側	2	109		2-1	剝片	黒色安山岩	5.4	5.8	1.0	28.28	外	9	38968.176	-53973.497	86.420	
側	2	110		チップ	黒曜石	0.7	1.4	0.4	0.36	外	9	38970.776	-53972.723		標高値不明	
側	2	111	59	石核	灰色安山岩	6.1	4.4	1.8	46.38						グリッド一括	
側	3	1	65	敲石	粗粒輝石安山岩	10.2	6.8	5.8	484.20	4	7	38967.884	-53964.408	86.749		
側	3	2	64	敲石	粗粒輝石安山岩	7.3	6.2	3.8	177.93	4	7	38967.806	-53964.512	86.734		
側	3	3		礫	粗粒輝石安山岩	10.6	7.1	4.7	424.10	4	7	38966.944	-53964.289	86.706		
側	3	4		礫	粗粒輝石安山岩	9.5	6.1	5.6	415.10	4	7	38966.513	-53965.320	86.726		
側	3	5		剝片	ホルンフェルス	2.3	3.1	1.1	6.35	4	7	38965.195	-53966.500	86.724		
側	3	6		剝片	黒色安山岩	2.3	3.3	0.6	5.00	4	7	38967.214	-53963.858	86.795		
側	3	7	7	RF	黒曜石	1.8	1.5	0.6	1.65	4	8	38967.473	-53963.169	86.626	原産地：高原山甘湯沢群	
側	3	8		剝片	黒色安山岩	2.8	2.4	0.6	3.45	4	8	38968.543	-53964.912	86.556		
側	3	9		欠番												
側	3	10		チップ	ホルンフェルス	1.4	1.3	0.5	1.10	4	8	38968.306	-53965.528	86.535		
側	3	11		剝片	黒曜石	1.4	2.5	0.9	2.27	2	8	38969.586	-53964.596	86.626		
側	3	12		剝片	黒色安山岩	3.3	1.8	0.5	2.08	2	8	38969.866	-53963.999	86.618		
側	3	13		1-4	剝片	黒色安山岩	2.3	1.2	1.0	3.35	2	8	38970.633	-53964.317	86.619	
側	3	14		1-6	剝片	黒色安山岩	4.0	2.6	1.2	7.98	2	8	38970.214	-53965.273	86.663	
側	3	15		チップ	チャート	1.0	1.3	0.4	0.55	2	8	38970.763	-53965.514	86.747		
側	3	16		剝片	黒色安山岩	1.6	2.2	0.4	1.09	2	8	38971.200	-53965.179	86.742		
側	3	17		チップ	黒色安山岩	1.5	1.4	0.3	0.77	2	8	38972.150	-53965.471	86.708		
側	3	18		剝片	黒色安山岩	2.0	1.0	0.7	1.00	2	8	38972.110	-53965.906	86.737		
側	3	19		16-1	剝片	黒色安山岩	2.0	3.2	1.2	5.60	2	8	38972.665	-53966.092	86.779	
側	3	20		欠番												
側	3	21		チップ	黒色安山岩	1.1	1.7	0.5	0.80	2	8	38973.094	-53965.081	86.635		
側	3	22		24-2	剝片	黒色安山岩	3.3	3.5	1.0	9.51	2	8	38973.528	-53965.165	86.890	
側	3	23	1		ナイフ形石器	2.6	2.0	1.4	4.21	2	8	38973.410	-53965.632	86.702		
側	3	24	17	RF	黒色安山岩	5.1	3.7	1.2	19.26	2	8	38973.927	-53964.524	86.668		
側	3	25	23	UF	黒色安山岩	3.5	2.2	0.9	7.24	1	8	38975.597	-53966.238	86.780		
側	3	26		剝片	黒色安山岩	2.8	2.0	0.7	2.91	1	8	38975.931	-53966.044	86.705		
側	3	27		12-2	剝片	黒色安山岩	5.3	2.7	1.2	13.26	1	8	38976.419	-53964.691	86.704	
側	3	28		20	RF	黒色安山岩	3.2	3.2	1.1	7.59	2	8	38971.611	-53962.099	86.635	
側	3	29			チップ	チャート	0.8	1.2	0.3	0.32	3	8	38971.459	-53960.989	86.643	
側	3	30		剝片	砂岩	1.5	1.0	0.7	1.97	3	8	38971.156	-53960.631	86.862		
側	3	31		チップ	黒色安山岩	1.5	1.1	0.3	0.36	3	8	38970.825	-53960.294	86.664		
側	3	32		チップ	頁岩	0.9	1.0	0.3	0.17	3	8	38971.001	-53959.620	86.614		
側	3	33		チップ	黒色安山岩	0.5	1.7	0.2	0.20	3	8	38970.901	-53959.190	86.634		
側	3	34		剝片	黒色安山岩	1.2	2.6	0.6	1.46	3	8	38970.132	-53960.122	86.727		
側	3	35		チップ	黒色安山岩	1.4	0.9	0.4	0.39	3	8	38970.203	-53960.358	86.647		
側	3	36		剝片	黒色安山岩	4.1	2.7	0.8	7.59	3	8	38970.277	-53961.355	86.717		
側	3	37		剝片	黒色安山岩	2.7	1.5	0.8	2.57	3	8	38969.674	-53960.759	86.593		
側	3	38		23-1	剝片	黒色安山岩	1.1	2.2	1.2	2.46	3	8	38969.080	-53962.044	86.586	
側	3	39		チップ	黒色安山岩	1.1	0.8	0.2	0.09	3	8	38969.136	-53961.014	86.608		
側	3	40		11-1	剝片	黒色安山岩	2.1	2.3	0.9	3.01	3	8	38969.069	-53960.518	86.561	
側	3	41		チップ	黒曜石	1.0	1.5	0.4	0.45	3	8	38968.824	-53960.403	86.602		
側	3	42		チップ	黒色安山岩	1.2	1.6	0.4	0.58	3	8	38968.658	-53961.009	86.554		
側	3	43		チップ	黒色安山岩	0.7	1.9	0.2	0.23	3	8	38966.994	-53961.977	86.557		
側	3	44		剝片	黒色安山岩	1.0	2.5	0.8	1.22	3	8	38966.771	-53961.066	86.801		
側	3	45		剝片	黒色安山岩	2.2	1.2	1.0	1.99	3	8	38966.048	-53960.661	86.637		
側	3	46		剝片	砂岩	1.6	2.0	1.4	3.75	3	9	38965.338	-53959.840	86.472		
側	3	47		剝片	黒色頁岩	2.3	1.3	0.6	1.57	3	9	38965.731	-53959.249	86.492		
側	3	48		チップ	砂岩	1.0	1.5	0.9	1.16	3	9	38965.942	-53959.026	86.483		
側	3	49		剝片	黒色安山岩	2.0	1.2	0.5	1.00	3	9	38966.332	-53960.130	86.447		
側	3	50		チップ	黒色安山岩	1.2	1.6	0.6	0.96	3	9	38966.090	-53960.519	86.455		
側	3	51		チップ	砂岩	0.9	1.4	0.4	0.39	3	9	38967.872	-53958.011	86.475		
側	3	52		チップ	黒曜石	1.2	0.8	0.5	0.42	3	9	38968.149	-53958.471	86.461		
側	3	53		チップ	黒曜石	1.3	1.0	0.3	0.30	3	9	38967.699	-53958.873	86.477		
側	3	54		剝片	黒色安山岩	2.9	1.8	0.8	3.51	3	9	38967.523	-53959.423	86.530		
側	3	55		チップ	黒色安山岩	1.0	1.5	0.5	0.65	3	9	38967.057	-53960.184	86.467		
側	3	56		チップ	黒色安山岩	1.4	1.2	0.4	0.59	3	9	38967.568	-53960.042	86.520		

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ロ ック	出土 層位	X 座 標	Y 座 標	Z座標	備 考	
側	3	57	37	剝片	黒色安山岩	5.4	3.8	1.3	24.35	3	9	38967.802	-53960.113	86.502		
側	3	58		欠番												
側	3	59		チップ	黒曜石	0.8	0.9	0.1	0.08	3	9	38968.084	-53959.755	86.486		
側	3	60		チップ	黒色安山岩	1.5	1.1	0.3	0.52	3	9	38968.351	-53959.968	86.534		
側	3	61		チップ	黒色安山岩	0.9	1.1	0.4	0.30	3	9	38968.472	-53959.964	86.425		
側	3	62		チップ	黒色安山岩	1.6	0.9	0.5	0.76	3	9	38967.562	-53960.518	86.506		
側	3	63		剝片	黒色安山岩	1.5	2.0	0.6	1.84	3	9	38967.780	-53960.680	86.489		
側	3	64	14	RF	黒色安山岩	3.2	2.7	1.2	7.38	3	9	38967.939	-53961.017	86.516		
側	3	65		チップ	黒曜石	0.9	1.0	0.4	0.21	3	9	38967.448	-53960.917	86.531		
側	3	66		チップ	黒曜石	0.7	0.7	0.2	0.07	3	9	38967.959	-53961.302	86.514		
側	3	67		チップ	黒色安山岩	1.0	0.7	0.2	0.12	3	9	38967.671	-53961.887	86.505		
側	3	68		欠番												
側	3	69		チップ	黒色安山岩	1.3	1.0	0.2	0.30	3	9	38968.736	-53962.305	86.528		
側	3	70	41	11-2	石核	黒色安山岩	5.2	5.1	2.6	53.79	3	9	38969.378	-53961.773	86.390	
側	3	71		チップ	黒色安山岩	0.5	0.9	0.4	0.22	3	9	38968.511	-53961.078	86.503		
側	3	72	33		剝片	黒色安山岩	3.8	3.4	0.9	8.65	3	9	38968.412	-53960.728	86.445	
側	3	73		剝片	黒色安山岩	1.5	2.0	0.5	1.70	3	9	38968.672	-53960.742	86.424		
側	3	74		チップ	黒色安山岩	0.7	0.9	0.3	0.12	3	9	38968.706	-53960.123	86.410		
側	3	75	63		石核	黒曜石	1.8	1.8	1.8	4.33	3	9	38969.057	-53960.108	86.527	原産地：高原山甘湯沢群
側	3	76		チップ	黒色安山岩	0.7	0.8	0.2	0.11	3	9	38969.179	-53960.097	86.498		
側	3	77		チップ	黒曜石	1.0	1.4	0.3	0.32	3	9	38969.146	-53960.693	86.414		
側	3	78		剝片	黒色安山岩	3.9	4.2	2.2	16.83	3	9	38969.117	-53960.871	86.435		
側	3	79		剝片	砂岩	1.5	1.7	0.9	1.28	3	9	38969.665	-53961.251	86.490		
側	3	80		チップ	黒色安山岩	1.9	0.9	0.5	0.59	3	9	38970.224	-53960.984	86.453		
側	3	81		剝片	黒色安山岩	3.3	1.9	0.8	4.22	3	9	38969.002	-53959.533	86.530		
側	3	82	5		RF	黒曜石	2.1	1.0	0.8	0.78	3	9	38969.274	-53959.237	86.483	原産地：高原山甘湯沢群
側	3	83		チップ	黒色安山岩	1.5	1.4	0.6	1.39	3	9	38969.685	-53959.156	86.514		
側	3	84		チップ	チャート	0.6	1.2	0.4	0.29	外	9	38971.159	-53957.132	86.505		
側	3	85		剝片	黒色安山岩	3.4	4.1	1.1	11.44	外	9	38973.460	-53958.750	86.511		
側	3	86		チップ	砂岩	0.8	1.5	0.4	0.40	外	9	38974.009	-53959.999	86.507		
側	3	87		欠番												
側	3	88		チップ	ホルンフェルス	0.9	2.1	0.4	0.90	3	9	38971.606	-53961.541	86.485		
側	3	89	1-7		剝片	黒色安山岩	3.1	3.6	1.7	17.01	2	10	38972.356	-53961.987	86.425	
側	3	90		チップ	砂岩	1.1	1.2	0.3	0.40	2	10	38973.010	-53962.510	86.436		
側	3	91		剝片	黒色安山岩	2.5	1.2	0.6	1.37	2	9	38973.270	-53963.434	86.545		
側	3	92		剝片	黒曜石	2.5	1.6	0.8	2.27	1	9	38976.669	-53966.615	86.526		
側	3	93		剝片	黒色安山岩	2.8	2.8	0.6	4.04	1	9	38976.305	-53965.517	86.535		
側	3	94		チップ	黒色安山岩	1.7	0.8	0.4	0.43	1	9	38976.070	-53965.129	86.691		
側	3	95		剝片	黒色安山岩	3.0	2.1	0.6	2.65	1	9	38975.721	-53964.968	86.569		
側	3	96		剝片	チャート	1.8	1.6	1.2	2.85	1	9	38975.483	-53964.305	86.533		
側	3	97		チップ	黒色安山岩	0.8	0.7	0.2	0.09	1	9	38975.376	-53964.440	86.489		
側	3	98		剝片	黒色安山岩	2.0	1.4	0.3	1.06	1	9	38975.196	-53964.478	86.588		
側	3	99		剝片	黒色安山岩	1.5	2.4	0.5	1.49	1	9	38975.249	-53964.797	86.458		
側	3	100		剝片	黒色安山岩	2.0	2.6	0.8	3.39	1	9	38975.387	-53965.339	86.592		
側	3	101		剝片	黒色安山岩	1.8	1.5	1.3	3.66	1	9	38975.500	-53965.734	86.656		
側	3	102		欠番												
側	3	103	12-1		剝片	黒色安山岩	3.0	1.9	1.4	7.47	1	9	38975.839	-53965.933	86.503	
側	3	104		剝片	黒色安山岩	1.8	3.1	0.9	4.25	1	10	38976.073	-53966.673	86.444		
側	3	105	25-1		剝片	黒色安山岩	1.0	2.3	0.9	1.84	1	10	38975.387	-53966.824	86.433	
側	3	106		剝片	黒色頁岩	1.4	2.2	0.8	2.96	1	9	38975.211	-53966.402	86.565		
側	3	107	11		RF	黒色安山岩	1.7	2.2	0.7	1.92	1	10	38974.921	-53966.588	86.451	
側	3	108		チップ	黒色安山岩	1.4	0.7	0.2	0.12	1	9	38974.916	-53966.348	86.517		
側	3	109		欠番												
側	3	110		剝片	黒色安山岩	1.5	2.5	0.8	2.07	2	9	38974.177	-53964.258	86.515		
側	3	111		剝片	黒色安山岩	1.2	2.7	0.8	3.00	1	9	38974.570	-53965.097	86.523		
側	3	112		剝片	黒色安山岩	2.0	2.1	0.4	1.35	1	9	38974.550	-53965.235	86.519		
側	3	113	47		石核	黒色安山岩	1.6	3.4	1.6	10.80	1	9	38974.310	-53965.497	86.512	
側	3	114	25-2		剝片	黒色安山岩	1.4	1.5	0.6	1.03	1	9	38974.256	-53965.923	86.572	
側	3	115		剝片	黒色安山岩	1.7	1.7	0.5	0.94	1	9	38974.656	-53966.008	86.596		
側	3	116	27		剝片	黒色安山岩	6.3	3.5	1.3	24.09	1	9	38974.591	-53966.361	86.430	
側	3	117	60		石核	黒色頁岩	2.4	4.1	1.8	13.07	1	9	38974.412	-53966.454	86.560	
側	3	118		剝片	黒色安山岩	1.0	2.0	0.9	1.71	1	9	38974.288	-53966.493	86.599		
側	3	119	24-1		剝片	黒色安山岩	3.0	3.0	2.5	13.86	1	9	38974.003	-53966.277	86.633	
側	3	120		剝片	黒色安山岩	4.1	2.6	0.9	6.70	1	9	38973.741	-53966.429	86.615		
側	3	121		剝片	黒色安山岩	3.1	1.6	1.0	2.91	1	9	38973.647	-53966.591	86.564		
側	3	122		剝片	黒色安山岩	1.2	2.0	0.5	0.97	2	9	38973.265	-53965.472	86.542		
側	3	123		剝片	黒色安山岩	1.7	1.3	0.6	1.24	2	9	38972.689	-53964.540	86.600		
側	3	124	1-8		剝片	黒色安山岩	2.2	2.4	1.1	4.49	2	9	38972.563	-53964.198	86.521	
側	3	125	4		RF	黒曜石	2.0	1.0	0.6	0.80	2	9	38972.391	-53964.055	86.547	原産地：高原山甘湯沢群
側	3	126		チップ	黒色安山岩	1.0	1.6	0.2	0.24	2	9	38972.527	-53963.792	86.593		
側	3	127		剝片	黒色安山岩	2.6	2.3	0.9	5.43	2	9	38972.082	-53963.621	86.458		
側	3	128		剝片	黒色安山岩	3.2	3.3	1.3	12.42	2	9	38972.247	-53964.385	86.522		
側	3	129		欠番												
側	3	130		剝片	黒色安山岩	2.2	0.9	0.5	1.13	2	10	38971.819	-53963.665	86.434		
側	3	131	4-1		剝片	黒色安山岩	3.9	3.0	1.5	13.54	2	10	38971.160	-53963.585	86.430	
側	3	132		剝片	黒色安山岩	2.5	1.3	0.5	1.29	2	9	38971.173	-53963.883	86.477		
側	3	133		剝片	黒色安山岩	2.1	1.6	0.3	1.38	2	9	38971.245	-53964.090	86.525		
側	3	134		剝片	黒色安山岩	1.6	1.8	0.5	1.48	2	9	38971.294	-53964.731	86.430		
側	3	135	6		RF	黒曜石	1.5	1.2	0.6	0.77	2	9	38971.376	-53965.238	86.587	原産地：高原山甘湯沢群
側	3	136		チップ	黒色安山岩	0.8	1.7	0.2	0.30	2	9	38970.297	-53963.259	86.534		
側	3	137		チップ	黒色安山岩	1.0	1.8	0.5	0.88	2	9	38969.928	-53964.285	86.538		
側	3	138		剝片	チャート	2.2	2.5	1.2	9.14	2	9	38969.911	-53964.381	86.482		
側	3	139		欠番												

第 2 章 旧石器時代

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ック	出 土 層 位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考
側	3	140		チップ	砂岩	1.9	0.8	0.4	0.67	4	9	38967.074	-53963.550	86.500	
側	3	141	38	剥片	黒曜石	3.7	3.1	1.8	12.01	4	9	38966.552	-53963.608	86.390	原産地：高原山甘湯沢群
側	3	142		剥片	黒色安山岩	2.3	2.6	1.3	7.91	4	9	38965.882	-53965.250	86.463	
側	3	143		欠番											
側	3	144	17-2	剥片	黒色安山岩	3.3	3.6	1.3	8.42	4	9	38965.731	-53965.578	86.550	
側	3	145	8-1	剥片	黒色安山岩	1.9	2.7	1.0	4.84	4	9	38966.000	-53965.643	86.515	
側	3	146		チップ	黒色安山岩	0.8	1.3	0.5	0.26	4	9	38966.468	-53965.711	86.427	
側	3	147	8-2	剥片	黒色安山岩	1.9	2.4	0.8	2.55	4	9	38966.794	-53966.273	86.392	
側	3	148		チップ	黒色安山岩	1.5	1.0	0.3	0.61	4	9	38966.039	-53966.601	86.630	
側	3	149	31-1	礫	粗粒輝石安山岩	10.5	11.1	8.9	1191.70	1	9	38975.299	-53965.782	86.420	
側	3	150		礫	粗粒輝石安山岩	7.4	9.7	7.5	486.80	1	9	38974.817	-53965.450	86.422	
側	3	151	31-2	礫	粗粒輝石安山岩	6.4	10.7	8.4	556.60	2	9	38971.884	-53965.040	86.367	
側	3	152		チップ	黒色安山岩	0.7	0.9	0.2	0.14	3	9	38965.884	-53959.299	86.419	
側	3	153		チップ	黒色安山岩	1.0	1.7	0.6	0.68	3	9	38966.548	-53959.118	86.386	
側	3	154		チップ	黒色安山岩	1.3	1.1	0.3	0.44	3	9	38966.937	-53959.141	86.357	
側	3	155		チップ	黒色安山岩	0.8	1.3	0.2	0.14	3	9	38966.927	-53959.155	86.354	
側	3	156		チップ	黒色安山岩	1.7	1.1	0.5	0.82	3	9	38966.868	-53959.532	86.374	
側	3	157		チップ	黒色安山岩	1.0	1.1	0.2	0.26	3	9	38966.160	-53959.826	86.339	
側	3	158		チップ	黒色安山岩	1.4	1.5	0.5	0.90	3	9	38966.432	-53960.247	86.400	
側	3	159		チップ	黒色安山岩	1.2	1.4	0.6	0.94	3	9	38966.503	-53960.279	86.394	
側	3	160		剥片	黒色安山岩	1.9	2.1	0.5	2.00	3	9	38965.641	-53960.870	86.407	
側	3	161		剥片	ホルンフェルス	2.6	1.7	0.9	3.86	3	9	38964.988	-53961.187	86.342	
側	3	162		剥片	黒色安山岩	1.8	2.2	1.0	2.22	3	9	38966.899	-53960.098	86.386	
側	3	163		チップ	黒色安山岩	1.3	0.9	0.2	0.23	3	9	38966.980	-53960.352	86.406	
側	3	164		チップ	黒色安山岩	1.4	1.7	0.4	0.75	3	9	38966.735	-53960.552	86.351	
側	3	165		チップ	黒色安山岩	1.1	1.7	0.7	1.04	3	9	38966.657	-53961.090	86.363	
側	3	166		チップ	黒色安山岩	1.1	1.6	0.4	0.54	3	9	38966.697	-53961.090	86.365	
側	3	167	9-1	剥片	黒色安山岩	2.0	2.4	0.5	1.83	3	9	38967.045	-53961.637	86.393	
側	3	168		チップ	黒色安山岩	1.6	1.4	0.2	0.41	3	10	38966.373	-53962.118	86.220	
側	3	169		チップ	黒色安山岩	1.2	1.3	0.3	0.47	3	9	38967.370	-53960.042	86.408	
側	3	170	9-3	剥片	黒色安山岩	2.0	2.7	0.4	1.63	3	9	38967.438	-53960.234	86.356	
側	3	171		剥片	黒色安山岩	1.0	2.5	0.5	0.85	3	9	38967.603	-53959.823	86.360	
側	3	172		チップ	黒曜石	1.0	1.1	0.3	0.21	3	9	38967.910	-53959.782	86.416	
側	3	173		チップ	黒色安山岩	1.1	1.8	0.2	0.35	3	10	38967.761	-53960.087	86.178	
側	3	174		チップ	黒色安山岩	1.2	1.4	0.4	0.58	3	9	38967.874	-53960.782	86.304	
側	3	175		チップ	チャート	0.6	0.7	0.1	0.06	3	9	38967.536	-53960.983	86.389	
側	3	176		チップ	黒色安山岩	1.2	1.7	0.3	0.41	3	9	38967.392	-53961.273	86.269	
側	3	177		剥片	黒色安山岩	2.6	1.2	0.4	1.11	3	10	38967.887	-53961.394	86.159	
側	3	178	30	剥片	黒色安山岩	6.2	6.1	1.5	38.31	3	9	38968.251	-53961.045	86.297	
側	3	179		剥片	黒色安山岩	2.1	2.2	0.4	2.49	3	9	38968.333	-53961.614	86.298	
側	3	180		剥片	黒色安山岩	1.8	1.6	0.4	1.38	3	9	38967.894	-53961.999	86.348	
側	3	181		チップ	黒色安山岩	1.1	0.9	0.3	0.35	3	9	38968.009	-53961.047	86.383	
側	3	182		剥片	黒色安山岩	2.6	3.6	0.8	7.48	3	9	38969.084	-53959.156	86.333	
側	3	183		チップ	黒曜石	1.2	1.8	0.4	0.64	3	9	38969.162	-53959.364	86.230	
側	3	184		チップ	黒色安山岩	1.0	1.1	0.5	0.39	3	9	38969.566	-53959.778	86.325	
側	3	185		チップ	黒曜石	0.8	1.1	0.1	0.10	3	9	38969.509	-53959.678	86.242	
側	3	186	22-1	剥片	黒色安山岩	1.9	1.7	0.5	1.32	3	9	38969.293	-53959.962	86.349	
側	3	187		剥片	黒色安山岩	2.0	1.9	0.5	1.95	3	9	38968.949	-53960.042	86.334	
側	3	188		剥片	黒色安山岩	2.2	0.8	0.7	0.74	3	9	38968.799	-53960.373	86.373	
側	3	189		チップ	黒色安山岩	0.7	1.6	0.3	0.30	3	9	38969.152	-53960.582	86.252	
側	3	190		チップ	黒色安山岩	0.9	1.3	0.3	0.28	3	9	38969.144	-53960.740	86.360	
側	3	191		チップ	黒色安山岩	1.5	1.2	0.3	0.52	3	9	38969.890	-53960.025	86.381	
側	3	192		チップ	黒色安山岩	0.9	1.6	0.1	0.27	3	9	38969.879	-53960.050	86.376	
側	3	193		チップ	黒色安山岩	1.3	1.2	0.3	0.34	3	10	38969.900	-53960.245	86.185	
側	3	194		剥片	黒色安山岩	1.5	1.6	0.3	0.70	3	9	38969.763	-53960.702	86.356	
側	3	195		チップ	黒曜石	0.7	1.2	0.4	0.26	3	9	38969.629	-53960.781	86.448	
側	3	196	9-2	剥片	黒色安山岩	2.3	2.0	0.4	2.51	3	9	38969.564	-53960.956	86.333	
側	3	197		チップ	黒曜石	0.8	0.5	0.1	0.03	3	10	38970.082	-53961.283	86.206	
側	3	198		チップ	黒色安山岩	1.0	1.6	0.2	0.34	3	9	38970.868	-53959.118	86.385	
側	3	199		チップ	黒色安山岩	0.7	1.3	0.4	0.19	3	9	38970.809	-53959.700	86.358	
側	3	200		チップ	黒色安山岩	1.4	0.7	0.3	0.17	3	9	38970.461	-53959.935	86.355	
側	3	201		欠番											
側	3	202	16-2	剥片	ホルンフェルス	3.1	3.8	1.5	14.90	外	9	38972.439	-53954.939	86.660	
側	3	203		剥片	黒色安山岩	1.9	2.3	0.7	2.52	3	9	38970.974	-53961.766	86.357	
側	3	204		剥片	黒色安山岩	1.9	1.5	0.5	1.29	2	9	38970.406	-53962.865	86.369	
側	3	205		剥片	黒色安山岩	2.1	3.0	0.7	4.64	2	9	38971.542	-53963.313	86.346	
側	3	206		チップ	黒色安山岩	1.2	1.4	0.5	0.58	2	9	38971.816	-53963.738	86.403	
側	3	207		剥片	黒色安山岩	1.7	1.4	0.3	0.68	2	9	38972.412	-53964.009	86.373	
側	3	208		剥片	ホルンフェルス	2.6	3.0	0.8	6.25	2	9	38972.419	-53964.158	86.382	
側	3	209		チップ	黒色安山岩	1.6	1.3	0.6	0.76	2	9	38972.883	-53963.877	86.358	
側	3	210		チップ	黒色安山岩	1.3	1.2	0.3	0.23	2	9	38972.760	-53964.408	86.312	
側	3	211		剥片	ホルンフェルス	1.5	2.0	0.5	1.58	1	9	38975.538	-53965.189	86.372	
側	3	212		チップ	黒色安山岩	1.5	1.8	0.5	0.96	1	9	38975.522	-53965.197	86.362	
側	3	213		剥片	黒色安山岩	2.0	2.9	1.7	5.62	1	9	38975.522	-53965.645	86.462	
側	3	214	31	剥片	黒色安山岩	6.7	4.5	1.6	41.23	1	9	38975.374	-53965.765	86.444	
側	3	215		剥片	砂岩	2.3	2.3	1.0	3.75	1	9	38975.462	-53965.919	86.478	
側	3	216	16-3	剥片	黒色安山岩	1.7	2.7	1.0	3.46	1	9	38975.261	-53965.717	86.429	
側	3	217		剥片	ホルンフェルス	3.1	2.0	1.1	6.24	1	9	38975.589	-53966.270	86.638	
側	3	218		チップ	黒色安山岩	0.6	1.0	0.1	0.06	1	9	38975.770	-53966.530	86.279	
側	3	219		剥片	黒色安山岩	3.5	1.4	0.5	1.91	1	9	38974.920	-53965.367	86.594	
側	3	220	3	台形様石器	黒色安山岩										

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備考	
側3	223			剥片	黒色安山岩	1.9	3.2	0.8	4.04	1	9	38974.916	-53966.337	86.393		
側3	224			剥片	黒色安山岩	2.7	3.3	1.5	17.66	1	9	38974.401	-53966.488	86.540		
側3	225			剥片	黒色安山岩	1.9	2.1	0.7	2.75	1	9	38974.306	-53965.847	86.396		
側3	226			チップ	黒色安山岩	1.3	0.8	0.2	0.22	1	9	38973.624	-53966.583	86.554		
側3	227		1-5	剥片	黒色安山岩	1.8	2.3	1.0	2.46	2	9	38972.099	-53964.515	86.319		
側3	228			チップ	チャート	1.8	0.7	0.4	0.49	2	10	38972.504	-53964.712	86.291		
側3	229			チップ	黒色安山岩	1.6	1.2	0.8	1.36	2	9	38972.429	-53964.945	86.322		
側3	230		23-2	剥片	黒色安山岩	3.0	2.2	0.8	3.49	2	10	38972.217	-53964.948	86.310		
側3	231		22-2	剥片	黒色安山岩	2.3	2.0	0.6	2.19	2	9	38971.700	-53964.573	86.368		
側3	232			剥片	黒色安山岩	1.9	1.4	0.4	1.33	2	9	38971.250	-53964.525	86.391		
側3	233			チップ	黒色安山岩	1.5	1.2	0.4	0.45	2	9	38971.470	-53964.929	86.375		
側3	234		13-1	剥片	黒色安山岩	2.2	3.1	0.9	4.20	2	9	38971.142	-53965.174	86.407		
側3	235			剥片	黒色安山岩	2.8	1.9	0.7	2.76	2	9	38971.965	-53965.357	86.298		
側3	236			剥片	黒色安山岩	2.5	1.5	0.5	1.45	2	9	38972.069	-53965.905	86.506		
側3	237			チップ	黒色安山岩	0.7	1.5	0.3	0.21	4	9	38968.614	-53964.524	86.224		
側3	238			剥片	黒色安山岩	1.4	2.7	0.8	2.70	4	9	38968.614	-53964.524	86.224		
側3	239	50	14-2	石核	黒色安山岩	2.7	2.0	2.5	11.28	4	9	38967.828	-53965.038	86.495		
側3	240			チップ	黒色安山岩	1.0	1.3	0.2	0.24	4	9	38967.536	-53964.270	86.535		
側3	241			チップ	黒色安山岩	1.1	1.0	0.2	0.18	4	9	38967.375	-53964.239	86.334		
側3	242			剥片	黒色安山岩	1.8	2.8	0.7	2.25	4	9	38965.971	-53963.586	86.344		
側3	243	42	8-3	石核	黒色安山岩	3.1	3.1	1.8	12.65	4	10	38966.151	-53964.342	86.188		
側3	244			剥片	黒色安山岩	1.6	1.8	0.6	1.72	4	9	38966.147	-53964.699	86.273		
側3	245			剥片	黒色安山岩	1.5	1.5	0.3	0.77	4	9	38966.810	-53964.914	86.244		
側3	246		17-1	剥片	黒色安山岩	4.3	4.6	1.4	21.30	4	9	38966.461	-53965.078	86.373		
側3	247			剥片	黒色安山岩	2.2	4.2	0.8	7.64	4	9	38966.361	-53965.120	86.390		
側3	248	51	14-1	石核	黒色安山岩	2.3	2.0	3.7	13.41	4	9	38967.476	-53965.708	86.314		
側3	249			剥片	黒色安山岩	1.7	3.5	0.7	3.45	4	9	38967.426	-53966.527	86.314		
側3	250			礫	粗粒輝石安山岩	15.0	13.9	5.5	1145.70	4	9	38967.111	-53965.799	86.259		
側3	251			欠番												
側3	252			礫	粗粒輝石安山岩	6.8	5.1	3.5	143.04	3	9	38968.935	-53960.644	86.285		
側3	253			欠番												
側3	254	67		敲石	粗粒輝石安山岩	8.1	6.1	2.8	170.80	外	9	38964.131	-53957.252	86.160		
側3	255			チップ	黒色安山岩	0.6	1.0	0.2	0.09	3	9	38966.727	-53960.541	86.287		
側3	256			チップ	黒色安山岩	0.6	1.6	0.3	0.30	3	9	38966.851	-53960.106	86.284		
側3	257			チップ	黒曜石	1.0	1.0	0.4	0.19	3	9	38967.367	-53960.028	86.378		
側3	258			剥片	黒色安山岩	1.7	1.6	0.4	0.74	3	9	38967.492	-53960.052	86.083		
側3	259			チップ	黒色安山岩	0.8	1.3	0.4	0.27	3	9	38967.514	-53960.951	86.345		
側3	260			チップ	黒色安山岩	2.2	0.8	0.3	0.37	3	9	38967.976	-53961.074	86.280		
側3	261	12	13-2	RF	黒色安山岩	3.3	3.7	0.9	10.11	3	9	38969.605	-53960.926	86.268		
側3	262			剥片	黒色安山岩	1.5	1.7	0.5	0.99	4	9	38967.423	-53965.722	86.263		
側3	263			チップ	黒色安山岩	0.6	0.7	0.2	0.06	3	9	38966.679	-53960.609	86.203		
側3	264			チップ	黒色安山岩	0.9	0.4	0.1	0.04	3	9	38967.612	-53960.975	86.267		

第3文化層 IV区

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備考	
本IV	1			欠番												
本IV	2			剥片	細粒輝石安山岩	1.7	3.4	0.5	2.95	外	10	38888.525	-53879.557	85.458		
本IV	3	3		斧形石器	黒色頁岩	12.3	7.4	2.0	201.75	1	9	38895.933	-53859.661	85.405		
本IV	4			剥片	チャート	3.1	3.5	0.5	3.98	外	9	38901.681	-53868.730	86.068		
本IV	5			剥片	変玄武岩	5.2	3.5	1.3	24.58	1	9	38899.595	-53867.773	85.874		
本IV	6	31		剥片	黒色安山岩	4.7	5.6	1.3	27.20	1	9	38898.019	-53866.075	85.853		
本IV	7	53		石核	黒色安山岩	5.4	2.6	3.2	47.17	1	9	38898.281	-53865.480	85.798		
本IV	8			チップ	黒色安山岩	1.4	1.5	0.4	0.71	1	9	38897.865	-53863.906	85.726		
本IV	9			剥片	黒色安山岩	2.6	1.8	1.0	4.26	1	9	38898.520	-53861.114	85.555		
本IV	10			礫	溶結凝灰岩	12.3	10.1	5.5	1005.70	1	9	38898.587	-53860.859	85.475		
本IV	11			剥片	黒色安山岩	3.4	3.6	0.8	6.21	1	9	38900.129	-53858.522	85.352		
本IV	12		8-2	剥片	黒色安山岩	2.3	2.1	0.7	3.42	1	9	38900.200	-53857.776	85.468		
本IV	13	10	7-1	RF	黒色安山岩	5.6	4.0	1.8	31.89	1	9	38897.971	-53858.925	85.530		
本IV	14			剥片	黒色安山岩	2.1	2.4	0.6	2.04	1	9	38897.980	-53859.483	85.449		
本IV	15	4		斧形石器	ホルンフェルス	7.5	5.6	3.3	165.42	1	9	38893.940	-53861.354	85.484		
本IV	16			剥片	黒色安山岩	1.6	3.0	0.5	2.72	1	9	38894.226	-53861.330	85.596		
本IV	17			チップ	黒色安山岩	0.7	2.0	0.4	0.41	1	9	38894.099	-53860.992	85.477		
本IV	18			チップ	黒色安山岩	2.1	0.9	0.6	0.96	1	9	38894.028	-53860.731	85.510		
本IV	19		14-2	剥片	黒色安山岩	1.4	2.2	1.3	4.85	1	9	38894.063	-53859.900	85.529		
本IV	20			礫	溶結凝灰岩	28.5	17.2	13.2	9480.00	1	9	38897.056	-53864.620	85.719		
本IV	21			剥片	黒色安山岩	1.7	3.6	1.8	10.32	1	9	38897.378	-53864.987	85.837		
本IV	22			チップ	黒色安山岩	1.2	0.8	0.2	0.16	1	9	38897.246	-53865.562	85.877		
本IV	23			チップ	チャート	0.8	1.1	0.2	0.16	1	9	38897.084	-53865.346	85.833		
本IV	24	6		RF	黒色安山岩	1.6	1.7	0.9	1.45	1	9	38896.822	-53865.356	85.741		
本IV	25	36	6-2	石核	黒色安山岩	2.9	4.8	2.9	60.55	1	9	38896.655	-53865.521	85.832		
本IV	26	17		剥片	黒色安山岩	5.6	4.0	2.8	40.83	1	9	38896.167	-53865.562	85.914		
本IV	27	37	6-3	石核	黒色安山岩	2.5	7.0	3.3	53.69	1	9	38896.398	-53865.900	85.885		
本IV	28		6-1	剥片	黒色安山岩	2.7	3.5	1.2	7.29	1	9	38895.973	-53866.006	85.788		
本IV	29			チップ	ホルンフェルス	1.5	1.0	0.6	0.98	1	9	38895.592	-53865.528	85.686		
本IV	30			礫	ホルンフェルス	17.8	17.6	6.8	3006.43	1	9	38891.315	-53863.582	85.524		
本IV	31			剥片	黒色安山岩	1.7	2.7	0.5	2.11	1	9	38891.317	-53863.522	85.712		
本IV	32		1-8	剥片	黒色安山岩	2.8	3.8	1.5	9.84	1	9	38896.649	-53864.875	85.878		
本IV	33			チップ	黒色安山岩	0.9	2.2	0.3	0.47	1	9	38896.946	-53864.172	85.709		
本IV	34			チップ	黒色安山岩	1.3	1.4	0.3	0.35	1	9	38896.925	-53863.562	85.842		
本IV	35	9		RF	黒色安山岩	6.0	8.1	2.3	83.57	1	9	38895.984	-53864.532	85.798		
本IV	36	33	1-4	石核	黒色安山岩	2.6	6.6	4.9	83.43	1	9	38896.157	-53864.622	85.797		
本IV	37		1-2	剥片	黒色安山岩	4.5	4.6	1.7	32.49	1	9	38895.577	-53863.961	85.868		

第2章 旧石器時代

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロッ ク	出土 層位	X 座標	Y 座標	Z 座標	備 考
本IV	38		1-6	剥片	黒色安山岩	3.6	3.9	1.8	19.96	1	9	38895.521	-53863.727	85.884	
本IV	39		1-9	剥片	黒色安山岩	2.8	3.8	1.5	9.46	1	9	38895.334	-53863.253	85.672	
本IV	40			剥片	黒色安山岩	1.1	2.3	0.7	1.28	1	9	38895.850	-53862.961	85.622	
本IV	41	1		ナイフ形石器	黒色安山岩	9.6	3.6	1.3	29.86	1	9	38895.860	-53866.819	85.858	
本IV	42			剥片	黒色安山岩	1.4	2.3	0.7	1.75	1	9	38895.336	-53866.370	85.740	
本IV	43			剥片	黒色安山岩	3.4	1.9	0.8	5.03	1	9	38895.057	-53865.937	85.829	
本IV	44			チップ	チャート	1.2	1.1	0.3	0.45	1	9	38894.540	-53865.854	85.828	
本IV	45			剥片	黒色安山岩	1.3	3.5	0.5	1.32	1	9	38894.447	-53865.332	85.669	
本IV	46	39	1-10	石核	黒色安山岩	2.2	5.9	3.2	42.19	1	9	38894.842	-53865.326	85.837	
本IV	47			剥片	黒色安山岩	2.1	1.4	0.5	1.10	1	9	38894.876	-53864.845	85.778	
本IV	48			剥片	黒色安山岩	2.3	1.4	0.6	1.67	1	9	38894.971	-53864.421	85.642	
本IV	49		21-1	剥片	黒色安山岩	4.1	6.1	1.5	32.15	1	9	38894.676	-53864.706	85.686	
本IV	50	57		敲石	粗粒輝石安山岩	12.5	10.8	5.4	971.60	2	9	38881.289	-53869.061	85.239	
本IV	51			剥片	黒色安山岩	3.7	2.2	0.6	4.69	2	9	38882.277	-53865.508	85.471	
本IV	52			剥片	黒色安山岩	2.1	1.4	0.7	1.28	2	9	38882.844	-53869.072	85.593	
本IV	53			剥片	黒色安山岩	1.4	3.3	0.5	4.35	2	9	38882.244	-53871.249	85.689	
本IV	54	54		石核	チャート	3.8	3.1	1.7	17.45	2	9	38881.117	-53873.298	85.695	
本IV	55	2		彫刻刀形石器	黒色頁岩	8.1	3.9	2.0	46.54	外	9	38899.508	-53876.673	86.197	
本IV	56			チップ	黒曜石	1.3	1.0	0.2	0.29	外	9	38899.443	-53874.373	86.280	
本IV	57			チップ	黒色安山岩	1.1	1.3	0.4	0.63	外	9	38898.329	-53875.006	86.246	
本IV	58			剥片	ホルンフェルス	4.3	6.0	1.3	43.63	外	9	38897.783	-53876.731	86.112	
本IV	59			剥片	溶結凝灰岩	1.2	3.4	1.0	3.32	外	9	38895.957	-53877.331	86.151	
本IV	60			剥片	黒色頁岩	2.0	1.8	0.3	1.46	外	9	38895.140	-53874.476	86.240	
本IV	61			剥片	ホルンフェルス	1.8	2.0	0.3	1.27	外	7	38889.571	-53874.568	86.282	
本IV	62			剥片	黒色安山岩	3.7	1.8	0.9	3.22	外	7	38889.364	-53874.717	86.309	
本IV	63	23		剥片	黒色安山岩	4.6	4.8	1.7	28.58	外	5	38890.189	-53873.649	86.098	
本IV	64	50	10-3	石核	黒色安山岩	4.1	5.4	1.8	33.88	外	9	38886.128	-53874.663	85.841	
本IV	65			チップ	黒曜石	1.3	1.0	0.3	0.25	外	7	38889.867	-53871.212	86.198	
本IV	66														縄文時代遺物か
本IV	67	34	2-8	石核	黒色安山岩	2.9	6.8	3.7	52.04	外	7	38894.337	-53870.906	86.060	
本IV	68			剥片	珩質頁岩	1.9	2.1	0.5	1.40	1	9	38891.839	-53868.603	85.899	
本IV	69		24-2	剥片	珩質頁岩	2.9	2.3	0.8	3.44	1	9	38891.217	-53868.150	86.045	
本IV	70		18-1	剥片	黒色安山岩	2.7	3.4	1.1	8.42	1	9	38890.678	-53867.050	85.918	
本IV	71		24-1	剥片	珩質頁岩	1.9	1.5	0.5	1.12	1	9	38890.925	-53866.085	85.670	
本IV	72			剥片	黒曜石	1.6	1.6	0.3	0.72	1	9	38890.599	-53865.711	85.899	
本IV	73			チップ	黒色安山岩	1.4	1.0	0.2	0.23	1	9	38890.534	-53865.394	85.881	
本IV	74		22-2	剥片	黒色安山岩	2.6	3.6	0.9	6.19	1	9	38890.950	-53865.555	85.757	
本IV	75	26		剥片	黒色安山岩	6.2	6.0	2.1	46.35	1	9	38892.719	-53866.747	85.780	
本IV	76			剥片	黒色安山岩	2.2	2.6	0.9	2.51	1	9	38893.047	-53866.069	85.813	
本IV	77	52	5-3	石核	黒色安山岩	7.8	5.4	2.1	55.40	1	9	38894.114	-53866.524	85.832	
本IV	78	21		剥片	黒色安山岩	4.3	5.4	1.2	23.82	1	9	38894.049	-53864.640	85.733	
本IV	79			剥片	チャート	1.5	1.7	0.3	0.66	1	9	38894.013	-53864.050	85.739	
本IV	80			剥片	黒色安山岩	1.8	2.0	0.4	0.93	1	9	38893.686	-53863.847	85.711	
本IV	81			欠番											
本IV	82			チップ	ホルンフェルス	0.9	1.0	0.4	0.25	1	9	38893.815	-53863.538	85.729	
本IV	83	47	3-2	石核	黒色安山岩	1.9	2.1	1.5	3.17	1	9	38893.529	-53863.459	85.651	
本IV	84		15-2	剥片	黒色安山岩	4.0	5.0	1.1	14.47	1	9	38893.678	-53863.168	85.780	
本IV	85	47	3-3	石核	黒色安山岩	3.9	3.2	1.4	17.59	1	9	38893.233	-53862.913	85.792	
本IV	86		3-1	剥片	黒色安山岩	1.2	2.3	0.4	1.29	1	9	38893.206	-53862.890	85.794	
本IV	87	48	3-5	石核	黒色安山岩	4.2	4.2	1.4	21.86	1	9	38894.287	-53863.056	85.664	
本IV	88			剥片	黒色安山岩	1.6	1.8	0.6	1.51	1	9	38891.336	-53863.116	85.644	
本IV	89		4-1	剥片	黒色安山岩	2.3	4.8	1.0	7.64	1	9	38891.059	-53863.120	85.644	
本IV	90		19-1	剥片	黒色安山岩	2.0	2.9	0.7	3.14	1	9	38891.056	-53862.904	85.558	
本IV	91		2-3	剥片	黒色安山岩	2.6	2.9	1.4	8.73	1	9	38890.904	-53863.627	85.663	
本IV	92		22-1	剥片	黒色安山岩	3.5	3.4	1.7	14.96	1	9	38890.615	-53863.917	85.605	
本IV	93		5-2	剥片	黒色安山岩	2.1	3.4	0.7	3.44	1	9	38890.513	-53864.130	85.661	
本IV	94			剥片	黒色安山岩	1.4	2.4	0.3	0.93	1	9	38890.096	-53863.968	85.630	
本IV	95		16-2	剥片	黒色安山岩	2.9	3.3	1.5	9.36	1	9	38890.467	-53864.588	85.574	
本IV	96	15		剥片	黒色安山岩	6.6	6.3	1.6	40.60	1	9	38891.387	-53864.602	85.651	
本IV	97			剥片	黒色安山岩	1.5	1.4	0.5	0.80	1	9	38892.045	-53863.809	85.711	
本IV	98			剥片	黒色安山岩	2.5	2.4	0.6	2.88	1	9	38888.639	-53867.711	85.709	
本IV	99			剥片	珩質頁岩	3.1	1.5	0.7	3.11	1	9	38889.195	-53867.403	85.712	
本IV	100			チップ	黒曜石	1.3	0.5	0.4	0.22	1	9	38889.262	-53865.693	85.896	
本IV	101		9-2	剥片	黒色安山岩	2.5	3.2	1.2	7.32	1	9	38889.546	-53864.770	85.695	
本IV	102			剥片	黒色安山岩	2.4	3.2	1.0	5.00	1	9	38888.826	-53864.202	85.728	
本IV	103		18-2	剥片	黒色安山岩	2.2	2.6	0.7	3.63	1	9	38889.029	-53863.567	85.642	
本IV	104	8	20-2	RF	黒色安山岩	3.0	2.9	0.7	6.10	1	9	38888.465	-53862.465	85.457	
本IV	105			剥片	黒色安山岩	3.8	4.6	1.3	15.67	1	9	38891.450	-53862.774	85.719	
本IV	106	24		剥片	黒色安山岩	2.5	4.6	0.9	8.30	1	9	38886.945	-53862.083	85.543	
本IV	107		17-1	剥片	黒色安山岩	3.7	2.7	0.8	5.46	1	9	38887.002	-53861.797	85.520	
本IV	108	8	20-1	RF	黒色安山岩	5.4	2.8	1.0	14.13	1	9	38887.893	-53861.423	85.462	
本IV	109	25		剥片	黒色安山岩	3.1	5.2	0.9	12.65	1	9	38888.302	-53860.863	85.538	
本IV	110			剥片	黒色安山岩	1.9	2.1	0.6	1.83	1	9	38888.034	-53859.841	85.449	
本IV	111			剥片	黒色安山岩	3.4	2.1	1.2	5.95	1	9	38888.145	-53859.285	85.463	
本IV	112		15-1	剥片	黒色安山岩	4.7	2.6	1.0	8.06	1	9	38888.312	-53859.498	85.207	
本IV	113			チップ	黒色安山岩	1.0	1.6	0.2	0.30	1	9	38888.312	-53859.762	85.273	
本IV	114		23-1	剥片	黒色安山岩	1.8	2.3	0.9	3.51	1	9	38888.665	-53859.296	85.258	
本IV	115	35	2-9	石核	黒色安山岩	3.2	5.6	2.6	55.03	1	9	38888.957	-53858.990	85.245	
本IV	116			剥片	黒色安山岩	0.9	2.0	0.5	0.90	1	9	38888.869	-53860.564	85.355	
本IV	117		2-1	剥片	黒色安山岩	3.5	3.0	1.1	9.22	1	9	38889.085	-53860.913	85.547	
本IV	118			剥片	黒色安山岩	3.1	2.7	0.6	3.81	1	9	38889.299	-53860.288	85.527	
本IV	119			剥片	黒色安山岩	2.3	2.6	0.4	2.19	1	9	38890.030	-53859.914	85.467	
本IV	120			剥片	黒色安山岩	2.7	1.5	1.0	3.02	1	9	38890.079	-53860.391	85.550	

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
本IV	121			剝片	黒色安山岩	2.9	1.6	0.7	2.59	1	9	38889.126	-53861.455	85.406	
本IV	122			剝片	黒色安山岩	1.5	2.8	1.2	4.94	1	9	38889.411	-53861.887	85.492	
本IV	123			チップ	黒色安山岩	1.3	1.9	0.6	0.57	1	9	38889.758	-53862.068	85.688	
本IV	124			剝片	チャート	1.6	1.8	0.6	1.55	1	9	38889.803	-53861.731	85.578	
本IV	125			剝片	黒色安山岩	2.1	2.9	0.9	3.89	1	9	38890.454	-53862.006	85.524	
本IV	126			チップ	黒色安山岩	1.3	0.9	0.2	0.21	1	9	38890.719	-53862.218	85.491	
本IV	127			チップ	黒色安山岩	1.3	0.9	0.3	0.34	1	9	38890.992	-53862.468	85.503	
本IV	128	28		剝片	黒色安山岩	2.9	3.2	0.8	7.46	1	9	38891.026	-53861.937	85.730	
本IV	129			剝片	黒色安山岩	2.2	1.5	0.5	1.31	1	9	38891.516	-53861.867	85.706	
本IV	130		2-4	剝片	黒色安山岩	3.6	4.1	1.0	11.69	1	9	38891.964	-53862.228	85.719	
本IV	131		2-5	剝片	黒色安山岩	5.0	4.2	1.4	23.58	1	9	38891.915	-53862.458	85.705	
本IV	132			チップ	黒色安山岩	1.2	0.8	0.3	0.20	1	9	38891.853	-53862.079	85.654	
本IV	133			チップ	黒色安山岩	2.1	0.8	0.5	0.86	1	9	38891.994	-53861.783	85.474	
本IV	134			剝片	黒色安山岩	2.0	2.8	1.0	4.84	1	9	38891.579	-53861.687	85.452	
本IV	135			剝片	黒色安山岩	2.8	1.3	1.2	3.12	1	9	38892.647	-53862.200	85.682	
本IV	136			剝片	黒色安山岩	2.6	2.4	0.8	3.59	1	9	38892.229	-53861.521	85.684	
本IV	137			欠番											
本IV	138			チップ	黒色安山岩	0.4	0.6	0.2	0.06	1	9	38892.126	-53863.909	85.565	
本IV	139		10-2	剝片	黒色安山岩	2.3	2.4	0.8	2.89	1	9	38892.117	-53863.565	85.631	
本IV	140			剝片	黒色安山岩	2.1	1.5	0.7	1.74	1	9	38890.855	-53861.562	85.497	
本IV	141			剝片	黒色安山岩	2.4	1.0	0.3	0.59	1	9	38890.591	-53861.382	85.581	
本IV	142			剝片	黒色安山岩	2.1	1.6	0.3	0.74	1	9	38890.345	-53861.289	85.563	
本IV	143			チップ	黒色安山岩	0.6	0.7	0.1	0.04	1	9	38889.927	-53860.959	85.486	
本IV	144	51		石核	黒色安山岩	4.6	4.7	1.5	20.43	1	9	38889.663	-53860.550	85.320	
本IV	145			剝片	黒色安山岩	1.2	3.5	0.5	2.00	1	9	38889.661	-53860.354	85.416	
本IV	146			剝片	変玄武岩	1.2	1.8	0.8	1.35	1	9	38889.673	-53858.766	85.415	
本IV	147		4-3	剝片	黒色安山岩	3.1	2.9	0.8	4.94	1	9	38887.413	-53857.702	85.082	
本IV	148			剝片	黒色安山岩	1.6	1.5	0.7	1.31	1	9	38887.400	-53857.581	85.036	
本IV	149			剝片	黒色安山岩	2.0	2.5	0.5	1.76	1	9	38887.986	-53856.803	85.045	
本IV	150														縄文時代遺物か
本IV	151			剝片	黒色安山岩	1.6	1.9	0.3	1.16	1	7	38890.519	-53855.126	85.038	
本IV	152			剝片	黒色安山岩	1.2	1.9	0.4	0.55	1	7	38891.747	-53854.349	85.051	
本IV	153			剝片	黒色安山岩	3.5	2.7	1.1	9.54	1	9	38891.409	-53856.842	85.181	
本IV	154	20		剝片	黒色安山岩	3.1	4.3	0.7	8.44	1	9	38890.515	-53857.369	85.134	
本IV	155			チップ	黒色安山岩	0.8	1.7	0.4	0.40	1	9	38890.431	-53858.004	85.219	
本IV	156	43	9-1	石核	黒色安山岩	3.9	5.2	2.4	36.18	1	9	38890.277	-53858.115	85.198	
本IV	157	55		石核	黒曜石	2.3	1.6	1.2	4.03	1	9	38890.058	-53858.066	85.403	原産地:諏訪星ヶ台群
本IV	158			チップ	黒色安山岩	1.3	1.1	0.8	1.10	1	9	38891.369	-53858.310	85.336	
本IV	159			剝片	黒色真岩	4.4	2.0	1.2	12.11	1	9	38891.096	-53863.175	85.632	
本IV	160			剝片	赤碧玉	2.1	2.7	0.4	2.85	1	9	38891.334	-53859.356	85.316	
本IV	161			剝片	黒色安山岩	1.5	3.3	0.9	3.57	1	9	38891.214	-53859.406	85.376	
本IV	162			チップ	黒色安山岩	1.0	2.1	0.2	0.40	1	9	38890.467	-53859.474	85.277	
本IV	163	41	4-4	石核	黒色安山岩	3.2	5.1	3.1	40.63	1	9	38890.263	-53859.565	85.404	
本IV	164			剝片	黒色安山岩	1.6	1.9	0.2	0.71	1	9	38890.521	-53859.822	85.455	
本IV	165			剝片	黒色安山岩	1.5	1.4	0.2	0.42	1	9	38890.580	-53859.994	85.319	
本IV	166			チップ	黒色安山岩	0.8	0.8	0.3	0.17	1	9	38890.705	-53860.598	85.506	
本IV	167			剝片	黒色安山岩	1.6	1.3	0.6	0.55	1	9	38890.267	-53860.668	85.357	
本IV	168			剝片	黒色安山岩	1.4	2.2	0.6	1.59	1	9	38890.863	-53860.108	85.485	
本IV	169			剝片	黒色安山岩	1.6	1.2	0.7	0.91	1	9	38891.182	-53859.894	85.463	
本IV	170			剝片	黒色安山岩	1.7	1.1	0.8	1.43	1	9	38891.060	-53860.309	85.438	
本IV	171			チップ	黒色安山岩	1.8	1.0	0.5	0.50	1	9	38891.532	-53859.809	85.530	
本IV	172			チップ	チャート	0.7	1.6	0.4	0.61	1	9	38891.170	-53860.834	85.583	
本IV	173			剝片	黒色安山岩	2.0	2.7	0.9	3.69	1	9	38891.224	-53860.775	85.559	
本IV	174			剝片	黒色安山岩	1.5	2.8	0.6	2.16	1	9	38891.586	-53860.927	85.656	
本IV	175			剝片	黒色安山岩	1.5	1.8	0.6	1.31	1	9	38891.577	-53860.665	85.496	
本IV	176		5-4	剝片	黒色安山岩	2.0	2.9	0.8	2.72	1	9	38891.727	-53860.495	85.545	
本IV	177			剝片	黒色安山岩	1.0	2.7	0.3	0.87	1	9	38891.920	-53860.726	85.535	
本IV	178			チップ	黒色安山岩	0.8	1.2	0.4	0.26	1	9	38891.913	-53860.948	85.507	
本IV	179			剝片	黒色安山岩	1.6	1.3	0.4	0.47	1	9	38892.585	-53861.488	85.453	
本IV	180		5-1	剝片	黒色安山岩	4.3	5.3	2.0	27.37	1	9	38892.643	-53860.884	85.447	
本IV	181	49	10-1	石核	黒色安山岩	4.8	4.7	2.0	37.66	1	9	38892.852	-53861.100	85.539	
本IV	182		1-3	剝片	黒色安山岩	1.3	1.8	0.5	0.91	1	9	38893.261	-53861.308	85.527	
本IV	183	18		剝片	黒色安山岩	5.7	4.8	1.4	31.78	1	9	38893.121	-53861.412	85.539	
本IV	184			チップ	黒色安山岩	0.5	1.0	0.2	0.07	1	9	38893.472	-53861.331	85.463	
本IV	185			チップ	変玄武岩	1.2	1.2	0.5	0.72	1	9	38893.144	-53860.356	85.614	
本IV	186			剝片	黒色安山岩	1.4	2.3	0.3	0.80	1	9	38892.444	-53859.388	85.538	
本IV	187			剝片	黒色安山岩	2.0	1.4	0.6	1.51	1	9	38892.672	-53859.046	85.526	
本IV	188			剝片	黒色安山岩	1.3	1.6	0.6	1.74	1	9	38892.206	-53858.732	85.419	
本IV	189			剝片	黒色安山岩	2.9	1.9	0.6	2.71	1	9	38892.177	-53858.314	85.441	
本IV	190			チップ	黒色安山岩	1.2	1.0	0.3	0.34	1	9	38892.963	-53857.592	85.341	
本IV	191		2-7	剝片	黒色安山岩	1.7	3.0	0.9	2.99	1	9	38893.025	-53856.418	85.289	
本IV	192			剝片	黒色安山岩	2.5	3.2	0.8	6.16	1	9	38892.383	-53855.551	85.109	
本IV	193			剝片	黒色安山岩	4.3	3.0	2.6	30.26	1	9	38894.749	-53854.702	85.065	
本IV	194		1-1	剝片	黒色安山岩	3.7	3.8	0.9	8.53	1	9	38893.818	-53856.880	85.241	
本IV	195		14-1	剝片	黒色安山岩	5.6	3.3	1.9	26.90	1	9	38894.558	-53857.090	85.384	
本IV	196			剝片	黒色安山岩	1.7	2.1	0.9	3.34	1	9	38895.099	-53857.433	85.383	
本IV	197			剝片	黒色安山岩	1.8	1.5	0.7	1.43	1	9	38893.273	-53858.625	85.492	
本IV	198			剝片	黒色安山岩	2.2	1.1	0.5	1.32	1	9	38893.682	-53858.416	85.479	
本IV	199			欠番											
本IV	200	22		剝片	黒色安山岩	4.4	5.0	1.5	17.89	1	9	38893.979	-53858.660	85.308	
本IV	201			チップ	黒色安山岩	0.8	0.8	0.2	0.11	1	9	38893.255	-53858.955	85.393	
本IV	202			剝片	黒色安山岩	2.0	1.8	0.9	2.33	1	9	38893.505	-53859.318	85.359	
本IV	203			剝片	黒色安山岩	2.9	4.2	1.4	18.45	1	9	38893.810	-53859.860	85.533	

第2章 旧石器時代

区	遺物番号	掲載No	接合No	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	ブロック	出土層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
本IV	204		9-3	剥片	黒色安山岩	2.7	3.9	2.2	17.71	1	9	38894.830	-53860.710	85.556	
本IV	205			剥片	黒色安山岩	1.9	1.8	0.5	1.30	1	9	38894.840	-53859.778	85.590	
本IV	206			剥片	黒色頁岩	2.0	2.1	0.3	1.30	1	9	38895.095	-53859.346	85.547	
本IV	207			剥片	黒色安山岩	1.4	2.6	0.5	1.29	1	9	38894.902	-53858.847	85.548	
本IV	208			チップ	黒色安山岩	1.0	1.5	0.2	0.27	1	9	38894.684	-53858.852	85.508	
本IV	209			チップ	黒色安山岩	1.5	0.5	0.3	0.24	1	9	38895.482	-53858.078	85.316	
本IV	210			欠番											
本IV	211			剥片	黒色安山岩	2.7	1.8	0.9	2.88	1	9	38895.206	-53860.764	85.447	
本IV	212	5		スクレイパー	ホルンフェルス	4.2	4.2	1.1	25.02	1	9	38895.447	-53860.777	85.404	
本IV	213			剥片	黒色安山岩	2.5	1.4	0.2	0.84	1	9	38895.484	-53860.543	85.436	
本IV	214	11		RF	チャート	1.8	0.8	0.6	0.87	1	9	38895.403	-53860.275	85.585	
本IV	215			剥片	黒色安山岩	2.6	2.1	0.5	2.33	1	9	38895.598	-53860.338	85.574	
本IV	216			剥片	黒色安山岩	2.8	1.8	1.0	4.12	1	9	38895.422	-53860.078	85.572	
本IV	217	19		剥片	黒色安山岩	5.7	4.2	0.9	12.41	1	9	38895.979	-53859.627	85.436	
本IV	218			チップ	黒色安山岩	1.3	1.7	0.7	0.87	1	9	38895.791	-53860.333	85.657	
本IV	219	29		剥片	黒色安山岩	5.4	2.9	1.6	16.04	1	9	38895.995	-53860.453	85.664	
本IV	220			チップ	黒色安山岩	1.0	1.7	0.2	0.28	1	9	38895.924	-53860.352	85.552	
本IV	221			剥片	黒色安山岩	2.0	1.9	0.8	1.62	1	9	38896.196	-53860.214	85.632	
本IV	222			剥片	黒色安山岩	1.2	1.9	0.3	0.79	1	9	38896.422	-53860.725	85.470	
本IV	223			チップ	黒色安山岩	0.7	0.3	0.2	0.04	1	9	38896.542	-53860.496	85.551	
本IV	224			チップ	黒色安山岩	0.7	1.1	0.3	0.16	1	9	38896.562	-53860.889	85.600	
本IV	225		1-7	剥片	黒色安山岩	1.8	2.0	0.9	2.66	1	9	38896.332	-53861.894	85.661	
本IV	226		17-2	剥片	黒色安山岩	2.7	1.9	0.8	3.29	1	9	38896.482	-53862.188	85.793	
本IV	227			剥片	黒色安山岩	1.3	1.8	0.2	0.35	1	9	38896.899	-53861.894	85.648	
本IV	228	38		石核	黒色安山岩	2.5	5.5	3.8	37.84	1	9	38897.191	-53860.065	85.576	
本IV	229			剥片	黒色安山岩	0.9	2.0	0.9	1.18	1	9	38897.135	-53859.968	85.468	
本IV	230			チップ	黒色安山岩	1.0	1.3	0.2	0.20	1	9	38896.738	-53858.394	85.370	
本IV	231			剥片	ホルンフェルス	2.4	1.3	0.7	2.32	1	9	38896.683	-53858.215	85.500	
本IV	232			剥片	黒色安山岩	2.5	1.9	0.6	2.08	1	9	38897.156	-53858.460	85.529	
本IV	233	42	7-3	石核	黒色安山岩	3.4	4.6	2.0	25.71	1	9	38897.403	-53856.987	85.426	
本IV	234		12-1	剥片	黒色安山岩	5.1	4.3	2.0	35.23	1	9	38897.534	-53856.737	85.344	
本IV	235			剥片	黒色安山岩	3.8	2.0	0.7	4.36	1	9	38897.359	-53855.770	85.287	
本IV	236			剥片	黒色安山岩	1.4	1.6	0.2	0.43	1	9	38897.507	-53854.507	84.997	
本IV	237			剥片	黒色安山岩	2.1	1.3	0.7	1.00	1	7	38898.266	-53856.631	85.259	
本IV	238			剥片	黒色安山岩	3.0	1.7	0.8	2.35	1	7	38898.634	-53856.860	85.264	
本IV	239	27		剥片	黒色安山岩	3.5	4.3	1.1	10.65	1	7	38899.169	-53856.842	85.301	
本IV	240			剥片	黒色安山岩	1.8	2.0	0.6	1.36	1	7	38899.952	-53856.835	85.307	
本IV	241	45	8-3	石核	黒色安山岩	3.6	5.5	1.6	29.67	1	7	38900.737	-53856.078	85.222	
本IV	242			剥片	黒色安山岩	2.3	2.6	1.3	8.73	1	9	38897.906	-53857.332	85.287	
本IV	243		8-1	剥片	黒色安山岩	3.0	3.3	1.1	8.49	1	9	38898.321	-53858.013	85.304	
本IV	244			剥片	黒色安山岩	2.2	0.9	0.4	0.58	1	9	38896.103	-53865.564	85.872	
本IV	245			剥片	黒色安山岩	1.4	2.6	0.7	2.25	1	9	38894.575	-53864.661	85.627	
本IV	246														縄文時代遺物か
本IV	247			剥片	黒色安山岩	1.7	1.5	0.3	0.77	1	9	38892.717	-53864.452	85.633	
本IV	248		2-6	剥片	黒色安山岩	6.0	4.0	1.3	28.30	1	9	38893.177	-53862.854	85.711	
本IV	249			剥片	黒色安山岩	1.8	1.5	0.4	0.84	1	9	38891.301	-53863.144	85.591	
本IV	250			欠番											
本IV	251			礫	粗粒輝石安山岩	9.8	7.0	5.4	463.40	1	9	38899.479	-53866.117	85.730	
本IV	252			礫	粗粒輝石安山岩	15.1	6.1	5.6	502.40	1	9	38898.826	-53866.727	85.896	
本IV	253			欠番											
本IV	254			剥片	黒色安山岩	2.6	1.2	0.5	1.67	1	9	38896.611	-53864.778	85.740	
本IV	255			欠番											
本IV	256			欠番											
本IV	257			欠番											
本IV	258			欠番											
本IV	259			欠番											
本IV	260			欠番											
本IV	261			欠番											
本IV	262			礫	点紋頁岩	12.0	4.8	3.3	230.30	1	9	38894.473	-53859.833	85.370	
本IV	263			欠番											
本IV	264			礫	溶結凝灰岩	21.2	11.4	6.9	2636.80	1	9	38894.958	-53858.694	85.322	
本IV	265			欠番											
本IV	266			欠番											
本IV	267	56		敲石	黒色頁岩	3.6	2.1	2.4	18.93	1	9	38892.504	-53855.965	85.197	
本IV	268			欠番											
本IV	269			礫	ホルンフェルス	20.5	13.2	6.5	3016.68	1	9	38896.248	-53857.246	85.157	
本IV	270			礫	ホルンフェルス				174.49	1	9	38897.750	-53861.186	85.628	残存状態悪く計測不能
本IV	271			礫	ホルンフェルス	11.3	4.6	3.1	226.74	1	9	38898.798	-53860.847	85.508	
本IV	272			欠番											
本IV	273			礫	粗粒輝石安山岩	18.4	11.1	8.8	2598.12	1	9	38898.746	-53862.360	85.634	
本IV	274			欠番											
本IV	275			欠番											
本IV	276		1-5	剥片	黒色安山岩	3.7	4.1	1.4	13.30	1	9	38895.535	-53864.015	85.765	
本IV	277			礫	石英斑岩	14.6	8.6	5.7	859.60	1	9	38892.425	-53863.102	85.558	
本IV	278	44	11-2	石核	黒色安山岩	3.9	7.5	3.4	60.11	1	9	38891.086	-53863.533	85.573	
本IV	279	40	4-2	石核	黒色安山岩	3.8	5.6	2.1	46.71	1	9	38891.179	-53863.360	85.538	
本IV	280		11-1	剥片	黒色安山岩	4.6	5.9	1.6	34.11	1	9	38891.961	-53863.453	85.547	
本IV	281		3-4	剥片	黒色安山岩	2.1	2.6	0.8	2.89	1	9	38892.313	-53863.368	85.567	
本IV	282		2-2	剥片	黒色安山岩	3.7	2.8	1.9	9.00	1	9	38892.743	-53863.556	85.533	
本IV	281			欠番											
本IV	284			チップ	黒色安山岩	0.7	1.0	0.2	0.10	1	9	38892.045	-53862.463	85.577	
本IV	285			チップ	黒色安山岩	0.7	0.9	0.3	0.13	1	9	38891.844	-53862.364	85.618	
本IV	286	30		剥片	黒色安山岩	4.0	3.5	0.9	8.93	1	9	38892.651	-53862.262	85.625	

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ッ ク	出 土 層 位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考
本IV	287			チップ	黒色安山岩	0.7	0.7	0.2	0.06	1	9	38895.424	-53863.626	85.762	
本IV	288			チップ	黒色安山岩	1.2	0.8	0.2	0.11	1	9	38896.546	-53862.202	85.647	
本IV	289			欠番											
本IV	290	59		敲石	粗粒輝石安山岩	15.9	11.2	8.6	2244.17	1	9	38891.233	-53862.938	85.465	
本IV	291			欠番											
本IV	292			剥片	黒色安山岩	1.8	1.8	0.6	1.44	1	9	38895.432	-53863.634	85.657	
本IV	293			欠番											縄文時代遺物か
本IV	294			剥片	黒色安山岩	2.3	4.3	1.5	11.81	1	9	38891.743	-53863.291	85.499	
本IV	295		19-2	剥片	黒色安山岩	2.4	2.8	0.7	3.17	1	9	38889.970	-53861.012	85.437	
本IV	296			剥片	黒色安山岩	2.4	1.1	0.3	0.70	1	9	38887.995	-53859.383	85.203	
本IV	297			剥片	チャート	1.3	1.7	0.4	0.97	1	9	38894.525	-53860.218	85.506	
本IV	298			チップ	黒色安山岩	0.6	0.7	0.2	0.11	1	9	38892.286	-53863.117	85.502	
本IV	299		21-2	剥片	黒色安山岩	5.3	7.5	1.6	43.10	1	9	38892.348	-53859.860	85.316	
本IV	300			剥片	黒色安山岩	1.1	2.2	0.3	0.96	1	9	38896.004	-53859.596	85.374	
本IV	301		7-2	剥片	黒色安山岩	1.9	2.4	1.1	3.84	1	9	38896.673	-53858.153	85.364	
本IV	302	12		RF	ホルンフェルス	8.0	2.6	1.9	52.69	1	9	38896.532	-53862.258	85.533	
本IV	303			剥片	黒色安山岩	1.8	1.3	0.4	0.64	1	9	38890.476	-53864.337	85.534	
本IV	304			チップ	チャート	0.7	1.1	0.3	0.22	2	9	38880.781	-53867.401	85.179	
本IV	305			チップ	チャート	0.9	1.2	0.5	0.58	2	9	38882.140	-53871.127	85.506	
本IV	306			礫	粗粒輝石安山岩	15.8	14.0	8.8	3303.55	1	9	38891.514	-53867.477	85.712	
本IV	307			剥片	黒色安山岩	2.7	1.8	1.0	2.85	1	9	38890.615	-53859.149	85.242	
本IV	308			チップ	黒色安山岩	1.0	1.1	0.9	0.59	1	9	38896.594	-53860.478	85.474	
本IV	309			剥片	ホルンフェルス	1.6	2.6	0.8	3.68	1	9	38896.840	-53859.993	85.329	
本IV	310			剥片	黒色安山岩	3.1	1.5	0.7	2.68	1	9	38896.213	-53858.016	85.261	
本IV	311			チップ	黒色安山岩	1.1	1.0	0.5	0.44	1	9	38892.720	-53857.819	85.215	
本IV	312		12-2	剥片	黒色安山岩	2.8	2.5	1.0	4.78	1	9	38892.664	-53858.534	85.258	
本IV	313			チップ	黒色安山岩	0.4	1.0	0.2	0.10	1	9	38892.924	-53859.452	85.350	
本IV	314	7		RF	黒色安山岩	2.0	2.3	1.0	3.35	1	9	38891.892	-53859.333	85.301	
本IV	315			チップ	黒色安山岩	1.1	1.5	0.4	0.48	1	9	38892.322	-53861.023	85.383	
本IV	316		16-1	剥片	黒色安山岩	1.7	2.7	0.8	2.30	1	9	38891.263	-53862.824	85.465	
本IV	317			剥片	黒色安山岩	1.4	1.7	0.2	0.51	1	9	38889.749	-53862.504	85.428	
本IV	318			剥片	黒色安山岩	1.9	2.0	0.5	1.19	1	9	38889.181	-53861.796	85.382	
本IV	319			剥片	黒色安山岩	2.2	2.6	1.1	4.45	1	9	38888.853	-53859.148	85.175	
本IV	320	8	20-3	RF	黒色安山岩	6.1	3.8	1.1	23.14	2	9	38879.480	-53872.156	85.390	
本IV	321			礫	粗粒輝石安山岩	19.1	10.5	6.9	2145.16	1	9	38888.422	-53858.859	85.069	
本IV	322	58		敲石	粗粒輝石安山岩	15.1	7.1	4.5	657.30	1	9	38888.139	-53859.139	85.062	
本IV	323			礫	ホルンフェルス	18.1	8.5	6.0	1273.00	1	9	38888.476	-53859.799	85.111	
本IV	324			礫	ホルンフェルス				364.30	1	9	38897.708	-53861.201	85.560	残存状態悪く計測不能
本IV	325			欠番											
本IV	326			欠番											
本IV	327			欠番											
本IV	328			欠番											
本IV	329			欠番											
本IV	330	32		剥片	黒色安山岩	5.3	5.9	1.8	40.78	1	9	38889.256	-53859.167	85.138	
本IV	331			チップ	黒色安山岩	1.0	0.6	0.2	0.13	1	9	38894.391	-53855.801	84.989	
本IV	332			礫	溶結凝灰岩	7.0	5.9	2.4	113.40	1	9	38894.323	-53856.810	84.952	
本IV	333			剥片	黒色安山岩	2.3	2.9	0.7	3.40	1	9	38894.071	-53857.802	85.123	
本IV	334			チップ	黒色安山岩	0.7	0.6	0.1	0.02	1	9	38893.322	-53858.827	85.193	
本IV	335			欠番											
本IV	336			剥片	黒色安山岩	1.8	2.1	0.6	1.44	1	9	38892.189	-53859.674	85.328	
本IV	337			剥片	黒色安山岩	1.9	1.9	0.7	1.76	1	9	38892.154	-53860.645	85.341	
本IV	338			剥片	黒色安山岩	1.9	2.2	1.0	3.02	1	9	38891.986	-53861.909	85.398	
本IV	339	13		剥片	黒色安山岩	5.1	3.3	1.0	15.86	1	9	38890.633	-53861.596	85.276	
本IV	340			欠番											
本IV	341			チップ	黒色安山岩	1.7	0.9	0.8	0.61	1	9	38889.450	-53859.472	85.140	
本IV	342			欠番											
本IV	343			礫	ホルンフェルス	15.1	4.9	3.8	513.00	1	9	38888.078	-53858.181	84.927	
本IV	344			剥片	黒色安山岩	1.8	3.5	0.7	3.41	1	9	38887.777	-53858.259	85.042	
本IV	345		23-2	剥片	黒色安山岩	2.6	2.1	0.8	2.53	1	9	38886.493	-53855.864	84.776	
本IV	346			剥片	黒色安山岩	1.9	2.4	0.5	2.12	1	9	38886.596	-53859.734	85.157	
本IV	347	14		剥片	黒色安山岩	4.7	2.3	1.1	11.01	1	9	38888.490	-53862.824	85.362	
本IV	348		13-1	剥片	黒色安山岩	3.5	3.8	1.4	14.74	1	9	38887.851	-53864.153	85.452	
本IV	349			礫	石英斑岩	8.7	7.9	5.3	479.40	2	9	38883.500	-53866.374	85.132	
本IV	350			礫	粗粒輝石安山岩	12.2	11.3	3.6	562.40	1	10	38894.157	-53860.985	85.291	
本IV	351			礫	粗粒輝石安山岩	6.7	6.2	2.6	131.28	1	10	38894.411	-53858.952	85.138	
本IV	352	46	13-2	石核	黒色安山岩	3.0	5.4	1.7	30.36	1	10	38895.283	-53858.378	85.130	
本IV	353	16		剥片	黒色安山岩	5.4	7.3	1.2	35.95	1	10	38892.615	-53860.490	85.272	

第3文化層 IV区 側部

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ッ ク	出 土 層 位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考
側4	1		1-2	剥片	チャート	3.7	2.5	1.0	6.00	外	9	38937.539	-53869.669	85.910	
側4	2			剥片	黒色頁岩	1.8	5.0	1.6	15.77	外	9	38938.071	-53869.045	85.949	
側4	3		1-1	剥片	チャート	2.1	1.5	0.6	1.27	外	9	38937.938	-53868.024	85.888	
側4	4			剥片	黒色頁岩	1.6	2.3	0.4	1.99	外	9	38936.516	-53866.656	85.539	

IV区出土の縄文時代の可能性ある石器

区	遺物 番号	掲載 No	接合 No	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重量	ブ ッ ク	出 土 層 位	X 座 標	Y 座 標	Z 座 標	備 考
本IV	66	2		スクレイパー	黒色頁岩	5.6	9.1	1.3	71.11		7	38891.569	-53870.991	86.157	
本IV	150	1		打製石斧	黒色頁岩	11.2	5.3	1.9	121.31		9	38892.218	-53864.048	85.660	
本IV	246			剥片	黒色安山岩	3.6	3.1	0.5	5.64		9	38891.603	-53871.001	86.084	
本IV	293			チップ	黒曜石	1.7	0.8	0.2	0.17		7	38891.638	-53870.988	86.049	

第3章 県側道1・2区 検出された遺構

第1節 遺構の概要

県側道1・2区から検出された遺構は、近世のものと思われる土坑3基と溝1条、井戸1基、縄文時代の住居跡1軒、埋甕2基と土坑7基である。

中・近世面は、遺構確認面が表土から浅く、住宅地であったため攪乱を多分に受けており、遺構の残存状況はあまり良くない。1区では、近世面と縄文面で層位的に分離できたが、2区では分離できなかった。2区では、近世遺構が検出されなかった。

縄文面においては、1区の西側には、本線から続く縄文土器を包含する谷があり、その谷を境として東南にあたる本線III・IV区に縄文集落が広がっている。本地区は、縄文集落の主体から外れた所に位置するため遺構の密度が少ない。

土層の堆積

現地表から遺構の確認面までは浅く、住宅地跡のため攪乱を非常に受けている。ローム層まで浅く漸移層の残りも良くない。浅間B・C軽石は、表土中ないし遺構覆土中に多少混じる。

遺物出土

遺物は、全体的に少ない。近世の土坑からは図示できるものは出土していない。縄文時代では、1区西側にある谷からは縄文土器片を検出した。また、土坑や遺物の集中ケ所があり、縄文土器・石器等が出土しているが遺構密度が少ないためか、本線部に比べ出土量が少ない。

第2節 県側道1区検出の遺構

近世の遺構

近世の土坑は、1区から3基検出された。いずれも土坑の性格は不明で出土遺物も検出されなかった。1号土坑は、010—075グリッドに位置し、不整形を呈する。長軸1.15m、短軸0.98m、深さ0.22mを測る。2号土坑は、010—065グリッドに位置し、ほぼ円形を呈する。長軸・短軸とも1.03m、深さ0.55mを測る。底面が2段に掘り込まれている。3号土坑は、010—075グリッドに位置し、1号土坑に隣接する。ほぼ円形を呈する。長軸・短軸とも0.78m、深さ0.24mを測る。

溝は、1区の西北側030—120グリッド周辺にある。ほぼ、030ラインに沿うように東西方向に伸びている。幅0.63m、深さ0.12～0.42mを測る。底面には、小ピットが確認された。溝は、地割りを区画するもので、底面に見られたピットは、溝に植えられた植物の痕と考えられる。

井戸は、010—070グリッドにある。上部の掘り込みが南北2.65m、東西1.80mを測る。井戸部の上端径は、0.70mである。内部で、オーバーハングしている。井戸の底は、深く未検出である。遺物は検出されなかった。

縄文時代の遺構

1区東寄りに埋甕が2基検出された。1号埋甕の掘り方は、025—995グリッドにあり、東西0.70m、南北0.65mを測る。両耳壺が埋設されていた。時期は、加曾利E III式期のものである。2号埋甕は、030—995グリッドにあり、東西0.65m、南北0.65mを測る。大形の深鉢を埋設し、それを囲むように大形破片の土器が埋設されていた。土器の時期は、加曾利E IV式期のものである。

第3節 県側道2区検出の遺構

住居跡

1号住居跡の位置は、975—970グリッドにある。形状は、ほぼ円形を呈する。住居の北側が調査区外のため検出できなかった。規模は、南北3.10m以上、東西4.35m、深さ0.36mを測る。覆土は、暗褐色土に炭化物や焼土を含む層である。床面は、ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、住居の南側に壁に沿って2本検出された。炉は、ほぼ中央部に2段に掘り窪められた地床炉と思われるが、焼土や炭化物の堆積が少ない。遺物は、ほぼ遺構の中央部炉周辺にまとまって出土している。加曾利EⅢ式の土器が出土した。石器は、多孔石、磨石、打製石斧等が出土している。調査当初、土坑として捉えたが調査の結果、炉や柱穴、平坦な床面などから住居跡とした。出土遺物から加曾利EⅢ式期のものと考えられる。

土坑

2号土坑は、975—970グリッドに位置し4号土坑と重複している。卵形で長軸1.25m、短軸0.97m、深さ0.23mを測る。遺物は、後期初頭の土器小片と打製石斧が出土している。3号土坑は、975—970グリッドに位置し、4号土坑と重複している。楕円形で長軸1.74m、短軸1.58m、深さ0.42mを測る。出土遺物は、加曾利EⅣ式土器、多孔石、打製石斧などが出土している。4号土坑は、870—965グリッドに位置し、東側が調査区外にある。2・3号土坑と重複している。平面形は、不整形で長軸3.70m、深さ0.26mを測る。底面はほぼ平坦である。出土遺物は、加曾利EⅢ式の土器、打製石斧などである。

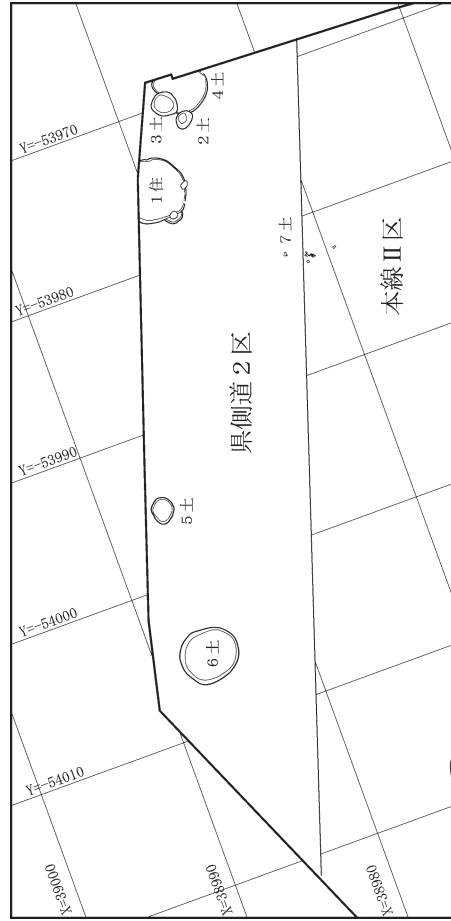
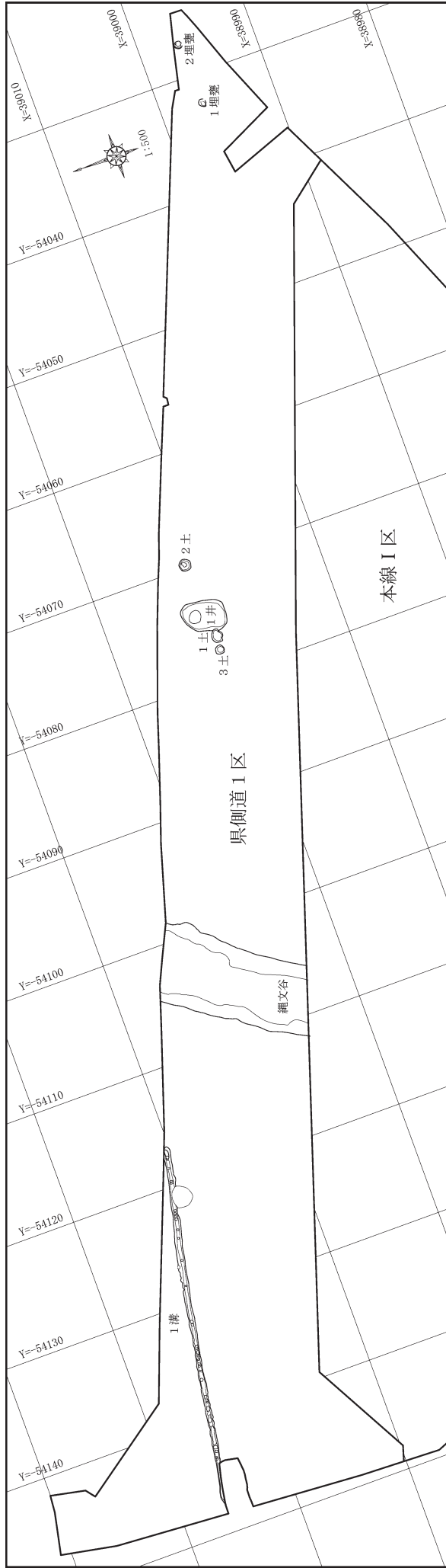
5号土坑は、980—990グリッドに位置する。楕円形で長軸1.80m、短軸1.50m、深さ0.20mの皿状の断面形をする。出土遺物は、中期初頭の土器小片が少数出土している。

6号土坑は、980—000グリッドに位置する。平面形は、楕円形で長軸3.98m、短軸3.62m、深さ0.46mを測る。床面は、皿状に窪み凹凸が見られた。出土遺物は、中期初頭の浅鉢や深鉢片、打製石斧、石錐などが覆土上層から出土している。

7号土坑は、970—980グリッド周辺の掘り込みが無いところに土器が集中して出土している。加曾利EⅢ～Ⅳ式土器のほぼ完形品がまとまって出土している。

県側道1・2区遺構一覧表

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
1	1号	土坑	不整形		1.15	0.98	0.22		010-075
1	2号	土坑	円形		1.03	1.03	0.55		010-065
1	3号	土坑	円形		0.78	0.78	0.24		010-075
1		溝						長さ31.30m幅0.63m深さ0.12~0.42m	010-070
1		井戸			2.65	1.80	—	上端径0.70m	010-070
1	1号	埋甕			0.70	0.65	—	加曾利EⅢ	025-995
1	2号	埋甕			0.65	0.65	—	加曾利EⅣ	030-995
2	1号	住居	円形		4.35	(3.10)	0.36	加曾利EⅢ	975-970
2	2号	土坑	卵形		1.25	0.97	0.23	後期初頭。4号土坑と重複。	975-970
2	3号	土坑	楕円形		1.74	1.58	0.42	加曾利EⅣ。4号土坑と重複。	975-970
2	4号	土坑	不整形		3.70	—	0.26	加曾利EⅢ。2・3号土坑と重複。	870-965
2	5号	土坑	楕円形		1.80	1.50	0.20	中期初頭	980-990
2	6号	土坑	楕円形		3.98	3.62	0.46	中期初頭	980-000
2	7号	土坑	不明		—	—	—	加曾利EⅢ～Ⅳ	970-980



第95図 泉側道 1・2 区全体図

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

第1節 縄文時代の遺構

1 遺構の概要

Ⅲ・3区の地形は、北西から南東へ緩やかな傾斜をしている。そのため、Ⅲ・3区の縄文時代遺構確認面は、北側においては、現地表から遺構の確認面までは浅く、住宅地跡や耕作のための攪乱を多く受けている。東南では、比較的沖積層の堆積があり、縄文土器の包含層が形成されている。遺構の掘り込みが浅いため調査区の北側では、住宅や耕作により遺構上部が削平されたものも多い。

検出された遺構は、縄文時代中期から後期の住居49軒である。このうち柄鏡形住居跡は、7軒である。時期別では、加曽利EⅠ～Ⅱ式期13軒、加曽利EⅢ式期15軒、加曽利EⅢ～Ⅳ式期8軒、中期末～称名寺式期10軒、堀之内式期2軒になり、不明1軒である。各時期の住居跡の分布を見ると古い時期は、調査区の北側に多く、新しい時期になると南東に分布する傾向にある。

土坑は476基検出された。これらの検出された土坑の形態は、円形、楕円形、長方形等がある。土坑の機能としては、貯蔵や墓壇などが考えられるが、その他植物の根痕や性格不明のものも多い。

2 検出された遺構

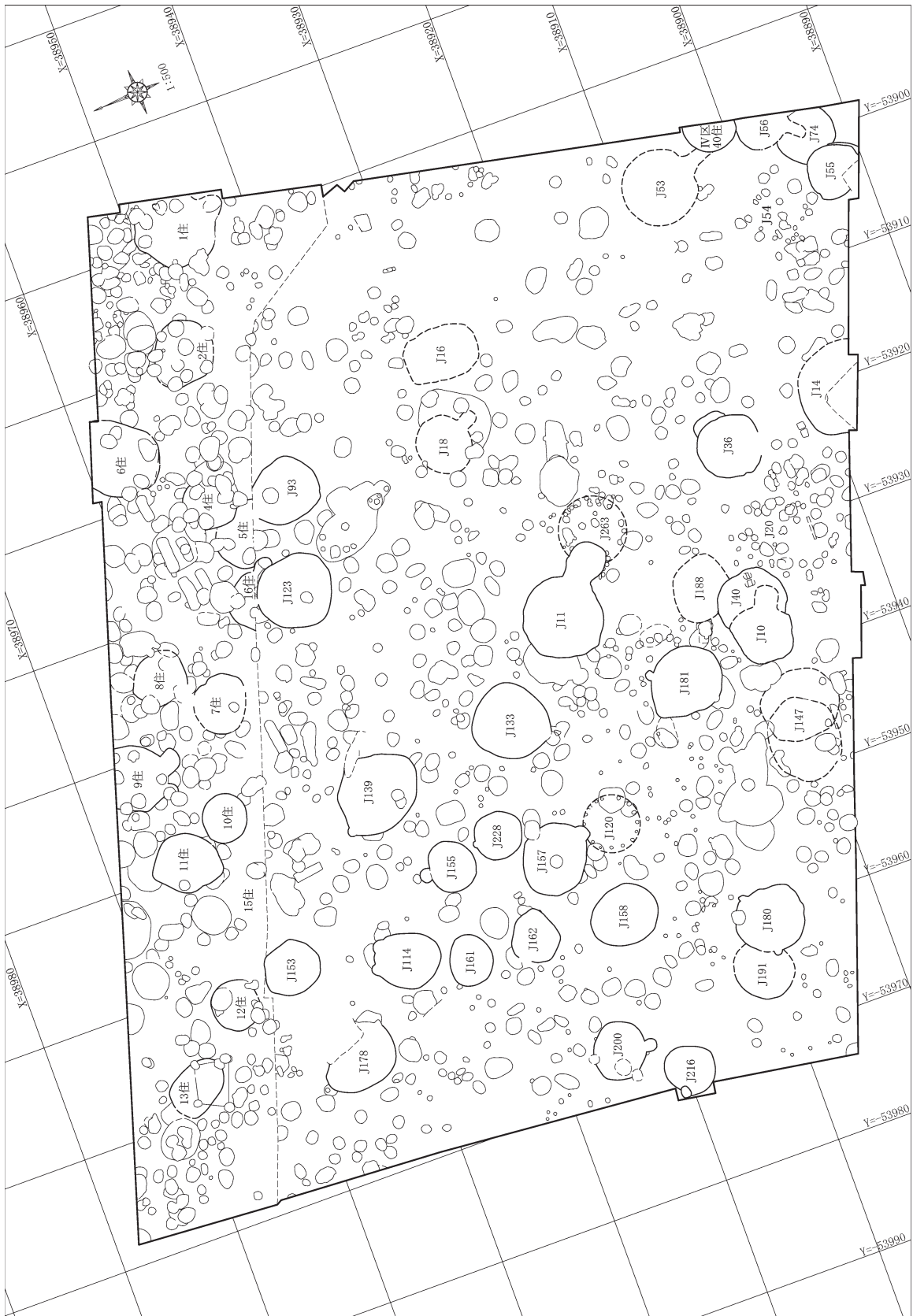
J-10 (第112・113・341～345図 PL41・122～124)

位置 910-935 **重複** J-40 **主軸** N-65°-W **形状** 柄鏡形。遺構の北西部は、削平され僅かな敷石の残存と柱穴の状況から判断した。住居本体の形状は、5角形を呈し、南東側に張り出し部が接続する。 **規模** (6.60)m×5.30m×0.35m **覆土** ローム漸移層まで掘り下げている。比較的平坦で、炉周辺では、硬く締まっている。遺構の北東部は、削平され掘り込みがほとんど確認されなかった。北西部で僅かに覆土の堆積が見られた。僅かに残る覆土中からは、土器小片が大量に出土している。 **床面** 柱穴は、長軸線を対象にして左右15本確認された。本体から張り出し部にかけて4本の柱穴に囲まれるように敷石が認められた。さらに、張り出し部の先端に礫が並べられ、張り出し部の境界となる。 **炉** 中央部に円筒形の土坑が掘られ炉としている。土坑は、深さ40cmを測り、周辺部は比較的焼けており、焼土が堆積していた。炉床は、はっきりとしない。 **遺物** 床面近くから称名寺式土器の大形破片が出土している。覆土中には、阿玉台式、勝坂式、加曽利E式土器などが混じるが主体は称名寺式土器である。石器は、石皿、台石、多孔石、凹石、磨石、敲石、打製石斧、スクレイパー、石鏃等多量に出土した。 **所見** 柄鏡形の張り出し部の掘り込みは、はっきり確認出来なかったが、敷石や柱穴の状況から柄鏡形敷石住居と考えられる。出土遺物から堀之内式期の遺構である。

J-11 (第114～116・346～355図 PL41・42・125～129)

位置 920-925 **主軸** N-45°-W **形状** 柄鏡形。円形の住居部に張り出し部が接合する。 **規模** 10.17m×6.88m×0.40m **覆土** 壁際では、遺構の北西部からの流れ込みによる自然堆積と思われる埋没があり、その後の窪地では、土器の廃棄とともに人為的な埋没と思われる状況を示す。 **床面** 床面は、ローム層を掘り下げ比較的硬く平坦であった。礫は、壁面から50cm程内側を環状に廻るように検出された。比較的大きな礫は、床面近くに配置され、小礫は、床から若干浮いた状態で検出された。柱穴は、壁からや

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構



第96図 本線Ⅲ区・県側道3区縄文時代住居位置図

や離れた内側、小礫の下から検出された。住居本体と張り出しの接合部には、柱穴が検出され、礫がおかれていた。 **炉** 住居本体中央部に径100cm、深さ60cm程の円筒形をした土坑の一辺に長方形の石を配したものである。土坑周辺と内部の壁面が焼土化している。炉床は、はっきりしない。 **遺物** 掘り込みが深く大型の住居のため出土遺物が多い。(1～10)の大形の称名寺式期の土器が、床面直上から多く出土した。覆土中からは、称名寺式土器に混じり、堀之内式土器や加曾利E式土器が出土している。石器は、床面に据え置かれたように台石が出土し、他に覆土中から石皿、台石、多孔石、磨石、凹石、敲石、打製石斧、スクレイパー、石鏃等が多量に出土している。 **所見** 出土遺物から称名寺式期の遺構である。

J-14 (第117・356図 PL42・130)

位置 895—915 **主軸** — **形状** 円形 **規模** — **覆土** 削平された部分が多く、住居覆土の状態は良くない。地山と遺構の区別が難しく、覆土中に炭化物、ロームブロックを含む埋土が確認された。
床面 ローム漸移層を床面とし比較的平坦であった。柱穴は、壁際に確認された。床面から若干浮いた状態で部分的に礫を並べている。 **炉** 確認されなかった。 **遺物** 覆土中から加曾利EⅢ式土器を主体として、諸磯C式土器が混入している。石器は、打製石斧、スクレイパー等である。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期である。

J-16 (第118・357図 PL42・130)

位置 925—905 **主軸** — **形状** 上部の削平による攪乱が多く、掘り込み自体も浅いため形状不明である。 **規模** — **覆土** 上面が削平されており不明。 **床面** ローム漸移層を床面としており、比較的柔らかである。敷石の一部が残る。柱穴列が確認されたが、遺構の形状を推定するに至っていない。
炉 確認されなかった。 **遺物** 出土量は少なく覆土中から堀之内式土器の小片が少量出土した。石器は、多孔石、石皿、打製石斧などが出土している。 **所見** 攪乱が多く、柱穴列と僅かに残る敷石により住居と推定した。出土遺物から堀之内式期のものと考えられる。

J-18 (第119・357・358図 PL42・130・131)

位置 930—910 **主軸** N—28°—W **形状** 上面が削平され、掘り込みが浅いが、遺物分布と柱穴の配置から柄鏡形になると思われる。 **規模** (5.93)m×(5.05)m×—m **覆土** 上面が削平され床面のみの検出である。 **床面** ローム漸移層を床面としている。炉周辺と、張り出し接合部周辺に敷石がある。炉周辺の床面は、硬く締まっている。柱穴は、張り出し接合部と奥壁付近に確認された。 **炉** ほぼ中央に径80cm程の炉穴が礫で囲まれている。覆土中には、廃棄された礫や焼土が混入していた。 **遺物** 炉内からは称名寺式土器(1・2)が出土している。他に敷石などに混じって加曾利EⅣ式土器や称名寺式土器が出土している。石器は、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー等が出土している。
所見 炉内の出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

J-20 (第120・121・359～361図 PL42・131・132)

位置 900—925 **主軸** — **形状** 不明 **規模** — **覆土** 掘り込みが浅く確認出来なかった。
床面 ローム漸移層を床面としている。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 掘り込みが無く、調査した柱穴やその周辺から加曾利EⅢ式土器～称名寺式土器が出土している。石器は、打製石斧、スクレイパー、

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

石鏃などが出土した。 **所見** 調査当初多くの遺物が出ることから住居跡として調査したが、結果的に炉跡が検出されず遺構の平面形も不明である。柱穴が密集していることから何らかの遺構と考えられるが、性格は不明である。この遺構の時期は、出土している土器から加曾利EⅢ～称名寺式期にかけてのものと思われる。

J-36 (第122・362・363図 PL43・133)

位置 905—920 **主軸** N-46°-W **形状** 隅丸方形で、南側の壁面が内側に窪む。 **規模** 5.62m×5.60m×0.32m **覆土** 一次堆積では、ブロック状の土が混入し人為的な堆積を示す。覆土上面では、炭化物や土器の小破片の混入が多い。 **床面** ローム面まで掘り下げ、ローム混じりの暗褐色土を数cm敷き詰め貼り床としている。床面全体に硬く締まっている。主となる柱穴は、7本確認された。そのうちP4を除く6本が住居壁内側の1m程に廻るように配置される。P4は、内側に窪む壁周溝に接するように配置される。周溝は、ほぼ全周している。 **炉** ほぼ中央部に北側の一边に礫を置き、土坑状に掘り窪めた炉が検出された。炉内には、焼土・炭化物が確認され、周辺部は焼けている。 **遺物** 床面直上から大形の加曾利EⅣ式土器(1・2)が出土している。(3)は、床面に伏せた状態で出土した。覆土中からは、加曾利EⅢ式土器の出土が見られた。石器は、打製石斧、スクレイパー、石鏃等が多く出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅣ式期の遺構である。

J-40 (第123・363・364図 PL43・133・134)

位置 910—935 **重複** J-10・188 **主軸** N-62°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 6.00m×5.76m×0.12m **覆土** 遺構確認面から床面までは比較的浅い。ロームブロック、焼土等を含む人為的な堆積を示す。 **床面** ローム面まで掘り下げ、ローム混じりの暗褐色土を数cm敷き詰め貼り床としている。床面は、硬く締まっている。柱穴は、北壁と南壁に沿って4～5本検出された。遺構の南側では、周溝に直行するように縦長の掘り込みが見られ、出入り口施設の一部かとも思われる。 **炉** 住居のほぼ中央に径80～100cmの皿状に窪む地床炉が検出された。炉内の北側には、礫が数個まとめておかれていた。炉の覆土には、炭化物や焼土ブロックなどが埋没していた。 **遺物** 覆土中から加曾利EⅢ式土器が出土している。石器は、台石、石皿、多孔石、磨石、スクレイパーなどが出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期である。J-10号住居と重複しているが、出土遺物から本住居が古い。

J-53 (第124・125・364図 PL44・134)

位置 905—895 **主軸** N-21°-W **形状** 柄鏡形。掘り込みが確認出来なかったため敷石と柱穴などから判断した。 **規模** (8.80)m×(6.33)m×1m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みが認められず不明。 **床面** ローム漸移層を床面として敷石が検出された。床面全体は比較的柔らかであったが、炉周辺で硬く締まっている部分が認められた。柱穴は、ほぼ円形に廻る。 **炉** 地床炉。中央にやや深めに円筒形に掘り込まれている。壁面は焼けており、焼土・炭化物が含まれている。 **遺物** 張り出し先端部から称名寺式土器(1・7)出土。石器は、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー等が出土している。 **所見** 出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

J-54 (第126・365・366図 PL44・134・135)

位置 895—900 **主軸** — **形状** 柱穴などの配列から方形になる遺構が想定される。 **規模** —
覆土 遺構確認面からの掘り込みが認められず不明。 **床面** 床になるような硬化面は認められなかった。
 柱穴列が方形に廻っている。 **炉** 検出できなかった。 **遺物** 柱穴周辺から加曾利EⅢ式土器が、集
 中して検出された。石器の出土量も多く、台石、多孔石、磨石、打製石斧、スクレイパー、石鏃等が出土し
 ている。 **所見** 柱穴と遺物の出土状況から何らかの遺構が考えられるが、性格は不明である。出土遺物
 から加曾利EⅢ式期と考えられる。

J-55 (第127・367図 PL44・45・135)

位置 890—900 **重複** J-74 **主軸** N-19°-W **形状** 円形。住居の西壁が、古代の住居によっ
 て壊されている。 **規模** 4.65m×4.35m×0.12m **覆土** 確認面からの掘り込みは浅く、褐色土に炭
 化物を含む堆積土が確認された。 **床面** ローム漸移層を床面とし、炉周辺では、硬く締まっている部分
 もあったが、全体に柔らかい感じがした。壁に沿って周溝がほぼ全周している。幅20~30cm、深さ20cmほど
 である。柱穴は、壁に沿って作られている。 **炉** 石囲炉。自然石を埋め込んでいる。炉の角には、磨石
 や台石になる礫がおかれている。炉内には、焼土・炭化物が堆積している。 **遺物** 床面(1~3)や覆土
 中から加曾利EⅢ式土器が出土している。器台や紐を通す穴を持つ小形の壺形土器(9)も出土している。器
 台(17)は、北壁際に置かれていた。石器は、磨石、打製石斧、スクレイパー、石鏃等が出土した。 **所見**
 出土した遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

J-56 (第128・368図 PL45・136)

位置 895—895 **重複** J-74 **主軸** N-40°-E **形状** 柄鏡形 **規模** 1m×1m×0.39m
覆土 北西壁で、僅かに掘り込みが認められた。淡色黒ボク土のブロックが覆土中に入っている。 **床面**
 掘り込みが浅くローム漸移層を床面としている。炉周辺は、硬く締まっているが、他の部分は柔らかい。柱
 穴は、壁に沿って廻っている。張り出し接合部には、やや大きな柱穴が2本対になり検出された。 **炉** 地
 床炉で径100cm、深さ100cmを測る円錐形をする。炉の壁面は焼けており、焼土・炭化物等が混入している。
遺物 柄と住居の接合部に中期末の埋甕(7)、覆土中からは、勝坂式、加曾利E式、称名寺式土器が出土し
 ている。敷石に混じって土製腕輪や手捏ね土器が出土した。石器は、打製石斧、スクレイパー、石鏃などが
 出土している。 **所見** 埋設土器から加曾利EⅣ~称名寺式期の遺構と考えられる。

J-74 (第129・369図 PL45・136)

位置 890—895 **重複** J-55・56 **主軸** N-24°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 4.92m×4.23
 m×0.35m **覆土** 主体は、淡色黒ボク土のブロック、ロームブロックを含む堆積土である。 **床面**
 ローム漸移層を床面としており、比較的硬く締まっている。柱穴は、壁の内側に6本の支柱穴が確認された。
炉 地床炉。炉の主体部ははっきりしないが床中央部で南北方向の縦長に焼土・炭化物が散らばっている。
遺物 覆土中からの出土遺物が多く、諸磯C式、加曾利EⅠ~Ⅱ式土器が出土している。石器は、打製石斧、
 スクレイパーなどである。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅠ~Ⅱ式期の遺構と考えられる。

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

J-93 (第130・131・370～373図 PL45・46・137・138)

位置 940—910 **主軸** N-19°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 6.18m×5.07m×0.28m **覆土**
上層では、淡色黒ボク土ブロックを含み、下層では、ロームを多く含み、遺物の出土量も多い。 **床面** ローム漸移層を床面とし、一部でロームを張り込んでいる。炉周辺部は、硬く締まっているが、その他の部分は柔らかい。周溝は、ほぼ全周するが、南東部の一部が抜けている。柱穴は、周溝上にあるものと周溝の内側のものがあり、住居を拡張したと思われる。 **炉** やや小振りの礫を長方形に区画した石囲炉。炉内は、焼土・炭化物が堆積していた。 **遺物** 床面に器形の復元できる程の土器が多く出土した。出土した土器は、加曾利E I～II式である。石器は、台石、多孔石、石皿、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐などである。 **所見** 出土遺物から加曾利E I～II式期の遺構と考えられる。

J-114 (第132・373～377図 PL46・138～140)

位置 945—950 **主軸** N-14°-E **形状** 楕円形 **規模** 5.57m×4.66m×0.20m **覆土**
ローム漸移層にロームブロック、炭化物などが混じる。 **床面** ローム漸移層とロームブロックを床面としている。全体に硬化面は少ないが覆土との区別は出来た。柱穴は、住居の東側で確認出来たが、西壁側では、土坑の重複により検出できなかった。 **炉** 中央南寄りに埋甕炉が確認出来た。焼土・炭化物が確認された。 **遺物** 埋設土器や炉体土器は加曾利E III式土器が多く出土している。覆土中からは、加曾利E II～III式等が出土した。石器の出土量は多く、石皿、多孔石、磨石、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐等多種類出土している。 **所見** 住居内に土坑が重複しているが、土坑からの出土遺物は、ほとんど検出されなかった。このことから土坑が埋没或いは埋め戻してからの遺構と考える。埋設土器や炉体土器から加曾利E III式期である。

J-120 (第133・378図 PL46・141)

位置 925—945 **主軸** N-65°-E **形状** 円形。掘り込みは検出されなかったが、炉と柱穴の位置から判断した。 **規模** 6.03m×5.55m×—m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みはない。 **床面** ローム漸移層を床面とし、全体に柔らかくはつきりしない。ローム面まで掘り下げたところ16本の柱穴が円形に検出された。 **炉** 石囲炉。焼土・炭化物に混じり土器が入っていた。 **遺物** (1)は、炉内から出土した称名寺式土器である。床周辺からは、加曾利E IV、称名寺式土器が出土している。石器は、台石、多孔石、磨石、石鏃などである。 **所見** 遺構確認面で炉が検出されたため、住居と想定して調査した。柱穴は、ほぼ円形に廻るように検出できた。出土土器から称名寺式期の遺構である。

J-123 (第134・378・379図 PL47・141)

位置 945—920 **重複** 16号住居 **主軸** N-42°-W **形状** 楕円形 **規模** 6.63m×6.35m×0.23m **覆土** ローム粒・炭化物などを含む土層。覆土中から遺物の小破片が多く出土。 **床面** ローム漸移層を床面としている。全体に硬く締まっている。周溝は、東南、北西、北東部で途切れている。柱穴は、周溝の内側にあるものが主柱穴になる。 **炉** 小礫を炉の一辺に配し主体部に埋設土器を置いた埋甕炉。炉周辺の床は、若干焼けている。炉内からは、焼土・炭化物が確認された。 **遺物** 炉内やその周辺からの遺物出土が多く加曾利E I式などが出土している。石器は、石皿、多孔石、磨石、敲石、スクレイパー、石鏃などである。 **所見** 出土遺物から加曾利E I式期のものと考えられる。

J-133 (第135・136・380～384図 PL48・142～144)

位置 930—935 **主軸** N-32°-E **形状** 楕円形 **規模** 6.57m×6.15m×0.30m **覆土** ロームブロックを含む土層主体で、覆土中・上層から遺物の出土が多い。 **床面** ローム漸移層に、ロームを混入させ床面を作っている。全体に柔らかくはつきりしない。やや掘り込みの浅い柱穴が、壁の内側に円形に廻る。P1は、袋状土坑になり、本遺構に重複した土坑と考えられる。 **炉** 中央部に地床炉が検出された。炉床は焼けており、覆土に炭化物・焼土が混じる。 **遺物** 炉周辺や床直上に復元出来る大形破片が出土している。覆土中からの出土も多く大部分が加曾利EⅢ式土器である。石器の出土量も多く、石皿、多孔石、磨石、凹石、敲石、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐、石核等が出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-139 (第137・384図 PL48・144)

位置 940—935 **主軸** N-40°-W **形状** 楕円形 **規模** 7.72m×6.17m×0.28m **覆土** 掘り込みは浅く、ローム粒、白色軽石粒に炭化物を含む堆積土を主体としている。 **床面** ローム漸移層を床面としている。全体に柔らかくはつきりしない。西側で床面が一段低くなっている。周溝は、確認されなかった。柱穴は、壁内側に円形に並ぶ。 **炉** 炉は、二ヶ所確認された。炉1は、中央部やや西寄りにある埋甕炉。炉2は、小礫による石囲炉である。いずれの炉にも焼土・炭化物が検出された。 **遺物** 炉周辺と埋設土器(16)に加曾利EⅢ式土器が出土した。覆土中からも加曾利EⅢ式土器の出土が多い。石器は、石皿、多孔石、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐などが出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-147 (第138・385・386図 PL49・144・145)

位置 910—945 **重複** 2軒の重複。 **主軸** — **形状** 柱穴の配列状況から、楕円形になると思われる。 **規模** — **覆土** 検出面からの掘り込みは確認出来なかった。 **床面** ローム漸移層を床面としている。炉周辺では、硬く締まっている。周溝は検出されなかった。 **炉** 石囲炉が2基確認された。覆土中には焼土・炭化物が堆積していた。 **遺物** ほぼ床面近くに埋設土器(5)として称名寺式土器や堀之内式土器が出土している。石器は、台石、石皿、多孔石、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐などが出土している。 **所見** 遺構検出面で2基の炉跡が検出され、遺物も炉周辺で検出されていることから、周辺を調査したところ柱穴が検出された。これを基に、炉を中心とした住居の範囲を推定した。西側の遺構をA、東側をBとする。A住居の出土遺物は、堀之内式土器が多く、B住居の出土遺物は、称名寺式の土器が多い傾向があることからB住居が古いと考えられる。

J-153 (第139・387～389図 PL50・145・146)

位置 955—950 **主軸** N-28°-W **形状** 楕円形 **規模** 4.93m×4.33m×0.37m **覆土** 比較的掘り込みが深く、覆土中に白色軽石粒やロームブロックとともに遺物小片が混入していた。 **床面** ローム層を床面とし、比較的硬く締まっている。柱穴は、南北にある径50cm程のものが主柱穴となり、径20～30cmのものが補助的にある。 **炉** 小礫を長方形に配した石囲炉で、炉内の南東隅に土器が埋設されている。 **遺物** 床面直上からほぼ完形になる土器(1)が出土している。(3)は、埋設土器である。その他、覆土中から加曾利EⅡ式土器が出土している。石器は、磨石、凹石、スクレイパー等が出土している。 **所見** 出

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

土遺物から加曾利EⅡ式期の遺構である。

J-155 (第140・389図 PL51・146)

位置 940—945 **主軸** N—63°—E **形状** 円形 **規模** 4.40m×3.98m×0.25m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは浅い。白色軽石粒、ロームブロックを含む。覆土中の遺物は少ない。 **床面** 比較的平坦で、ローム漸移層を床面としている。柱穴は、壁の内側にある。 **炉** ほぼ中央部に大きな礫を置き炉としている。礫周辺は、炭化物・焼土粒が見られた。 **遺物** 遺物量は少なく、床面から加曾利EⅡ式の土器が出土している。石器の量も少なく打製石斧などが出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅠ～Ⅱ式期の遺構と思われる。

J-157 (第141・389～392図 PL51・146～148)

位置 930—945 **主軸** N—73°—W **形状** 隅丸方形 **規模** 6.12m×5.30m×0.27m **覆土** 淡色黒ボク土やロームブロック、炭化物を含む土層である。遺物は、北西から南東方向に流れ込んだように覆土中に含まれる。 **床面** ローム層を床面としており、全体に硬く締まっている。周溝は、南東側に検出された。柱穴は、壁の内側と周溝内に検出された。 **炉** 地床炉で若干の焼土・炭化物が確認された。 **遺物** 床面直上から(4)の大形破片が出土している。その他、床面や覆土中から加曾利EⅢ式土器を主体に堀之内式土器が混じる。石器は、打製石斧、スクレイパー、不定形石器が出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-158 (第142・392・393図 PL51・148)

位置 925—955 **主軸** N—16°—W **形状** 楕円形 **規模** 5.88m×4.97m×0.20m **覆土** 遺構確認面から浅く、ロームブロック、炭化物を主体とする土層。覆土中の遺物は、覆土中下層東壁寄りに見られた。 **床面** ローム漸移層を床面としており、ロームブロックが混じる。平坦で硬く締まっている。柱穴は、壁の内側に円形に廻る。遺構の南寄りに円筒形の住居内土坑が検出された。 **炉** 中央部南東寄りに埋甕炉が検出された。埋甕周辺は、焼土・炭化物の堆積が認められる。 **遺物** 床面直上から(1・2)の加曾利EⅢ式土器が出土している。覆土中からは、勝坂式、加曾利EⅢ式土器等が出土している。石器の出土量は少なく、敲石、打製石斧などである。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-161 (第143・393図 PL51・148)

位置 940—950 **主軸** N—90° **形状** 卵形 **規模** 4.27m×3.67m×0.38m **覆土** 淡色黒ボク土、ロームブロックを主体とする。覆土中の遺物量は少ない。 **床面** ローム漸移層を床面としている。平坦で硬く締まっている。柱穴は、壁の内側西寄りに4本確認された。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 遺物の量は少なく、覆土中から加曾利EⅢ式の土器が出土している。石器は、打製石斧、不定形石器、石鏃が出土した。 **所見** 遺構検出時に確認した形から住居を想定して調査したが、炉は、検出されなかった。形状や柱穴、床面の状況から住居に関連する施設と思われる。出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-162 (第144・394図 PL51・149)

位置 935—950 **主軸** N-79°-W **形状** 不整形 **規模** 4.10m×4.10m×0.25m **覆土** 遺構検出面から比較的浅くロームブロック、炭化物を含む土層が主体である。覆土下層から遺物の出土が見られる。**床面** ローム漸移層を床面としている。比較的平坦で硬く締まっている。柱穴は、東壁寄りに確認されたが、これらと対になる柱穴が確認されなかった。**炉** 検出されなかった。**遺物** 遺物の出土は少なく、覆土中から加曾利E II式の土器が出土している。石器は、打製石斧、鋸歯縁石器、スクレイパーなど少量出土している。**所見** 炉や柱穴がはっきりしない点もあるが、掘り込み形状や規模から住居に関連する施設と考えられる。出土遺物から加曾利E II式期の遺構と考えられる。

J-178 (第145・394～396図 PL51・149・150)

位置 950—955 **主軸** N-29°-W **形状** 楕円形。遺構の北東部を古代の住居により壊されている。**規模** 6.68m×—m×0.20m **覆土** 遺構検出面からの掘り込みは浅い。ローム粒、白色軽石粒、炭化物を含む土層。遺構の北側、覆土上層に遺物がまとまって出土している。**床面** ローム漸移層に、ロームブロックを混入した床面。炉周辺は、硬く締まっている。柱穴は、壁内側を廻るように検出された。**炉** 小礫で三方を囲む石囲炉。炉の南側に埋設土器を抜き取った窪みが見られた。**遺物** (2)は、埋設土器。(1・5・11)は、炉周辺の床面から出土した加曾利E III式土器の大形破片である。覆土中からも加曾利E III式土器が出土している。石器の出土量は少なく、石皿、打製石斧、スクレイパーなどが出土している。**所見** 出土遺物から加曾利E III式期の遺構である。

J-180 (第146・396～398図 PL52・150・151)

位置 915—960 **重複** J-191 **主軸** N-3°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 5.97m×5.44m×0.35m **覆土** 遺構検出面からの掘り込みは深い。淡色黒ボク土、ロームブロック、炭化物を含む土層を主体とする。遺物は、中層の北から南方向に多い。**床面** ローム層を床面としており硬く締まっている。周溝は、北側を除いて三方に廻る。柱穴は、南北に棟持ち柱があり、東西に3本の柱がある。住居内に円筒形の土坑が検出されたが、掘り込みの確認が床面からのもので住居内の施設と考えられる。**炉** 地床炉で皿状に焼土・炭化物が堆積していた。**遺物** (1)は、炉周辺から、(2・13)は、覆土中から出土した大形破片である。その他、覆土中からは、加曾利E III式土器が出土している。石器の出土量も多く、石皿、多孔石、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石錐、石鏃等が出土している。**所見** 出土遺物から加曾利E III式期の遺構である。

J-181 (第147・398・399図 PL52・151)

位置 915—935 **主軸** N-34°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 6.88m×5.75m×0.18m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは浅い。淡色黒ボク土、ロームブロック、炭化物を主体的に含む土層。遺物は、下層から散発的に出土している。**床面** ローム層を床面としており、硬く締まっている。柱穴は、壁の内側に廻るように複数組検出された。**炉** 地床炉。皿状に掘り窪められている。炉床は焼けており、覆土には、焼土・炭化物が混じっている。**遺物** 埋設土器などは検出されなかった。覆土中から加曾利E III式土器が主体で、称名寺式土器や堀之内式土器が少量出土した。石器は、石皿、多孔石、磨石、打製石斧、スクレイパーなどが出土した。**所見** 住居西側寄りに径150cm程の浅い土坑が検出された。覆土の状態か

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

らは住居埋没後に掘られた可能性がある。柱穴が複数組検出されたことから、住居の幅や柱の建て替え等が推定される。出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

J-188 (第148・400図 PL52・152)

位置 910-930 **重複** J-40 **主軸** N-61°-W **形状** 楕円形。掘り込みはなく炉と柱穴から判断した。 **規模** 5.84m×-m×-m **覆土** 掘り込みが無く遺構確認面の褐色土が覆っていた。 **床面** ローム漸移層を床面としており、締まりが無く柔らかい。炉周辺は、ロームブロックを混ぜ比較的硬く締まっている。遺構の南西側に埋設土器が検出された。柱穴は、円形に廻る。 **炉** 小礫による石囲炉で若干の焼土・炭化物が堆積している。 **遺物** 掘り込みが無く遺物の出土量は少ない。(1)は、埋設土器で、(2)は炉内から出土した。石器は、磨石、打製石斧、スクレイパー等である。 **所見** 遺構確認面で、石囲炉が検出されたことから周辺の柱穴を検出しその範囲を住居とした。埋甕などから加曾利EⅢ式期の遺構と思われる。

J-191 (第149・400・401図 PL52・152)

位置 920-960 **重複** J-180 **主軸** N-39°-E **形状** 楕円形。掘り込みが浅く西壁が確認されたが、他は、遺物の出土と柱穴などから推定した。 **規模** (5.25)m×(4.62)m×-m **覆土** 掘り込みが浅く不明。僅かに、西側で掘り込みが確認された。 **床面** ローム漸移層を床面としている。比較的柔らかである。柱穴は、4本になると思われる。住居の南西部に細長い礫を置いて埋設土器が検出された。 **炉** 長方形の掘り込みの中に礫で三方を囲った石囲炉。北西側に埋設土器がある。 **遺物** (1)の土器は、炉内からつぶれた状態で出土した。(6・8)は、埋設土器で加曾利EⅣ式の土器である。その他、加曾利EⅣ式土器が出土した。石器は、多孔石、磨石、打製石斧、スクレイパー等が少量出土している。 **所見** 炉内出土土器や埋設土器から加曾利EⅣ～V式期の遺構と考えられる。

J-200 (第150・401図 PL52・152)

位置 930-965 **主軸** N-45°-W **形状** 楕円形 **規模** 5.03m×4.37m×0.17m **覆土** 掘り込みは浅い。ローム粒、炭化物を含む土層。柱穴は検出されなかった。 **床面** ローム漸移層にロームブロックを混ぜ床面としている。柱穴などは検出されなかった。 **炉** 確認されなかった。 **遺物** (1)は、床面直上から出土した加曾利EⅣ式土器である。 **所見** 遺構確認時に検出した形から住居跡として調査したが、炉や柱穴などの施設は検出できなかった。しかし、楕円形の比較的大きな掘り込みで、遺物も出土していることから住居に類似する施設と考えられる。出土した土器から加曾利EⅣ～V式期の遺構と考えられる。

J-216 (第150・401・402図 PL52・152・153)

位置 925-970 **主軸** N-45°-E **形状** 円形 **規模** 4.42m×3.96m×0.18m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは浅く、ロームブロック、炭化物を含む土層が主体であった。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、4本検出された。 **炉** 地床炉。2段に掘られている。炉周辺は焼けており、焼土・炭化物が検出された。 **遺物** 大形破片の(1・2)をはじめ、覆土中からは加曾利EⅢ式土器が出土している。石器は、石皿、凹石、磨石、スクレイパーが出土した。 **所見** 出土遺物から

加曾利EⅢ式期の遺構である。

J-228 (第151・402図 PL53・153)

位置 935—945 **主軸** N—15°—W **形状** 円形 **規模** 4.20m×3.95m×0.18m **覆土** 上層は、ロームブロック、炭化物を含む土層が主体で遺物の小片を包含する。下層は、ロームブロックを多く含む。**床面** ローム層を床面として、硬く締まっている。柱穴は、壁の内側にあるP2～5・8・9が該当する。南東部隅に埋設土器が検出された。**炉** 住居のほぼ中央部に埋甕炉が検出された。炉内には、焼土・炭化物が検出された。**遺物** (1)は、埋設土器である。(2)は、炉体土器である。覆土中からは、加曾利EⅢ式土器などが出土している。石器は、打製石斧、石鏃、石錐等が少量出土した。**所見** P4やP8・9は、2本接近していることから建て替えの可能性がある。出土土器から加曾利EⅢ～Ⅳ式期の遺構と考えられる。

J-263 (第152図 PL53)

位置 920—920 **主軸** — **形状** 円形。柱穴の配列から推定した。**規模** — **覆土** 掘り込みが無く不明。**床面** ローム面まで掘り下げたところ柱穴列が検出された。**炉** 検出されなかった。**遺物** 極少量の加曾利E式土器などが出土している。**所見** 縄文遺構確認面では、検出されずローム面を掘り下げたところ柱穴が検出された。円形に廻ることから建物跡と推定される。

1号住居 (第153・154・403・404図 PL54・154)

位置 945—890 **主軸** N—14°—W **形状** 掘り込みが浅く、敷石と柱穴からの形状では本体が方形になる柄鏡形。**規模** 8.00m×—m×0.25m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物を含み、下層ではローム粒を含む土層を主体とする。**床面** 壁に沿って敷石が環状に廻る。特に柄接合部に敷石が多く置かれていた。住居中央部は、ローム層を床面としており、硬く締まっている。柱穴は、環状に廻る敷石下から検出された。柄との接合部には、縦長のピットが一对検出されている。住居北側からは、埋設土器が1基検出された。**炉** すり鉢状の土坑を掘り、ローム粒混じりの土で埋め戻し石を配した石囲炉。土坑底面は焼けている。**遺物** 床面上から加曾利E式土器の系統を引く大形の土器(1)が出土している。(2)は、床面直上から出土した土器である。その他、敷石や覆土に混じり称名寺式土器が出土した。石器は、台石、石皿、多孔石、敲石、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石鏃などが出土した。その他、粘土塊や三角壺形土製品や土製円盤も出土した。**所見** 出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

2号住居 (第155・405～408図 PL55・154～156)

位置 950—900 **主軸** N—44°—W **形状** 隅丸方形 **規模** 5.82m×5.08m×0.28m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物。下層では、白色軽石粒、炭化物、ロームブロックを含む土層を主体とする。遺物は、遺構の中央部に多く、上層から、下層にかけて分布している。**床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、壁内側に環状に廻る。周溝は、北西壁、南東壁際に一部検出された。**炉** 石囲炉。炉内には、埋設土器が検出された。炉の掘り方は、すり鉢状の土坑になり、焼土・炭化物が堆積している。土坑底面は焼けている。**遺物** 覆土中から土器や石器が多量に出土している。土器は、加曾利EⅠ～Ⅱ式土器が主体である。石器は、多孔石、磨石、敲石、凹石、スクレイパー、打製石斧、石錐などであ

る。 **所見** 出土遺物を見ると加曾利EⅠ～Ⅱ式期の遺構と考えられる。

4号住居（第156・409・410図 PL55・156・157）

位置 950—910 **重複** 5号住居 **主軸** N—14°—E **形状** 隅丸方形 **規模** 4.70m×4.17m×0.23m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物を含み、中層では淡色黒ボク土、炭化物を主体とする。壁際にロームブロック層が堆積する。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴はP1～4の4本確認された。 **炉** ほぼ中央部に地床炉が検出された。炉周辺は焼土化しており、炉内には炭化物が多く含まれていた。 **遺物** 覆土中からは、加曾利E式土器が出土し、床面から堀之内式土器が出土している。石器は、打製石斧が出土している。 **所見** 床面から堀之内式土器が出土していることから、堀之内式期の遺構と考えられる。

5号住居（第157・410図 PL55・157）

位置 950—915 **重複** 4号住居 **主軸** N—64°—W **形状** 円形。遺構の南西部は確認されなかった。 **規模** 5.90m×—m×0.32m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物を含み、下層では、ローム粒を多く含む。 **床面** ローム漸移層にロームブロックを混ぜ床面としている。硬く締まっている。柱穴は、P1～8が、壁の内側に円形に配置されている。 **炉** すり鉢状に掘られた地床炉。 **遺物** 覆土中から加曾利EⅢ式土器が出土している。石器は、磨石や打製石斧などが出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

6号住居（第158・411・412図 PL55・56・157・158）

位置 955—905 **主軸** N—32°—E **形状** 楕円形。北側の一部が調査区外にある。 **規模** —m×6.10m×0.32m **覆土** 上層では、白色軽石粒を多く含み、下層では、ロームブロックを含む。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は、壁に沿って内側に円形に廻る。 **炉** 小礫による石囲炉。礫の一部が、抜けている。炉内には、炭化物が堆積しており、周辺は焼土化していた。 **遺物** 床面直上から加曾利EⅠ式の大形土器(1)が出土した。覆土中からは、加曾利EⅢ式土器などが出土している。石器は、磨石、打製石斧、スクレイパー、石鏃などが出土している。 **所見** 加曾利EⅠ式土器が床面から出土していることから本住居跡は加曾利EⅠ式期のものと考えられる。

7号住居（第159・412・413図 PL56・158）

位置 955—925 **主軸** N—75°—W **形状** 楕円形。北側部分で壁が壊されている。 **規模** 5.08m×4.86m×0.32m **覆土** 上層で、白色軽石粒、炭化物を含み、下層ではローム粒を多く含む。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は、壁に沿って、内側に円形に廻る。周溝は、北側部分で一部検出された。遺構内には、袋状土坑が検出されたが、上層をローム混じりの土で埋められ、住居の床となっており本住居以前のもので推定される。 **炉** 地床炉で、炉内には、炭化物・焼土が検出された。炉床は焼けていた。 **遺物** 炉内(1・4)や床面直上(13)から加曾利EⅠ式土器が出土している。覆土中からは、称名寺式など新しい土器が出土した。石器は、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石鏃などが出土した。 **所見** 炉内や床面から出土した土器から加曾利EⅠ式期の遺構と考えられる。

8号住居 (第160・414図 PL56・159)

位置 960—925 **主軸** N—9°—W **形状** 隅丸方形。壁の一部が重複により壊されている。 **規模** 4.71m×4.18m×0.17m **覆土** 上層では、白色軽石粒が多く、下層にローム粒を含む。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は壁に沿って、内側に円形に廻る。南東部で、埋甕が検出された。中央部に複数の土坑状のものが見られたが、本住居との関係は不明である。 **炉** 石囲炉と思われるが、残存状態が悪い。炉の対角部分に小礫が検出された。 **遺物** 覆土中から、加曾利E I～II式土器が出土している。住居内のピットから加曾利E II式土器(1)出土。石器は、打製石斧や石鏃などが出土している。 **所見** 住居内のピットから出土した土器から加曾利E II式期の遺構と考えられる。

9号住居 (第161・415～417図 PL56・159・160)

位置 965—930 **主軸** N—19°—E **形状** 楕円形。遺構の北側部分は調査区外にある。土坑との重複が多く壁の残りは良くない。 **規模** 1m×5.46m×0.22m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物を含み、下層では、ローム粒が多くなる。 **床面** ローム層を床面として、比較的硬く締まっている。柱穴は、P 1・2が検出されたが、他は、はっきりしない。南側で埋甕を検出した。 **炉** ほぼ中央部に円筒形の地床炉とそれに接続する埋甕炉を検出した。 **遺物** 埋設土器や炉体土器(1)に加曾利E III式土器が出土している。覆土中からも加曾利E III式土器の小片が出土した。石器は、出土量が多く、石皿、多孔石、磨石、打製石斧、石鏃、スクレイパーなどが出土した。 **所見** 炉体土器などに使用されていることから、加曾利E III式期の遺構と考えられる。

10号住居 (第162・417・418図 PL56・160・161)

位置 960—935 **主軸** N—61°—W **形状** 円形 **規模** 4.18m×3.77m×0.23m **覆土** 上層では、白色軽石粒、炭化物を含み、下層では、ローム粒を多く含む。 **床面** ローム漸移層にロームブロックを混ぜ床としている。柱穴は壁の内側に円形に廻る。 **炉** ほぼ中央に地床炉が検出された。炉内には、焼土・炭化物が堆積していた。 **遺物** 床面直上や覆土中から加曾利E III式土器が出土している。石器は、石皿、多孔石、磨石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石鏃などが出土。 **所見** 加曾利E III式土器の出土が多いことから、この時期の遺構と考えられる。

11号住居 (第163・418・419図 PL57・161)

位置 965—940 **主軸** N—39°—E **形状** 楕円形。南側に張り出し部あり。 **規模** 5.03m×4.85m×0.25m **覆土** 上層では白色軽石粒、炭化物を含み、下層では、淡色黒ボク土ブロックを含む。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は壁内に円形に廻る。南側張り出し部に埋甕が検出された。 **炉** ほぼ中央に小礫や石皿の破片による石囲炉を持つ。 **遺物** 床面直上(5・6)から加曾利E II～III式土器が出土、覆土中からは、加曾利E III式土器に混じって中期中葉の土器が出土している。住居の張り出し部には、加曾利E III式土器の埋甕(1)が出土した。石器の出土量も多く、石皿、多孔石、打製石斧、石鏃などが出土している。 **所見** 出土土器から加曾利E III式期の遺構と考えられる。

12号住居 (第164・419・420図 PL58・161・162)

位置 965—950 **主軸** N—75°—W **形状** 円形 **規模** 4.30m×4.12m×0.38m **覆土** 上層

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

ではローム粒を含む層が主体となる。下層でローム粒、白色軽石粒を含み、遺物の混入が多い。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴はP 1～6で壁の内側に円形に廻る。住居の東側に多孔石と深鉢がセットで置かれている。 **炉** 大型の礫、多孔石による石囲炉で長方形を呈し、中央に土器が置かれている。炉内には、炭化物を含む土が堆積していた。 **遺物** 床面直上から加曾利E II式土器の大形片(1)が出土している。(23)は、炉内から出土した。覆土中からも加曾利E II式土器の出土が多い。石器は、石皿、多孔石、凹石、打製石斧、スクレイパー、石鏃など多く出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利E II式期の遺構と考えられる。

13号住居 (第165・420・421図 PL59・162)

位置 970—955 **主軸** N—32°—W **形状** 楕円形 **規模** 5.28m×3.55m×0.25m **覆土** 上層では白色軽石粒を含み、下層でローム粒が多くなる。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は長軸方向に2本検出された。 **炉** 地床炉で、皿状になる。一部を後世の攪乱により壊されている。炉内は、炭化物・焼土に混じり土器片や礫が埋め込まれていた。炉床はあまり焼けていなかった。 **遺物** 床面から加曾利E I式土器が出土している。石器は、石皿、磨石、敲石、打製石斧、スクレイパー等が出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利E I式期の遺構と考えられる。

14号住居 (第166・421図 PL59・162)

位置 945—890 **主軸** N—70°—W **形状** 円形。掘り込みが確認されず柱穴の位置から推定した。 **規模** 6.13m×6.12m×—m **覆土** 検出面からの掘り込みが無い。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は炉を囲むようにP 1～10までであるが、遺構の東側で未検出である。 **炉** 地床炉で皿状に掘り窪められている。中層で土器が置かれていた。 **遺物** 炉内に後期の土器が出土した。 **所見** 炉内出土の土器から後期と思われる。

15号住居 (第166・421図 PL59・162)

位置 955—940 **主軸** — **形状** 不明 **炉規模** 62cm×44cm×16cm **覆土** ほとんど削平され炉跡のみ検出された。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は不明。 **炉** 礫を片側に置き土器を埋設する。 **遺物** 炉内から加曾利E III式土器が出土している。 **所見** 住居自体の掘り込み、柱穴などは、未検出である。礫を置いた埋甕炉のみの検出で、屋外炉と考えられる。出土土器から加曾利E III式期と思われる。

16号住居 (第167・421図 PL59・162)

位置 950—920 **重複** Ⅲ区J-123 **主軸** N—50°—W **形状** 柄鏡形。住居の南側は、Ⅲ区J 123号住居と重複しており、掘り込みが深いため、未検出。 **規模** 6.00m×(4.50)m×0.34m **覆土** ローム漸移層やローム粒を含む。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は、住居の北側と張り出し部との接続部に見られる。 **炉** 角礫による石囲炉。 **遺物** 覆土中から称名寺式土器等が出土している。 **所見** 残存状態が悪く、北側の壁と柄鏡の柄部の一部が残っていた。柄部先端には礫が置かれており、部分的に敷石のある柄鏡形住居と考えられる。出土遺物から後期三段階と思われる。

本線Ⅲ区縄文時代遺構一覧表

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
J-1	欠							
J-2	欠							
J-3	欠							
J-4	欠							
J-5	—							
J-6	—							
J-7	欠							
J-8	欠							
J-9	欠							
J-10	住居	柄鏡形	N-65°-W	(6.60)	5.30	0.35	J-40と重複	910-935
J-11	住居	柄鏡形	N-45°-W	10.17	6.88	0.40		920-925
J-12	欠							
J-13	欠							
J-14	住居	円形	—	—	—	—		895-915
J-15	土坑	円形	N-2°-E	2.13	1.18	0.34	加曽利EⅣ	920-895
J-16	住居	不明	—	—	—	—		925-905
J-17	欠							
J-18	住居	柄鏡形か	N-28°-W	(5.93)	(5.05)	—		930-910
J-19	土坑	不整形	N-7°-E	1.17	0.48	0.13	加曽利EⅢ	930-900
J-20	住居	不明	—	—	—	—		900-925
J-21	欠							
J-22	—						加曽利EⅣ	
J-23	欠							
J-24	土坑	楕円形	N-52°-W	2.18	1.58	0.30	加曽利EⅢ	905-915
J-25	土坑	円形	N-83°-W	1.10	1.03	0.21	加曽利EⅢ	910-915
J-26	欠							
J-27	—						堀之内	
J-28	土坑	不明	—	—	—	—	加曽利EⅢ・Ⅳ	920-935
J-29	土坑	長方形	N-69°-E	1.10	0.70	0.15	加曽利E	910-895
J-30	土坑	楕円形	N-86°-W	0.82	0.60	0.24	加曽利EⅣ	910-895
J-31	土坑	長方形	N-52°-W	0.65	0.49	0.23		910-895
J-32	欠							
J-33	欠							
J-34	欠							
J-35	欠							
J-36	住居	隅丸方形	N-46°-W	5.62	5.60	0.32		905-920
J-37	土坑	楕円形	N-41°-E	1.30	(1.05)	0.56	加曽利EⅢ	905-930
J-38	土坑	不整形	N-25°-E	1.53	0.63	0.22	加曽利EⅣ・堀之内	915-915
J-39	欠							
J-40	住居	隅丸方形	N-62°-W	6.00	5.76	0.12	J-10・188と重複	910-935
J-41	欠							
J-42	欠							
J-43	欠							
J-44	欠							
J-45	欠							
J-46	土坑	長方形	N-0°	(0.84)	0.50	0.17		910-930
J-47	土坑	長方形	N-31°-E	(0.71)	0.55	0.18		910-930
J-48	欠							
J-49	欠							
J-50	欠							
J-51	—						加曽利EⅣ	
J-52	—						少破片	
J-53	住居	柄鏡形	N-21°-W	(8.80)	(6.33)	—		905-895
J-54	住居	不明	—	—	—	—		895-900
J-55	住居	円形	N-19°-W	4.65	4.35	0.12	J-74と重複	890-900
J-56	住居	柄鏡形	N-40°-E	—	—	0.39	J-74と重複、加曽利EⅡ～Ⅳ	895-895
J-57	土坑	円形	N-16°-W	2.93	2.52	0.17	加曽利EⅢ・Ⅳ	910-900
J-58	土坑	不整形	N-42°-E	2.58	1.10	0.35	加曽利EⅢ	895-910
J-59	土坑	不整形	N-12°-W	2.00	0.78	0.19	加曽利EⅢ	895-910
J-60	土坑	円形	N-24°-E	1.03	1.00	0.30		915-895

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
J-61	土坑	円形	N-20°-E	1.13	0.98	0.18		915-895
J-62	土坑	楕円形	N-46°-W	1.95	0.98	0.34	縄文中期	915-900
J-63	土坑	円形	N-23°-W	1.49	1.32	0.37	加曾利EⅢ多い	915-905
J-64	土坑	不整形	N-34°-E	2.51	2.14	0.18	加曾利EⅠ・Ⅱ	905-910
J-65	土坑	方形	N-7°-W	2.06	1.72	0.47	加曾利EⅣ	905-915
J-66	土坑	不整形	N-36°-E	3.11	1.22	0.33	加曾利E	895-905
J-67	土坑	長方形	N-22°-E	1.84	0.70	0.50	勝坂	905-905
J-68	土坑	楕円形	N-13°-E	1.46	1.08	0.20	縄文中期	905-905
J-69	土坑	円形	N-64°-E	0.95	0.90	0.21	縄文中期	905-905
J-70	土坑	楕円形	N-24°-W	0.92	0.57	0.75	加曾利EⅢ	905-905
J-71	土坑	楕円形	N-0°	0.92	0.76	0.19	堀之内	910-905
J-72	土坑	楕円形	N-58°-E	0.85	0.67	0.30	加曾利E～後期?	910-905
J-73	土坑	楕円形	N-52°-W	2.33	1.54	0.25	加曾利EⅣ	915-900
J-74	住居	隅丸方形	N-24°-W	4.92	4.23	0.35	加曾利EⅠ・Ⅱ J-55・56と重複	890-895
J-75	土坑	不整形	N-6°-E	2.30	2.10	0.36	加曾利E末～称名寺	915-905
J-76	土坑	不整形	—	—	1.48	0.29		920-905
J-77	土坑	楕円形	N-68°-W	4.20	3.17	0.18	称名寺	920-920
J-78	土坑	不整形	N-4°-E	1.75	0.94	0.48	加曾利EⅢ	895-905
J-79	土坑	円形	N-20°-E	1.51	1.33	0.56	加曾利EⅢ	925-895
J-80	土坑	長方形	N-40°-W	1.00	0.76	0.70		925-895
J-81	土坑	楕円形	N-33°-E	1.38	1.10	0.15	勝坂	920-905
J-82	土坑	楕円形	N-49°-W	1.91	1.33	0.15	勝坂	920-910
J-83	土坑	円形	N-35°-W	1.73	1.65	0.19	勝坂	925-915
J-84	土坑	楕円形	N-43°-E	2.49	1.79	0.28	中期	915-910
J-85	土坑	方形	N-2°-W	1.67	1.53	0.48	勝坂	935-895
J-86	土坑	楕円形	N-21°-W	1.92	1.14	0.17	中期	925-915
J-87	土坑	円形	N-35°-W	1.30	1.17	0.72	黒浜、勝坂小片少量、加曾利EⅢ・Ⅳ	925-915
J-88	土坑	楕円形	N-87°-W	1.20	0.88	0.22		925-915
J-89	土坑	長方形	N-2°-E	1.53	1.10	0.34	中期	925-915
J-90	土坑	方形	N-71°-W	1.45	1.27	0.18	中期末～後期初	925-915
J-91	土坑	円形	N-30°-W	1.38	1.34	0.25	中期中葉	930-915
J-92	土坑	円形	N-0°	0.97	0.95	0.96	後期初、称名寺、勝坂混入	930-915
J-93	住居	隅丸方形	N-19°-W	6.18	5.07	0.28	勝坂～加曾利EⅡ主体、称名寺も有	940-910
J-94	土坑	円形	N-49°-W	1.89	1.72	0.53	勝坂～加曾利EⅠ	935-900
J-95	土坑	楕円形	N-85°-W	1.62	0.83	0.29		935-900
J-96	土坑	円形	N-66°-W	1.12	1.07	0.59	加曾利EⅡ	940-895
J-97	土坑	楕円形	N-69°-W	1.25	1.04	0.46	加曾利EⅡ	900-915
J-98	土坑	不整形	N-27°-W	1.79	1.43	0.30	興津、中期～末、赤色塗彩	945-905
J-99	土坑	長方形	N-68°-W	1.59	1.27	0.66	加曾利EⅠ・Ⅱ	945-905
J-100	土坑	楕円形	N-74°-W	2.07	1.59	0.78	前期末、勝坂、称名寺	945-915
J-101	土坑	不整形	—	—	1.67	0.40	勝坂～加曾利EⅠ	945-915
J-102	土坑	長方形	N-35°-W	1.63	1.30	0.17	加曾利EⅢ、称名寺主体	935-920
J-103	土坑	円形	N-53°-E	1.80	1.56	0.27	加曾利EⅢ、称名寺	935-920
J-104	土坑	円形	N-7°-E	1.22	1.08	0.27	前期末～中期	935-920
J-105	土坑	長方形	N-67°-E	1.44	1.19	0.15	加曾利EⅢ	940-920
J-106	土坑	長方形	N-39°-W	1.77	1.45	0.55	勝坂～加曾利E	935-910
J-107	土坑	不整形	N-33°-W	1.93	1.44	0.39	諸磯c、堀之内、加曾利EⅡ・Ⅲ主体	940-900
J-108	土坑	円形	N-24°-W	1.62	1.37	0.64	称名寺、勝坂、加曾利EⅡ・Ⅲ	930-900
J-109	土坑	円形	N-83°-E	1.36	1.25	0.24	勝坂	925-910
J-110	土坑	円形	N-84°-E	1.31	1.21	0.37	勝坂～加曾利E	925-910
J-111	土坑	円形	N-74°-E	1.37	1.32	0.16		930-910
J-112	土坑	不整形	—	—	1.00	0.21	加曾利EⅢ	950-925
J-113	土坑	円形	N-84°-W	1.52	1.31	0.31	勝坂	950-925
J-114	住居	楕円形	N-14°-E	5.57	4.66	0.20	勝坂、加曾利EⅡ～Ⅳ、称名寺、堀之内	945-950
J-115	土坑	円形	N-42°-E	1.14	1.09	0.73	称名寺、堀之内	945-930
J-116	土坑	長方形	N-42°-W	1.07	0.86	0.26	勝坂	940-930
J-117	土坑	円形	N-78°-W	1.19	1.03	0.51	称名寺	940-935
J-118	土坑	不整形	—	—	1.80	0.45	勝坂、加曾利EⅡ・Ⅲ、堀之内	955-935
J-119	土坑	不整形	N-89°-E	1.91	1.32	0.41	加曾利EⅡ・Ⅲ主体、勝坂、諸磯c少量	950-940
J-120	住居	円形	N-65°-E	6.03	5.55	—	加曾利E末～称名寺、勝坂少量、称名寺主体	925-945
J-121	土坑	長方形	N-89°-W	1.25	0.97	0.18		920-915

第1節 縄文時代の遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
J-122	土坑	楕円形	N-22°-E	1.57	1.10	0.76	加曾利E III	950-930
J-123	住居	楕円形	N-42°-W	6.63	6.35	0.23	勝坂、加曾利E I~IV、称名寺、諸磯b、3区16号住居と重複	945-920
J-124	土坑	方形	N-88°-W	1.01	0.85	0.47	勝坂、加曾利E III	940-915
J-125	土坑	不整形	N-88°-E	1.84	1.45	0.50	加曾利E末~称名寺、勝坂・加曾利E III含む	950-940
J-126	土坑	円形	N-85°-E	1.47	1.37	0.27	加曾利E I・II	935-925
J-127	土坑	円形	N-47°-W	1.83	1.60	0.44		930-930
J-128	土坑	円形	N-71°-E	1.35	1.29	0.50	加曾利E II・III	935-925
J-129	土坑	円形	N-54°-E	0.65	0.60	0.37		930-920
J-130	土坑	円形	N-63°-W	1.01	0.92	0.31	称名寺	930-920
J-131	土坑	楕円形	N-22°-W	1.54	1.06	0.49	称名寺	930-900
J-132	—						称名寺	
J-133	住居	楕円形	N-32°-E	6.57	6.15	0.30	加曾利E II~IV、勝坂混入	930-935
J-134	土坑	円形	N-15°-E	2.19	2.00	0.60	加曾利E IV、称名寺主体	930-925
J-135	土坑	長方形	N-89°-E	(2.78)	2.15	0.35	称名寺、加曾利E IV少量	930-925
J-136	土坑	方形	N-0°	1.39	1.23	0.43	加曾利E II・III、後期少量	930-925
J-137	土坑	不整形	—	—	1.26	0.77	加曾利E IV~堀之内	930-915
J-138	土坑	不整形	N-65°-W	2.27	1.70	0.92	勝坂、加曾利E IV、堀之内	935-920
J-139	住居	楕円形	N-40°-W	7.72	6.17	0.28	阿玉台、勝坂、加曾利E II、諸磯c	940-935
J-140	土坑	長方形	N-1°-E	1.95	1.54	0.40	勝坂、加曾利E II・III	950-945
J-141	土坑	円形	N-73°-E	1.55	1.34	0.23	加曾利E II・III	950-945
J-142	土坑	楕円形	N-78°-W	2.12	1.72	0.26	勝坂、無文土器	945-945
J-143	土坑	長方形	N-0°	2.37	1.82	0.61	阿玉台、勝坂	940-940
J-144	土坑	円形	N-57°-W	2.12	1.82	1.25	諸磯b、勝坂、加曾利E II	930-940
J-145	土坑	円形	N-12°-E	1.41	1.29	0.37	勝坂小片	930-940
J-146	土坑	不整形	N-86°-W	1.40	1.11	0.47		940-940
J-147	住居	楕円形	—	—	—	—	称名寺~堀之内、加曾利E混入、2軒重複	910-945
J-148	土坑	不整形	N-88°-W	1.67	1.02	0.52	勝坂、加曾利E II	945-940
J-149	土坑	円形	N-4°-E	2.22	1.95	1.02	勝坂、加曾利E II、称名寺	925-935
J-150	ピット	長方形	N-12°-E	1.24	0.82	0.91		925-935
J-151	ピット	円形	N-14°-E	0.68	(0.62)	0.46		925-935
J-152	土坑	円形	N-18°-W	(1.94)	(1.73)	0.95	称名寺	920-930
J-153	住居	楕円形	N-28°-W	4.93	4.33	0.37	加曾利E II、阿玉台、勝坂	955-950
J-154	土坑	不整形	N-81°-E	4.00	1.78	0.25	加曾利E II・III	955-945
J-155	住居	円形	N-63°-E	4.40	3.98	0.25	勝坂、加曾利E I・II	940-945
J-156	土坑	円形	N-85°-W	2.69	2.33	0.38	加曾利E II、阿玉台、勝坂	940-950
J-157	住居	隅丸方形	N-73°-W	6.12	5.30	0.27	加曾利E II・III、勝坂	930-945
J-158	住居	楕円形	N-16°-W	5.88	4.97	0.20	加曾利E II・III、勝坂、阿玉台	925-955
J-159	土坑	円形	N-5°-E	1.47	1.44	0.27		930-950
J-160	土坑	円形	N-49°-E	1.42	1.29	0.43		945-910
J-161	住居	卵形	N-90°	4.27	3.67	0.38	勝坂、阿玉台、加曾利E III、堀之内	940-950
J-162	住居	不整形	N-79°-W	4.10	4.10	0.25	前期末、勝坂、阿玉台、加曾利E II主体	935-950
J-163	土坑	方形	N-86°-W	1.87	1.65	0.39	加曾利E III主体	920-950
J-164	欠							
J-165	土坑	円形	N-2°-E	1.17	1.04	0.23		925-945
J-166	土坑	円形	N-2°-W	1.28	1.23	0.51	加曾利E III	925-955
J-167	土坑	不整形	N-63°-E	2.46	1.37	0.37	堀之内	925-950
J-168	土坑	円形	N-18°-W	1.76	1.49	0.27	加曾利E III主体、勝坂混入	910-945
J-169	土坑	長方形	N-88°-E	1.90	1.10	0.40	称名寺、堀之内、加曾利E混入	905-940
J-170	土坑	楕円形	N-17°-E	1.77	1.41	1.05	加曾利E III多い、勝坂混入	940-950
J-171	土坑	円形	N-67°-E	1.09	0.94	1.04	勝坂、加曾利E II、後期	945-920
J-172	欠							
J-173	土坑	長方形	N-52°-W	1.63	(1.35)	0.21	加曾利E III、称名寺、堀之内	935-945
J-174	土坑	方形	N-2°-E	2.25	2.08	0.30	勝坂、加曾利E、小破片	925-945
J-175	土坑	円形	N-58°-W	1.90	1.60	0.60	加曾利E II・III	930-945
J-176	土坑	長方形	N-21°-E	3.48	2.10	0.27	加曾利E II、諸磯c混入	910-940
J-177	欠							
J-178	住居	楕円形	N-29°-W	6.68	—	0.20	加曾利E II・III	950-955
J-179	土坑	楕円形	N-78°-E	2.14	1.65	0.16		950-960
J-180	住居	隅丸方形	N-3°-W	5.97	5.44	0.35	阿玉台、勝坂、加曾利E II~IV、J-191と重複	915-960
J-181	住居	隅丸方形	N-34°-W	6.88	5.75	0.18	加曾利E II~IV、称名寺	915-935
J-182	土坑	不整形	N-6°-W	2.94	(2.00)	0.48	勝坂、加曾利E II~IV、称名寺	920-945

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
J-183	土坑	楕円形	N-13°-E	5.18	(3.73)	0.20	加曾利EⅡ~Ⅳ、称名寺、堀之内、勝坂少量	915-950
J-184	土坑	楕円形	N-60°-E	1.50	1.09	0.27	勝坂、加曾利EⅢ・Ⅳ、加曾利EⅣ主体	935-960
J-185	—	—	—	—	—	—	勝坂、加曾利EⅢ・Ⅳ、後期	
J-186	土坑	楕円形	N-15°-E	2.31	1.61	0.43	加曾利EⅡ・Ⅲ	945-960
J-187	土坑	不明	—	—	1.87	0.34	勝坂、加曾利EⅢ	945-955
J-188	住居	楕円形	N-61°-W	5.84	—	—	勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ、J-40と重複	910-930
J-189	土坑	不整形	N-63°-W	1.32	1.05	0.14	加曾利EⅢ	915-935
J-190	土坑	楕円形	N-20°-E	1.57	1.36	1.03	加曾利EⅡ	935-960
J-191	住居	楕円形	N-39°-E	(5.25)	(4.62)	—	加曾利EⅢ・Ⅳ、J-180と重複	920-960
J-192	土坑	円形	N-29°-E	1.11	1.04	0.74	阿玉台、加曾利EⅡ・Ⅲ	915-945
J-193	土坑	方形	N-66°-E	1.66	1.55	0.22		915-950
J-194	土坑	楕円形	N-18°-E	0.77	0.59	0.79		950-965
J-195	土坑	長方形	N-56°-W	1.45	1.05	0.40	加曾利EⅡ~Ⅳ	915-965
J-196	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅡ	
J-197	土坑	円形	N-47°-E	1.30	1.13	0.54		910-920
J-198	土坑	円形	N-70°-E	1.30	1.11	0.37	加曾利EⅣ、称名寺	915-945
J-199	土坑	楕円形	N-42°-W	1.80	1.05	0.22	加曾利EⅡ~Ⅳ、称名寺	915-940
J-200	住居	楕円形	N-45°-W	5.03	4.37	0.17	加曾利EⅣ、称名寺	930-965
J-201	土坑	円形	N-54°-W	1.46	1.41	0.49		900-915
J-202	土坑	楕円形	N-38°-W	1.75	1.32	0.46	加曾利EⅣ末	900-925
J-203	土坑	楕円形	N-6°-E	1.53	0.93	0.62	堀之内	895-910
J-204	土坑	楕円形	N-44°-W	1.38	1.15	0.36	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	940-900
J-205	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利E、土製円盤	
J-206	土坑	不整形	N-62°-W	1.81	0.78	0.63	勝坂、加曾利EⅠ、小片	940-895
J-207	土坑	円形	N-6°-W	0.91	0.85	0.52	加曾利EⅢ・Ⅳ	940-905
J-208	土坑	円形	N-42°-E	1.40	1.28	0.56	後期	935-905
J-209	土坑	不整形	N-73°-W	(1.32)	—	0.75+	阿玉台、勝坂、加曾利E	945-905
J-210	土坑	長方形	N-35°-W	1.85	1.06	0.45	中~後期	925-890
J-211	土坑	円形	N-59°-W	1.13	1.06	0.16	勝坂、加曾利EⅡ・Ⅲ	920-925
J-212	土坑	円形	N-67°-E	0.70	0.65	0.22	加曾利EⅢ	945-945
J-213	土坑	楕円形	N-72°-W	1.33	1.10	0.45		945-930
J-214	土坑	不整形	N-60°-E	1.95	1.11	0.62		940-920
J-215	遺物集中	不明	—	—	—	—	加曾利EⅣ	940-970
J-216	住居	円形	N-45°-E	4.42	3.96	0.18	加曾利EⅢ	925-970
J-217	土坑	円形	N-26°-E	1.42	1.23	0.25	加曾利EⅠ・Ⅱ	925-945
J-218	土坑	楕円形	—	—	1.45	0.35	加曾利EⅡ~Ⅳ、堀之内	935-945
J-219	—	—	—	—	—	—	勝坂、加曾利EⅡ~Ⅳ	
J-220	土坑	楕円形	N-3°-E	1.38	1.09	0.62	勝坂、加曾利EⅡ~Ⅳ	950-940
J-221	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅢ、称名寺	
J-222	ピット	長方形	N-76°-W	0.65	0.52	0.54	称名寺	905-940
J-223	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅢ	
J-224	ピット	楕円形	N-51°-W	0.65	0.53	0.50	諸磯c、加曾利EⅣ、称名寺	905-945
J-225	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅢ・Ⅳ	
J-226	—	—	—	—	—	—	勝坂、加曾利EⅡ・Ⅲ	
J-227	土坑	不整形	N-11°-E	4.40	—	0.25	勝坂、加曾利EⅠ~Ⅲ、称名寺	930-930
J-228	住居	円形	N-15°-W	4.20	3.95	0.18	加曾利EⅡ・Ⅲ	935-945
J-229	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅡ・Ⅲ	
J-230	土坑	円形	N-90°	1.08	0.96	0.47		945-960
J-231	土坑	楕円形	N-65°-E	0.99	0.80	0.40		910-950
J-232	土坑	長方形	N-6°-E	0.99	0.68	0.48	加曾利EⅣ、後期	950-950
J-233	土坑	円形	N-66°-E	1.30	1.17	0.65	加曾利EⅢ	920-955
J-234	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅢ、称名寺	
J-235	土坑	円形	N-49°-E	1.05	0.98	0.84	加曾利EⅢ	910-950
J-236	—	—	—	—	—	—	県側道3区16号住居と同一遺構	
J-237	土坑	円形	N-65°-W	1.17	1.05	0.34		925-935
J-238	住居	—	—	—	—	—	本線Ⅳ区40号住居と同一遺構	900-895
J-239	土坑	円形	N-39°-E	0.81	0.75	0.40	後期	910-955
J-240	土坑	円形	N-5°-W	1.20	1.16	0.94	勝坂	960-955
J-241	—	—	—	—	—	—	加曾利E	
J-242	—	—	—	—	—	—	加曾利EⅢ	
J-243	—	—	—	—	—	—	加曾利E	
J-244	土坑	長方形	N-22°-W	1.65	0.65	0.20	加曾利EⅠ・Ⅱ	900-900

第1節 縄文時代の遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
J-245	土坑	方形	N-73°-W	1.64	1.31	0.69		900-895
J-246	土坑	楕円形	N-21°-E	1.12	0.93	1.04	加曽利E I～III	910-955
J-247	土坑	円形	N-26°-E	1.53	1.38	1.47		910-955
J-248	住居						J-120と同一遺構	925-945
J-249	土坑	楕円形	N-74°-E	0.58	0.48	0.99		940-925
J-250	土坑	不整形	N-1°-W	1.06	1.04	0.19	加曽利E	955-940
J-251	欠							
J-252	土坑	楕円形	—	—	1.18	0.33	加曽利E I	950-920
J-253	土坑	長方形	N-17°-W	1.32	1.07	0.33	加曽利E III	950-920
J-254	土坑	長方形	N-50°-W	1.51	1.00	0.43	加曽利E II	940-930
J-255	土坑	不整形	N-21°-E	2.50	1.78	0.62	加曽利E I・II	935-930
J-256	土坑	不整形	N-38°-W	1.37	1.08	0.73	称名寺	935-935
J-257	土坑	楕円形	N-33°-W	1.39	1.04	0.73	勝坂	935-935
J-258	—						称名寺	
J-259	土坑	円形	N-38°-E	1.12	1.02	0.38	勝坂	925-935
J-260	土坑	円形	N-57°-E	1.04	0.92	0.24	称名寺	920-950
J-261	土坑	不整形	N-84°-W	1.38	0.70	0.36	加曽利E III、称名寺	925-960
J-262	土坑	円形	N-29°-E	0.71	0.61	0.38		915-940
J-263	住居	円形	—	—	—	—		920-920

県側道3区縄文時代遺構一覧表

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
1号	住居	柄鏡形	N-14°-W	8.00	—	0.25	勝坂、阿玉台少量、称名寺主体	945-890
2号	住居	隅丸方形	N-44°-W	5.82	5.08	0.28	勝坂、阿玉台、加曽利E I、称名寺少量	950-900
3号	—						勝坂、阿玉台、諸磯、加曽利E IV、堀之内、称名寺	
4号	住居	隅丸方形	N-14°-E	4.70	4.17	0.23	加曽利E III、堀之内主体、5号住居と重複	950-910
5号	住居	円形	N-64°-W	5.90	—	0.32	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺、堀之内	950-915
6号	住居	楕円形	N-32°-E	—	6.10	0.32	加曽利E III、称名寺	955-905
7号	住居	楕円形	N-75°-W	5.08	4.86	0.32	加曽利E I、勝坂、阿玉台、称名寺、諸磯	955-925
8号	住居	隅丸方形	N-9°-W	4.71	4.18	0.17	勝坂、阿玉台、加曽利E、諸磯、称名寺、堀之内	960-925
9号	住居	楕円形	N-19°-E	—	5.46	0.22	諸磯c、勝坂、阿玉台、加曽利E、称名寺、堀之内	965-930
10号	住居	円形	N-61°-W	4.18	3.77	0.23	勝坂、阿玉台、加曽利E I・II	960-935
11号	住居	楕円形	N-39°-E	5.03	4.85	0.25	勝坂、阿玉台、加曽利E I	965-940
12号	住居	円形	N-75°-W	4.30	4.12	0.38	勝坂、阿玉台、加曽利E I	965-950
13号	住居	楕円形	N-32°-W	5.28	3.55	0.25	勝坂、阿玉台、加曽利E I	970-955
14号	住居	円形	N-70°-W	6.13	6.12	—		945-890
15号	住居	不明	—	—	—	—	加曽利E II・III	955-940
16号	住居	柄鏡形	N-50°-W	6.00	(4.50)	0.34	勝坂、阿玉台、加曽利E、称名寺、堀之内、Ⅲ区J-123と重複	950-920
1号	土坑	楕円形	N-83°-W	1.68	1.58	0.77	勝坂、阿玉台	935-890
2号	土坑	楕円形	N-44°-W	1.70	1.41	0.80	勝坂、阿玉台	935-890
3号	土坑	楕円形	N-64°-E	—	0.80	0.20	勝坂、加曽利E IV	940-885
4号	土坑	方形	N-48°-E	0.64	0.62	0.33	加曽利E	945-890
5号	土坑	楕円形	N-78°-W	1.45	(0.70)	0.32	加曽利E	945-890
6号	土坑	長方形	N-55°-E	1.77	1.33	0.47	勝坂、阿玉台、加曽利E	945-895
7号	—						勝坂、阿玉台、加曽利E、小片	
8号	土坑	長方形	N-10°-E	(1.78)	1.26	0.46	勝坂、阿玉台、加曽利E、称名寺、堀之内	950-890
9号	土坑	楕円形	N-14°-E	—	1.23	0.33	加曽利E III	955-900
10号	土坑	円形	N-35°-E	1.45	1.36	0.92	勝坂、阿玉台、加曽利E I・II	955-900
11号	土坑	長方形	N-5°-E	2.45	2.00	0.72	勝坂、阿玉台、加曽利E I・II	950-895
12号	土坑	方形	N-10°-E	1.54	1.32	0.40	勝坂、阿玉台、加曽利E III・IV、称名寺、堀之内	950-895
13号	土坑	楕円形	N-80°-W	0.60	0.50	0.33	加曽利E	950-895
14号	—						勝坂、阿玉台、加曽利E、称名寺、堀之内	
15号	—						阿玉台、勝坂、加曽利E II、称名寺、堀之内	
16号	—						加曽利E III	
17号	土坑	不整形	N-39°-W	1.88	1.50	0.94	加曽利E III、称名寺、堀之内	955-900
18号	土坑	楕円形	N-35°-E	1.46	1.20	0.28	加曽利E、堀之内	955-900
19号	—						勝坂、阿玉台、加曽利E I・II	
20号	—						加曽利E I・II	
21号	—						加曽利E III、称名寺	
22号	—						阿玉台、勝坂、加曽利E IV、称名寺	

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
23号	—						阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	
24号	土坑	楕円形	N-37°-E	2.13	1.68	0.27	加曾利E、勝坂、阿玉台、称名寺	950-905
25号	土坑	円形	N-0°	1.18	1.00	0.94	阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	950-905
26号	土坑	不整形	N-64°-E	1.40	—	0.64		950-905
27号	土坑	不整形	N-81°-W	1.66	1.30	0.85	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺	950-905
28号	土坑	不整形	N-90°	0.89	(0.66)	0.33	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	950-905
29号	土坑	不整形	—	—	—	0.23	勝坂、阿玉台、加曾利E I～III	945-900
30号	土坑	楕円形	N-75°-W	1.56	1.14	0.44	勝坂、阿玉台、加曾利E I～III	945-900
31号	土坑	不整形	N-13°-E	1.90	1.82	0.97	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	945-905
32号	土坑	不整形	N-62°-W	1.83	1.72	0.92	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	955-910
33号	土坑	円形	N-69°-E	1.44	1.26	0.25	加曾利E、称名寺、堀之内	950-890
34号	土坑	楕円形	N-31°-W	1.36	1.14	0.29	加曾利E	950-915
35号	土坑	—	—	—	—	—	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺	950-920
36号	土坑	方形	N-68°-E	1.38	1.16	0.30	称名寺	950-920
37号	土坑	方形	N-25°-W	1.50	1.32	0.31	加曾利E	950-920
38号	土坑	不整形	N-26°-E	—	1.66	0.34	加曾利E、堀之内	950-915
39号	土坑	長方形	N-82°-E	3.18	0.94	0.53	勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	955-915
40号	—						16号住居に変更	
41号	土坑	円形		2.62	2.34	0.20	勝坂、阿玉台、加曾利E	950-920
42号	—						勝坂、阿玉台、加曾利E	
43号	土坑	楕円形	N-26°-E	(1.86)	(1.10)	0.28	勝坂、阿玉台、加曾利E	955-920
44号	土坑	楕円形	N-76°-W	1.66	1.30	0.94	勝坂、阿玉台、加曾利E	955-915
45号	土坑	不整形	N-65°-E	1.26	1.22	1.94		945-900
46号	土坑	楕円形	N-72°-E	1.98	1.22	0.30	勝坂、阿玉台、加曾利E	955-905
47号	土坑	円形	N-34°-E	1.02	0.96	0.72	勝坂、阿玉台、加曾利E I、堀之内少量	960-920
48号	土坑	楕円形	N-16°-E	1.68	1.42	0.21	堀之内	955-915
49号	土坑	不整形	N-0°	—	1.08	0.34	勝坂、阿玉台、称名寺、堀之内	955-890
50号	土坑	不整形	N-17°-E	—	1.65	0.42	堀之内	950-885
51号	土坑	円形	N-70°-W	0.90	0.80	0.60	加曾利E IV	950-885
52号	土坑	円形	N-60°-E	1.40	1.20	0.60	勝坂、阿玉台	950-885
53号	土坑	長方形	N-13°-W	1.52	1.20	0.30	加曾利E I	950-885
54号	土坑	楕円形	N-0°	1.32	1.06	0.60	称名寺、堀之内	950-890
55号	欠							
56号	土坑	長方形	N-73°-E	1.20	0.96	0.36		960-915
57号	土坑	長方形	N-58°-W	1.62	—	0.43	勝坂、阿玉台、称名寺	960-920
58号	土坑	方形	N-37°-W	1.34	1.14	0.42	加曾利E	955-920
59号	欠							
60号	土坑	楕円形	N-37°-E	1.78	1.14	0.28	堀之内	955-920
61号	土坑	楕円形	N-47°-W	1.48	1.16	0.32	加曾利E、称名寺	955-930
62号	土坑	方形	N-49°-W	(1.94)	—	0.42	加曾利E	955-925
63号	土坑	円形	N-90°	(1.63)	(1.50)	0.30	勝坂、阿玉台、加曾利E	960-925
64号	土坑	円形	N-51°-W	1.20	1.18	0.28		960-925
65号	土坑	円形	N-49°-W	0.71	0.62	0.50		960-925
66号	土坑	方形	N-17°-W	0.84	0.74	0.42		960-925
67号	土坑	円形	N-85°-W	1.40	1.36	0.66	後期	945-895
68号	欠							
69号	土坑	楕円形	N-4°-W	—	1.86	0.28		955-930
70号	土坑	楕円形	N-40°-E	—	1.21	0.30	後期	955-930
71号	土坑	楕円形	N-20°-E	2.26	1.26	0.28	勝坂、阿玉台、加曾利E II・III、称名寺	955-935
72号	土坑	楕円形	N-75°-W	1.82	1.40	0.59	勝坂、阿玉台、加曾利E II・III、称名寺、堀之内	960-930
73号	土坑	方形	N-26°-E	1.41	1.18	0.21		960-930
74号	欠							
75号	土坑	円形	N-74°-W	0.88	0.86	0.40		950-895
76号	欠							
77号	—						勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺	
78号	土坑	方形	N-74°-E	1.22	0.96	0.58	勝坂、阿玉台、加曾利E II	960-920
79号	土坑	楕円形	N-7°-W	1.14	0.98	0.28	加曾利E II、堀之内	960-920
80号	土坑	長方形	N-61°-W	2.48	1.50	0.37		960-925
81号	土坑	長方形	N-78°-E	—	1.78	0.17		960-930
82号	土坑	楕円形	N-10°-W	1.68	—	0.28	加曾利E、称名寺	940-885
83号	土坑	楕円形	N-6°-E	(1.38)	(1.14)	—	阿玉台、勝坂、加曾利E	955-920

第1節 縄文時代の遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
84号	土坑	円形	N-49°-W	1.36	(1.20)	0.36	阿玉台、勝坂、加曾利E	950-905
85号	土坑	円形	N-64°-W	1.23	(1.13)	0.23	阿玉台、勝坂、加曾利E	955-930
86号	土坑	方形	N-20°-W	1.20	1.08	0.63	勝坂、加曾利E	945-885
87号	土坑	方形	N-5°-E	1.26	1.20	0.82	勝坂、加曾利E	950-900
88号	土坑	方形	N-45°-W	1.16	1.00	0.56	阿玉台、勝坂、加曾利E	945-900
89号	土坑	方形	N-74°-W	1.40	1.30	0.52	加曾利E I・II	945-895
90号	土坑	方形	N-7°-W	3.74	3.66	0.32	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	955-915
91号	土坑	円形	N-69°-W	1.34	(1.26)	0.61	加曾利E	945-900
92号	土坑	円形	N-54°-E	0.93	0.88	0.35		960-940
93号	—						44号土坑と同一	
94号	土坑	不整形	N-8°-E	—	1.34	0.15	勝坂、阿玉台、加曾利E II	955-915
95号	土坑	円形	N-82°-E	3.27	2.94	0.20	加曾利E III	970-945
96号	土坑	円形	N-69°-W	2.80	2.50	0.52	阿玉台、勝坂、加曾利E II、称名寺	940-890
97号	土坑	不整形	N-73°-W	2.26	—	0.38	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺	965-935
98号	土坑	不整形	N-73°-W	4.90	—	0.22	阿玉台、勝坂、加曾利E	970-945
99号	土坑	円形	N-76°-E	3.40	3.07	0.22	阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	960-945
100号	土坑	円形	N-11°-W	1.08	1.06	0.29	加曾利E I・II	960-940
101号	土坑	長方形	N-72°-W	1.17	—	0.21	阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	965-940
102号	土坑	円形	N-60°-E	1.06	0.96	0.76	加曾利E I・II、称名寺、堀之内	950-895
103号	—						後期少量	
104号	土坑	不整形	N-73°-W	2.60	—	0.21	阿玉台、勝坂、加曾利E	970-950
105号	土坑	円形	N-15°-E	1.38	1.20	0.90	阿玉台、勝坂、加曾利E II	945-905
106号	土坑	円形	N-47°-W	2.00	1.68	0.42	阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	965-950
107号	土坑	楕円形	N-27°-W	1.18	0.96	0.50	加曾利E	950-895
108号	—						阿玉台、勝坂、加曾利E	
109号	土坑	方形	N-62°-E	2.22	2.10	1.70	加曾利E IV、称名寺	950-895
110号	土坑	方形	N-62°-E	(1.52)	—	0.46	加曾利E	955-910
111号	—						阿玉台、勝坂、加曾利E I・II、称名寺少量	
112号	土坑	楕円形	N-12°-W	1.32	1.04	0.74	阿玉台、勝坂、加曾利E	950-910
113号	土坑	方形	N-0°	1.32	1.14	1.00		950-910
114号	土坑	楕円形	N-86°-E	1.85	1.30	0.84	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺	950-910
115号	土坑	長方形	N-28°-E	1.04	0.98	0.97	加曾利E	950-915
116号	土坑	楕円形	N-53°-W	1.42	1.08	0.20		950-915
117号	土坑	楕円形	N-72°-W	(1.10)	0.94	0.42	加曾利E II	950-895
118号	土坑	楕円形	N-85°-W	1.22	0.70	0.21	加曾利E	950-895
119号	土坑	楕円形	N-14°-E	1.48	1.05	0.50		950-890
120号	土坑	円形	N-25°-W	1.22	0.94	0.17		960-945
121号	土坑	円形	N-25°-W	1.07	1.04	0.16		960-945
122号	欠							
123号	土坑	長方形	N-11°-E	2.02	1.38	0.23	加曾利E II・III	965-945
124号	土坑	不整形	N-10°-E	1.02	—	0.19	加曾利E III・IV	965-945
125号	—						加曾利E III・IV	
126号	欠							
127号	土坑	方形	N-0°	0.68	0.66	0.08	加曾利E II・III	965-945
128号	土坑	不整形	N-23°-W	1.08	0.88	0.21		965-950
129号	土坑	不整形	N-35°-E	1.72	1.65	0.19		965-950
130号	土坑	方形	N-0°	1.62	1.36	0.22		965-950
131号	土坑	不整形	N-55°-W	1.40	—	0.80	加曾利E III・IV、称名寺	945-885
132号	土坑	不整形	N-49°-W	1.26	—	0.54	加曾利E IV、称名寺	945-885
133号	土坑	長方形	N-19°-E	1.22	0.83	0.20		965-950
134号	土坑	長方形	N-80°-W	2.19	1.66	0.32		965-950
135号	土坑	不整形	N-23°-E	1.15	0.58	0.18		960-950
136号	土坑	円形	N-90°	1.36	1.15	0.16		960-950
137号	土坑	方形	N-90°	0.78	0.67	0.25		960-950
138号	土坑	方形	N-64°-W	0.91	0.70	0.23		960-955
139号	土坑	方形	N-64°-W	1.21	0.89	0.19		960-955
140号	土坑	不整形	N-55°-E	1.04	0.89	0.21		960-955
141号	土坑	方形	N-58°-W	0.82	0.69	0.25		960-955
142号	土坑	楕円形	N-50°-W	0.76	0.59	0.17		960-955
143号	土坑	長方形	N-53°-W	1.79	1.19	0.17		965-955
144号	土坑	方形	N-0°	0.88	0.80	0.26	加曾利E III	965-960

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
145号	土坑	円形	N-0°	0.64	0.63	0.20	加曾利EⅢ	960-960
146号	土坑	円形	N-90°	1.20	1.09	0.22	加曾利EⅢ	965-960
147号	土坑	長方形	N-68°-W	1.36	0.95	0.14	加曾利EⅢ	965-960
148号	土坑	円形	N-90°	0.94	0.86	0.22	加曾利EⅢ	965-960
149号	土坑	方形	N-0°	0.67	0.64	0.19	加曾利EⅢ	965-960
150号	土坑	円形	N-90°	0.95	0.90	0.11	堀之内	965-960
151号	土坑	長方形	N-58°-W	1.03	0.79	0.19	加曾利EⅢ	970-960
152号	土坑	方形	N-90°	0.69	0.62	0.16	後期	965-960
153号	土坑	方形	N-45°-W	0.65	0.58	0.18		965-960
154号	土坑	楕円形	N-66°-W	1.50	1.29	0.19	阿玉台、勝坂、加曾利E、後期	965-960
155号	土坑	楕円形	N-27°-E	0.80	0.70	0.15	加曾利EⅠ・Ⅱ	970-960
156号	土坑	楕円形	N-75°-W	0.94	0.55	0.15	後期	970-960
157号	土坑	楕円形	N-34°-W	0.56	0.48	0.26	加曾利EⅠ・Ⅱ	970-960
158号	土坑	長方形	N-21°-E	1.34	1.16	0.16	加曾利EⅠ・Ⅱ	970-960
159号	土坑	楕円形	N-85°-E	1.73	1.60	0.76	勝坂、阿玉台、加曾利EⅢ・Ⅳ、称名寺	945-905
160号	土坑	楕円形	N-25°-W	0.69	0.52	0.23	加曾利EⅢ	970-955
161号	土坑	不整形	N-63°-W	1.70	1.05	0.24	加曾利EⅢ・Ⅳ、称名寺	970-955
162号	土坑	楕円形	N-90°	0.73	0.68	0.17	加曾利EⅢ	970-955
163号	土坑	方形	N-37°-E	1.12	1.02	0.22	加曾利EⅢ	975-960
164号	土坑	方形	N-52°-E	0.88	0.70	0.21		970-950
165号	土坑	不整形	N-14°-W	1.80	—	0.76	阿玉台、勝坂、焼町、加曾利E	945-890
166号	土坑	不整形	N-15°-W	1.03	—	0.75	加曾利EⅣ、堀之内	945-890
167号	土坑	円形	N-29°-W	1.17	1.00	0.34	阿玉台、勝坂	950-900
168号	土坑	楕円形	N-27°-W	0.93	0.80	0.22	阿玉台、勝坂	965-955
169号	土坑	不整形	N-90°	1.91	0.88	0.16	阿玉台、勝坂、加曾利E	970-960
170号	土坑	不整形	N-16°-W	1.25	—	0.12	阿玉台、勝坂、加曾利E	970-960
171号	土坑	不整形	N-26°-W	1.12	—	0.19		970-960
172号	土坑	楕円形	N-74°-W	1.04	0.84	0.14	加曾利EⅢ	970-960
173号	土坑	楕円形	N-90°	1.30	1.04	0.19	五領ヶ台、加曾利EⅠ・Ⅱ	970-960
174号	土坑	楕円形	N-60°-W	1.11	0.80	0.19		970-960
175号	土坑	不整形	N-73°-W	1.98	—	0.15	阿玉台、勝坂、加曾利EⅢ・Ⅳ	975-960
176号	—						加曾利EⅢ	
177号	土坑	不整形	N-26°-W	0.68	0.62	0.25	加曾利E	975-965
178号	土坑	方形	N-0°	0.66	0.64	0.37		975-965
179号	土坑	不整形	N-85°-W	1.05	—	0.16	加曾利E、称名寺	970-965
180号	土坑	不整形	N-21°-W	—	1.05	0.20		970-965
181号	土坑	方形	N-7°-W	1.55	1.22	0.12	勝坂、阿玉台、加曾利E	970-965
182号	土坑	方形	N-44°-E	0.75	0.69	0.17	加曾利E	970-965
183号	土坑	円形	N-69°-W	0.83	0.72	0.21	加曾利E	970-965
184号	土坑	方形	N-48°-E	0.78	0.72	0.20	加曾利E	965-965
185号	土坑	方形	N-26°-W	1.46	1.25	0.12		965-955
186号	土坑	円形	N-35°-E	1.20	1.10	0.53	諸磯b、阿玉台、勝坂、加曾利E	950-900
187号	土坑	円形	N-89°-W	1.40	1.26	0.72	阿玉台、勝坂	950-910
188号	土坑	楕円形	N-56°-W	1.11	0.98	0.32	勝坂、阿玉台、加曾利E	955-900
189号	土坑	円形	N-67°-E	2.18	2.09	0.18	加曾利E、堀之内	965-935
190号	土坑	方形	N-8°-W	1.32	1.20	0.46		955-905
191号	土坑	不整形	N-28°-E	—	1.15	0.25	加曾利E	950-915
192号	土坑	不整形	N-23°-W	2.40	1.72	0.25	勝坂、阿玉台、加曾利E、堀之内	965-935
193号	土坑	円形	N-48°-W	1.08	1.06	0.40	加曾利E、堀之内	950-890
194号	土坑	楕円形	N-76°-W	1.15	—	0.30	勝坂、加曾利E	965-930
195号	土坑	楕円形	N-41°-E	(2.16)	(1.60)	0.38	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ	960-920
196号	土坑	長方形	N-26°-W	—	(0.94)	0.27	加曾利E	960-920
197号	土坑	方形	N-25°-W	0.94	0.76	0.17	阿玉台、勝坂、加曾利E	960-925
198号	土坑	不整形	N-63°-W	1.02	0.92	0.76	加曾利EⅠ・Ⅱ	965-925
199号	土坑	方形	N-16°-W	1.03	—	0.19	阿玉台、勝坂	950-900
200号	土坑	不整形	N-32°-W	—	1.14	0.32		955-910
201号	土坑	楕円形	N-63°-E	1.40	1.10	0.13		955-905
202号	—						阿玉台、勝坂	
203号	土坑	円形	N-49°-E	0.88	0.75	0.74	阿玉台、勝坂、加曾利E	955-925
204号	土坑	方形	N-21°-E	1.16	1.12	0.41	加曾利E	945-885
205号	土坑	楕円形	N-7°-E	—	1.06	0.23	加曾利EⅠ	955-895
206号	土坑	楕円形	N-65°-E	1.30	1.24	0.50	勝坂、阿玉台、加曾利EⅡ~Ⅳ、堀之内	965-930

第1節 縄文時代の遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
207号	土坑	不整形		1.25	—	(0.10)		950-920
208号	土坑	不整形		0.94	0.88	0.20		950-920
209号	土坑	楕円形	N-70°-W	1.40	(1.08)	0.09		950-915
210号	土坑	楕円形	N-31°-W	0.93	(0.74)	0.08		950-920
211号	土坑	楕円形	N-0°	1.12	0.75	0.17		955-915
212号	土坑	円形	N-82°-E	(1.12)	(1.00)	0.35	阿玉台、勝坂、加曾利EⅢ・Ⅳ	955-915
213号	土坑	円形	N-78°-W	1.22	1.08	0.68	阿玉台、勝坂、加曾利EⅡ~Ⅳ、堀之内	950-905
214号	土坑	不整形	N-6°-E	—	2.00	0.30		950-910
215号	土坑	楕円形	N-38°-W	1.82	—	0.44	阿玉台、勝坂、加曾利E、堀之内	950-910
216号	土坑	楕円形	N-90°	1.15	1.05	0.40	阿玉台	955-915
217号	土坑	円形	N-81°-E	1.36	1.24	0.69	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	945-890
218号	土坑	方形	N-4°-W	1.40	1.20	0.42		950-905
219号	土坑	不整形		—	—	0.46	加曾利E	950-910
220号	土坑	円形	N-45°-W	1.28	1.14	0.70	加曾利E、称名寺、堀之内	950-910
221号	土坑	楕円形	N-75°-E	0.88	—	0.20	加曾利E	965-925
222号	—						阿玉台、勝坂	
223号	土坑	方形	N-45°-E	1.09	1.05	0.40	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	965-930
224号	土坑	円形	N-24°-W	1.18	(1.10)	0.22	加曾利E	950-910
225号	欠							
226号	—						加曾利E	
227号	土坑	不整形	N-20°-E	1.20	1.18	0.87	加曾利E	945-910
228号	土坑	楕円形	N-64°-E	1.58	0.83	0.28	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	965-940
229号	土坑	楕円形	N-66°-E	1.28	0.74	0.25		965-940
230号	土坑	円形	N-53°-W	1.12	1.00	0.58	加曾利EⅡ・Ⅲ	960-930
231号	土坑	円形	N-74°-W	1.22	1.08	1.04	加曾利EⅠ・Ⅱ	955-895
232号	土坑	円形	N-73°-W	0.92	0.86	0.29	加曾利EⅡ・Ⅲ	960-930
233号	土坑	長方形	N-29°-E	1.62	0.94	0.52	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	970-965
234号	土坑	不整形	N-16°-E	—	1.36	0.29	加曾利EⅠ・Ⅱ、称名寺	955-900
235号	土坑	不整形	N-22°-W	1.22	0.78	0.22	加曾利EⅢ・Ⅳ	975-965
236号	土坑	円形	N-24°-E	1.06	0.95	0.70	加曾利E	970-955
237号	土坑	不整形		—	—	0.81	阿玉台、勝坂、加曾利EⅢ・Ⅳ	975-965
238号	土坑	円形	N-73°-E	1.04	—	0.18		970-965
239号	土坑	楕円形	N-49°-E	1.83	1.24	0.48	阿玉台、勝坂、加曾利EⅣ、称名寺	970-965
240号	土坑	楕円形	N-87°-W	1.62	1.22	0.28	阿玉台、勝坂、加曾利E	965-965
241号	土坑	a 円形 b 楕円形	N-31°-W N-0°	1.39 1.43	1.32 1.32	0.22 0.28	加曾利E	965-950 965-955
242号	土坑	楕円形	N-59°-W	0.94	0.75	0.22		970-960
243号	土坑	円形	N-72°-W	0.90	0.80	0.24	阿玉台、勝坂	960-935
244号	土坑	不整形	N-72°-W	1.67	—	0.70	北白川、阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	960-915
245号	土坑	楕円形	N-32°-W	3.68	3.13	0.34	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	970-960
246号	—						加曾利EⅡ・Ⅲ	
247号	土坑	円形	N-31°-E	0.88	0.85	0.79	加曾利EⅡ・Ⅲ	965-960
248号	欠							
249号	土坑	不整形	N-54°-E	1.33	—	0.34	阿玉台、勝坂	960-930
250号	土坑	楕円形	N-78°-W	1.80	1.38	0.34	加曾利EⅡ	965-935
251号	土坑	楕円形	N-54°-W	2.37	1.78	0.30	阿玉台、勝坂、加曾利EⅢ	960-925
252号	—						阿玉台、勝坂	
253号	土坑	楕円形	N-60°-E	2.12	1.73	0.44	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ、称名寺	960-910
254号	土坑	長方形	N-36°-W	1.60	—	0.36	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	955-910
255号	土坑	不整形	N-60°-W	1.35	1.09	0.41	後期	955-900
256号	土坑	方形	N-85°-W	1.36	1.14	0.36	加曾利E、堀之内	960-940
257号	—						阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	
258号	土坑	円形	N-76°-E	1.26	1.14	0.47	阿玉台、勝坂、加曾利EⅠ・Ⅱ	960-925
259号	土坑	円形	N-32°-W	1.56	1.38	0.22	後期	960-925
260号	土坑	不整形	N-74°-W	2.12	—	0.20	加曾利EⅢ・Ⅳ	965-925
261号	土坑	円形	N-90°	1.25	1.06	0.20	加曾利EⅢ・Ⅳ	960-925
262号	土坑	楕円形	N-29°-W	1.20	1.05	0.34	加曾利EⅢ・Ⅳ	960-925
263号	土坑	楕円形	N-13°-W	1.50	—	0.64	加曾利EⅡ・Ⅲ	950-910
264号	土坑	不整形	N-32°-E	—	0.85	0.21		950-910
265号	土坑	長方形	N-79°-E	1.28	—	0.20	後期?	945-910
266号	土坑	楕円形	N-64°-W	1.22	0.98	0.22	勝坂	960-915
267号	土坑	楕円形	N-59°-E	1.19	0.98	0.24	阿玉台、勝坂	955-935

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
268号	土坑	円形	N-76°-E	0.90	0.83	0.32	阿玉台、勝坂	965-935
269号	土坑	楕円形	N-66°-E	1.03	0.80	0.50	阿玉台、勝坂、加曾利E	960-935
270号	土坑	楕円形	N-40°-W	1.12	1.10	0.58	阿玉台、勝坂、加曾利E I	960-930
271号	土坑	楕円形	N-0°	1.16	0.90	0.44		955-910
272号	土坑	楕円形	N-74°-W	—	1.12	0.25		955-905
273号	土坑	楕円形	N-14°-W	2.24	(1.58)	0.28		960-940
274号	土坑	楕円形	N-14°-E	1.18	(1.08)	0.28	阿玉台、勝坂	965-945
275号	土坑	不整形	N-56°-E	1.64	1.08	0.20	276号土坑と重複	960-935
276号	土坑	不整形	N-56°-E				勝坂、阿玉台、加曾利E	960-935
277号	土坑	楕円形	N-58°-W	0.88	0.74	0.23	加曾利E	935-890
278号	土坑	不整形	N-61°-W	1.00	—	0.26	加曾利E	940-890
279号	土坑	方形	N-9°-E	0.98	0.95	0.32	加曾利E	940-890
280号	土坑	円形	N-0°	1.08	1.00	0.17	加曾利E	940-890
281号	土坑	不整形	N-73°-W	1.67	(1.06)	0.26	加曾利E I・II	955-930
282号	土坑	楕円形	N-3°-W	1.42	(1.15)	0.23	加曾利E	960-930
283号	土坑	円形	N-8°-E	0.97	0.84	0.24	後期	960-930
284号	土坑	不整形	N-18°-E	0.98	—	0.26	諸磯b、加曾利E	955-930
285号	土坑	円形	N-21°-E	1.00	—	0.20	加曾利E III・IV、称名寺	955-930
286号	土坑	不整形		—	—	0.41	加曾利E III	955-925
287号	土坑	円形	N-37°-W	0.66	—	0.28		955-920
288号	土坑	楕円形	N-20°-E	1.70	1.39	0.65	加曾利E III	955-940
289号	土坑	不整形	N-11°-E	(0.78)	—	0.20	加曾利E III～後期	950-890
290号	土坑	円形	N-12°-W	0.99	—	0.20	勝坂、加曾利E III	950-890
291号	土坑	楕円形	N-63°-E	1.15	(0.90)	0.38	前期、中～後期小片	950-890
292号	土坑	楕円形	N-82°-W	1.02	0.85	0.16	後期	945-890
293号	土坑	楕円形	N-47°-W	1.18	1.00	0.40	加曾利E III、称名寺	945-895
294号	土坑	不整形	N-7°-E	0.92	—	0.58		935-890
295号	土坑	長方形	N-53°-W	1.51	1.06	0.62		935-890
296号	土坑	楕円形	N-74°-W	—	0.75	0.24	加曾利E III・IV	955-920
297号	土坑	不整形	N-28°-W	1.58	(1.15)	0.32	称名寺～堀之内、298号土坑と重複	955-910
298号	土坑	不整形	N-28°-W				加曾利E III・IV、称名寺、堀之内	955-910
299号	土坑	不整形		—	—	0.40	阿玉台、勝坂、加曾利E	960-915
300号	土坑	方形	N-32°-E	0.80	0.76	0.41	称名寺～堀之内	950-905
301号	土坑	楕円形	N-42°-E	1.75	0.90	0.26	勝坂、阿玉台	950-905
302号	土坑	円形	N-49°-E	0.78	—	0.25		950-900
303号	土坑	不整形	N-66°-W	0.84	—	0.37	諸磯c、勝坂、阿玉台	950-900
304号	土坑	不整形	N-85°-E	—	0.70	0.26	阿玉台、加曾利E I・II	950-900
305号	土坑	不整形	N-82°-W	0.98	0.58	0.40	加曾利E II・III、堀之内	955-900
306号	土坑	不整形	N-75°-W	0.88	—	0.14		970-945
307号	土坑	円形	N-32°-W	—	1.10	0.75	勝坂、阿玉台、加曾利E	950-900
308号	土坑	楕円形	N-70°-E	0.98	0.77	0.52	阿玉台、勝坂、加曾利E I・II	965-955
309号	土坑	楕円形	N-80°-E	0.91	0.80	0.48	加曾利E I・II	965-950
310号	土坑	不整形	N-45°-W	0.84	0.80	0.60	加曾利E I・II	960-950
311号	土坑	不整形	N-85°-W	1.22	1.04	0.55		945-885
312号	土坑	楕円形	N-54°-W	1.14	0.76	0.40		950-925
313号	土坑	楕円形	N-57°-E	0.92	(0.73)	0.16	加曾利E	960-950
314号	土坑	楕円形	N-68°-W	0.78	(0.64)	0.10	加曾利E	955-920
315号	土坑	円形	N-52°-W	0.92	0.80	0.13		950-910
316号	土坑	円形	N-90°	0.96	0.86	0.10		970-955
317号	土坑	楕円形	N-15°-W	1.15	0.85	0.35		950-910
318号	土坑	円形	N-62°-W	0.82	0.78	0.22	加曾利E	955-920
319号	土坑	円形	N-72°-E	0.93	0.86	0.26	加曾利E	950-890
320号	土坑	楕円形	N-4°-E	1.08	0.95	0.75	勝坂、加曾利E I	950-900
321号	土坑	不整形		—	—	0.48	加曾利E II～IV、三十稲場?後期	950-885
322号	土坑	不整形	N-44°-E	1.14	0.96	0.40	加曾利E II・III	950-890
323号	土坑	楕円形	N-32°-W	1.42	0.82	1.07	阿玉台、勝坂	950-885
324号	土坑	不整形		—	—	0.28	勝坂、阿玉台、加曾利E	945-885
325号	土坑	不整形	N-61°-E	1.13	1.09	0.34		945-890
326号	土坑	長方形	N-72°-W	1.18	0.72	0.84	勝坂、阿玉台、加曾利E	950-885
327号	土坑	円形	N-62°-E	1.36	1.16	0.53	勝坂、阿玉台、加曾利E	950-895
328号	土坑	楕円形	N-10°-W	—	1.22	0.22		975-960
329号	土坑	楕円形	N-60°-W	0.70	0.58	0.15		965-930

第2節 古墳時代～中・近世の遺構

1 遺構の概要

Ⅲ区は、現地表から遺構の確認面までは浅く、住宅地跡のため攪乱を多く受けている。沖積層の堆積が薄く、ローム層まで浅い。群馬地域で指標となる浅間起源の軽石層や榛名二ツ岳起源の軽石層は、表土中ないし遺構覆土中に攪拌された状態で確認された。そのため、古墳時代から近世にいたる遺構については、層位的に検出できず、ほぼ同一面での検出となった。

Ⅲ区から検出された古墳時代～近代の遺構は、近世～近代のものと考えられる土坑52基、溝2条、その他耕作に伴う溝・耕作痕などである。中・近世面は、遺構確認面が表土から浅く、住宅地であったため攪乱を多分に受けており、遺構の残存状況はあまり良くない。近代に作られた耕作痕や貯蔵用のイモ穴などを土坑として取り上げた。イモ穴と思われる土坑は、屋敷や耕作地の地境と思われる溝の内側や溝に沿って検出されている。出土遺物は、図示できるものが無く小破片の陶磁器類が僅かに出土している。そのため、遺構中の覆土や形状から時期を判断した。土坑の形状は、長方形、正方形、楕円形、不整形などが見られる。形状により、その機能に違いが考えられる。長方形や正方形に近い形状のものは遺物がほとんどなく、掘り込みがしっかりしていて近世、近代の貯蔵用の土坑と考えられる。掘り込みの浅い楕円形状の土坑と不整形の土坑については、植物の根痕も考えられる他、用途不明である。

古代では、古墳時代前期の石田川期の住居12軒と奈良時代の住居1軒が、調査区の南東寄りにまとまって検出された。石田川期の住居からは、S字口縁の台付甕、壺、埴、高坏等一揃いの土器が出土し、時期が特定できる。掘立柱建物は、3間×2間が1棟、2間×2間が1棟、2間×2間の総柱建物1棟が検出された。掘立柱建物は、調査区の西側寄りに造られている。時期を特定できる遺物が出土していないが、土層の堆積状況から奈良時代頃のものとして推定される。

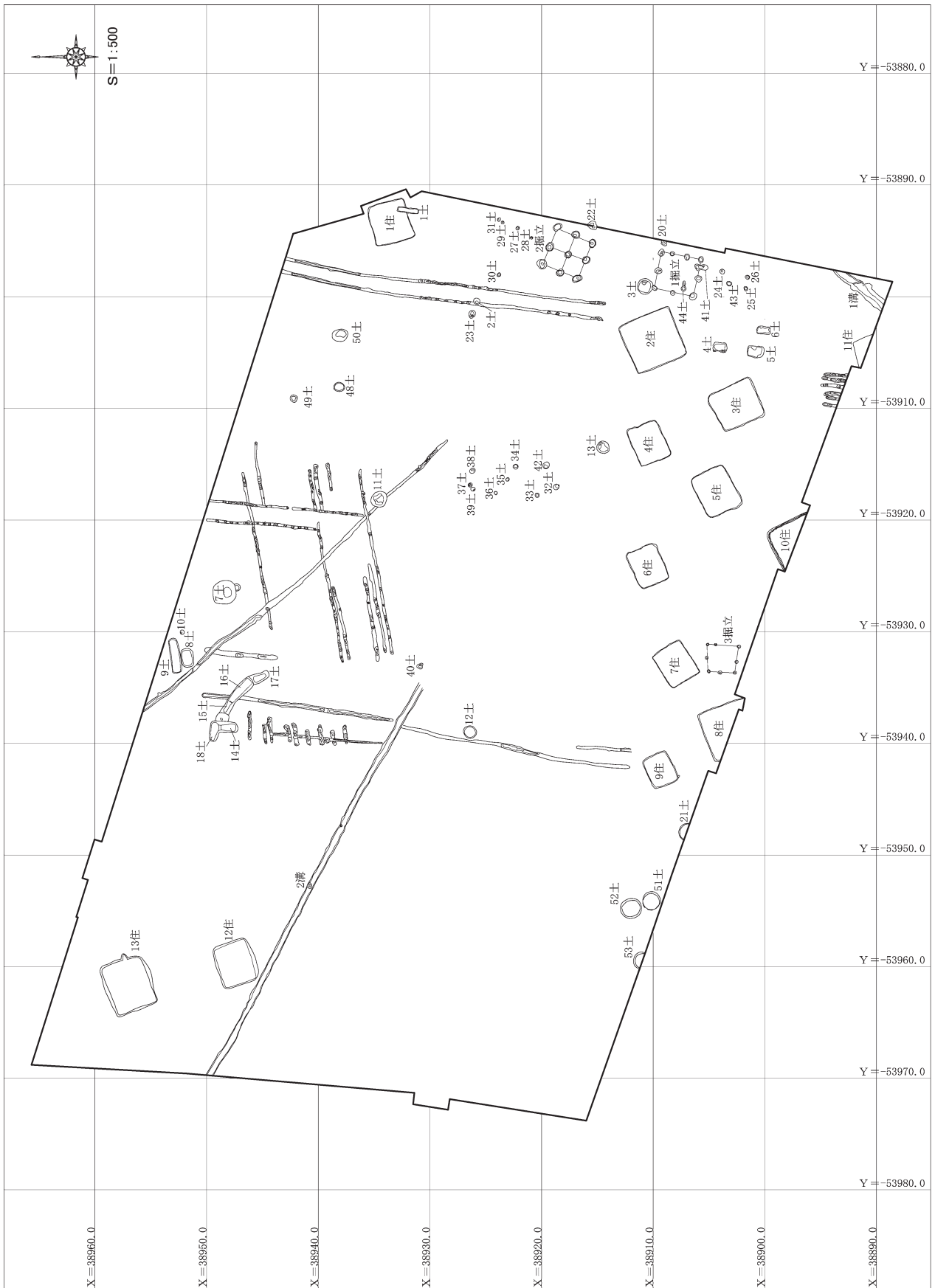
2 検出された遺構

1号住居 (第236・481図 PL85・192)

位置 930—890 **重複** 1号土坑 **主軸** N-74°-E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.78m×3.40m×0.11m **覆土** As-Cを含む褐色土である。 **床面** As-Cを含む褐色土で厚さ10cmほどの貼床を施す。凹凸は少なく平坦である。 **周溝** なし。 **柱穴** 確認できなかった。 **貯蔵穴** 径41cm×深さ43cmで南東隅に設ける。形状はほぼ円形である。 **炉** 焼土を2ヶ所で確認した。住居ほぼ中央の焼土は掘り込みがなく、焼土ブロックが混入する。住居のやや北東部分で確認した焼土は径55cm×深さ6cmであり、こちらが炉であると思われる。 **遺物** 炉付近に集中している。坏・埴類の出土が多い。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

2号住居 (第236・237・481～483図 PL85・192・193)

位置 905—900 **主軸** N-26°-W **形状** 隅丸方形 **規模** 4.90m×4.78m×0.11m **覆土** As-Cを含む黒色土が主体である。 **床面** ロームブロックを含む褐色土で厚さ12cmほどの貼床を施す。P3とP4のほぼ中央に、隅丸長方形で深さ30cmほどの土坑状の掘り込みを有する。北西及び北東部分はやや深く掘削されていた。床面の凹凸はほとんどなく平坦である。 **周溝** 幅9cm×深さ6cmほどの規模で全周する。 **柱穴** ピットを4基確認した。P1は35cm×30cm×61cm、P2は44cm×41cm×59cm、P3は40



第97図 本線Ⅲ区古墳時代～中・近世面全体図

cm×40cm×60cm、P 4 は35cm×35cm×47cmである。 **貯蔵穴** 径74cm×深さ48cmで北西隅に設ける。形状は不整形である。 **炉** 中央からややP 4 寄りに位置し、65cm×49cm×6cmの範囲が焼土化・硬化している。 **遺物** 遺物の出土量が多い。特に炉周辺に多く出土している。高坏、埴、S字口縁の台付甕、甕、壺などが出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

3号住居 (第238・483図 PL85・193)

位置 900—905 **主軸** N—24°—W **形状** 隅丸長方形 **規模** 4.15m×3.60m×0.06m **覆土** As-Cを含む暗褐色土が主体である。 **床面** 一部に硬化した面が残されていたが残存状況が悪いため、床面が削平されている可能性がある。貼床は現状で7～12cmほどで、東壁側がもっとも深く溝状に掘削されていた。 **周溝** 確認できなかった。 **柱穴** 確認できなかった。 **炉** 中央付近に焼土を3ヶ所検出した。炉1は100cm×55cm×6cm、炉2は119cm×102cm×9cm、炉3は48cm×40cm×4cmの規模である。 **遺物** 出土量が少なく、高坏脚部が出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

4号住居 (第238・483図 PL85・193)

位置 905—910 **主軸** N—66°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.55m×2.95m×0.06m **覆土** As-C、ロームブロックを含む黒色土。 **床面** ローム主体の黄褐色土で厚さ16cmほどの貼床を施す。中央部分はやや高く掘り残し、周囲を溝状に掘削している。部分的に土坑状に深く掘られている。 **周溝** なし。 **柱穴** 住居の中央からやや北寄りに深さ27cmのピットを確認したが、主柱穴であるとは断定できない。 **貯蔵穴** 39cm×31cm×42cmの規模で北東隅に設ける。形状は隅丸方形である。 **炉** ほぼ中央から北方向にかけて焼土を確認した。径60cm×5cmの浅い窪みである。 **遺物** 北側隅と炉周辺に遺物が出土しているが、図示できるものは少ない。埴、高坏、台付甕脚部を掲載した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

5号住居 (第239・483図 PL85・193)

位置 900—915 **主軸** N—68°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 4.10m×3.40m×0.10m **覆土** As-Cを含む黒色土が主体である。 **床面** 平坦で、As-Cを含んだ褐色土の貼床を施している。 **周溝** 南壁から西壁の南半分にかけて検出した。規模は概ね幅15cm×深さ4cmである。 **柱穴** 確認できなかった。 **貯蔵穴** 南東隅で2ヶ所検出された。2基とも形状は不整形で、貯蔵穴1の埋土は軟質で規模は50cm×36cm×24cm、貯蔵穴2は45cm×38cm×22cmである。 **炉** 新旧2ヶ所検出した。炉1は51cm×33cmの楕円形の範囲が被熱し焼土化している。炉2は貼床下から検出されこちらが古い段階の炉と考えられる。 **遺物** 覆土中から小片が出土している。図示したものは、S字口縁の台付甕、脚部である。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

6号住居 (第239・483図 PL86・193)

位置 905—920 **主軸** N—64°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.54m×2.92m×0.11m **覆土** As-C混入の黒色土にロームブロックを含む。 **床面** ほぼ平坦で、黄褐色ロームを主体とする貼床を施す。北西隅は周囲より8cmほど深く掘り込まれている。 **周溝** 貯蔵穴周辺と北西隅を除いて検出された。

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

規模は概ね幅20cm×深さ3cmである。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 南東隅に設ける。規模は径47cm×深さ46cmで形状は不整円形である。埋土は比較的軟質であった。 **炉** 中央やや北寄りに2ヶ所検出した。炉1は76cm×46cm×5cm、炉2は64cm×53cm×5cmの範囲が焼土化している。形状はともに楕円形である。 **遺物** 住居跡の南東に偏って土器の小片が出土している。図示したのは、S字口縁の台付甕と壺である。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

7号住居 (第240・484図 PL86・194)

位置 905—930 **主軸** N—57°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.53m×2.98m×0.17m **覆土** As-Cを含む黒色土とロームブロックを多く含むことから、人為的な埋土も考えられる。 **床面** ほぼ平坦で、As-Cを含む黒色土を10cmほど充填して貼床としている。掘り方は南東および南西隅を若干深く掘削している。 **周溝** なし。 **柱穴** ほぼ中央にピットを1基確認した。規模は48cm×38cm×29cmで形状は楕円形である。 **貯蔵穴** 37cm×29cm×39cmで南東隅に設ける。形状は不整円形である。埋土は比較的軟質であった。 **炉** 中央からやや北東寄りに検出した。61cm×44cm×7cmの範囲が焼土化している。形状は不整楕円形である。 **遺物** 覆土中に土器小片が散見する。高坏坏部、高坏脚部、甕脚部、埴等少量である。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

8号住居 (第240・241・484図 PL86・194)

位置 900—935 **主軸** — **形状** 隅丸方形と考えられるが、部分調査のため全容は不明である。 **規模** 調査した範囲では4.75m×4.72m×0.3mである。 **覆土** As-Cを含む黒色土が主体である。 **床面** 段差を有し、南半分は北側より3cmほど低くなっている。それぞれの床面はほとんど凹凸がなく平坦である。掘り方は、中央部分を方形上にやや高くし、周囲を幅78cmの溝状に掘削している。貼床は、8cmほどの厚さで、As-Cを含む暗褐色土を充填している。 **周溝** 概ね幅11cm×深さ5cmの規模で全周すると思われる。 **柱穴** 掘り方でやや深く掘られた部分を2ヶ所確認したものの、柱穴と判断できない。 **貯蔵穴** 径42cm×深さ42cmで南東隅に設ける。形状は不整円形である。貯蔵穴上からは灰色の粘質土を検出した。厚さ12cmほどで固くしめるが、用途は不明である。 **炉** 2ヶ所検出した。炉1は径54cm×深さ5cmでほぼ円形の範囲が焼土化している。炉2は56cm×50cm×7cmの範囲が焼土化し、形状は楕円形である。 **遺物** 出土遺物量は少なく、覆土中から埴、甕脚部などが出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

9号住居 (第241・484図 PL86・194)

位置 905—940 **主軸** N—66°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.00m×2.47m×0.22m **覆土** As-Cを含む黒色土が主体である。3層には焼土や炭化物を少量含んでいる。 **床面** やや起伏があるが全体的には平坦である。貼床の厚さは10~13cmほどである。 **周溝** なし。 **柱穴** 確認できなかった。 **貯蔵穴** 57cm×33cm×13cmで南東隅に設ける。形状は隅丸方形である。埋土は軟質の暗褐色土である。 **炉** 中央からやや北寄りに位置し、44cm×34cm×5cmの範囲が焼土化している。 **遺物** S字口縁の台付甕、小形甕などが出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

10号住居（第242・485図 PL86・194）

位置 895—920 **主軸** — **形状** 隅丸方形または隅丸長方形と思われる。 **規模** 調査した範囲は4.42m×4.04mで深さは0.90mである。 **覆土** 1・2層はロームブロックを多量に含み、人為的埋土である可能性が高い。2層の下位からは炭化物が多く検出された。 **床面** 凹凸が少なく平坦である。炭化材を多量に検出した。 **周溝** なし。 **柱穴** ピットを1基検出した。規模は径26cm×深さ41cmである。 **貯蔵穴・炉** 調査範囲内では確認されなかった。 **遺物** 住居床面から甕、高坏が出土している。覆土中からS字口縁の台付甕脚部などが出土。 **所見** 床面には炭化材が散在しているが、壁際に黒色土の堆積が見られる。廃屋後しばらくしてから焼失し、人為的に埋め戻された家屋であると考えられる。出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

11号住居（第242図 PL86）

位置 890—900 **主軸** — **形状** 隅丸方形または隅丸長方形と思われる。 **規模** 調査した範囲は2.40m×1.70mで深さは0.46mである。 **覆土** いずれの層位にもロームブロック・ローム粒が混入しており人為的な埋土の可能性もある。 **床面** ほぼ平坦である。貼床も存在していたが詳細は不明である。 **周溝** なし。 **柱穴・貯蔵穴・炉** 調査範囲内では確認されなかった。 **遺物** 時期を特定するような図示できる遺物出土はなかった。 **所見** 覆土の堆積状況から古墳時代前期と考えられる。

12号住居（第243・485図 PL87・194）

位置 945—955 **主軸** N—71°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 3.96m×3.60m×0.65m **覆土** As-Cを含む暗褐色土で埋没する。3～5層には炭化物が混入する。 **床面** 起伏を有し、南東隅がやや低くなっている。掘り方は中央をやや高く残し、その周囲を掘削している。貼床は厚さ13cm～25cmほどである。 **周溝** 北壁側と東壁から南壁の東側半分にかけて検出した。規模は概ね幅13cm×深さ6cmである。 **柱穴** ピットを2基確認した。P1は径25cm×深さ17cm、P2は39cm×21cm×18cmで南北に直列する。 **貯蔵穴** 南東隅に43cm×35cm×15cm、北東隅に52cm×47cm×7cmの落ち込みを検出した。いずれかが貯蔵穴であると考えられる。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 遺構の掘り込みが深いわりには、遺物の出土量が少ない。高坏、埴が出土している。 **所見** 床面に炭化材が見られる他、覆土下層に炭化物が見られることから焼失家屋と考えられる。出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

13号住居（第244・245図 PL88）

位置 955—955 **主軸** N—74°—E **形状** 隅丸長方形 **規模** 4.90m×4.45m×0.71m **覆土** 2層はAs-Bの堆積層である。3層以下に混入物はあるものの自然堆積であると考えられる。 **床面** やや起伏を有する。中央部に比べ四隅は若干の高まりをもつ。 **周溝** 北西隅と南東隅を除いて検出された。規模は概ね幅11cm×深さ6cmである。 **柱穴** 小ピットを検出したが主柱穴とは断定できなかった。 **貯蔵穴** 東隅に96cm×65cm×25cmで検出された。 **竈** 東壁面の中心からやや南寄りに位置する。袖は青灰色の粘質土で構築されていた。また、礫等が使用されていた痕跡も認められた。確認長は138cm、燃焼部幅は46cmである。 **遺物** 掘り込みが深いわりには、時期の特定できるものや図示できる土器は出土しなかった。河原石のような丸味のある礫が数点出土している。 **所見** 覆土や周辺状況から、奈良時代の住居跡と考えられる。

第4章 本線Ⅲ区・県側道3区 検出された遺構

本線Ⅲ区古墳時代～中・近世遺構一覧表

番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
1	溝		N-41°-E	長さ 4.50	上端 1.25 下端 0.54	0.15		X=885～890 Y=895～900
2	溝		N-63°-W	長さ 39.20	上端 0.70 下端 0.40	0.24		X=930～945 Y=935～960
1	井戸							
1	土坑	長方形	N-6°-E	1.90	0.42	0.29		930-890
2	土坑	円形	N-58°-E	0.60	0.53	0.40		925-900
3	土坑	円形	N-77°-W	1.41	1.37	0.12		910-895
4	土坑	長方形	N-5°-E	1.27	0.77	0.07		900-900
5	土坑	長方形	N-6°-E	1.49	1.04	0.12		900-905
6	土坑	長方形	N-4°-E	1.22	1.18	0.14		900-900
7	土坑	円形	N-89°-W	2.13	2.08	0.52		945-925
8	土坑	長方形	N-80°-E	1.65	1.10	0.36		950-930
9	土坑	長方形	N-82°-E	3.15	0.89	0.28		950-930
10	土坑	円形	N-70°-E	0.40	0.38	0.38		950-930
11	土坑	円形	N-42°-W	1.56	1.38	0.21		930-915
12	土坑	円形	N-16°-E	1.19	1.12	0.24		925-935
13	土坑	円形	N-36°-E	1.15	1.08	0.19		910-910
14	土坑	長方形	—	—	0.94	0.30		945-935
15	土坑	不整形	—	—	1.28	0.78		945-935
16	土坑	長方形	—	—	1.02	0.46		945-930
17	土坑	長方形	—	—	0.92	0.20		945-930
18	土坑	長方形	N-65°-W	1.90	0.90	0.26		945-935
19	欠							
20	土坑	楕円形	N-51°-E	0.59	0.45	0.27		905-895
21	土坑	不整形	N-71°-W	1.57	—	0.50		905-945
22	土坑	楕円形	N-43°-E	0.86	0.73	0.28		915-890
23	土坑	楕円形	N-77°-W	0.75	0.60	0.21		925-900
24	土坑	円形	N-74°-E	0.47	0.42	0.28		900-895
25	土坑	楕円形	N-56°-E	0.42	0.32	0.20		900-895
26	土坑	円形	N-22°-E	0.40	0.37	0.24		900-895
27	土坑	楕円形	N-57°-W	0.34	0.28	0.66		920-890
28	土坑	円形	N-7°-W	0.24	0.24	0.39		920-890
29	土坑	円形	N-27°-W	0.27	0.26	0.30		920-890
30	土坑	楕円形	N-39°-W	0.38	0.30	0.15		920-895
31	土坑	楕円形	N-36°-W	0.35	0.28	0.42		920-890
32	土坑	円形	N-20°-W	0.51	0.49	0.32		915-915
33	土坑	円形	N-89°-W	0.42	0.37	0.17		920-915
34	土坑	円形	N-15°-W	0.47	0.44	0.16		920-915
35	土坑	円形	N-50°-W	0.34	0.30	0.17		920-915
36	土坑	円形	N-87°-E	0.32	0.28	0.17		920-915
37	土坑	円形	N-54°-W	0.40	0.36	0.28		925-915
38	土坑	楕円形	N-36°-W	0.53	0.44	0.15		925-915
39	土坑	円形	N-19°-E	0.39	0.37	0.25		925-915
40	土坑	不整形	N-62°-W	0.54	0.50	0.24		930-930
41	土坑	長方形	N-13°-E	1.22	0.43	0.23		905-895
42	土坑	円形	N-60°-W	0.64	0.56	0.14		915-915
43	土坑	楕円形	N-32°-E	0.48	0.40	0.12		900-895
44	土坑	不整形	N-84°-W	0.93	0.44	0.08		905-895
45	土坑	楕円形	N-79°-E	—	0.58	0.19		905-905
46	土坑	楕円形	—	0.82	0.70	0.16		905-910
47	土坑	円形	—	0.40	0.40	0.40		910-905
48	土坑	楕円形	N-3°-E	0.99	0.83	0.29		935-905
49	土坑	円形	N-68°-E	0.68	0.66	0.20		940-905
50	土坑	楕円形	N-69°-W	1.44	1.11	0.34		935-910
51	土坑	円形	N-26°-E	1.63	1.58	0.46		910-950
52	土坑	円形	N-1°-W	1.90	1.79	0.33		910-950
53	土坑	不整形	—	—	1.53	0.42		910-955

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

第1節 縄文時代の遺構

1 遺構の概要

IV・4区の地形は、ローム台地から遺跡の東側にある谷へ向かって急傾斜する。IV・4区の東半分ほどは、谷の堆積層になり、湧水層が見られた。4区の縄文時代遺構確認面は、西側で現地表から遺構の確認面までが浅くなり、耕作のため削平されている。東側では、遺跡の北側にあるあまが池から流れ出す小河川によって作られた谷地部へと傾斜を深くする。また、IV・4区南半分は、耕作のための幅40cm程の溝が短冊状に掘られていた。東南部では、比較的沖積層の堆積が厚くあり、縄文土器の包含層が形成されている。遺構の掘り込みが全体に浅いため調査区の西側では、耕作により遺構上部が削平されたものも多い。

検出された遺構は、縄文時代中期から後期の住居20軒である。このうち柄鏡形住居跡は、2軒である。時期別では、中期中葉から加曽利EⅡ式期5軒、加曽利EⅢ式期7軒、加曽利EⅣ式期1軒、称名寺式期6軒、堀之内式期1軒になる。

土坑は168基検出された。地形上ローム台地と谷の傾斜変換点になる等高線の西側に多く分布している。これらの検出された土坑の形態は、円形、楕円形、長方形等がある。土坑の機能としては、貯蔵や墓壇などが考えられるが、その他植物の根痕や性格不明のものも多い。

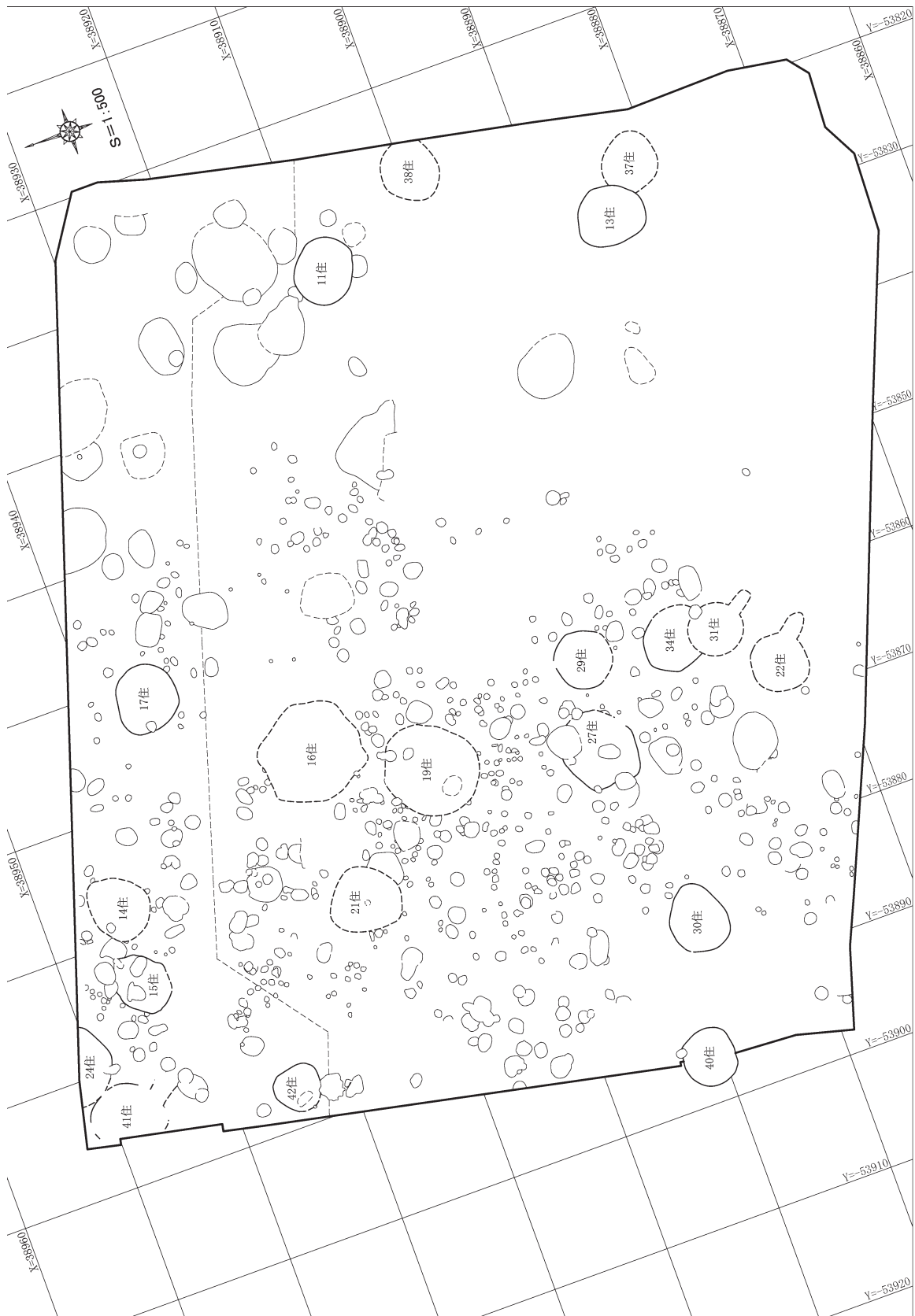
1号配石は、遺跡地の台地と谷部にかかる傾斜変換点にある。その他の配石遺構としたものは、これより東側の谷地部にかかる場所に分布している。これらの配石遺構は、小規模のもので環状や弧状になるものではない。河原石などと共に石皿、多孔石、土器などが出土している遺構である。敷石住居の可能性を持つ遺構についても調査時点では、配石遺構として取り扱っている。その他、4区の谷部からは、掘り込みが不明瞭で全体の形態は確認出来なかったが、土器や石器・小礫が集中して出土している遺構が検出された。これらの遺構については、配石遺構としたものと遺物の出方が類似しているが、大型の河原石や多孔石、石皿などが配置されない点で異なる遺構である。

2 検出された遺構

竪穴住居跡

11号住居（第255・486～489図 PL94・195・196）

位置 905—820 **主軸** N—56°—W **形状** 楕円形 **規模** 5.68m×4.81m×0.40m **覆土** 上層では、白色軽石粒を含む。中下層では、鉄分を多く含む軽石粒が少ない。遺物は中下層に多く包含されている。**床面** 掘り込みや壁の立ち上がりはしっかりしている。茶褐色土層を床面としている。全体に締まりが無く柔らかい。柱穴は検出されなかった。**炉** 検出されなかった。**遺物** 埋設土器などは検出されなかったが、覆土中から称名寺式土器の大形片（1～5）が多く出土した。石器類の出土も多く、磨石、凹石、打製石斧、石鏃などが出土している。**所見** 発掘調査当初、検出プランから住居跡として認定したが、柱穴や炉が検出されなかったことから住居以外の施設の可能性もある。出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。



第98図 本線IV区・県側道4区縄文時代住居位置図

13号住居 (第256・489図 PL94・196)

位置 880—825 **重複** 37号住居 **主軸** N—28°—W **形状** 楕円形 **規模** 5.70m×4.80m×0.23m **覆土** 上層に鉄分の凝縮層が見られる。下層には、黒ボク土ブロック。遺物は、中層に多く見られる。**床面** 掘り込みや壁の立ち上がりはしっかりしている。茶褐色土層を床面としている。全体に締まりが無く柔らかい。柱穴は検出されなかった。**炉** 検出されなかった。**遺物** 遺構からの出土量は少なく、覆土中から称名寺式土器の小片が少量出土している。覆土中から石棒、石皿・多孔石等が出土している。**所見** 発掘調査当初、検出プランから住居跡として認定したが、柱穴や炉が検出されなかったことから住居以外の施設と推定される。出土遺物から後期称名寺式期の遺構と考えられる。

14号住居 (第256・489図 PL94・196)

位置 940—865 **主軸** N—54°—W **形状** 楕円形。掘り込みはなく、柱穴の位置から推定した。**規模** (5.84)m×(4.75)m×—m **覆土** 掘り込みが無いため白色軽石粒を含む暗灰褐色土が覆っていた。**床面** ローム漸移層を床面としている。柱穴は、P 1～9まで検出された。**炉** 地床炉で、土器片を埋設している。**遺物** 遺構確認面から住居床面まで浅く、加曾利E III式土器(1)が床面から出土している。埋設土器も加曾利E III式土器であった。**所見** 柱穴と炉内の埋設土器から加曾利E III式期の遺構と考えられる。

15号住居 (第257・490図 PL94・197)

位置 940—870 **主軸** N—71°—E **形状** 楕円形 **規模** 5.58m×4.49m×—m **覆土** 掘り込みが浅く、白色軽石粒を含む。**床面** ローム層を床面としている。硬く締まっている。柱穴は、P 1～6・8が検出された。**炉** ほぼ中央部に長方形の石囲炉が検出された。炉の南側に埋設土器。**遺物** 掘り込みが浅く、覆土中からの出土は少ない。加曾利E I式の埋設土器(1)が出土した。覆土中からは、加曾利E I式土器が主体となって出土した。石器は、多孔石、台石、打製石斧、石錐、石鏃などが出土している。**所見** 埋設土器や覆土中の土器から加曾利E I式期遺構と考えられる。

16号住居 (第258・491図 PL94・197)

位置 920—865 **主軸** — **形状** 不整形。土坑との重複多い。**規模** — **覆土** 掘り込みは浅い。白色軽石粒を含む。**床面** ローム漸移層を床面として、柔らかく締まりがない。**炉** 検出されなかった。**遺物** 掘り込みは検出されず、床周辺やピットなどから阿玉台式、加曾利E III式などの遺物が出土している。石器は、打製石斧、スクレイパー、石鏃等が出土している。**所見** 柱穴は不規則に並び、炉も検出されなかったことから住居以外の施設と考えられる。出土遺物も阿玉台式と加曾利E III式に分かれるが、量的に加曾利E III式期が多くこの時期のものと考えられる。

17号住居 (第259・492図 PL94・198)

位置 930—850 **主軸** N—60°—W **形状** 円形 **規模** 5.98m×5.26m×0.37m **覆土** 白色軽石粒を含む。遺物は、上・下層まんべんなく出土している。**床面** 茶褐色土を床面としており、柔らかく締まりがない。**炉** 検出されなかった。**遺物** 覆土中から諸磯C式、勝坂式、加曾利E式などの小破片が出土している。また、土製円盤が多く出土しているのが特徴的である。石器は、多孔石、磨石・

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

凹石、打製石斧、石鏃など多種にわたり出土している。 **所見** 発掘調査当初、検出プランから住居跡として認定したが、柱穴や炉が検出されなかったことから住居以外の施設の可能性もある。出土遺物から中期後半の時期と考えられる。

19号住居（第260・492図 PL95・198）

位置 910—860 **主軸** N—53°—E **形状** 楕円形。遺構確認面からの掘り込みは無く柱穴の配置から推定した。 **規模** (8.45)m×(7.31)m×—m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは浅く、覆土は確認されなかった。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は、P1～8とP10で円形に廻る。 **炉** 円礫による石囲炉。方形になり、炉の西側に台石が置かれていた。覆土中からは、焼土・炭化物が検出された。 **遺物** 掘り込みが無く、床面周辺から少量遺物が検出された。土器は、称名寺から堀之内式期のものである。石器は、磨石・敲石、石鏃などが出土している。 **所見** 出土遺物から堀之内式期の住居跡と考えられるが、遺構の平面形がはっきりしない。

21号住居（第261・492・493図 PL95・198）

位置 920—870 **主軸** — **形状** 不整形 **規模** —m×—m×0.32m **覆土** ローム粒・炭化物が含まれる。 **床面** ローム漸移層を床面にしている。炉周辺では、硬く締まっている。柱穴は遺構の西北部に数本確認されたがはっきりしない。 **炉** 大型の円礫による石囲炉。底面は、やや小振りの礫が敷き詰められていた。 **遺物** 炉内や周辺から、加曾利EⅢ式期の土器が出土した。石器は、磨石・敲石や石皿、打製石斧等である。 **所見** 住居の平面形や柱穴がはっきりせず、床の硬化部分も炉周辺であることから屋外炉の可能性もある。出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

22号住居（第262・493図 PL95・198）

位置 880—860 **主軸** N—57°—W **形状** 柄鏡形。ゴボウの耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **規模** 7.15m×4.63m×0.25m **覆土** 上層では、白色軽石粒・炭化物を含み、下層では、ローム粒や淡色黒ボク土が多くなる。 **床面** 耕作による攪乱で床面が短冊状に壊されていた。ローム層を床面として硬く締まっている。敷石が柄と接合部に検出された。住居本体には、部分的に礫が確認された。柱穴は、円形に配置されている。柄部の先端から埋甕が検出された。 **炉** 小礫による石囲炉。覆土中には、焼土・炭化物を含む。 **遺物** 称名寺式土器が住居中心部付近や柄部先端の埋甕(8)で出土している。石器は、床面に据え置かれたように台石が置かれていた。石皿や多孔石、磨石、打製石斧、石鏃などが出土している。 **所見** 柄鏡形の敷石住居である。出土遺物から、称名寺式期と考えられる。

24号住居（第263・493～495図 PL96・198・199）

位置 945—875 **主軸** — **形状** 楕円形。北側部分は、調査区外。 **規模** — **覆土** 掘り込みは浅く、ローム粒・淡色黒ボク土を含む。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、2本確認された。 **炉** 石囲炉で、2辺を石で囲んでいる。炉内は、皿状に掘り窪められ焼土・炭化物とともに礫を埋め込んでいた。 **遺物** 遺構の掘り込みが浅く、覆土中からの出土は少ない。床上や炉内から加曾利EⅠ～Ⅱ式土器が出土している。石器は、石皿・多孔石や磨石などが出土している。 **所見** 住居の北半部は調査区外で全体を確認出来なかった。出土土器から加曾利EⅠ～Ⅱ式期の遺構と考えられる。

27号住居（第264・496図 PL96・200）

位置 895—860 **主軸** N—78°—W **形状** 楕円形。ゴボウの耕作により短冊状に攪乱を受けている。
規模 6.90m×6.33m×0.19m **覆土** 白色軽石粒を主体とする。 **床面** ローム層を床面として比較的硬く締まっている。柱穴は、はっきりしたものは確認出来なかった。遺構の南側に埋甕が検出された。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 床面直上や埋甕として加曾利EⅢ式土器が出土している。石器は、多孔石や石皿などが出土している。 **所見** 攪乱が多く柱穴や炉跡が検出されなかったが、埋設土器や遺物のあり方から加曾利EⅢ式期の住居と考えられる。

29号住居（第265・497図 PL96・200）

位置 895—860 **主軸** N—75°—E **形状** 楕円形。ゴボウの耕作により短冊状に攪乱を受けている。遺構の南側は、壁面が削平されている。 **規模** 5.04m×(4.82)m×0.17m **覆土** 白色軽石粒を主体とする。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、環状に廻る。 **炉** ほぼ中央部の北側に礫を置き皿状に掘り窪め、土器を埋設している。礫は、細長い棒状の礫と多孔石を使用している。 **遺物** 掘り込みが浅く、覆土中からの出土遺物は少ない。炉内に加曾利EⅢ式土器(4)が出土している。北壁際の床面からは、小形の深鉢(2)が出土した。この土器は、石棒を模した土製品とも考えられる。石器は、多孔石が出土している。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の住居と考えられる。

30号住居（第266・497図 PL96・200）

位置 895—880 **主軸** N—83°—E **形状** 卵形 **規模** 5.95m×4.73m×0.30m **覆土** 上層では、炭化物を含み、下層に淡色黒ボク土を含む。ゴボウの耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は6本検出された。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 出土遺物は少なく、覆土中より少量の阿玉台式土器が出土している。石器の出土も少なく石鏃が出土したのみである。 **所見** 出土遺物から阿玉台式期の遺構と考えられる。

31号住居（第267・497図 PL96・200）

位置 885—860 **重複** 34号住居 **主軸** — **形状** 掘り込みが無く、柱穴や敷石の状況から柄鏡形になると思われる。 **規模** — **覆土** 表土から浅く、耕作土を除去した段階で、敷石などが検出され、遺構確認面から掘り込みは、確認されなかった。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。敷石が住居の柱穴に沿って円形に検出された。柄の先端にも敷石の痕跡が見られた。柱穴は、円形に配置されている。 **炉** 河原石を使った石囲炉。西半分を耕作によって壊されている。焼土・炭化物が核にされた。 **遺物** 床面や柄部先端から加曾利EⅣ式土器が出土している。石器は、台石、石皿、石棒、多孔石や打製石斧、スクレイパーなどが出土している。 **所見** 柱穴や敷石の状況から柄鏡形の敷石住居で、出土遺物から加曾利EⅣ式期のものと考えられる。

34号住居（第268・497・498図 PL97・200・201）

位置 890—860 **重複** 31号住居 **主軸** N—25°—W **形状** 円形。西側では、掘り込みが確認出来なかった。ゴボウの耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **規模** 5.87m×4.90m×0.26m **覆土** 表土から浅いところで、遺構が確認された。上層で、白色軽石粒、炭化物や淡色黒ボク土、下層ではロームの

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

混入が多い。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、壁の内側をほぼ円形に廻る。 **炉** ほぼ中央部に埋甕炉が検出された。 **遺物** 覆土中や埋甕炉から加曾利EⅢ式の土器が出土している。石器は、石皿、多孔石、打製石斧などである。 **所見** 出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

37号住居（第269・498・499図 PL97・201）

位置 880—820 **重複** 13号住居 **主軸** N—57°—W **形状** 楕円形。遺構確認面からの掘り込みは検出されず、遺物の範囲から推定した。 **規模** (5.37)m×(4.68)m×—m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは確認されなかった。 **床面** 暗茶褐色土を床面としており、締まり弱くあまり硬くない。柱穴は確認されなかった。 **炉** 中央部に円礫による石囲炉。 **遺物** 掘り込みが無くほぼ床面から称名寺式土器が出土している。石器は、石皿・多孔石、打製石斧、スクレイパーなどが出土している。 **所見** 遺物の分布範囲と、炉の痕跡から住居跡として調査した。地山が暗茶褐色土中にあり柱穴は、検出されなかったが住居跡と推定する。出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

38号住居（第269・499図 PL97・201）

位置 895—815 **主軸** N—64°—E **形状** 楕円形。遺構確認面からの掘り込みは検出されず、遺物の範囲から推定した。 **規模** (5.40)m×(4.75)m×—m **覆土** 遺構確認面から湧水があり遺構の確認は困難であった。掘り込みは確認されなかった。 **床面** 暗茶褐色土を床面としており、締まり弱くあまり硬くない。柱穴は確認されなかった。 **炉** 中央部に円礫による石囲炉。焼土・炭化物が確認された。 **遺物** 掘り込みが無く床面近くから少量の称名寺式土器が出土している。 **所見** 遺物の分布範囲と、炉の痕跡から住居跡として調査した。地山が暗茶褐色土中で湧水もあり、柱穴は検出されなかったが住居跡と推定する。出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

40号住居（第270・499図 PL97・201）

位置 900—895 **主軸** N—44°—E **形状** 円形 **規模** 4.92m×4.90m×0.34m **覆土** 上層に白色軽石粒・炭化物、下層にローム粒多い。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、ほぼ円形になるように配置されている。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 出土遺物は少なく、覆土中から加曾利EⅢ式土器の小片、石器は、多孔石、石鏃、磨製石斧などが出土した。 **所見** 炉は検出されなかったが、掘り込みや柱穴が確認されたことから住居とした。出土遺物から加曾利EⅢ式期の遺構と考えられる。

41号住居（第271・272・500・501図 PL97・202）

位置 945—880 **主軸** N—12°—W **形状** 柄鏡形。掘り込みが浅く、壁の一部は確認出来なかったことから、敷石と遺物の範囲で推定した。 **規模** (7.90)m×(4.58)m×—m **覆土** 遺構確認面から浅く、白色軽石粒・ローム粒を含んでいた。 **床面** ローム層を床面として硬く締まっている。敷石と柱穴が重なるように円形に配置されている。張り出し部の縁にも敷石が検出された。 **炉** 床を皿状に掘り窪め南側に円礫を配置する。焼土・炭化物が堆積していた。 **遺物** 掘り込みが浅いため、覆土中からの遺物は少ない。敷石に混じって称名寺式、加曾利E式系統の土器が出土した。石器は、多孔石、石皿、台石、磨石、打製石斧、スクレイパー、石鏃、石錐など多量に出土している。 **所見** 柱穴や敷石の状況から柄

鏡形敷石住居で、出土遺物から称名寺式期の遺構と考えられる。

42号住居（第273・501図 PL97・202）

位置 930—885 **主軸** N—58°—W **形状** 円形 **規模** 4.08m×(4.03)m×0.10m **覆土** 遺構確認面からの掘り込みは浅く、白色軽石粒・炭化物・ローム粒を主体としている。**床面** ローム層を床面として硬く締まっている。柱穴は、円形に廻る。**炉** ほぼ中央部に細長い礫による石囲炉。炉の中央部には、ピットが掘り込まれ焼土・炭化物が堆積していた。**遺物** 覆土中から加曾利E I式の小片が出土した。石器は、凹石、磨石、打製石斧、石鏃などである。**所見** 出土遺物から加曾利E I式期の遺構と考えられる。

配石

本遺跡で調査当初に配石遺構としたものには、二種類ある。一つは、地山からの掘り込みがなく自然礫や多孔石、石皿などの石器を置いた遺構。もう一つは、掘り込みが浅く形状がはっきりしないが礫を並べているもので、敷石住居の可能性のある遺構である。これらの遺構の大半は、谷地部で湧水により確認が困難な場所にあった。遺構の概要は、次の通りである。

1号配石（第297・526図 PL98・215）

場所は、900—855グリッドにある。ローム地形が東側に傾斜し谷地にかかる変換点付近で検出された。耕作による短冊状の攪乱を受けている。谷に並行するように大型の河原石や多孔石、石皿などを並べている。降水後には、この配石遺構から湧水が見られた。出土土器は少なく、中・後期の小片が出土している。

2号配石（第298・526図 PL98・215）

場所は、865—835グリッド、調査区の東南端に検出された。あまが池の湧水で作られた谷地部にある。水が染み出ており、降雨後水没する低地帯である。敲石、多孔石が出土している。土器は、後期の小片が多い。1号配石に比べやや小振りの礫を並べている。

3号配石（第299・526図 PL98・215）

場所は、930—825グリッド、調査区北側で検出された。2号配石同様にあまが池の湧水で作られた谷地部にある。水が染み出ており、降雨後水没する低地帯である。大型の石皿や多孔石等や河原石などがまばらに置かれその間に小礫や土器片が出土した。土器は小片が多く後期が主体である。

4号配石（第300図 PL98）

場所は、910—860グリッド、ローム台地から谷地に変換する位置にある。耕作による短冊状の攪乱を受けている。規模は小さく、少数の自然礫などが置かれていた。

5号配石（第300・526・527図 PL98・215）

場所は、915—845グリッドにある。ローム地形が東側に傾斜した谷地部黒色土層中で検出された。遺構の掘り込みは不明で、礫の検出面を広げ掘り下げていったところ大型の多孔石や凹石、土器片などが集中して出土した。配石から南に2メートルほど離れたところに、配石とほぼ同じ面で礫と埋設土器を検出した。こ

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

の配石は、敷石住居の可能性もあるが、不規則な配列であることから住居とは捉えにくい。出土遺物は、多孔石や凹石、後期の土器である。埋設土器は、後期初頭のものである。

6号配石（第301・527・528図 PL98・215・216）

場所は、905—835グリッドにある。ローム地形が東側に傾斜した谷地部黒色土層中で検出された。南側を古代の住居が重複しており、壊されている。若干の掘り込みが認められた。覆土は、暗褐色土に白色軽石粒を含む土層を主体としている。掘り込みに沿って内側に小礫の列が廻る。小礫中に打製石斧などが混じっている。中央部には、やや大型の自然石が並び、南側では礫が環状に並ぶ。遺構の南側は張り出し状の掘り込みが見られ、礫も検出された。土器は、これらの配石とほぼ同じ面で称名寺式土器が検出された。調査当初配石遺構と認識して調査したが、炉や柱穴は検出されなかった。柄鏡形の敷石住居の可能性もある。

7号配石（第302・528・529図 PL98・216）

場所は、890—835グリッドにある。ローム地形が東側に傾斜した6号配石よりさらに谷地部の黒色土層中で検出された。卵形の掘り込みが確認された。覆土は、暗褐色土に鉄分が凝集した粒子が入っている。耕作による短冊状の攪乱を受けている。遺構のほぼ中央に円形に礫を並べており、この周辺から埋設された土器や大形破片の称名寺式土器が出土している。調査当初配石遺構と認識していた。柱穴は確認出来なかったものの、円形に並んだ礫は炉と考えられ、住居の可能性が高い。

8号配石（第303・529・530図 PL98・216・217）

場所は、910—825グリッドにある。ローム地形が東側に傾斜した7号配石よりさらに谷地部の黒色土層中で検出された。掘り込みの形状は不明である。配石の礫は、大型の自然石や多孔石、石皿、磨石などに混じって凹石や敲石が出土している。配石の南端では、称名寺式土器の埋設土器が検出された。また、土器片や小礫がこれらの周辺から多く出土している。7号配石と同様に柱穴等は確認されなかったが、敷石住居の可能性はある。

性格不明遺構（第304～311・531～538図 PL99・100・217～221）

4区谷地部で検出された遺構のうち、掘り込みが浅く遺構の形状不明のもので土器、石器等が集中して出土したものがある。これらを、性格不明遺構として扱った。これらの遺構は、いずれも谷地部の湧水のある部分から検出されたもので、僅かに掘り込みが分かるものもあったが、大部分は、遺構の形状や掘り込みなど確認出来ないものであった。

1号不明遺構は、20cm程の掘り込みが見られ、暗褐色土に鉄分を含む層が堆積していた。自然礫がまばらにありその中に土器片などが多量に入っていた。土器は、加曾利EIV～称名寺式土器を主体としたもので、手捏ね土器や耳飾りも見られた。石器は、多孔石や打製石斧の破損品、凹石などが出土している。2～4・6～10・13号の不明遺構についても浅い掘り込みがあり、石器の破損品や土器の小破片が多く出土している。11・12・14～16は、掘り込みは検出されず礫や土器片などが密集して出土している。5号不明遺構は3号配石遺構と重複していることから3号配石に伴うものと考えられる。

これらの遺構の検出された谷地は、土器包含層でもあり土器の出土が見られた。しかし、不明遺構の中は、遺構の外と遺物の出土量に差があり比較的集中して出土することから谷地全体に遺物が散乱するがその中で

も遺物を集中して廃棄した場所と考えられる。

本線Ⅳ区・県側道4区縄文時代遺構一覧表

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
本線	11号	住居	楕円形	N-56°-W	5.68	4.81	0.40	加曽利EⅢ・Ⅳ、称名寺、堀之内、阿玉台少量、土製円盤	905-820
本線	13号	住居	楕円形	N-28°-W	5.70	4.80	0.23	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺、堀之内、37号住居と重複	880-825
側道	14号	住居	楕円形か	N-54°-W	(5.84)	(4.75)	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	940-865
側道	15号	住居	楕円形	N-71°-E	5.58	4.49	—	阿玉台、勝坂、加曽利EⅠ・Ⅱ、称名寺、土製円盤	940-870
本線	16号	住居	不整形	—	—	—	—	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利EⅠ・Ⅱ、称名寺、土製円盤	920-865
側道	17号	住居	円形	N-60°-W	5.98	5.26	0.37	諸磯c、五領ヶ台、阿玉台、勝坂、加曽利E	930-850
本線	19号	住居	楕円形	N-53°-E	(8.45)	(7.31)	—	諸磯c、加曽利E、称名寺、堀之内	910-860
本線	21号	住居	不整形	—	—	—	0.32	諸磯c、五領ヶ台、阿玉台、勝坂、加曽利E	920-870
本線	22号	住居	柄鏡形	N-57°-W	7.15	4.63	0.25	加曽利E、称名寺、堀之内	880-860
側道	24号	住居	楕円形	—	—	—	—	諸磯c、加曽利EⅠ～Ⅳ	945-875
本線	27号	住居	楕円形	N-78°-W	6.90	6.33	0.19	加曽利EⅢ	895-860
本線	29号	住居	楕円形	N-75°-E	5.04	(4.82)	0.17	阿玉台、勝坂、加曽利EⅠ・Ⅲ、称名寺、堀之内少量	895-860
本線	30号	住居	卵形	N-83°-E	5.95	4.73	0.30	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利E	895-880
本線	31号	住居	柄鏡形	—	—	—	—	諸磯c、勝坂、加曽利EⅢ・Ⅳ、称名寺	885-860
本線	34号	住居	円形	N-25°-W	5.87	4.90	0.26	諸磯c、勝坂、加曽利EⅢ、31住と重複	890-860
本線	37号	住居	楕円形	N-57°-W	(5.37)	(4.68)	—	称名寺、堀之内、13号住居と重複	880-820
本線	38号	住居	楕円形	N-64°-E	(5.40)	(4.75)	—	加曽利EⅡ～Ⅳ、称名寺	895-815
本線	40号	住居	円形	N-44°-E	4.92	4.90	0.34	阿玉台、勝坂、加曽利EⅠ～Ⅲ	900-895
側道	41号	住居	柄鏡形	N-12°-W	(7.90)	(4.58)	—	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺	945-880
側道	42号	住居	円形	N-58°-W	4.08	(4.03)	0.10	加曽利EⅠ	930-885
本線	128号	土坑	楕円形	N-52°-E	3.40	2.53	0.43	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利EⅣ少量	895-870
本線	186号	土坑	楕円形	N-48°-W	1.76	(1.14)	0.48	加曽利E	925-875
側道	187号	土坑	楕円形	N-70°-E	2.05	1.62	0.42	阿玉台、勝坂、堀之内	945-870
本線	188号	土坑	不整形	N-61°-W	2.81	(1.43)	0.33	阿玉台、勝坂、加曽利EⅡ	920-875
本線	189号	土坑	円形	N-14°-E	1.48	(1.30)	0.45	阿玉台、勝坂、加曽利E	905-880
側道	190号	土坑	円形	N-3°-W	1.76	1.55	0.66	阿玉台、勝坂、加曽利E	945-875
側道	191号	土坑	長方形	N-61°-W	2.80	2.11	0.43	阿玉台、勝坂、加曽利E	930-845
本線	192号	土坑	楕円形	N-32°-E	1.83	1.24	0.32	加曽利EⅢ	900-865
本線	193号	土坑	楕円形	N-32°-E	1.80	1.50	0.36	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利E	900-870
本線	194号	土坑	楕円形	N-53°-E	1.43	1.04	0.21	諸磯c、阿玉台、勝坂	930-860
本線	195号	土坑	楕円形	N-60°-E	1.59	0.97	0.39	加曽利E	930-860
本線	196号	土坑	楕円形	N-47°-W	1.95	1.29	0.60	加曽利EⅢ、称名寺	930-870
本線	197号	土坑	円形	N-64°-W	4.81	3.79	0.36	諸磯c	885-870
本線	198号	土坑	不整形	N-62°-E	2.85	2.70	0.34	加曽利EⅢ、称名寺	900-865
本線	199号	土坑	楕円形	N-26°-W	2.00	1.61	0.19	加曽利EⅢ	905-860
本線	200号	土坑	円形	N-7°-E	2.21	1.99	0.68	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利EⅡ	910-860
本線	201号	土坑	円形	N-44°-W	1.76	1.50	0.29	加曽利E、堀之内	910-865
本線	202号	土坑	円形	N-22°-W	1.44	1.33	0.17	諸磯c、加曽利EⅢ	910-870
側道	203号	土坑	—	—	—	—	—	加曽利EⅣ、称名寺	930-855
本線	204号	土坑	長方形	N-78°-W	1.47	0.83	0.24	加曽利E	910-840
本線	205号	土坑	不整形	N-47°-E	2.18	1.71	0.65	加曽利EⅣ、称名寺	930-870
本線	207号	土坑	円形	N-41°-E	1.19	1.03	0.39	諸磯c、加曽利E	885-860
本線	208号	土坑	楕円形	N-71°-W	2.91	1.81	0.36	加曽利E、称名寺	885-855
側道	215号	土坑	楕円形	N-88°-E	2.00	—	0.56	—	940-855
本線	218号	土坑	不整形	N-90°	2.68	1.89	0.42	諸磯c、加曽利E、後期、蓋?	890-865
側道	222号	土坑	不整形	N-34°-E	2.22	2.09	0.29	阿玉台、勝坂、加曽利EⅠ	935-865
側道	223号	土坑	円形	N-22°-W	1.41	1.19	0.37	加曽利EⅣ、称名寺、堀之内	935-865
側道	227号	土坑	円形	N-1°-W	1.31	1.19	0.32	加曽利E、後期	935-860
本線	228号	土坑	楕円形	N-56°-W	2.98	1.56	0.19	加曽利EⅣ、称名寺	905-880
本線	229号	土坑	円形	N-46°-E	1.51	1.41	0.36	諸磯c	915-875
本線	230号	土坑	不整形	N-51°-W	1.48	0.90	0.39	—	900-875
本線	231号	土坑	円形	N-54°-W	0.99	0.78	0.47	加曽利E	905-880
本線	232号	土坑	楕円形	N-0°	1.26	1.01	0.47	加曽利E、称名寺	895-875
本線	233号	土坑	円形	N-43°-W	0.96	0.86	0.63	称名寺	900-875

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
側道	234号	土坑	不整形	N-57°-W	0.94	0.68	0.43	加曾利EIV、埋甕?	940-865
本線	235号	土坑	円形	N-19°-W	0.94	0.86	0.47		915-880
本線	236号	土坑	楕円形	N-89°-W	1.00	0.80	0.29	後期	915-875
本線	237号	土坑	楕円形	N-54°-E	0.93	0.75	0.20		910-870
側道	238号	土坑	楕円形	N-40°-W	1.82	1.09	0.17	後期(堀之内?)	940-870
本線	239号	土坑	円形	N-53°-E	0.93	0.90	0.41		905-865
本線	240号	土坑	円形	N-25°-E	(0.46)	(0.40)	0.09		920-860
本線	241号	土坑	楕円形	N-15°-E	0.87	0.65	0.17	後期	915-860
側道	242号	欠							
本線	243号	土坑	不整形	N-33°-E	(0.99)	0.79	0.21		920-865
本線	244号	土坑	不整形	N-33°-E	(1.56)	(1.16)	0.22		920-865
本線	245号	土坑	楕円形	N-68°-W	1.40	0.93	0.24		920-865
本線	246号	土坑	円形	N-36°-W	1.62	1.36	0.16	加曾利E、称名寺、堀之内	915-820
本線	247号	土坑	楕円形	N-31°-E	1.15	0.90	0.20		900-875
本線	248号	土坑	円形	N-53°-E	1.09	1.01	0.30		900-870
本線	249号	土坑	楕円形	N-68°-W	1.53	1.23	0.34		905-870
本線	250号	土坑	楕円形	N-76°-W	(2.44)	2.18	0.15		915-865
本線	251号	土坑	長方形	N-40°-W	1.37	1.04	0.41	加曾利EIV、称名寺	905-875
本線	252号	土坑	楕円形	N-22°-E	1.88	1.30	0.55		885-880
本線	253号	土坑	楕円形	N-64°-W	1.73	1.44	0.37		895-855
本線	254号	土坑	円形	N-18°-E	—	1.60	0.41	阿玉台、勝坂、加曾利E、堀之内	925-865
本線	255号	土坑	不明	—	—	—	—		
本線	256号	土坑	楕円形	N-22°-E	1.47	0.96	0.28		925-870
本線	257号	土坑	不整形	N-40°-W	1.51	1.04	0.53	堀之内	900-875
本線	258号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利EIV	900-865
本線	259号	土坑	楕円形	N-49°-E	0.69	0.55	0.20		880-850
本線	260号	土坑	円形	N-17°-E	0.63	0.55	0.37	堀之内	900-875
本線	261号	土坑	円形	N-73°-W	0.97	0.89	0.45	加曾利E I・II	900-865
本線	262号	土坑	不整形	N-30°-W	0.77	0.56	0.15		900-875
側道	263号	土坑	円形	N-72°-W	0.72	0.65	0.47		935-840
本線	264号	土坑	不整形	N-49°-W	1.34	1.04	0.50	後期	925-865
本線	265号	土坑	不整形	N-81°-E	3.01	2.90	0.19	加曾利E III	930-865
本線	266号	土坑	不整形	—	—	—	0.37	称名寺、堀之内	930-865
本線	268号	土坑	楕円形	N-66°-E	0.70	0.51	0.20	加曾利EIV	900-872
側道	269号	土坑	楕円形	N-32°-E	1.85	1.50	0.16	加曾利E III・IV	940-860
側道	271号	土坑	楕円形	N-11°-W	1.07	0.80	0.23		935-860
側道	272号	土坑	楕円形	N-65°-E	1.04	0.83	0.28	阿玉台、勝坂、加曾利E	935-860
本線	274号	土坑	円形	N-50°-W	1.00	0.98	0.21	加曾利EIV	880-880
本線	275号	土坑	円形	N-22°-W	1.21	1.21	0.32	加曾利E、称名寺	895-845
本線	276号	土坑	円形	N-90°	1.09	0.93	0.38	加曾利E、称名寺	930-865
本線	277号	土坑	円形	N-34°-W	1.23	1.08	0.54	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺	930-865
側道	278号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利E III	935-855
本線	279号	土坑	楕円形	N-51°-E	1.01	0.81	0.57	加曾利E	930-865
本線	280号	土坑	円形	N-59°-W	0.86	0.73	0.32	阿玉台、勝坂	935-875
本線	282号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利EIV	880-835
側道	283号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利EIV	930-855
側道	284号	土坑	不明	—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利EIV	930-855
側道	286号	土坑	不整形	N-36°-E	1.42	0.64	0.25	加曾利E	935-860
本線	287号	土坑	円形	N-87°-E	0.85	0.80	0.37	加曾利E、称名寺	930-865
本線	288号	土坑	方形	N-16°-E	1.03	0.92	0.37	加曾利E	890-860
本線	290号	土坑	円形	N-19°-W	1.00	0.84	0.41	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	930-865
側道	291号	土坑	円形	N-64°-E	0.83	0.70	0.39	加曾利E	940-865
本線	292号	土坑	円形	N-4°-W	1.03	0.97	0.40	諸磯c、興津	890-880
本線	293号	土坑	円形	N-59°-E	1.19	1.04	0.31		890-880
側道	294号	土坑	円形	N-78°-W	1.11	0.97	0.68	阿玉台、勝坂、加曾利E	945-875
側道	295号	土坑	方形	N-0°	(0.76)	0.63	0.28	阿玉台、勝坂	940-875
側道	296号	土坑	楕円形	N-0°	—	0.80	0.25		940-875
本線	297号	土坑	円形	N-44°-E	1.12	1.03	0.16	加曾利EIV	895-870
本線	302号	土坑	円形	N-74°-W	0.90	0.87	0.58	諸磯c、加曾利E	890-870
本線	304号	土坑	楕円形	N-69°-E	1.83	1.19	0.19	加曾利E、称名寺、堀之内	905-830
本線	305号	土坑	不整形	N-75°-W	1.75	0.90	0.15	加曾利E	910-850
側道	306号	土坑	円形	N-45°-W	1.35	1.23	0.23	阿玉台、勝坂、加曾利E III、称名寺、堀之内	920-825
側道	307号	土坑	方形	N-17°-E	2.56	—	0.15	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺	920-810
本線	308号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利EIV	915-820
本線	309号	土坑	円形	N-90°	(1.90)	1.63	0.15	加曾利EIV、称名寺	905-820
本線	310号	土坑	円形	N-24°-E	2.74	(2.36)	0.11	加曾利EIV、称名寺、堀之内	915-815

第1節 縄文時代の遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
側道	311号	土坑	楕円形	N-73°-W	2.63	1.80	0.18	加曾利E、称名寺	920-820
本線	312号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利E、称名寺	885-835
本線	313号	土坑	円形	N-66°-W	1.42	1.39	0.15	加曾利E	905-815
本線	314号	土坑	不明	—	—	—	—	加曾利E、称名寺	855-835
側道	315号	土坑	長方形	N-43°-W	2.03	1.56	0.22		930-840
側道	316号	土坑	円形	N-73°-W	0.75	0.63	0.33	勝坂、加曾利E I	930-840
側道	317号	土坑	不明	—	—	—	—		925-825
側道	318号	土坑	楕円形	N-0°	1.13	0.85	0.14	勝坂	930-840
側道	319号	土坑	不明	—	—	—	—		925-835
本線	320号	土坑	不明	—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利E IV	905-830
側道	321号	土坑	不明	—	—	—	—		930-835
本線	322号	土坑	不明	—	—	—	—	後期	925-840
側道	323号	土坑	不明	—	—	—	—	後期	930-835
本線	324号	土坑	不明	—	—	—	—	勝坂	905-850
本線	325号	土坑	円形	N-58°-E	1.01	0.96	0.39	堀之内	915-860
本線	326号	土坑	円形	N-76°-W	1.23	1.22	0.56	加曾利E IV	905-860
本線	327号	土坑	楕円形	N-33°-W	1.10	0.83	0.40		915-860
本線	328号	土坑	不整形	N-35°-W	0.88	0.87	0.81	加曾利E IV	900-860
側道	329号	土坑	円形	N-40°-W	1.17	1.08	0.17	加曾利E IV	925-830
本線	330号	土坑	楕円形	N-68°-E	1.46	1.12	0.16	称名寺	910-820
本線	331号	土坑	不明	—	—	—	—	勝坂	890-845
本線	332号	土坑	円形	N-85°-W	1.18	1.11	0.34	諸磯c	890-865
側道	333号	土坑	円形	N-43°-E	0.89	0.85	0.42		935-850
側道	334号	土坑	楕円形	N-54°-W	1.53	1.13	0.16	堀之内	945-870
本線	335号	土坑	不整形	N-1°-E	1.27	0.87	0.45		930-865
側道	336号	土坑	楕円形	N-27°-E	—	1.21	0.23	勝坂	945-875
側道	337号	土坑	長方形	N-6°-W	1.72	0.78	0.17		940-870
側道	338号	土坑	楕円形	N-62°-W	1.64	(0.44)	0.66	阿玉台	945-875
本線	339号	土坑	円形	N-59°-W	1.25	1.21	0.56	加曾利E IV、称名寺	910-885
本線	340号	土坑	不整形	N-51°-W	1.88	1.74	0.51	諸磯c、勝坂	915-890
本線	341号	土坑	不整形	N-50°-W	2.21	2.06	0.20		930-885
本線	342号	土坑	楕円形	N-61°-W	1.55	1.13	0.33	阿玉台、勝坂、称名寺	915-885
側道	343号	土坑	方形	N-3°-E	1.99	1.69	0.17	加曾利E IV、称名寺	935-880
本線	345号	土坑	長方形	N-5°-W	1.38	0.90	0.33	称名寺	930-870
本線	346号	土坑	不整形	N-55°-W	2.25	1.73	0.40	加曾利E	910-890
側道	347号	土坑	不整形	N-31°-E	2.56	1.99	1.13	阿玉台、勝坂、加曾利E I	940-880
本線	348号	土坑	楕円形	N-12°-E	1.43	0.75	0.73	加曾利E IV、称名寺	910-840
本線	349号	土坑	円形	N-83°-E	1.59	1.36	0.79	加曾利E、称名寺	915-885
本線	350号	土坑	円形	—	—	—	—	加曾利E	915-885
本線	351号	土坑	円形	—	—	—	0.66	加曾利E	915-885
本線	352号	土坑	不整形	N-48°-W	2.09	1.19	0.36		930-885
本線	353号	土坑	楕円形	N-55°-W	1.25	0.93	0.41	加曾利E	925-890
本線	354号	土坑	楕円形	N-80°-W	1.39	1.05	0.37		910-890
本線	355号	土坑	楕円形	N-16°-W	0.89	0.72	0.52	加曾利E	900-895
本線	357号	土坑	円形	N-72°-W	(0.98)	0.89	0.42	加曾利E	910-885
本線	358号	土坑	楕円形	N-76°-E	1.48	1.23	0.37	阿玉台、勝坂、加曾利E	915-885
本線	359号	土坑	楕円形	N-50°-W	1.50	(1.25)	0.27	加曾利E	910-885
本線	360号	土坑	円形	N-56°-E	(1.03)	1.02	0.46	加曾利E	910-885
本線	361号	土坑	円形	N-68°-W	1.11	1.00	0.48	勝坂	910-890
本線	362号	土坑	円形	N-83°-W	1.10	(1.00)	0.43		910-890
本線	363号	土坑	円形	N-13°-E	1.13	—	0.37	諸磯c、加曾利E、称名寺	915-890
本線	364号	土坑	円形	N-4°-W	1.33	1.23	0.31	加曾利E	915-890
本線	365号	土坑	不整形	N-27°-E	1.52	(1.28)	0.37	加曾利E IV	915-885
本線	366号	土坑	円形	N-60°-W	0.75	0.68	0.50	阿玉台、勝坂	910-890
側道	367号	土坑	円形	N-24°-W	1.23	1.12	0.67	阿玉台、勝坂	940-880
側道	368号	土坑	長方形	N-23°-W	2.38	1.28	0.88		930-855
本線	369号	土坑	楕円形	N-18°-E	0.93	0.74	0.26	称名寺	915-885
側道	370号	土坑	円形	N-50°-E	1.24	1.19	0.76		940-880
側道	371号	土坑	円形	N-10°-E	1.21	1.14	0.60	阿玉台、加曾利E	945-880
側道	372号	土坑	円形	N-45°-W	(1.33)	1.16	0.75	阿玉台、勝坂、加曾利E I	945-880
側道	373号	土坑	円形	N-10°-W	0.91	0.88	0.22	加曾利E	945-880
側道	374号	土坑	楕円形	N-73°-E	1.60	1.06	0.25	阿玉台、勝坂、加曾利E	950-880
本線	375号	土坑	円形	N-59°-E	1.14	1.08	0.18	加曾利E III	890-890
側道	376号	土坑	円形	N-48°-W	1.09	0.96	0.58	阿玉台、勝坂、加曾利E	945-880
本線	377号	土坑	円形	N-52°-E	0.81	0.72	0.21		885-895
側道	378号	土坑	楕円形	N-58°-E	1.27	(1.00)	0.20	阿玉台、勝坂	945-880

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
側道	380号	土坑	不整形	N-17°-W	1.56	1.22	0.52	称名寺	945-880
側道	381号	土坑	楕円形	N-68°-E	1.09	0.78	0.55		950-880
本線	384号	土坑	円形	N-31°-E	0.86	0.82	0.14		890-875
本線	1号	配石		—	—	—	—	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	900-855
本線	2号	配石		—	—	—	—	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	865-835
側道	3号	配石		N-0°	5.44	—	—	勝坂、阿玉台、加曾利E、称名寺、堀之内	930-825
本線	4号	配石		—	—	—	—		910-860
本線	5号	配石		N-0°	4.48	3.77	0.16	加曾利E、称名寺、堀之内	915-845
本線	6号	配石		—	—	—	0.16	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	905-835
本線	7号	配石		N-39°-W	5.72	4.49	0.12	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内、三十稲場	890-835
本線	8号	配石		N-57°-W	(5.04)	(3.64)	—	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	910-825
側道	1号	不明遺構		N-61°-E	(5.06)	(3.97)	0.16	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	905-820
側道	2号	不明遺構		N-66°-W	3.07	2.35	0.18	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	910-815
側道	3号	不明遺構		N-86°-W	(3.63)	(3.60)	0.17	五領ヶ台、阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	925-830
側道	4号	不明遺構		N-79°-E	4.82	3.35	—	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	920-825
側道	5号	不明遺構		N-20°-W	3.67	—	0.09	加曾利E、称名寺、堀之内	930-830
側道	6号	不明遺構		N-83°-W	3.21	2.10	0.14	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	930-835
側道	7号	不明遺構		N-71°-W	2.21	1.79	0.10	阿玉台、勝坂、加曾利E	930-840
側道	8号	不明遺構		N-1°-E	—	5.08	—	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曾利E、(称名寺、堀之内)	935-835
側道	9号	不明遺構		N-43°-E	4.00	3.09	0.11	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	925-845
本線	10号	不明遺構		N-9°-W	(5.48)	5.04	0.11	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	915-825
本線	11号	不明遺構		—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	920-845
側道	12号	不明遺構		—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	915-815
側道	13号	不明遺構		N-66°-E	3.21	3.03	0.17	加曾利E、称名寺、堀之内	925-810
本線	14号	不明遺構		—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	905-820
本線	15号	不明遺構		—	—	—	—	加曾利E	910-835
側道	16号	不明遺構		—	—	—	—	勝坂、加曾利E、称名寺	915-820

第2節 古墳時代～中・近世の遺構

1 遺構の概要

Ⅳ・4区の地形は、ローム台地から遺跡の東側にある谷へ向かって急傾斜する。Ⅳ・4区の東半分ほどは、谷の堆積層になり、湧水層が見られた。Ⅳ・4区の前古墳時代～近代の遺構は、西側で現地地表から遺構の確認面までが浅くなり、耕作のため削平されている。調査区の西側ローム台地上には、古代～近代の遺構が多く検出され、谷地部に古墳時代前期の住居跡などが検出された。

Ⅳ・4区から検出された古墳時代～近代の遺構は、近世～近代のものと考えられる土坑194基、溝9条、その他耕作に伴う溝・耕作痕などである。中・近世面は、遺構確認面が表土から浅く、耕作地であったため攪乱を多分に受けており、遺構の残存状況はあまり良くない。

土坑の形状は、長方形、正方形、楕円形、不整形などが見られる。形状により、その機能に違いが考えられる。長方形や正方形に近い形状のものは遺物がほとんどなく、掘り込みがしっかりしていて近世～近代の貯蔵用の土坑と考えられる。掘り込みの浅い楕円形状の土坑と不整形の土坑については、植物の根痕も考えられる他、用途不明である。

1号溝は、確認面からの掘り込みが60cm程あり、断面が薬研形をしているものであった。遺跡を南北に貫く。底面が平坦で整っていることから水路ではなく、地割りの溝と考えられるが性格は不明である。時期を示す遺物は出土していないが、覆土の堆積状況から中世以降のものと考えられる。その他、幅の狭く浅い溝が検出されている。これらは、畑の地割りや耕作痕である。

古代では、古墳時代前期の石田川期の住居15軒、古墳時代後期3軒、奈良時代の住居2軒が、調査区の南東寄りにまとまって検出された。石田川期の住居からは、S字口縁の台付甕、壺、埴、高坏等一揃いの土器が出土し、時期が特定できる。掘立柱建物は、3間×2間が2棟、2間×1間が1棟検出された。掘立柱建物の時期を特定できる遺物が出土していないが、土層の堆積状況から奈良時代頃のものとして推定される。

2 検出された遺構

1号住居（第312・546図 PL112・225）

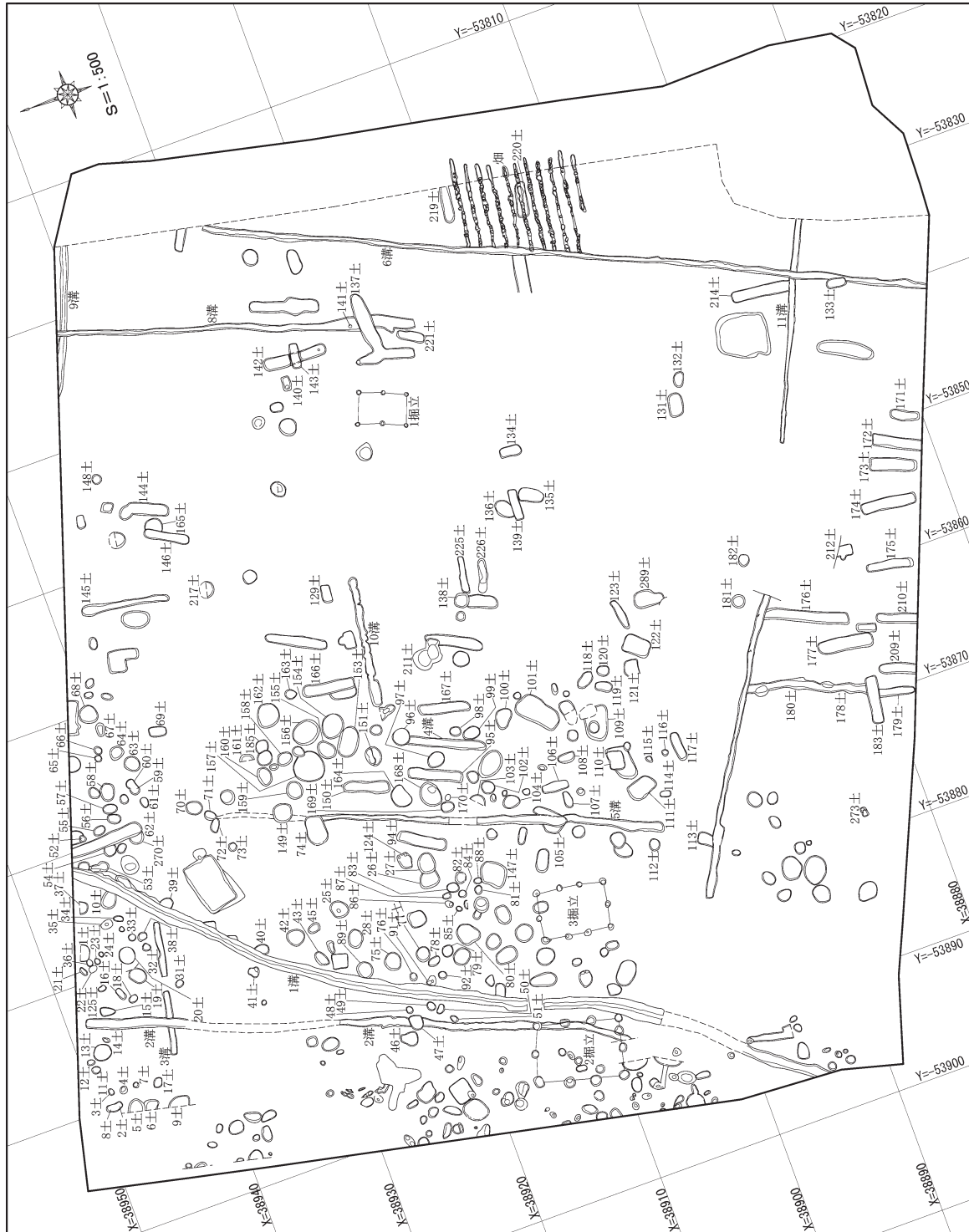
位置 920—865 **主軸** N—22°—E **形状** 方形 **規模** 4.70m×4.13m×0.43m **覆土** As-Cを含む暗褐色土にローム粒、炭化物を含む。床周辺に炭化材、灰、焼土粒が多く堆積していた。 **床面** ロームブロックを含む貼り床。凹凸は少なく平坦である。 **周溝** なし。 **柱穴** 南東を除く隅と南壁中央に掘り方の浅い径50～60cmの柱穴が検出された。 **貯蔵穴** 南東隅に100cm×60cmの楕円形である。 **炉** 焼土を4ヶ所確認した。いずれも住居中央を外したところに焼土ブロック、炭化物が浅く堆積していた。 **掘り方** 幅80cm、深さ20cm程の溝を壁際に廻るように掘り中央を島状に残す。北西隅に床下土坑を持つ。 **遺物** 壁周辺には、家屋部材の炭化物が検出された。床直上からは、S字口縁の台付甕が出土している。その他、小形の埴、高坏の坏部、壺口頸部などが出土した。 **所見** 炭化材等があることから焼失家屋と思われる。出土遺物から古墳時代前期、石田川期と考える。

2号住居（第313・546・547図 PL113・225）

位置 895—860 **主軸** N—42°—W **形状** 長方形 **規模** 5.12m×4.30m×0.20m **覆土** As-Cを含む暗褐色土。 **床面** 耕作により短冊状に攪乱を受けている。ロームブロックを含む10cm程の貼り

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

床。凹凸が無く平坦である。 周溝 なし。 柱穴 各壁隅に径30~50cm、深さ20cm程の柱穴が検出された。 貯蔵穴 径70cm、深さ40cmの土坑が中央東壁寄りに検出された。 炉 北壁寄りの柱穴間に2ヶ所の焼土・炭化物の範囲を検出した。 遺物 攪乱のため出土遺物は少ない。S字口縁の台付甕が覆土中から出土している。 所見 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考える。



第99図 本線IV区・県側道4区中・近世面全体図

3号住居 (第313図 PL113)

位置 930-865 主軸 N-76°-W 形状 方形 規模 4.45m×4.15m×0.20m 覆土 軽石粒を含む茶褐色土を基本とする。 床面 ローム漸移層を床面としてやや凹凸のある床である。 周溝 なし。 柱穴 検出されなかった。 竈 残存状態は良くない。僅かに粘土で固めた袖部の痕跡が認められた。北壁に煙道部が伸びる。 遺物 覆土中から極小の土師器片が極少量出土したが図示できるもの



第100図 本線IV区・景側道4区古墳～平安時代面全体図

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

はなかった。 **所見** 時期を特定できるものが無く、遺構の形態からおそらく古墳時代終末以降のものと考えられる。

4号住居 (第314・547・548図 PL113・114・225・226)

位置 875—845 **主軸** N—49°—E **形状** 方形 **規模** 6.35m×6.32m×0.44m **覆土** As-Cを含む暗褐色土にローム粒、炭化物を含む。床面近くからは、炭化材や灰、粘土などが検出されている。**床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** 検出されなかった。 **柱穴** 径30～50cm、深さ30～40cmの柱穴を4本検出した。 **炉** 4ヶ所確認した。いずれも皿状に窪む所に焼土・炭化物が堆積していた。**遺物** 本住居からの出土遺物は多い。北壁際中央に、甕が3個体並べた状態で出土している。南隅には、壺が出土している。その他、高坏、埴、小形鉢等が出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

5号住居 (第315・548・549図 PL114・226)

位置 880—855 **主軸** N—53°—W **形状** 方形 **規模** 6.70m×6.27m×0.47m **覆土** As-Cを含む暗褐色土にローム粒、炭化物を含む。 **床面** 暗褐色土にローム、粘土を混ぜて10cm程の貼り床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** 検出されなかった。 **柱穴** 径50cm、深さ50cm程の柱穴が4本検出された。部分的に径20cm程の柱痕が残っていた。 **貯蔵穴** 東壁際北寄りと北隅に径60cm程の貯蔵穴が検出された。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 大形の甕などは、覆土中から破片で出土した。比較的小形の器種のもが多く、壁際の覆土中から埴、高坏、台付甕の脚部等が出土している。特に台付甕の脚部の量が多い。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

6号住居 (第316図 PL115)

位置 835—860 **主軸** N—82°—W **形状** 方形 **規模** 4.43m×3.34m×0.14m **覆土** 表土からの攪乱が多く、遺構検出面からの掘り込みは浅いものとなっていた。軽石粒を含む茶褐色土を基本とする。 **床面** ローム漸移層を床面としている。凹凸は少なく平坦である。一部に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **竈** 残存状況は良くなく、燃焼部や煙道部に僅かに焼土・炭化物が認められた。竈の構築材などは検出できなかった。 **遺物** 覆土中から極小の土師器片が極少量出土したが図示できるものはなかった。 **所見** 時期を特定できるものが無く、遺構の形態からおそらく古墳時代終末以降のものと考えられる。

7号住居 (第316図 PL115)

位置 930—860 **主軸** N—76°—W **形状** 横長の長方形 **規模** 5.42m×4.05m×0.13m **覆土** 表土からの攪乱が多く、遺構検出面からの掘り込みは浅いものとなっていた。軽石粒を含む茶褐色土を基本とする。 **床面** ローム漸移層を床面としている。凹凸は少なく平坦である。一部に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **竈** 残存状況は良くなく、燃焼部や煙道部に僅かに焼土・炭化物が認められた。竈の構築材などは検出できなかった。 **遺物** 覆土中から極小の土師器

片が極少量出土したが図示できるものはなかった。 **所見** 時期を特定できるものが無く、遺構の形態からおそらく古墳時代終末以降のものと考えられる。

8号住居（第317・549～551図 PL115・226・227）

位置 905—840 **主軸** N—71°—W **形状** 方形 **規模** 6.20m×5.53m×0.58m **覆土** 掘り込みは深く、As-Cを含む黒色土を主体とする。床面直上には、柱などの炭化材や焼土などが検出された。
床面 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。
周溝 なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 北東隅に110cm×130cmの楕円形。 **炉** ほぼ中央に棒状の礫を置いた炭化物・焼土などを含む炉が検出された。 **遺物** 本住居からの出土遺物は多い。埴、小形壺、壺、小形鉢、S字口縁の台付甕等が出土している。また、手捏ね土器や舟形土製品が出土した。
所見 床面に柱の炭化材や焼土、灰などが散っていることから焼失家屋と考えられる。出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

9号住居（第318・551・552図 PL115・227・228）

位置 895—830 **主軸** N—80°—W **形状** 東西に長い長方形 **規模** 7.82m×6.47m×0.25m **覆土** 掘り込みが浅い。黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土にローム、粘土を混ぜて床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** S字口縁の台付甕の破片が数点覆土中から出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

10号住居（第319・552・553図 PL115・228）

位置 905—820 **重複** 南北に溝によって切られている。 **主軸** N—77°—W **形状** 東側に傾く菱形 **規模** 5.42m×4.93m×0.17m **覆土** 黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。後世の溝により一部攪乱を受けている。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 住居のほぼ中央部からS字口縁の台付甕や高坏が出土している。その他、南西隅からもS字口縁の台付甕がまとまって出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

12号住居（第319・553図 PL115・228）

位置 880—825 **主軸** N—42°—W **形状** やや南側が小さくなる台形 **規模** 4.95m×4.32m×0.20m **覆土** 黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 出土遺物は少なく、埴が覆土中から出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

18号住居（第320・554図 PL116・229）

位置 925—850 **主軸** — **形状** 攪乱を受けているため平面形ははっきりしないがおそらく長方形になると思われる。 **規模** — **覆土** 遺構確認面からの掘り込みが浅く確認出来なかった。 **床面** ローム漸移層を床面としている。一部に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **竈** 攪乱が多く竈の構築材などは残っておらず、煙道部と燃焼部を検出した。床面は焼けており焼土・炭化物が堆積していた。 **遺物** 竈周辺から坏が出土している。 **所見** 出土遺物から奈良時代の住居と考えられる。

20号住居（第320・554図 PL116・229）

位置 890—820 **主軸** N—10°—E **形状** 南壁は調査区外にある。方形と思われる。 **規模** (6.58)m×—m×—m **覆土** 遺構面が削平されており、遺構確認面からの掘り込みは、ほとんど無い。黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 北西隅から台付甕が出土している。その他、埴、壺の破片などが出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

23号住居（第321・554図 PL229）

位置 880—875 **主軸** N—24°—W **形状** (4.2)m×3.35m×0.13m。東側の一部を攪乱により壊されているが東西に長軸のある長方形を呈する。 **規模** 6.07m×—m×0.75m **覆土** 暗褐色土にAs-C軽石粒が混じる。 **床面** ローム面を床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に床の硬化面が見られる。中央部に土坑が見られる。耕作により短冊状に攪乱を受けているため状態は良くない。 **周溝** 検出されなかった。 **柱穴** 東壁、北壁寄りに2本検出された。 **貯蔵穴** なし。 **竈** なし。 **遺物** 高坏、甕高台部などが出土している。 **所見** 耕作による攪乱が多く、住居の残りは悪いが僅かに出土した遺物から古墳時代前期のものと考えられる。

25号住居（第321・555図 PL116・229）

位置 905—825 **主軸** N—87°—W **形状** 菱形に近い長方形 **規模** 5.45m×4.35m×0.20m **覆土** 掘り込みが浅く、僅かに覆土中の黒色土にAs-Cを含む土が堆積していた。 **床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。やや凹凸があり、中央部が高くなっている。部分的に硬化面が認められる。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中から、壺、台付甕が出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

26号住居（第322・556図 PL116・230）

位置 865—840 **主軸** N—55°—E **形状** 南壁の一部が調査区外にある。方形。 **規模** —m×6.14m×0.53m **覆土** 黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土に粘土を混ぜて床面としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 北東隅の床面から高坏が出土している。その他、S字台付甕や脚部等も出土。その他床面から、礫が検出されている。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川

期の住居と考えられる。

32号住居（第322・557図 PL116・230）

位置 890—845 **主軸** N—77°—W **形状** 東西に長い長方形 **規模** 4.82m×4.17m×0.15m
覆土 遺構検出面からの掘り込みが浅く、また攪乱を受けているため覆土の堆積状況は良くない。黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。若干の柱の炭化材が検出された。 **床面** 暗褐色土にローム、粘土を混ぜて床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中から埴やS字台付甕の脚部等が出土した。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

35号住居（第323・557図 PL116・230）

位置 865—830 **主軸** N—25°—E **形状** 東側に傾斜がきつく確認出来なかった。方形になると思われる。 **規模** 4.20m×—m×0.08m **覆土** 掘り込みが浅いが、暗褐色土にAs-Cが混じる土が堆積している。 **床面** 暗褐色土にローム、粘土を混ぜて床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中からS字台付甕の破片が出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

36号住居（第323・557図 PL116・230）

位置 910—810 **主軸** N—13°—E **形状** 東壁は調査区外にある。方形になると思われる。 **規模** 4.02m×—m×—m **覆土** 遺構検出面からの掘り込みが浅く覆土の堆積状況は良くない。黒色土、暗褐色土にAs-Cが混じる。 **床面** 暗褐色土にローム、粘土を混ぜて床としている。凹凸が少なく平坦である。部分的に硬化面が認められた。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **炉** 検出されなかった。 **遺物** 覆土中からS字台付甕の破片が出土している。 **所見** 出土遺物から古墳時代前期、石田川期の住居と考えられる。

43号住居（第323・324・557図 PL117・230）

位置 890—855 **主軸** N—79°—W **形状** 東西に長い長方形 **規模** 4.63m×3.27m×0.45m
覆土 褐色土にローム粒、炭化物を含む土を主体としている。 **床面** ローム面を床面としている。凹凸が少なく平坦である。全体に硬化している。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** なし。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 袖の一部を南北に攪乱を受けている。袖、燃焼部を壁の外側に作り出している。袖の一部が住居内にあり、粘土により作られていた。 **遺物** 遺物量は少なく、竈の近くの床面から坏が出土している。 **所見** 出土遺物から奈良時代の住居と考えられる。

44号住居（第324図 PL117）

位置 880—895 **主軸** N—72°—W **形状** 大部分が遺構外にある。方形或いは長方形になると思われる。 **規模** 6.07m×—m×0.47m **覆土** As-Bを含む砂質土。 **床面** ローム面を床面としている。凹凸が少なく平坦である。全体に硬化している。耕作により短冊状に攪乱を受けている。 **周溝** 現

第5章 本線IV区・側道4区 検出された遺構

状で南壁際にある。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴 検出されなかった。竈 検出されなかった。遺物 遺物の出土無し。所見 出土遺物が無く、確定は出来ないが、覆土が古代の住居とは異なりAs-Bの砂質土を含むことから中世以降のものと思われる。床の形状などが17号不明遺構としたものに似ている。

IV・4区古墳時代～中・近世の遺構一覧表

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
本線	1号	住居	方形	N-22°-E	4.70	4.13	0.43	諸磯c、加曾利E、称名寺	920-865
本線	2号	住居	長方形	N-42°-W	5.12	4.30	0.20	加曾利E、称名寺	895-860
側道	3号	住居	方形	N-76°-W	4.45	4.15	0.20	加曾利E、称名寺	930-865
本線	4号	住居	方形	N-49°-E	6.35	6.32	0.44	加曾利E	875-845
本線	5号	住居	方形	N-53°-W	6.70	6.27	0.47	諸磯c、加曾利E	880-855
側道	6号	住居	方形	N-82°-W	4.43	3.34	0.14	諸磯c	835-860
側道	7号	住居	長方形	N-76°-W	5.42	4.05	0.13	諸磯c	930-860
本線	8号	住居	方形	N-71°-W	6.20	5.53	0.58	諸磯c	905-840
本線	9号	住居	長方形	N-80°-W	7.82	6.47	0.25	諸磯c	895-830
本線	10号	住居	菱形	N-77°-W	5.42	4.93	0.17	諸磯c	905-820
本線	12号	住居	台形	N-42°-W	4.95	4.32	0.20	加曾利E III・IV、称名寺、堀之内、阿玉台	880-825
本線	18号	住居	長方形か	—	—	—	—	加曾利E他	925-850
本線	20号	住居	方形か	N-10°-E	(6.58)	—	—	加曾利E他	890-820
本線	23号	住居	長方形	N-24°-W	6.07	—	0.75	加曾利E	880-875
本線	25号	住居	長方形か	N-87°-W	5.45	4.35	0.20	加曾利E	905-825
本線	26号	住居	方形	N-55°-E	—	6.14	0.53	加曾利E	865-840
本線	32号	住居	長方形	N-77°-W	4.82	4.17	0.15	加曾利E	890-845
本線	35号	住居	方形	N-25°-E	4.20	—	0.08	加曾利E	865-830
本線	36号	住居	方形	N-13°-E	4.02	—	—	—	910-810
本線	43号	住居	長方形	N-79°-W	4.63	3.27	0.45	—	890-855
本線	44号	住居	方形か	N-72°-W	6.07	—	0.47	—	880-895
本線	1号	掘立		N-22°-E	3.80	2.46	—	—	905-835
本線	2号	掘立		N-17°-E	6.86	4.56	—	—	910-885
本線	3号	掘立		N-10°-E	5.48	3.81	—	—	905-875
本線	17号	不明遺構		N-75°-W	5.79	4.79	0.59	—	900-885
本線	1	溝			1.26	0.22	0.60	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曾利E、称名寺、堀之内	
本線	2	溝			0.95	0.65	0.25	加曾利E	
本線	3	溝			0.51	0.40	0.07	加曾利E	
本線	4	溝			0.80	0.54	0.12	—	
本線	5	溝			0.13	0.18	0.15	加曾利E	
本線	6	溝			0.13	0.08	0.18	諸磯～加曾利E	
本線	7	溝			0.48	0.36	0.10	諸磯～加曾利E	
本線	8	溝			0.23	0.19	0.11	加曾利E、石田川	
側道	9	溝			0.50	0.22	0.27	加曾利E	
本線	10	溝			0.69	0.64	0.32	加曾利E	
本線	11	溝			0.50	0.40	0.36	加曾利E	
本線	12	溝						加曾利E	
本線	1	畑							
側道	1号	土坑	方形か	N-70°-W	1.34	—	0.42	諸磯c、勝坂、加曾利E	945-865
側道	2号	土坑	長方形	N-70°-E	0.57	—	0.18	—	945-880
側道	3号	土坑	楕円形	N-88°-E	0.53	0.42	0.19	加曾利E	945-875
側道	4号	土坑	楕円形	N-53°-W	0.63	0.58	0.34	加曾利E	945-875
側道	5号	土坑	長方形か	N-74°-W	—	1.35	0.21	加曾利E	945-880
側道	6号	土坑	長方形か	N-68°-W	—	(1.10)	0.28	加曾利E	945-880
側道	7号	土坑	円形	N-70°-E	0.48	0.47	—	加曾利E小片	945-875
側道	8号	土坑	長方形	N-12°-E	—	0.61	0.41	加曾利E II	945-875
側道	9号	土坑	楕円形か	N-8°-E	1.71	—	0.18	勝坂、加曾利E	940-880
側道	10号	土坑	長方形か	N-51°-W	—	1.11	0.28	勝坂、加曾利E	940-860
側道	11号	土坑	楕円形	N-6°-E	0.69	0.60	0.23	勝坂、加曾利E	945-875
側道	12号	土坑	楕円形	N-11°-E	0.64	0.46	0.18	勝坂	945-875
側道	13号	土坑	円形	N-15°-W	1.46	1.33	0.10	勝坂	945-875
側道	14号	土坑	楕円形	N-45°-E	0.60	0.38	—	—	945-870
側道	15号	土坑	長方形	N-17°-E	1.12	0.64	0.22	勝坂、加曾利E I	945-870
側道	16号	土坑	長方形	N-67°-E	1.04	0.49	0.21	勝坂、加曾利E、土製円盤	945-870

第2節 古墳時代～中近世の遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
側道	17号	土坑	長方形	N-73°-W	0.77	0.65	0.30	諸磯c、勝坂	945-875
側道	18号	土坑	楕円形	N-19°-W	0.74	0.59	0.11	諸磯c、勝坂、加曾利E	940-870
側道	19号	土坑	楕円形	N-44°-E	1.46	1.12	0.18	勝坂	940-870
側道	20号	土坑	円形	N-79°-W	1.34	1.28	0.32	勝坂	940-865
側道	21号	土坑	楕円形	N-57°-E	0.74	0.40	0.28	勝坂	945-865
側道	22号	土坑	楕円形	N-15°-W	(0.68)	(0.49)	0.12	加曾利E	945-865
側道	23号	土坑	楕円形	N-75°-E	0.54	0.46	0.21	加曾利E	945-865
側道	24号	土坑	円形	N-76°-E	0.48	0.39	0.21		945-865
本線	25号	土坑	円形	N-40°-E	1.53	1.33	0.22	加曾利E	925-870
本線	26号	土坑	楕円形	N-35°-W	1.75	1.47	0.12	勝坂、加曾利E	915-870
本線	27号	土坑	楕円形	N-79°-W	1.66	1.40	0.37	勝坂、加曾利E I	915-870
本線	28号	土坑	楕円形	N-76°-W	1.52	1.19	0.30	勝坂、加曾利E I・II	925-870
側道	29号	—						勝坂、加曾利E I・II	
側道	30号	—						加曾利E I・II	
側道	31号	土坑	楕円形	N-25°-W	0.68	0.56	0.16	加曾利E少量	940-870
側道	32号	土坑	楕円形	N-27°-E	0.70	0.58	0.21		940-865
側道	33号	土坑	円形	N-9°-W	0.60	0.59	0.10		940-865
側道	34号	土坑	長方形	N-19°-E	0.78	0.43	0.14	加曾利E	940-865
側道	35号	土坑	楕円形	N-8°-W	(0.94)	(0.67)	0.34	加曾利E I	940-865
側道	36号	土坑	楕円形	N-80°-E	(0.53)	0.47	—	加曾利E	945-865
側道	37号	土坑	長方形	N-20°-E	—	1.01	0.24		945-860
側道	38号	土坑	楕円形	N-6°-W	0.79	0.62	0.21	加曾利E I	940-865
側道	39号	土坑	楕円形か	N-22°-W	—	0.97	0.16	加曾利E	935-865
本線	40号	土坑	楕円形	N-26°-E	1.18	—	0.18		930-870
本線	41号	土坑	不整形	N-61°-E	0.92	0.83	0.40	加曾利E III	930-870
本線	42号	土坑	楕円形	N-38°-E	1.44	1.33	0.19	勝坂	930-870
本線	43号	土坑	長方形	N-74°-E	1.21	0.81	0.30	加曾利E	925-870
本線	44号	土坑	長方形	N-89°-W	1.01	0.49	0.41	加曾利E	925-870
本線	45号	土坑	楕円形	N-24°-W	1.03	0.70	0.40	勝坂、阿玉台、加曾利E	925-870
本線	46号	土坑	不整形	N-20°-E	1.37	1.07	0.16	諸磯c、勝坂、阿玉台	920-880
本線	47号	土坑	方形か	N-71°-E	1.32	1.10	0.15	加曾利E	920-880
本線	48号	土坑	円形	N-86°-W	0.57	0.52	0.12		920-880
本線	49号	土坑	円形	N-76°-E	0.75	0.66	0.18	勝坂、加曾利E I	920-880
本線	50号	土坑	楕円形	N-56°-W	0.79	0.55	0.26	加曾利E	920-880
本線	51号	土坑	楕円形	N-54°-E	0.66	0.48	0.11		920-880
側道	52号	土坑	円形	N-72°-E	0.57	0.53	0.28	加曾利E I	940-855
側道	53号	土坑	不整形	—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曾利E I	940-860
側道	54号	土坑	円形	N-22°-W	1.07	—	0.16	加曾利E	940-860
側道	55号	土坑	楕円形	N-7°-W	0.99	0.69	0.13	阿玉台、勝坂、加曾利E I	940-855
側道	56号	土坑	楕円形	N-20°-E	1.12	0.76	0.24	阿玉台、勝坂、加曾利E I	940-855
側道	57号	土坑	楕円形	N-12°-E	1.17	0.77	0.11	阿玉台、勝坂	940-855
側道	58号	土坑	楕円形	N-78°-W	1.43	1.10	0.15	阿玉台、勝坂、加曾利E III	940-855
側道	59号	土坑	楕円形	N-76°-E	—	0.75	0.15	阿玉台、勝坂、加曾利E	935-855
側道	60号	土坑	楕円形	N-43°-W	0.80	—	0.15		935-855
側道	61号	土坑	楕円形	N-89°-E	0.84	0.62	0.14	阿玉台、勝坂	935-855
側道	62号	土坑	長方形	N-1°-W	—	1.07	0.46	阿玉台、勝坂、加曾利E	940-855
側道	63号	土坑	円形	N-53°-E	1.35	1.14	0.16	阿玉台、勝坂、加曾利E III	935-850
側道	64号	土坑	楕円形	N-19°-W	1.14	1.00	0.18	阿玉台、勝坂、加曾利E	935-850
側道	65号	土坑	円形	N-3°-W	0.54	0.54	0.20	阿玉台、勝坂、加曾利E	940-850
側道	66号	土坑	円形	N-77°-E	0.74	0.61	0.11	阿玉台、勝坂、加曾利E	940-850
側道	67号	土坑	楕円形	N-79°-W	1.13	0.64	0.14	阿玉台、勝坂、加曾利E	935-845
側道	68号	土坑	円形	N-30°-W	1.56	1.38	0.10	加曾利E、称名寺	935-850
側道	69号	土坑	長方形	N-11°-E	1.43	0.66	0.10	加曾利E、称名寺	935-850
側道	70号	土坑	楕円形	N-31°-E	1.37	1.05	0.23	阿玉台、勝坂、加曾利E	930-855
側道	71号	土坑	楕円形	N-39°-E	1.02	0.68	0.18	加曾利E	930-860
側道	72号	土坑	楕円形	N-54°-W	1.12	0.68	0.12	阿玉台、勝坂、加曾利E	930-860
本線	73号	土坑	円形	N-53°-W	0.73	0.68	0.15	阿玉台、勝坂、加曾利E	930-860
本線	74号	土坑	長方形	N-89°-W	(2.34)	1.61	0.31	諸磯c、阿玉台、勝坂、加曾利E III	925-860
本線	75号	土坑	円形	N-71°-W	1.45	1.31	0.15	阿玉台、勝坂	920-875
本線	76号	土坑	方形	N-90°	0.66	0.54	0.21	加曾利E	920-875
本線	77号	土坑	円形	N-64°-W	1.24	1.08	0.22	阿玉台、勝坂、加曾利E	920-875
本線	78号	土坑	長方形	N-19°-W	1.05	0.67	0.20	加曾利E	920-875
本線	79号	土坑	円形	N-46°-W	1.01	0.88	0.14	諸磯c、加曾利E	915-875
本線	80号	土坑	不整形	N-38°-E	1.92	1.63	0.12	加曾利E	915-875
本線	81号	土坑	楕円形	N-73°-W	0.71	0.60	—	阿玉台、勝坂、加曾利E	915-870
本線	82号	土坑	円形	N-37°-W	0.93	0.88	0.25	阿玉台、勝坂、加曾利E	915-870

第5章 本線IV区・県側道4区 検出された遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
本線	83号	土坑	楕円形	N-13°-E	0.97	0.76	0.12	加曽利E	915-870
本線	84号	土坑	円形	N-13°-W	0.65	0.59	0.22	加曽利E	915-870
本線	85号	土坑	楕円形	N-39°-E	0.53	0.45	0.14		915-870
本線	86号	土坑	楕円形	N-48°-E	0.69	0.48	0.36		915-870
本線	87号	土坑	楕円形	N-1°-E	0.67	0.48	0.13		915-870
本線	88号	土坑	楕円形	N-14°-E	0.67	0.51	—	加曽利E	915-870
本線	89号	土坑	円形	N-82°-E	1.39	1.23	0.31	加曽利E、後期	925-875
側道	90号	土坑	楕円形	N-80°-E	1.48	1.26	0.23	加曽利E II・III	940-860
本線	91号	土坑	楕円形	N-58°-W	(0.80)	(0.67)	0.12	阿玉台、勝坂	920-875
本線	92号	土坑	円形	N-38°-E	0.69	0.61	0.15		920-875
本線	94号	土坑	長方形	N-32°-E	3.49	0.90	—	加曽利E、称名寺、堀之内、土製円盤	915-865
本線	95号	土坑	長方形	N-26°-E	4.36	0.88	0.31	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺	915-860
本線	96号	土坑	円形	N-23°-E	1.39	1.39	—	阿玉台、勝坂	915-860
本線	97号	土坑	楕円形	N-26°-W	1.49	1.18	0.10	加曽利E	915-860
本線	98号	土坑	楕円形	N-10°-E	0.90	0.74	0.22	加曽利E、後期	910-860
本線	99号	土坑	楕円形	N-7°-W	1.43	0.98	0.12	諸磯c、称名寺	910-860
本線	100号	土坑	楕円形	N-59°-W	1.69	1.19	0.14	後期	905-860
本線	101号	土坑	長方形	N-49°-E	3.58	1.77	0.14	諸磯c、加曽利E III・IV	905-860
本線	102号	土坑	円形	N-70°-E	1.13	1.01	0.10	後期	910-865
本線	103号	土坑	長方形か	N-46°-E	1.35	—	0.17	加曽利E	910-865
本線	104号	土坑	楕円形	N-2°-E	1.38	1.05	0.24	加曽利E	910-865
本線	105号	土坑	長方形か	N-49°-E	2.50	1.54	0.58	諸磯c、加曽利E	905-870
本線	106号	土坑	長方形	N-6°-E	2.12	0.85	0.47	加曽利E	905-865
本線	107号	土坑	長方形	N-89°-E	1.34	0.66	0.16	阿玉台、勝坂、加曽利E	905-865
本線	108号	土坑	長方形	N-1°-W	1.38	0.79	—		905-865
本線	109号	土坑	長方形	N-77°-W	2.77	1.84	0.13	加曽利E	900-860
本線	110号	土坑	方形	N-78°-W	1.50	1.19	0.43	加曽利E、称名寺、堀之内	900-865
本線	111号	土坑	長方形	N-20°-W	2.11	1.43	0.20	加曽利E III～後期	900-870
本線	112号	土坑	円形	N-67°-W	0.95	0.83	0.14	加曽利E III	900-875
本線	113号	土坑	長方形か	N-36°-E	—	0.90	0.19	加曽利E III	895-875
本線	114号	土坑	長方形	N-15°-E	0.87	0.50	0.08	加曽利E III	895-870
本線	115号	土坑	楕円形	N-62°-E	0.61	0.49	0.28	阿玉台、勝坂	895-865
本線	116号	土坑	円形	N-44°-E	0.54	0.51	0.16	後期	895-865
本線	117号	土坑	長方形	N-84°-E	2.33	0.74	0.12	阿玉台、勝坂、加曽利E	895-865
本線	118号	土坑	楕円形	N-33°-W	1.60	0.89	—	後期	900-860
本線	119号	土坑	楕円形	N-28°-E	1.36	0.79	—	加曽利E	900-860
本線	120号	土坑	円形	N-25°-E	0.99	0.87	—	加曽利E	900-860
本線	121号	土坑	長方形か	N-83°-W	—	1.17	0.19	加曽利E IV、称名寺	895-860
本線	122号	土坑	長方形	N-39°-E	2.11	1.47	0.13		895-860
本線	123号	土坑	長方形	N-77°-E	2.55	0.69	0.10	加曽利E	895-855
本線	124号	土坑	楕円形	N-68°-E	1.32	1.09	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	920-865
側道	125号	土坑		N-76°-W	2.30	—	—	阿玉台、勝坂、加曽利E IV	945-870
	126号	—						諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利E	
側道	127号	土坑	長方形	N-74°-E	4.20	2.71	0.41	阿玉台、勝坂、加曽利E、土師器	935-865
本線	129号	土坑	長方形	N-84°-W	1.40	0.75	—	加曽利E	915-845
	130号	—						加曽利E	
本線	131号	土坑	長方形	N-80°-W	1.84	1.04	—	後期少量	885-840
本線	132号	土坑	楕円形	N-69°-W	1.23	0.81	—	後期、土製円盤	885-840
本線	133号	土坑	長方形	N-7°-E	1.07	0.75	—		870-835
本線	134号	土坑	長方形	N-5°-E	1.72	0.80	—	後期少量	900-840
本線	135号	土坑	長方形	N-26°-E	2.07	1.08	—	後期少量	900-845
本線	136号	土坑	楕円形	N-46°-E	(1.79)	1.20	—		900-845
本線	137号	土坑	不整形	N-17°-E	2.58	0.85	—		905-830
本線	138号	土坑	方形	N-19°-E	1.18	1.12	—	加曽利E少量、須恵器、陶器	905-850
本線	139号	土坑	長方形	N-88°-W	2.48	0.69	—	後期少量	900-845
本線	140号	土坑	長方形	N-85°-W	1.13	0.67	—		915-830
本線	141号	土坑	円形	N-0°	0.32	0.30	—	加曽利E	910-825
本線	142号	土坑	長方形	N-3°-E	5.10	0.95	—	加曽利E、称名寺	910-825
本線	143号	土坑	長方形	N-81°-W	1.98	0.68	—		910-825
側道	144号	土坑	不整形	N-23°-E	3.28	1.00	—		925-835
側道	145号	土坑	長方形	N-11°-E	6.99	0.56	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	930-840
側道	146号	土坑	長方形	N-30°-E	3.62	0.65	—	加曽利E III	925-835
本線	147号	土坑	方形	N-75°-E	2.40	2.09	0.33		910-870
側道	148号	土坑	円形	N-66°-W	0.81	0.78	—	称名寺、堀之内	930-830
本線	149号	土坑	円形	N-26°-W	1.67	1.59	0.27	加曽利E II、称名寺、堀之内	925-860
本線	150号	土坑	長方形	N-19°-E	3.65	0.80	—	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺、堀之内	920-860

第2節 古墳時代～中近世の遺構

区	番号	遺構種類	形状	主軸	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物・特徴など	グリッド
本線	151号	土坑	円形	N-89°-W	1.06	1.24	—	加曽利EIV	915-860
本線	152号	土坑	計測不能	—	—	—	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	920-860
本線	153号	土坑	楕円形	N-55°-W	2.49	1.56	—	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺、堀之内	920-855
本線	154号	土坑	円形	N-50°-W	2.02	1.70	—	加曽利E	920-855
本線	155号	土坑	楕円形	N-55°-E	1.14	1.22	—	加曽利E	920-855
本線	156号	土坑	楕円形	N-16°-W	1.13	0.93	—	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺	920-855
本線	157号	土坑	楕円形	N-0°	2.47	2.42	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	920-855
本線	158号	土坑	楕円形	N-19°-W	1.30	1.08	—	阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺	925-855
本線	159号	土坑	円形	N-75°-E	1.45	1.30	—	加曽利E	925-860
本線	160号	土坑	楕円形	N-81°-W	1.48	1.10	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	925-855
本線	161号	土坑	楕円形か	N-18°-E	1.17	—	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	925-855
本線	162号	土坑	楕円形	N-50°-W	2.03	1.80	—	阿玉台、勝坂、加曽利E	925-850
本線	163号	土坑	楕円形	N-19°-E	0.97	0.81	—	加曽利E、称名寺	920-850
本線	164号	土坑	楕円形	N-69°-E	1.73	1.32	—	加曽利E、称名寺	915-860
側道	165号	土坑	円形か	N-18°-E	1.44	1.37	—	諸磯c、加曽利E II・III	920-840
本線	166号	土坑	長方形	N-7°-E	4.16	0.94	—	加曽利E II	920-850
本線	167号	土坑	長方形	N-16°-E	4.12	0.86	—	加曽利E	910-855
本線	168号	土坑	楕円形	N-84°-E	2.01	1.59	—	加曽利E	915-865
本線	169号	土坑	楕円形	N-12°-E	1.07	0.85	—	加曽利E、堀之内	915-865
本線	170号	土坑	楕円形	N-69°-W	0.47	0.41	—	加曽利E少量	915-865
本線	171号	土坑	長方形	N-26°-E	2.00	0.83	—	諸磯c、加曽利E少量	870-845
本線	172号	土坑	長方形か	N-28°-E (3.92)	0.89	—	—	加曽利E、称名寺	870-850
本線	173号	土坑	長方形	N-21°-E	3.71	1.06	—	加曽利E、堀之内少量	870-850
本線	174号	土坑	長方形	N-6°-E	4.42	0.97	—	加曽利E、堀之内少量	870-855
本線	175号	土坑	長方形	N-12°-E	3.46	0.75	—	加曽利E少量	875-860
本線	176号	土坑	長方形	N-24°-E (6.61)	0.91	—	—	加曽利E少量	880-860
本線	177号	土坑	長方形	N-9°-E	4.42	1.09	—	諸磯c、加曽利E	880-865
本線	178号	土坑	}長方形	北東～ 南西	上 幅0.75	下 幅0.53	—	諸磯c、加曽利E、称名寺、堀之内	X=890～875 Y=865～870
本線	179号	土坑						諸磯c、加曽利E	
本線	180号	土坑							
本線	181号	土坑	円形	N-80°-W	1.09	1.06	0.41	加曽利E少量	885-855
本線	182号	土坑	円形	N-66°-W	0.94	0.87	—	加曽利E少量	885-855
本線	183号	土坑	長方形	N-80°-W	3.76	0.94	—		
	184号	—						加曽利E	
本線	185号	土坑	円形	N-47°-W	1.19	1.02	—	加曽利E	925-855
	206号	欠							
本線	209号	土坑	長方形か	N-19°-E (2.97)	0.88	—	—	加曽利EIV	875-860
本線	210号	土坑	長方形か	N-20°-E (3.27)	0.81	—	—	加曽利E	875-860
本線	211号	土坑	不整形	N-21°-W	2.45	1.46	0.44	諸磯c、加曽利EIV、称名寺	910-850
本線	212号	土坑	不整形	N-7°-E	—	0.86	—	加曽利E	875-855
	213号	—						加曽利E	
本線	214号	土坑	長方形	N-7°-E (4.88)	0.89	—	—	加曽利E	875-835
本線	216号	—						阿玉台、勝坂、加曽利E、称名寺、堀之内	
側道	217号	土坑	円形か	N-77°-W	1.33	—	—	加曽利E	925-840
本線	219号	土坑	長方形か	N-80°-W	2.75	0.81	—	加曽利E、称名寺	895-820
本線	220号	土坑	長方形	N-77°-W	2.84	0.89	—		890-820
本線	221号	土坑	長方形	N-31°-E	2.26	0.79	0.19	後期	905-830
	224号	—						加曽利E、称名寺	
本線	225号	土坑	長方形	N-80°-W	2.89	0.56	0.11	加曽利E	905-845
本線	226号	土坑	長方形	N-72°-W	2.72	0.71	0.17	後期	905-850
	267号	—						諸磯c、阿玉台、勝坂、加曽利E	
側道	270号	土坑	円形か	N-86°-E	—	1.18	0.29	加曽利E	940-860
本線	273号	土坑	楕円形	N-81°-E	0.77	0.46	—		885-875
	281号	欠							
	285号	—						加曽利EIV	
本線	289号	土坑	長方形	N-5°-E	2.40	1.34	0.26	加曽利E	895-855
本線	298号	—						加曽利E、称名寺、堀之内	
側道	299号	欠							
本線	300号	—						加曽利EIV	
本線	301号	—						加曽利E	
本線	303号	土坑	不明	—	—	—	—		905-820
本線	344号	土坑	円形	N-68°-W	1.04	1.03	0.25	土師器 (奈良)	910-885

第6章 出土遺物

第1節 出土土器

1 出土土器の概要

天ヶ堤遺跡の調査は、高速道路の路線のため、東西に長くなっている。そのため、調査地の西と東では、遺物の出土量、時期について調査地区ごとに違いが見られた。個々の土器については、次節で紹介し、本節では、各調査区ごとにその概要を紹介し、土器の観察や分類について概略説明する。

側道1区で検出された遺構は、近世の溝・土坑が発見されたほか、埋甕が2基である。近世の遺構からの遺物は、微細なものが少量出土した。埋甕から発見された土器は、縄文時代中期末葉のものである。調査区の西側に縄文時代の谷地地形があり、縄文土器包含層が形成されている。この縄文谷から出土した土器も、中期後半が主体である。

側道2区では、近世の溝・土坑・畑状遺構が発見され、これらの遺構からも陶磁器類が若干発見されている。縄文時代は、遺構が調査区東半部に集中しており、縄文土器包含層も西側で薄く、東側で厚くなっている。このため調査区東側での遺物出土が多く見られた。土器の編年の位置は、前期後葉の諸磯c式土器、中期中葉の勝坂・阿玉台式～加曾利E式、後期前半の称名寺・堀之内式土器が検出されている。このうち出土量が多く主体となる土器は、加曾利E式期の土器である。

本線Ⅲ区、側道3区では、縄文時代の住居・土坑・包含層、古墳時代～古代の住居などから遺物が出土している。縄文土器の編年の位置は、前期後葉の諸磯b・c式土器、中期中葉の勝坂、阿玉台式土器、中期後葉の加曾利E式土器、後期の称名寺式土器、堀之内式土器である。本区では、中期後葉の加曾利E式期の遺構が多く、この時期の土器が比較的多く出土している。古墳時代前期では、口縁「S」字形になる台付甕や埴、高坏等が住居跡から一括資料として良好な状態で出土した。その他には、古墳時代後期、奈良時代の土師器、平安時代の須恵器坏などが土坑や遺構確認面から出土した。

本線Ⅳ区、側道4区では、Ⅲ・3区と同様に縄文時代の住居・土坑・包含層、古墳時代～古代の住居などから遺物が出土している。特に、調査区の東側では、谷地へと傾斜しており、縄文土器包含層が厚く堆積していた。出土した縄文土器の編年の位置は、早期擦糸文系土器、前期後葉の諸磯b・c式土器、中期中葉の勝坂、阿玉台式土器、中期後葉の加曾利E式土器、後期の称名寺式土器、堀之内式土器である。この中でも、本区では、中期末葉から後期の遺構が多く、Ⅲ区と比較して新しい時期の土器が多くなる傾向にある。住居内からは、覆土中に土器破片として出土するものが多く、完形品に近いものは、炉体土器や埋甕として使われている土器である。調査区東側の谷地部にある縄文土器の包含層では、中期末の加曾利E式から後期の堀之内式土器が多く出土している。古墳時代前期の土器は、口縁「S」字形になる台付甕や埴、壺、高坏などが住居跡から一括資料として出土している。8号住居からは、手捏ね土器や舟形土製品等の祭祀的遺物も出土した。奈良時代の土器は、住居に伴って坏、坏蓋、甕などが出土した。その他、遺構外から高坏、坏、甕が出土している。中世以降の遺物は少ない。

2 土器の分類

本報告書の土器観察表については、各項目を次の要領で記載した。

色調・記号については、土器全体の平均的な色合いについて標準土色帖（財団法人日本色彩研究所色票監修）により比較記載した。胎土については、土器に含まれる砂粒などの粒子の大きさや量について記載した

が、鋳物については、胎土分析を行わず不確定なため記載しなかった。焼成については、現段階の土器自体について硬質で、器面の土があまり遊離しないものを「良」とし、表面の土がザラツキ遊離するものを「普通」、土器全体がもろく表面の土が多く遊離するものを「不良」とした。縄文の撚りについては、縄文原体の撚り方向を記載し、縄文が施文されているが撚りの判明しないものについては、「不明」とした。また、条線や沈線施文、地文の無いものについては「-」で表記した。施文方向は、縄文原体の施文方向について記載したが、方向の定まらないものについては、記載しないものもある。文様の特徴は、型式の性質についての説明である。それぞれの土器について施文具や文様構成、その他の特記事項について記述した。

縄文土器は、早期の撚糸文系土器数点以外は、前期後半から後期前半の土器が出土している。その中で、中期後半の加曾利E式、称名寺式、堀之内I式が主体的に出土している。今回の報告では、これらの土器群を中心に、器形や文様、施文技法について観察表に記載した。観察表中にある分類の項目では、下記に挙げる基準で分類した。報告した土器の大半は、粉碎された破片を対象としている。そのため、文様帯や部位によって文様要素や文様モチーフが異なることの多い縄文土器を正確に細別時期や器種を特定し、判断するのが困難な例も多い。そのため、次項の分類基準に当てはまらない中間的な要素を持つ土器も多く型式名を付さずにおおよその時期や様式名にとどめたものもある。また、加曾利E式から堀之内I式以外の土器については、本遺跡で遺構等から出土して主体となるものではないことから概略の様式名を記した。

諸磯・浮島式期

前期後葉に属する竹管文を主とする諸磯式土器、貝殻復縁文を主文様施文具とする浮島・興津式土器。本遺跡からの出土量は少ない。遺構覆土やグリッド・表採遺物に混じって少量出土している。諸磯aから諸磯b前半のものは少なく、諸磯b後半～c式が出土している。

五領ヶ台式期

中期初頭に属する土器。平行沈線による区画文、三角形の陰刻などの文様施文を持つ土器。本遺跡からは、グリッドや他時期の遺構に混じって出土している。

阿玉台・勝坂式期

中期中葉に属する阿玉台式・勝坂式土器。本遺跡からは、住居跡等の遺構は確認されていない。土坑覆土中に他時期の土器と混在して出土している。その他、遺物包含層から出土している。

加曾利E式土器～堀之内式土器

本遺跡で主体となる土器である。住居跡・土坑・包含層などから出土している。土器文様や形から次のように分類した。

中期後半I期（加曾利E I式期）

主となる文様は、口縁部文様帯と胴部文様帯に分けられる。頸部に無文帯を持たない。この段階は、口縁部には、把手を持つものがある。渦巻文が未出現で、粘土紐を貼り付けた隆線による横S字文やクランク状のモチーフが用いられ、地文に撚糸文が多用される。

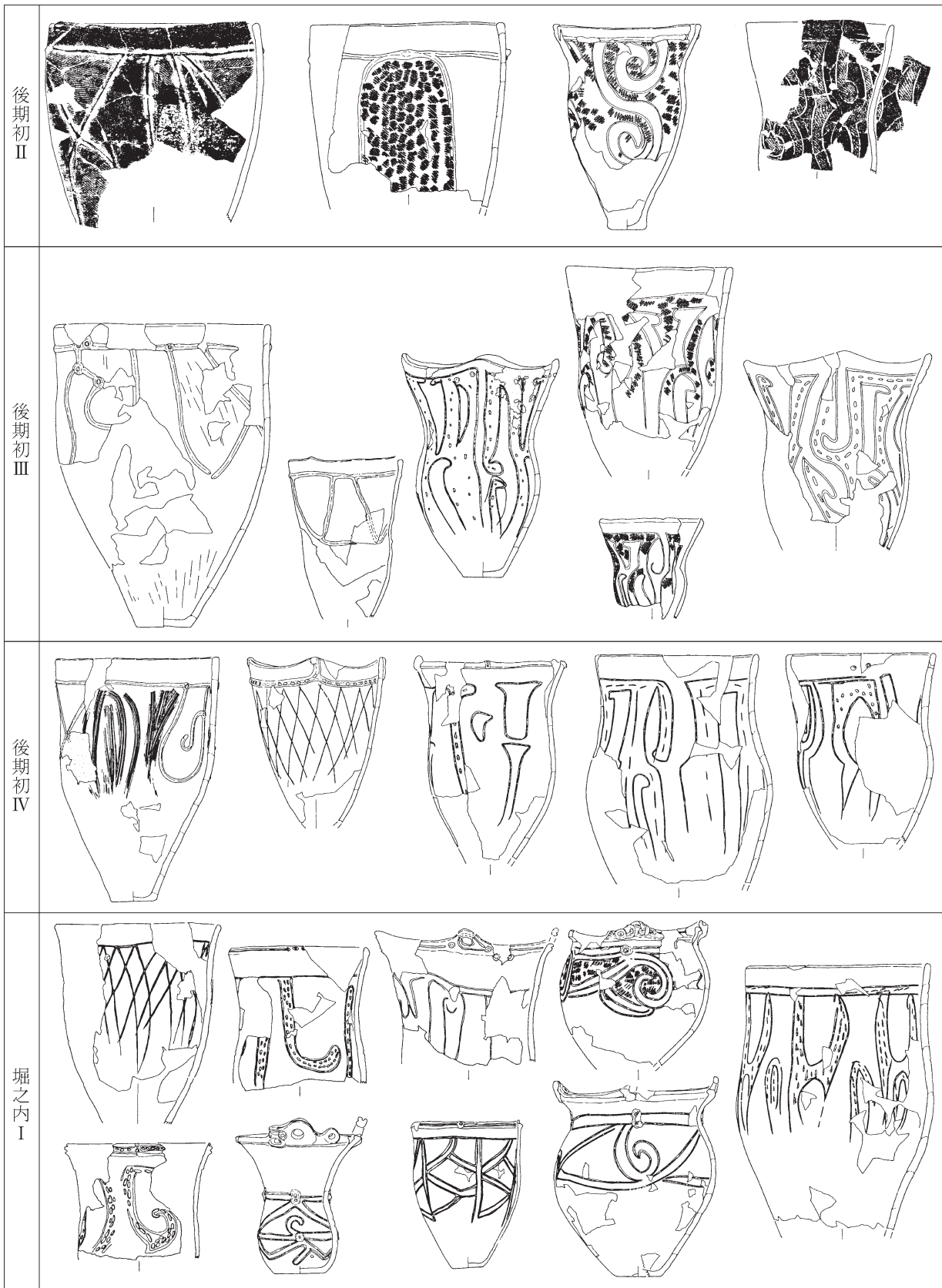
口縁部が無文帯になり頸部と、胴部に文様帯を持つ土器。頸部には、楕円形や渦巻、双環上の突起とそれを繋ぐ突帯が廻る。

中期後半II期（加曾利E II式期）

主となる文様は、口縁部文様帯、頸部文様帯、胴部文様帯の3段に区分される。頸部無文帯の発達を指標とする。口縁部には把手を持つものもある。口縁部文様帯には、楕円形・半円形の区画が現れる。口縁部文様区画には、粘土紐による隆線で、渦巻文、横S字文やクランク状のモチーフが付けられる。頸部は横線に



第101図 繩文土器変遷図(1)



第101図 繩文土器変遷図(2)

第6章 出土遺物

よる区画内を無文帯にするものが多くなるが、縄文を施文するものもある。I期の口縁部文様帯を持つ系統の土器では、頸部文様帯に渦巻などの曲線文を施文する。胴部文様帯は、隆線によりクランク状、波状の垂線が施文される。

中期後半III期（加曾利E III式期）

主となる文様帯が口縁部と胴部文様帯になり頸部文様帯が喪失する。区画された口縁部文様帯と胴部に磨り消し縄文を持つ。口縁部文様帯は、楕円区画と区画間に渦巻文様が配置される段階と横S字文を入り組み状に連結させ楕円区画を開放する段階に細分される。胴部は、沈線を垂下させた縦位区画で、沈線間を磨り消し縄文による無文帯を作る。また、頸部無文帯を持ち、胴部を隆線により渦巻文や曲線文で施文する土器群もある。本段階の初めには、口縁部に連弧文を施文する土器が出現する。平口縁と波状口縁があり、波状口縁のものは、前段階に見られた口縁部の把手は小さくなり、舌状の突起が付く波状口縁の土器となる。本段階は、口縁部文様帯の区画により3細分される。

中期後半IV期（加曾利E IV式期）

主となる文様帯は胴部文様帯になる。口縁部文様帯は、幅が狭くなり無文帯化する。口縁部文様帯を喪失し、希に胴部文様が口縁部までせり上がるものもある。磨り消し縄文が発達する段階。太い沈線で区画された曲線的な磨り消し縄文帯を持つものと、細い隆線や微隆起線により口縁部区画や胴部文様を描く土器がある。口縁部の舌状の突起がさらに小さく山形になる。

後期初頭I期（後期加曾利E V式期）

口縁部文様帯が狭い無文帯になり、「U」「∩」文様や「0」字文様の上端が口縁部と接する。また、口縁部無文帯と接した部分がせり上がり突起となっている土器。口縁部は、平口縁、波状口縁がある。波状口縁は、4単位になり、その一つに大きな突起が付けられる。

この時期には、他地域では称名寺式土器が伴うが、本遺跡では称名寺式土器が未検出である。

後期初頭II期（後期加曾利E V式期、称名寺I式期）

加曾利E式の系統を引く土器では、口縁部文様帯を隆線で区画し無文帯を作る。胴部文様帯は縦位に分割され対向「U」文に懸垂文や「0」字文を交互に配する。隆線で上下に「U」文様が真ん中で接して「X」字状文様を作る。隆線間を縄文が充填され、磨り消し部と分ける。

この段階の称名寺式土器は、称名寺式土器の横位連繫帯が消失し、上下二連の「J」字文構成が一般化すると共に、この段階では、主文様間の表現は、縦位二連の「J」字文に沿った「外側描線群」が主体である。さらに新しい傾向として、二段構成をとる下部の「J」字文の軸部及び釣部末端が直線化し、逆「R」字状の意匠へと傾斜すると共に、「J」字文の外輪湾曲部が開放するものが認められる。「J」字文にも変形が生じ渦巻状に表現されるものが増加するとともに主文様間も多様化する。また文様の要所に環状の貼付文が施され、あるいは充填施文される装飾には、縄文の他に垂直に近い角度で施される列点文が認められるようになる。

後期初頭III期（後期加曾利E V式期、称名寺II式期）

加曾利E式系統の主文様帯は、口縁部文様帯、胴部文様帯に分かれる。口縁部は無文帯になる。胴部文様帯は、前段階の「U」文の縄文充填部分が抜け落ち、その区画線だったところが隆線として浮き上がる。「U」文様が崩れ、「X」字文や曲線を連結したような文様となる。地文の縄文充填は見られなくなる。

称名寺式土器は、下部「J」字文の内輪湾曲部が切れて開放し、下部「J」字文の釣部と軸部が分離する傾向が顕著となる。この結果、「R」字状の意匠が出現し単位文へと変化する。充填施文される地文には縄文

が減少し、列点文の充填が一般的となる。

後期初頭IV期（後期加曾利E V式期、称名寺II式期）

加曾利E式系統の主文様帯は、口縁部文様帯と胴部無文帯に分かれる。口縁部文様帯は、隆線や沈線で区画される。胴部文様帯は、前段階と同様に隆線による曲線文の連結や「X」字文が残る土器と、沈線による格子目状の文様を施文する土器がある。地文の縄文は見られなくなる。

称名寺式土器は、主文様である「J」字文間の空隙に「R」字状の意匠が分離し単位文的に独立配置され、また下部「J」字文の軸部が懸垂文へと傾斜することは文様変化の上で注目すべき点である。また、上部文様が簡素化し下部文様主体となる個体群も増加し、上下二連の「J」字文による称名寺の基本となってきた文様構成に変化が生じている。口縁部には、突起が発達し、口端に沿って窩文連繫沈線が展開することも特徴的である。地文は、縄文の充填は希になり列点文や櫛歯条痕などの充填が普通となる。無文のものも認められる。

後期初頭V期（堀之内I式期）

本遺跡から出土している本段階の土器は、口縁部に狭い文様帯を持ち、沈線や刺突列を廻らし、渦巻状の突起を付けたりする共通の文様をもつが、胴部文様帯は、大きく三つの系統に分かれる。一つは、沈線による懸垂文により縦位区画し、それを斜行する沈線で結び格子目状になる土器。二つ目は、頸部が外反し無文帯を作る。胴部は、沈線による横位区画に渦巻状の文様を描き、斜行沈線で連結する土器。三つ目は、称名寺の系譜を引く土器で、「J」字文を中心とした土器で「R」字状に変化していく。

後期初頭VI期（堀之内II式期）

本遺跡出土の量は少ない。深鉢では、3単位の波状口縁の土器が見られた。I式では、胴部文様帯を縦位区画するのに対して、横位区画が認められる。口縁裏には、沈線が廻る。「8」の字貼付文が顕著になる。注口土器は把手と注口部が独立して付けられている。

3 古代の土器について

本遺跡から出土した古墳時代以降の土器は、そのほとんどが古墳時代前期の土器である。その他に、奈良時代の土器が少量出土している。古墳時代の住居は、20数軒検出されている。Ⅲ・3区では、遺構の掘り込みが浅いものと深いものがあり、比較的掘り込みの深い住居から良好な資料が出土している。特にⅢ区2号住居は、坏、高坏、柑、くの字口縁の甕、S字甕が良好な状態で出土している。Ⅳ・4区では、焼失家屋の検出例が多く、Ⅲ・3区より土器の出土状況が良かった。特に、4号住居は、北壁中央部の壁際に甕を据え置いた状態で、古墳時代前期の、S字口縁台付甕、単口縁壺、畿内系屈折脚高坏、小形丸底鉢が住居から出土している。その他の住居においても、炉周辺や壁際に土器が置かれた状態で出土していることから、土器の利用について推定できる資料が見られた。

これらの古墳時代前期土器の時期であるが、S字口縁台付甕は、肩部が張らず胴部が長胴化するタイプのものである。また、刷毛の簡素化や刷毛を施さず削り整形のS字甕も見られる。高坏においては、畿内系の柱状屈折脚が伴い、単口縁甕や壺などに見られる削り整形等の特徴から若狭・深澤(2005)氏らの言うところの土器編年によれば、古墳時代前期新段階(4世紀後半)に位置づけられる。

奈良時代の遺物については、遺構からの一括資料が少なく、遺物の伴わない住居が多かった。その中で、Ⅳ区18号住居からは、坏が数点まとまって出土している。これらの奈良時代遺物については、8世紀第3四半期頃と推定される。

第6章 出土遺物

1・2区出土土器観察表

1区1号埋甕出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	両耳壺	口縁底部	黒褐	7.5YR3/2	φ1~2ミリの白色粒多い	良	LR	横	加曾利EIV	頸部に太さ4ミリの隆線が廻り、口縁部無文帯と区画する。頸部には円・楕円形の文様区画。橋状把手。

1区2号埋甕出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	口縁部平縁になり、無文帯を作る。幅2ミリの沈線により横位区画を施文する。さらに楕円区画と波状区画の磨り消し縄文帯を構成する。
2	深鉢	口縁胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	良	RL	縦横	加曾利EIV	太さ5ミリの断面三角の隆線が口縁部に廻り無文帯を作る。胴部に隆線による縦位区画。磨り消し縄文による無文帯と縄文帯が交互に施文される。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	口縁部波状口縁になり無文帯を作る。幅3ミリの隆起線により横位区画と楕円区画を施文する。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIV	胴部中位部で幅3ミリの沈線により上半波状、下半「∩」状の区画を施文して、磨り消し縄文帯を構成する。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒	やや不良	—	—	加曾利EIV	幅6ミリの隆線による縦位区画。剝離多い。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利EIV	幅2ミリの沈線による楕円区画。

2区1号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	—	加曾利EIII	口縁部文様は「∞」を連続させ楕円区画を持つ。胴部は縦位区画により文様帯と無文帯を交互に施文。
2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。縄文帯と無文帯が交互に構成される。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	加曾利EIII	口縁部幅5ミリの2条の沈線とその間の棒状工具による刺突列を廻らす。さらに同沈線が垂下する。地文は櫛状工具による条線文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	不明	—	加曾利E	口縁部やや波状を呈す。幅5ミリの2条の沈線とその間に棒状工具による刺突を横位に廻らす。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦斜	加曾利EIII	口縁部波状を呈する。隆線と幅5ミリの沈線により横位渦巻状区画を施す。
6	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部波状を呈する。隆・沈線により渦巻状の文様とそこから垂下した沈線による縦位区画。
7	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	斜	加曾利EIII	口縁部幅7ミリの隆線とその両側の沈線により楕円区画を施文。
8	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	斜縦	加曾利EIII	口縁部幅6ミリの沈線による横位楕円区画。
9	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/5	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部幅8ミリの沈線と隆線による楕円区画。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利EIII	口縁部波状を呈する。隆線と幅5ミリの沈線により横位渦巻状区画を作る。そこから沈線を垂下させる。
11	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	RL	横	加曾利E	口縁部波状を呈する。隆線とそれに沿う沈線により横位渦巻状区画を施文。剝離多い。

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	口縁部幅5ミリの半截竹管による刺突列。胴部幅5ミリの沈線による弧線状の区画。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部山形の突起が付く。幅3ミリの2条の沈線とその間の刺突列を横位に廻らす。胴部同沈線による「∩」状の施文。
14	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	横	加曾利E III	口縁部幅5ミリの沈線による横位区画。
15	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		堀之内	口縁部幅5ミリの沈線を弧線状に施文。
16	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/8	φ1ミリの砂粒	良	—		加曾利E	口縁部無文帯。横位のミガキ整形。横位沈線状に段をなす。
17	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	口縁部無文帯横位の整形。やや外反する。
18	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/4	φ1～3ミリの小石、砂粒、石英粒	普通	—		勝坂	口縁部隆線により三角状文様の区画を作る。隆線上面棒状工具により刻み列を入れる。同線に沿って幅2ミリの沈線ないし押し引きによる文様を施文する。
19	両耳壺	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	幅45ミリの橋状把手で縦位に大きく楕円沈線状に凹む。
20	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁上部やや外反する。また隆線と幅6ミリの沈線により楕円区画を施文する。その内側に縄文を充填する。胴部地文は条線文。剝離が多い。
21	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの砂粒、軽石粒	不良	RL	縦	加曾利E III	胴部幅4ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	胴部幅4ミリの沈線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	胴部幅7ミリの沈線により縦位区画を作り、区画内に縄文と波状条線を充填する。
24	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1ミリの砂粒	不良	RL	縦	加曾利E III	幅7ミリの沈線による縦位区画。
25	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/6	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅5ミリの沈線による縦位区画。
26	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	幅4ミリの沈線による縦位区画。「U」状区画を施す。また同線により蕨手状文を施文する。
27	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	胴部幅3ミリの沈線により縦位区画と蕨手状の文様を施文する。
28	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒	普通	RL	斜	加曾利E	幅2ミリの沈線による「U」状の区画。
29	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E III	幅6ミリの沈線による縦位区画。直前段合撚り。
30	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR7/4	φ1ミリの砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	幅5ミリの沈線による縦位区画。
31	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	φ1～3ミリの小石、砂粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅4ミリの沈線による重弧状、蕨手状の文様。
32	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1ミリの砂粒	不良	LR	縦	加曾利E III	口縁部幅5ミリの沈線による方形区画と半截竹管による押し引きの縦位施文。
33	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	縄文施文後幅2ミリの沈線を重弧状に施文し、そこから同沈線を垂下させる。
34	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E III	胴部幅5ミリの沈線による縦位区画。
35	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	縄文を地文にし幅4ミリの隆線により縦・横位区画。
36	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E III	幅7ミリの沈線による縦位区画。条線文。
37	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	不良	—		加曾利E III	櫛状工具による条線文。
38	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～2ミリの砂粒	不良	Lr		加曾利E III	口縁部隆線と幅3ミリの沈線による横位区画。撚糸。
39	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利E III	櫛状工具による条線文。
40	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E III	幅5ミリの沈線による縦位区画。条線文。
41	深鉢	胴部	灰白	10Y7/1	細かい砂粒、軽石粒	良	—		加曾利E III	幅4ミリの2条の沈線とその間に棒状工具による刺突列を廻らす。胴部には「∩」状の沈線と条線文を施文する。
42	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～3ミリの小石、砂粒	良	—		勝坂	ペン先状工具と半截竹管による刻み列と押し引きの波状の文様。その下部隆線により楕円区画を作り内部に沈線を充填する。さらに隆線に沿って垂下する形で沈線を施文する。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
43	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1~2ミリの砂粒	普通	RL		加曾利EIV	0段多条(LR)。羽状横位。
44	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの砂粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅4ミリの隆線による施文。
45	火鉢類	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの砂粒、石英粒	良	—		近世	外面下部に沈線が廻り、内面には上部に櫛がき状の条線が横位に施文される。
46	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部上部で外反し突起を持つと思われるが、欠損する。
47	深鉢	底部	黄橙	10YR8/6	細かい砂粒、軽石粒	不良	—		加曾利E	—
48	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	細かい砂粒、軽石粒	不良	—		加曾利EIII	—

2区2号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石、金雲母	普通	—		阿玉台	口縁部縦位櫛み状の突起。その上面幅広の雑な刻み列。それに沿うように両側幅2ミリの沈線による文様。

2区3号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		後期	口縁部無文帯横位の整形。幅14ミリの沈線による横位区画。
2	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横斜	加曾利EIII	口縁部無文帯横位のミガキ整形。その下部幅7ミリの沈線により段をなし、横位の区画を作る。さらに幅6ミリの隆線による弧線状区画を施文する。
3	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	口縁部山形状の波状口縁を呈し、その形状に沿って幅15ミリで無文帯横位の整形痕。その下部幅7ミリの沈線による楕円区画。
4	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		後期	口縁部無文帯横位の整形。スス、鉄分付着。
5	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦横	加曾利EIV	口縁部波状を呈すると考えられる。棒状工具により縦位列の刺突が施文される。その下部幅6ミリの沈線による横位区画。
6	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの小石、軽石粒	やや不良	RL	横	加曾利EIV	幅6ミリの隆起線による重弧状の区画。
7	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの砂粒	やや不良	LR	縦	加曾利EIII	幅4ミリの隆起線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの砂粒	普通	—		加曾利EIII	円環を双方に配した突起。突起より発した帯状突起上面には幅3ミリの沈線を施文し弧状を呈する。
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	幅4ミリの2条1組の隆起線による縦位区画。無文帯縦位のミガキ。
10	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒、石英粒	良	LR	横	加曾利EIV	幅4ミリの沈線により磨り消し縄文帯を構成し、上半は波状、下半は「U」状の区画になる。
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	やや不良	RL	斜横	加曾利EIV	幅4ミリの隆起線による弧線状区画。
12	深鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		中期	底部平底。

2区4号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1ミリの砂粒、軽石粒	良	—		後期	口縁部無文帯横位の整形。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	普通	RL	縦横	加曾利EV	幅4ミリの隆線による楕円区画。

1・2区縄文土器

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	幅2ミリの2本1組の沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	勝坂	幅2ミリの2条横位の波状沈線。その下部2条の横位沈線内を斜位沈線と上下端をペン先状工具で刺突する。
5	深鉢	胴部	淡黄	2.5YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利EIII	6本1単位の櫛状工具による条線文。
6	耳飾り		灰	5Y4/1	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	中期	無文。整形痕。

2区5号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの砂粒、金雲母	良	—	—	五領ヶ台	口縁部山形で口唇部は爪形の刻みが入る。幅4ミリの半截竹管によって口縁に沿って平行沈線を施文し、その下部同工具で斜位施文後、縦横施文し区画を作る。

2区6号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	浅鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	口縁部隆帯上部に半截竹管による刻み列を施文し、その隆帯により横位楕円区画と上半円形モチーフが連続する。隆帯に沿ってペン先状工具による2列の押し引きの文様を施文する。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	口縁部幅7ミリの爪形文。その下部先が台形状工具による3列の押し引き文。
3	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	頸部幅5ミリの隆線による横位区画。その上部幅3ミリの波状沈線による横位施文。
4	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	中期	幅5ミリの半截竹管による平行沈線文。横位楕円区画内を小型の竹管状工具により斜位刺突して充填する。
5	深鉢	胴部	橙	5YR7/8	φ1ミリの砂粒、金雲母	普通	—	—	阿玉台	幅3ミリの隆線による縦位波状の区画。横位の爪形の刻み列。
6	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、金雲母	普通	—	—	中期	口縁部から胴部無文帯横位の整形。底部より斜めに立ち上がり、口縁部でややふくらみ、口唇部若干外反する。
7	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、石英粒	良	RL	縦横	加曾利EIV	—
8	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	中期	底部から胴部の無文帯。横位の整形。
9	深鉢	底部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石、金雲母	普通	—	—	阿玉台	—
10	深鉢	底部	黄橙	7.5YR7/8	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	中期	底部から胴部の無文帯。

2区7号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	黄褐	10YR5/6	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	RL	—	加曾利EIII	太さ6～12ミリの隆・沈線による「∞」状文を連続させ、口縁部に楕円区画を作る。胴部は太さ7～8ミリの沈線による縦位区画。縄文帯と無文帯を交互に構成する。
2	深鉢	口縁 底部	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石	良	RL	—	加曾利EIV	4単位の波状口縁の一方に突起が付く。太さ5ミリの沈線が口縁部に廻る。胴部は曲線による区画で磨り消し縄文による無文帯が作られる。
3	深鉢	胴部 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	不良	RL	—	加曾利EIII	太さ7～8ミリの沈線3本が対になり、縦位区画を構成する。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
4	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E III	口縁部幅8ミリの沈線による横位区画。沈線と幅6ミリの隆線による横位楕円区画を施文する。胴部沈線による縦位区画。
5	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒	不良	RL	縦	加曾利E III	幅4ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅6ミリの沈線による縦位区画。摩滅多い。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	口縁部波状を呈する。幅10ミリの隆線に沿ってペン先状工具による2列の押し引き文。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅3ミリの沈線による縦位と重弧状施文。
9	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E III	幅5ミリの沈線による縦位区画。斜位区画を施文する。
10	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E III	櫛状工具による条線を施文する。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅5ミリの沈線による縦位区画。
12	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E III	幅7ミリの沈線による縦位区画。

1・2区遺構外出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E IV	幅4ミリの沈線による横位区画。	表採
2	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	加曾利E II	幅6ミリの隆線による縦位区画。	表採
3	深鉢	胴部	黄褐	10YR5/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	勝坂	幅5～10ミリの隆帯による区画。下部環状に孔を持つと考えられる。	表採
4	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1ミリの砂粒	普通	LR	縦	加曾利E II	—	表採
5	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1ミリの砂粒	良	—	—	勝坂	口縁部2列の爪形の刻み列。その間をペン先状工具による波状の押し引き文を施文する。	975-970
6	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1～2ミリの砂粒	良	Lr	横縦	中期	幅2ミリの沈線により横位区画と二重の弧線状文。	975-970
7	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1～2ミリの白色粒	普通	—	横	勝坂	太さ4ミリの結節沈線が横位に廻る。	900-975
8	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	不良	—	—	勝坂	環状になる隆帯突起。幅6ミリの沈線を施文後、爪形文を施す。	985-995
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、金雲母	良	Lr	横	加曾利E III	幅10ミリの沈線による横位区画。胴部にも2条の沈線による弧線状区画。	975-970
10	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	横	加曾利E III	幅8ミリの隆線による横位・楕円区画。櫛状工具による縦位の波状文。	975-970
11	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅8ミリの沈線による楕円区画。	975-970
12	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E IV	口縁部横位の整形。幅4ミリの隆起線による横位区画。	970-970
13	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい小石、砂粒	普通	LR	横	加曾利E III	幅4ミリの隆線による横位・楕円・方形区画。	975-970
14	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒多い	不良	LR	—	加曾利E IV	太さ1ミリの沈線が波状口縁頂部から弧状に施文される。胴部には弧線を重ねて三日月状に文様を描く。	980-020
15	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、石英粒	普通	—	—	加曾利E	幅8ミリの沈線による横位・渦巻状区画。	975-990
16	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E IV	口縁部横位の整形。幅4ミリの隆起線による横・斜位の区画。	985-995
17	深鉢	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E III	幅8ミリの隆起線による楕円区画。	975-970
18	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	RL	縦横	加曾利E	幅7ミリの隆線による横位・渦巻状区画。	975-970
19	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	中期	口縁部2段口縁状になる。幅5ミリの棒状工具による沈線2本の縦位区画。その中を同工具で刺突状に文様を施文する。	980-990

1・2区縄文土器

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
20	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LR	横斜	加曽利E III	口縁部波状を呈し、幅6ミリの隆線による楕円区画。剥離あり。	975-970
21	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曽利E III	幅3～4ミリの沈線による縦位区画。	975-970
22	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曽利E III	幅3ミリの沈線による縦位区画。	975-970

第6章 出土遺物

III・3区縄文時代出土土器観察表

Ⅲ区J-10号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徵
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		称名寺～堀之内	太さ1～2ミリの沈線で口縁区画、縦位区画、斜線の順に施文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	—		称名寺～堀之内	口縁部に「8」字状の刺突と交互刺突文。胴部は太さ4ミリの沈線による「J」字文。区画内に涙滴状の刺突。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		堀之内	口縁部に孔を持つ突起。太さ2～3ミリの沈線による文様施文。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	口縁部に太さ4ミリの沈線が2条廻り、間にφ5ミリの円形刺突が施文される。
5	深鉢	口縁 胴部	黄橙	7.5YR8/8	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	太さ2～3ミリの沈線による文様施文。
6	注口	口縁 胴部	灰白	2.5Y8/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		堀之内	太さ2ミリの沈線による弧線文。
7	深鉢	口縁 底部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		称名寺～堀之内	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
8	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		堀之内	口縁部小波状になり、円形の刺突と横位沈線を持つ。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	口縁部に刺突列を廻らす。太さ4ミリの沈線による文様区画。「J」字文内にも涙滴状の刺突。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		堀之内	小波状口縁で円形の刺突。頸部に太さ3ミリの沈線による文様区画。
12	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線で「J」字文を描く。
13	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ5ミリの沈線による「J」字文区画。
14	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	太い隆線による楕円区画と渦巻文。
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	隆線による「∞」・楕円区画。
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	堀之内	頸部に太さ4ミリの沈線3条が廻る。「8」字状の貼付文。
17	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ4ミリの沈線が頸部に廻る。円形の刺突。
18	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利E	隆線による「∞」文を基調とした文様区画。区画内に列点。
19	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	横	堀之内	橋状の把手が付くが欠損している。内外面に沈線による楕円区画。
20	浅鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、 金雲母少量	良	—		加曾利E	口縁楕円区画。区画内縦位の沈線充填。
21	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		堀之内	外面無文。口縁内外面に楕円区画と「8」字状文。
22	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による円形文様区画。円形刺突。
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		堀之内	小波状を呈し、円形の刺突と孔を持つ。
24	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	不良	—		堀之内	太さ2ミリの沈線が頸部に廻る。「8」字状の貼付文。
25	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石多 い	良	—		後期	太さ4ミリの沈線が斜めに施文される。
26	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石	不良	—		堀之内	口縁部にφ10ミリの円形刺突と太さ3ミリの横位の沈線。
27	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	口縁部に刺突の加えられた隆線が廻る。
28	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		堀之内	φ7～8ミリの円形刺突。
29	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		堀之内	φ10ミリの円形刺突。赤色塗彩。
30	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	—		加曾利EⅢ	突起部に渦巻文。
31	壺	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	不良	—		堀之内	口縁に「8」字状の文を持つ橋状把手が4単位付けられる。
32	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	口縁部に円形の刺突と沈線文。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
33	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	幅4ミリの爪形文施文。
34	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石	良	—		堀之内	突起部に刺突と沈線による弧線。
35	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	砂粒	良	—		堀之内	突起頂部と内面に円形の凹み。
36	注口	注口部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		堀之内	ミガキ整形。
37	注口	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	—		堀之内	無文。
38	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒多い	普通	—		堀之内	頸部に沈線が廻る。「8」字状貼付文。
39	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		後期	頸部に太さ3~5ミリの沈線が廻る。外面にスス付着。
40	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による弧線。
41	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒多い	普通	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
42	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ4~5ミリの沈線による「J」字弧線文。
43	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	頸部に沈線が廻り「J」字文につながる。「8」字状の貼付。
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺~堀之内	無文で横位の整形痕。
45	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	砂粒、軽石粒	普通	—		称名寺~堀之内	頸部に太さ4ミリの沈線が廻る。横位の整形痕。
46	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	外面縦位のナデ整形。
47	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒、黒色粒	良	—		称名寺~堀之内	太さ3~4ミリの沈線による弧線文。
48	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	—		称名寺~堀之内	太さ2ミリの沈線が縦位の区画。
49	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺~堀之内	太さ3~4ミリの沈線による弧線文。
50	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	不良	—		堀之内	頸部に横位の沈線。粘土貼付。弧線と列点。
51	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画と刺突。
52	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
53	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	軽石粒多い	不良	—		称名寺~堀之内	太さ2~3ミリの沈線による格子目文。
54	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	太さ3ミリの沈線による弧線列点文。
55	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画と楕円区画。区画内に刺突。スス付着。
56	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
57	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	LR	縦	堀之内	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。
58	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	Lr	斜	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画と波状文。
59	深鉢	胴部	にぶい橙	2.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	爪形文を持つ隆線が横位に廻る。隆線による文様区画。
60	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	LR	横	勝坂	隆線上に縄文施文。
61	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RLR	斜	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
62	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	縦位の整形。
63	深鉢	底部	橙	7.5YR6/8	φ1~3ミリの小石	良	—		後期	無文。縦位の整形痕。
64	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		後期	縦位のミガキ整形。
65	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	—
66	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		後期	器面凸凹多い。
67	深鉢	底部	橙	7.5YR6/8	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形痕。
68	深鉢	底部	褐	10YR4/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	縦位の整形痕。凸凹多い。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
69	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形痕。
70	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの小石	普通	—		後期	—
71	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	細かい軽石粒	不良	—		後期	縦位の整形痕。
72	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい軽石粒	不良	—		後期	縦位の整形痕。
73	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい軽石粒、黒色粒	普通	—		後期	—
74	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—		後期	横・斜位の整形痕。
75	深鉢	底部	暗オリーブ 褐	2.5Y3/3	φ1～3ミリの小石	良	—		中期	櫛状工具による条線。
76	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	中期	横位の整形痕。
77	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		後期	整形痕。
78	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの小石	不良	—		後期	—
79	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい軽石粒	不良	—		後期	—
80	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
81	土製 円盤		褐	7.5YR4/3	φ1～3ミリの小石	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

Ⅲ区J-11号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曾利EV	断面三角の隆線で口縁部を区画。胴部は「X」・「J」字状に隆線施文。隆線文間に櫛状の沈線による条線文様。
2	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利EV	4単位のφ5ミリの刺突を持つ突起。太さ2～3ミリの斜格子目文を描いてから口縁部区画の横位沈線。
3	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	口縁部に6単位の突起。太さ3ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁 底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良	—		加曾利EV	口縁部を指頭圧痕を持つ隆線で区画する。胴部は太さ2ミリの沈線による斜格子目文。
5	深鉢	口縁 底部	黄褐	2.5Y5/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒、黒色粒	良	—		称名寺	口唇部にφ8ミリの円形刺突。胴部には太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。区画内に列点状の刺突文。
6	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内に涙滴状の刺突。4単位の波状口縁波頂部の口唇に沈線施文。
7	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
8	深鉢	口縁 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文が胴上半部に施文される。
9	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～5ミリの軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3～5ミリの沈線による「J」字文。区画内に細長い列点。
10	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。
11	深鉢	口縁 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	砂粒、黒色粒多い	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
13	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。文様区画内に棒状の刺突。
14	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。区画内刺突。
15	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ1～2ミリの沈線による「J」字文。区画内に列点文。
16	鉢	口縁 底部	浅黄	2.5Y7/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	口縁部4単位の突起と沈線による弧線。口縁部横位区画で3段の列点。
17	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺～堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
18	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、 黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
20	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線が「R」字状になる。
21	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。 区画内に列点。
22	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文と 区画内に涙滴状の刺突。
23	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様。
24	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様。刺突。 口唇部に円形の刺突。
25	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様。
26	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「R」字文。
27	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「R」字文。
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
29	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~5ミリの小石	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による文様施文。
30	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様施文。
31	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~5ミリの小石、 軽石粒多い	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様施文。
32	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様。
33	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線が「R」字状になる。
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「R」字文。
36	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利EV	5本歯の櫛状工具で鋸歯文を描く。82と84 と同一個体。
37	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石、 黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「R」字文。区 画内に刺突。
38	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利EV	口縁を沈線で区画し、胴部は櫛状工具で弧 線を描く。
39	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
40	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	普通	—		称名寺	無文。縦位の整形痕。胴部がややふくらむ。
41	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		後期	指頭による押圧痕。
42	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		称名寺~堀 之内	太さ2ミリの沈線による文様区画。
43	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		後期	口縁横位、胴部に縦位のミガキ整形。
44	浅鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		後期	無文。内面にスス付着多い。
45	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利EV	口縁部に微隆起線が廻る。
46	小鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		堀之内	無文。
47	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	横	堀之内	口縁部を横位の沈線が廻り区画する。小波 状の突起。
48	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		—	口縁部に太い縦位の沈線。
49	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画と刺突。
50	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	—		堀之内	沈線による楕円区画と「8」字状貼付文。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
51	浅鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画と「8」字状貼付文。
52	浅鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~5ミリの軽石粒	普通	—		後期	口縁部に刻みを持つ隆帯。
53	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		堀之内	小波状の突起部に孔を持つ。
54	両耳壺	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	—		称名寺~堀之内	橋状把手が付き、内面にはフタを受ける稜を持つ。
55	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様施文と刺突。
56	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—		堀之内	無文。小波状口縁にφ8ミリの孔を持つ。内面にフタの受けが付く。
57	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの小石	良	—		堀之内	小波状の突起部に孔を持つ。
58	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒多い	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による斜線。
59	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	突起部から橋状の把手になる。
60	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	口縁突起は側面に孔を持ち、内面は凹みを中心に同心円文。胴部は太さ2~3ミリの沈線による「J」字文。
61	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	突起内面に凹みと弧線。
62	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	内面に刺突と弧線。
63	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	突起内面に刺突と弧線。口縁部に横位の沈線。
64	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒	普通	—		堀之内	外側面に貫通する孔。内側面に刺突と弧線。
65	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	砂粒	良	—		堀之内	内面に刺突と弧線。
66	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		堀之内	側縁に孔を持ち橋状になる。内面刺突と弧線。
67	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		堀之内	内面に沈線による弧線。スス付着。
68	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの砂粒	良	—		堀之内	突起部から橋状の把手になる。スス付着。
69	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様施文。波頂部には円形の孔を持つ。
70	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	突起部から橋状の把手が付く。
71	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	円形の突起。
72	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	橋状把手の周囲を弧線が廻る。
73	注口	口縁	にぶい黄橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—		堀之内	口縁部に沈線による長楕円区画。
74	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒	普通	—		称名寺~堀之内	環状の把手。
75	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による弧線。「J」字文。
76	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様施文。文様の交点に粘土瘤を貼付け刺突を加える。
77	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による弧線。
78	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
79	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	LR	横	十三菩提	細い粘土紐を貼付ける。
80	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの小石	不良	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「∞」文。
81	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
82	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E V	櫛状の工具による格子目文。36と84と同一個体。
83	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	太さ2~3ミリの沈線による文様。底部近くは縦位の整形。内面にスス付着。
84	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E V	櫛状の工具による格子目文。36と82と同一個体。
85	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
86	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		後期	隆線で弧線を描く。刺突。
87	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E II	太さ3~4ミリの沈線で文様を描く。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
88	壺	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石多い	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画と涙滴状の刺突。
89	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。
90	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利EV	断面三角の隆線による文様区画。
91	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石	不良	—		後期	縦位のミガキ整形。
92	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	—
93	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい砂粒	普通	—		後期	縦位の整形。
94	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		後期	外面縦位の整形。
95	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		後期	縦位の整形。
96	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
97	深鉢	胴部 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	2～4ミリの沈線による縦位区画。区画内に列点。スス付着。
98	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～4ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	縦位のミガキ整形。内面にスス付着。
99	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	縦位の整形。
100	深鉢	底部	橙	5YR7/8	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
101	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	不良	—		後期	無文。全体に摩滅している。
102	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/6	細かい軽石粒、黒色粒	不良	—		後期	縦位の整形。
103	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	—
104	深鉢	胴部 底部	明黄褐	10YR7/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	太さ2ミリの沈線による文様区画。
105	深鉢	底部	橙	2.5YR6/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
106	深鉢	底部	橙	2.5YR6/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
107	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		後期	外面縦位の整形。
108	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの砂粒	普通	—		後期	縦位の整形。
109	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒多い	普通	—		後期	縦位の整形。
110	深鉢	底部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	縦位の整形。
111	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	縦位の整形。内面に炭化物付着。
112	深鉢	底部	橙	5YR7/8	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		後期	縦位の整形。
113	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
114	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
115	深鉢	底部	橙	2.5YR6/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	縦位の整形。
116	蓋	口縁	浅黄橙	7.5YR8/6	砂粒、軽石粒	良	—		後期	無文。内外面にスス付着。
117	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	横	堀之内	橋状把手。太さ4ミリの沈線による横位区画と「∞」文。
118	深鉢	胴部 底部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		堀之内	頸部に粘土紐による「8」字状の貼付。太さ2ミリの沈線による曲線文。
119	深鉢	胴部 底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による文様施文。
120	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
121	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒、黒色粒	不良	—		堀之内	太さ2～3ミリの沈線による渦巻文。
122	土製 円盤		灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒多い	普通	—		—	底部片転用。外縁を打ち欠き成形。
123	土製 円盤		浅黄橙	7.5YR8/3	φ1ミリの小石、黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
124	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR4/3	φ1ミリの小石	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

第6章 出土遺物

Ⅲ区J-14号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利EⅢ	口縁「∞」を基調とした文様。太さ6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒多い	普通	—		加曾利EⅢ	口縁に太い沈線と隆線による楕円区画。赤色塗彩。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1~5ミリの小石	良	LR	横	加曾利EⅢ	口縁部楕円区画。舌状の突起内面に渦巻文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、黒色粒	良	LR	横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円・渦巻文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石多い	良	RL	縦横	加曾利EⅣ	太さ5~6ミリの沈線による曲線。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリ小石、軽石粒多い	普通	LRL	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による半円状の区画。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒	良	—		諸磯c	半截竹管による平行沈線。棒状・ボタン状の貼付文。
8	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—		諸磯c	半截竹管による平行沈線。棒状・ボタン状の貼付文。
9	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利EⅢ	突起部から橋状の把手が付く。突起頂部は渦巻文。口縁部には楕円区画。
10	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。15と同一個体。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
12	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	加曾利EⅢ	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
15	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ6ミリの沈線による縦位の区画。10と同一個体。
16	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		加曾利E	条線。
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—		諸磯c	半截竹管による平行沈線。棒状・ボタン状の貼付文。
18	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	—		諸磯c	半截竹管による平行沈線。ボタン状の貼付。
19	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		中期	表面が剥落している。

Ⅲ区J-16号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	堀之内	太さ1~2ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	小波状口縁に太さ3~4ミリの沈線が廻る。波頂部にはφ7ミリの円形の刺突と弧線文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	後期	太さ2~3ミリの沈線を縦位に施文。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		後期	太さ3~4ミリの沈線を縦位に施文。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	太さ2ミリの沈線による垂線と弧線。
6	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		勝坂	太さ3~4ミリの沈線による同心円状の刻み。
7	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		中期	外面縦位のミガキ。

Ⅲ区J-18号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2~3ミリの沈線による「J」字文。文様内に涙滴状の刺突。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。文様間に涙滴状の刺突。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	Lr	縦	勝坂	頸部に太い隆線が廻る。
4	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線で「J」字文。スス付着。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの小石、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による文様区画。
7	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	波状口縁頂部から隆線が弧状に施文。太さ3ミリの沈線による「J」字文と刺突。
8	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利EIV	隆線で口縁部を無文帯と区画。橋状把手。
9	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1ミリの軽石粒多い	良	LR	縦 横	加曾利EIV	口縁部に断面三角の隆起線で無文帯と区画する。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文区画内に刺突。
11	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線で口縁部を区画する。区画内に刺突。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	口縁部に太さ3ミリの沈線が廻り、無文帯と区画する。スス付着。
13	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石多い	普通	—		勝坂	横位の平行沈線。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	波状口縁に円形の刺突。太さ3ミリの沈線による文様。
15	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	普通	—		後期	横位の整形痕。スス付着。
16	深鉢	口縁	赤	10R5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利EII	隆線による文様区画。
17	深鉢	口縁	灰白	5Y8/2	φ1～2ミリの砂粒	良	—		堀之内	側面に孔を持つ。内面は刺突と凹み。
18	深鉢	口縁	灰赤	7.5R6/2	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	突起部が双環状になる。
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石多い	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線を弧状に施文。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	良	—		後期	断面三角の隆線による弧線。
21	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの軽石粒	普通	LR	縦	中期	スス付着。
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	軽石粒、黒色粒	良	LR	縦	加曾利EIII	縄文が縦位に帯状に施文。
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	太さ3～4ミリの沈線で「X」字状に施文。
25	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	横	加曾利EIII	太さ3～4ミリの沈線が連弧状に施文。
26	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—		勝坂	幅10ミリの平行沈線による方形区画。区画内に斜線充填。
27	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線施文。
28	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの軽石粒	不良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。
29	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい黒色粒	普通	—		後期	横位の整形痕。
30	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	—		勝坂	太い隆線を「∞」状に貼付。赤色塗彩。
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	櫛状工具による条線。
32	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		後期	太さ2～3ミリの沈線による弧状の沈線。
33	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの黒色粒	普通	—		堀之内	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。
34	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	太さ5ミリの隆線による弧状の貼付。
35	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	称名寺	縄文帯と磨り消し縄文帯が縦位に分かれる。
36	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		後期	—
37	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの軽石粒	良	—		中期	縦位の沈線。
38	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		後期	内面にスス付着。
39	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ2ミリの沈線による縦位区画。内面にスス付着。
40	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石	良	—		後期	—
41	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		後期	—
42	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	細かい黒色粒	不良	—		後期	—

第6章 出土遺物

Ⅲ区J-20号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E V	4単位の波状口縁で舌状突起が付く。突起部は「∞」状の沈線文。頸部に横位の区画線。上下に連弧状の文様。
2	深鉢	口縁 底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1~5ミリの軽石粒	普通	—		後期	隆線による幾何学文。隆線の交点に円形の刺突が加えられる。
3	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	口縁にφ10ミリの刺突列。太さ4ミリの沈線による「U」状文。頸部に横位の整形痕。7と同一個体。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	黒曜石粒、小石	普通	—		堀之内	縦位の整形。
5	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利E III	太い隆・沈線による渦巻、楕円区画。
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの黒色粒	良	RL	横	加曾利E III	太い隆線で楕円区画。赤色塗彩。
7	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	口縁にφ10ミリの刺突列。太さ4ミリの沈線による「U」状文。頸部に横位の整形痕。3と同一個体。
8	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	口縁部を隆線で区画する。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁に隆線による文様区画。舌状突起。
10	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石多 い	不良	RL	縦 横	加曾利E III	「∞」を基調とした口縁楕円区画。胴部縦位の区画。舌状突起。
11	鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	不良	—		加曾利E	口縁に稜を持つ。
12	壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	口縁部に隆線が廻り、無文帯を区画する。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	黒色粒多い	普通	—		堀之内	波状口縁頂部にφ9ミリの円形刺突。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		後期	—
15	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	—		堀之内	突起部から橋状の把手が付く。突起頂部は渦巻文。口縁部には楕円区画と「8」字文。
16	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
18	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒多い	普通	LRL	縦	加曾利E II ~III	隆線2条による縦位区画。
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
20	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
21	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの黒色粒	普通	RLL	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの小石多 い	不良	RL	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画と波状の沈線が垂下する。
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	LRL LLR	横	加曾利E III	直前段合撚り。太さ5ミリの沈線による縦位区画。赤色塗彩。
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦 横	加曾利E III	口縁楕円区画。胴部沈線による縦位区画。
26	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	縦位のミガキ整形。
27	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの白色粒 多い	普通	—		加曾利E	—
28	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	外面をミガキ整形。
29	器台	脚部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利E	外面をミガキ整形。

Ⅲ区J-36号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E III	2単位の大型の中空把手と2単位の舌状把手が付く。隆線による口縁区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIV	5単位の波状口縁。隆線で口縁部を区画する。胴上半部は楕円・渦巻文で、胴下半に垂下する隆線。
3	深鉢	口縁 胴部	灰白	10YR8/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利EIV	太さ3～5ミリの沈線による「∩」「U」文。
4	深鉢	口縁 胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		加曾利E	楕状工具による波状文。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦 横	加曾利EIV	口縁に1単位の舌状突起が付く。口縁に沿って太さ6ミリの沈線が廻る。胴部は沈線による「U」文。磨り消し縄文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	良	RLR	横	加曾利EIII	隆・沈線による文様区画。
7	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	良	RLR	横	加曾利EIII	楕円区画と渦巻文。赤色塗彩。
8	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	RLR	横	加曾利EIII	太い隆・沈線による「∞」文を基調とした楕円区画。赤色塗彩。
9	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	LR	横	加曾利EIII	隆・沈線による「∞」文を基調とした楕円区画。
10	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒多い	良	Lr		勝坂	口縁部無文帯。撚糸。
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒	良	LR	縦	加曾利EIII	太さ4～6ミリの沈線による文様区画。
12	鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIV	口縁に太さ5～6ミリの沈線横位に廻る。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ5ミリの沈線による縦位区画と波状文。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIII	太さ8ミリの沈線による縦位区画と「∩」状文。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による楕円区画。
16	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利EIII	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画と「∩」状文。
17	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石	良	RI	斜	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線による「U」状文。
18	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利EII	幅6ミリの平行沈線による文様区画。
19	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	黒色粒多い	良	RL	横	加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 金雲母	良	—		阿玉台	沈線による波状文。隆帯には粘土紐接合痕が残る。
21	器台	器面 脚部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	脚部に3個の透かしを持つ。上面は摩滅の為か孔があげられる。
22	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～5ミリの小石	良	—		中期	外面を横位の整形。
23	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	Lr	横	加曾利EIII	太さ2ミリの沈線による縦位施文。土器の上端は輪積の部分で割れる。端部摩滅。

III区J-40号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	不良	RLR	縦	加曾利EIII	4単位の舌状突起。口縁部「∞」を基調とする文様。胴部太さ6ミリの沈線による縦位区画。
2	鉢	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		後期	口縁部を肥厚させ、指頭による凹線が廻る。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部無文帯。頸部に隆線を廻らし文様帯を区画する。
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線が口縁を廻り、胴部に縦位の沈線。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による縦位の施文。涙滴状の刺突。
6	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIII	波状突起に孔を持つ。口縁部楕円区画。
7	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの小石	普通	—		加曾利E	指頭による凹線が横位に施文される。
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		勝坂	波状口縁に刻みを持つ隆線が貼付される。
9	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	太さ2～3ミリの沈線が縦位に施文。
10	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	縦位の整形。
11	土製 円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	Lr	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

第6章 出土遺物

Ⅲ区J—53号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、 砂粒	不良	—		後期	無文。
2	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	7.5YR8/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。φ4~5ミリの円形刺突。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	隆線による対弧状の文様を持つ突起。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		堀之内	側面に孔を持つ突起。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
7	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石	不良	—		後期	太さ2~3ミリの沈線による縦位の施文。
8	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	不良	—		後期	無文。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4~5ミリの沈線とφ6ミリの円形刺突。
10	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石、砂粒	不良	—		後期	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画と刺突。
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		後期	若干の上げ底になる。
12	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—		後期	無文。
13	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		後期	若干の上げ底になる。
14	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	Lr		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。撚糸。
15	土製 円盤		褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	—		—	条線施文。外縁を打ち欠き成形。

Ⅲ区J—54号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	不良	LR	縦 横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円区画と渦巻文。胴部太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石	不良	LR	縦 横	加曾利EⅢ	口縁4単位の舌状突起。口縁部「∞」文が入り組む。胴部は沈線による縦位区画と波状文。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EⅣ	口縁部無文帯を断面三角の隆線で区画する。
4	深鉢	口縁	褐灰	10YR6/1	φ1ミリの黒色粒	普通	LR	縦 横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。
5	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。渦巻文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EⅢ	口縁楕円区画。突起内面にも「の」の字状に沈線施文。
7	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦 横	加曾利EⅢ	口縁部6単位の楕円区画。太さ5ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石多 い	普通	—		堀之内	小波状口縁に弧線施文。
9	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利EⅢ	口縁部に2条の沈線が廻りφ5ミリの刺突。
10	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1~2ミリの金雲母	普通	—		阿玉台	口唇部に刻み。
11	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利EⅢ	太い隆・沈線による楕円区画と縦位の沈線区画。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
13	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EⅢ	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
14	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石、軽石 粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
16	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1ミリの黒色粒	普通	—		勝坂	幅5ミリの半截竹管による平行沈線区画と刺突文。
17	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による垂線と「J」状文。
18	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E	—

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
19	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1ミリの砂粒多い	不良	—		中期	頸部に隆線施文。胴部は条線。
20	壺	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	横	加曾利EIII	口縁に孔を持つ鐔が廻る。胴部には太さ6ミリの沈線による弧線文。有孔鐔付土器。
21	耳飾		橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—		中期	径16ミリ、厚さ13ミリ、孔径2ミリ。
22	土製品	垂飾	橙	5YR6/6	φ1ミリの軽石粒	良	—		中期	方形の板状になる垂飾。指頭圧痕が見られる。

III区J—55号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LRL	縦 横	加曾利EIII	口縁部文様帯は「∞」を基調とした文様区画。口頸部は沈線により区画され無文帯となる。胴部は渦巻文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁部太い隆・沈線による楕円区画。胴部は太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	—		加曾利EIII	口縁部文様帯は「∞」を基調とした文様区画。胴部は太さ2ミリの沈線による縦位区画。地文条線。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIII	口縁に沈線による渦巻文。舌状突起。
5	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線が口縁を廻る。沈線による「∩」状の文様。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石、砂粒	普通	RL	横	加曾利EIII	太く浅い沈線による楕円区画。
7	鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	口縁部に浅い沈線が廻る。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁部太い隆・沈線で「∞」を基調とする楕円区画。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位区画。
9	小壺	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	—		中期	頸部に稜を持つ。側縁部に対になる把手があったが欠損している。縦位のミガキ整形。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの浅い沈線による縦位区画。
12	両耳壺	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利EIII	口縁部横位の整形痕。胴部は楕円区画と区画内縦位の沈線充填。
13	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	不良	LR	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの浅い沈線が縦位に施文される。
14	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	—		加曾利EIII	太さ2～3ミリの沈線による縦位区画。
15	深鉢	底部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利EIII	太さ3～5ミリの浅い沈線による縦位区画。
16	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	RL	縦	加曾利EIII	太さ2～3ミリの沈線による縦位区画。
17	器台	器面 脚部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E	脚部に6単位の透かしを持つ。上面は欠損している。

III区J—56号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦 横	加曾利EIV	口縁部に隆起線が廻る。2と同一個体。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの黒色粒	普通	LR	縦 横	加曾利EIV	口縁部に隆起線が廻る。1と同一個体。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	LR	横	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	波状口縁で隆線に爪形文を施し、楕円区画を作る。
5	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦 横	称名寺～堀之内	太さ3ミリの沈線による文様構成。円筒状の突起。
6	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1～3ミリの小石多い	普通	—		加曾利EII	口縁部文様帯には渦巻文。頸部文様帯には太さ3ミリの沈線による縦位区画。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
7	深鉢	胴部 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による楕円文。隆線間磨り消し縄文。
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、雲母	良	RL	縦	加曾利EII	隆線を波状に施文。
9	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
10	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦 横	称名寺	太さ4~5ミリの沈線による「J」字文区画。
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	横	称名寺~堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
13	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利EII~III	太い隆・沈線による渦巻文。
14	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	加曾利EIII	太さ5ミリの浅い沈線による垂線と渦巻文。
15	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	砂粒、軽石粒	普通	—	—	中期	無文。ミニチュア土器。 手捏ね土器。
16	深鉢	底部	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	普通	—	—	後期	無文。
17	耳飾り		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	不良	—	—	後期	側面に刺突と沈線。

III区J-74号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	加曾利EII	舌状突起部口縁に「∞」を基調とする文様区画。突起には大きな孔が開けられる。
2	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	—	—	諸磯c	幅3~4ミリの平行沈線を集合化させ施文する。ボタン・棒状の貼付文。
3	小形 深鉢	口縁 底部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	—	—	後期	1単位の突起と橋状把手が付く。
4	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/1	細かい砂粒	良	—	—	中期	粘土紐を組み合わせて突起としている。幅6ミリの沈線による施文。
5	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	中期	スス付着。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石、黒色粒	良	—	—	中期	口縁部に太さ4ミリの沈線が廻る。
7	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石、黒色粒	良	—	—	中期	波状口縁。横位の整形。
8	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、黒色粒	良	RL	横	加曾利EIII	太い沈線による文様区画。
9	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による区画。幅5ミリの平行沈線による波状線。
10	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦	中期	楕円区画。
11	深鉢	胴部	灰赤	2.5YR4/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利EII	隆・沈線による楕円区画。波状文。
12	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RLR	縦	加曾利E	隆線による縦位区画。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	LR	縦 横	加曾利E	太さ12ミリの隆線が貼付けられる。
14	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利E	沈線による渦巻文。
15	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線施文。
16	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—	—	中期	縦位の整形痕。
17	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	不良	RL	縦	中期	—
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	斜	加曾利E	—
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石	良	—	—	諸磯c	集合沈線施文。ボタン状の粘土貼付。
20	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒 多い	不良	LR	横	中期	太さ4~6ミリの沈線が縦位区画を作る。
21	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石	良	Lr	縦	中期	撚糸。
22	深鉢	底部	灰褐	5YR4/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	中期	—

Ⅲ・3区出土土器観察表

Ⅲ区J—93号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	不良	RLR	縦	加曾利EII	口縁部に沈線による楕円区画と渦巻文。区画内には交互刺突による連続「コ」の字文。頸部には太さ3～4ミリの沈線が横位に施文される。
2	深鉢	口縁 底部	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利EII	口縁2単位の波状。口唇部に刻み。
3	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	良	RL	横	加曾利EII	口縁部に沈線施文。頸部無文帯。胴上半には隆線による渦巻文。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	縦 横	加曾利EII	隆線による中空の突起。口縁部曲線文。頸部無文帯。胴部沈線による縦位区画。内面にスス付着。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利EII	頸部を隆線により区画。口縁部隆線による渦巻文と沈線による横位区画。胴部は沈線による連弧文。捺糸。
6	深鉢	口縁 胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの小石多 い	普通	Lr	縦	加曾利EII	隆線による渦巻と楕円区画。頸部文様帯は沈線により区画。沈線による波状線施文。捺糸。
7	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利EII	口縁部隆線による「∞」文。頸部無文帯。捺糸。
8	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	Lr	縦	加曾利EII	隆線と沈線による楕円区画。捺糸。
9	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利EII	隆線による口縁区画。隆線区画が接合部で中空の突起になる。頸部は沈線区画で無文帯を作る。
10	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EII	「∞」を基調とした文様区画。
11	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石、軽石 粒	良	RL	縦	加曾利EII	太さ6ミリの沈線による文様区画。
12	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～5ミリの小石、 石英	良	—	—	加曾利EII	幅5ミリの平行沈線と連続「コ」の字文が施文される。
13	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—	—	加曾利EII	幅6～7ミリの平行沈線と連続「コ」の字文。
14	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EII	幅7ミリの平行沈線と連続「コ」の字文。
15	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利EII	口縁部を隆線による楕円区画。沈線が充填される。内面にスス付着。
16	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EII	「∞」を基調とした文様区画。
17	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	勝坂	隆線と幅15ミリの爪形文施文。
18	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	勝坂	土器把手。沈線による「∞」文や沈線文様。
19	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～5ミリの小石、 金雲母	良	—	—	阿玉台	波状口縁頂部から隆線が垂下する。隆線は粘土の接合痕が残る。
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい黒色粒	良	—	—	堀之内	括れた頸部に太さ5～6ミリの沈線が横位に廻る。
21	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	加曾利E	横位のミガキ整形。
22	鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1ミリの小石多い	普通	—	—	中期	無文。
23	深鉢	胴部	褐灰	5YR4/1	φ1ミリの小石、砂粒	普通	—	—	加曾利E	太さ8～10ミリの隆線による弧線と渦巻文。
24	深鉢	胴部 底部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	斜	加曾利EII	太さ2～3ミリの沈線による縦位区画と波状線。スス付着。
25	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利EII	粘土紐と沈線を波状に垂下させる。捺糸。27と同一個体。
26	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	斜	加曾利EII	太さ3～4ミリの沈線による文様区画と波状文。
27	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利EII	粘土紐と沈線を波状に垂下させる。捺糸。25と同一個体。
28	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1ミリの軽石粒	良	RI	縦	加曾利EII	幅6ミリの平行沈線が横位に廻る。捺糸。
29	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E	隆線2条が横位に廻る。捺糸。
30	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利EII	隆線が横位に廻る。渦巻文。捺糸。
31	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E	捺糸。35と同一個体。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
32	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~2ミリの小石多い	良	—		加曾利E II	幅8ミリの平行沈線と連続「コ」の字文。
33	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ5~6ミリの隆線。地文に櫛状工具による波状線。
34	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E II	幅6ミリの平行沈線と連続「コ」の字文。
35	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。31と同一個体。
36	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E II	隆線による楕円区画と沈線による渦巻文。
37	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	幅8ミリの爪形文が横位に施文される。
38	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E II	底部近くに横位のミガキ。内面にスス付着。
39	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
40	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
41	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	Lr		加曾利E	撚糸。
42	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	不良	LR	横	加曾利E	—
43	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの軽石粒多い	良	—		中期	太さ3ミリの沈線が縦位に施文。縦位の整形痕。
44	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL?		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
45	土製円盤		灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	普通	RL		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
46	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	Lr		—	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
47	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/4	φ1ミリの軽石粒、金雲母	良	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
48	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
49	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	Lr		—	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
50	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	LR		—	外縁を打ち欠き成形。
51	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		—	尖底土器片転用。外縁を打ち欠き成形。
52	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
53	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	Lr		—	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
54	土製円盤		灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの小石	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-114号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利E IV	太さ10ミリの沈線による楕円区画。
2	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	良	RL	縦 横	加曾利E IV	太さ5ミリの沈線による「U」「∩」文。突起が付くが欠損している。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利E III	隆・沈線による渦巻、「∞」を基調とする文。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利E III	隆線による口縁部楕円区画と波状文。胴部は沈線による「H」字状の文様区画。8と同一個体。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	不良	LR	横	加曾利E III	太い隆・沈線による楕円区画。
6	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁隆線による半円状区画。頸部磨り消し縄文。胴部太さ6ミリの沈線による縦位区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
7	深鉢	口縁 胴部	暗赤灰	7.5R4/1	φ1~2ミリの小石、 金雲母	普通	Lr	縦	加曾利EII	口縁部横位の沈線と交互刺突による「コ」の字文。突起が付く。頸部には太さ3~4ミリの平行沈線による横位区画線が廻る。撚糸。
8	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	隆線による口縁部楕円区画と波状文。胴部は沈線による「H」字状の文様区画。4と同一個体。
9	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁楕円区画。胴部縦位区画。
10	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい軽石粒、黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIV	小波状口縁に突起を持つ。浅い沈線による蕨手状文様。
11	深鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	突起部に渦巻文。内面にも沈線による施文。舌状突起。
12	深鉢	口縁	褐	10YR4/4	φ1~3ミリの小石	不良	RL	横	加曾利EIII	太い沈線による渦巻文。突起内面にも「の」の字文を持つ。舌状突起。
13	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	RL	横	加曾利EIII	太い隆・沈線による楕円区画。
14	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利EII	隆線による文様区画。区画内に沈線が充填される。
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、 金雲母	普通	—		阿玉台	隆線による文様区画。隆線に沿って幅5ミリの爪形文。
16	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	砂粒	良	—		勝坂	太さ3~4ミリの沈線による弧線。
17	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	RL	横	加曾利E	太さ4~6ミリの浅い沈線による「J」字文。
18	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		勝坂	口縁部に幅5ミリの爪形文を2段重ねて施文。ペン先状の刺突文で文様区画と鋸歯状に施文。
19	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~2ミリの軽石粒	不良	—		加曾利EIII	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。
20	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—		中期	幅2~3ミリの平行沈線を乱雑に弧を描くように施文。
21	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	斜	加曾利EIII	隆・沈線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	斜	加曾利EIII	太さ7ミリの浅い沈線による弧線。
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	斜	加曾利EIII	太さ8~10ミリの浅い沈線による弧線。粘土紐の輪積部に接合のための刻みが残る。
25	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒 多い	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ6~8ミリの浅い沈線による縦位区画。
26	深鉢	胴部	黄褐	10YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	斜	加曾利EIII	太さ8ミリの沈線による縦位区画。
27	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	—
28	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ6ミリの浅い沈線による縦位区画と弧線。
29	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ6ミリの浅い沈線による縦位区画。
30	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EII	隆線による楕円区画と渦巻文。胴部には附加条縄文が施文される。
31	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの軽石 粒、片岩	普通	—		阿玉台	刻みを持つ隆線。平行沈線による鋸歯文。
32	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
33	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	砂粒	普通	—		加曾利EIII	櫛状工具による条線を施文。
34	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	櫛状工具による条線。
35	深鉢	胴部	暗オリーブ 褐	2.5Y3/3	φ1~3ミリの軽石粒 多い	普通	Lr	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線施文。撚糸。
36	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1ミリの小石、軽石 粒多い	普通	Lr	縦	加曾利EII	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。撚糸。
37	鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	横位の整形痕。
38	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—		後期	太さ2~3ミリの弧線。縦位のミガキ整形。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
39	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	押し引き沈線による文様。口唇部に刻み。
40	深鉢	底部	黄褐	10YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
41	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	縦位の整形。
42	深鉢	底部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの軽石粒多い	普通	—		中期	底面に焼成後の穿孔。
43	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5~6ミリの隆・沈線による縦位区画。
44	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
45	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線による縦位区画。
46	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	良	RL	横	加曾利E	—
47	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい金雲母	良	—		阿玉台	横位のミガキ。
48	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—		—	底部片転用。外縁を打ち欠き成形。
49	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	—		中期	底部片転用。外縁を打ち欠き成形。
50	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL		加曾利E III	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
51	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒多い	普通	RL		加曾利E III	外縁をミガキ成形。
52	土製円盤		黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒、金雲母	普通	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
53	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	不良	RL		加曾利E III	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

III区J-120号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、黒色粒	良	—		称名寺	太さ2~3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~2ミリの小石、石英多い	普通	RL	横	加曾利E IV	口縁部に太さ3ミリの沈線が廻り、無文帯と区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
4	鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい黒色粒	普通	—		後期	外面横位のミガキ。
5	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~5ミリの小石	普通	—		後期	—
6	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	—		称名寺	太さ4~5ミリの沈線による斜位・弧状の文様。

III区J-123号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	浅鉢	口縁 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		加曾利E	横位の整形。
2	浅鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~5ミリの石英、軽石粒	良	—		加曾利E	丁寧なミガキ整形。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		—	横位の整形。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	—		加曾利E	無文。
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E II	口縁に双環状の突起。「∞」を基調とした区画。縦位の沈線充填。撚糸。
6	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒多い	不良	LR	縦横	中期	太い沈線による文様区画と隆・沈線による弧線文。
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒多い	不良	—		勝坂	幅6~8ミリの平行沈線と隆線による文様施文。幅6ミリの連続爪形文。
8	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	太さ3～4ミリの沈線による楕円区画。φ3ミリの円形刺突。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	口縁との区画に低い断面三角の隆線と押圧。胴部は櫛状工具による条線。
11	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
12	浅鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E	口縁外縁に折り返しの段が見える。外面横位の整形痕。
13	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	横	加曾利E III	隆・沈線による楕円区画。
14	浅鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E	外面横位の整形。
15	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒多い	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	普通	—		加曾利E I	頸部に交互刺突文が廻る。
17	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	隆線と平行沈線による文様区画。半円状の爪形文と幅広の爪形文が施文される。文様間に三角の印刻。
18	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—		堀之内	太さ3～4ミリの隆線による渦巻文。
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	良	—		後期	太さ1ミリの沈線が垂下する。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
21	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		勝坂	隆線を横位に廻らす。ペン先状の刺突と連続爪形文。
22	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		中期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
23	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RI	縦	中期	幅6ミリの平行沈線による区画。
24	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	不良	RL	縦	加曾利E IV	太さ5ミリの沈線による縦位区画。30と同一個体。
25	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/4	細かい砂粒	不良	RI	—	—	太さ4ミリの沈線による文様。側縁と内面に孔を持つ。内面沈線による同心円文。突起。
26	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	細かい砂粒	良	—		後期	太さ5～6ミリの沈線による同心円文。双円の孔を持つ。
27	器台	脚部	赤黒	7.5R2/1	φ1～2ミリの小石	良	—		加曾利E	脚が4単位付けられる。
28	深鉢	底部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒多い	不良	RL	縦	加曾利E	—
29	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	—
30	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒、白色粒	不良	—		加曾利E IV	24と同一個体。
31	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
32	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石	良	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
33	土製円盤		灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
34	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
35	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	RL	—	—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-133号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	口縁部楕円区画と渦巻文。胴部太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部沈線による楕円・円形区画。太さ6ミリの沈線による縦位区画。区画内磨り消し縄文。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RLR	縦	加曾利E III	太さ5ミリの沈線による口縁部楕円区画。胴部縦位区画。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、 黒色粒	良	RLR	縦	加曾利EIII	口縁部に沈線2条廻り、間に円形刺突。口縁部沈線による連弧文。内面にスス付着。頸部沈線による区画。胴部「∩」文。磨り消し縄文。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RLR	縦	加曾利EIII	隆線による楕円・渦巻文区画。
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	隆線による楕円区画と渦巻文。
8	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、 黒色粒	不良	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁太い隆線による文様区画。胴部太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
9	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIII	太さ3~4ミリの沈線による口縁部楕円区画と渦巻文。区画内に丸棒状の工具によるφ5ミリの刺突。胴部は沈線による長方形区画。
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	RLR	縦 横	加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画、渦巻文。胴部太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
11	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利EIII	波状口縁突起に「∞」状の沈線。口縁部に楕円区画、渦巻文。胴部太さ6~7ミリの沈線による縦位区画。
12	深鉢	口縁 胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	口縁太い隆線による文様区画。胴部太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。28と同一個体。
13	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RI	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの沈線2条が口縁部に廻る。胴部に縦位区画。
14	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁楕円区画と渦巻。胴部太さ3ミリの沈線による縦位区画。
15	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利EIII	隆線による楕円区画と渦巻文。
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~5ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	隆線による「∞」文。40と同一個体。
17	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい軽石粒	不良	LR	横	加曾利EIII	隆線による楕円区画。太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
18	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
19	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
20	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	LRL	縦	加曾利EIII	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	太さ5~6ミリの浅い沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
24	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/8	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
26	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR7/8	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
27	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利EIII	隆線による口縁区画。
28	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	口縁太い隆線による文様区画。胴部太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。12と同一個体。
29	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの沈線による縦位区画。区画間に波状の沈線が施文される。
30	鉢	口縁 胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの小石多 い	良	RL	横	加曾利EIII	口縁横位のミガキ整形。
31	鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの軽石粒、黒 色粒	普通	—	—	加曾利E	縦位のミガキ整形。口縁に孔を持つ突起。51と同一個体。
32	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画。沈線が充填される。
33	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EIII	隆・沈線による口縁部区画。区画内に沈線が充填される。
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太い隆線による楕円区画。縄文充填。
35	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIII	太い隆線による楕円区画。区画内は縄文や沈線が充填される。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
36	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	RI	横	五領ヶ台	太さ4ミリの沈線による横位区画と鋸歯文。
37	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの小石	良	—	—	堀之内	口縁「く」の字状に屈曲する。沈線による楕円区画。
38	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1～2ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による楕円区画。区画内は隆線に沿ってペン先状の刺突。
39	壺	口縁	褐灰	5YR4/1	細かい軽石粒	良	—	—	加曾利E	横位のミガキ整形。有孔鋳付土器。
40	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～5ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利EⅢ	隆線による「∞」文。16と同一個体。
41	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	双環状の突起。沈線による文様施文。
42	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	—	渦巻状文様の中心に大きな孔を持つ。
43	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	中期	口縁部に隆線が廻り、交互に刺突を加える。
44	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利EⅢ	隆線による文様区画。区画内には沈線が充填される。
45	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	LR	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による縦位区画。
46	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	隆線を縦・横に貼付ける。粘土紐の接合痕を残す。地文に条線。内面にスス付着。
47	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E	頸部沈線による区画。連弧状に沈線施文。撚糸。
48	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	阿玉台	太い隆線とそれに沿ってペン先状の刺突。
49	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	隆線による楕円区画。刻みを持つ。区画内はペン先状刺突が充填される。
50	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR7/8	細かい砂粒	良	—	—	後期	太さ2ミリの浅い沈線で乱雑に施文。
51	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—	—	加曾利E	縦位のミガキ整形。口縁に孔を持つ突起。31と同一個体。
52	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
53	深鉢	底部	橙	5YR6/6	砂粒多い	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
54	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
55	深鉢	底部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利EⅢ	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
56	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	—
57	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利E	—
58	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	—
59	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	—
60	深鉢	底部	黒	10YR2/1	細かい白色粒多い	良	—	—	加曾利E	—
61	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	加曾利E	—
62	土製円盤		にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	—	—	沈線施文。外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
63	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	RL	—	中期	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
64	土製円盤		橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
65	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	Lr	—	中期	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。撚糸。
66	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
67	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～2ミリの小石	普通	RL	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
68	土製円盤		赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-139号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EⅢ	口縁部隆線による「∞」を基調とする文様区画。胴部に隆線による縦位区画。地文は櫛状工具による条線。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円区画。スス付着。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	太さ5~6ミリの隆線による文様区画。隆線に沿って幅4ミリの押し引き弧形文。
4	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~4ミリの小石、片岩	良	—		勝坂	横位の整形。
5	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部隆線による楕円区画と渦巻文。胴部太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
6	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利EII	頸部に交互刺突による連続「コ」の字文。
7	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒	良	—		後期	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
8	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	頸部に沈線が廻る。赤色塗彩。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
10	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石多い	良	—		諸磯c	幅3~4ミリの平行沈線による矢羽根横位施文。ボタン状貼付。
11	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの石英、雲母	良	—		阿玉台	幅12ミリの爪形文とφ3ミリの円形刺突列。
12	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	口縁部隆線による「∞」を基調とする文様区画。胴部太さ5~7ミリの沈線による縦位区画。
13	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	勝坂	撚糸。赤色塗彩。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。地文の縄文は附加条。
15	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒多い	良	RL	横	加曾利EIII	—
16	深鉢	胴部 底部	黄橙	10YR7/8	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
17	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		勝坂	幅6~7ミリの平行沈線と爪形文。
18	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画と波状線。
19	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		諸磯c	幅2~3ミリの平行沈線を集合化させ縦位区画と矢羽根状の文様。棒状の粘土紐貼付。
20	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	Lr	縦	勝坂	太さ5ミリの沈線による曲線文。交互刺突文。撚糸。
21	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石多い	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
22	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

III区J-147号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	—		堀之内	頸部横位に太さ2ミリの沈線が廻り円形の粘土貼付。胴部は「J」字などの曲線文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒、黒色粒	不良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~5ミリの軽石粒、砂粒	良	—		称名寺	小波状口縁。太さ2~3ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ1~2ミリの沈線による文様。
5	深鉢	胴部 底部	明赤褐	5YR5/8	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による縦位区画と曲線文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による横位施文。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	—		後期	太さ3ミリの沈線による口縁部文様区画。胴部斜線。
8	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		後期	縦位のミガキ整形。スス付着。
9	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画と列点文。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画と列点。突起部に孔を持つ。
13	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺～堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画と列点。
14	深鉢	口縁	褐灰	10YR6/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による文様区画。
15	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
16	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	不良	—		堀之内	太さ3ミリの楕円区画と横位の沈線。
17	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E V	9本の櫛状工具による弧線。
18	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒多い	良	—		称名寺～堀之内	外面太さ4ミリの沈線による縦位線。把手内面は弧線と孔を持つ。
19	浅鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による楕円区画と口縁波頂部に円形の沈線と孔を持つ。
20	浅鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	波状口縁に孔を持つ。
21	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺～堀之内	突起内面に弧線と円形刺突。
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒、 砂粒	不良	—		称名寺～堀之内	把手側縁に円形と刺突と孔を持つ。
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	—		堀之内	波状口縁突起に孔を持つ。太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
24	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—		称名寺	中空の突起になる。
25	壺	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	橋状の突起になる。隆線による口縁部区画。
26	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺～堀之内	橋状把手になる。把手頂部には円形の刺突と弧線。
27	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～5ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
28	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による楕円区画。区画内列点状の刺突。
29	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画。
30	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E V	櫛状工具による格子目文。
31	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
32	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		後期	縦位の整形。
33	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による鋸歯文様区画。
34	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		後期	—
35	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		後期	縦位のナデ整形。
36	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		後期	内面にスス付着。
37	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	—		後期	—
38	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	—		後期	—

III区J-153号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒 多い	良	RL Lr	縦	加曾利E II	口縁部2単位の突起。隆線による横位区画の中に渦巻文、弧線文が施文される。地文は口縁部RLの縄文。胴部Lrの撚糸文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、黒色粒	良	Lr	縦	加曾利E II	頸部には沈線による文様区画。胴部には波状文。撚糸。
3	深鉢	口縁 底部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RI	縦	加曾利E II	4単位の波状口縁突起。口唇部に「∞」状の沈線。頸部に太さ3ミリの沈線が直線と波状線で廻る。撚糸。
4	深鉢	口縁 底部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E II	口縁隆線による楕円区画。区画内に縦位の沈線。頸部に太さ3～4ミリの沈線が廻り区画する。胴部は縦位の区画線と波状線。
5	深鉢	口縁 胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	隆線による口縁部区画。地文条線。18と同一個体。
6	深鉢	口縁 胴部	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの小石	良	LR	横	加曾利E II	隆線による口縁部区画。頸部は沈線により無文帯を区画する。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		加曽利EII	隆線による区画と「∞」文。
8	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曽利EII	口縁部「∞」文と渦巻文を基調とする文様区画。撚糸。
9	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石多い	良	RL	縦横	加曽利EII	隆線による口縁部区画。頸部は太さ3~4ミリの沈線による区画。胴部は縦位区画。
10	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曽利EII	隆線による口縁部区画と「∞」文。区画内は沈線充填。頸部に沈線による区画線。
11	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曽利EII	粘土紐による渦巻文と区画。
12	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/8	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	普通	—		加曽利EII	隆線による楕円区画と「∞」文。
13	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曽利EII	太い隆線による文様区画。沈線充填。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	横	加曽利EII	太さ3~4ミリの沈線による楕円区画と渦巻文の突起。
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	砂粒	良	Lr	縦	加曽利EII	太い隆線による「∞」文と区画。撚糸。
16	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	太さ3~4ミリの沈線による文様施文。三角の印刻。
17	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、砂粒	不良	RL	横	加曽利EII	隆線による口縁部区画。「∞」文。
18	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~5ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曽利E	隆線による口縁部区画。地文条線。5と同一個体。
19	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	良	Lr	縦	加曽利E	太さ3~4ミリの沈線による波状文と楕円区画。撚糸。
20	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—		加曽利EII	口縁部楕円区画と渦巻文。
21	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの黒色粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文区画。
22	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、黒色粒	良	—		加曽利E	口縁部隆線による区画。口縁屈曲部に指頭圧痕。
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	良	—		加曽利E	頸部に刻みを持つ。
24	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	RLR	縦	加曽利EII	刻みを持つ隆線による「∞」文。頸部に波状の沈線が垂下する。
25	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの軽石粒、石英	不良	Lr	縦	加曽利EII	撚糸。
26	浅鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの小石、石英	普通	—		加曽利E	横位のナデ。
27	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~5ミリの小石、軽石粒多い	普通	—		加曽利E	太さ3~4ミリの沈線による渦巻文。刻みのある隆線による楕円区画。
28	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	Lr	縦	加曽利EI	太さ2~3ミリの沈線が頸部に廻る。撚糸。
29	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曽利EII	太さ3~4ミリの横位区画と波状文。
30	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	Lr	縦	加曽利E	隆線が2条胴部に廻る。撚糸。
31	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曽利E	太さ8ミリの隆線に刻みを持つ。胴部条線。
32	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曽利E	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画。撚糸。
33	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曽利EII	平行沈線による文様区画。撚糸。
34	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	良	—		加曽利E	隆線による楕円区画。
35	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曽利E	頸部に隆線が廻る。
36	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曽利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画と波状の垂線。
37	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	普通	RL	縦	加曽利EII	—
38	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦	加曽利E	—
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曽利EII	太さ3~4ミリの沈線による頸部横位区画。胴部にも縦位区画線。
40	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		中期	幅4ミリの平行沈線による方形区画。
41	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	Lr	縦	加曽利E	撚糸。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
42	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		中期	幅6～7ミリの平行沈線による縦位施文。
43	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	Lr	縦	中期	撚糸。
44	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
45	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～8ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		中期	—
46	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曾利E	—
47	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		—	底部片転用。
48	土製円盤		黒褐	10YR3/1	φ1～2ミリの軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
49	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
50	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1ミリの小石、金雲母	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
51	土製円盤		黒褐	10YR3/1	φ1～2ミリの軽石粒、石英、金雲母	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

III区J—155号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～5ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	横	中期	隆線と沈線による渦巻文。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒	不良	—		中期	隆線と平行沈線による文様施文。
3	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒多い	普通	LR	横	中期	隆線と平行沈線による文様施文。
4	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	中期	太さ2ミリの沈線による縦位区画。

III区J—157号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RLR	縦	加曾利E III	4単位波状口縁。口縁に2列の円形刺突列。口縁部に沈線による連弧文。頸部沈線による横位区画。胴部「∩」文。磨消し縄文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦	加曾利E III	口唇部にφ5ミリの刺突。口縁部に2条の平行する波状線。胴部に縦位区画。
3	深鉢	口縁 胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部「∞」を基調とした楕円区画。胴部沈線による縦位区画。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、白色粒	良	LRL	縦 横	加曾利E III	口縁部を沈線で区画し、隆線による楕円区画。胴部は太さ7ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E III	口縁部楕円区画と渦巻文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、白色粒	良	RL	縦	加曾利E III	口縁部に「∞」を基調とする楕円区画。胴部沈線による縦位区画。
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部「∞」状の文様区画。胴部には太さ4ミリの浅い沈線による縦位区画。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～6ミリの軽石粒多い	普通	RL	縦	加曾利E III	隆・沈線による「∞」を基調とする楕円区画。胴部沈線による縦位区画。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	横	堀之内	口縁に小突起。突起部から太さ3ミリの沈線が垂下する。14・15と同一個体。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	LRL	縦	加曾利E III	波状口縁頂部に孔を持つ。口縁部に楕円区画。舌状突起。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの白色粒	良	LRL	縦	加曾利E III	隆・沈線による楕円区画。
12	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石多	良	RL	横	加曾利E	口縁部に渦巻形の突起。
13	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利E III	口縁部「∞」を基調とした楕円区画。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	横	堀之内	口縁に小突起。突起部から太さ3ミリの沈線が垂下する。9・15と同一個体。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	横	堀之内	口縁に小突起。突起部から太さ3ミリの沈線が垂下する。9・14と同一個体。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
16	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		中期	波状口縁に渦巻文。
17	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LRL	縦	加曾利E III	隆・沈線による楕円区画。胴部に沈線による縦位区画。
18	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒多い	良	—		加曾利E III	口縁部「∞」を基調とする楕円区画。胴部に沈線による縦位区画。
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	口縁部楕円区画。胴部は太さ8ミリの浅い沈線による縦位区画。
21	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	太さ8ミリの浅い隆線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	良	LR	縦	加曾利E III	口縁を太さ8ミリの浅い沈線と断面三角の隆線で区画。胴部は太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
24	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
25	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	不良	LR	横	加曾利E III	太さ3ミリの浅い沈線による縦位区画。
26	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
27	浅鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	隆線が廻り、沈線が縦位に施文される。
28	浅鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	「∞」を基調とする楕円区画。胴部に条線施文。29と同一個体。
29	浅鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	「∞」を基調とする楕円区画。胴部に条線施文。28と同一個体。
30	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	小波状口縁突起。頸部には「8」字状貼付。太さ4ミリの沈線が頸部に廻り、胴部に渦巻を持つ。
31	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RI	縦	中期	太さ8ミリの隆線が垂下する。撚糸。
32	深鉢	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		中期	太い沈線が垂下する。底部近くは横位のミガキ整形。
33	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
34	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~4ミリの石英多	普通	LR	縦	加曾利E	—
35	深鉢	底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの小石	良	—		中期	—
36	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
37	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—		焼町	双円状の突起。隆線に刻みを持つ。
38	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1~5ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。φ4ミリの円形刺突。
39	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1ミリの軽石粒	良	—		—	横位の整形。
40	深鉢	底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		—	縦位の整形痕。
41	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
42	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。外面にスス付着。
43	器台	脚部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~5ミリの軽石粒	良	—		中期	縦位の整形。
44	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	普通	—		—	指頭圧痕。ミニチュア土器。
45	土製円盤		橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
46	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
47	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
48	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。
49	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		—	沈線が縦位に施文される。外縁を打ち欠き成形。

III・3区出土土器観察表

III区J-158号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIII	隆線による楕円区画と渦巻文。舌状突起。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部「∞」を基調とする渦巻文。胴部沈線による縦位区画。赤色塗彩。
3	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～5ミリの軽石粒 多い	普通	LR	縦 横	加曾利EIII	隆線による「∞」を基調とした区画。胴部は太さ6～8ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利EIII	隆線による「∞」を基調とした区画。舌状突起。
5	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利EIII	太さ5ミリの浅い沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利EIII	口縁部楕円区画。
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	頸部に沈線による区画。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	不良	RL	横	加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画。
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		阿玉台	口縁折り返して肥厚する。幅3ミリの爪形文による弧線。
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	RI	縦	加曾利EII	隆線2本による半円区画。撚糸。
11	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	不良	RLR	縦	加曾利EIII	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利EIII	隆線による楕円区画。区画内沈線縦位に充填。
13	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	普通	—		中期	口縁部に刻みを持つ隆線が波状に貼付される。
14	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆・沈線による文様。
15	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		加曾利E	—
16	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
17	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	縦位の整形。
18	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	縦	加曾利E	—
19	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	良	—		加曾利E	細い縦位の沈線。

III区J-161号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	不良	—		加曾利E	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石 粒、黒色粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。矢羽根状沈線。

III区J-162号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～5ミリの小石	良	RL	横	加曾利EII	口縁部隆線による区画。渦巻文突起。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EII	隆線による楕円区画。区画内に沈線充填。頸部無文帯。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利EII	隆線による楕円区画。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利EII	隆線2本による楕円区画。
5	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利EIII	口縁楕円区画。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EII	口縁部隆線による区画。波状文。
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RLR	縦	加曾利EIII	太さ2ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石多 い	不良	Lr	縦	加曾利E	隆・沈線による楕円区画。撚糸。
9	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		加曾利EII	隆線による楕円区画と渦巻文。
10	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ3～4ミリの沈線による波状文。撚糸。
11	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		中期	条線が縦位に施文される。

第6章 出土遺物

Ⅲ区J-178号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁底部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LRL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による「∞」を基調とした区画。頸部に幅狭の無文帯。胴部は渦巻文などが施文される。
2	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	LRL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による「∞」を基調とする渦巻文。胴部沈線による縦位区画。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、砂粒	不良	RL	縦	加曾利EⅢ	口縁波頂部に渦巻文、楕円区画。
4	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR2/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。胴部に縦位の沈線。14と同一個体。
5	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	RL	縦横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。胴部太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利EⅢ	口縁部沈線による縦位区画。
7	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EⅢ	太い隆線による渦巻文。
8	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部楕円区画。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	加曾利EⅢ	口縁部渦巻文。舌状突起。
10	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~4ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	口縁部楕円区画。胴部は太さ5ミリの沈線による縦位区画。
11	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
13	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
14	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。4と同一個体。
15	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの白色粒	普通	—	—	中期	隆線による楕円区画。地文は条線。
16	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	横	中期	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画とこれを連結する弧線。17・18・23と同一個体。
17	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	横	中期	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画とこれを連結する弧線。16・18・23と同一個体。
18	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	斜	中期	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画とこれを連結する弧線。16・17・23と同一個体。
19	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	—	—	中期	底部片転用。
20	土製円盤		灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—	—	—	外縁を丁寧なミガキ成形。
21	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
22	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	普通	RLR	縦	加曾利EⅢ	口縁部楕円区画。
23	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	横	中期	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画とこれを連結する弧線。16~18と同一個体。

Ⅲ区J-180号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	加曾利EⅢ	太さ4ミリの沈線による「∩」区画。区画内は条線が施文される。
2	深鉢	口縁胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	RL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆・沈線による楕円区画と渦巻文。胴部は太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。外縁にスス付着。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による「∞」文。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画と渦巻文。
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~3ミリの小石、砂粒	良	RL	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による渦巻・楕円区画。胴部に太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒多い	不良	LR	横	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	加曾利EⅢ	太い隆線による口縁部区画と渦巻文。
8	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石	良	—	—	中期	口縁部に刺突列施文。
9	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの石英、金雲母	普通	—	—	阿玉台	隆線による横位区画。粘土紐を「V」字状に貼付ける。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
10	両耳壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E III	頸部に太さ4～6ミリの沈線が廻る。
11	両耳壺	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒多い	良	—	—	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線による弧線。有孔鐳付土器。
12	両耳壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	口縁部に隆線が廻る。有孔鐳付土器。
13	両耳壺	口縁 胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E III	頸部に隆線による縄文帯区画。胴下半には櫛状の沈線。
14	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	—	幅7～8ミリの櫛状工具による渦巻文。
15	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E III	口縁にφ5～6ミリの沈線による刺突。
16	深鉢	口縁	黄褐	10YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	隆・沈線による口縁部区画と沈線による縦位区画。
17	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E II	隆線による楕円区画。区画内沈線充填。
18	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	加曾利E III	口縁部隆線による楕円区画。区画内斜線充填。
19	深鉢	口縁	赤	10R5/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	加曾利E III	隆線による口縁部楕円区画と渦巻文。区画内沈線充填。
20	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/6	細かい黒色粒	不良	—	—	加曾利E	太さ1～2ミリの沈線による縦位施文。
21	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1～5ミリの小石、軽石粒	不良	RI	横	加曾利E	太さ5～6ミリの沈線による横位施文。三角刺突列。撚糸。
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	不良	RL	横	加曾利E	口縁部隆線による楕円区画。胴部沈線による斜線。
23	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E III	隆線による楕円区画と渦巻文。胴部に太さ4ミリの沈線による縦位区画。
24	深鉢	胴部	黄橙	7.5YR7/8	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
25	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ6～10ミリの沈線による縦位区画。
26	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	普通	Lr	横	加曾利E III	太さ5～6ミリの浅い沈線による文様区画。撚糸。
27	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	Lr	横	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
28	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	細かい黒色粒	良	—	—	加曾利E	太さ6ミリの浅い沈線による連弧文。
29	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの小石多い	普通	RL	縦横	中期	縄文原体を縦・横に施文して羽状縄文を作る。
30	鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	太さ10～12ミリの浅い沈線が廻る。補修孔。
31	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	中期	幅4ミリの平行沈線を重ねて曲線を描く。
32	深鉢	底部	褐	7.5YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	良	—	—	中期	—
33	深鉢	胴部 底部	褐	7.5YR4/6	φ1～5ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E III	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
34	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—	—	加曾利E	太さ1ミリの細い沈線による条線。
35	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの浅い沈線による縦位区画。
36	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい黒色粒	良	RI	縦	加曾利E II	幅5～6ミリの平行沈線による文様区画。撚糸。
37	深鉢	底部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	縦位のミガキ整形。
38	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利E	細い条線。
39	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	加曾利E III	太さ4～5ミリの沈線が縦位に施文。
40	土製円盤		にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
41	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	RI	縦	加曾利E	外縁を打ち欠き成形。撚糸。

III区J-181号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	LRL	縦	加曾利E III	口縁部半円状の区画。胴部縦位区画。
2	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～5ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E III	口縁部楕円区画。胴部縦位区画。
3	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E II	口縁部無文。頸部に沈線による楕円区画。区画内を縦位の沈線が充填。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
4	鉢	口縁	にぶい橙	5YR7/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	口縁部隆線による楕円区画と渦巻文。
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	LRL	縦	加曾利EⅢ	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画と縦波状文。
6	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円・渦巻区画。胴部太さ6ミリの沈線による縦位区画。
7	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円区画。胴部太さ6ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円区画。
9	浅鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1～3ミリの小石	良	—		加曾利EⅢ	横位のミガキ整形。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	Lr	斜	加曾利EⅡ	口縁部突起欠損。隆線による楕円区画。撚糸。
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	波状口縁。半截竹管の端部による押し引き沈線と波状の平行沈線。
12	両耳壺	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E	橋状把手。
13	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—		称名寺	側縁に孔を持つ。内面沈線による同心円文。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	—	加曾利EⅠ	頸部に隆線が横位に廻る。撚糸。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ4ミリの沈線で縦位区画。
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。文様内に刺突が加えられる。
17	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利EⅠ	隆線による渦巻文。撚糸。
18	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
19	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様施文。下半部縦位のミガキ。スス付着。
21	深鉢	底部	淡黄	2.5Y8/3	φ1～3ミリの小石	良	—		—	—
22	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—		加曾利EⅢ	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
23	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	普通	LRL	縦	加曾利EⅢ	沈線による縦位区画。
24	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	不良	Lr		加曾利E	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。撚糸。

Ⅲ区J-188号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部に隆線による「∞」文。胴部隆線による縦位区画と渦巻文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦横	加曾利EⅢ	口縁部に円形刺突列。口縁に太さ8ミリの沈線による連弧文。頸部無文帯。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		焼町	刻みを持つ隆線による弧線。突起から弧線が施文される。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	普通	—		阿玉台	隆線による「X」字状の文様。

Ⅲ区J-191号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	両耳壺	口縁 底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EⅣ	断面三角の隆線で口縁部無文帯を区画する。胴下半は条線。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—		後期	太さ4～5ミリの沈線による文様施文。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	Lr	横	加曾利EⅢ	太い隆線による口縁部区画。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	加曾利EⅣ	太さ5～8ミリの沈線が口縁部無文帯を区画する。赤色塗彩。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	LR	縦	加曾利EⅣ	断面三角の隆線による縦位区画。
6	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EⅤ	太さ3ミリの沈線による楕円・「J」字区画。縄文部と磨り消し縄文部に分かれる。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	φ5ミリの刺突と矢羽根状の沈線。
8	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	加曾利EⅤ	隆線が口縁に廻り、口縁部無文帯を作る。胴部に隆線による縦位区画。磨り消し縄文。
9	鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利E	条線施文。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
10	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E	—
11	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	—
12	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	加曾利E	縦位の整形痕。
13	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-200号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E V	断面三角の隆線による弧線文。
2	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—	—	加曾利E III	浅い沈線が縦位に施文される。
3	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	中～後期	指頭圧痕。高台状の底部。

III区J-216号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	両耳壺	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～5ミリの軽石粒	不良	RL	横	加曾利E III	口縁部隆線による楕円区画。区画内に縄文施文。胴部は条線。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	LR	縦横	加曾利E III	口縁部に太さ4ミリの沈線が廻る。
3	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	口縁部に断面三角の隆線が弧状に廻る。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部に太さ12ミリの浅い沈線が廻る。半円状の刺突。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	—
6	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	断面三角の隆線による渦巻文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	隆線による弧線。
8	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ6ミリの沈線による縦位区画。

III区J-228号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦横	加曾利E IV	太さ6～8ミリの浅い沈線による「∩」「U」文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部隆線による楕円区画。胴部太さ5～6ミリの浅い沈線による縦位区画。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	中期	太い隆線と沈線による曲線。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	—	加曾利E	隆線による弧線。撚糸。
5	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5ミリの浅い沈線による縦位区画。
6	土製品		にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	良	—	—	—	底面は平らで、上面はスリ鉢状に凹む。
7	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	加曾利E	横位のミガキ整形。
8	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	良	LR	横	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
9	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—	—	後期	縦位の整形痕。底面欠損。

側道3区住居跡出土土器

側道3区1号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	不良	RL	縦横	加曾利E V	隆線による口縁部横位区画。胴部長楕円文様。口縁部文様の交点には突起。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石多い	普通	LR	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線による文様区画。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	LR	縦横	後期	太さ5~8ミリの沈線による横位区画。無文帯と縄文帯を作る。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	良	LR	縦横	称名寺	太さ3ミリの沈線により「J」字文を描く。
6	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
7	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの軽石粒	不良	RL	横	称名寺	太さ5ミリの沈線による文様区画。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—	—	中~後期	横位の整形と突起。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
10	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画と列点。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—	—	堀之内	隆線と沈線で対弧状の文様。円筒形の突起。
12	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	LR	縦横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。橋状把手。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	縦横	堀之内	太さ5ミリの沈線による文様区画。φ6ミリの円形刺突。螺旋状の突起。
14	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	勝坂	—
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	中期	—
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	RL	横	中期~後期	隆線による弧線。
17	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	称名寺	太さ5ミリの沈線による方形区画。
18	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	良	—	—	中~後期	縦位のミガキ整形。
19	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	後期	縦位の整形。
20	粘土塊		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	—
21	垂飾		橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	後期	粘土紐を棒状にしている。
22	土製品		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	—	—	中期	赤色塗彩される。中央に貫通する孔を持つ。三角壟形土製品。
23	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	中期	高台状になる底部の転用。
24	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
25	土製円盤		橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
26	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
27	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区2号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E I	口縁部橋状の突起。半円状の区画に沈線充填。頸部には太さ5ミリの浅い沈線が廻る。胴部には鋸歯状の沈線。撚糸。
2	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	良	Lr	縦	加曾利E I	隆線による楕円区画。区画内に縦位の沈線。撚糸。
3	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/8	φ1~5ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	口縁部隆線による波状の区画。撚糸。
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	隆線による楕円区画。区画間に渦巻。撚糸。
5	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/8	φ1~5ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E I	口縁部に隆線による半円状の区画。頸部に沈線による横位区画。撚糸。
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~5ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E I	口縁部隆線による横位区画。隆線波状施文。
7	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E I	口縁部隆線による区画。区画内沈線による波状文充填。撚糸。
8	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~5ミリの軽石粒多い	不良	RI	横	加曾利E I	口縁部隆線による半円状の区画。太さ3ミリの沈線による縦位区画と縦の波状線。
9	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E I	口縁部隆線による区画。縦位・渦巻の沈線。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
10	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	RL	横	加曾利E I ～II	隆線による楕円区画と渦巻文。
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利E I ～II	隆線による口縁部区画。縦位に隆線施文。
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E I	隆線による口縁文様区画。
13	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい軽石粒	良	—		加曾利E I ～II	隆線による楕円区画。区画内沈線充填。渦巻文。
14	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1ミリの軽石粒	良	—		加曾利E I	口縁部無文。頸部に隆線が鋸歯状に貼付される。
15	浅鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利E I	横位のミガキ整形。
16	浅鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曾利E I	横位のミガキ整形。
17	浅鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E I	横位のミガキ整形。赤色塗彩。
18	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	口縁部楕円区画。沈線が充填される。突起部は円筒状になる。撚糸。橋状突起。
19	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの白色粒	良	—		加曾利E II	隆線による区画。区画内沈線充填。環状の突起。
20	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	沈線により口縁部を区画。区画内三角印刻とペン先状刺突。
21	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	RL	横	加曾利E I ～II	隆線による文様区画。突起。
22	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		加曾利E II	口縁隆線による区画。区画内沈線充填。
23	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの石英、 雲母	良	—		阿玉台	耳タブ状の突起。
24	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E II	隆線による三叉状の突起。
25	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	刻みを持つ隆線。幅広の爪形文。スス付着。橋状把手。
26	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E I	隆線による渦巻と突起。
27	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—		勝坂	隆線による楕円区画。区画内沈線充填。
28	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	太さ3ミリの爪形文を鋸歯状に施文。
29	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒多い	良	—		加曾利E II	隆線による口縁部半円区画。区画内沈線充填。胴部に太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
30	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	加曾利E I	隆線による文様区画。
31	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E I	隆線による波状文。
32	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。33と同一個体。
33	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。32と同一個体。
34	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E	—
35	深鉢	底部	橙	7.5YR6/4	φ1～5ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E I	—
36	深鉢	胴部 底部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RI	縦	加曾利E I ～II	撚糸。
37	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E I	撚糸。
38	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E I	条線。
39	深鉢	胴部 底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E I ～II	内面にスス付着。
40	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E II	撚糸。
41	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい白色粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	隆線による文様区画。撚糸。
42	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E I	撚糸。
43	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—		勝坂	隆線に沿って幅6～8ミリの爪形文、平行沈線文。半円文が施文される。
44	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による斜線文。
45	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良	—		堀之内	太さ3～4ミリの横位の沈線。
46	浅鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～5ミリの小石、 軽石粒多い	普通	—		中期	—
47	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	中期	—
48	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	太さ8ミリの沈線による波状文が垂下。
49	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E II	—

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
50	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～5ミリの小石、片岩	普通	RL	縦	—	—
51	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石多い	不良	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
52	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒多い	良	Lr	縦	加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位施文。撚糸。
53	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
54	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
55	土製円盤		にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
56	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの石英多い	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
57	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
58	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
59	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
60	土製円盤		橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区3号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	不良	LR	横	堀之内	太さ4ミリの沈線が口縁部に廻る。小波状部に円形の刺突。胴部に「∩」状の文様。2と同一個体。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	不良	LR	横	堀之内	太さ4ミリの沈線が口縁部に廻る。小波状部に円形の刺突。胴部に「∩」状の文様。1と同一個体。
3	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	口縁に沈線による渦巻文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	波状口縁突起に沈線による「C」字形の文様。突起にはφ12ミリの孔。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	LR	縦	堀之内	隆線による楕円文。太さ4～5ミリの沈線施文。
6	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	中期	隆線による渦巻文。
7	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	横	加曾利E IV	橋状把手。
8	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区4号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—	—	後期	太さ3ミリの沈線による「J」字文。文様の間を条線が波状に施文される。
2	深鉢	口縁 胴部	暗褐	10YR3/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	口縁内面に沈線が廻る。外面には刻みを持つ隆線が1条廻る。太さ3ミリの沈線による楕円区画。区画内を磨り消し縄文にする。
3	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利E II	太い隆線2本による「∞」文。
4	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/8	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	—	—	加曾利E II	隆線による渦巻、楕円区画文。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。18と同一個体

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	横	堀之内	口縁に2段の刺突を持つ隆線が2段に廻る。隆線間に「8」字状の隆線。太さ2ミリの沈線による横位文様区画。8と同一個体。
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	太い隆線に刻みを持つ楕円区画。区画内条線充填。
8	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	横	堀之内	口縁に2段の刺突を持つ隆線が2段に廻る。隆線間に「8」字状の隆線。太さ2ミリの沈線による横位文様区画。6と同一個体。
9	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	堀之内	刻みを持つ隆線が2条施文され、円形の刺突が加えられる。
10	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	条線施文。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	—	—	中~後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。
12	注口(壺)	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい黒色粒	良	—	—	後期	口縁部に隆・沈線で多段の横位区画。区画内にφ1ミリの刺突。14と同一個体。橋状把手。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	LR	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による弧線。
14	注口(壺)	口縁 胴部	褐	10YR4/4	φ1~2ミリの小石	良	—	—	後期	太さ2ミリの沈線施文。橋状把手が付く。12と同一個体。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ2~3ミリの沈線による横位区画と波状文。撚糸。
16	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい黒色粒	良	LR	横	堀之内	太さ2~3ミリの沈線による文様区画。
17	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文様。
18	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。5と同一個体。
19	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒 多い	不良	LR	横	中期	—
20	深鉢	底部	暗赤褐	5YR3/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—	—	後期	底面に網代痕。外面ミガキ整形。
21	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1~3ミリの軽石粒 多い	良	—	—	後期	外面ミガキ整形。
22	土製 円盤		橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区5号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明黄褐	2.5Y7/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部「∞」を基調とする文様区画。胴部太さ5ミリの沈線による縦位区画。舌状突起。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	堀之内	太さ5~6ミリの沈線による「∞」文。文様間に沈線が充填される。
3	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	太い隆線に爪形文。
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E IV	隆線が口縁部に廻り無文帯を区画する。
5	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ3~5ミリの沈線による文様区画と渦巻文。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	堀之内	隆・沈線による曲線文。
7	深鉢	口縁	褐	10YR4/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	—
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部を太さ3~4ミリの沈線が廻り無文帯を区画する。沈線下をφ5ミリの刺突。
9	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E II	頸部に刻みを持つ隆線で区画する。縄文は直前段合撚り。
10	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	中期	縦位の整形。
11	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	—	外面を打ち欠き成形。

第6章 出土遺物

側道3区6号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	加曾利E I	口縁部刻みのある隆帯と楕円突起により区画する。交互刺突による連続「コ」の字文。太さ5ミリの沈線が頸部を区画し、胴部は沈線が大きく波状に施文される。
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	加曾利E I	橋状になる大形の突起と「∞」を基調とした渦巻文の把手。頸部には縦位の沈線と隆線。
3	鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの石英、 金雲母	良	—	—	阿玉台	外面横位のミガキ整形。
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~4ミリの片岩、 金雲母	普通	—	—	阿玉台	隆線による頸部区画とペン先状の刺突文。
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	口唇部に沈線が廻る。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石 粒、黒色粒	良	—	—	加曾利E II	隆線による区画。区画内太さ2ミリの沈線充填。
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利E II	隆線による楕円区画。渦巻文。
8	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	堀之内	隆線による弧線。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい小石、軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による楕円区画。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による縦位区画と列点。
11	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	RL	縦横	後期	太さ3ミリの沈線による口縁区画。楕円区画。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LRL	横	加曾利E III	太さ3~5ミリの沈線による縦位区画。
13	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	RLR	縦	加曾利E	—
14	注口 部	注口 部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—	—	堀之内	横位の整形。
15	土製 円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
16	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区7号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	良	RI	縦	加曾利E I	口縁部隆線区画。頸部は隆・沈線による区画で、撚糸が施文される。胴部は隆線に刻みを持ち方形区画をする。
2	深鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	RI	縦	加曾利E II	口縁部隆・沈線による区画。「∞」文。撚糸。3と同一個体。
3	深鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	RI	縦	加曾利E II	口縁部隆・沈線による区画。「∞」文。撚糸。2と同一個体。
4	鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	加曾利E I	口縁部に太さ2ミリの沈線と交互刺突による連続「コ」の字文。
5	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい黒色粒	不良	—	—	後期	太い隆線による曲線文。
6	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
7	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	細かい軽石粒	良	—	—	後期	横位のミガキ整形。
8	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—	—	堀之内	細い条線が縦位に施文。
9	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	RI	横	加曾利E I	隆線による渦巻状の突起。撚糸。
10	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	後期	凹みを持つ隆線が縦位に施文される。
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの石英、 雲母	良	—	—	中期	口縁が肥厚し幅8ミリの平行沈線による押し引き文。幅6ミリの平行沈線が鋸歯状に施文される。
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、 金雲母	良	—	—	阿玉台	幅5ミリの平行沈線と波状線。
13	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	細かい小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	太さ3ミリの沈線が頸部に廻る。口縁部は隆線による弧線。撚糸。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	良	—	—	三十稲場	幅3~4ミリの刺突が全面に施文される。
15	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
16	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	撚糸。
17	鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	中期	横位の区画。赤色塗彩。
18	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	中期	条線施文。

III・3区出土土器観察表

側道3区8号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部 底部	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EII	太さ2ミリの沈線による縦位区画と波状文。渦巻文。
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利EII	隆線による渦巻文。撚糸。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	沈線による楕円区画。沈線が充填される。舌状突起。
4	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	細かい砂粒	普通	—	—	堀之内	粘土紐を円形に貼付け刺突。沈線による弧線。
5	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	中期	横位のミガキ整形。
6	浅鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	中期	—
7	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/4	φ1～3ミリの小石、片岩	普通	Lr	縦	加曾利E	隆線による頸部横位区画。撚糸。
8	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	太い隆線による弧線文。
9	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	加曾利EI	側縁に三角状の突起。平行沈線横位施文。
10	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	不良	—	—	後期	縦位整形痕。
11	鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—	—	加曾利E	頸部に刺突列。隆線による文様。
12	深鉢	摘み	黒褐	7.5YR2/2	細かい砂粒	良	—	—	後期	摘み部に双環状の突起が付く。動物を思わせる意匠をする。
13	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	中期	縦位の整形。
14	深鉢	底部	赤褐	5YR4/8	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	中期	—
15	浅鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	後期	縦位の整形。
16	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	撚糸。
17	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの石英	普通	—	—	—	爪形文。外縁を打ち欠き成形。
18	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区9号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利EIII	口縁に5単位の長楕円形の区画。区画間に渦巻状の文様。胴部は太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利EIII	隆線による楕円区画と渦巻文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利EIII	太い隆線による渦巻文。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	加曾利EIII	隆線による口縁区画と渦巻文。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石、石英	良	—	—	加曾利EIII	沈線による横位区画と弧線。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	Lr	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による横位区画と矢羽根状文。
7	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太い隆線による口縁部文様区画。胴部は太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	横	—	—
9	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石	良	—	—	堀之内	口縁部に太さ1～2ミリの沈線が廻る。口縁内面にも沈線が廻る。
10	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒	不良	—	—	堀之内	太さ3ミリの沈線が3条頸部に廻る。
11	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒多い	良	—	—	堀之内	太さ2ミリの沈線による対角線文様を作る。
12	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	普通	—	—	阿玉台	無文。
13	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部隆線による楕円区画。胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。
14	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	太さ2～3ミリの沈線を縦位に施文。
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒多い	普通	RL	縦	加曾利EIII	太い隆・沈線による文様区画。赤色塗彩。
16	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～5ミリの軽石粒多い	不良	—	—	—	無文。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
17	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	胴上部にφ4ミリの刺突。太さ7ミリの沈線2条を対にして連弧文を2段施文。撚糸。
18	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画。
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
20	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RLR	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
21	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ7~8ミリの沈線による縦位区画。
23	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	LRL	縦	加曾利E III	太さ4~6ミリの沈線による縦位区画。
24	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	RLR	縦	加曾利E III	太さ1~2ミリの沈線による縦位区画。
25	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石	普通	LR	横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様施文。
26	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—	—	後期	縦位のミガキ整形。
27	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石、 黒色粒	良	—	—	後期	縦位のミガキ整形。
28	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石多 い	不良	—	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
29	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
30	土製 円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
31	土製 円盤		灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒多い	普通	RL	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
32	土製 円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	中期	外縁を打ち欠き成形。
33	注口 部	注口 部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	—

側道3区10号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E III	口縁隆線による楕円区画。胴部太さ5~6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E II	隆線による渦巻文。頸部に隆線による区画。撚糸。舌状突起。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E II	太い隆線による楕円区画。
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E II	隆線による楕円区画。撚糸。
5	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの小石	良	—	—	中期	刻みを持つ隆線と太さ8ミリの沈線による横位の文様区画。
6	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	中期	—
7	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石、 金雲母	良	RL	横	加曾利E	沈線による方形区画文。
9	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E II	撚糸。
10	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	LR	縦	加曾利E III	太さ2ミリの沈線が縦位に施文。
11	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ2ミリの沈線が縦位に施文。
12	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	普通	RL	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
13	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの石英	不良	LR	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区11号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/3	φ1~2ミリの小石	良	LRL	縦	加曾利E III	隆線による口縁部楕円区画が10単位施文される。口縁部舌状突起は4単位。胴部は太さ4~5ミリの沈線による縦位の区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	加曾利E	頸部に突起と交互刺突文による横位区画。口縁部無文。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、雲母多い	普通	—		阿玉台	隆線による文様区画と押し引きの沈線による曲線文。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	RI	横	加曾利E II	隆線による「∞」文。頸部を隆線で区画。撚糸。
5	鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	横位のミガキ整形。口縁部に鈔が廻る。
6	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~5ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利E III	口縁隆線による「∞」文。胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。
7	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒多い	不良	RI	横	加曾利E	口縁部に交互刺突文。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E	隆線による半円状の区画。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒、金雲母	良	—		阿玉台	口縁部隆線による横位区画。櫛状の工具による波状文。
10	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		中期	太さ3ミリの沈線による口縁横位区画。区画内に波状の沈線施文。
11	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの白色粒	良	—		加曾利E	口縁に浅い沈線が廻る。
12	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		中期	隆線を「X」字状に貼付けた突起。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利E II	口縁部隆線による楕円区画。隆線による突起。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	押し引きの沈線による弧線。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	RLR	縦	加曾利E III	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による波状文。
17	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	—		勝坂	刻みを持つ隆・沈線による渦巻文。
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	隆線による楕円区画。
19	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	太さ4~5ミリの沈線による文様区画。
20	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	沈線による斜線、弧線。
21	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	LR	横	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	太さ5ミリの沈線による文様区画。
23	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石	普通	LRL	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。

側道3区12号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E II	口縁部隆線による「∞」文。頸部は沈線により区画され無文帯になる。胴部沈線による縦・斜位の文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	—		加曾利E II	口縁部隆線による半円区画と「∞」文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	隆線による渦巻文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E II	太さ3ミリの沈線による横位と縦位区画。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E I	口縁部突起。沈線による渦巻文。
6	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E	口縁屈曲し沈線が廻る。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E II	隆線による「∞」文。
8	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	隆線による文様区画。
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E I	口縁交互刺突による連続「コ」の字文。渦巻文が向かい合い突起になる。
10	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		中期	隆線による渦巻文。
11	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒多い	不良	—		加曾利E II	隆・沈線による区画。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	LR	縦	加曾利E	隆線が横位に廻り口縁部無文帯を作る。橋状把手。
13	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	沈線による渦巻状の文様に刻みを加える。中空の突起。
14	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	刻みのある隆線と幅12ミリの爪形文。平行沈線。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
15	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E	太さ3ミリの沈線による円形区画と縦位区画。
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石、 石英	良	LR	縦	加曾利E III	太さ4~6ミリの浅い沈線が縦位に施文される。
17	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E II	太い隆線による文様区画。
18	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E II	口縁部沈線による区画。頸部無文帯。
19	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	RI	縦	加曾利E	撚糸。
20	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの石英、 金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による区画線と幅5ミリの平行沈線による押し引き文。
21	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの小石	普通	RI	縦	加曾利E	撚糸。
22	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利E	隆線が波状に垂下する。撚糸。
23	深鉢	胴部 底部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒、黒色粒	普通	—	—	加曾利E	条線による縦位の沈線。
24	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。区画間に鋸歯状の文様。
25	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
26	土製 円盤		橙	7.5YR7/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
27	土製 円盤		灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区13号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	浅鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒 多い	良	—	—	中期	横位のミガキ整形。
2	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/1	φ1~2ミリの軽石粒 多い	良	—	—	後期	隆線に爪形文を施文。隆線が部分的に突起状になる。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	φ1~6ミリの軽石粒 多い	普通	Lr	縦	加曾利E II	隆線による渦巻文。撚糸。
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	口縁部隆・沈線による方形区画。
5	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	中期	撚糸。
6	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒、 黒色粒	不良	—	—	勝坂	幅10ミリの爪形文とペン先状刺突。
7	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~5ミリの石英	良	Lr	縦	中期	太さ8ミリの隆線による刻み。撚糸。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒、 黒色粒	良	—	—	加曾利E II	隆線による楕円区画。区画内に太さ4ミリの沈線で渦巻文施文。
9	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒、 石英多い	不良	—	—	勝坂	幅6ミリの爪形文、鋸歯文施文。
10	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ5ミリの沈線による文様区画。撚糸。
11	土製 円盤		赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの小石	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
12	土製 円盤		黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの小石	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
13	土製 円盤		黒	7.5YR2/1	φ1~2ミリの石英、 金雲母	良	—	—	阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
14	土製 円盤		黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区14号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—	—	後期	縦位のミガキ整形。

III・3区出土土器観察表

側道3区15号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	LR	縦 横	加曾利E III	口縁部5単位の舌状突起。「〇」を基調とする楕円区画。胴部は太さ4～5ミリの沈線による縦位区画と波状文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁に太さ3～4ミリの弧線。胴部にφ3ミリの沈線が廻る。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	隆線による口縁部区画。胴部は太さ5ミリの沈線による方形区画。

側道3区16号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	普通	Lr	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
2	壺	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～5ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文区画。
3	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	不良	LR	横	中期	頸部に隆線が廻る。結節縄文。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい黒色粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	隆線による文様区画と幅8ミリの連続刺突文。
7	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		中期	縦位の整形痕。
8	土製品		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	沈線による幾何学文。土版。
9	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	不良	LR		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。
10	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい黒色粒	普通	RL		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。

III区土坑出土土器

III区J-5号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利E III	口縁部「〇」と楕円区画を持つ。胴部太さ6ミリの浅い沈線による縦位区画。4単位の舌状突起。
2	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	口縁部に並行して橋状に突起が付く。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による文様区画と結節沈線。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、 白色粒	良	—		加曾利E II	太い隆線による文様区画と渦巻。弧線が充填される。
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、 砂粒	普通	—		加曾利E II	隆線による渦巻と「〇」文。スス付着。舌状突起。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による横位区画。
7	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	Lr	縦	中期	太さ8ミリの刻みを持つ隆線が垂下。これに並行して太さ5ミリの沈線施文。撚糸。
8	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	—		勝坂	幅5ミリの平行沈線と爪形文施文。
9	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 金雲母多い	良	—		阿玉台	—

III区J-6号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	胴下半部。
---	----	----	-----	---------	-------------------	---	----	---	------	-------

III区J-15号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	灰黄	2.5Y6/2	細かい砂粒、黒色粒	不良	LR	縦	加曾利E IV	口縁に2単位の橋状把手。断面三角の隆線が口縁部に廻り無文帯を区画する。胴部は太さ2～3ミリの沈線により対弧状の文様を描く。
---	----	----------	----	---------	-----------	----	----	---	---------	---

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E V	緩やかな小波状口縁で波頂部から隆線が弧状に施文される。
3	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線で口縁・胴部の文様帯を区画する。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E V	口縁部無文帯。隆・沈線による区画。胴部に「∩」「U」、対弧状の文様。磨り消し細文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、黒色粒	普通	RL	横	加曾利E V	口縁部に断面三角の隆線が廻り区画する。胴部には隆線による弧線。
6	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦横	加曾利E V	小波状口縁。頂部側縁に突起が付き、そこから太さ3~4ミリの沈線が弧状に施文される。
7	浅鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石、軽石粒	良	—	—	勝坂	頸部に隆線が廻る。刻みを持つ隆線で楕円を描く。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による楕円区画。
9	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による縦位区画。
10	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による縦位区画。
11	深鉢	胴部	黒	2.5Y2/1	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線による縦位区画。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒多い	普通	LR	縦	加曾利E	—
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	太さ1~2ミリの沈線による弧線。
14	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	中期	高台付底部。内面にスス付着。
15	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	中期	高台付底部。表面に剝落多い。
16	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	—	外面を打ち欠き成形後ミガキ。
17	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	加曾利E	—
18	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	後期	貝輪状土製品。

Ⅲ区J-19号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	普通	—	—	堀之内	口縁部に円形の刺突と横位の沈線。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線が縦位区画と対弧状に施文。スス付着。
3	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい小石、軽石粒	良	—	—	後期	太さ4ミリの沈線による弧線。赤色塗彩。

Ⅲ区J-22号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦横	加曾利E IV	口縁部に隆線が廻り無文帯を区画する。
2	両耳壺	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	中期	外面を整形。
3	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	中期	—

Ⅲ区J-24号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太い隆・沈線による楕円区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E III	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区J-25号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	黒色粒多い	普通	RL	縦横	加曾利E III	口縁部太さ10ミリの沈線による半円状の文様区画。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/8	φ1~2ミリの黒色粒	不良	RL	縦	加曾利E III	太さ5~6ミリの沈線を縦位区画。
3	鉢	底部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1ミリの小石多い	不良	—	—	—	無文。

Ⅲ区J-27号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	堀之内	頸部に沈線が廻る。内面に折り返し口縁。
2	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/8	φ1ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	頸部に太さ4~5ミリの沈線が2条廻る。頸部に円形の刺突。

Ⅲ区J-28号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	口縁部を隆・沈線で半円状に区画。
2	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	太さ3ミリの沈線による文様区画。

Ⅲ・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒、黒色粒	良	—		後期	縦位のミガキ整形。内面にスス付着。
4	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y4/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		後期	無文。

Ⅲ区J-29号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1～2ミリの軽石粒 多い	良	RL	縦	後期	—
2	深鉢	胴部	明黄褐	10YR7/6	φ1ミリの軽石粒多い	普通	RL	縦	中期	—

Ⅲ区J-30号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦 横	中期	低い隆線が箍状に廻る。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ4～5ミリの沈線による楕円区画。
3	深鉢	口縁 胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦 横	加曾利EIV	太さ6ミリの沈線による「 \cap 」「 \cup 」文。磨り消し縄文。

Ⅲ区J-37号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部 底部	明黄褐	10YR7/6	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利EIII	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画と波状線。胴上半では地文に縄文施文。下半部に条痕施文。
---	----	----------	-----	---------	--------	----	----	---	---------	--

Ⅲ区J-38号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺	口縁部に太さ4ミリの沈線が廻る。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	口縁部に円形の刺突と沈線が廻る。
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	良	—		加曾利EIII	隆線が廻る。条線による波状文。

Ⅲ区J-51号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	口縁部にφ6～7ミリの円形刺突。
2	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	LR	縦 横	加曾利EIV	口縁部に隆起線が廻り無文帯を区画する。

Ⅲ区J-57号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利E	太さ5ミリの浅い沈線による弧線。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	横	加曾利EIV	坏状になる突起。口縁に沿って刺突列が施文される。
3	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦	加曾利EIV	太さ2～3ミリの沈線による対弧文。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	RL	横	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線による対弧文。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利E	—
6	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	—
7	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	—		勝坂	太さ8ミリの隆線が2条廻る。
8	深鉢	底部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	—		中期	—

Ⅲ区J-58号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	口縁部「 ∞ 」を基調とした文様区画。胴部は太さ6ミリの沈線による縦位区画。
2	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒 多い	良	—		勝坂	波状口縁で台形の突起に孔を持つ。
3	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1ミリの小石、軽石 粒	良	LR	縦	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区J-59号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	横位の沈線と円形刺突。櫛状工具による波状文。
---	----	----	-------	---------	------------	----	---	--	---------	------------------------

Ⅲ区J-63号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	加曾利EIII	突起部に「 \updownarrow 」状文。口縁楕円区画。
2	深鉢	口縁	暗褐	10YR3/3	φ1～5ミリの石英、 金雲母	普通	—		阿玉台	爪形文による楕円区画と沈線充填。
3	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	LR	横	加曾利EIII	楕円区画。
4	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1～2ミリの小石	良	—		—	φ12ミリの孔を持つ。
5	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	細かい砂粒	良	—		諸磯c	幅2～3ミリの平行沈線による矢羽根状文。棒状の貼付文。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
6	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	細かい砂粒	良	—		加曾利E III	太さ4～6ミリの沈線による矢羽根状文。
7	土製円盤		明黄褐	10YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

Ⅲ区J-64号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E II	隆線による楕円区画。区画内に縦位の沈線充填。頸部無文帯。
2	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RLR	縦	加曾利E III	太さ7ミリの沈線による縦位区画。3～5と同一個体。
3	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RLR	縦	加曾利E III	太さ7ミリの沈線による縦位区画。2・4・5と同一個体。
4	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RLR	縦	加曾利E III	太さ7ミリの沈線による縦位区画。2・3・5と同一個体。
5	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RLR	縦	加曾利E III	太さ7ミリの沈線による縦位区画。2～4と同一個体。

Ⅲ区J-65号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	RL	縦横	加曾利E V	波状口縁。口縁部無文帯に微隆起線で区画。太さ2ミリの沈線による対弧文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦横	加曾利E V	口縁部無文帯を隆起線で区画。胴部に垂線で縄文帯と無文帯を区画する。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E IV	太さ6～7ミリの沈線による口縁部区画と胴部対弧文。
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	波状口縁頂部に渦巻文。口縁部には円形の刺突列。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	LR	横	加曾利E IV	口縁部無文帯を微隆起線で区画する。
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	RL	縦横	加曾利E IV	口縁部隆線による区画。
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、砂粒	良	RL	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による縦位区画。
9	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		加曾利E IV	外面縦位の区画。

Ⅲ区J-66号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～5ミリの小石	良	—		勝坂	口縁部に幅5ミリの爪形文と平行沈線が横位に廻る。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	RL	横	加曾利E III	太い沈線による楕円区画。

Ⅲ区J-67号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	RI	縦	勝坂	胴部中程に隆帯が籠状に廻る。撚糸。
---	----	----------	-------	---------	----------	----	----	---	----	-------------------

Ⅲ区J-70号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利E III	—
---	----	----	---	----------	------------	---	----	---	----------	---

Ⅲ区J-71号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	口縁部に円形刺突と対弧状沈線。平行線。
---	----	----	------	----------	-----------	---	---	--	-----	---------------------

Ⅲ区J-73号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦横	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画。
2	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E IV	口縁部に断面三角の隆線が二重に廻る。
3	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦横	加曾利E IV	断面三角の隆線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E IV	縦位の整形痕。底面に穿孔。底面は剝離し、上げ底状になる。

Ⅲ区J-75号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1～3ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様施文。スス付着。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	普通	LR	横	加曾利E IV	口縁部を微隆起線で無文帯と区画。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利EIV	口縁を微隆起線で無文帯と区画。
8	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	—
9	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。赤色塗彩。
10	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線で「J」字文。
11	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
13	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		—	底部片転用。

III区J-76号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E I	口縁部に隆線による双環状突起。頸部が張り出す。交互刺突による連続「コ」の字文。
2	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利EIV	太さ2～3ミリの沈線による楕円区画。

III区J-77号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦 横	後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	不良	—		後期	沈線による渦巻文。3と同一個体。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの小石、軽石粒	不良	—		後期	隆線と条線施文。2と同一個体。

III区J-78号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		中期	スス付着。
2	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ6ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E III	太さ4～6ミリの沈線による文様区画。

III区J-79号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	頸部に隆線と幅7ミリの爪形文。
2	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	太さ2～3ミリの沈線による縦位区画。撚糸。

III区J-85号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		中期	横位の整形。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/3	φ1～3ミリの小石	良	—		—	平行沈線と連続「コ」の字文。
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦 横	—	—
4	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		勝坂	隆線による双円状の突起。5と同一個体。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		勝坂	隆線による突起。4と同一個体。
6	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		勝坂	幅7ミリの爪形文と3ミリのペン先状刺突文。
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL	縦 横	加曾利E	太さ15ミリの隆線が廻る。

III区J-87号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E III	太い沈線による口縁部区画。
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	—		加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線が波状に施文される。

III区J-90号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1ミリの小石	普通	—		後期	太さ2ミリの沈線施文。
---	----	----	-----	---------	---------	----	---	--	----	-------------

III区J-92号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～2ミリの小石	良	—		後期	横位の整形痕。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	不良	RL	横	加曾利E	—
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	砂粒	良	—		加曾利EIV	断面三角の隆線による弧線。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。

III区J-94号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E	眼鏡状の突起が付く。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、金雲母	良	—		阿玉台	隆線に沿って幅8ミリの爪形文が施文される。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	隆線による弧線。

III区J-96号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	口縁部椀区画。胴部は太さ5~6ミリの浅い沈線による縦位区画。
2	鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの片岩	良	—		勝坂	沈線による椀区画。
3	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		中期	口縁に爪形文が廻る。沈線が条線状に引かれる。
4	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1~3ミリの小石、 金雲母	普通	—		阿玉台	爪形文を横位に施文。
5	壺	胴部 底部	赤褐	5YR4/8	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	胴上部の括れ部に太さ5ミリの沈線による文様施文。撚糸。
6	器台	器面 脚部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、黒色粒	良	—		加曾利E	脚部に4単位の透かし。上面摩滅している。
7	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	φ1~3ミリの軽石粒 多い	不良	—		加曾利EII	幅5~6ミリの平行沈線と交互刺突による連続「コ」の字文。
8	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの小石	良	—		中期	外面縦位の整形。内面にスス付着。
9	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1ミリの小石	良	—		加曾利EIII	太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。

III区J-97号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~5ミリの小石	良	—	—	—	横位のミガキ。
---	---	----	---	----------	-----------	---	---	---	---	---------

III区J-98号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	良	—		堀之内	太さ2~3ミリの沈線による弧線と刺突。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		興津	口縁に縦位の沈線列。その下を横位の区画線。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	良	LRL	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの沈線による縦位区画。

III区J-99号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの軽石粒 多い	普通	—		中期	口縁部肥厚させる。
2	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	中期	太さ8ミリの隆線が廻る。
3	深鉢	胴部	褐	10YR4/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	中期	太さ8ミリの隆線が廻る。
4	土製 円盤		明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒	普通	RL		中期	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
5	土製 円盤		暗赤褐	2.5YR3/4	φ1~2ミリの軽石粒	不良	LR		中期	外縁を打ち欠き成形。

III区J-100号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	小波状口縁から隆線が垂下する。隆線は接合痕を残す。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	沈線による文様区画。
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英	良	RL		前期	原体圧痕で文様を描く。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒	普通	RL	横	前期末	幅4ミリの平行沈線が口縁部に廻る。波状線施文。
5	鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	口縁に浅い沈線が廻る。
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	突起側面に孔を持つ。
7	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	良	—		勝坂	隆線に沿って幅12ミリの爪形文と弧線文。
8	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	LR	横	北白川下層	結節浮線による円形文様。
9	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	横位の整形。

III区J-101号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	暗褐	10YR3/4	φ1~3ミリの小石多 い	良	—		五領ヶ台	太さ5ミリの沈線で頸部を区画する。幅8~10ミリの沈線施文。文様間に印刻。
2	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		焼町	沈線を並行させ渦巻文を描く。

III区J-102号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	RL	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石 粒、黒色粒	良	RL	横	後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文と刺突。
5	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	—		称名寺	側縁に孔を持つ突起。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	中期	頸部に隆線が廻る。撚糸。

Ⅲ・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	LR	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
Ⅲ区J-103号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		加曾利EIV	隆・沈線による楕円区画。区画内に沈線縦位施文。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	太さ2ミリの沈線による文様区画。
3	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	外縁を打ち欠き成形。太さ3ミリの弧線施文。
Ⅲ区J-104号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	RL	横	五領ヶ台	太さ3ミリの沈線による口縁区画と鋸歯文。
Ⅲ区J-105号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ6ミリの浅い沈線による楕円区画。
2	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
Ⅲ区J-106号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。区画内に隆線に沿って幅6ミリの押し引きの平行沈線が施文される。
2	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	隆線による突起。側面に孔を持つ。
Ⅲ区J-107号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	堀之内	口縁部に隆線が廻る。太さ3ミリの沈線による幾何学文。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ6～7ミリの沈線による弧線文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	隆・沈線による口縁文様区画。胴部には浅い沈線による文様区画。
Ⅲ区J-108号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	RL	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。隆線が垂下する。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL	縦	堀之内	隆線が垂下する。
3	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1～2ミリの小石	不良	RL	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
Ⅲ区J-109号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの石英、金雲母	普通	—		阿玉台	波状口縁頂部に3単位の突起。
Ⅲ区J-110号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒多い	普通	—		加曾利E	—
Ⅲ区J-111号土坑出土土器観察表										
1	鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	RL	斜	加曾利EI	頸部に交互刺突による連続「コ」の字文。沈線による渦巻文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	不良	LR	縦	加曾利E	縄文を縦位に帯状に施文。
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利E	縦位の整形。
4	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による波状文が垂下する。撚糸。
Ⅲ区J-112号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石多い	普通	LR	横	加曾利EIII	隆線による楕円区画。
Ⅲ区J-113号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		中期	爪形文。
2	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	—		中期	太さ4～5ミリの沈線が廻る。
Ⅲ区J-115号土坑出土土器観察表										
1	鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y5/2	砂粒	普通	—		堀之内	縦位の整形。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ2～3ミリの沈線施文。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ2～3ミリの沈線施文。
4	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい軽石粒	不良	—		堀之内	縦位の整形。
Ⅲ区J-118号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による弧線。
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	—	列点が垂下する。撚糸。
3	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石多い	普通	—		中期	—

第6章 出土遺物

Ⅲ区 J-119号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	口縁部隆線による「∞」の入り組み文様。 胴部隆線による縦位区画。

Ⅲ区 J-121号土坑出土土器観察表

1	壺	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅣ	—
2	両耳壺	口縁	黒褐	2.5Y3/2	φ1ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EⅣ	橋状把手。

Ⅲ区 J-122号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	不良	RLR	縦	加曾利EⅢ	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----	---	----------	-------------------	----	-----	---	-------	--------------------

Ⅲ区 J-124号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの小石、 片岩	良	—	勝坂	—	太さ6ミリの隆線による爪形文と平行沈線。
---	----	----	---	----------	------------------	---	---	----	---	----------------------

Ⅲ区 J-125号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	不良	RL	縦	加曾利EⅣ	口縁に沿って太さ5ミリの沈線が廻る。口唇にスス付着。
---	----	----	-------	---------	-------------------	----	----	---	-------	----------------------------

Ⅲ区 J-126号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	加曾利E	隆線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	—	勝坂	—	隆・沈線による弧線。

Ⅲ区 J-128号土坑出土土器観察表

1	壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利EⅣ	隆線による楕円区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ2～3ミリの浅い沈線による縦位区画。
3	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

Ⅲ区 J-130号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	不良	—	堀之内	—	沈線による口縁区画。
---	----	----	---	----------	--------	----	---	-----	---	------------

Ⅲ区 J-131号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—	堀之内	—	口縁部に沈線が廻る。
---	----	----	-----	---------	--------	----	---	-----	---	------------

Ⅲ区 J-132号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒多い	普通	—	—	称名寺	波状口縁突起。太さ2ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	後期	口縁部に断面三角の隆線が廻り、指頭圧痕を加える。

Ⅲ区 J-134号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	良	RL	横	加曾利EⅣ	口縁部に突起。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	—	—	称名寺～堀之内	小波状口縁頂部に「8」字状の刺突。太さ4ミリの沈線による「R」字文。7と同一個体。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	加曾利E	口縁部に三角刺突が2列施文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	—	—	称名寺～堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	称名寺～堀之内	小波状口縁頂部に円形刺突。太さ4ミリの沈線による文様区画。
7	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	—	—	称名寺～堀之内	小波状口縁頂部に「8」字状の刺突。太さ4ミリの沈線による「R」字文。3と同一個体。
8	鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの軽石粒	良	—	—	後期	口縁に太さ1ミリの沈線が廻る。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	称名寺～堀之内	太さ2～3ミリの沈線による格子目状の文様。小波状口縁突起頂部に刺突が加えられる。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—	—	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様施文。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	砂粒、軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。12と同一個体。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
12	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	砂粒、軽石粒	良	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。11と同一個体。
13	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの小石	不良	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による文様。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	—		加曾利E V	数本の沈線による格子目文。
15	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	—		称名寺～堀之内	太さ3～4ミリの沈線による格子目文。
16	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による弧線が渦巻く。弧線内に刺突。
17	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
18	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による弧線が渦巻く。弧線内に刺突。
19	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		後期	—
20	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		後期	—
21	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒 多い	不良	—		後期	—

III区J-135号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの砂粒、黒色粒	良	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E IV	口縁に断面三角の隆線が廻る。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	中空になる突起。外面に沈線による渦巻。隆線が垂下する。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの砂粒、白色粒	良	—		加曾利E	太さ1ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「R」字文。
7	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	内面突起部に沈線による弧線。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～5ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E V	口縁部に隆線が廻る。隆線以下は太さ1ミリの沈線による格子目文。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺～堀之内	太さ3ミリの沈線による「R」字文。
11	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		加曾利E	—
12	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの小石	普通	RL		加曾利E	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

III区J-136号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利E III	太さ6～8ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	隆線施文。
3	浅鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	横位のミガキ。

III区J-137号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		堀之内	太さ5ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石多い	良	RL	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による弧線文様区画。
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	口縁部「く」の字に屈曲し、沈線が施文される。波状口縁に孔を持つ突起。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	縦	堀之内	太さ5～6ミリの隆線が廻り、無文帯と区画する。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による口縁部区画と胴部区画。
6	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒多い	良	RL		中期	外縁を打ち欠き成形。

III区J-138号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		勝坂	幅3～4ミリの押し引きの爪形文。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	不良	—		加曾利E	横位の整形痕。

第6章 出土遺物

Ⅲ区 J-140号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ6～8ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区 J-141号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	普通	—	—	後期	横位の整形痕。3と同一個体。
2	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの白色粒	良	—	—	後期	横位のヘラミガキ整形。
3	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	普通	—	—	後期	横位の整形痕。1と同一個体。
4	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RLR	縦	加曾利E	—
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画と渦巻。胴部太さ5ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	幅4ミリの平行沈線による渦巻文。撚糸。
7	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EⅢ	太さ5ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区 J-142号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの砂粒	普通	LR	縦 横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による楕円区画。胴部には沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの石英	良	—	—	勝坂	幅6ミリの沈線による文様。
3	深鉢	底部	灰黄褐	10YR6/2	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利EⅢ	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区 J-143号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英、 雲母	良	—	—	阿玉台	隆線を「の」の字状に貼付。ペン先状刺突を加える。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの石英、 雲母	良	—	—	阿玉台	口縁部隆線による文様区画と幅6ミリの連続爪形文。

Ⅲ区 J-144号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	良	RL	横	諸磯b	扁平な浮線を横位に施文。補修孔を持つ。
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	諸磯b	扁平な浮線に矢羽根状の刻み。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1～5ミリの軽石粒 多い	良	RI	横	諸磯b	浮線による横位の区画。

Ⅲ区 J-148号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの軽石粒	良	—	—	後期	突起部に隆線で「J」文。舌状突起。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい白色粒	不良	—	—	中期	—

Ⅲ区 J-149号土坑出土土器観察表

1	小形 深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石多 い	普通	—	—	加曾利EⅣ	内面にスス付着。ミニチュア土器。
2	注口	注口 部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒多い	不良	—	—	中～後期	無文。整形痕。口縁「く」の字状に屈曲し、注口を持つ。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石	良	RL	横	加曾利EⅣ	口縁に隆線が廻り無文帯と区画する。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	不良	—	—	後期	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	不良	—	—	加曾利EⅡ	口縁部隆線による半円区画。区画内沈線充填。頸部に隆線が廻る。胴部は太さ3ミリの沈線による縦位区画。地文櫛状工具による波状文。
7	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様施文。
8	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E	ヘラ状工具による横位の整形痕。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	堀之内	口縁にφ10ミリの円形刺突。頸部に沈線が廻りφ4ミリの円形刺突。
10	深鉢	胴部	灰白	10YR7/1	φ1～3ミリの軽石 粒、白色粒	良	RL	縦 横	加曾利EⅣ	断面三角の隆線による文様区画。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線。沈線間に列点刺突。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	—	—	後期	太さ1～2ミリの沈線を格子状に施文。
13	深鉢	底部	灰白	10YR8/2	φ1～2ミリの小石	不良	—	—	後期	—
14	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい軽石粒	不良	—	—	後期	縦位の整形。

Ⅲ区 J-152号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～5ミリの小石	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。口縁にはφ8ミリの円形刺突。列点が施文される区画と無文区画がある。
---	----	----------	---	----------	-----------	---	---	---	-----	--

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの軽石粒	不良	LR	横	加曾利EIII	隆線による楕円区画。
3	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒多い	不良	—	—	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。
4	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	—	—	堀之内	沈線による文様区画と眼鏡状の把手。把手部には沈線で「8」字に文様を描く。橋状把手。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—	—	堀之内	突起側縁に凹み。頂部に沈線による同心円。
6	壺	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	堀之内	眼鏡状の把手に沈線で長楕円の文様を描く。橋状把手。
7	壺	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	後期	太さ3～5ミリの沈線が横位に廻る。
8	蓋	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの黒色粒	良	—	—	後期	横位のミガキ整形。

III区J-154号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁部渦巻と楕円区画。胴部太さ3～4ミリの沈線による縦位区画と波状線。
2	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LRL	縦	加曾利EIII	口縁楕円区画。
3	深鉢	口縁 胴部	褐灰	10YR5/1	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利EIII	口縁部に隆線による「∞」を基調とする文様区画。頸部無文帯。
4	鉢	口縁	黄褐	2.5Y5/3	φ1～2ミリの小石	良	—	—	加曾利EIII	隆線による口縁文様区画。区画内に沈線充填。
5	鉢	口縁 胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利EIII	口縁部に太さ6～7ミリの沈線が2条廻り、間にφ7ミリの円形刺突。
6	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/4	細かい砂粒	普通	—	—	後期	太さ1～2ミリの沈線による格子目文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	中期	太さ1ミリの沈線による縦位施文。11と同一個体。
8	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	Lr	縦	加曾利EI	交互刺突による連続「コ」の字文。隆線による渦巻文。撚糸。
9	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
10	土製 円盤		明褐	7.5YR5/6	細かい黒色粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	中期	太さ1ミリの沈線による縦位施文。7と同一個体。
12	深鉢	底部	明褐	7.5YR5/8	φ1～3ミリの小石	不良	—	—	加曾利EIII	太さ3～5ミリの沈線による縦位区画。

III区J-156号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利EIII	太い隆線による渦巻文。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。

III区J-163号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦 横	加曾利E	—
2	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	勝坂	爪形文を持つ隆線による文様施文。
3	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EIII	隆線による縦位区画線と太さ3ミリの沈線による波状文。

III区J-166号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	不良	LR	横	加曾利EIII	沈線による楕円区画。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	不良	LR	縦	加曾利EIII	太さ6ミリの沈線による縦位区画。

III区J-167号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石、軽石粒	良	—	—	堀之内	—
---	---	----	-------	---------	-------------	---	---	---	-----	---

III区J-168号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—	—	加曾利E	隆線が垂下する。地文条線。
2	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	LR	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利E	隆線による渦巻文。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石多 い	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
5	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの黒色粒	良	—	—	加曾利E	外面横位のミガキ。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	—

III区J-169号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。区画内に涙滴状の刺突。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	堀之内	口縁部に突起と刺突。胴部には沈線による「J」字文からの弧線文。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~5ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部横位のミガキ整形で稜を持つ。胴部縦位の整形。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの小石	良	—		堀之内	口唇部に沈線と円形の刺突。頸部に太さ4ミリの沈線が廻る。胴部は沈線による縦位区画と「L」字文。区画内には刺突が施文される。
5	深鉢	口縁 胴部	橙	5YR6/6	φ1~5ミリの軽石粒、黒色粒	不良	RL	横	堀之内	口縁部太さ4ミリの沈線による区画。粘土紐による「8」字状貼付。胴部は「J」字から変形した文様と波状線。
6	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄	2.5Y6/4	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		堀之内	横位のミガキ整形。スス付着。
7	壺	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい黒色粒	普通	LR	横	堀之内	太さ4ミリの沈線による斜線。粘土紐を螺旋状にねじって橋状把手にする。
8	深鉢	胴部	黄褐	2.5Y5/3	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	不良	—		堀之内	粘土紐による「8」字状貼付。太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
9	深鉢	胴部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの黒色粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	縦位のミガキ整形。
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	横位のナデによる整形痕。
12	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	普通	—		後期	外面縦位の区画。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの小石、軽石粒	不良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による渦巻。

Ⅲ区J-170号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。
3	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~5ミリの小石	普通	—		中期	縦位のミガキ整形。

Ⅲ区J-171号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黄橙	7.5YR7/8	φ1~5ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		称名寺	太さ5ミリの沈線。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E	横位の整形。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E	頸部に太さ3ミリの沈線が2条廻る。内面にスス付着。撚糸。
5	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1ミリの小石	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。
6	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~5ミリの石英、金雲母少量	良	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による渦巻・楕円区画。

Ⅲ区J-173号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒多い	普通	—		堀之内	口縁部に円形の突起を持つ。頸部無文。胴部には粘土紐による「8」字状・円形の貼付と沈線による文様施文。
2	深鉢	口縁 底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—		称名寺~堀之内	口縁部に1単位の突起から90度の位置に小突起を持つ。頸部には沈線による区画線。胴部は沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線で文様区画。区画内に刺突。
4	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利EⅣ	口縁部無文帯を微隆起線で区画する。橋状把手。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺	幅3ミリの平行沈線による格子目文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利EⅢ	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。「8」字状の粘土貼付文。
9	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒多い	良	—		加曾利E	縦位のミガキ整形。
10	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—		加曾利E	縦位のミガキ整形。

III・3区出土土器観察表

III区J-174号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による区画。

III区J-175号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	LRL	縦	加曾利EIII	口縁部横長の楕円区画と「∞」文。太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太く浅い沈線による渦巻文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RLR	縦	加曾利EIII	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	地文に条線。沈線による楕円区画。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

III区J-176号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	口縁部に沈線が2条廻る。頸部には連弧文。胴部に縦位区画の沈線。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1ミリの軽石粒	普通	—		中期	横位の整形痕。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの小石多い	不良	RL	横	加曾利EIII	口縁部に「∞」を基調とする楕円区画。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	口縁部にφ10ミリの円形刺突列。太さ6ミリの沈線による連弧状の区画と斜位の沈線。6と同一個体。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIII	口縁部に「∞」を基調とする楕円区画。胴部に太さ8ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	口縁部にφ10ミリの円形刺突列。太さ6ミリの沈線による連弧状の区画と斜位の沈線。4と同一個体。
7	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	沈線による渦巻文。頸部に沈線による横位区画。胴部に無文帯を作る。
8	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	太さ6～8ミリの沈線による横位区画と「∞」文。
9	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	良	—		加曾利E	縦位の整形痕。
10	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	加曾利E	—

III区J-179号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの軽石粒	不良	RL	横	加曾利EIII	太い隆線による弧線文。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	縦 横	加曾利EIII	太い隆・沈線による弧状文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	太さ6～8ミリの沈線による楕円区画文。「J」文。
4	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	太さ8ミリの沈線が口縁に廻る。櫛状工具による条線。
5	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E	横位の整形。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIV	太さ6～8ミリの沈線による「J」文と楕円区画文。
7	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIII	太さ4～6ミリの沈線による縦位区画。
8	土製 円盤		灰黄褐	10YR6/2	細かい軽石粒	普通	RL		加曾利EIII	外縁を打ち欠き成形。
9	土製 円盤		明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-182号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による横位区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	口縁部にφ8ミリの円形刺突と沈線。円形刺突から隆線が斜に施文される。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利E	口縁部隆線による楕円区画。区画内沈線充填。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	太さ4～5ミリの沈線による斜線。
5	深鉢	底部	黄灰	2.5Y6/1	細かい黒色粒	良	—		堀之内	—
6	深鉢	底部	橙	2.5YR6/8	φ1～2ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
7	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	不良	—		加曾利E	—
8	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

第6章 出土遺物

Ⅲ区J-183号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	隆線による口縁部区画。胴部には隆線による「R」字文。
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	不良	RL	縦横	加曾利EⅢ	隆線による楕円区画。区画内縄文充填。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	—		堀之内	口縁部にφ8ミリの刺突と沈線が廻る。
4	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	細かい砂粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線施文。波状口縁頂部に「8」字状の刺突。
5	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	Lr	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆線による渦巻文。
6	両耳壺	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EⅣ	橋状把手。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい軽石粒多い	不良	RL	横	加曾利EⅣ	口縁部に断面三角の隆線が廻る。
8	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	細かい砂粒	不良	—		堀之内	内面に沈線による「U」文。
9	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様施文。

Ⅲ区J-184号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EⅢ	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----------	-------	--------	------------	----	----	---	-------	------------------

Ⅲ区J-185号土坑出土土器観察表

1	両耳壺	口縁	褐灰	10YR5/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EⅣ	橋状把手。
---	-----	----	----	---------	------------	---	----	---	-------	-------

Ⅲ区J-186号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	後期	口縁部に1単位の突起が付く。内面にスス附着。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの小石多い	不良	RL	縦横	加曾利EⅢ	口縁部隆・沈線による「∞」基調の文様。胴部太さ4～5ミリの縦位区画。舌状突起。
3	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1～3ミリの小石多い	良	RL	縦	加曾利E	隆線による楕円区画。
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	LRL	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。
5	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ4ミリの浅い沈線による波状文。
6	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。舌状突起。
7	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画と渦巻。舌状突起。
8	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	幅5ミリの平行沈線による弧線と爪形文。
9	鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	横位の整形痕。
10	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
11	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい黒色粒	良	—		加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。
12	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	φ1～2ミリの軽石粒、金雲母	不良	Lr	縦	中期	隆線が横位に廻る。撚糸。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	不良	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
14	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		勝坂	隆線による楕円区画と結節沈線。
15	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	断面三角の隆線。太さ1ミリの沈線による文様施文。
16	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	不良	LR	縦	加曾利EⅢ	—
17	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい軽石粒	不良	LR	縦	加曾利E	—
18	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	不良	Lr	縦	加曾利E	太さ4～6ミリの沈線による頸部区画。
19	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	RL	縦	加曾利E	隆線による縦位区画。
20	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EⅢ	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
21	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曾利EⅣ	太さ6～8ミリの浅い沈線で渦巻、楕円区画を作る。底部上げ底。
22	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	—		中期	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

Ⅲ区J-187号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E	太さ5ミリの浅い沈線による縦位区画。
---	----	----	-------	--------	---------------	---	----	---	------	--------------------

Ⅲ区J-189号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RLR	横	加曾利EⅢ	口縁部4単位の舌状突起。「∞」を基調とした文様区画。胴部に縦位の沈線による区画。
2	壺	口縁 胴部	橙	2.5YR6/8	φ1～3ミリの小石多い	不良	—		中期	口頸部に鏝状に廻り、φ2～3ミリの孔を持つ。有孔鏝付土器。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		加曾利E	隆線による渦巻文。
4	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利E III	楕円区画に渦巻文。
5	深鉢	胴部 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	φ3～5ミリの沈線による縦位区画。頸部に沈線による横位区画。
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	不良	RLR	縦	加曾利E IV	太い隆・沈線による縦位区画。赤色塗彩。
7	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石多い	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3～4ミリの沈線。
8	器台	器面	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	器面が凹み、磨かれている。

III区J-190号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E I	口縁部交互刺突文。撚糸。
---	----	----	-----	--------	------------	----	----	---	--------	--------------

III区J-192号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
2	蓋	口縁	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	普通	—		後期	—

III区J-195号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利E III	隆線による楕円区画。
---	----	----	----	---------	------------	---	----	---	----------	------------

III区J-196号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利E II	隆線による渦巻文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの石英	良	LR	横	加曾利E	隆線による口縁部楕円区画と橋状把手。
3	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	—
4	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒多い	良	RL	縦	加曾利E	内面にスス付着。

III区J-198号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	口縁波頂部にφ12ミリの孔。胴部には太さ2ミリの沈線による渦巻文。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		後期	外面横位の整形。
3	壺	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E IV	口縁に断面三角の隆線による区画。頸部には太さ3ミリの沈線による鋸歯文。

III区J-199号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	波状口縁頂部にφ10ミリの孔を持つ。胴部は太さ3ミリの浅い沈線による文様区画。
---	----	----	-----	---------	------------	----	---	--	-----	---

III区J-201号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの小石、砂粒	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ4～6ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		加曾利E	条線が縦位に施文される。

III区J-202号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—		中期	太さ4～6ミリの沈線による文様区画。円形の刺突。
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、黒色粒	普通	—		加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画と磨り消し縄文。口縁部に突起。
3	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画と磨り消し縄文。

III区J-203号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒、黒色粒	良	RL	縦	堀之内	太さ3ミリの沈線が口縁部に廻る。波状口縁頂部に突起。突起下に同心円文様と縦位の沈線。
2	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。五角形になる。
3	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	LRL	縦	加曾利E III	隆・沈線による文様区画。

III区J-204号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石	良	—		加曾利E II	交互刺突による連続刺突文。
---	----	----	-----	----------	-----------	---	---	--	---------	---------------

III区J-205号土坑出土土器観察表

1	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
---	------	--	-------	---------	--------	----	---	--	---	----------------

III区J-207号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	—		—	太さ4ミリの沈線による渦巻・爪形文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒多い	普通	LR	縦	加曾利E IV	太さ4ミリの沈線による対弧文。
3	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。

第6章 出土遺物

Ⅲ区 J-209号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線が垂下する。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒多い	良	—		勝坂	太さ4ミリの隆線が垂下する。
3	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒、白色粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ2ミリの沈線が垂下する。撚糸。

Ⅲ区 J-210号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	口縁部にφ8ミリの刺突。太さ4ミリの沈線による「J」字文。
---	----	----------	-------	---------	--------	----	---	--	-----	-------------------------------

Ⅲ区 J-211号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	胴部に太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	Lr	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線が横位に廻る。

Ⅲ区 J-212号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~5ミリの小石、軽石粒	普通	RLR	縦	加曾利E III	太い隆線による縦位区画。
---	----	----	---	--------	---------------	----	-----	---	----------	--------------

Ⅲ区 J-215号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	Rl	横	加曾利E V	口縁部隆線による弧状の区画。胴部太さ4ミリの沈線による縦位区画。磨り消し縄文。
2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石、白色粒	普通	LR	縦	加曾利E V	隆線による縦位区画。3と同一個体。
3	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E V	隆線による縦位区画。2と同一個体。

Ⅲ区 J-217号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	—		加曾利E	頸部に隆帯。
2	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LRL	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による横位区画。

Ⅲ区 J-218号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	口縁屈曲部にφ5~6ミリの円形刺突。
---	----	----	------	----------	------------	----	---	--	-----	--------------------

Ⅲ区 J-219号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	黄橙	10YR8/6	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	隆線による渦巻文と刻み目。

Ⅲ区 J-220号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E III	隆線による楕円区画。胴部は太さ6~8ミリの沈線による縦位区画。
2	鉢	口縁 胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	口縁下に浅い沈線が廻る。胴部条線。
3	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの石英、金雲母	普通	—		阿玉台	幅8ミリの押し引きの平行沈線。
4	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	良	—		加曾利E	舌状突起にφ26ミリの大きな孔。口縁部には渦巻文。スス付着。
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの石英	普通	—		勝坂	隆線による楕円区画。隆線に沿って幅6ミリの爪形文。
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。スス付着。

Ⅲ区 J-221号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	側縁に円形の凹み。内面に沈線で同心円を描く。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの渦巻文。
3	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ4~5ミリの沈線による「J」字文。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突。
6	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	—	粘土接合部に刻みを施している。
7	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E III	隆線3条による縦位区画。撚糸。

Ⅲ区 J-222号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
---	----	----	---	----------	-------	----	---	--	-----	-------------------

Ⅲ・3区出土土器観察表

Ⅲ区 J-223号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利EIV	断面三角の隆線による弧線。

Ⅲ区 J-224号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの白色粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による文様区画。

Ⅲ区 J-226号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	撚糸文と条線が施文される。
---	----	----	-----	--------	------------	----	----	---	------	---------------

Ⅲ区 J-227号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EI	押し引きの爪形文を施文する隆線と沈線による楕円区画。2・9と同一個体。
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		加曾利EI	押し引きの爪形文を施文する隆線と沈線による楕円区画。1・9と同一個体。
3	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EI	太さ4~5ミリの沈線による横位区画。
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「∩」文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EII	隆線による文様区画と渦巻文。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E	隆線による頸部区画と渦巻文。
7	鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		中期	口縁下に浅い沈線が廻る。
8	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい黒色粒多い	普通	—		加曾利E	横位の整形。
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		加曾利EI	押し引きの爪形文を施文する隆線と沈線による楕円区画。1・2と同一個体。

Ⅲ区 J-229号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒 多い	普通	—		中期	—
---	----	----	-----	--------	------------------	----	---	--	----	---

Ⅲ区 J-232号土坑出土土器観察表

1	両耳壺	口縁 胴部	褐	10YR4/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EIV	4単位の波状口縁に2単位の把手が付く。口縁部に隆線で無文帯を区画。橋状把手。
---	-----	----------	---	---------	------------	---	----	---	--------	--

Ⅲ区 J-234号土坑出土土器観察表

1	壺	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		中期	指頭圧痕が残る。ミニチュア土器。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの黒色粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石	普通	—		堀之内	小波状口縁突起。
4	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	断面三角の隆線。
5	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1~5ミリの石英、 軽石粒	不良	—		加曾利E	隆・沈線による文様区画。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、白色粒	良	—		中期	—
7	蓋	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石	不良	—		後期	指頭圧痕が残る。

Ⅲ区 J-239号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	褐灰	10YR5/1	細かい白色粒	普通	LR	縦 横	加曾利EIV	口縁部に太さ5ミリの沈線が廻り刺突列。胴部に「∩」文。
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIV	隆線による頸部区画。沈線で胴部「∩」「U」文。

Ⅲ区 J-240号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	不良	—		中期	口縁部に隆線が縦位に貼付けられる。交互刺突文列。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		中期	隆線による文様区画。頸部に刻みを持つ隆線。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	不良	RLR	縦	中期	頸部に爪形文を持つ隆線。
4	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		—	底部片転用。外縁を打ち欠き成形。
5	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの石英、 金雲母	普通	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。

Ⅲ区 J-244号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	隆線による「∞」状の文様。
---	----	----------	-------	--------	-------	----	----	---	------	---------------

Ⅲ区 J-246号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1~3ミリの黒色粒	不良	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線が鋸歯状に施文。地文条線。
---	----	----	------	--------	------------	----	---	--	------	-----------------------

Ⅲ区 J-247号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	口縁に断面三角の隆線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	口縁に断面三角の隆線が廻る。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい黒色粒	良	RL	縦横	加曾利EIV	隆線による口縁部区画と楕円文。
4	両耳壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい軽石粒	良	LR	縦	加曾利EIV	把手。

III区J-249号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による「R」字文。外面剥落多い。
---	----	----	-------	---------	--------	----	---	--	-----	--------------------------

III区J-256号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	櫛状工具による縦位の沈線。外面にスス付着。
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒 多い	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
3	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

III区J-258号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		後期	断面三角の隆線が口縁部に廻る。
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	—		中期	頸部に隆線に沿って幅5ミリの爪形文が廻る。胴部には鋸歯状に施文される。

側道3区土坑出土縄文土器

側道3区1号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	縦	加曾利E I	口縁部に渦巻文の突起。頸部に縄文施文。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	深鉢突起部。円形に押し引きの沈線。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～4ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。区画内には太さ1～2ミリの沈線による鋸歯文。
4	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦	加曾利E I	隆線による横位区画。
5	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	細かい砂粒	良	—		勝坂	隆線による区画と幅8ミリの爪形文。
6	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい軽石粒	良	LR	縦	中期	刻みを持った隆線が垂下する。

側道3区2号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	5YR3/1	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。隆線に沿って押し引きの平行沈線施文。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E II	頸部に隆線が廻り口縁部と区画する。口縁部には交互刺突文。撚糸。

側道3区6号土坑出土土器観察表

1	浅鉢	口縁 胴部	褐	7.5YR4/3	φ1～2ミリの砂粒、 軽石粒、金雲母	普通	—		阿玉台	口縁部隆帯上部に半截竹管による刻み列を施し、その隆帯により横位楕円区画と上半円形モチーフが連続する。隆帯に沿ってペン先状工具による2列の押し引きの文様を施文する。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線が垂下し縦位区画を作る。

側道3区7号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部 底部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—		中期	胴部櫛状工具による条線文。
---	----	----------	-------	---------	-----------	---	---	--	----	---------------

側道3区8号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		称名寺	口縁屈曲部に沈線施文。突起部に沈線による弧線。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		中期	幅3～4ミリの沈線による爪形文列。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦横	堀之内	円筒状の突起。刻みを持つ隆線が垂下する。太さ3～4ミリの沈線による楕円区画。
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	太さ4ミリの沈線による楕円区画。区画内に縦位の沈線が充填される。
5	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒 多い	不良	—		勝坂	双円状の突起になる。
6	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒多い	普通	—		中期	隆線による横位施文。隆線に刻み列。
7	鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英	良	—		中期	隆線による渦巻文。

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
8	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石、雲母	普通	—		阿玉台	隆線による楕円区画。区画内に幅5ミリの爪形文。
9	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円文と爪形文。
10	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	—		勝坂	刻みを持つ隆線。隆線間に沈線充填。
11	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	不良	Lr	縦	中期	撚糸。

側道3区9号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1～3ミリの小石	普通	—		後期	ヘラ状工具で刺突する。
---	----	----	----	----------	-----------	----	---	--	----	-------------

側道3区10号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒、金雲母	普通	RL	縦 横	加曾利E I	口唇部に渦巻と「∞」文。頸部は隆線による横位区画。胴部は隆線による「J」字文と波状線。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E I	口縁は2対4単位の波状口縁。口縁部は沈線による「∞」文と縦位の沈線。頸部に横位区画線。撚糸。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒多い	普通	RI	縦 横	加曾利E I ～II	隆線による弧線渦巻文。頸部に沈線が廻る。撚糸。
4	深鉢	口縁 胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～2ミリの軽石粒多い	普通	RL	縦	加曾利E I	口縁に隆線波状に施文。頸部に太さ3ミリの沈線が鋸歯状に施文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒多い	不良	—		加曾利E	口縁部に交互刺突列と渦巻文。
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		中期	突起に刻み。太さ4ミリの縦位の沈線と爪形文。
7	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	太さ4～5ミリの沈線による楕円区画。
8	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	不良	RI	縦	加曾利E	隆線を波状に垂下させる。撚糸。
9	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	良	—		加曾利E	太さ12ミリの隆線による縦位区画。8ミリの太い沈線が斜位に施文される。
10	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	RI	縦	加曾利E	撚糸。
11	深鉢	胴部 底部	暗赤褐	5YR3/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	中期	撚糸。
12	浅鉢	底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		中期	—

側道3区11号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	口唇部に刻み。結節沈線。
2	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区12号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	7.5YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		後期	口唇部にφ13ミリの円形刺突列。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	不良	Lr	横	堀之内	口縁部に横位の沈線と円形刺突。沈線が垂下する。
3	壺	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	不良	Lr	横	堀之内	口縁部に突起を持つ。胴部は太さ4～5ミリの沈線による「∞」文。胴部下半は磨り消し縄文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
5	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの軽石粒	不良	Lr	横	堀之内	太さ5～6ミリの沈線による弧線。
6	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1～5ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。10と同一個体。
7	浅鉢 形 注口 注口 部	口縁 注口 部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	LR	横	堀之内	浅鉢形の注口土器。口縁楕円区画。注口部に突起が付き大きな孔を中心に同心円状文が施文される。
8	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺～堀之内	橋状の突起になる。
9	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		称名寺～堀之内	粘土紐を螺旋状にねじり突起としている。
10	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～5ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。6と同一個体。
11	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	擦り	施文方向	分類	文様の特徴
12	土製品		橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	貝輪状土製品。
13	浅鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒多い	普通	—		中期	—

側道3区14号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による口縁部区画と沈線による斜線。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。区画内に刺突。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による曲線。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
5	土製品		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	ドーナツ状になる土製品部分。内面横位の整形。
6	深鉢	口縁 底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	—		中～後期	縦位のミガキ整形。焼成前の孔を持つ。手握ね土器。

側道3区15号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの黒色粒	不良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文と区画内に刺突。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による横位区画。
3	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による横位区画。

側道3区16号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画。列点状の刺突。
---	----	----	-----	---------	------------------	----	---	--	-----	-------------------------

側道3区17号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	RI	縦	加曾利E III	沈線による半円区画。擦糸。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様施文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様施文。円形の貼付文。スス付着。
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	—

側道3区19号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ5～6ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----	-------	---------	-------	----	----	---	----------	--------------------

側道3区20号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	良	—		加曾利E II	口縁部隆線による楕円区画。区画内斜線充填。
2	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい軽石粒	普通	RI	横	中期	隆・沈線による楕円区画。区画内にRIの擦糸充填。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	軽石粒多い	普通	—		加曾利E II	半截竹管による交互刺突文。
4	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		後期	底面に網代痕。

側道3区22号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。
---	----	----	-------	---------	-------	---	---	--	-----	------------------

側道3区23号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による文様区画。
2	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	勝坂	—

側道3区24号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		後期	指頭圧痕。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		後期	太さ3～4ミリの沈線による文様。
3	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		後期	太さ2～3ミリの沈線による斜線。
4	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～5ミリの小石	良	—		後期	下から上へズリ整形。

側道3区25号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	—		加曾利E	隆線による円形の施文。
2	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		中期	内面にスス付着。

側道3区26号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		中期前半	口縁部に三角印刻。
---	----	----	-----	----------	-------	---	---	--	------	-----------

側道3区27号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	普通	—		加曾利E	口縁部に交互刺突文による「コ」の字文。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E II	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

側道3区29号土坑出土土器観察表

1	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		中期	横位のミガキ整形。
---	----	----	-------	---------	--------	----	---	--	----	-----------

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		後期	太さ3～4ミリの沈線による文様施文。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	縦	堀之内	断面三角の隆線による口縁部区画と沈線による渦巻文。

側道3区30号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RI	縦	加曾利E II	隆線による口縁部文様区画。外面にスス付着。撚糸。
2	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	Lr	縦	中期	撚糸。

側道3区31号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	RL	縦 横	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	RI	横	加曾利E IV	口縁部に断面三角の隆線による区画。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線施文。補修孔。
5	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		称名寺	櫛状工具による条線。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
7	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	RL		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区32号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	LR	横	堀之内	太さ8ミリの断面三角の隆線による横位区画と「8」字状の貼付。太さ3ミリの沈線による横位区画。3と同一個体。
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	良	LR	横	堀之内	太さ8ミリの断面三角の隆線による横位区画と「8」字状の貼付。太さ3ミリの沈線による横位区画。1と同一個体。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～5ミリの軽石粒 多い	普通	LR	横	加曾利E	太さ4ミリの沈線による渦巻文。
5	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		中～後期	—
6	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい軽石粒	普通	LR		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区33号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	沈線と円形刺突。波状口縁頂部にも円形の刺突が加えられる。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	小波状口縁の突起部に円形の孔を持ち、両脇には円形刺突が加えられる。

側道3区34号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		中期	口縁部無文帯横位ヘラナデ。頸部幅3ミリの隆線による横位区画。
2	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		中期	櫛状工具により縦・横位の条線を施文する。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	縦	中期	沈線による縦位区画。

側道3区35号土坑出土土器観察表

1	浅鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	外面にスス付着。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。

側道3区36号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの砂粒多い	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による施文と縦長の刺突。
---	----	----	-------	---------	-------------	----	---	--	-----	------------------------

側道3区38号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—		堀之内	口唇部にφ18ミリの刺突。太さ4～5ミリの沈線による横位区画。
---	----	----	---	----------	----------------	----	---	--	-----	---------------------------------

側道3区39号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ5ミリの沈線横位に施文。「8」字状の粘土貼付。
2	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの小石	普通	—		加曾利E	—

側道3区43号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	普通	LR	横	中期	—
---	----	----	-------	--------	---------------	----	----	---	----	---

第6章 出土遺物

側道3区44号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EII	太さ3~4ミリの沈線による楕円文様区画。
2	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	刻みを持つ隆線による横帯区画と楕円区画。幅12ミリの連続爪形文、ペン先文を施文。3と同一個体。
3	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	刻みを持つ隆線による横帯区画と楕円区画。幅12ミリの連続爪形文、ペン先文を施文。2と同一個体。
4	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による刻み。区画内を押し引きの沈線充填。
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	不良	—		勝坂	隆線による区画。幅12ミリの連続爪形文。ペン先状刺突の鋸歯文。
6	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		加曾利EIII	太さ2ミリの沈線による縦位区画。

側道3区47号土坑出土土器観察表

1	浅鉢	口縁	黒	2.5Y2/1	φ1~3ミリの小石	普通	—		加曾利E	横位の整形。
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利EII	隆線による曲線文。撚糸。
3	浅鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、石英	普通	—		加曾利E	沈線による曲線文。
4	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	Rr	横	加曾利E	—

側道3区48号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/8	φ1~2ミリの小石	不良	LR	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による曲線文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。

側道3区49号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石、黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部4単位の波状になり孔を持つ。口頸部に波頂部からの縦位の沈線と刺突。横位の沈線。
2	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	細かい黒色粒	不良	—		称名寺~堀之内	太さ3ミリの沈線による方形区画。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	LR	縦	加曾利E	口縁部太さ3ミリの沈線による斜線。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	RI	横	堀之内	太さ4~5ミリの沈線施文。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	頸部に区画線。太さ3ミリの沈線による渦巻文。粘土貼付けによる「8」字文。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	RL	横	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線が横位に廻る。口縁部φ6ミリの円形刺突。
7	注口	注口部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	器面荒れている。
8	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
9	注口	注口部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの小石	普通	—		堀之内	器面横位のミガキ。

側道3区50号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~5ミリの石英、金雲母	良	—		中期	口縁部縦位の沈線施文。隆線に刻み。
2	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	隆線による貼付文。太さ5ミリの沈線による鋸歯文。

側道3区52号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利EI	撚糸。
2	鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	横位のミガキ整形。赤色塗彩。

側道3区53号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	φ1~2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利EI	隆線による半円状の区画。頸部に隆線が横位に廻り区画する。撚糸。
---	----	----	----	----------	-----------	----	----	---	-------	---------------------------------

側道3区54号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様区画と「8」字状貼付文。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの黒色粒	良	LR	横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による方形区画と弧線。
3	土製円盤		橙	7.5YR6/8	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr		加曾利EIII	外縁を打ち欠き成形。

III・3区出土土器観察表

側道3区57号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	楕円区画に結節沈線、縦位区画隆線に輪積み痕が残る。
2	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	隆線による三角の文様。
3	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区58号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	舌状突起に渦巻文。
---	----	----	----	---------	------------	---	----	---	----------	-----------

側道3区60号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/1	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----	----	---------	------------	----	----	---	----------	--------------------

側道3区61号土坑出土土器観察表

1	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
---	------	--	-----	--------	--------	----	---	--	---	------------

側道3区63号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RI	縦	加曾利E	口縁部横位のミガキ整形。捺糸。
2	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	刻みを持つ隆線、平行沈線による文様区画。

側道3区67号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	口頸部に渦巻文と圧痕を持つ隆帯による区画。口縁は無文帯と交互刺突による連続「コ」の字文。胴上部にはφ8ミリの刺突列が横位に廻る。捺糸。
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E	口縁部無文。頸部交互刺突による横位区画。
3	器台	脚部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	縦位のミガキ整形。
4	土製円盤		にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL		—	太さ3ミリの沈線による文様区画。
5	土製円盤		明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。矢羽根状の沈線。
6	土製円盤		橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		加曾利E III	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。内面にスス付着。

側道3区71号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	橙	5YR6/6	細かい軽石粒、黒色粒	普通	Lr	縦	勝坂	捺糸。
---	----	----	---	--------	------------	----	----	---	----	-----

側道3区72号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの軽石粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅8ミリの沈線による爪形文列が2段に施文される。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横	加曾利E IV	断面三角の隆線による楕円区画。
3	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/2	φ1ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。底部片を転用。
4	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	—		—	木葉圧痕。外縁を打ち欠き成形。底部片転用。

側道3区77号土坑出土土器観察表

1	浅鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/4	φ1～5ミリの軽石粒	良	—		勝坂	隆線に刻みを付け曲線を描く。底部近くには横位の区画線。
2	深鉢	口縁 底部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～6ミリの小石多い	普通	—		後期	口縁小突起。外面縦位の整形痕。内面にスス付着。ミニチュア土器。
3	深鉢	胴部 底部	浅黄	2.5Y7/4	φ1～3ミリの小石	良	—		称名寺～堀之内	胴上半に隆線による弧線。交点に円形の刺突。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内にφ4ミリの刺突を加える。
5	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	不良	—		称名寺	太さ1～2ミリの沈線による文様区画。
6	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。
7	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
8	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒、砂粒	普通	—		称名寺～堀之内	口唇部に沈線。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
11	注口	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	良	—		堀之内	頸部にボタン状の突起を囲むように弧線が施文される。胴部は曲線文。
12	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	—		称名寺～堀之内	内面螺旋状になる。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	内面に沈線による「8」字文を描く。

側道3区78号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E III	口縁部に「∞」文の付く4単位波状口縁。撚糸。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		勝坂	中空の突起。沈線による弧線。
3	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
4	土製 円盤		灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。底部片転用。

側道3区87号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒、金雲母	良	—		阿玉台	幅8ミリの連続爪形文と幅5ミリのペン先状刺突による施文。
---	----	----	------	----------	----------------	---	---	--	-----	------------------------------

側道3区89号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RI	縦	加曾利E	撚糸。
2	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	—
3	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RI	縦	加曾利E	撚糸。

側道3区90号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		中期	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。波状文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による文様施文。
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	口縁部に円形の刺突と沈線。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	縦	堀之内	太さ2ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による口縁部区画と胴部縦位区画。

側道3区92号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	横	五領ヶ台	隆線による横位区画。幅8ミリの沈線による縦位区画と半円状の印刻。
---	----	----	-----	--------	-------	----	----	---	------	----------------------------------

側道3区95号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E III	隆線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい白色粒	普通	—		加曾利E	太さ2ミリの沈線による条線。

側道3区97号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利E II	隆線による楕円区画。
2	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	良	LR	縦	中期	頸部に交互刺突文と楕円区画。

側道3区98号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		加曾利E	頸部に刻みを持つ隆線で文様帯を区画し、隆線による「∞」文や弧線文を施文。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		中期	縦位のミガキ整形。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		焼町	双環状の突起と沈線による弧線。

側道3区99号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E II	太さ10～12ミリの隆線による楕円文様区画。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	幅13ミリの平行沈線による山形文。撚糸。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RI	横	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	—
5	器台	脚部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	—

側道3区102号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	堀之内	口縁部環状の突起。胴部には太さ4ミリの沈線による方形区画。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利E III	波状口縁突起部に「∞」状の沈線。口縁部は沈線による区画。
3	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1～2ミリの小石	良	—		中期	太さ4ミリの沈線による渦巻文。
4	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
5	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	横位のミガキ整形。

側道3区104号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による楕円区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの石英多い	良	RI	縦	中期	結節縄文による施文。

III・3区出土土器観察表

側道3区105号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	暗褐	7.5YR3/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	幅5ミリの平行沈線による横位区画。条線を結節状に施文。
2	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E	内面にスス付着。

側道3区106号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	LR	横	加曾利E II	口縁部隆線による区画。頸部無文帯。
2	鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	良	—		勝坂	側縁に円形の突起と隆線による弧線。
3	深鉢	胴部	暗赤褐	5YR3/6	φ1～3ミリの小石多い	良	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
4	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。沈線による波状文。爪形文。
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの石英	普通	LR	横	加曾利E	太い隆線による渦巻文。
6	深鉢	胴部 底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒多い	良	—		中～後期	縦位のミガキ整形。内面にスス付着。

側道3区109号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～3ミリの小石多い	良	—		堀之内	口縁部に4単位の突起。頸部に太さ3ミリの沈線が廻り「8」字形の貼付文。胴部曲線文。内面にスス付着。
2	深鉢	口縁 胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	不良	LR	縦	堀之内	口縁孔を持つ2単位の突起。太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～4ミリの軽石粒多い	良	—		堀之内	櫛状工具による格子目状の文様。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/8	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	LR	縦	加曾利E IV	口縁部に断面三角の隆線が廻り無文帯を作る。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。口縁部にφ8～10ミリの円形刺突。外面にスス付着。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		堀之内	頸部に沈線が横位に廻る。沈線間に刺突。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒多い	不良	LR	縦	加曾利E IV	太さ4～5ミリの沈線による「∩」「U」文。
8	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	Rl	横	加曾利E IV	橋状把手を持つ。把手部は隆線による楕円区画。
9	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E IV	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。
10	壺	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの黒色粒	不良	—		堀之内	眼鏡状の把手。沈線による文様施文。
11	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	Rl	—	—	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
12	土製円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
13	土製円盤		橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
14	土製円盤		褐	7.5YR4/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
15	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区111号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～5ミリの小石、軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E I	太い隆線による渦巻や「∞」文。頸部に隆線による横位区画。撚糸。10と同一個体。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部にφ3～4ミリの円形刺突と横位の沈線。頸部に斜線。
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石多い	普通	Lr	縦	加曾利E I	隆線による楕円区画。撚糸。
4	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		勝坂	隆線による「∞」文。円形の突起。赤色塗彩。
5	鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	口縁部に無文帯を持つ。「∞」文様。長楕円文。
6	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～2ミリの小石多い	普通	Lr	縦	加曾利E I	口縁部横位の沈線と連続交互刺突文。渦巻状の突起。頸部は沈線による横位区画。胴部縦位区画。曲線文。撚糸。
7	深鉢	口縁	灰褐	5YR4/2	φ1～2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E I	太い隆線による半円状区画。撚糸。8と同一個体。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
8	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E I	太い隆線による「∞」状の区画。撚糸。7と同一個体
9	深鉢	胴部 底部	暗赤褐	5YR3/4	φ1～3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利E	内面にスス付着。撚糸。
10	深鉢	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利E I	頸部に隆線による横位区画。撚糸。1と同一個体
11	土製 円盤		灰褐	5YR4/2	φ1～2ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
12	土製 円盤		にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～2ミリの小石	普通	Rl		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
13	土製 円盤		明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区112号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Rl	縦	加曾利E II	口縁部隆・沈線による区画。内面にスス付着。撚糸。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの石英、 金雲母	普通	—		阿玉台	幅6ミリの爪形文。

側道3区113号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利E	口縁部に隆・沈線が廻る。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E	隆線による渦卷文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	条線施文。
4	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Rl	縦	加曾利E	撚糸。

側道3区114号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による文様施文。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

側道3区117号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	Rl	縦	加曾利E I	隆線による「∞」を基調とした文様区画。双環状の孔を持つ突起。スス付着。撚糸。
2	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの小石多 い	不良	Lr	縦	中期	隆線による横位区画。撚糸。

側道3区125号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E IV	太さ6ミリの沈線による文様区画。
---	----	----	----	----------	-------	---	----	---	---------	------------------

側道3区131号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい黒色粒	普通	Lr	縦	加曾利E IV	太さ3ミリの沈線が横位に廻り無文帯と区画する。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石 粒、黒色粒	良	LR	縦	加曾利E III	太さ4ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	Lr		加曾利E	撚糸。

側道3区132号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの石英	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
---	----	----	------	----------	-----------	---	---	--	-----	--------------------

側道3区159号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	Lr	横	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様区画。
2	両耳 壺	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利E IV	口縁部に断面三角の隆線が廻り無文帯を区画する。橋状把手が付く。地文条線。
3	深鉢	底部	明黄褐	10YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		中期	若干の上げ底になる。
4	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—		中期	縦位のミガキ整形。

側道3区165号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	隆線による弧状区画。
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	小突起を持つ。外面横位の整形。
3	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの石英、 金雲母	良	—		焼町	双環状の突起に隆・沈線。
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	後期	口縁に沿って太さ4ミリの沈線が廻る。
5	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		勝坂	幅6ミリの平行沈線による半円・斜線区画。区画内に印刻を持つ。
6	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による区画と幅6ミリの浅い沈線による弧線文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	砂粒多い	不良	Lr	縦	中～後期	—

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。

側道3区166号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による縦位と弧線文。
2	深鉢	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	内面にスス付着。

側道3区169号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	幅6～7ミリの爪形文。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による文様区画。半截竹管の角による 刺突列。
3	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 石英	良	—		勝坂	隆線に刻み。隆線に沿って平行沈線施文。

側道3区172号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦 横	加曾利E III	隆線による楕円区画。
2	土製 円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石	普通	Lr		—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区175号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	外面横位のミガキ整形。
---	----	----	------	----------	-------------------	---	---	--	-----	-------------

側道3区176号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E III	幅広の浅い沈線による縦位区画。
---	----	----	------	----------	-------	----	----	---	----------	-----------------

側道3区187号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	外面横位のミガキ。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		勝坂	幅12ミリの深い爪形文。
3	土製 円盤		灰褐	7.5YR5/2	φ1～3ミリの小石	普通	—		勝坂	外縁を打ち欠き成形。
4	土製 円盤		黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区188号土坑出土土器観察表

1	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL		中期	外縁を打ち欠き成形。
---	----------	--	-------	--------	-----------	----	----	--	----	------------

側道3区192号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。
---	----	----	-------	---------	------------	----	----	---	-----	------------------

側道3区193号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		後期	横位のミガキ整形。
---	----	----	------	----------	------------	---	---	--	----	-----------

側道3区195号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利E I	双円の隆帯に孔を持つ突起。隆線による楕 円区画と交互刺突文。撚糸。
2	器台	脚部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～5ミリの小石	普通	—		中期	縦位のミガキ整形。

側道3区205号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E II	口縁部隆線による渦巻文。頸部は太さ4 ～5ミリの沈線による横位区画。
2	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	横位のミガキ。内面にスス付着。

側道3区206号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	普通	—		加曾利E	隆線による縦位、曲線施文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による幾何学文。
3	深鉢	胴部	浅黄橙	7.5YR8/4	細かい黒色粒	良	LR	横	加曾利E	太い隆・沈線による楕円区画。胴部は太さ 4ミリの沈線による縦位区画。

側道3区212号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利E	太い隆線が垂下する。地文は波状の条線。
---	----	----	------	----------	-------------------	----	---	--	------	---------------------

側道3区213号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	口縁に断面三角の隆線が廻る。太さ3ミリの 沈線により無文帯と縄文帯を区画する。
---	----	----	-------	---------	------------	---	----	---	-----	--

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	LR	横	堀之内	隆線に刺突を持つ。太さ3ミリの沈線による横位区画。
3	土製円盤		灰白	10YR8/2	細かい黒色粒	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区215号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	波状口縁頂部は渦巻文。頂部から垂下する縦位区画線と斜線。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~5ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による楕円区画に沿って太さ3ミリの押し引きの沈線。区画内に波状の沈線。
3	注口	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	太さ2ミリの沈線による渦巻文。弧線。
4	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい黒色粒	良	—	—	称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画と刺突。
5	土製円盤		褐	7.5YR4/3	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	半截竹管による平行沈線と刺突。外縁を打ち欠き成形。
6	土製円盤		赤褐	5YR4/8	細かい砂粒	普通	Lr	—	加曾利E II	外縁を打ち欠き成形。撚糸。

側道3区216号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による楕円区画。区画内幅5ミリの結節沈線と爪形文。
---	----	----	------	----------	---------------	---	---	---	-----	-----------------------------

側道3区217号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E I	太い隆線による文様区画。
2	器台	台部 脚部	明褐	7.5YR5/6	φ1~5ミリの小石、軽石粒多い	普通	—	—	中期	器台脚部に円形の透かしに沿って隆線が廻る。
3	深鉢	胴部	赤褐	2.5YR4/8	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E I	隆線による区画。
4	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒	良	—	—	中期	隆線による弧線。
5	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区219号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線による横位区画と縦位の区画線。
---	----	----	------	----------	------------	----	----	---	------	---------------------------

側道3区220号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	太さ4~6ミリの沈線による楕円区画。区画内φ4ミリの円形刺突。
2	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	勝坂	無文。橋状把手。

側道3区223号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明黄褐	10YR7/6	φ1~5ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	横位のミガキ整形。
2	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/8	φ1~2ミリの小石	良	RI	縦	加曾利E	撚糸。
3	土製円盤		灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

側道3区228号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	普通	LR	横	加曾利E IV	太さ4~5ミリの弧線。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	太さ3ミリの沈線による曲線。
3	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの石英	普通	—	—	中期	頸部に刻みを持つ隆線が廻る。
4	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

側道3区231号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	灰褐	5YR4/2	φ1~3ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利E II	口縁部隆線による横位区画。区画内に渦巻、「∞」文施文。頸部横位区画で無文帯を持つ。胴部隆線による縦位区画。撚糸。
2	深鉢	口縁 胴部	赤褐	2.5YR4/8	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RI	縦 横	加曾利E II	隆線による突起。口縁部曲線文。頸部沈線による縦位区画。
3	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの石英、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E II	口縁部は隆線により「∞」を基調とした文様。頸部に横位の区画で無文帯を作る。胴部に縦位の隆線。撚糸。
4	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	不良	—	—	加曾利E II	隆線による楕円区画。
5	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1ミリの黒色粒	普通	LR	横	加曾利E II	太さ4ミリの沈線による波状文。
6	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	半截竹管の刺突。

側道3区233号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明黄褐	10YR6/6	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による文様区画。
2	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	爪形文施文。

III・3区出土土器観察表

側道3区237号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による円形・楕円文。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利EIV	太さ4～5ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	底部	赤褐	2.5YR4/8	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr		加曾利EIII	—

側道3区238号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線に沿って半截竹管の両側縁を使った押し引きの沈線。
---	----	----	------	----------	---------------	---	---	--	-----	----------------------------

側道3区239号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～3ミリの小石	良	RL	縦横	加曾利EIV	口縁部に断面三角の隆線が廻り無文帯を区画する。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIV	口縁部に隆線が廻る。刺突列施文。
3	土製円盤		にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	普通	RI		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。撚糸。

側道3区244号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	頸部に交互刺突文による区画。沈線による区画文。撚糸。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	普通	LR	横	大木6	結節浮線による弧線・斜線。口縁内面に縄文施文。
3	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい黒色粒	良	—		勝坂	幅6～7ミリの沈線による曲線と刻みをもつ隆線による文様区画。
4	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	φ1～3ミリの石英、金雲母	普通	—		阿玉台	「V」字状の突起を2段に重ねる。接合痕を残す。

側道3区250号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E II	口縁隆線による半円区画に沈線充填。頸部無文帯。
2	浅鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曾利E	外面横位のミガキ整形。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線に沿って幅12ミリの沈線が廻る。
4	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	—		勝坂	隆線と爪形文施文。中空の突起になる。

側道3区253号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	横	後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		焼町	渦巻文の突起を持ち、これから楕円形や渦巻の文様が広がる。

側道3区254号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E II	隆線による楕円区画。区画内に沈線が充填される。
2	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	不良	RL	横	加曾利E III	太さ3ミリの浅い沈線による縦位区画。
3	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E	太さ3ミリの沈線による縦位区画。

側道3区256号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	Lr	横	堀之内	太さ4ミリの沈線による文様区画。交点に円形の刺突。
---	----	----	-------	---------	-------	---	----	---	-----	---------------------------

側道3区266号土坑出土土器観察表

1	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
---	------	--	------	----------	-------	---	---	--	---	------------

側道3区269号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	横	中期	口縁部に幅10ミリの刻み列。横位の沈線施文。
---	----	----	------	----------	-----------	----	----	---	----	------------------------

側道3区270号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	LR	縦横	後期	爪形文を持つ隆線が垂下する。
---	----	----	------	----------	------------------	----	----	----	----	----------------

側道3区273号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの石英、雲母	良	—		阿玉台	弧状の隆線に沿って押し引きの爪形文が施文される。
---	----	----	------	----------	--------------	---	---	--	-----	--------------------------

側道3区281号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒多い	普通	RI	縦	加曾利E III	隆線による方形区画。撚糸。
2	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E II	隆線による楕円区画。撚糸。

側道3区285号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	縦位の整形と浅い条線。
---	----	----	-------	---------	-------	---	---	--	-----	-------------

側道3区293号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	断面三角の隆線による区画と胴部に太さ3～4ミリの沈線による斜線。
---	----	----	----	---------	------------	----	---	--	-----	----------------------------------

第6章 出土遺物

側道3区297号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、片岩	普通	Lr	縦	中期	捺糸。

側道3区301号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの石英	良	—	—	堀之内	横位のミガキ整形。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい石英、黒色粒	良	—	—	勝坂	幅6ミリの連続爪形文とペン先状刺突。

側道3区303号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石	良	—	—	勝坂	ラッパ状に開く突起。縁部には刻みが施文される。
---	----	----	-------	--------	-----------	---	---	---	----	-------------------------

側道3区309号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~4ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	隆線による文様区画。隆線に刻みが増えられ、それに沿って結節の沈線が施文される。
2	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	幅10ミリの爪形文と幅4ミリの爪形文による鋸歯状施文。

側道3区320号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英	普通	RL	斜	勝坂	幅5ミリの平行沈線による文様区画。
---	----	----	------	----------	-----------	----	----	---	----	-------------------

側道3区321号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	内面にスス付着。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1ミリの砂粒	普通	—	—	三十稻場	頸部に沈線が廻り、胴部には涙滴状の刺突。頸部にスス付着。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	中期	隆線による渦巻の突起。

側道3区322号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	隆線による方形区画。区画内に太さ3~4ミリの沈線による渦巻文。捺糸。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒 多い	不良	—	—	加曾利E	隆線による渦巻文。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ4ミリの浅い沈線による横位区画と連続文。捺糸。

側道3区326号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	堀之内	口唇部にφ6ミリの円形刺突を3個施文し、その間を沈線がつなぐ。胴部は太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。
---	----	----------	-----	---------	------------	----	---	---	-----	--

III・3区 遺構外出土土器

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの砂粒	良	RL	横	諸磯b	口縁部靴先状になる。幅3ミリの平行沈線を集合させて風車状の文様を描く。	940-900
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの片岩	良	—	—	諸磯c	幅3~4ミリの半截竹管による平行沈線。棒状の貼付文。	945-940
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの石英	普通	—	—	勝坂	隆線による弧線。爪形文、突起が橋状に付く。	940-990
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石	普通	—	—	阿玉台	太さ3ミリの押し引きの結節沈線による区画と爪形文。	950-940
5	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—	—	加曾利E I	口縁部に太さ4ミリの沈線による楕円区画。口唇部直下には交互刺突文。頸部に爪形文列で口縁部文様を区画する。	940-930
6	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—	—	勝坂	幅6ミリの爪形文を粘土紐に施文。内面にスス付着。	945-915
7	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	4単位の波状口縁になる口縁部は、隆線による方形の区画。頸部文様帯、胴部文様帯とも隆線によって区画される。区画内は、爪形文。胴部は隆線による弧線。	975-965
8	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	加曾利E III	口縁部隆線による横位の区画と渦巻文。胴部は沈線による縦位区画に斜線で綾杉状に施文。	940-915
9	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの黒色粒、砂粒	普通	RL	横	加曾利E	口縁部無文帯。頸部に隆・沈線で楕円区画。区画内縄文充填。胴部下半は条線。	935-955
10	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	口縁部に太い隆線による楕円区画。胴部は太さ5ミリの沈線による縦位の区画。	940-915

III・3区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
11	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画。区画内に斜めの沈線を充填。	945-945
12	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	横斜	加曾利EIV	太さ8ミリの断面三角の隆線で口縁部無文帯を区画し、楕円文様を描く。	915-965
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。	910-945
14	深鉢	口縁	暗灰黄	2.5Y4/2	φ1~2ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ1~2ミリの沈線による文様施文。口縁上端が「く」の字状に屈曲し、内面に段を作る。口縁下部、胴部との文様区画部でゆるく屈曲する。	965-935
15	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの小石	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文区画。区画内に縦長の刺突。	925-945
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		堀之内	口縁部に同心円状の沈線と横位の区画線。頂部から幅10ミリの平行沈線が垂下する。	925-950
17	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による三角と渦巻文。	910-940
18	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒多い	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線で「J」字文を描く。	950-920
19	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1ミリの軽石粒	普通	RL	縦	堀之内	太さ5ミリの沈線が口縁に廻る。縦位区画と波状文が施文される。	920-950
20	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	堀之内	口縁内面に沈線が廻る。太さ2ミリの沈線による渦巻、入り組文様。磨り消し縄文。	955-935
21	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による幾何学文。	955-935
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		堀之内	小波状口縁になり、沈線による同心円状の文様施文。波頂部から太さ10ミリの隆線が縦位に垂下する。	965-935
23	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	波状口縁。波頂部に太さ8ミリの粘土紐を円形と縦位に貼付し刺突を加える。	935-915
24	壺	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	不良	—		堀之内	眼鏡橋状把手が付く。器面には、横位の沈線と円形の刺突文。赤色塗彩。	905-940
25	壺	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	砂粒、細かい軽石粒	普通	—		堀之内	「8」字状の橋状把手が付く。太さ4ミリの沈線が横位に廻る。	910-925
26	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの砂粒、黄色粒	普通	—		堀之内	口縁部に橋状把手と指頭圧痕のつけられた隆線。胴部は、太さ4ミリの沈線による文様。	910-945
27	壺	口縁	橙	7.5YR7/6	砂粒、軽石粒	普通	—		堀之内	「8」字状の橋状把手。肩部に沈線が横位に廻る。	915-925
28	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	—		堀之内	橋状把手が螺旋状にねじれて付けられる。口縁部には太さ4~5ミリの沈線が廻る。	935-905
29	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	不良	—		三十稻場	太さ3~5ミリの沈線による曲線文と半截竹管刺突。	940-960
30	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	後期	太さ2ミリの沈線による横位施文。鍵の手状に屈曲させる。	940-935 945-965 965-965
31	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	斜	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位の区画。	940-945
32	鉢	口縁 底部	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	Lr	横	加曾利E	口縁部に太さ3ミリの浅い沈線が廻る。	950-950
33	深鉢	底部	灰黄褐	10YR4/2	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による文様施文。底面には網代痕。	940-890
34	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石	普通	—		加曾利E	外面縦位の整形。高台底部。	920-965
35	深鉢	底部	オリーブ黒	7.5Y3/2	細かい砂粒	良	—		後期	網代痕。	950-910
36	深鉢	口縁	明黄褐	10YR6/6	φ1ミリの砂粒、軽石粒	普通	—		勝坂	ハート形の把手。外縁は交互刺突の施文。内側には押し引きの爪形文。	955-920
37	器台	器面	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	—		中期	器台面磨かれている。	表採

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
38	器台	脚部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	加曾利EIII	器台側面に孔が7個開けられる。	930-945
39	深鉢	底部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~2ミリの 小石、白色粒	普通	—	—	堀之内	外面縦位の整形。ミニチュア土器。	955-940
40	腕輪		にぶい黄橙	10YR6/4	砂粒、黒色粒	良	—	—	中~後期	ミガキ整形。貝輪状土製品。	905-945
41	腕輪		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	指頭圧痕。貝輪状土製品。	910-950
42	腕輪		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	指頭圧痕。貝輪状土製品。	910-950
43	腕輪		にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—	—	—	指頭圧痕。貝輪状土製品。	910-950
44	腕輪		浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの 小石	不良	—	—	後期	貝輪の模倣品。貝輪状土製品。	930-925
45	腕輪		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1ミリの小石	不良	—	—	後期	貝輪の模倣品。貝輪状土製品。	954-980
46	土製品		橙	7.5YR6/6	φ1ミリの砂粒、雲母	不良	—	—	—	土製块状耳飾り。	955-910
47	土偶		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	—	—	—	十字形で、胸部の表現を持つ。	950-885
48	土偶		にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	不良	—	—	—	土偶脚部。	950-885
49		把手	黒褐	7.5YR3/2	φ1ミリの小石	良	—	—	加曾利E	土器把手部。	930-965
51	耳飾り		赤褐	2.5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	中期	耳栓。	940-915
52~194	土製円盤	深鉢等の破片を転用した土製円盤を一括した。土器片の外縁を打ち欠き成形している。成形後、縁を磨いて面取したのも見られる。									

III区 古代出土土器

III区1号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	壺	口縁~ 胴上部	(14.5)	—	(7.2)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	口縁短く「く」の字状に屈す。肩部張り強い。球胴になろう。口縁基部外面撫で、内面削り。胴部左上篋削り。内面横篋撫で。
2	土師器	高坏	裾部 2/3	—	12.0	2.8	細土	明黄褐	10YR 7/6	良	薄作り。裾部「ハ」の字状に開く。表裏面に製作時の破損(割れ)を補修する塗布痕あり。

III区2号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	完形	10.7	3.0	6.0	細土	橙	5YR 6/6	良	口縁部直接的に外傾し、口唇部小さく外反し細まる。口縁部外面は横篋磨き、上端と内面は横撫で。体部扁平で平底。外面横・斜篋磨き。内面横撫で。
2	土師器	埴	完形	10.0	—	7.0	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	口縁部丈高で直線的に外傾し、口唇部細まる。内外面横撫で。内面下半縦篋撫で。体部扁平で丸底。外面不定方向篋削り。内面篋留め痕。
3	土師器	埴	3/4	11.2	—	6.5	細土	にぶい 黄褐	10YR 5/3	良	口縁部丈高で内湾気味に開く。口唇部細まる。外面横撫で、内面横撫で後放射状擬似篋痕あり。体部扁平で丸底。不定方向篋削り。内面横篋撫で。
4	土師器	埴	完形	13.1	—	4.6	細土	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	口縁部緩く括れ内湾気味に開く。口唇部細まる。内外面横撫で。体部扁平で浅い丸底。体部周縁不定方向、底部一定方向篋削り。
5	土師器	埴	完形	13.3	3.6	5.6	細土	橙	7.5YR 6/6	良	口縁部大きく内湾気味に開く。外面縦篋磨き。内面細かな斜篋磨き。体部扁平で平底。外面横篋磨き。内器面の荒れ著しい。
6	土師器	埴	3/4	13.5	—	5.5	細土	橙	7.5YR 7/6	良	口縁部丈高で内湾気味に開く。口唇部括れて細まって立つ。内外面横撫で。体部扁平で浅い丸底周辺不定方向篋削り。底部一定方向の篋削り。
7	土師器	高坏	坏部 1/4	12.0	—	(4.0)	細土	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	腰部から内湾のまま口縁に至る。口唇部細まる皿形。坏基部短引き篋削り後、内外面縦篋磨き。
8	土師器	高坏	坏部 1/3	14.5	—	(5.5)	細土	赤橙~ 橙	2.5YR 5/6	良	腰部は緩く折れ、体部小さく外反後内湾気味に開く。口唇部細まる。体部内外面横撫で。腰部不定方向篋削り。
9	土師器	高坏	杯部	14.2	—	(4.9)	細土	にぶい 橙	5YR6/3	良	胴部は屈して体部内湾気味に開く。口唇部細まる。内外面縦篋磨き。
10	土師器	高坏	杯部 1/3	15.8	—	(5.4)	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	腰部は緩く屈し、体部小さく外反後内湾気味に開く。口唇部細まる。内外面横撫で後縦篋磨き。外面不鮮明。腰部上方へ篋削り。
11	土師器	高坏	脚部 1/3	—	—	—	細土	明赤褐 ~橙	2.5~7.5 YR	良	細身脚柱。外面縦篋削り、内面横篋削り。裾部短く直に折れる。外面放射状篋削り。内面横撫で。
12	土師器	高坏	裾部 2/3	—	—	—	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	裾部「ハ」の字状に開く。脚柱外面縦篋、内面横篋削り。裾部内外面横撫で。

III・3区出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
13	土師器	高坏?	裾部 1/3	—	—	—	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/3	良	脚柱下半部は幅広。裾部開き小さく甲高。脚柱内面は指頭痕。
14	土師器	高坏	脚部 1/3	—	11.1	(4.2)	細土	浅黄橙	7.5YR 8/6	良	裾部有段。外面は放射状に篋撫で。内面脚柱は横篋削り。
15	土師器	小形甕	1/2	9.5	—	8.8	細土	灰白	10YR 8/2	良	口縁部短く「く」の字状に開くが、内湾気味。内外面横撫で。球胴。丸底。上半横・中位斜・下位横位の篋削り。
16	土師器	甕	3/4	14.3	5.6	17.3	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/3	良	口縁部「く」の字に外傾。口唇部細まる。内外面横撫で。胴部下半やや細まるが、張りの強い丸胴。平底。上半部横篋削り。下半は斜位の極細掻目。
17	土師器	甕	1/2	13.6	6.6	23.0	細土	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	口縁部外反気味に開く。内外面横撫で。胴部上半に最大径をもつ倒卵形。平底。外面縦篋削り。中位に煤状付着物。内面斜・横篋撫で。
18	土師器	甕	3/4	14.7	6.0	24.2	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	形状歪む。口縁部「く」の字状に屈し、口唇部細まる。外面横撫で後基部縦篋撫でが及ぶ。内面横篋撫で。胴部中央に最大径をもつ近球胴形。上半および下部は縦・中位に斜～横位の篋削り。内面横篋撫で。底部小径で小さく凸出。
19	土師器	甕	1/2	13.5	6.2	27.0	細土	浅黄橙	7.5YR 8/4	良	口縁基部絞り強く外反気味に開く。内外面横撫で。胴部やや長目、卵形。平底。外面左上がり斜～縦篋削り。内面斜篋撫で。
20	土師器	S字口縁 台付甕	口縁～ 台部	(15.4)	—	(25.9)	細砂混	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	口縁部内外面横撫で。胴部倒卵形。肩部右上・胴部引長な左上掻目。10条単位の細目。胴・台部見込に砂土塗布。
21	土師器	S字口縁 台付甕	口縁～ 台部	14.9	—	(28.7)	細土	にぶい 黄橙	10YR 6/3	良	口縁部内外面横撫で。胴部長目の倒卵形。肩部右上・胴部引長な左上掻目。6条単位の粗目。胴・台部見込に砂土塗布。
22	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	8.5	(6.9)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 7/3	良	台端部内面折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。
23	土師器	S字口縁 台付甕	台部	9.0	—	(7.4)	細砂混	にぶい 橙	5YR7/4	良	台端部内面折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。
24	土師器	S字口縁 台付甕	杯～ 台部	—	8.7	(7.4)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 6/3	良	台端部内面折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。
25	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.6	(7.7)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	台端部内面折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
26	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	10.0	(7.8)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	台端部内面折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。
27	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	—	(8.3)	細砂混	橙	7.5YR 6/6	良	台端部内面折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。
28	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	12.0	(6.6)	細砂混	明黄褐	10YR 6/6	良	台部大径。大形品になるか。端部内折れ。
29	土師器	壺	1/2	(12.4)	—	13.4	細土	にぶい 赤褐	5YR5/4	良	頸部短く直立後、大きく外反する。口縁部は屈して段をなし小さく外反する。口唇端部丸まる。口縁部内外面横撫で。頸部外面縦掻目7条単位。球胴で茶布包様に下位が扁平。丸底。肩部縦掻目。腰～底部不定方向篋削り。内面指頭痕および撫で上げ。
30	土師器	壺	ほぼ完 形、底 部欠損	12.1	—	18.1	細土	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	口頸部丈高直線的に外傾する。口唇部細まる。内外面縦篋磨き。胴部中央に最大径をもち球形、丸底。下半部に横位篋削りを残し、口縁部より粗間隔の篋磨き。

III区3号住居出土土器観察表

1	土師器	高坏	脚柱	—	—	(5.8)	細土	にぶい 橙	7.5YR 6/4	良	細目の脚柱で縦篋削り。内面絞り状痕あり。
---	-----	----	----	---	---	-------	----	----------	--------------	---	----------------------

III区4号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	完形	9.2	—	(6.0)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	厚手の作り。体部深目で先細りの丸底。口縁部丈高で外反気味に開く。口唇部細まる。内外面縦位篋磨き、やや粗隔。
2	土師器	高坏	坏部	13.8	—	(4.7)	細土	明黄褐	10YR 7/6	良	腰部緩く屈して体部外反気味に開く。内外面縦～斜位の篋磨き。
3	土師器	S字口縁 台付甕?	胴部～ 台部	—	—	(8.3)	細砂混	にぶい 黄橙	10YR 6/3	良	下位から上位順、下方から上方へ掻目。6～7条単位細目。胴・台部見込に砂土塗布。

第6章 出土遺物

Ⅲ区5号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	高坏	坏部	15.6	—	5.05	細土	橙	2.5YR 6/6	良	屈して腰部を作り、体部は緩く外反気味に開く。内外面横撫で。腰部縦篋削り。
2	土師器	S字口縁台付甕	口縁～ 胴上部	(14.1)	—	(10.8)	細砂混	にぶい 褐	7.5YR 5/3	良	口縁部内外面横撫で。肩部の張り弱く、倒卵形、胴部になろう。上半右上・下半左上搔目。6条単位か。内面篋撫で上げ。
3	土師器	S字口縁台付甕	台部	—	3.0	(6.4)	細砂混	にぶい 赤褐	7.5YR 4/3	良	台端部折れ。胴・台部見込に砂土混。台部2次被熱。
4	土師器	S字口縁台付甕	台部	—	9.3	(7.1)	細砂混	明赤褐	5YR5/6	良	台端部内折れ。胴見込篋押さえ。胴・台部見込に砂土塗布。台部に2次被熱。

Ⅲ区6号住居出土土器観察表

1	土師器	壺	口縁 1/3	12.0	—	(5.5)	細砂混	橙	7.5YR 7/6	良	頸部「く」の字状に折れる。内面横篋撫で。胴部は球胴形で強く張る。外面上半に弱い搔目。腰部斜篋削り。
2	土師器	壺	口縁欠	—	4.0	(15.5)	細土	明赤褐	2.5YR 5/6	やや軟	頸部「く」の字状に外傾。内面粗い搔目状痕。球胴左上斜方搔目後篋磨きあるも器面荒れ不明瞭。底部小径上げ底。

Ⅲ区7号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	坏部 4/5	13.1	—	5.3	細土	にぶい 橙	7.5YR 6/4	良	口縁部大きく外傾。口唇部細まる。内外面横撫で。体部扁平な丸底。引き手方向篋削り。
2	土師器	高坏	杯部	16.6	—	(5.5)	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/2	良	坏部見込は小径。腰部緩く屈して体部直線的に大きく外傾。口唇部細まる。内外面放射状篋磨き。
3	土師器	高坏	脚部	—	12.6	(10.1)	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	脚柱細身。外面縦篋削り後篋磨き。内面3段に横篋削り。裾部強く屈して「ハ」の字状に開く。内外面横撫で。
4	土師器	高坏	脚部	—	12.05	(11.8)	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/3	良	脚柱細身で丈高。外面幅狭な縦篋削り。内面横篋削り。裾部強く屈して「ハ」の字状に開く。内外面横撫で。
5	土師器	台付甕	台部	—	9.6	(7.5)	細砂混	にぶい 橙	5YR7/3	良	台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。

Ⅲ区8号住居出土土器観察表

1	土師器	高坏?	坏部 2/3	17.1	—	(5.3)	極細土	淡黄	2.5Y8/3	良	坏部内湾気味に開く。口唇部細まる。内外面は上半横位・下半放射状篋磨き。
2	土師器	壺	ほぼ完形	12.6	2.1	15.5	細土	明黄褐	10YR 6/6	良	頸部径やや大きく直線的で外傾度小さい。口唇部細まる。胴部若干下脹れて球胴。底部極小径でベタ上げ底。口縁部内外・胴部外面縦篋削り。
3	土師器	S字口縁台付甕	台部	—	9.0	(8.2)	細砂混	にぶい 橙	7.5YR 6/4	良	台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。

Ⅲ区9号住居出土土器観察表

1	土師器	小形S字口縁台付甕	底部欠	10.7	—	(11.9)	細土	にぶい 褐	7.5YR 5/4	良	口縁部内外面横撫で。張りのない撫肩で左上り。搔目は目立つが著しく摩滅。胴下半は下方へ縦篋削り。作りやや粗雑。
2	土師器	甕	胴部欠	12.6	5.0	(9.5)	細砂混	明黄橙	10YR 7/6	良	短かめの「く」の字口縁。胴部丸く張り、底部は低く輪高台状。口縁部内外面赤色塗彩。外面肩部赤色塗彩1条廻る。胴部は弱い篋削り。
3	土師器	甕	口縁 1/2	14.5	—	(11.5)	細土	橙	7.5YR 7/6	良	口縁部外反し口唇部は細まる。横撫で肩部に縦位の搔目後胴部は上方へ篋削り。内面斜方搔目。
4	土師器	S字口縁台付甕	台部欠	13.2	—	(16.0)	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	肉厚なS字口縁。内外面横撫で。胴部丸く張る。搔目は肩部の区別なく左上りの後縦位で上方へ搔目を施す。総じて粗略。内面肩部に粗い篋撫で。
5	土師器	台付甕	口縁～ 肩部	15.8	—	(6.3)	砂粒混	にぶい 橙	7.5YR 6/4	良	鈍重なS字口縁。肩部張り強い。胴部下地左上がり斜位篋削り。肩部右上り左回り搔目7条単位。内面口頸折山部篋削り。肩部縦位の強い指撫で上げ。
6	土師器	壺	下半	—	7.6	(14.3)	粗砂混	にぶい 黄橙	10YR 6/4	良	球胴を呈す。底部輪高台様で砂底。外面縦～斜位で上方への篋削り。内面横篋撫で。

Ⅲ区10号住居出土土器観察表

1	土師器	高坏	完形	15.3	11.0	16.3	細砂混	明赤褐	2.5YR 5/6	良	深い坏部は腰弱く角張り体部直線的に外傾。口唇部細まる。内外面縦篋磨き。脚柱細身で丈高、縦篋磨き。裾部は有段。脚柱に続く段は放射状篋磨き。内面脚柱は横篋削り。裾部は横撫で。
2	土師器	高坏	脚1/3	—	—	—	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	脚柱は細身で丈高。外面縦篋磨き。内面横篋削り。裾部は強く折れ「ハ」の字状に開く。内面横撫で。

III・3区出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
3	土師器	甕	ほぼ完形	10.6	6.0	15.0	細土	にぶい 褐	7.5YR 5/3	普通	口縁部内湾気味に外傾する。胴部球形でベタ底小径。口縁部内外面・胴部底部とも横位磨き。内面横位磨き。
4	土師器	甕	口縁 1/3	—	—	—	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	「く」の字状口縁。口唇部細まる。肩部張りなく撫肩。口縁部外面粗間で横位短引き掻目後縦磨き。肩部粗略な縦磨き。内面口縁部短引き横掻目。肩部強い横磨き。
5	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.0	(6.9)	細砂混	灰黄褐	10YR 5/2	良	台端部内折れ。胴部見込部放射状に磨き。内面指頭痕著しく、見込に砂土塗布。
6	土師器	壺	口縁 3/4	17.2	—	(5.5)	細土	浅黄橙	7.5YR 8/6	良	肉厚で内湾気味に開く。頸・肩部の接合痕顕著。外面横・内面縦磨き。
7	土師器	甗	ほぼ完形	18.0	1.4	10.0	細土	にぶい 橙	10YR 7/3	良	丸底から体部内湾気味に開く。口唇部細まる。底部小径単孔。外面左斜方磨き。内面斜・横位強い磨き。

III区12号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	完形	10.4	—	5.4	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	口縁部丈高でわずかに外反気味に開く。内外面横磨き後縦磨き。体部扁平丸底。見込部放射状磨き。底部磨き後、不定方向磨き。
2	土師器	埴	完形	10.5	—	7.0	細土	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	口縁部丈高で直線的に開く。内外面横磨き。体部扁平丸底、不定方向磨き。
3	土師器	高坏	ほぼ完形	15.0	11.6	16.0	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/4	良	直線的に開く深目の坏部。内外面横磨き。腰部強く折れる引き方磨き。脚部細身で丈高、縦位幅狭な磨き。裾部は水平に近く開き横磨き。内面横位磨き。

III区15号土坑出土土器観察表

1	須恵器	坏	ほぼ完形	13.4	7.1	4.0	細土	にぶい 黄橙	10YR 7/2	良	轆轤成形。底面糸切り。
---	-----	---	------	------	-----	-----	----	-----------	-------------	---	-------------

III・3区表採出土土器観察表

1	土師器	坏	1/5	11.8	7.2	2.1	細砂	明赤褐	5YR5/6	普通	外面底部に磨き。内面撫で整形。
2	土師器	高坏	ほぼ完形	10.8	9.0	10.9	細砂	橙	5YR7/6	良	口縁部に稜を持つ。脚部はラッパ状に広がる。体部は磨き整形。脚部磨き整形。
3	土師器	高坏	脚部	—	—	—	細砂	浅黄橙	10YR 8/4	普通	縦位方向磨き。
4	土師器	高坏	脚部	—	—	—	細砂	にぶい 橙	7.5YR 7/4	良	縦位方向磨き。
5	土師器	高坏	脚部	—	—	—	細砂	にぶい 黄橙	10YR 6/3	良	縦位方向磨き。
6	須恵器	坏	底部	—	—	7.2	細砂	黄灰	2.5Y5/1	良	須恵器坏高台部。
7		泥面子	完形	タテ 2.4	ヨコ 2.3	厚さ 0.5		明赤褐	5YR5/6	良	ひつじ。
8		泥玉	完形	径 2.4				橙	5YR6/6	—	

第6章 出土遺物

IV・4区縄文時代出土土器観察表

IV・4区11号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突。
2	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦横	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。口縁部に無文帯。
3	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E V	口縁はわずかに波状になる。断面三角の隆線による三角台形の文様区画。
4	深鉢	口縁胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	—	—	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。口縁部はわずかに波状。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。
6	深鉢	口縁	明褐灰	7.5YR7/2	細かい黒色粒	普通	—	—	加曾利E V	隆線による口縁部無文帯と区画する。胴部には縦位の区画。櫛状の沈線が充填される。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利E IV	口縁部に太さ5ミリの沈線が廻りφ4ミリの刺突が施文される。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	不良	—	—	加曾利E V	隆線による文様区画。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
10	深鉢	口縁	褐灰	5YR5/1	細かい白色粒、黒曜石粒	普通	LR	縦横	加曾利E IV	口縁部に微隆起線が廻り無文帯を区画する。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—	—	称名寺	太さ5ミリの沈線による「J」字文。刺突。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E IV	太さ5ミリの沈線による櫛状区画。
13	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—	—	後期	口縁部に断面三角の隆線が廻る。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦横	称名寺	沈線による「J」字区画。
15	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	LR	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。波頂部から刻みのある隆線が垂下する。
16	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	—	—	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文区画。
17	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
18	注口	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	堀之内	注口部欠損。橋状になる把手が付く。太さ3ミリの沈線による文様区画。
19	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	称名寺	口縁突起部が「8」字状になる。φ5ミリの円形刺突。橋状把手になる。
20	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	不良	—	—	称名寺	突起で側面と正面に孔を持つ。
21	両耳壺	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—	—	称名寺～堀之内	太さ3ミリの沈線による文様区画。区画内に列点文。
22	両耳壺	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの軽石粒多い	不良	—	—	後期?	頸部に隆線が廻る。胴部に刺突。
23	両耳壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	称名寺	—
24	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい黒色粒	良	LR	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による山形文。
25	注口	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	堀之内	太さ3ミリの沈線による渦巻文。
26	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
27	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
28	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの黒色粒	普通	RL	横	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画。
29	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	—	—	後期	櫛状工具による条線。
30	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—	—	加曾利E IV	断面三角の隆線による文様。
31	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	不良	—	—	加曾利E IV	太い隆線による文様区画。
32	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、石英	不良	—	—	後期	縦位の整形。
33	深鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	細かい小石、黒色粒	不良	—	—	後期	—
34	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—	—	後期	外面横位の擦痕。
35	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—	—	後期	—
36	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	後期	縦位の整形痕。
37	土製円盤		褐	10YR4/4	φ1～2ミリの小石、金雲母	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
38	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒多い	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区13号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒多い	不良	—		堀之内	口唇部に円形の刺突。太さ4ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様区画。小波状口縁頂部にφ8ミリの孔を持つ。内面にφ6ミリの円形刺突。
3	深鉢	胴部	橙	5YR7/6	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	太さ4～5ミリの沈線による渦巻文。スス付着。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	太さ5～6ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	外面縦位のミガキ。
6	粘土塊		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	—		—	土器胎土の削りクズが焼けたものか？

IV・4区14号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIII	口縁部隆線による半円区画。胴部太さ7ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利EIII	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利EII	太さ6ミリの隆線による弧状区画。

IV・4区15号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利EI	隆線による「∞」を基調とする渦巻文。頸部に押圧した波状の隆線が廻る。撚糸。
2	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	Lr	縦	加曾利EI	口縁部交互刺突による連続「コ」の字文。楕円区画内に波状線、横線が施文される。撚糸。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		加曾利EI	隆線による「∞」文。器表面剥離多い。
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利EI	隆線による「∞」を基調とした文様。撚糸。
5	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの石英、 金雲母	普通	RL	横	阿玉台	隆線による口縁区画と環状の突起。幅5ミリの押し引きの爪形文。
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	中期	太さ10ミリの刻みを持つ隆線が頸部に廻る。
7	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	Lr	縦	加曾利EI	頸部に隆線が廻る。撚糸。
8	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの黒色粒	不良	Lr	縦	中期	太い隆線による文様区画。撚糸。
9	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	Lr	縦	中期	幅6ミリの平行沈線による垂線と横位区画。撚糸。
10	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	縦	中期	—
11	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	RL	縦	中期	内面にスス付着。
12	土製 円盤		明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
13	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	Lr	縦	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。撚糸。

IV・4区16号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利EIII	隆・沈線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		勝坂	口縁部刻みを持つ隆線による装飾。
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		中期	横位の整形痕。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文。口縁内面沈線が廻る。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文。口縁内面沈線が廻る。
6	鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒、黒色粒	良	—		加曾利E	横位の整形痕。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	三角の突起状になる。幅10ミリの爪形文と隆帯に刻み。
8	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		大木6	太さ3~4ミリの浮線による文様施文。
9	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	波状口縁に結節沈線による渦巻文。
10	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、雲母多い	良	—		阿玉台	押し引きの沈線による楕円区画。口唇部にも押し引きの沈線が施文される。
11	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦横	称名寺	口縁波頂部から隆線が垂下する。太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
12	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒、黒色粒	良	LR	横	加曾利E III	隆・沈線による縦位、弧状の文様区画。
13	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの石英、金雲母多い	良	—		阿玉台	隆線による横位区画と楕円区画。押し引きの沈線による文様施文。
14	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による横位区画。押し引きの沈線による文様施文。
15	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	断面三角の隆線による横位区画。幅13ミリの爪形文横位施文。
16	深鉢	底部	暗赤褐	2.5YR3/2	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E	細い隆・沈線による縦位区画。
17	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	加曾利E III	太さ5ミリの沈線による縦位区画。
18	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—		後期	—
19	深鉢	底部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい黒色粒	良	—		後期	横位の整形。
20	土製円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	Lr	縦	加曾利E III	外縁を打ち欠き成形。
21	土製円盤		灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E	外縁をミガキ成形。撚糸。
22	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい黒色粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
23	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの石英、黒色粒、金雲母	普通	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
24	土製品		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		後期	—

IV・4区17号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	浅鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	良	—		加曾利E	口縁部楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	横位の整形痕。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		諸磯c	棒状の貼付文に竹管刺突。地文は半截竹管による矢羽根文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	細かい砂粒、金雲母	不良	—		十三菩提	口縁部縦位の沈線。鋸歯状の文様と三角印刻。
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	—		十三菩提	細い粘土紐を貼付けた文様。
6	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	中期	太い隆線による文様区画。
7	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	隆線による文様区画。区画内幅5ミリの爪形文。
8	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
9	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
10	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	φ1~2ミリの石英	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
11	土製円盤		にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの軽石粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
12	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
13	土製円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
14	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
15	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
16	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒 多い	不良	RL		—	外縁を打ち欠き成形。
17	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
18	土製 円盤		明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
19	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区19号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの黒色粒	良	—		後期	横位の整形痕。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	Lr	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	良	LR	横	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	良	—		後期	無文。
6	深鉢	胴部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		後期	太さ2ミリの沈線による文様区画。
7	土製 円盤		にぶい黄	2.5Y6/3	細かい黒色粒	普通	RI		—	外縁を打ち欠き成形。
8	注口	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	RL	横	堀之内	太さ1ミリの沈線による文様区画。φ1ミリの円形刺突。

IV・4区21号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	黒	2.5Y2/1	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	良	RL	横	加曾利EIII	隆線による「∞」を基調とした区画。舌状突起。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		加曾利EIII	太さ10ミリの沈線による口縁部区画。胴部条線施文。
3	深鉢	胴部	黒褐	10YR3/2	φ1～2ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	縄文施文。下半部に条線。
4	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	下半部に条線。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/3	細かい砂粒	良	—		加曾利EIV	隆線による弧線施文。6と同一個体。
6	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—		加曾利EIV	隆線による弧線施文。5と同一個体。
7	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EI	隆線による貼付文。
8	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ6ミリの沈線による縦位区画。

IV・4区22号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「R」字文。
3	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EIV	断面三角の隆線により口縁部無文区画。胴部縄文帯と無文帯に区画する。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内刺突。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	無文。スス付着。
6	深鉢	底部	にぶい黄	2.5Y6/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	—
7	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		後期	縦位の整形痕。
8	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺～堀之内	太さ2～3ミリの沈線による縦位区画。縦長の列点。

第6章 出土遺物

IV・4区24号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利EII	口縁隆線による区画と「∞」文。波状口縁頂部に渦巻文の突起。
2	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	外面横位のミガキ。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利EII	口縁隆線による区画と「∞」文。波状口縁頂部に渦巻文の突起。
4	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	不良	RL	横	加曾利EI	口縁部交互刺突による連続「コ」の字文。
5	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~3ミリの片岩、軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利EII	隆線による口縁部文様区画。頸部無文帯。撚糸。10と同一個体。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EII	隆線による文様施文。
7	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	不良	RL	斜	加曾利E	—
8	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、石英	普通	—		加曾利EII	口縁と口頸部を区画し無文帯を作る。
9	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線縦位区画と波状線。
10	深鉢	口縁 胴部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~4ミリの片岩、軽石粒	不良	Lr	縦	加曾利EII	口縁渦巻文と楕円区画。縦位の沈線充填。撚糸。5と同一個体。
11	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~5ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E	細い条線。内面にスス付着。
12	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	不良	RL	縦	加曾利E	内面にスス付着。
13	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	LR	横	中期	—
14	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利E	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画。
15	浅鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E	外面縦位の整形。
16	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RRL	横	加曾利E	内面にスス付着。
17	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EI	隆線による楕円区画。
18	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~2ミリの小石、黒曜石	不良	RL	縦	加曾利EI	口縁部隆線による区画。区画内「∞」文。頸部無文帯を持つ。
19	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利EI	隆線による楕円区画と渦巻文。
20	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		加曾利EI	隆線による半円区画と「∞」文。
21	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	—		加曾利EI	粘土紐を橋状に貼付けて中空の突起として いる。
22	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		加曾利EI	口縁部隆線による「∞」文。胴部細かい条線。
23	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	RL	縦横	加曾利EI	口縁部隆線による区画。「∞」文。
24	深鉢	口縁	赤灰	2.5YR4/1	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利EI	隆線による文様区画。
25	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	RI	横	加曾利EI	隆線による文様区画と太さ3ミリの波状沈線。
26	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RRL	横	加曾利E	太さ3ミリの沈線で十字形の文様。
27	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦	中期	内面にスス付着。
28	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr		中期	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。撚糸。

IV・4区27号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利EIV	太い沈線が口縁部を廻る。胴部は櫛状工具による条線。
2	深鉢	口縁 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利EIV	隆線による渦巻文。
3	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1~2ミリの白色粒	不良	LR	縦横	加曾利EIV	隆線が口縁部に廻り無文帯を作る。隆線で渦巻文。
4	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/2	φ1~3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利EIV	隆線により口縁部を区画する。胴部は渦巻文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの黒色粒	良	LR	縦	加曾利EIV	隆線による口縁部文様区画。胴部弧線による文様区画。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの黒色粒	良	LR	縦	加曾利EIV	隆線による口縁部文様区画。胴部弧線による文様区画。
7	深鉢	胴部	淡黄	2.5Y8/3	φ1~2ミリの白色粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利EIV	隆線による「J」字文。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区29号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	—		加曾利EII	隆線による楕円区画で区画内に沈線が充填される。
2	土製品	口縁 底部	にぶい赤褐	5YR4/4	細かい砂粒	良	—		中期	太さ1ミリの沈線による曲線文。円筒形で上端がふくらむ。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		加曾利EII	隆線による突起に太い沈線による弧線と垂線が施文される。
4	深鉢	底部	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	中期	—

IV・4区30号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1～2ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	口縁折り返し。太さ3ミリの沈線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		中期	—
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～5ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画と太さ4ミリの沈線による波状文。
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。太さ2～3ミリの押し引き沈線施文。

IV・4区31号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線が垂下する。
2	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による口縁区画。太さ4～5ミリの沈線で対弧文を作る。スス付着。
3	深鉢	胴部	灰白	10YR8/2	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。

IV・4区34号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	良	RL	横	加曾利EIV	隆線による渦巻文。
2	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	—		中期	口縁に太さ7～8ミリの沈線が廻る。胴部には櫛状工具による波状線が垂下する。
3	土製円盤		灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	—		—	縦位の隆・沈線。外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
4	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～5ミリの石英、 金雲母	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	横	加曾利EIV	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	底部	赤褐	2.5YR4/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒多い	普通	Lr	縦	加曾利E	撚糸。
7	深鉢	底部	暗赤褐	2.5YR3/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒多い	良	—		加曾利E	縦位の整形。
8	深鉢	底部	明褐	7.5YR5/8	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	中期	スス付着。

IV・4区37号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦横	称名寺	口縁部にφ10ミリの円形刺突。太さ3ミリの沈線による「J」字文。2・5と同一個体。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	LR	縦横	称名寺	口縁部にφ10ミリの円形刺突。太さ4ミリの沈線による「J」字文。スス附着。1・5と同一個体。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		後期	太さ4ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。1・2と同一個体。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	口唇部に太さ3ミリの沈線が廻る。9と同一個体。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。10と同一個体。
8	注口	注口部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による横位区画。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	不良	—		堀之内	無文。6と同一個体。
10	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。7と同一個体。
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		後期	—

IV・4区38号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの黒色粒	不良	—		称名寺	太さ2~3ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	良	—		加曾利E	櫛状工具による条線。
4	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—		阿玉台	—
5	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	—		加曾利E	外面にスス附着。

IV・4区40号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		勝坂	刻みを持つ隆線による文様区画。
2	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒 多い	不良	RL	縦	加曾利E III	太さ2~3ミリの沈線による縦位区画と波状文。
3	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		後期	横位の整形。
4	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1~2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	—
5	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒 多い	不良	LR	横	加曾利E III	太さ3~4ミリの沈線による縦位区画と波状文。
6	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利E III	太い沈線による楕円区画。
7	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	良	—		後期	太さ3~4ミリの沈線。
8	深鉢	底部	赤褐	5YR4/8	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	—
9	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの黒色粒	不良	RL	縦	中期	—
10	土製 円盤		赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの軽石粒 多い	不良	—		—	外縁をミガキ成形。

IV・4区41号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による口縁無文帯区画。胴部弧線区画による磨り消し縄文。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E V	口縁部隆線による区画。胴部弧線。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	Lr	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による口縁無文帯区画。胴部弧線区画による磨り消し縄文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	RL	横	加曾利E IV	断面三角の隆線で口縁部区画、胴部区画。
5	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの黒色粒	良	—		加曾利E IV	断面三角の隆線で口縁部区画。胴部は櫛状の工具による条線。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。文様区画内に刺突が施文される。スス付着。7と同一個体。
7	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。文様区画内に刺突が施文される。スス付着。6と同一個体。
8	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利EV	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒多い	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。文様区画内に刺突が施文される。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RI	縦横	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。口縁部頂部に円形の突起。
11	深鉢	口縁	赤	10R5/8	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	φ20ミリの孔を持ち両脇にφ12ミリの刺突。口唇に太さ4～6ミリの沈線が廻る。スス付着。
12	壺	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—		—	口縁肩部に太さ3～4ミリの沈線が廻る。
13	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/2	細かい砂粒、石英	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による施文。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による文様施文。
15	深鉢	胴部	明黄褐	2.5Y7/6	細かい砂粒、黒色粒	普通	LR	縦横	加曾利EV	隆線による文様区画。隆線の交点に円形の刺突。
16	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E	—
17	深鉢	胴部	暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
18	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。
19	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—		後期	太さ2～3ミリの沈線による文様施文。
20	深鉢	胴部 底部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		後期	太さ1～2ミリの沈線施文。
21	鉢	胴部 底部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		後期	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。
22	深鉢	底部	黒	5Y2/1	細かい砂粒	良	—		後期	スス付着。
23	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	—		後期	—
24	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		中期	外縁を打ち欠き成形。爪形文施文。
25	土製 円盤		明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
26	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
27	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		中期	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区42号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	Lr	縦	勝坂	口頸部に隆線による区画。胴部渦巻文。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		勝坂	隆線による文様区画。区画内ベン先状刺突による沈線文。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	波状口縁突起部。隆線による波状文と押し引きの沈線。
4	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	中期	—
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	LR	横	中期	—

IV・4区土坑出土土器

IV・4区11号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR7/6	φ1～2ミリの黒色粒	良	RL	縦	加曾利EIII	隆線による楕円区画。

IV・4区16号土坑出土土器観察表

1	土製 円盤		灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RI		—	外縁を打ち欠き成形。
---	----------	--	-----	---------	---------------	----	----	--	---	------------

第6章 出土遺物

IV・4区29号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	注口	口縁底部	赤黒	2.5YR2/1	細かい砂粒	良	LR	縦横	堀之内	太さ1～2ミリの沈線による同心の円形、楕円形、方形の文様が胴上半に付けられる。胴下半は横位の丁寧なミガキ。

IV・4区62号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	横縦	加曾利EIII	隆線による「∞」を基調とする区画。舌状突起。
---	----	----	-------	---------	-------	----	----	----	---------	------------------------

IV・4区64号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EII	隆線による渦巻文。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石	普通	LR	縦	中期	口縁に輪積痕。交互刺突文。

IV・4区89号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	LR	横	加曾利EIII	楕円区画。
---	----	----	-------	---------	------------	---	----	---	---------	-------

IV・4区90号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	沈線による楕円区画と縦位の区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利EI	口縁部に交互刺突文と沈線による楕円区画。

IV・4区94号土坑出土土器観察表

1	土製円盤		にぶい褐	7.5YR6/3	細かい砂粒	普通	RL	横	十三菩提	外縁を打ち欠き成形。
---	------	--	------	----------	-------	----	----	---	------	------------

IV・4区98号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y4/1	細かい砂粒	普通	—	—	中～後期	山形の押型文？
---	----	----	----	---------	-------	----	---	---	------	---------

IV・4区101号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	太さ5ミリの沈線による渦巻文。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EIV	幅広の沈線と隆起線による曲線文。
3	土製円盤		橙	5YR6/6	細かい黒色粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区125号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	LR	縦横	加曾利EIV	太さ3ミリの沈線が口縁部に廻る。胴部は「∩」「U」文。縄文帯と磨り消し縄文に分かれる。
2	土製円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区127号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EII	隆線による「∞」文。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1～3ミリの石英、雲母	良	—	—	阿玉台	突起縁片に刻み。押し引きの沈線による文様。

IV・4区128号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	LR	横縦	加曾利EV	太さ4ミリの沈線による曲線文様。小波状口縁に突起。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EV	太さ4ミリの沈線による曲線文様。小波状口縁に突起。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	RL	横縦	加曾利EV	太さ3ミリの沈線による口縁区画と曲線文。小波状口縁頂部に突起。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒	普通	RL	横縦	加曾利EV	太さ4～5ミリの沈線による「∩」「U」文様。
5	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIII	太さ6～7ミリの沈線による縦位区画。
6	耳飾り		赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—	—	加曾利E	(耳栓)。

IV・4区130号土坑出土土器観察表

1	土製円盤		灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの石英、金雲母	良	—	—	阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
---	------	--	-----	---------	---------------	---	---	---	-----	------------

IV・4区142号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒多い	不良	LR	横縦	堀之内	太さ6ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y5/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	—	—	称名寺	口縁突起の側面に孔を持つ。外面太さ4ミリの沈線による文様施文。

IV・4区145号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	加曾利EIII	口縁楕円区画に縦位の沈線充填。
---	----	----	------	----------	-----------	----	---	---	---------	-----------------

IV・4区出土土器観察表

IV・4区146号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y7/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利E II	断面三角の隆線による文様区画。

IV・4区156号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	—	—	称名寺	把手側面に孔をもつ。正面は凹みを中心に螺旋状になる。
---	----	----	-------	---------	-------	---	---	---	-----	----------------------------

IV・4区157号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E III	太さ4ミリの沈線縦位施文。

IV・4区158号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒、黒色粒	良	LR	横	堀之内	口縁に刺突を持つ隆線が廻る。胴部は太さ3ミリの沈線による幾何学文や渦巻文。2と同一個体。
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	φ1～3ミリの石英	良	LR	横	堀之内	口縁に刺突を持つ隆線が廻る。胴部は太さ3ミリの沈線による幾何学文や渦巻文。1と同一個体。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	LR	縦	中期	—
4	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの金雲母	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区160号土坑出土土器観察表

1	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
---	----------	--	-------	--------	-------	---	---	---	---	------------

IV・4区164号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E	太さ3ミリの沈線による文様区画。
---	----	----	-------	---------	-------------------	----	----	---	------	------------------

IV・4区169号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石、 黒色粒	普通	RI	横	堀之内	太さ2ミリの沈線による幾何学文。
---	----	----	-------	---------	-------------------	----	----	---	-----	------------------

IV・4区187号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	Lr	横	堀之内	小波状口縁頂部に円形の刺突と弧線。縦位の区画線。
2	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	良	—	—	勝坂	沈線による同心円状の文様。
3	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの石英、 片岩	普通	RI	縦	加曾利E	撚糸。
4	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	—	加曾利E	撚糸。
5	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	横	加曾利E	—

IV・4区188号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	Lr	縦	加曾利E I	頸部に太さ2～3ミリの沈線による区画。 口縁部は「∞」文を隆線で描く。撚糸。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	隆線による口縁部区画。沈線による波状文。 撚糸。

IV・4区191号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの小石、 金雲母	良	LR	横	加曾利E	太さ4～5ミリの沈線による弧線。2と同一個体。
2	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの小石、 金雲母	良	LR	横	加曾利E	太さ4～5ミリの沈線による弧線。1と同一個体。

IV・4区193号土坑出土土器観察表

1	両耳 壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E IV	隆・沈線による文様区画。橋状把手が剥落している。
---	---------	----	-------	---------	------------	----	----	---	---------	--------------------------

IV・4区196号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	LR	縦 横	称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	—	—	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。5と同一個体。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	Lr	横	後期	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの砂粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。2と同一個体。
6	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	—	—	後期	表面部分的に剥落している。スス付着。

第6章 出土遺物

IV・4区197号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		諸磯c	幅2～3ミリの平行沈線を横位に密接して施文。耳状・棒状・ボタン状の貼付文。口唇部には刻み。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		諸磯c	地文に幅3ミリの平行沈線を密接して施文。耳状・棒状・ボタン状の貼付文。
3	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	細かい砂粒	良	—		興津	貝殻腹縁をロッキングして手前に引くように施文。
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい黒色粒	不良	LR	横	加曾利E	—

IV・4区198号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E	隆線による半円区画。
2	器台	脚部	褐灰	10YR5/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		中期	外面縦位の整形。

IV・4区200号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利EIV	断面三角の隆線による口縁無文帯区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1～5ミリの軽石粒、黒色粒	良	LR	縦横	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦横	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文区画。突起部に孔を持つ。
4	深鉢	胴部	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—		諸磯c	幅2～3ミリの平行沈線による鋸歯文。棒状・ボタン状の貼付文。
5	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	外面縦位の整形。

IV・4区201号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	太さ4ミリの刻みを持つ隆線が垂下する。太さ3ミリの沈線による斜線、弧線。
2	土製品		灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	良	—		—	勾玉状になり頭部側縁に孔を持つ。垂飾。

IV・4区203号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EV	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。対弧状の文様は口縁部の交点で突起になる。
2	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/6	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	普通	LR	横	加曾利EV	—
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの黒色粒	良	LR	縦	加曾利EV	太さ3ミリの沈線が口縁に廻り無文帯を作る。
4	両耳壺	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利EV	太さ3ミリの沈線が口縁に廻り無文帯を作る。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EV	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。対弧状の文様は口縁部の交点で突起になる。
6	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの黒色粒	良	RL	縦横	加曾利EV	太さ3ミリの沈線による渦巻、「U」「∩」状の文様。口縁部に横位の沈線が廻り無文帯を作る。小波状口縁部に突起。赤色塗彩
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	RL	横	加曾利EV	断面三角の隆線による縦位区画。
8	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		加曾利E	縦位の整形痕。
9	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	—		加曾利E	縦位の整形痕。
10	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	RL		加曾利EIII	外縁を打ち欠き成形。
11	土製円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	不良	RL		—	外縁を打ち欠き成形。
12	土製円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
13	土製品		にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	不良	—		中～後期	棒状の粘土紐を焼いたもの。

IV・4区205号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通		横	加曾利EV	口縁部隆線による「の」の字文。太さ4～5ミリの沈線による文様区画。舌状突起。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	Lr	横	加曾利EV	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。胴部楕円区画。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区209号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	燃り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	太さ7～10ミリの沈線が口縁を廻り無文帯を区画する。太さ4ミリの沈線による「∩」「U」状の文様。
2	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの黒曜石	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

IV・4区211号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～5ミリの軽石粒	良	Lr	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	良	Lr	横	中～後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。磨り消し縄文と無文帯。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	普通	Lr	横	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線が口縁部に廻り無文帯を作る。
4	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	後期	口縁部に太さ2～3ミリの沈線が廻る。外面スス付着。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。磨り消し縄文と縄文帯を分ける。
6	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	中～後期	太さ3ミリの沈線による横位区画。磨り消し縄文と縄文帯が交互になる。スス付着。
7	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～5ミリの軽石粒	良	—	—	加曾利EV	断面三角の隆線による弧線。交点に円形の貼付。
8	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/2	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線が口縁部に廻り無文帯を作る。胴部は半截竹管による条線。
9	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい黒色粒	良	—	—	堀之内	波状口縁突起部に円形の刺突と同心円状の沈線。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒 多い	不良	不明	—	称名寺	円筒状の突起。太さ3ミリの沈線による文様区画。
11	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～5ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。磨り消し縄文と縄文帯を分ける。
12	深鉢	胴部 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦 横	称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。磨り消し縄文と縄文帯。
13	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1～5ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画と波状線。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	不良	不明	—	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。
15	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	中～後期	縦位のミガキ整形。
16	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—	—	後期	縦位の整形。

IV・4区216号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	Lr	縦 横	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/8	細かい砂粒、金雲母	良	LR	横	十三菩提	粘土紐貼付による波状文。
3	浅鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	不良	—	—	勝坂	口縁部に楕円区画。
4	浅鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	中期	横位の整形痕。指頭圧痕。
5	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	細かい砂粒	良	—	—	勝坂	隆線による渦巻、弧線。
6	深鉢	胴部	褐	7.5YR4/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	横	焼町	隆・沈線による文様区画。

IV・4区218号土坑出土土器観察表

1	蓋?	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	—	—	後期	隆線による把手が付けられる。
---	----	----	------	----------	-------	---	---	---	----	----------------

IV・4区223号土坑出土土器観察表

1	注口	胴部	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	—	—	後期	隆線による曲線文。
2	土製円盤		灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
3	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—	—	—	外縁をミガキ成形。

IV・4区228号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	良	—	—	後期	上げ底。縦位のミガキ。
---	----	----	-------	---------	-----------	---	---	---	----	-------------

IV・4区229号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	諸磯c	幅3～4ミリの平行沈線を集合化させる。ボタン状・棒状の貼付文。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	—	—	諸磯c	幅3～4ミリの平行沈線による矢羽根状文様。耳状・ボタン状・棒状の貼付文。

第6章 出土遺物

IV・4区232号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	攪り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの軽石粒	不良	Lr	横	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—	—	後期	縦位のミガキ整形。内面にスス付着。

IV・4区233号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。 区画内に刺突文。
---	----	----	-------	---------	-------------------	---	---	---	-----	---------------------------------

IV・4区234号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	明黄褐	10YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	—	—	堀之内	口縁部に沈線が廻り円形の粘土貼付。太さ 4～5ミリの沈線による縦位区画後斜線施 文。
---	----	----------	-----	---------	-----------	---	---	---	-----	--

IV・4区238号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～5ミリの軽石粒	良	不明	—	堀之内	太さ3～4ミリの沈線による縦位の区画と 横位の文様。地文の縄文は磨り消されてい るため原体不明。
---	----	----	-----	--------	------------	---	----	---	-----	--

IV・4区245号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	不良	LR	縦 横	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利EⅢ	隆・沈線による楕円区画。
3	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利EⅢ	隆線による円形貼付。楕円区画。
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EⅢ	太さ7～8ミリの沈線による縦位区画。

IV・4区246号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	Lr	縦	後期	口縁部屈曲し渦巻状の突起。胴部に太さ2 ミリの沈線による縦位区画。
2	深鉢	底部	褐灰	10YR4/1	細かい黒色粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。

IV・4区251号土坑出土土器観察表

1	両耳 壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	Lr	横	加曾利EⅤ	口縁部に断面三角の隆線による区画。橋状 把手。3と同一個体。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—	—	中～後期	環状の突起。太さ3ミリの沈線による文様 施文。
3	両耳 壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	Lr	横	加曾利EⅤ	口縁部に断面三角の隆線による区画。橋状 把手。1と同一個体。

IV・4区252号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	—	—	諸磯c	粘土貼付文。地文半截竹管による平行線。
---	----	----	---	----------	-----------	---	---	---	-----	---------------------

IV・4区254号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—	—	堀之内	口縁部側面に孔を持つ突起が付く。
2	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区255号土坑出土土器観察表

1	注口	口縁 底部	褐灰	5YR4/1	φ1～3ミリの小石、 砂粒	良	LR	横	堀之内	太さ1～2ミリの沈線による同心の円形、 方形の区画。
2	鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	堀之内	太さ1～2ミリの沈線による縦位区画。外 面にスス付着。

IV・4区257号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—	—	後期	縦位の整形。
---	----	----	-------	---------	-------	---	---	---	----	--------

IV・4区258号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの小石	普通	RL	縦 横	加曾利EⅣ	太さ8ミリの沈線による口縁区画。胴部には「∩」状の区画。
---	----	----	-----	---------	-----------	----	----	--------	-------	------------------------------

IV・4区259号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒、軽石粒	良	RL	縦	加曾利EⅣ	断面三角の隆線による楕円区画。
---	----	----	-----	---------	-----------	---	----	---	-------	-----------------

IV・4区260号土坑出土土器観察表

1	壺	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—	—	堀之内	太さ4～6ミリの沈線が口縁部に廻りφ8 ミリの刺突。胴部には渦巻状の文様。橋状 把手。
---	---	----	---	----------	------------	---	---	---	-----	---

IV・4区263号土坑出土土器観察表

1	土製 円盤		橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
---	----------	--	---	----------	-------------------	---	---	---	---	------------

IV・4区264号土坑出土土器観察表

1	鉢	口縁	暗赤褐	2.5YR3/6	φ1～2ミリの小石	良	—	—	中期	横位の整形痕。
2	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/4	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	普通	—	—	中期	—
3	土製 円盤		褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区265号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「R」字文。口縁に突起が1単位付けられるが欠損している。スス付着。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～5ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ5ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	—
4	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による口縁部区画。
5	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1～2ミリの砂粒、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。刺突。
6	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR2/2	φ1～3ミリの小石、黒色粒	普通	—		後期	太さ3～4ミリの沈線による口縁部無文帯区画。
7	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内に列点刺突。
8	鉢	胴部 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	Lr	横	堀之内	頸部に刻みを持つ隆線。太さ2ミリの沈線による入り組状の文様。

IV・4区266号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1～2ミリの小石、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2～4ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。スス付着。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石	良	Lr	縦	後期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による縦位区画。区画内に縦長の刺突。
5	鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		後期	—

IV・4区267号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		諸磯c	幅2～3ミリの平行沈線による縦位の条線。底部は横位区画。
---	----	----	-------	---------	-----------	----	---	--	-----	------------------------------

IV・4区268号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—		加曾利EIV	太さ4～5ミリの隆線による文様区画。
2	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIV	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。

IV・4区269号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの白色粒	良	RL	横	加曾利EIV	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。口縁部無文帯区画。
2	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	細かい白色粒多い	不良	—		加曾利EIII	隆線による「∞」状を基調とする文様区画。表面剝離多い。

IV・4区274号土坑出土土器観察表

1	両耳壺	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦	加曾利EIII～IV	口縁部無文帯。頸部に縄文施文。把手の付けられる器面部分は楕円の無文区画。橋状把手。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。3と同一個体。
3	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。2と同一個体。

IV・4区275号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。
2	深鉢	口縁 胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。突起部内面は螺旋状になる。
3	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	突起に孔があげられ同心円状に弧線が施文される。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	不良	—		堀之内	太さ4～5ミリの沈線による弧線と涙滴状の刺突。

IV・4区276号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—		後期	—
---	----	----	---	----------	------------	----	---	--	----	---

IV・4区277号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	—		後期	太さ1～2ミリの沈線による渦巻文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LR	縦 横	称名寺	太さ3ミリの沈線による縦位区画。「J」字文様。突起は側縁に孔を持つ。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	胴部 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	—		中期	櫛状工具による条線が縦に施文される。
4	深鉢	胴部	暗褐	10YR3/3	細かい黒色粒	普通	Lr	縦横	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文区画。

IV・4区278号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利EIV	太さ8ミリの沈線により口縁部を横位区画。胴部上段では「J」字文。下段では「∩」文。
2	深鉢	胴部 底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画と斜線。
3	深鉢	胴部 底部	浅黄橙	10YR8/4	細かい砂粒、黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIII	太さ4ミリの沈線による縦位区画。

IV・4区279号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの小石	良	LR	横	加曾利EIV	太さ3ミリの沈線による文様区画。
2	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線による渦巻文。

IV・4区282号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線により口縁部無文区画。胴部弧線区画。
2	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	—		中期	スス付着。

IV・4区283号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIV	断面三角の隆線により口縁部無文帯を区画する。
2	深鉢	口縁	黒褐	2.5Y3/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による弧状区画。橋状把手。
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利EV	断面三角の隆線による「U」状の曲線文。口縁部にも隆線が廻り、交点が突起状になる。文様間は磨り消し縄文。
4	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EV	断面三角の隆線より口縁部無文帯区画。弧線区画が口縁突起から施文される。

IV・4区284号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利EIII	口縁部「∞」基調の文様区画。頸部に刻み列。胴部「∩」状の区画と「J」文。舌状突起。
2	鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		加曾利EIII	太さ10ミリの沈線による口縁部無文帯区画。胴部ハケ状工具による条線。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EV	断面三角の隆線により口縁部無文帯を区画する。胴部は「U」「∩」状の文様区画。口縁部文様の交点に突起。磨り消し縄文を持つ。

IV・4区287号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/3	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	普通	—		称名寺	突起部側面に孔を持つ。
2	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの黒色粒	不良	—		後期	隆線による弧線。

IV・4区290号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	橋状把手部に沈線による楕円文。
2	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ5ミリの沈線による「∞」文区画。区画内には円形刺突。

IV・4区292号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗褐	7.5YR3/3	細かい軽石粒	良	LR	縦	興津	太さ2～3ミリの沈線による弧線文。
2	深鉢	口縁	暗赤	10R3/6	φ1～5ミリの石英	良	—		諸磯c	幅3ミリの竹管による矢羽根状の文様。棒状・ボタン状の貼付文。

IV・4区294号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	5YR2/1	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	幅7ミリの竹管による爪形文が口縁部に廻る。
2	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	RL	縦横	中期	隆・沈線による鋸歯文。
3	土製 円盤		赤褐	2.5YR4/6	細かい砂粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区295号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	幅8ミリの半截竹管による平行沈線と爪形文。
---	----	----	----	----------	------------	---	---	--	----	-----------------------

IV・4区出土土器観察表

IV・4区297号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	細かい黒色粒	普通	RL	縦横	加曾利EV	φ5ミリの刺突列が口縁に廻る。

IV・4区300号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。縄文帯と磨り消し縄文帯。
---	----	----	-------	---------	-------	---	----	---	--------	-----------------------------

IV・4区305号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		中～後期	横位の整形痕。
2	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦	加曾利EIV	隆線による縦位区画。

IV・4区306号土坑出土土器観察表

1	注口	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		堀之内	注口部は橋状の把手が付く。太さ2ミリの沈線による橋状の把手が付く。太さ2ミリの沈線による橋状の把手が付く。
2	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	—		焼町	双環状の孔を持つ突起。
3	深鉢	胴部	黒褐	2.5Y3/1	φ1～2ミリの小石	良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	不良	—		称名寺	幅4ミリの平行沈線による「R」字文と刺突。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による渦巻文。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR5/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。
7	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		後期	縦位のミガキ。
8	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		後期	—

IV・4区307号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。口唇部に円形の刺突と沈線が廻る。スス付着。
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	不良	—		称名寺	螺旋状の突起。太さ2ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	胴部	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	不良	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。

IV・4区308号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIV	太さ6～7ミリの沈線による「∩」状の文様。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIV	太さ8ミリの隆線による弧線、渦巻文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	隆線による渦巻文と垂下する文様。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦	加曾利EIV	太さ8ミリの隆線による弧線、渦巻文。

IV・4区309号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	灰黄	2.5Y6/2	細かい軽石粒	普通	—		加曾利EV	口縁部断面三角の隆線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。3と同一個体。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。2と同一個体。

IV・4区310号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	櫛状工具による条線。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	粘土貼付による「8」字文。太さ4～5ミリの沈線による弧線。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利EIV	太さ4ミリの沈線による弧線。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石、 軽石粒多い	普通	—		堀之内	突起から沈線による弧線。
5	注口	注口部	浅黄	2.5Y7/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	—

IV・4区311号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒	普通	—		称名寺	波状口縁に円形の突起が付く。太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。5と同一個体。
2	深鉢	口縁	にぶい黄	2.5Y6/3	細かい黒色粒	良	—		加曾利E	口縁部に太さ3ミリの沈線が廻る。
3	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石	不良	—		称名寺	突起。内面に大きな凹みと同心円の沈線。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺	隆線による楕円区画。
5	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画と涙滴状の文様。1と同一個体。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「R」字文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。

第6章 出土遺物

IV・4区312号土坑出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「∞」を基調とした文様。2と同一個体。
2	鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「∞」を基調とした文様。1と同一個体。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—	—	後期	口縁部に太い隆線による文様区画。
4	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	—	—	後期	—
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	—	—	後期	縦位の整形痕。

IV・4区313号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	LR	縦	後期	太さ4~5ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----	-------	---------	--------	---	----	---	----	--------------------

IV・4区314号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	縦	称名寺	4単位の波状口縁。頂部は渦巻状になり孔を持つ。胴部文様は「J」字文。磨り消し縄文。
2	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1~2ミリの軽石粒、 黒色粒	不良	—	—	堀之内	太さ4~5ミリの沈線による楕円区画。区画内刺突列。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—	—	称名寺~堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「R」字文。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	—	—	堀之内	太さ3ミリの沈線による「∩」状の区画。
5	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による楕円区画。
6	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	横	加曾利EIII	太い隆線による楕円区画。
7	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの小石	良	—	—	中期	櫛状工具による条線。
8	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	後期	縦位の整形痕。

IV・4区315号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	不良	—	—	焼町	隆線による円形、弧線文。
2	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	中期	隆線による波状文。
3	浅鉢	口縁	にぶい赤褐	2.5YR4/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	中期	横位の整形痕。
4	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの石英、 金雲母	良	RI	縦	加曾利E I	口縁部沈線による区画。区画内弧線文。撚糸。
5	深鉢	胴部	にぶい赤褐	2.5YR4/3	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利E	頸部に隆線と刺突。隆線による弧線文。
6	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	刻みを持つ隆線による渦巻文。突起になる。
7	深鉢	胴部	赤黒	2.5YR2/1	φ1~3ミリの軽石粒	不良	LR	横	加曾利E	隆線による弧線、斜線。
8	深鉢	胴部	明赤褐	2.5YR5/8	細かい砂粒	普通	RL	横	加曾利E	隆・沈線で弧線を描く。
9	深鉢	胴部	暗赤褐	2.5YR3/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆線による弧線。
10	深鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	隆線による突起。沈線で渦巻状の文様を描く。
11	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	普通	—	—	加曾利E	頸部に沈線による区画。
12	深鉢	胴部	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~2ミリの白色粒	普通	RL	縦横	加曾利E	頸部に沈線による区画。隆線による渦巻状の文様。
13	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい黒色粒	普通	—	—	勝坂	—
14	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—	—	勝坂	—
15	浅鉢	底部	赤褐	2.5YR4/6	φ1~5ミリの軽石粒 多い	不良	—	—	勝坂	—

IV・4区316号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	不良	LR	横	勝坂	刻みを持つ隆線による文様。中空の突起。7と同一個体。
2	浅鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの石英	普通	—	—	勝坂	横位の整形。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの石英、 金雲母	良	—	—	勝坂	幅5ミリの平行沈線による楕円区画と刻み。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	不良	LR	横	中期	口縁が肥厚して段を持つ。
5	鉢	口縁	赤褐	2.5YR4/6	φ1~2ミリの小石	良	—	—	加曾利E	口縁部に交互刺突による連続「コ」の字文。赤色塗彩。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~5ミリの小石、 石英、片岩	良	—	—	勝坂	口縁部に刻みを持つ隆線が廻る。
7	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	勝坂	刻みを持つ隆線による文様区画。1と同一個体。
8	深鉢	口縁	黄褐	10YR5/6	φ1~3ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E I	隆線による「∞」文。撚糸。
9	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい軽石粒	良	—	—	加曾利E I	頸部に交互刺突による連続「コ」の字文。太さ4ミリの沈線による波状文。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
10	浅鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	横位の整形痕。赤色塗彩。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E I	口縁部に「∞」文。
12	深鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	Lr	縦	勝坂	撚糸。

IV・4区318号土坑出土土器観察表

1	鉢	胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利E I	頸部に交互刺突による連続「コ」の字文。太さ5ミリの沈線による弧線。
2	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/8	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦横	加曾利E I～II	太さ4ミリの沈線による横位区画と波状線。
3	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E I～II	太さ4ミリの沈線が頸部に廻る。

IV・4区320号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線による口縁部横位区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	RL	縦横	加曾利E V	口縁部隆線による横位区画。隆線による縦位区画。横・縦の隆線交点に突起。
3	深鉢	口縁 胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E I	突起部太い縦位の沈線孔を持つ。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E V	口縁部隆線による横位区画。隆線による縦位区画。横・縦の隆線交点に突起。
5	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1～3ミリの小石	良	—		加曾利E	縦位のミガキ整形痕。

IV・4区322号土坑出土土器観察表

1	注口	口縁 胴部	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	普通	LR	横	堀之内	口縁部4単位の波状口縁。波頂部に3単位の円形刺突と沈線が廻る。頸部無文帯。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位区画。スス付着。
---	----	----------	----	----------	-------	----	----	---	-----	---

IV・4区323号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	不良	—		勝坂	隆線に爪形文が施文され、曲線文や双環状の突起を作る。この中に幅8ミリの爪形文やペン先状・円形刺突文が施文される。
---	----	----	-------	---------	-----------	----	---	--	----	--

IV・4区324号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		後期	右から左上はミガキ整形。口縁にわずかな突起。
---	----	----------	-------	---------	-----------	----	---	--	----	------------------------

IV・4区326号土坑出土土器観察表

1	両耳壺	口縁	にぶい橙	7.5YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦横	加曾利E IV	口縁部に微隆線が廻り無文帯を作る。橋状把手。
2	深鉢	口縁	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	RL	横	加曾利E IV	口縁部隆線による無文帯区画。スス付着。
3	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E IV	口縁部に微隆線が廻り無文帯を作る。
4	深鉢	胴部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E	—
5	深鉢	底部	赤褐	5YR4/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		中期	縦位の整形。

IV・4区327号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	不良	—		後期	—
---	----	----	-------	---------	-----------	----	---	--	----	---

IV・4区328号土坑出土土器観察表

1	両耳壺	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい黒色粒	良	RL	縦横	加曾利E III	赤色塗彩。
---	-----	----	------	--------	--------	---	----	----	----------	-------

IV・4区329号土坑出土土器観察表

1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E IV	指頭による擦痕が見られる。
---	----	----	------	----------	---------------	---	---	--	---------	---------------

IV・4区330号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。刺突文。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	LR	横	加曾利E IV	断面三角の隆線による口縁部区画。胴部を縦位に縄文帯と磨り消し縄文を区画する。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	横	称名寺	太さ6ミリの沈線による「J」字文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ5～6ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による口縁部文様と胴部渦巻文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		中期	斜位の指頭圧痕。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
8	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	不良	LR	縦横	後期	太さ4ミリの沈線による弧線文。
9	両耳壺	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石多 い	普通	—		加曾利EIV	太さ4ミリの沈線による文様施文。
10	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	良	—		称名寺	把手側面に孔を持つ。正面は孔を中心に螺旋状にする。
11	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		称名寺	突起側縁に大きな孔があく。
12	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	外面縦位の整形。
13	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		後期	外面縦位の整形。
IV・4区331号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～5ミリの片岩多 い	不良	—		勝坂	隆線による蛇頭状の文様装飾。
IV・4区334号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	LR	縦横	堀之内	太さ4～5ミリの沈線による縦位区画と幾何学文。
IV・4区339号土坑出土土器観察表										
1	鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	良	—		加曾利EIII	—
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～5ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIV	断面三角の隆線による文様区画。スス付着。
IV・4区340号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		諸磯c	幅2～3ミリの平行沈線を集合化させて縦位区画。矢羽根状の文様。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの小石	良	—		諸磯c	縦位の整形痕。
IV・4区341号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの小石	良	—		勝坂	縁片部に爪形文刻み。幅7ミリの半截竹管による刺突文と平行沈線文。
IV・4区342号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		加曾利EV	口縁に隆線が廻り無文帯と区画する。胴部条線。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの黒色粒	普通	—		加曾利EV	断面三角の隆線による文様施文。
IV・4区343号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石	不良	RI	横	称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。隆線が垂下する。
2	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1～2ミリの小石	良	RI	横	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文区画。
3	注口	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石	普通	—		堀之内	縦位のミガキ。
4	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石	普通	LR	縦横	称名寺	隆線による縦位区画と「J」字文。突起内面に円形の刺突。
5	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	細かい砂粒	不良	LR	縦横	称名寺	口縁部に太さ6～8ミリの隆線による縦位区画。太さ3ミリの沈線による「J」字文。
6	深鉢	胴部	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	横	加曾利E	表面剥落多い。
7	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	LR	縦	加曾利E	表面剥落多い。
8	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利E	太さ3～4ミリの沈線による弧線文。縄文帯と無文帯に分かれる。表面剥落多い。
9	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		後期	縦位のミガキ。
IV・4区345号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁 底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～5ミリの小石	良	—		称名寺	4単位の波状口縁。太さ2ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突。内・外面胴下半にスス付着。
IV・4区347号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		中期	口縁部に幅5ミリの沈線を対向させて施文。押し引きの沈線による楕円区画。
2	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	φ1～2ミリの小石	良	—		勝坂	双環状の突起に刻み目。
3	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	φ1～2ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	波状口縁頂部から刻みを持つ隆線が垂下する。
4	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利E	隆線による波状の貼付文。
IV・4区348号土坑出土土器観察表										
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利EV	隆線による口縁部区画。口縁側縁に突起。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	不良	RL	縦横	加曾利EIV	口縁部太さ6～8ミリの沈線による区画。胴部対弧文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	口縁に沿って円形の刺突列。太さ3ミリの沈線による刺突列。スス付着。橋状把手。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	縦	加曾利E V	口縁部隆線による区画。胴部縦位区画。
5	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E IV	口縁部断面三角の隆線が廻り無文帯を区画する。
6	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦横	加曾利E IV	橋状把手。
7	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒、黒色粒	良	LR	縦横	加曾利E V	断面三角の隆線により口縁部無文帯区画。胴部に対弧状の文様。口縁部隆線の交点に突起。
8	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	—	—	加曾利E	太さ4ミリの沈線による口縁部区画。胴部櫛状工具による条線。
9	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	RL	横	加曾利E IV	断面三角の隆線による「∩」「U」文。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E V	断面三角の隆線により口縁部無文帯区画。胴部に対弧状の文様。口縁部隆線の交点に突起。
11	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	中期	縦位の整形痕。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	不良	RL	縦	加曾利E IV	口縁部に太さ5～6ミリの沈線が廻り無文帯を分ける。
13	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E IV	太さ3～4ミリの沈線による「∩」「U」文。
14	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの黒色粒	良	RL	縦	加曾利E IV	太さ3ミリの沈線による「∩」状の区画。
15	深鉢	胴部 底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	縦	加曾利E	胴上半に縄文施文。下半に櫛状工具による条線施文。
16	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—	—	中期	—

IV・4区349号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	赤	10R5/8	φ1～3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E V	断面三角の隆線による口縁部区画と弧状の区画。交点に円形の文様。
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	良	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。

IV・4区350号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/8	φ1～2ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—	—	後期	口縁部隆線による楕円区画。
---	----	----	---	----------	----------------	----	---	---	----	---------------

IV・4区352号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	良	—	—	勝坂	刻みを持つ隆線と連続爪形文。三角の印刻。
---	----	----	-------	--------	-----------	---	---	---	----	----------------------

IV・4区365号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	5YR6/4	φ1～2ミリの小石	普通	RL	縦横	加曾利E IV	波状口縁になる。現況では1個の突起が残る。口縁部には太さ4ミリの沈線で半円状の区画。口縁部に刻み。胴部沈線による「∩」「U」状の文様。
2	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	RL	縦横	加曾利E IV	口縁部に隆線が廻り無文帯を区画する。

IV・4区367号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁 底部	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	縦	加曾利E II	口縁部隆線による「∞」文。頸部無文帯。胴部は隆線による縦位と曲線文。内・外面にスス付着。撚糸。
2	深鉢	口縁	橙	2.5YR6/6	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	加曾利E II	太さ4ミリの沈線による文様区画と渦巻、弧線文。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	—	—	加曾利E	口縁部に半円状の沈線。三角形の刺突列。
4	浅鉢	口縁 底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	加曾利E	横位のミガキ。

IV・4区368号土坑出土土器観察表

1	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	不良	—	—	中期	太さ3ミリの沈線が縦位に施文される。
---	----	----	------	----------	------------	----	---	---	----	--------------------

IV・4区369号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい黒色粒	良	—	—	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。スス付着。
---	----	----	----	---------	--------	---	---	---	-----	--------------------------

IV・4区371号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1～3ミリの小石、金雲母	良	—	—	阿玉台	小波状口縁と隆線による楕円区画。区画内に押し引きの沈線による文様区画。
2	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	Lr	縦	加曾利E	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画。底部上げ底。

IV・4区375号土坑出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E III	隆・沈線による「∞」を基調とする文様区画。胴部は太さ4ミリの沈線による縦位区画。
---	----	----	------	----------	------------	----	----	---	----------	--

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		加曾利EIII	指頭圧痕のある隆線による縦位区画。間に 太さ2ミリの沈線が縦位に施文される。

IV・4区配石遺構縄文土器

IV・4区1号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの石英	不良	—		勝坂	隆線による曲線文。橋状把手。隆線に沿って 連続爪形文と円形の刺突。
2	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIII	口縁部楕円区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石	普通	Lr	横	後期	—
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	堀之内	太さ3ミリの沈線による幾何学文。
5	蓋	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	—

IV・4区2号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利EIII	口縁部楕円区画。
2	鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～3ミリの小石	良	—		堀之内	内面に沈線が廻る。スス付着。

IV・4区3号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		堀之内	口縁突起に孔を持つ。
2	深鉢	口縁	赤褐	5YR4/6	細かい砂粒	良	—		勝坂	渦巻状の文様。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい軽石粒、黒色粒	普通	RL	横	加曾利EIV	口縁に断面三角の隆線が廻る。
4	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺	突起内面に同心円状の文様。
5	蓋	口縁	灰黄	2.5Y7/2	細かい黒色粒	普通	—		後期	φ4ミリの孔が2対あけられる。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ8～10ミリの沈線による文様区画。
7	土製 円盤		明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

IV・4区5号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	明褐	7.5YR5/6	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	Lr	縦	加曾利EV	断面三角の隆線により口縁部無文帯を作る。 胴部は楕円、「X」字状の文様。磨り消し 縄文。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	LR	横	加曾利EIV	断面三角の隆線により口縁部無文帯区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	後期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	加曾利EIV	太さ3～4ミリの沈線による方形の文様区 画。φ4ミリの円形刺突。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	斜	後期	隆線による縦位の区画。
6	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		?	細かい条線が縦位に施文される。指頭圧痕。
7	深鉢	胴部	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		?	条線が縦位に施文される。
8	土製 円盤		灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
9	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区6号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 底部	橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。ス ス付着。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
2	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/1	細かい砂粒	良	—		堀之内	口縁部に円形の突起。方形区画に円形刺突。刺突された隆線が頸部に廻り、波状口縁頂部と波底部から縦位に施文される。
3	深鉢	口縁 胴部	黒褐	7.5YR3/1	φ1～3ミリの小石、 黒色粒	普通	LR	縦 横	称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。
4	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～5ミリの沈線による「J」字文。 文様内に涙滴状の刺突。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。 突起。
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	Lr	縦	称名寺	太さ3～4ミリの沈線による幾何学文。
7	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1～2ミリの軽石 粒、黒色粒	普通	LR	横	称名寺	太さ4～5ミリの沈線による文様区画。
8	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
9	両耳 壺	口縁	明赤褐	2.5YR5/8	φ1～3ミリの軽石粒	普通	RL	縦 横	加曾利EIV	—
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	LR	横	称名寺～堀 之内	口縁部上端に円形の突起。ここから刻みを持つ隆線が垂下する。
11	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。スス付着。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい軽石粒	不良	Lr	縦	後期	隆線に沿って円形の刺突。
13	両耳 壺	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	横	加曾利EIII	橋状把手部に縄文施文。
14	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石	良	RL	縦	加曾利E	太さ4～5ミリの沈線による文様区画。
15	深鉢	底部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒	良	—		後期	縦位のミガキ整形痕が残る。
16	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	φ1～3ミリの小石	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
17	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区7号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	淡黄	2.5Y8/4	φ1～2ミリの軽石粒 多い	普通	—		称名寺～堀 之内	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。 区画内に縦長の刺突。
2	壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		三十稲場	口縁部に太さ4ミリの沈線が廻る。刺突文。
3	深鉢	口縁	赤	10R4/8	φ1～5ミリの小石、 軽石粒	普通	Lr	横	加曾利E	螺旋状の突起。隆線による楕円区画にφ4～5ミリの刺突列が廻る。
4	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ4～5ミリの沈線による口縁部区画と 胴部文様。
5	深鉢	口縁	黄灰	2.5Y6/1	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	口縁部に太さ5ミリの沈線による区画。刺 突文。
6	深鉢	口縁	淡黄	2.5Y8/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による文様区画。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による「J」字文。 区画内に刺突。
8	深鉢	底部	灰白	2.5Y8/2	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	不良	—		後期	縦位のミガキ整形。
9	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい軽石粒、黒色粒	良	—		後期	縦位の整形。スス付着。

IV・4区8号配石遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	両耳 壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	RL	横	加曾利EV	口縁部隆線で無文帯を作る。突起を持つ。
2	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。 区画内に刺突。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
3	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの軽石粒、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。
4	深鉢	口縁 底部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦	称名寺	口縁部隆線による区画。胴部沈線による「J」文。磨り消し縄文。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E V	断面三角の微隆線による口縁部区画。
6	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~4ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。
7	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。外面にスス付着。
8	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺~堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。区画内に列点。
9	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突。
10	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突列。
11	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
12	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		堀之内	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。横位「8」字の貼付文。
13	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR4/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		称名寺~堀之内	太さ3ミリの沈線による文様施文。
14	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石	不良	—		中~後期	—
15	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒	不良	—		中~後期	—
16	深鉢	底部	にぶい橙	5YR6/4	細かい砂粒多い	普通	RL	横	中~後期	内面にスス付着。
17	土版		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		後期	細い沈線で十字や弧線を描く。中心部に貫通する孔がある。
18	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	Lr		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。撚糸。
19	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
20	土製 品		にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—		中~後期	上端に凹みがある。

IV・4区不明遺構

IV・4区1号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。文様内に縦長の列点。
2	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		後期	断面三角の隆線で口縁部を区画する。胴部にも縦位の区画。縦長の列点。
3	深鉢	口縁	黒褐	10YR3/2	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線で「J」字文を描く。区画内に列点状の刺突。
4	鉢	口縁 底部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	—		?	指頭圧痕。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR5/4	細かい黒色粒多い	普通	—		加曾利E V	断面三角の刺突を加えた隆線で口縁部区画と胴部文様区画をする。
6	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦 横	加曾利E V	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。隆線による縦位区画。縄文と磨り消し部に分かれる。
7	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒 多い	普通	—		堀之内	口縁部環状の突起、内面にも刺突。
8	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。
9	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		加曾利E V	隆線による口縁部区画。
10	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	Lr	縦	加曾利E I	口縁部隆線による半円形の区画。区画内に交互刺突による連続「コ」の字文。撚糸。
11	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	Lr	縦	加曾利E IV	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。外面にスス付着。
12	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
13	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	小波状口縁部にφ5～6ミリの刺突。「J」字文。太さ3ミリの沈線による弧線。
14	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	沈線による文様区画。
15	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	—		後期	太さ4ミリの沈線横位施文。刺突文。
16	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒多い	普通	—		堀之内	太さ3～4ミリの沈線を口唇部に施文し突起を作る。胴部にも文様施文。
17	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部に「8」字状の貼付。太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
18	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。区画内に刺突文。
19	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/3	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E	断面三角の隆線による文様区画。
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1～2ミリの軽石粒	良	不明		後期	太さ3ミリの隆線に縄文を押しつける。沈線横位施文。
21	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	普通	—		堀之内	波状口縁頂部に円形の刺突。沈線による曲線文。
22	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ3～5ミリの沈線による「J」字文。区画内列点状の刺突。
23	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
24	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	普通	RL	縦横	後期	口縁部に隆線が廻る。胴部は沈線で弧線。
25	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	細かい砂粒	普通	Lr	縦横	加曾利EIV	太さ5～6ミリの沈線による口縁部区画、縦位区画。
26	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		称名寺～堀之内	口縁突起に対弧状の隆線貼付。
27	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	普通	RL	横	加曾利EIV	把手部隆線による区画線が施文される。
28	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	突起側縁に孔を持つ。内面には円形の凹み。
29	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/3	細かい黒色粒多い	普通	LR	縦	加曾利EV	断面三角の隆線で口縁部を無文帯と区画する。把手部下からは隆線による対弧文が施文される。
30	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR4/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	称名寺～堀之内	円筒形の突起。隆線による楕円文。隆線には刺突が加えられる。沈線による文様。
31	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1～5ミリの小石、黒色粒	普通	—		称名寺	太さ2ミリの沈線による斜線。
32	深鉢	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	—		称名寺	突起側縁部に孔を持つ。突起内面には円形の凹みと沈線による同心円文。
33	深鉢	胴部	褐灰	10YR4/1	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
34	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。区画内に刺突。
35	両耳壺	口縁	浅黄	2.5Y7/4	細かい砂粒	普通	Lr	横	後期	器面が整形されているが、わずかに縄文が残る。
36	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。
37	深鉢	胴部	灰褐	5YR4/2	φ1～3ミリの石英	普通	—		大木6	太さ3ミリの結節浮線による幾何学文。
38	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR6/2	φ1～5ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
39	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による縦位区画。
40	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	RL	縦	加曾利E	—
41	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	櫛状工具による条線。
42	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	普通	—		後期	—
43	土製円盤		明赤褐	2.5YR5/6	φ1～2ミリの軽石粒	不良	—		加曾利E	外縁を打ち欠き成形。
44	土製円盤		にぶい橙	7.5YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
45	耳飾り		褐灰	5YR5/1	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	径14ミリ、厚さ12ミリ、孔径7ミリ。
46	耳飾り		灰褐	7.5YR4/2	細かい砂粒	普通	—		加曾利E	径14ミリ、厚さ15ミリ、孔径4ミリ。
47	土製円盤		橙	5YR7/6	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
48	土製 円盤		橙	5YR7/6	φ1~2ミリの小石	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
49	土製 円盤		褐	10YR4/4	φ1~3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	外縁を打ち欠き成形。
50	土製 円盤		にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
51	土製 円盤		灰褐	7.5YR6/2	φ1~2ミリの軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
52	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。
53	土製 円盤		橙	7.5YR6/6	細かい砂粒	普通	Lr		—	外縁を打ち欠き成形。撚糸。

IV・4区2号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR6/3	φ1~2ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	—		堀之内	太さ4ミリの沈線による文様施文。
2	深鉢	胴部	灰白	10YR7/1	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	φ8ミリの円形刺突。太さ3ミリの沈線による横位区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
4	深鉢	胴部	明赤灰	2.5YR7/1	細かい黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部φ7ミリの円形刺突と太さ3ミリの曲線による文様。
5	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの軽石粒	不良	LR	横	堀之内	太さ3~4ミリの沈線による文様区画。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	RL	横	後期	—

IV・4区3号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	壺	口縁	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	口縁部に断面三角の隆線が廻り無文帯と区画する。
2	両耳 壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	普通	RL	縦	加曾利EIV	橋状把手。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	LR	横	堀之内	太さ5~6ミリの沈線による文様区画。7と同一個体。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		堀之内	円筒状の突起。隆線により対弧状の文様を描く。
5	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利EIV	微隆線が口縁に廻り無文帯を区画する。
6	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石	普通	RL	縦	中期	スス付着。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	LR	横	堀之内	太さ6ミリの沈線による幾何学文。3と同一個体。
8	深鉢	胴部	橙	2.5YR6/8	細かい黒色粒	普通	LR	横	加曾利E	太さ3~5ミリの沈線による縦位区画。
9	深鉢	底部	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	普通	—		中期	縦位の整形痕。
10	土製 円盤		にぶい褐	7.5YR5/4	細かい黒色粒	普通	—		—	底部片転用。外縁を打ち欠き成形。

IV・4区4号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの石英	良	RL	横	加曾利EIV	口縁部に低い隆線が廻る。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒多い	普通	RL	横	加曾利EV	口縁部に低い隆線が廻る。沈線による楕円文様。
3	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~2ミリの小石	良	RL	横	加曾利EV	断面三角の隆線による文様区画。
4	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの黒色粒	普通	LR	横	加曾利EIV	口縁部に隆・沈線が廻る。
5	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	LR	横	堀之内	太さ1ミリの沈線による幾何学文。
6	深鉢	胴部	褐灰	7.5YR4/1	φ1~3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	幅4ミリの半截竹管による押し引きの縦位線と波状線。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~2ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	太さ2~3ミリの沈線による楕円区画。

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
8	深鉢	胴部	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線と涙滴状の刺突。
9	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦横	加曾利E	—
10	深鉢	胴部 底部	橙	5YR6/6	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ2ミリの沈線による縦位区画。

IV・4区5号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	良	LR	横	加曾利E IV	断面三角の隆線による口縁部無文帯区画。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	良	LR	横	後期	口縁部突起上面に渦巻状の沈線。太さ4ミリの沈線による楕円区画。スス付着。
3	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの石英、 金雲母	良	—		阿玉台	横位の整形痕。
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの軽石粒、 黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
5	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	φ1～2ミリの軽石粒	不良	LR	縦	加曾利E	太い沈線による楕円区画。
6	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	良	—		後期	太さ3～4ミリの沈線による弧線文。
7	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	LR	縦横	加曾利E	縄文の施文方向を変えて羽状縄文にしている。

IV・4区6号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	明赤褐	2.5YR5/6	φ1～3ミリの小石、 石英	良	RI	横	加曾利E II	隆線による文様区画。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの黒色粒	不良	Lr	横	加曾利E IV	口縁部に太さ3ミリの沈線による文様区画とφ4ミリの円形刺突列。胴部には対弧文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの小石、 軽石粒	良	Lr	横	加曾利E IV	隆・沈線による渦巻文。
4	深鉢	口縁	褐灰	10YR6/1	細かい砂粒、軽石粒	普通	RL	縦横	加曾利E IV	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。スス付着。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	LRL	縦	加曾利E III	太さ3～4ミリの沈線による縦位区画と条線。
6	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの黒色粒	良	LR	横	加曾利E III	太い隆線による楕円区画。

IV・4区7号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利E III	口縁部に太さ7ミリの沈線が廻る。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—		加曾利E II	太い隆線による口縁文様区画。区画内に沈線充填。「∞」状の突起。
3	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	横	加曾利E III	太い沈線による楕円区画。
4	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒多い	普通	RL	縦	加曾利E III	沈線による縦位区画。

IV・4区8号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	RL	横	加曾利E II	隆線による「∞」文。
2	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		堀之内	口縁部に太い沈線が廻る。縦位の沈線施文。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		諸磯c	棒状・ボタン状の貼付文。地文幅3～4ミリの平行沈線を集合化させ横位、矢羽根状に施文。

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/3	φ1～3ミリの石英、金雲母	良	—		阿玉台	隆線による楕円区画。隆線に沿って幅3ミリの結節沈線。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	加曾利EIII	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	良	—		後期	外面縦位の整形。

IV・4区9号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい砂粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。側面に孔を持つ突起。内面にも孔があり、同心円状の沈線が施文される。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による「J」字文。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	—		称名寺	太さ2～3ミリの沈線による斜格子目文。
4	土製 円盤		にぶい赤褐	5YR5/4	細かい砂粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区10号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利EV	刺突を持つ隆線を山形に施文。地文は楕状工具による波状文。2と同一個体。
2	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	不良	—		加曾利EV	楕状工具による波状文。1と同一個体。
3	深鉢	胴部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	太さ4～5ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	底部	褐	7.5YR4/6	φ1～3ミリの小石	良	—		後期	縦位のミガキ整形。

IV・4区11号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁 胴部	明赤褐	5YR5/6	細かい砂粒、黒色粒	良	LR	縦	称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。文様内に縄文充填。
2	深鉢	口縁 胴部	橙	5YR6/6	細かい軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EV	口縁に太さ3～4ミリの沈線が廻る。
3	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	細かい砂粒	普通	LR	縦	後期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	良	RL	縦 横	後期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石	良	—		後期	—
6	土製 円盤		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい軽石粒	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区12号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		堀之内	小波状口縁突起に円形の刺突と沈線が施文される。
2	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	細かい砂粒	普通	LR	横	後期	太さ3ミリの沈線による文様区画。

IV・4区13号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～2ミリの黒色粒	良	—		称名寺	太さ4～5ミリの沈線による「J」字文。文様間に刺突。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	不良	—		後期	口縁部に浅い沈線による横位区画。
3	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	不良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。
4	深鉢	胴部	にぶい褐	7.5YR5/4	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による「J」字文。
5	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい黒色粒	良	—		堀之内	太さ3ミリの沈線による弧線文。
6	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい黒色粒	普通	—		後期	—

IV・4区出土土器観察表

IV・4区14号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	褐灰	7.5YR4/1	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E	口縁に太さ5ミリの沈線が廻る。櫛状工具による波状文。
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E III	太い隆線による楕円区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	—		後期	太さ3ミリの沈線による縦位区画。スス付着。
4	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR5/2	細かい砂粒	良	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による曲線文。
5	深鉢	口縁 胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの小石、 黒色粒	普通	—		称名寺	太さ3～4ミリの沈線による弧線、渦巻文。

IV・4区15号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/2	細かい黒色粒	良	RL	縦	加曾利E III	断面三角の隆線による楕円区画文。
2	深鉢	胴部	灰褐	7.5YR4/2	φ1～3ミリの軽石粒	良	RL	縦	加曾利E III	太い隆・沈線による楕円区画。
3	深鉢	胴部	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～2ミリの軽石粒	普通	RL	縦	加曾利E III	太さ3ミリの沈線による縦位区画。櫛状工具による条線が施文される。
4	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	—		後期	太さ3ミリの沈線による縦位区画。
5	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	良	—		後期	—

IV・4区16号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	—		称名寺	幅4ミリの半截竹管による文様。

IV・4区17号不明遺構出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		称名寺	太さ3ミリの沈線による文様区画。

IV・4区古墳時代以降住居跡出土の縄文土器

IV・4区1号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E III	口縁部に隆線が廻り無文帯を区画する。
2	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～2ミリの軽石粒	良	—		後期	波状口縁頂部から刻みを持つ隆線が垂下。
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E III	櫛状の工具による条線。4・5と同一個体。
4	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E III	櫛状の工具による条線。3・5と同一個体。
5	深鉢	底部	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1～3ミリの軽石粒	良	—		加曾利E III	櫛状の工具による条線。3・4と同一個体。

IV・4区3号住居出土土器観察表

1	深鉢	胴部 底部	明赤褐	5YR5/6	φ1～5ミリの小石	良	LR	横	後期	太さ3～4ミリの沈線による文様区画。赤色塗彩。
2	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの軽石粒	普通	—		後期	—

IV・4区4号住居出土土器観察表

1	深鉢	胴部	橙	7.5YR7/6	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利E IV	外面にスス付着。
---	----	----	---	----------	------------	----	----	---	---------	----------

IV・4区5号住居出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～5ミリの小石、 黒色粒	普通	—		堀之内	口縁部にφ9ミリの円形刺突と太さ3～4ミリの沈線が廻る。
2	深鉢	胴部	灰黄褐	10YR6/2	φ1～3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	堀之内	太さ2ミリの沈線による文様区画。
3	土製円盤		赤褐	5YR4/8	φ1～3ミリの小石、 軽石粒	普通	LR		中期	外縁を打ち欠き成形。
4	土製円盤		暗褐	10YR3/3	φ1～3ミリの石英	不良	—		—	外縁を打ち欠き成形。
5	土製円盤		橙	5YR6/6	φ1～3ミリの石英、 雲母	普通	—		—	外縁を打ち欠き成形。

第6章 出土遺物

IV・4区7号住居出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴
1	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	—	—	焼町	双環状の突起。
2	粘土塊		橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	ワラ状の繊維痕。
3	粘土塊		橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	—	—	—	ワラ状の繊維痕。
4	土製円盤		橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。
5	土製円盤		明褐	7.5YR5/6	φ1~3ミリの軽石粒多い	不良	—	—	—	外縁を打ち欠き成形。

IV・4区8号住居出土土器観察表

1	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい黒色粒	普通	RL	縦横	加曾利EIV	口縁部に隆線が廻り無文帯を作る。
2	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~3ミリの軽石粒	良	LR	縦横	加曾利EV	断面三角の隆線による口縁部文様区画。胴部楕円区画。
3	深鉢	口縁	灰白	10YR8/2	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦横	加曾利EV	口縁部隆線による区画。太さ4ミリの沈線による楕円区画と縦位区画。
4	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	横	後期	太さ3ミリの沈線による楕円区画。口唇部に突起。三角の印刻。5と同一個体。
5	深鉢	口縁	橙	5YR6/6	細かい砂粒	良	LR	横	後期	太さ3ミリの沈線による楕円区画。口唇部に突起。三角の印刻。4と同一個体。

IV・4区9号住居出土土器観察表

1	深鉢	口縁	橙	7.5YR7/6	細かい砂粒	普通	RL	縦横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文区画。
2	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	Lr	横	加曾利E	太さ5ミリの沈線による文様区画。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	細かい黒色粒	普通	LR	横	堀之内	口縁内面に沈線が廻る。
4	土製円盤		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい黒色粒	普通	—	—	—	外縁を打ち欠き成形後ミガキ。

IV・4区10号住居出土土器観察表

1	深鉢	口縁	暗赤褐	5YR3/6	φ1~3ミリの小石	普通	LR	横	称名寺	太さ3~4ミリの沈線による「J」字文を口縁部に描く。胴部は横位の沈線で区画される。
2	深鉢	口縁	灰白	2.5Y8/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	後期	断面三角の隆線による文様区画。4と同一個体。
3	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1~3ミリの小石	良	—	—	中~後期	竹管による縦位の条線。
4	深鉢	胴部	灰白	2.5Y8/2	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—	—	後期	断面三角の隆線による文様区画。2と同一個体。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	LR	縦	加曾利EIV	断面三角の隆線による曲線文。
6	深鉢	底部	明赤褐	2.5YR5/6	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	Lr	縦横	中期	底面に網代痕。
7	注口部	注口部	灰白	2.5Y8/2	細かい黒色粒	不良	—	—	堀之内	—

IV・4区25号住居出土土器観察表

1	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画。区画内に刺突。
2	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒	良	—	—	称名寺	太さ6ミリの沈線による文様区画と刺突。
3	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画と刺突。
4	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの軽石粒、黒色粒	不良	—	—	称名寺	太さ5ミリの沈線による縦位区画と刺突。
5	深鉢	胴部	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	—	—	称名寺	太さ4ミリの沈線による縦位区画と刺突。赤色塗彩。

IV・4区遺構外出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
1	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—	—	早期前半	無文。尖底土器。	875-850

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
2	深鉢	底部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1ミリの小石、軽石粒	良	—		早期前半	細い沈線が螺旋状に尖底部から引かれる。尖底土器。	875-850
3	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~2ミリの小石	良	—		諸磯c	幅3ミリの平行沈線を横位に施文し地文とする。口唇部は竹管による刻み。棒状・円形の粘土紐貼付。	885-870
4	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい砂粒	良	Lr	斜	浮島	貝殻腹縁による鋸歯文。	920-840
5	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		浮島	貝殻腹縁による鋸歯文。	890-895
6	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/4	細かい砂粒、軽石粒	良	—		興津	口唇部に刻み。口縁に幅6ミリの押し引き文。幅2~3ミリの爪形文を3列波状に施文。口縁部を幅6ミリの平行沈線で区画する。	895-860
7	深鉢	胴部	黒褐	5YR2/1	φ1~2ミリの小石、石英	良	—		興津	幅8ミリの平行沈線による横位区画。上半は太さ2ミリの沈線で鋸歯状区画。区画内は竹管を押し引き施文する。	885-875
8	深鉢	胴部	にぶい黄褐	10YR5/3	細かい砂粒	良	—		興津	幅2ミリの沈線による斜格子状の区画。区画内に幅6ミリの平行沈線と細い爪形文列が充填される。	895-860
9	鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~5ミリの石英多い	不良	—		前期末	口縁部に鋸歯文。頸部に横位の結節浮線文。	940-845
10	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		前期末	浮線を貼付け文様を描く。	920-830
11	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR4/4	φ1~5ミリの石英	良	—		前期末	太さ3ミリの結節浮線による文様区画と鋸歯文。	940-845
12	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR4/2	φ1~3ミリの小石	良	—		前期末	刻みのある隆線と幅5ミリの平行沈線により文様を描く。文様間には印刻施文。	920-830
13	深鉢	口縁	褐	7.5YR4/3	φ1~2ミリの小石、金雲母	良	RL		前期末	縄文原体圧痕で鋸歯状に施文。	915-860
14	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~5ミリの花崗岩、金雲母	良	—		阿玉台	幅12ミリの爪形文を口縁部と頸部に施文。	910-840 915-825
15	深鉢	胴部	橙	5YR6/6	φ1~3ミリの小石、金雲母、石英	良	—		阿玉台	隆線による横位・三角区画。太さ4ミリの沈線による押し引きの文様区画。	930-830
16	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒、金雲母	不良	R1	横	阿玉台	口縁部に沿ってペン先状の刺突が2段に施文される。	895-840
17	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、軽石粒、雲母	良	—		阿玉台	太い隆線による文様。隆線に沿って平行沈線が施文される。文様区画内を波状や斜線が充填される。	930-840
18	深鉢	口縁	橙	7.5YR6/6	φ1~3ミリの小石、金雲母	普通	—		阿玉台	楕円の大きな突起。半截竹管による連続刺突文様。	915-830
19	深鉢	口縁	明赤褐	5YR5/6	φ1~2ミリの軽石粒	良	—		勝坂	刻みを持つ隆線で円形に区画し、三叉文の突起を持つ。	935-850
20	深鉢	口縁	にぶい黄褐	10YR5/4	φ1~2ミリの小石	良	—		加曾利E II	太さ20ミリの隆線による楕円区画。隆線には刻みを施す。区画内は沈線が充填。	895-845
21	両耳壺	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1~2ミリの小石	普通	RL	横	加曾利E IV	頸部に微隆起線が廻り口縁部と区画する。	910-840
22	両耳壺	口縁	にぶい黄褐	10YR5/3	φ1~3ミリの小石	良	LR	横	加曾利E III	口縁部に隆・沈線による楕円区画と把手。	920-895
23	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	砂粒、軽石粒	普通	R1	縦	加曾利E II	太い隆線により口縁部に半円の文様区画。撚糸。	920-880
24	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、黒色粒	普通	—		加曾利E II	隆線により口縁部を区画。隆線を渦巻・弧線状に貼付ける。区画内を沈線が充填される。	905-855
25	深鉢	口縁	灰褐	7.5YR5/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利E II~III	口縁部隆・沈線による楕円区画。胴部沈線による縦位区画。	900-835
26	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR6/2	φ1~5ミリの軽石粒	良	—		加曾利E V	断面三角の隆線による口縁・胴部区画。外面にスス付着。	915-815
27	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒、軽石粒	良	LR	縦	加曾利E V	太さ5ミリの沈線による楕円文様区画。外面にスス付着。	890-865
28	注口	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦横	後期	口縁部に隆線で無文帯を区画する。胴部は縄文施文。	935-835

第6章 出土遺物

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
29	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	砂粒、黒色粒	普通	LR	縦	加曾利E V	断面三角の隆線で口縁部無文帯を区画する。胴部にも隆線で文様を描く。	920-825
30	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒多い	不良	LR	横	称名寺	太さ3ミリの沈線で「J」字を描く。「J」字内にはφ3ミリの刺突列。附加条。	930-850
31	深鉢	口縁	黒褐	7.5YR3/1	φ1~2ミリの砂粒、軽石粒	普通	Lr	縦	加曾利E V	太さ5ミリの沈線で口縁部・胴部文様を区画し、縄文帯と無文帯を作る。	920-845
32	深鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	細かい黒色粒	良	Lr	縦横	称名寺	口縁部を太さ3~4ミリの沈線で区画し、「J」字文を作る。区画内に縄文充填。	935-875
33	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/3	φ1ミリの小石、黒色粒	普通	—		後期	太さ4~5ミリの沈線による方形区画。区画内櫛状工具による条線。	表採
34	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒	不良	LR	縦横	称名寺	太さ4ミリの沈線による文様区画と「J」字文。	900-815
35	深鉢	口縁	にぶい褐	7.5YR5/4	φ1~2ミリの小石	普通	LR	縦	称名寺	太さ3ミリの沈線による「J」字文。	900-825 905-830
36	深鉢	口縁	褐灰	10YR4/1	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		称名寺	太さ4ミリの沈線による文様施文。突起は橋状になり「J」状の沈線施文。	910-825
37	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの小石、軽石粒	普通	LR	縦	称名寺	φ3ミリの沈線による「J」状の文様。突起部は橋状になる。	915-845
38	深鉢	口縁	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	突起部に隆線で対弧状の貼付文。坏状の突起になる。	920-845
39	深鉢	口縁	灰黄褐	10YR5/2	φ1~3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦横	堀之内	口縁部に沈線が廻り、小波状部に弧線と「8」字状の刺突。頸部は無文帯。胴部に沈線で文様を描く。	920-845 920-850
40	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/4	φ1ミリの白色粒	良	—		堀之内	小波状口縁の頂部にφ10~15ミリの刺突。口唇部にも刺突。口縁部に太さ3ミリの沈線が廻る。	895-865
41	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒多い	良	LR	横	堀之内	口縁部に刻みを持つ隆線が2条廻り、これを縦の隆線がつなぐ。頸部以下は太さ2ミリの沈線が鋸歯状や三角状に文様を描く。	900-845
42	鉢	口縁	にぶい橙	7.5YR7/4	φ1~3ミリの小石、黒色粒	良	—		堀之内	「8」字状の貼付。太さ4ミリの沈線文施文。	920-815
43	壺	口縁	にぶい橙	7.5YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	—		堀之内	「0」字状に粘土紐を貼付け把手にしている。	905-830
44	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR7/4	φ1~3ミリの軽石粒	普通	—		加曾利B	太さ3~4ミリの沈線による文様。口縁部には突起が付き孔を持つ。	875-825 925-855
45	深鉢	口縁	にぶい黄橙	10YR6/3	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	LR	横	加曾利B	口縁に孔を持つ小突起。太さ5ミリの沈線が横位区画と対弧文様。	875-825
46	深鉢	口縁	浅黄橙	10YR8/3	φ1ミリの砂粒	普通	LR	横	堀之内	口縁上部に太さ4ミリの沈線が廻る。沈線による縦位区画と波状・弧状の沈線。	910-850 910-855
47	深鉢	口縁 胴部	にぶい赤褐	5YR5/4	φ1~3ミリの小石多く含む	良	LR	横	堀之内	3単位の波状口縁。口縁内面に刻みを持つ隆・沈線が廻る。外面には2列の刻みを持つ隆線。頸部には沈線による横位の縄文帯区画。	920-835
48	深鉢	底部	にぶい黄橙	10YR6/4	φ1~3ミリの小石、軽石粒	良	RL	縦	加曾利E IV	隆線による縦位の区画。	915-885
49	深鉢	底部	明黄褐	10YR7/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	普通	—		加曾利E	隆線が3条垂下する。	900-865
50	深鉢	底部	灰黄	2.5Y7/2	φ1~2ミリの小石	普通	—		後期	底面に網代痕。	910-850
51	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒、黒色粒	良	—		中~後期	外面縦位の整形。高台底部。	895-825
52	深鉢	底部	浅黄橙	10YR8/3	φ1~3ミリの小石、軽石粒多い	普通	—		中~後期	外面横位の整形。	895-825
53	深鉢	底部	橙	5YR6/6	φ1ミリの小石、軽石粒	良	—		加曾利E	縦位のミガキ整形。高台底部。	910-885
54	深鉢	底部	橙	7.5YR6/6	φ1~2ミリの小石、軽石粒	良	—		後期	底面に網代痕。	910-865
55	器台	脚部	にぶい黄橙	10YR7/3	細かい砂粒	普通	—		中期	透かしを持つ。	910-855

IV・4区出土土器観察表

番号	器種	部位	色調	記号	胎土	焼成	撚り	施文方向	分類	文様の特徴	出土位置
56	器台	脚部	浅黄橙	10YR8/4	細かい黒色粒	不良	—		加曾利E	—	925-850
57	手捏		浅黄	2.5Y7/3	φ1ミリの小石、黒曜石	普通	—		—	内外面に指頭による圧痕が残る。	900-825
58	手捏		にぶい黄橙	10YR7/2	砂粒	普通	—		—	太さ1ミリの沈線を格子目状に施文。	920-820
59	手捏		暗灰黄	2.5Y5/2	細かい砂粒	不良	—		中～後期	指頭圧痕が残る。	900-825
60	垂飾		にぶい黄橙	10YR6/3	細かい砂粒	良	—		中期	土製大珠。篋削り整形。	920-835
61	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	普通	R1		後期	貝輪の模倣。	895-885
62	腕輪		にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～2ミリの小石	良	—		後期	貝輪の模倣。	875-855
63	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～3ミリの小石	普通	R1		後期	貝輪の模倣。	895-885
64	腕輪		にぶい橙	7.5YR7/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	Lr		後期	貝輪の模倣。	895-885
65	腕輪		にぶい橙	7.5YR7/4	細かい砂粒	普通	R1		後期	貝輪の模倣。	895-885
66	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	細かい砂粒	不良	R1		後期	貝輪の模倣。赤色塗彩。	895-885
67	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1ミリの軽石粒	普通	—		後期	貝輪の模倣。	表採
68	腕輪		にぶい黄橙	10YR7/4	φ1～2ミリの軽石粒	不良	R1		後期	貝輪の模倣。赤色塗彩。	表採
69	蓋		にぶい黄橙	10YR6/4	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	—		後期	無文。孔を持つ。	910-835
70	蓋		灰黄褐	10YR6/2	細かい砂粒	良	—		後期	無文。φ5ミリの孔。	910-820
71	垂飾		橙	7.5YR6/6	細かい黒色粒	良	—		—	弧形を呈し、上部に孔を持つ。	925-850
72	土製品		明黄褐	10YR7/6	細かい砂粒	良	—		堀之内	波状口縁でφ5ミリの孔が2個対になる。	900-865
73	土製品		にぶい黄橙	10YR7/3	φ1～3ミリの小石、軽石粒	普通	RL	縦横	後期	太さ4ミリの沈線による弧線文。区画内に縄文を充填。	910-885
74	注口	口縁底部	灰黄褐	10YR5/2	細かい砂粒	良	LR	縦横	堀之内	太さ2ミリの沈線により幾何学文を描く。胴下半は無文。注口から独立した把手を持つ。	表採
75～162	土製円盤									深鉢等の破片を転用した土製円盤を一括した。土器片の外縁を打ち欠き成形している。成形後、縁を磨いて面取りしたものも見られる。	

IV・4区 古代遺構出土土器

IV・4区1号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	埴	完形	10.2	—	6.4	体径6.6	極細砂混	浅黄橙	10YR8/3	良	薄手の作り。口縁部丈高で口唇部細まる。内外面横撫で。基部に篋条痕廻る。体部扁平で丸底。右追い篋削り。
2	土師器	埴	3/4	10.0	—	(5.6)	体径7.1	細土	にぶい橙	7.5YR7/3	良	薄手の作り。口縁部丈高で口唇部細まる。内外面横撫で。体部扁平で丸底か？左追い篋削り。
3	土師器	高坏	杯部	16.4	—	(6.5)		細土	橙	7.5YR7/6	良	深目の坏部は緩く波うって開く。内外面丁寧な横撫で。腰部左追い篋削り。
4	土師器	S字口縁台付甕	略完	12.7	8.8	26.6	胴径20.2	細砂混	にぶい褐	10YR5/4	良	口縁部横撫で。胴下半やや細まり卵形。肩部右上がり、胴部左上りの掻目、8条単位でやや細目。下地に篋削り痕顕著。台基部右上方への篋削り。端部内折れ。指頭痕顕著。胴部見込に砂土塗布。
5	土師器	台付甕	口縁～胴部	6.2	—	(19.9)	胴径20.5	細砂混	にぶい褐	7.5YR5/4	良	口縁部横撫で。胴下半細まる卵形。肩部右上り、胴部左上り掻目、10条単位の細目。内面上半に指頭痕と撫で上げ調整。腰部に接合・指頭痕。
6	土師器	台付甕	胴部～台部	—	9.4	(21.0)	胴径22.8	細砂混	にぶい黄褐	10YR5/3	良	胴部は多段掻目、6条単位のやや粗目。内面腰部に接合痕。台基部は右上方への篋削り。端部は内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。

第6章 出土遺物

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
7	土師器	壺	口頸部	17.7	—	(7.5)	基径 10.0	細土	にぶい 橙	7.5YR7/4	良	口頸部直線的に外傾する。端部は外反して開く。口唇部矩形。内外面横撫で。

IV・4区2号住居出土土器観察表

1	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/3	11.8	—	14.0	胴径 19.8	細砂混	明黄褐	10YR6/6	やや 軟	胴部丸く張る。口縁部内外面横撫で。肩部右上、胴部左掻目、7条単位粗目。
2	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/2	12.7	—	(7.7)	胴径 19.7 +α	細砂混	橙	5YR6/6	良	口唇部丸く細まって内屈。口縁部内外面横撫で。肩部強く張り球胴（無花果形？）になろう。外面胴部左上、肩部右上の掻目後、肩部に横位掻目、11条単位で細目。内面肩部に指頭痕。
3	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/3	11.8	—	(5.5)	胴径 16.9 +α	細砂混	橙	7.5YR7/6	良	口唇部内屈。口縁部内外面横撫で。肩部の張り強く球胴（無花果形？）になろう。外面肩部右上の掻目、胴部は縦掻目の若干が重なる8条単位細目。内面肩部に指頭痕。
4	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/3	12.2	—	(4.2)	胴径 17.5 +α	砂多混	浅黄橙	7.5YR8/4	良	口縁部内外面横撫で。肩部の張り強く球胴（無花果形？）になろう。外面肩部右上掻目、下地篋削り顕著。6条単位粗目。粗隔。内面肩部篋留め痕顕著。
5	土師器	台付甕	台部	—	8.5	(5.6)	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	台端部内折れ。

IV・4区4号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	ほぼ完 形	10.8	—	6.3	体径 7.1	細砂混	にぶい 橙	7.5YR7/4	良	口縁部丈高で直線的に外傾し、口唇部細まる。内外面横撫で。体部扁平で丸底。不定方向篋削り。
2	土師器	埴	完形	13.0	—	6.0	体径 8.9	細土	にぶい 橙	2.5YR6/4	良	口縁部丈高で大きく外傾する。口唇部細まって小さく内屈。内外面横撫で。体部不定方向の篋削り。丸底。
3	土師器	鉢	3/4	10.0	—	8.9	胴径 11.7	細土	にぶい 黄橙	10YR6/3	良	短口「く」の字状口縁。胴部やや扁平な球形で丸底。上半は横位篋撫で。下半は横位篋削り。底部不定方向の篋削り。内面指頭による強い撫で上げ。
4	土師器	高坏	ほぼ完 形	14.5	10.8	15.0	—	細土	橙	5YR6/6	良	坏部は角状の腰部から直線的に外傾する。内外面放射状の篋磨き。脚柱は下方へ広がる丈高縦位篋磨き。裾部は強く折れて「ハ」の字状に開く放射状篋磨き。脚柱内面絞り痕。裾部横篋撫で。
5	土師器	高坏	完形	15.6	12.9	17.7	—	細土	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	扁平な体部は直立に折れ、口縁部外反して開く。口唇部外縁短形。内外面丁寧な篋磨き。脚柱は丈高で細身縦篋磨き。裾部は漏斗状に開く放射状篋磨き。脚柱内面横位篋削り。裾部横撫で。
6	土師器	高坏	坏部 1/2	14.5	—	(5.9)	—	細土	灰黄褐	10YR4/2	良	腰部は角張り深い体部は直線的に外傾する。内外面縦篋磨き。
7	土師器	高坏	脚部	—	11.1	(11.8)	—	細土	にぶい 赤褐	5YR5/4	良	脚柱外面は赤色塗彩。下方へ直線的に広がり丈高、端部に下地削り篋留め痕廻る。縦位篋磨きは密。裾部は強く折れて「ハ」の字状に開く横撫で。脚柱内面は指頭による撫で上げ。裾部は回転撫で。
8	土師器	S字口縁 台付甕	完形	12.3	4.8	27.0	胴径 18.8	細土	赤褐	2.5YR4/6	良	口縁部内外面横撫で。胴部は下半部が細まる無花果形。胴部下地の篋削り粗く器面に凹凸あり。肩部右上、胴部左上の掻目6条単位で、単位間やや粗。内面放射状の撫で上げ著しい。台部端内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
9	土師器	台付甕	ほぼ完 形	13.0	9.0	28.6	胴径 20.7	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	口縁部内外面横撫で。胴部は下半部が細まる無花果形。肩部右上、胴左上の掻目6条単位。内面放射状の撫で上げ。肩部篋削り。台部端内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
10	土師器	台付甕	胴～台 部	—	(9.2)	(22.6)	胴径 21.3	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	薄手の作り。胴部下細まる無花果形。肩部右上、胴部左上掻目5～6単位。内面撫で上げ著しい。台部左上り掻目を縦位方で消す。端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。

IV・4区出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
11	土師器	壺	完形	12.8	頸高 9.0	19.2	胴径 13.2	細土	明黄褐	2.5Y6/6	良	口頸部は丈高で直線的に外傾する。口唇部細まって直立。内外面縦篋磨き。胴部は球形に張り丸底。縦位2段の篋磨き。底部不定方向篋削り。
12	土師器	壺	口頸	18.6	—	(9.1)	—	細土	灰黄褐	10YR6/2	良	器肉厚い。頸部直線的に外傾し、上端で外反する。口唇外縁は弱く状線が廻り直立する。外面縦搔目後横撫で。内面横篋撫で。
13	土師器	甕か壺	胴下半 ～底部	—	8.9	(23.1)	胴径 26.0	細土	にぶい 褐	7.5YR5/3	良	丸く張る球胴形。胴上半は斜上方、下半は斜～縦位下方へ篋削り。腰部押さえ様の圧痕。輪高台様の底部は凸出し、輪内は細砂底。内面は丁寧な横撫で。
14	土師器	甕か壺	胴～底 部	—	7.6	(26.6)	胴径 28.6	細土	にぶい 黄褐	10YR4/3	良	丸く張る球胴形。斜上方へ篋削り。腰部は縦位下方へ篋削り。輪高台様の底部は凸出し、輪内は細砂底。内面は丁寧な横撫で。肩部は強く篋撫で。

IV・4区5号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	2/3	9.0	—	5.6	体径 6.5	細土	にぶい 橙	5YR6/3	良	作りやや粗。口縁部丈高で直線的に外傾する。内外面横撫で。体部極扁平で丸底。外面不定方向篋削り。内面見込に指頭痕顕著。
2	土師器	埴	完形	13.5	—	5.4	体径 10.2	細砂混	にぶい 橙	7.5YR7/3	良	口縁部直線的で大きく開く。内外面横撫で。体・底部不定方向篋削り。内面指頭痕顕著。見込に砂土塗布。
3	土師器	埴	3/4底 部欠	14.0	—	(5.3)	体径 11.0	細土	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	口縁部外反気味に開く。口唇部括れて細まる。内外面横撫で。体部扁平で丸底になろう。外面不定方向篋削り。
4	土師器	高坏	脚裾欠	14.0	—	(16.0)	—	細土	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	坏底部は折れて角状の腰を作る。体部直線的に外傾する。内外面縦篋磨き。脚柱は細身、丈高で端部は開き小さい外面縦篋磨き。内面横篋削り。
5	土師器	壺	坏部 1/3	14.0	—	—	—	細土	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	坏部はやや角状の腰を作り、体部は内湾気味に開く。内外面縦篋磨き。腰部外面は縦篋削り。
6	土師器	高坏	坏部 2/3	15.6	—	(6.4)	—	細土	にぶい 橙	7.5YR7/4	良	坏部はやや緩やかな腰を作り、体部は外反気味に開く。内外面横撫で。外面腰部の上縁は横、下半は縦篋削り。見込は放射状の篋痕。
7	土師器	高坏	坏部 1/3	16.0	—	(5.9)	—	細土	にぶい 褐	7.5YR5/4	良	坏部は緩やかな腰を作り、体部は外反気味に開く。口唇部括れて小さく立つ。内外面横撫で。腰部外面縦篋削り。見込に放射状篋留め痕。
8	土師器	高坏	杯部	18.4	—	(7.3)	—	細土	浅黄橙	7.5YR8/6	良	腰部小さく屈して、体部直線的に開く。口唇部極細まり小さく内屈。内外面放射状篋磨き。
9	土師器	高坏	脚部 1/4	—	10.8	(7.0)	—	細土	明黄褐	10YR7/6	良	脚柱は太く裾短く直に開く。脚柱外面縦篋磨き。内面指頭痕。裾内外面横撫で。
10	土師器	甕	口縁部	(25.0)	—	(15.6)	—	細砂混	にぶい 橙	7.5YR7/3	良	丈高な口縁部小さく屈曲して外傾する。基部は低い2条の凸帯廻る。外面横撫で、内面横篋磨き。胴部上半右上がり後中位左上り搔目6条単位。内面上位は斜位篋磨き。
11	土師器	S字口縁 台付甕	口縁部	14.0	—	(7.0)	胴径 21.0	細砂混	にぶい 褐		良	口縁部内外面横撫で。肩部右上搔目粗隔7条単位。内面指頭撫で上げ顕著。
12	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	8.9	(8.8)	—	細砂混	橙	7.5YR6/6	良	台端部内折れ。外面上半右下へ搔目後、等間磨り消し。胴・台部見込に砂土塗布。
13	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.2	(7.1)	—	細砂混	にぶい 黄褐	10YR5/4	良	台端部内折れ。外面上半右下搔目後、略等間に縦磨り消し。内面指頭痕。胴・台部見込に砂土塗布。
14	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.6	(7.4)	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	台端部内折れ。内面上位下方へ篋削り。内面指頭痕。胴・台部見込に砂土塗布。
15	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.8	(7.5)	—	細砂混	淡黄	2.5Y8/4	良	台端部内折れ。外面上端下方へ篋削り。内面指頭痕。胴・台部見込に砂土塗布。
16	土師器	壺	2/3	8.2	—	7.2	胴径 6.0	細土	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	口縁部丈高で直線的に外傾する。口唇部折れて直立。外面縦篋磨き。内面横撫で。胴部扁平な球形。丸底。胴外面横・底部不定方向篋削り。
17	土師器	壺	ほぼ完 形	12.1	4.7	18.2	胴径 13.2	細土	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	厚手の作り。丈高な口頸部内湾気味で弱く外傾する。内外面横撫で。内面基部に篋留め痕。胴部は球形を呈し、底部極小径な凹底。胴中～腰部に紐作り痕顕著。

第6章 出土遺物

IV・4区8号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	手捏	完形	2.8	—	1.9	—	細土	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	親指頭大。丸底。
2	土師器	手捏	1/2	3.0 ×10?	2.5 ×10?	3.0	—	細砂	にぶい 橙	5YR7/3	良	長楕円形状になろうか?舟型手捏の可能性あり。
3	土師器	埴	1/4	—	1.5	—	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/3	硬	口縁部は丈高に開き、口唇部は直立気味に摘む。基部は強い篋当てで段状上に屈曲する。体部扁平で外面粗い押方篋削り。内面も粗い篋撫で。底部超小径な平底。
4	土師器	埴	ほぼ完形	10.0	—	6.65	胴径 7.4	細砂混	浅黄橙	10YR8/3	良	口縁部丈高で直線的に開き体部径を勝る。口唇部外縁は角面を作り内屈。内外面横位撫で。体部扁平で丸底。外面不定方向篋削り。内面左追い放射状篋撫で。
5	土師器	小形壺	ほぼ完形	9.8	3.0	8.9	胴径 9.0	細砂混	淡黄	2.5YR8/3	良	口縁部丈高で直線的に開く。口唇部外縁は角面を作って内屈する。胴部扁球状に張る。底部縁は輪状で廻り内は凹む。胴部紐作り痕残り指頭痕顕著で、弱い左上り篋撫で調整。内面燻し気味で黒色を呈す。
6	土師器	鉢	1/2	(9.2)	—	8.8	胴径 11.0	細砂多 混	にぶい 黄橙	10YR6/4	良	薄手の作り。口縁部短く内湾して開く。胴部は扁球状に強く張り丸底。底部一定、胴下半左上がり斜〜横位、肩部短く縦位の篋削り。内面肩部縦、中・下部は斜位の指頭撫で。
7	土師器	鉢	3/4	10.7	—	8.7	胴径 11.7	細砂粒	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	薄手の作り。口縁部短く内湾気味に開き、口唇部は小さく折れる。胴部は扁球状に強く張る。丸底。底部不定方向。胴部は左回り右から左方へ横位篋削り。内面見込は放射状。上位は左上りの指頭撫で。
8	土師器	鉢	口縁〜 胴下部	10.0	—	(6.9)	胴径 10.0	細砂混	明黄褐	10YR6/6	良	作りやや粗略。口縁部短く、上端部内屈気味に立つ。撫肩から胴中位が張る。肩部斜位。胴部横位の篋削り。
9	土師器	S字口縁 台付甕	略完	13.4	9.2	26.1	胴径 19.4	細砂混	灰白	10YR8/2	良	口縁部横撫で。胴部倒卵形。中〜下黒斑状煤か? 肩部下地篋削り顕著、右上粗隔。胴部左上掻目。10条単位細目。台部端内折れ。被熱。胴・台部見込砂土塗布。
10	土師器	S字口縁 台付甕	台欠	13.5	—	21.3	胴径 20.4	細砂混	灰黄褐	10YR6/2	良	口縁部内外面横撫で。胴部倒卵形。肩部右上、下半は左上掻目、下地篋削り。内面上半は撫で上げおよび指頭痕。
11	土師器	S字口縁 台付甕	口縁〜 胴上部	12.2	—	(5.9)	—	細砂多 混	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	肉厚なS字口縁。肩部下から上へ斜位篋削り。胴上位は横位気味篋削り。内面肩部強い指頭撫で上げ。
12	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/2	14.4	—	—	—	細砂混	褐灰	10YR4/1	良	肉厚なS字口縁。肩部斜位左追い掻目、細目で8条単位。
13	土師器	S字口縁 台付甕	胴〜台 部	—	6.8	(13.8)	—	砂粒多	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	台部小張り。胴部の張り弱く卵形の中〜小形甕。掻目なく多段。篋削り調整。胴下半左斜上方、腰部は左下り篋削り。内面胴下半は左上斜方向篋撫で。見込部砂粒塗布するが台部見込部に塗布なし。
14	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.6	(8.1)	—	細土	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	胴部篋削り。台端部は内折り。内外面見込部に砂土を塗布するが内面には上塗り土あり。
15	土師器	壺	胴下半 〜底部	—	7.9	(8.6)	胴径 21.0 +α	細砂混	にぶい 黄橙	10YR6/4	良	胴下位は整った球状の張り。底部砂底。胴中位は左回り左上がり斜位篋削り後、腰部に左回り左下り斜位篋削り。内面は左回り横位の強い篋撫で。篋幅2センチ。
16	土師器	壺	下半	—	8.2	17.0	胴径 24.4	粗砂混	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	胴部球形を呈す。縦〜斜位で上方へ篋削り。底部凸状平底。内面横位篋撫で。見込に放射状篋撫で。
17	土師器	壺	口縁欠	—	—	—	—	粗砂混	明黄褐	10YR6/6	良	胴部強い張り球胴。外面斜位上方への篋削り。内面肩部は指頭撫で上げ。底部輪高台様だが縁辺乱れる砂底。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区9号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/3	—	—	—	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR6/4	良	にぶく厚いS字口縁。器表の調整は左上斜位篔削り。内面口頸部接合痕明瞭。指頭痕調整。肩～胴部左上り斜位篔撫で。
2	土師器	S字口縁 台付甕	口縁～ 胴部	12.5	—	(18.7)	胴径 19.0	細砂混	にぶい 褐	7.5YR5/4	良	にぶいS字口縁。肩部張り弱く胴卵形。胴部下地に左上がり斜位の篔削り。胴部下半左上斜位後肩部疎間の縦位左回り掻目弱い6条単位。内面口頸部接合痕。肩部篔撫で調整。
3	土師器	台付甕	口縁～ 胴部	14.2	—	(18.9)	胴径 21.0	細砂混	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	にぶいS字口縁。肩部張り弱く撫肩。胴部卵形。胴部下地に斜上方へ篔削り。下半右上斜位、中位左上斜位の矢羽根状肩部縦位左回り掻目。目立て弱く6条単位。内面口頸部接合痕。胴部斜位篔撫で。
4	土師器	壺	底部	—	8.5	—	—	細砂混	橙	7.5YR6/6	良	胴下位～腰部上方へ縦位篔削り。底縁部は輪状。内は凹んで砂底。内面右回り左上り斜位篔撫で。

IV・4区10号住居出土土器観察表

1	土師器	高坏	坏部	17.1	—	(6.6)	—	細土	にぶい 橙	5YR6/4	良	丸みのある腰部から緩く段をなし、体部は外反気味に開く。内外面横撫で後に弱い篔磨き。腰部上位は不定方向、下位は縦に篔削り。
2	土師器	高坏	脚部	—	10.1	(6.3)	—	細土	灰黄	2.5Y7/2	良	脚柱は広がり小さく裾部は緩く「ハ」の字状に開く。脚柱・裾部外面縦篔磨き。内面脚柱は横篔削り。裾部横撫で。
3	土師器	甕	頸部～ 底部	—	9.8	(19.0)	胴径 19.8	粗砂混	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	球胴を呈すが作りやや粗い。底部は輪高台様で砂底。胴上半は斜位の強い篔削り。下半は縦篔削り。
4	土師器	S字口縁 台付甕	一部欠 損	12.7	9.0	26.1	胴径 19.0	粗砂少 混	にぶい 橙	7.5YR7/3	良	口縁部内外面横撫で。胴部倒卵形。外面肩部右上、胴部左上の掻目粗闊、7条単位で細目。下地は、篔削り顕著。内面篔撫で。台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
5	土師器	S字口縁 台付甕	一部欠 損	13.3	7.0	28.9	胴径 20.8	粗砂混	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	口縁部内外面横撫で。胴部肩張りの小さい倒卵形。外面肩部右上、胴部左上の掻目で粗闊。7条単位でやや粗目。内面斜篔撫で。台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
6	土師器	S字口縁 台付甕	3/4	17.6	9.8	34.4	胴径 26.3	細砂混	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	大形品。口縁部内外面横撫で。胴部倒卵形。外面肩部右上、胴部左上掻目、7条単位か。内面中位撫で上げ。台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
7	土師器	S字口縁 台付甕	胴部	—	8.4	(11.6)	胴径 18.4	粗砂混	にぶい 橙	5YR7/4	良	胴部倒卵形を呈しよう。外面上方への掻目、6条単位で粗目。内面篔撫で。台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
8	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	10.0	(9.5)	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR7/3	良	台端部内折れ。外面上位に左上掻目を縦位撫で消し。胴・台部見込に砂土塗布。
9	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.1	(4.0)	—	細砂混	にぶい 褐	7.5YR6/3	良	台端部内折れ。外面左上掻目で縦位撫で消し。
10	土師器	壺	略完	16.5	4.5	30.7	胴径 21.3	細土	にぶい 黄橙	10YR7/2	良	口頸部丈高で直線的に外傾する。内外面横撫で。内外基部から撫で上げ。胴部球形を呈し、底部は低い輪高台状で砂底。外面斜篔削り、内面横篔撫で。

IV・4区12号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	2/3底 部欠	9.5	—	(5.8)	体径 6.5	細土	にぶい 黄橙	10YR7/2	良	口縁部丈高で上半は内湾気味に開く。口唇部小さく括れて細まる。内外面横撫で。体部扁平で丸底になろう。外面不定方向篔削り。
2	土師器	埴	口縁 1/3	15.0	—	(4.2)	—	細土	浅黄橙	10YR8/3	良	大形埴になろう。口縁部外反気味に開く。口唇部括れて細まる。内外面縦篔磨き。

IV・4区18号住居出土土器観察表

1	須恵器	坏	体部欠	—	7.4	(1.4)	—	細土	灰黄褐	10YR4/2	良	底部右回転篔調整。
2	土師器	坏	略完	12.2	—	3.5	—	細土	橙	5YR6/8	良	体部扁平で丸底。口縁部内湾気味に立つ。内面および口縁部外面は横撫で。体部は指頭押圧痕。底部不定方向篔削り。

第6章 出土遺物

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
3	土師器	坏	略完	12.5	—	(3.0)	—	細土	橙	5YR6/6	良	体部扁平で丸底。口縁部内湾気味に立つ。口縁部内外面横撫で。体部は指頭押圧痕。底部不定方向篋削り。
4	土師器	坏	1/2	12.9	—	3.0	—	細土	にぶい 黄橙	10YR6/3	良	体部扁平で丸底。口縁部内湾気味に立つ。内面および口縁外面は横撫で。体部指頭押圧痕。底部不定方向篋削り。
5	土師器	坏	略完	13.1	—	3.5	—	細土	にぶい 橙	7.5YR6/4	良	体部扁平で丸底。口縁部内湾気味に立つ。内面および口縁部外面は横撫で。体部は指頭押圧痕。底部不定方向篋削り。
6	土師器	坏	1/2	13.6	—	3.2	—	細土	橙	7.5YR6/8	良	体部扁平で丸底。口縁部内湾気味に立つ。内面および口縁部外面は横撫で。体部は指頭押圧痕。底部は不定方向篋磨き。

IV・4区20号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	上位 2/3	8.7	—	(5.6)	体径 6.2	細砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	良	口縁部丈高で内湾気味に開き、口唇部細まる。内外面やや粗く横撫で。体部扁平、追手篋削り。
2	土師器	S字口縁 台付甕	3/4	12.5	8.1	26.2	胴径 18.5	細砂混	黒褐	10YR3/2	良	内面の屈曲が弱いS字口縁。内外面横撫で。胴部の張り弱く撫で肩。下地篋削り凹凸著しく掻目粗雑。肩部右上り胴部左上り7条単位で粗目。内面上半篋撫で上げ。台基部左上がり篋撫で。端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
3	土師器	台付甕	口縁～ 胴部	13.3	—	(12.3)	胴径 22.3	細土	にぶい 橙・に ぶい黄 橙	5YR6/3 ・10YR 6/3	やや 軟	口縁部内外面横撫で。胴部の張りやや下位で撫肩。肩部右上り、胴部左上り掻目、8～9条単位で細目なれど目立が雑。内面・肩部撫で上げ顕著。
4	土師器	台付甕	上位 1/4	14.6	—	10.5	胴径 23.6	細土	にぶい 黄褐	10YR4/3	良	口縁部内外面横撫でやや肉厚。肩部丸く張る。掻目細く10～11条単位。下地に篋削り顕著。内外肩部指頭痕残る。
5	土師器	壺	口縁～ 肩部	14.8	—	—	—	細土	浅黄橙	7.5YR8/3	良	口頸部直線的で上半で緩く開く。内外面縦位篋磨き。肩部横位の篋磨き。

IV・4区23号住居出土土器観察表

1	土師器	高坏	2/3	17.8	12.6	14.5	—	細土	橙	7.5YR7/6	良	坏部は小さな腰を作り、浅目の体部は大きく開く。外面縦・横の篋磨き。内面は縦篋磨き。脚柱は下位で緩やかに開き、裾部は外反気味。外面縦篋磨き、内面横篋削り。裾部内面横撫で。
2	土師器	高坏	坏部～ 脚部	—	—	(10.6)	—	細土	橙	5YR6/6	良	坏腰部に段を持つ。体部斜位篋磨き。内面横篋磨き。腰部縦篋削り。脚柱は下位で緩く開く。外面縦篋削り後粗縦篋磨き。内面横篋削り。
3	土師器	高坏	脚部 1/2	—	—	(10.7)	—	細土	にぶい 橙	7.5YR7/4	良	脚柱は下位で緩く開く。外面縦篋削り後、粗縦篋磨き。内外面横篋削り。裾部内外面横撫で。
4	土師器	高坏	脚部	—	9.2	(9.0)	—	粗砂少 混	にぶい 黄橙	10YR7/4	良	脚柱は下位へ緩く開き、裾部外反気味。脚柱充填は1/2。外面縦篋磨き。内面奥部篋削り。
5	土師器	台付甕	台部	—	8.9	(7.6)	—	細砂混	にぶい 黄橙	10YR6/4	良	台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
6	土師器	壺	口縁～ 胴部	(22.4)	—	(15.1)	—	細土	褐	10YR4/4	良	口頸は丸みのある肩部より「く」の字状に折れる。丈高で直線的に開く。口頸外面縦、内面斜篋磨き。肩部外面斜・縦篋磨き。内面紐作り痕顕著。

IV・4区25号住居出土土器観察表

1	土師器	S字口縁 台付甕	口縁	12.8	—	(3.7)	—	細砂混	にぶい 赤褐	2.5YR5/3	良	口縁部内外面横撫で。肩部下方から上方へ掻目、9条単位粗隔。
2	土師器	S字口縁 台付甕	胴部～ 台部	—	8.6	(18.4)	胴径 19.8	細砂混	にぶい 赤褐	2.5YR5/4	良	胴部下位細まり倒卵形になろう。下位から上位、下方から上方へ掻目6～7条単位でやや細目。台端部は内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
3	土師器	壺	口縁～ 胴部 1/3	頸9.3	—	(21)	胴径 18.8	細土	橙	7.5YR7/6	良	頸部強く絞る「く」の字状に折れ、口頸部は直線的に外傾する。口頸内外面は極弱な掻目で調整。胴部中位に弱い篋削り。下位は短引きの篋削り。

IV・4区出土土器観察表

IV・4区26号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	土師器	高坏	3/4	15.5	10.9	16.2	—	細土	浅黄橙	10YR8/3	良	坏底部は屈して腰を作り、体部緩く曲して外傾する。口唇部細まる。内外面横撫で後粗間の放射状磨き。見込部放射状磨き。腰部縦磨き。脚柱は基部細く三角錐状で丈高。裾は短く直に開く。脚柱外面縦磨き、内面横磨き。裾は横撫で。
2	土師器	高坏	2/3	15.0	11.1	17.7	—	細砂混	赤橙～浅黄橙	10R6/8・7.5YR8/6	良	坏底部は屈して腰を作り、体部直線的に外傾する。口唇部細まる。内外器面荒れ。脚柱は基部細く三角柱状で丈高縦磨き。内面紋り状痕。裾は短めで直に開く。内外面横撫で。
3	土師器	高坏	杯部 3/4	15.8	—	(6.3)	—	細土	にぶい黄橙	10YR6/3	良	屈して腰部を作る。体部は直線的に外傾する。口唇部細まる。内外面放射状磨き。見込は放射状に磨き痕あり。腰部縦磨き後粗磨き。
4	土師器	高坏	杯部 2/3	15.9	—	(5.8)	—	細土	にぶい褐	7.5YR5/4	良	屈して腰部を作る。体部は直線的に外傾する。口唇部細まる。内外面放射状磨き。見込部一方向の磨き。
5	土師器	高坏	坏部 2/3	16.5	—	(5.8)	—	細土	にぶい黄褐	10YR5/3	良	屈して腰部を作る。体部は直線的に外傾する。口唇部細まる。内外面放射状磨き。
6	土師器	小壺	胴部 3/4	—	—	(7.25)	胴径 11.2	細土	にぶい黄橙	10YR6/4	良	胴部は扁平な球胴形。丸底。外面肩部縦磨き後横撫で、中位は横、底部一方向の磨き。内面指頭状の撫で上げ。
7	土師器	S字口縁 台付甕	略完	15.2	9.5	32.2	胴径 23.5	細砂混	明褐灰	7.5YR7/2	良	口縁部内外面横撫で。胴部倒卵形。肩部右上下半引長左上掻目、9条単位で浅く条間は広い。内面下位接合部強い横磨き。上半指頭撫で。台端部内折れ。胴・台部見込砂土塗布。
8	土師器	S字口縁 台付甕	上半 1/3	(12.0)	—	(14.6)	胴径 17.7	細砂混	暗褐	10YR3/3	良	口縁部横撫で。胴部上～中位は球胴形。肩部右上、中～下位は左上がり掻目6条単位。内面上位指頭状撫で上げ、下位横撫で。
9	土師器	S字口縁 台付甕	口縁～ 胴部	14.6	—	(19.4)	胴径 23.2	細砂混	にぶい橙	7.5YR6/4	良	口縁部内外面横撫で。胴部上～中位は球胴形。肩部右上、中～下位は左上の掻目7条単位。内面胴部指頭状撫で上げ。
10	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	(9.6)	(8.6)	—	細砂混	にぶい黄橙	10YR7/4	良	台端部内折れ。外面細掻目縦位に撫で消し。胴・台部見込に砂土塗布。台部被熱する。
11	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.2	(6.8)	—	細砂混	にぶい黄橙	10YR6/4	良	台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。
12	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.6	(7.3)	—	細砂混	にぶい黄橙	10YR6/3	良	台端部内折れ。胴・台部見込に砂土塗布。

IV・4区32号住居出土土器観察表

1	土師器	埴	1/3	7.7	—	(5.3)	体径 5.8	細土	明褐灰	7.5YR7/2	良	口縁部小さく波打って外傾する。口唇部細まる。外面縦磨き、内面横撫で。体部扁平、下半横磨き。
2	土師器	埴	1/4	10.5	—	(6.0)	体径 8.0	細土	灰黄褐	10YR4/2	良	口縁部直線的に外傾する。口唇部細まる。外面弱い縦磨き、内面横撫で磨き痕あり。体部扁平、下半横磨き。
3	土師器	高坏	坏部 1/3	16.8	—	(4.3)	—	細土	にぶい黄褐	10YR5/4	良	坏部やや外反して開き、口唇部小さく折れて立つ。内外面縦磨き。
4	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	8.6	5.6	—	細砂混	灰黄褐	10YR6/2	良	台端部内折れ。台部見込に砂土塗布。
5	土師器	S字口縁 台付甕	台部	—	9.3	(5.8)	—	細砂混	黄褐	10YR5/6	良	台端部内折れ。外面上位に磨き。内面横に強い指撫で。
6	土師器	壺	口縁	16.8	—	(4.3)	—	細土	にぶい黄褐	10YR5/4	良	口縁部外反して開く。口唇部小さく折れて立つ。内外面横撫で磨き痕著。

IV・4区35号住居出土土器観察表

1	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/4	16.0	—	(7.0)	胴径 20.0	細砂混	にぶい黄橙	10YR7/3	良	口縁部内外面横撫で。外面肩部右上掻目粗隔、8条単位細目。
---	-----	-------------	-----------	------	---	-------	------------	-----	-------	---------	---	------------------------------

IV・4区36号住居出土土器観察表

1	土師器	S字口縁 台付甕	口縁 1/4	13.6	—	(4.6)	—	細土	灰白	10YR8/2	良	口縁部内外面横撫で。外面肩部右上掻目、8条単位細目。
---	-----	-------------	-----------	------	---	-------	---	----	----	---------	---	----------------------------

第6章 出土遺物

IV・4区43号住居出土土器観察表

番号	種別	器種	残存	口径	底径	器高	体径 胴径	胎土	色調	記号	焼成	成・整形の特徴
1	須恵器	坏	1/4	13.2	(6.0)	3.1	—	細土	明赤褐	5YR6/6	やや軟	体部浅く内湾気味。腰部への差し込み深く、底部凸状に厚い。轆轤調整左回転。
2	須恵器	坏	1/3	13.3	8.0	3.8	—	粗砂混	灰オリーブ	5Y6/2	良	体部外反気味に開く腰部やや丸み。底部回転篋削り。轆轤調整左回転。
3	土師器	坏	略完	13.1	—	3.2	—	細土	橙	5YR6/6	良	体部扁平、口縁部短く直立気味。内面横撫で。外面口縁部横撫で、体部上半指頭痕。下半不定方向、底部一方向篋削り。
4	土師器	坏	1/4	13.6	—	(2.9)	—	細土	橙	5YR6/6	良	体部扁平、口縁部短く直立気味。内面横撫で。外面口縁部横撫で、体部上半指頭痕。下半不定方向篋削り。
5	須恵器	蓋	3/4	18.2	—	3.2	—	粗砂少混	橙	5YR6/8	良	天井部扁平、口唇部直に折れる。鈕状摘みは小径。天井部右回転篋削り。
6	土師器	甗	下半 1/2	—	4.0	10.9	—	細砂混	明褐	7.5YR5/6	良	胴部脹らみ小さく長胴形になろう。外面下方へ縦～斜篋削り。内面弱い横撫で。

IV・4区303号土坑出土土器観察表

1	土師器	S字口縁台付甗	上1/3	11.2	—	(7.5)	胴径 15.0	細砂混	にぶい黄橙	10YR6/4	良	口縁部内外面横撫で。肩部の張り強い。胴部左上、肩部右上搔目後、肩部に横引き搔目。13条単位か。細目。
2	土師器	S字口縁台付甗	1/3台 部欠	12.0	—	(16.1)	胴径 17.5	細土	明褐灰	7.5YR7/2	良	口縁部内外面横撫で。肩部の張り強い。肩部右上、胴部左上搔目、6条単位細目粗隔。
3	土師器	S字口縁台付甗	上位 1/4	14.0	—	(15.7)	胴径 18.6	細砂混	暗褐	7.5YR3/3	良	口縁部内外面横撫で。胴部張り強く球形。外面肩部右上、胴部左上搔目、8条単位細目。下地斜篋削り顕著。

IV・4区344号土坑出土土器観察表

1	土師器	坏	1/2	12.9	—	3.7	—	細土	にぶい橙	7.5YR6/4	良	体部扁平で丸底。口縁部直立気味。内面および口縁外面横撫で。体部外面指頭痕。底部不定方向篋削り。
---	-----	---	-----	------	---	-----	---	----	------	----------	---	---

IV・4区遺構外出土土器観察表

1	土師器	坏	1/2	12.9	—	3.1	—	細土	にぶい赤褐	5YR5/4	良	体部浅く扁平。不定方向篋削り。内面横撫で。口縁部小さく外反し横撫で。
2	須恵器	高盤	1/4	(20.0)	—	(9.1)	—	粗砂多混	黄灰	2.5Y5/1	良	盤は平坦に近く直線的。口唇部角に折れて立つ。脚裾部は大きく開くか。右回転轆轤調整。盤部は回転篋切りか。脚部巻き上げ轆轤右回転成・調整。
3	土師器	高坏	脚部	—	(9.6)	(7.3)	—	細土	灰黄褐	10YR6/2	良	脚柱は太径短脚になろう。外面縦篋削り、内面基・端部は横篋削り。中位は指頭撫で上げ裾部短く直に開く。内外面横撫で。
4	土師器	甗	胴～底部	—	7.6	(11.9)	胴径 19.8	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	良	強く張る球胴。底部凸状で砂底。外面下から上へ斜位篋削り。内面見込菊花状指頭痕。胴部斜位篋撫で。
5	土師器	壺	口縁 1/3	12.4	—	(4.9)	—	極細砂混	浅黄橙	10YR8/4	良	瓦泉形の口頸部になろうか。頸部外反気味に開き段をなす。口縁部S字様に揺れる。口唇部細まって直立。内外面横撫で。
6	土師器	壺	口頸欠 1/2	—	5.5	(13.4)	胴径 15.7	砂多混	にぶい黄橙	10YR7/3	良	胴部球形。平底で小さな凸状砂底。外面胴下位左上、腰部左下篋削り。内面横撫で。
7	陶器	鉢	破片	—	—	9.5	—	粗砂多	にぶい赤褐	2.5YR5/4	良	常滑焼。鉢。体部直線的に外傾する。底部砂底か。内面中位～見込は摩滅顕著。14世紀常滑か。

第2節 出土石器

1 石器の分類基準

剥片石器はその技術形態的特徴にもとづき分類した。石鏃、石錐、楔形石器、打製石斧は形態が多様であるため、さらに細分をおこなった。礫石器は表面の痕跡にもとづき分類した。なお、磨痕、凹痕、敲打痕のうち複数の痕跡が一個体に観察される場合は、複合石器として分類した。

石鏃 両面加工により尖頭部を作出した小型薄手のもの。有茎と無茎が存在し、無茎石鏃はその基部形状により凹基、凸基、平基に細分した。

尖頭器 石鏃同様に両面加工により尖頭部を作出するが、石鏃に比べてより大型厚手であり、加工の粗いもの。石鏃未製品の可能性があるが、本報告では尖頭器として区別した。

石錐 剥片の一端に錐部を作出するもの。錐部の両側縁に二次加工が施されるものと、一側縁に折れ面を残してもう一側縁にのみ二次加工が施されるものがある。後者はこれまで不定形石器に含めて理解されることがあったが、二次加工により作出される錐部形状を重視して石錐に含めた。錐部と基部の形態的特徴から、I類：錐部と基部の境界が明瞭なもの、II類：錐部と基部の境界が不明瞭なもの、III類：錐部と基部に境界のない棒状加工のものに細分した。

楔形石器 剥片の両端に対向する剥離痕を有するもの。これまでに「剪断面」(岡村1983)と報告される特徴的な面や両極剥離痕、両端の潰れが伴う場合が多い。楔形石器は対向する剥離痕の組み合わせにより、I類：上下端から対向する一対の剥離痕があるもの、II類：上下端からの対向する一対の剥離痕とともに一側縁に剥離痕のあるもの、III類：上下端、左右両側縁から対向する二対の剥離痕があるものに細分した。

スクレイパー 剥片の一端に連続する二次加工が施され、安定した角度の刃部が作出されるもの。刃部の角度や二次加工面の侵入度は個体により異なる。刃部の作出方法により、I類：片面加工により作出されるもの、II類：両面加工により作出されるものに細分した。

鋸齒縁石器 剥片の一端に鋸齒状の刃部を作出したものの。

打製石斧 剥片もしくは扁平な礫の二辺に連続的な二次加工を施して斧形に整形されたもの。刃部は二次加工によって作出される場合がほとんどであるが、素材剥片の縁辺を未加工のまま刃部に用いることがある。打製石斧は従来その平面形から短冊形、撥形、分銅形に細分されることが多いが、本遺跡から多数出土した打製石斧の形態差は連続的であり、さらに破損品を多く含むことから短冊形と撥形に細分することは必ずしも容易ではなかった。そのため、本報告ではI類：短冊・撥形とII類：分銅形の二細分にとどめた。部位名称は、器体を長軸方向に三等分して上位より基部・胴部・刃部とした。刃部としてよりふさわしい形状をとどめている、より幅広である、あるいは摩滅や線状痕がより明瞭に観察されるほうの端部を刃部と判断した。

第6章 出土遺物

磨製石斧 剥離や敲打の後、最終的に研磨により斧形に整形されたもの。刃部も両面からの研磨により作出される。

三角錐形石器 剥離によって作出された底面を持ち、基部が断面三角形あるいは台形に整形されたもの。裏面に平坦な自然面を残す場合がある。

不定形石器 上記のいずれの分類にも含まれない、二次加工の施された剥片や礫の総称。二次加工部位や刃部形状に多様なものを含む。連続した二次加工の施されるものでも安定した角度の刃部が作出されない場合は不定形石器とした。従来はスクレイパーや鋸歯縁石器、ノッチを不定形石器に含める傾向が認められたが、本報告では二次加工により作出された刃部形状を重視して、これらの石器を独立した器種として扱う。

微細剥離痕ある剥片・剥片 二次加工の施されない剥片類はその大きさに関わらず一括して剥片とした。このうち、縁辺に連続もしくは不連続な微細な剥離痕のあるものを微細剥離痕ある剥片として区別した。

石核 剥片剥離の痕跡を残し、ネガティブな最終剥離面を有するもの。剥片素材の石核を含む。

原石 剥片剥離に用いられると推定される未加工の礫。

磨石 素材となる礫の表面に磨痕を有するもの。

凹石 素材となる礫の表面に凹痕を有するもの。

敲打石 素材となる礫の表面に敲打痕を有するもの。明瞭な線状痕を伴うものがある。

多孔石 素材となる大型礫の表面に凹痕を複数有するもの。凹痕は規則的に配列されることがある。凹石に残される凹痕に比べてより深く、凹痕内面が平滑なものが目立つ。

石皿 大型の扁平礫の一面に皿状あるいは平坦な磨面を有するもの。石皿のなかには裏面に凹痕が規則的に配列されるものもあり、石皿と多孔石の複合石器として分類した。

台石 大型の扁平礫の一面に一部磨痕や敲打痕を有するもの。

砥石 小型の扁平礫の一面に砥面を有するもの。砥面にはわずかに窪むものと平坦なもの二通りがある。

結晶片岩製石器 出土した結晶片岩礫の多くは扁平棒状を呈しており、その一側縁もしくは両側縁に剥離痕や面的な敲打痕・研磨痕（もしくは摩滅痕）が観察される。結晶片岩礫に特徴的な痕跡であることから、こうした痕跡のあるものを本報告では結晶片岩製石器と仮称する。この石器は「短剣形石器」（松村編1999）・「結晶片岩製扁平棒状石器」（松村2000）と呼称された一群に相当する。これまで打製石斧に分類されること

もあったが、本遺跡から出土した両者を比較すると加工方法や使用痕の程度に明確な相違が認められることから本報告では区別した。

2 側道1・2区出土石器の概要

側道の1・2区から出土した石器は、227点である。そのうち109点を図示した。各器種の利用石材構成は、p.304の側道1・2区器種別石材構成表に示した。以下各器種についての概要を記述する。

石皿（第560図 PL232）

出土した2点を図示した。いずれも破損品で完形品はない。形態は、小破片のため不明である。磨面は良く磨られている。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

石皿・多孔石（第560図 PL232）

出土した1点を図示した。石皿の磨面と円錐状の窪みを併せ持つものである。石皿の形態は有縁である。形状からは、石皿のみのもとの区別は出来ない。凹孔は、裏面と表面の外縁に穿たれる。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

多孔石（第561図 PL232）

出土した4点を図示した。扁平な礫や円礫・角礫の自然石を使用している。窪みは円錐形の傾斜が比較的鋭角である。窪みは表裏に穿たれるが、円礫・角礫では側縁や稜線にも窪みが付けられる。窪みは、単独で複数付けられるものから窪みが重複するように密接に穿たれるものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

凹石・磨石（第561図 PL232）

出土した1点を図示した。窪みは、凹石と同様に径の大きなものである。磨面は、表裏に見られた。大きさや形状も凹石とほぼ同じである。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

磨石（第561図 PL232）

出土した4点を図示した。細長い棒状のものから扁平な円礫、丸味のある礫と、形は多様である。磨面は、円形の礫では、両面の平坦部にあるものが多く、棒状のものでは、側縁にも磨面を持つものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

敲石（第561図 PL232）

出土した1点を図示した。形状は、棒状である。敲打痕は、両方の先端部にある。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

結晶片岩製石器（第561図 PL232）

出土した1点を図示した。黒色片岩の扁平で棒状になるものである。使用面は、主に側面である。側縁に剥離痕があり敲打によるものと推定される。この石器における使用方法を推測させる。

打製石斧（第562・563図 PL232・233）

23点を図示した。一面に自然面を残すものが多い。摩滅や線状痕の観察される石斧も多くあり、特に刃部付近に多く見られる。使用石材は、黒色頁岩、細粒輝石安山岩、変質玄武岩等である。そのうち黒色頁岩の使用点数が多い。

三角錐形石器（第563図 PL233）

出土した1点を図示した。(37)は、底面が欠損している。基部は、正面稜線上からの剥離により、正面形が三角形状に加工される。一面に自然面を残し、細長い礫を直接の素材として加工製作したと考えられる。

第6章 出土遺物

使用石材は、黒色頁岩である。

スクレイパー (第563図 PL232・233)

出土した17点を図示した。図示したスクレイパーの類型別集計は、刃部を片面加工したⅠ類15点、刃部を両面加工したⅡ類2点である。素材の剥片を大きく加工して作り出すことはなく、平面形状も翼状、三角形、方形、台形など様々である。背面に自然面を残す剥片もある。刃部は、側縁部あるいは端部を加工して作り出している。使用石材は、黒色安山岩、黒色頁岩、黒曜石などである。この中では、黒色頁岩の利用が多い。

鋸歯縁石器 (第564図 PL232・233)

出土した2点を図示した。スクレイパーと同じく剥片の素材をそのままに加工する。裏面に自然面を残すものもある。刃部に鋸歯状の加工を行っている。使用石材は、黒色頁岩である。

不定形石器 (第564図 PL232・233)

出土した13点中11点を図示した。使用石材は、黒色頁岩が大部分を占めるがチャート、黒色安山岩、粗粒輝石安山岩なども利用されている。

石錐 (第564・565図 PL233)

出土した14点中13点図示した。類型別内訳は、Ⅰ類2点、Ⅱ類8点、Ⅲ類2点である。錐部の作出には、一側縁に折れ面を残し、片側に二次加工により作り出すものと、両側縁からの二次加工により作り出すものがある。使用石材は黒色頁岩、チャート、黒曜石などである。大型の石錐は、黒色頁岩製のものが多く、黒曜石、チャート製のものは、小型になる傾向がある。

楔形石器 (第565図 PL232・234)

出土した3点を図示した。使用石材は、チャート、黒色安山岩、黒色頁岩である。

石鏃 (第566図 PL232・234)

出土した14点中11点図示した。使用石材は、チャート、黒色安山岩、黒曜石、黒色頁岩である。この中では、チャートと黒色安山岩、黒曜石の比率が高い。黒色頁岩やチャート製の石鏃は、大型で重量のあるものが多い。

尖頭器 (第566図 PL234)

出土した2点を図示した。使用石材は、黒色安山岩である。石鏃より大型で表裏面や側縁を粗い剥離で加工する。

石核 (第567・568図 PL234・235)

出土した9点を図示した。使用石材は黒曜石、黒色頁岩、細粒輝石安山岩等である。石核の法量を比較すると黒色頁岩や細粒輝石安山岩は、重さ100グラム～700グラムに対して、黒曜石では10グラムと小さいものが多い。

県側道1・2区器種別石材構成

器種 \ 石材	チャート	黒色安山岩	黒色頁岩	黒色片岩	黒曜石	細粒輝石安山岩	粗粒輝石安山岩	変質玄武岩	総計
スクレイパー		2	14		1				17
凹石・磨石							1		1
鋸歯縁石器			2						2
原石					1				1
三角錐形石器			1						1
石核			1		7	1			9
石皿							2		2
石皿・多孔石							1		1
石錐	5		7		1				13
石鏃	6	1	3		1				11
尖頭器		2							2
多孔石							4		4
打製石斧			15			7		1	23
不定形石器	2	1	7				1		11
結晶片岩製石器				1					1
磨石							4		4
両極剥離痕ある剥片	2								2
敲石							1		1
楔形石器	1	1	1						3
総計	16	7	51	1	11	8	14	1	109

第2節 出土石器

県側道1・2区出土位置別器種構成

器種 遺構	スクレイパー	凹石・磨石	鋸歯縁石器	原石	三角錐形石器	石核	石皿	石皿・多孔石	石錐	石鏃	尖頭器	多孔石	打製石斧	不定形石器	結晶片岩製石器	磨石	両極剥離痕ある剥片	敲石	楔形石器	総計
1住			1									1	1			3		1		7
2土													1							1
3土								1				1	1							3
4土													1				1			2
6土	2								5			1	1	1					1	11
遺構外	15	1	1	1	1	9	2		8	11	2	1	18	10	1	1	1		2	85
総計	17	1	2	1	1	9	2	1	13	11	2	4	23	11	1	4	2	1	3	109

県側道1区出土石器一覧表

打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	表採	不明	細粒輝石安山岩	(4.8)	5.5	1.4	46.0
スクレイパー							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
2	包含層	I	黒色頁岩	6.7	5.5	2.6	95.0
3	包含層	I	黒色頁岩	5.8	5.5	1.7	66.0
4	表採	I	黒色頁岩	5.1	7.2	1.9	72.0
5	表採	I	黒色安山岩	3.7	6.8	1.3	28.0
鋸歯縁石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
6	包含層		黒色頁岩	5.9	5.0	1.7	58.0
不定形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
7	縄文谷		粗粒輝石安山岩	10.2	7.8	2.5	257.0
8	表採		黒色頁岩	9.4	6.5	4.0	249.0
9	表採		黒色頁岩	10.0	4.5	1.6	48.0
10	表採		黒色頁岩	5.1	4.7	1.5	32.0
11	表採		チャート	5.1	2.9	1.3	26.0
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
12	000-045	有基	黒色頁岩	(2.5)	1.1	0.4	0.8

県側道2区出土石器一覧表

石皿							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	945-995		粗粒輝石安山岩	8.3	6.9	7.9	511.0
2	945-995		粗粒輝石安山岩	11.6	9.9	11.7	1835.0
石皿・多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
3	3土		粗粒輝石安山岩	(17.4)	(16.4)	7.4	2774.0
多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
4	1住		粗粒輝石安山岩	(18.4)	12.3	6.2	1835.0
5	3土		粗粒輝石安山岩	(26.0)	16.5	14.4	9469.0
6	6土		粗粒輝石安山岩	(18.4)	19.2	14.5	4757.0
7	980-975		粗粒輝石安山岩	11.8	10.7	8.1	706.0
凹石・磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
8	980-?		粗粒輝石安山岩	9.0	7.2	4.0	405.0
磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
9	1住		粗粒輝石安山岩	(7.9)	(10.7)	(4.0)	399.0
10	1住		粗粒輝石安山岩	(6.2)	7.3	4.0	237.0
11	1住		粗粒輝石安山岩	8.2	4.7	3.9	228.0
12	980-?		粗粒輝石安山岩	7.4	7.9	3.2	210.0
敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
13	1住		粗粒輝石安山岩	8.2	3.1	2.7	102.0
結晶片岩製石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
14	980-980		黒色片岩	(6.9)	3.3	1.3	37.0
打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
15	1住	I	黒色頁岩	(5.8)	4.0	2.0	54.0
16	2土	I	細粒輝石安山岩	(8.2)	5.2	2.0	80.0
17	3土	I	黒色頁岩	3.9	3.6	1.8	28.0
18	4土	I	細粒輝石安山岩	(6.5)	4.0	1.6	47.0

第6章 出土遺物

19	6土	I	黒色頁岩	(8.5)	5.5	1.0	59.0
20	970-970	I	黒色頁岩	(5.7)	3.8	1.9	53.0
21	970-970	I	黒色頁岩	(5.4)	3.8	1.7	40.0
22	970-970	I	黒色頁岩	(3.2)	4.9	1.1	20.0
23	975-980	I	細粒輝石安山岩	(5.9)	5.5	2.5	98.0
24	975-985	I	黒色頁岩	(4.9)	(3.9)	1.1	23.0
25	975-985	I	細粒輝石安山岩	(6.3)	4.7	2.0	63.0
26	975-990	I	黒色頁岩	10.7	4.8	2.4	123.0
27	980-000	I	黒色頁岩	(5.0)	(5.0)	(0.9)	25.0
28	980-010	I	黒色頁岩	(5.8)	4.5	2.2	55.0
29	980-010	I	黒色頁岩	9.3	5.3	1.4	76.0
30	980-975	I	黒色頁岩	10.2	3.7	2.3	2.3
31	980-975	I	細粒輝石安山岩	(6.2)	4.2	1.3	41.0
32	980-980	I	変質玄武岩	(6.2)	4.9	1.7	52.0
33	980-985	I	細粒輝石安山岩	(11.9)	5.5	2.4	197.0
34	980-990	I	黒色頁岩	8.3	4.3	1.9	61.0
35	980-995	I	黒色頁岩	(2.3)	(3.5)	0.7	6.0
36	985-000	I	黒色頁岩	12.0	5.3	2.7	167.0
三角錐形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
37	985-005		黒色頁岩	4.8	2.9	2.8	33.0
スクレイパー							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
38	6土	I	黒色頁岩	5.3	2.9	1.7	20.0
39	970-970	I	黒色頁岩	6.5	5.3	1.8	64.0
40	975-000	I	黒色安山岩	5.2	6.2	1.3	52.0
41	980-005	I	黒色頁岩	5.5	3.8	1.7	32.0
42	980-005	I	黒色頁岩	5.8	3.6	1.3	31.0
43	980-015	I	黒色頁岩	5.5	3.5	1.2	28.0
44	980-985	I	黒色頁岩	4.6	6.9	1.7	45.0
45	980-995	I	黒色頁岩	4.1	4.6	0.7	12.0
46	985-000	I	黒色頁岩	5.9	4.7	1.6	29.0
47	985-005	I	黒色頁岩	4.9	4.4	1.3	29.0
48	985-005	I	黒曜石	1.8	1.0	0.5	0.8
49	6土	II	黒色頁岩	4.2	3.0	1.2	17.0
50	980-005	II	黒色頁岩	3.5	4.0	0.6	10.0
鋸歯縁石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
51	1住		黒色頁岩	6.5	7.1	1.2	58.0
不定形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
52	6土		黒色頁岩	5.0	5.7	1.5	48.0
53	970-970		黒色頁岩	5.2	2.5	1.5	22.0
54	970-970		黒色安山岩	2.9	2.0	1.3	8.0
55	980-010		黒色頁岩	4.7	3.3	1.3	14.0
56	980-975		チャート	4.0	2.7	1.5	13.0
57	985-005		黒色頁岩	2.3	1.1	0.5	1.4
石錐							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
58	975-970	I	チャート	4.2	2.4	0.9	10.7
59	975-985	I	チャート	5.0	3.6	1.2	20.3
60	6土	II	チャート	3.0	2.2	0.8	4.5
61	6土	II	黒色頁岩	2.8	1.2	0.5	1.5
62	6土	II	黒色頁岩	1.9	1.4	0.5	1.0
63	975-970	II	黒曜石	2.1	1.6	0.6	1.1
64	980-000	II	黒色頁岩	4.8	1.6	0.6	5.2
65	980-010	II	チャート	1.6	1.0	0.5	0.6

66	980-990	II	黒色頁岩	2.5	1.6	0.5	1.5
67	985-000	II	黒色頁岩	2.3	1.2	0.4	1.1
68	6土	III	黒色頁岩	4.1	1.3	7.3	2.9
69	6土	III	黒色頁岩	3.4	1.0	0.5	2.0
70	985-000	—	チャート	(1.7)	(1.0)	0.5	0.8
楔形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
71	6土	I	黒色安山岩	2.5	2.0	0.5	2.9
72	980-015	II	黒色頁岩	2.9	2.7	0.6	6.1
73	985-990	III	チャート	3.0	4.5	1.0	6.5
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
74	965-970	凹基	黒色安山岩	2.2	(1.6)	0.3	0.8
75	965-970	凹基	チャート	1.8	(1.4)	0.5	0.9
76	975-990	凹基	チャート	2.0	1.4	0.4	0.8
77	980-005	凹基	チャート	(1.9)	1.5	0.5	1.1
78	980-020	凹基	黒色頁岩	(2.8)	(1.8)	0.7	2.3
79	985-000	凹基	チャート	2.7	1.9	0.4	1.4
80	985-005	凹基	黒曜石	(2.8)	(2.0)	0.6	2.2
81	965-965	平基	黒色頁岩	2.7	(1.9)	0.7	2.8
82	965-970	平基	チャート	2.1	2.3	0.7	2.8
83	985-010	平基	チャート	1.9	(1.7)	0.5	1.3
尖頭器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
84	970-970		黒色安山岩	4.0	2.9	0.9	9.8
85	975-990		黒色安山岩	4.8	3.1	1.2	15.0
石核							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
86	965-970		黒曜石	2.3	2.9	1.3	8.0
87	970-970		黒色頁岩	5.1	8.7	3.1	154.0
88	970-970		黒曜石	1.7	2.3	1.4	5.0
89	975-000		黒曜石	1.8	2.0	1.3	5.1
90	975-000		黒曜石	1.6	1.7	1.0	1.9
91	975-980		黒曜石	2.8	2.9	2.0	10.0
92	980-005		細粒輝石安山岩	8.8	13.7	4.8	698.0
93	980-995		黒曜石	2.5	1.6	1.0	3.0
94	985-005		黒曜石	1.1	2.3	1.2	3.0
原石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
95	965-970		黒曜石	1.7	2.2	1.4	4.0
両極剥離痕ある剥片							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
96	4土		チャート	3.1	1.8	0.6	3.2
97	980-990		チャート	3.7	1.7	0.6	3.4

3 本線Ⅲ区出土石器の概要

出土石器は、4192点である。そのうち1136点を図示した。各器種の利用石材構成は、p.309の器種別石材構成表に示した。以下各器種についての概要を記述する。

台石 (第569・570図 PL236)

出土した20点のうち8点を図示した。平坦面に敲打痕のあるもの、平坦面の一部に摩滅の観察されるものがある。(4、6、8)は、磨面がある台石である。(2、3、7)は、敲打痕の窪みを持つ。これらは、住居や土坑から出土している。石材は、粗粒輝石安山岩、閃緑岩、溶結凝灰岩である。

石皿 (第570・571図 PL237)

出土した20点のうち6点を図示した。いずれも破損品で完形品はない。形態は、有縁のものが多い。住居跡や土坑から出土している。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

石皿・多孔石 (第571～575図 PL237～240)

出土した47点中14点を図示した。石皿の磨面と円錐状の窪みを併せ持つものである。石皿の形態は有縁のものと無縁(18、23)がある。形状からは、石皿のみのものと区別は出来ない。凹孔が穿たれるのは、主として裏面であるが、表面に凹孔が穿たれる(17、19、21)。これらの場合、磨面の外側稜線に穿たれるものと、磨面の中に穿たれるものがある。磨面に穿たれる石皿は、破損した後の転用とも考えられる。住居跡や土坑の覆土中からの出土が多い。いずれも破損品であった。使用石材は、粗粒輝石安山岩が多く、砂岩、緑色片岩もある。

多孔石 (第575～581図 PL240～243)

出土した73点のうち23点を図示した。扁平な礫や円礫・角礫の自然石を使用している。窪みは円錐形の傾斜が比較的鋭角である。扁平な礫では、窪みは表裏に穿たれるが、円礫・角礫では側縁や稜線にも窪みが付けられる。窪みは、単独で複数付けられるものから窪みが重複するように密接に穿たれるものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

凹石 (第582図 PL244)

出土した32点中11点を図示した。円礫に円錐形の窪みを持つ。大きさは、多孔石より小さく手に持って作業できる大きさである。窪みは、多孔石に穿たれていた窪みよりも大きく傾斜が緩やかなものを数个連結したものが多い。使用石材は粗粒輝石安山岩、緑色片岩である。

凹石・磨石 (第583図 PL244)

出土した15点中6点を図示した。窪みは、凹石と同様に径の大きなものである。磨面は、表裏に見られた。窪みの後に磨面を持つものと磨面の後に窪みを持つものがある。大きさや形状も凹石とほぼ同じで、住居・土坑や包含層出土のものが多い。使用石材は粗粒輝石安山岩である。

磨石 (第583～585図 PL244・245)

出土した112点中27点を図示した。細長い棒状のものから扁平な円礫、丸味のある礫と、形は多様で凹石と比較して形状は一定しない。磨面は、円形の礫では、両面の平坦部にあるものが多く、棒状のものでは、側縁にも磨面を持つものがある(78、90)。使用石材は、粗粒輝石安山岩が多く、黒色頁岩、砂岩、石英閃緑岩もある。

磨石・敲石 (第586～589図 PL245)

出土した112点中26点を図示した。形状は、棒状、円形、楕円形、方形等があり、面取りして形を整えているもの(120、121)もある。磨面は、表裏の平坦面に多いが、棒状のもの(100、106、116)では、側縁にもある。

第6章 出土遺物

敲打痕は、表裏面や側面につけられる。棒状、縦長のものでは、敲打痕が先端に偏って付けられるもの(113、116)があり、使用実態を示す。敲打痕は、磨面より先に付けられるものと磨面の後に敲打痕が付けられるものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩が大部分で、石英閃緑岩、ホルンフェルスも利用されている。

敲石 (第589・590図 PL245・246)

出土した60点のうち18点を図示した。形状は、円形(132)、長楕円形(124)、大型の棒状(131、139)、小型の棒状(130、133~137)等がある。円形、楕円形の場合は、凹石と同様に敲打痕が表裏面や側面に付けられる。大型の棒状のものは、側縁に敲打痕を持ち、小型の棒状のものは、先端部に敲打痕を持つ傾向にある。このことから、形状により使用方法に違いがあると思われる。使用石材は、粗粒輝石安山岩、細粒輝石安山岩、変質玄武岩、砂岩、黒色頁岩、珪質頁岩、ホルンフェルス、ひん岩などがある。

凹石・敲石 (第591図 PL246)

出土した12点中4点を図示した。形状は、円形に近いもの(142)や長楕円形(141、142)がある。窪みは、表裏面にあり、敲打痕は、側縁に付くものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

凹石・磨石・敲石 (第591・592図 PL246)

出土した21点中9点を図示した。形状は、円形に近いもの(151)や長楕円形(150、152)、長方形(146、147、149)等がある。円錐形の窪み面を表裏に持ち、表裏・側縁に敲打痕を持つのを特徴としている。使用石材は、すべて粗粒輝石安山岩であった。

砥石 (第592図 PL246)

縄文時代の砥石である。出土した7点を図示した。比較的扁平で、砥面が僅かに窪む。側縁は、丸味をもっている。(157)は、側面に筋状の抉りを持つ。使用石材は、牛伏砂岩、砂岩を使用している。

結晶片岩製石器 (第593図 PL246)

出土した66点中12点を図示した。雲母石英片岩・黒色片岩の扁平で棒状になるものである。使用面は、主に側面である。側縁に剝離痕を残しているものは、側面を敲打によるものと推定され、この石器における使用方法を推測させる。

打製石斧 (第594~617図 PL247~253)

破損品を含め851点出土し、333点を図示した。図示した打製石斧の類型別点数は、短冊・撥形289点、分銅形44点であった。一面に自然面を残すものが多く、打製石斧の主要な石材である細粒輝石安山岩や黒色頁岩の石核は極少数しか出土しないことから、これらの打製石斧は、扁平な礫を直接素材として打製石斧を製作した可能性が考えられる。摩滅や線状痕の観察される石斧も多くあり、特に刃部付近に多く見られる。分銅形では、抉り部に摩滅痕が見られ柄部との接合を示すものと思われる。使用石材は、ホルンフェルス、珪質頁岩、黒色安山岩、黒色頁岩、砂岩、細粒輝石安山岩、蛇紋岩、粗粒輝石安山岩、変質玄武岩等である。そのうち短冊・撥形とも黒色頁岩の使用点数が多く、次いで細粒輝石安山岩である。類型による石材の差はない。

三角錐形石器 (第618・619図 PL253・254)

出土した20点中16点を図示した。底面は、粗い複数回の剝離により平面形が台形状に作出される。基部は、正面稜線上からの剝離により、正面形が三角形状に加工される。(506、520)は、下半部・底面を欠損している。一面に自然面を残すものが多く、細長い礫を直接の素材として加工製作したと考えられる。使用石材は、黒色頁岩である。

磨製石斧 (第620図 PL254)

出土した21点中10点を図示した。器面全体に成形のための研磨が残る。(523、528)は、側面や先端面に敲

打痕が残ることから、先端の刃部を欠損した後に敲石として転用されたと思われる。刃部や基部からの折れを持つものが多く、石斧使用時の欠損と思われる。使用石材は、黒色頁岩、蛇紋岩、粗粒輝石安山岩、変玄武岩、変質蛇紋岩などヴァリエティに富んでおり、打製石斧とは使用石材が異なる傾向にある。

スクレイパー（第620～629図 PL254～256）

出土した526点中131点を図示した。図示したスクレイパーの類型別集計は、刃部を片面加工したI類72点、刃部を両面加工したII類59点である。素材の剥片を大きく加工して作り出すことはなく、平面形状も翼状、三角、方形、台形など様々である。背面に自然面を残す剥片もある。刃部は、側縁部あるいは端部に加工して作り出している。使用石材はチャート、珪質頁岩、黒色安山岩、黒色頁岩、黒曜石、細粒輝石安山岩などである。この中では、黒色頁岩の利用が多い。

鋸歯縁石器（第629・630図 PL256）

出土した36点中10点を図示した。スクレイパーと同じく剥片の素材をそのままに加工する。裏面に自然面を残すものもある。刃部に鋸歯状の加工を行っている。使用石材は、チャート、黒色頁岩である。

ノッチ（第630図 PL256）

出土した3点を図示した。小型剥片の縁辺に2次加工により抉りを作り出している。図示したものは、一

本線III区器種別石材構成

器種 \ 石材	黒色頁岩	粗粒輝石安山岩	チャート	黒曜石	細粒輝石安山岩	黒色安山岩	ホルンフェルス	珪質頁岩	砂岩	変玄武岩	黒色片岩	雲母石英片岩	変質玄武岩	緑色片岩	牛伏砂岩	軽石	石英閃緑岩	蛇紋岩	ひん岩	珪質粘板岩	石英	閃緑岩	変質蛇紋岩	溶結凝灰岩	総計
台石		6																				1	1		8
石皿		6																							6
石皿・多孔石		12							1					1											14
多孔石		23																							23
凹石		10												1											11
凹石・磨石		6																							6
磨石	1	24							1								1								27
磨石・敲石		22					1										3								26
敲石	4	4			1		2	2	2				1						2						18
凹石・敲石		4																							4
凹石・磨石・敲石		9																							9
砥石									3						4										7
結晶片岩製石器												7	5												12
打製石斧	193	1			84	2	29	11	8				4						1						333
三角錐形石器	16																								16
磨製石斧	1	1								6									1				1		10
スクレイパー	106		8	3	1	11		2																	131
鋸歯縁石器	9		1																						10
ノッチ	1		1		1																				3
不定形石器	100		10	4	2	7	1	2		3			1												130
石錐	34		20	13		5																			72
楔形石器	9		6	2		3																			20
石鏃	20		65	46		40		3																	174
尖頭器	1		2	1		1																			5
石核	10		9	20		1															1				41
石棒		1													3										4
石匙	2			1																					3
石錘	1																								1
異形石器		1	1	2																					4
石製円板												1													1
垂飾品																2				1					3
装飾品																1									1
乳鉢状石製品															1										1
研磨痕ある礫	1				1																				2
総計	509	130	123	92	90	70	33	20	15	9	7	6	6	5	4	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1136

第6章 出土遺物

面からの剝離によって抉りが作られている。石材は、黒色頁岩、チャート、細粒輝石安山岩である。

不定形石器 (第630～637図 PL256～258)

出土した436点中130点を図示した。使用石材は、黒色頁岩、黒曜石が大部分を占めるがチャート、ホルンフェルス、珪質頁岩、黒色安山岩、細粒輝石安山岩、変玄武岩、変質玄武岩なども利用されている。

石錐 (第638～643図 PL258～260)

出土した316点中72点図示した。類型別内訳は、I類26点、II類39点、III類7点である。錐部の作出には、一側縁に折れ面を残し、片側に二次加工により作り出すものと、両側縁からの二次加工により作り出すものがある。使用石材は黒色頁岩、チャート、黒色安山岩、黒曜石などである。I類では、黒曜石と黒色頁岩、チャートともほぼ同じ比率であるが、II類では黒色頁岩が多い。大型の石錐についても黒色頁岩製のものが多く、黒曜石、チャート製のものは、小型になる傾向がある。

楔形石器 (第643～645図 PL260)

出土した85点中20点を図示した。I類11点、II類7点、III類2点である。使用石材は、チャート、黒色安

本線III区住居別器種構成

遺構番号	器種	台石	石皿	石皿・多孔石	多孔石	凹石	凹石・磨石	磨石	磨石・敲石	敲石	凹石・敲石	凹石・磨石・敲石	砥石	結晶片岩製石器	打製石斧	三角錐形石器	磨製石斧	スクレイパー	鋸歯縁石器	ノッチ	不定形石器	石錐	楔形石器	石鏃	尖頭器	石核	石棒	異形石器	垂飾品	総計		
10住				1	1			2	2					1	3			3			9	4	1	6	2				35			
11住		1			1	2		2	1						2	2		4			8	5		8	1	2				39		
14住										1					1			2												4		
16住			1		1																									2		
18住						1	1								2						1		1							6		
20住						1									4			1			2	1	1	2	1					13		
36住								1	1			1			2			2			1	3		2	1					14		
40住		1									1				1			2			1					1				6		
53住						1		3							1		1	1			1			1	1					10		
54住								1			1				3		1	2			2	2		1	1				1	15		
55住			1					1	1						2			1			1	1		3	1					12		
56住										1					1			1				1		1						5		
74住															1			1			2									4		
93住					1	1						1		1	2			1		1			1	2	1	1	1	1		13		
114住										1				1	2			2			2	3		2	1		1	1		15		
120住		2				1									2			2						1						8		
123住				1	1	1								1	2			1			3					2				12		
133住			1	1	2					2		1			5			4	1		5	5	1	6	1	1				35		
139住				1											1	1		1			2	4		1	1					12		
147住		2			1			1				2	1		1						1	2		3					1	15		
153住						1		2	1			1			3			1	1		1	1								12		
155住																					1										1	
157住								1	1						6	1		1			1		1	1	1	1					14	
158住															1						2		1			1					5	
161住										1					1						1			1							4	
162住								1							1			1	1					1							5	
178住					1													1													2	
180住				1								1			3			2		1	2	1	1	1						13		
181住				1						1								1	1				2	1		1					8	
188住					1													1													2	
191住					2		1											1			1			1							6	
200住																		1									1				1	
216住			1			1												1			1										4	
228住															1							1		1							3	
263住																								1								1
総計		6	4	6	13	9	2	11	10	8	1	6	3	4	54	4	2	41	4	2	51	36	11	44	2	17	1	2	2	356		

山岩、黒曜石、黒色頁岩である。

石鏃 (第646～654図 PL260～263)

出土した369点中174点図示した。凹基149点、凸基5点、平基16点、有茎基2点、不明2点である。使用石材は、チャート、珪質頁岩、黒色安山岩、黒曜石、黒色頁岩である。この中では、チャートと黒色安山岩、黒曜石の比率が高い。黒色頁岩やチャート製の石鏃は、大型で重量のあるものが多い。

尖頭器 (第654図 PL263)

出土した5点を図示した。使用石材は、チャート、黒色安山岩、黒色頁岩、黒曜石である。側縁を粗い剝離で加工する。

石核 (第655～660図 PL263～268)

出土した211点中41点を図示した。使用石材はチャート、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩、石英等である。石核の法量を比較すると黒色頁岩や黒色安山岩等は5cm～10cm、重さも100グラム～600グラムを超えるのに対して、黒曜石では1cm～3cm、重さも5グラム～10グラムと小さいものが多い。これらのことから各石材によって作り出される器種が異なると推測される。

石棒 (第661図 PL269)

出土した4点を図示した。(1117)は、無頭で下部が欠損している。(1118～1120)は、有頭である。住居や土坑の覆土中から出土している。使用石材は、緑色片岩、粗粒輝石安山岩である。

石錘 (第662図 PL269)

出土した1点を図示した。(1124)は、両端から剝離による窪みを持つ。使用石材は、黒色頁岩である。

石匙 (第661・662図 PL269)

出土した3点を図示した。(1121、1123)は、縦型の石匙である。(1121)は、側縁の片側に一面の二次加工が施される。(1123)は、両側縁に両面からの二次加工による刃部を持つ。(1122)は横型のもので、下側に刃部を持つが欠損している。使用石材は、黒色頁岩と黒曜石である。

その他の石器 (第662・663図 PL269)

(1125～1128)は、異形石器(三脚石器)。表裏からの剝離による成形で脚の一部が欠損している。使用石材は、黒曜石、チャート、粗粒輝石安山岩である。(1129)は、円板状に周辺を両面から剝離成形している。裏面に自然面を残す。(1130、1132)は、片側に円孔を持つ垂飾。(1135、1136)は、表裏面・側面に研磨痕を持つ礫。

第6章 出土遺物

本線Ⅲ区出土石器一覽表

台石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	J-11		閃緑岩	14.9	13.2	10.0	2943.0
2	J-28		粗粒輝石安山岩	27.5	18.5	9.0	5481.0
3	J-40		粗粒輝石安山岩	17.4	14.3	4.0	1356.0
4	J-120		粗粒輝石安山岩	20.3	22.0	12.8	5833.0
5	J-120		溶結凝灰岩	41.4	39.3	8.8	15550.0
6	J-147		粗粒輝石安山岩	17.4	16.0	8.7	2855.0
7	J-147		粗粒輝石安山岩	19.1	16.5	9.7	3444.0
8	J-170		粗粒輝石安山岩	24.0	18.7	7.9	5053.0
石皿							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
9	J-16		粗粒輝石安山岩	26.5	19.0	8.4	3864.0
10	J-55		粗粒輝石安山岩	17.6	12.5	5.6	991.0
11	J-133		粗粒輝石安山岩	11.9	11.0	4.9	595.0
12	J-174		粗粒輝石安山岩	28.8	27.8	8.9	10260.0
13	J-216		粗粒輝石安山岩	12.2	7.9	4.9	585.0
14	925-940		粗粒輝石安山岩	16.0	10.8	6.8	1433.0
石皿・多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
15	J-10		粗粒輝石安山岩	(23.7)	22.0	9.0	4331.0
16	J-75		粗粒輝石安山岩	(21.6)	24.9	9.5	4023.0
17	J-123		粗粒輝石安山岩	36.2	33.8	10.3	12850.0
18	J-133		粗粒輝石安山岩	21.4	18.9	5.4	2856.0
19	J-139		砂岩	20.8	19.8	8.7	3135.0
20	J-152		粗粒輝石安山岩	14.8	18.0	8.9	1853.0
21	J-174		綠色片岩	(27.7)	16.3	4.9	2284.0
22	J-180		粗粒輝石安山岩	24.3	19.7	6.1	3587.0
23	J-181		粗粒輝石安山岩	(30.4)	(18.5)	(8.2)	3953.0
24	J-255		粗粒輝石安山岩	18.3	9.8	3.8	647.0
25	930-950		粗粒輝石安山岩	(16.1)	15.2	5.4	1090.0
26	940-915		粗粒輝石安山岩	(12.1)	15.5	6.5	1733.0
27	955-950		粗粒輝石安山岩	(7.2)	10.9	5.1	347.0
28	表採		粗粒輝石安山岩	26.9	25.8	15.7	10200.0
多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
29	J-10		粗粒輝石安山岩	21.3	16.4	7.4	3035.0
30	J-11		粗粒輝石安山岩	27.0	18.0	12.7	8280.0
31	J-16		粗粒輝石安山岩	24.3	19.3	16.0	7750.0
32	J-30		粗粒輝石安山岩	52.4	25.6	23.6	40700.0
33	J-93		粗粒輝石安山岩	27.5	23.6	16.5	12700.0
34	J-120		粗粒輝石安山岩	17.4	14.1	9.9	2706.0
35	J-123		粗粒輝石安山岩	15.6	10.5	8.1	1527.0
36	J-128		粗粒輝石安山岩	16.2	11.3	10.1	2394.0
37	J-133		粗粒輝石安山岩	28.9	23.7	9.8	7730.0
38	J-133		粗粒輝石安山岩	16.1	10.5	7.7	1611.0
39	J-147		粗粒輝石安山岩	14.7	10.1	8.9	1386.0
40	J-178		粗粒輝石安山岩	31.2	33.2	15.7	14200.0
41	J-188		粗粒輝石安山岩	29.0	21.1	14.7	12000.0
42	J-191		粗粒輝石安山岩	26.6	21.7	11.9	8456.0
43	J-191		粗粒輝石安山岩	39.0	21.6	21.3	22700.0
44	905-950		粗粒輝石安山岩	16.3	12.3	9.8	2962.0
45	920-965		粗粒輝石安山岩	17.2	10.7	9.3	2061.0
46	935-895		粗粒輝石安山岩	18.3	14.2	13.1	2926.0
47	935-895		粗粒輝石安山岩	22.2	18.2	12.0	5529.0
48	13住		粗粒輝石安山岩	13.8	15.2	9.8	2880.0
49	表採		粗粒輝石安山岩	12.7	13.1	8.3	1665.0
50	表採		粗粒輝石安山岩	25.3	14.2	11.1	4257.0
51	表採		粗粒輝石安山岩	17.8	16.3	9.7	3045.0

凹石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
52	J-11		粗粒輝石安山岩	11.4	7.8	5.8	660.0
53	J-11		粗粒輝石安山岩	11.5	6.9	4.1	405.0
54	J-18		粗粒輝石安山岩	11.2	7.2	6.9	740.0
55	J-20		粗粒輝石安山岩	9.2	7.1	5.4	476.0
56	J-53		綠色片岩	18.3	5.8	3.1	623.0
57	J-93		粗粒輝石安山岩	9.9	8.1	4.5	400.0
58	J-123		粗粒輝石安山岩	8.0	7.7	4.4	284.0
59	J-153		粗粒輝石安山岩	11.1	8.4	4.1	372.0
60	J-173		粗粒輝石安山岩	9.1	7.4	4.5	396.0
61	J-216		粗粒輝石安山岩	10.2	9.0	4.5	491.0
62	920-955		粗粒輝石安山岩	13.8	10.0	4.0	725.0
凹石・磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
63	J-18		粗粒輝石安山岩	9.7	7.6	4.7	435.0
64	J-191		粗粒輝石安山岩	8.9	8.2	4.4	467.0
65	915-935		粗粒輝石安山岩	10.2	8.6	4.9	532.0
66	930-930		粗粒輝石安山岩	9.7	7.7	4.7	411.0
67	表採		粗粒輝石安山岩	9.7	6.0	4.6	285.0
68	12住		粗粒輝石安山岩	11.1	8.9	3.7	371.0
磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
69	J-10		粗粒輝石安山岩	5.8	4.8	3.3	166.0
70	J-10		粗粒輝石安山岩	9.5	8.3	5.6	588.0
71	J-11		粗粒輝石安山岩	11.0	9.7	5.8	926.0
72	J-11		粗粒輝石安山岩	10.1	6.2	4.0	371.0
73	J-36		粗粒輝石安山岩	8.7	7.5	4.2	423.0
74	J-53		黑色頁岩	9.1	5.1	1.2	94.0
75	J-53		粗粒輝石安山岩	12.3	7.8	5.7	801.0
76	J-53		粗粒輝石安山岩	10.8	8.7	4.2	590.0
77	J-94		粗粒輝石安山岩	9.2	6.3	3.6	328.0
78	J-147		粗粒輝石安山岩	12.1	5.4	2.8	273.0
79	J-153		粗粒輝石安山岩	9.1	6.6	5.1	484.0
80	J-153		粗粒輝石安山岩	10.1	8.3	6.0	731.0
81	895-895		粗粒輝石安山岩	5.4	4.3	3.1	101.0
82	925-910		砂岩	7.9	3.3	2.2	75.0
83	920-965		粗粒輝石安山岩	5.2	4.2	3.0	92.0
84	925-940		粗粒輝石安山岩	8.8	7.3	4.2	376.0
85	935-955		粗粒輝石安山岩	4.5	3.7	2.9	52.0
86	935-900		粗粒輝石安山岩	6.4	4.3	2.9	102.0
87	935-955		粗粒輝石安山岩	16.2	10.4	5.7	1146.0
88	950-950		粗粒輝石安山岩	8.8	4.3	3.4	160.0
89	950-930		粗粒輝石安山岩	13.0	5.8	5.4	544.0
90	955-940		石英閃緑岩	16.8	6.7	6.5	1088.0
91	表採		粗粒輝石安山岩	5.8	4.7	3.3	119.0
92	表採		粗粒輝石安山岩	8.4	5.7	3.6	244.0
93	表採		粗粒輝石安山岩	13.1	9.8	3.4	695.0
94	表採		粗粒輝石安山岩	9.3	8.7	7.1	829.0
95	表採		粗粒輝石安山岩	7.6	6.0	2.2	165.0
磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
96	J-10		粗粒輝石安山岩	9.6	7.5	4.7	471.0
97	J-10		粗粒輝石安山岩	12.8	8.9	5.8	1025.0
98	J-11		粗粒輝石安山岩	12.4	7.7	4.2	522.0
99	J-14		粗粒輝石安山岩	12.2	9.6	5.7	924.0
100	J-36		粗粒輝石安山岩	15.8	7.0	3.9	652.0
101	J-54		粗粒輝石安山岩	11.0	8.8	4.9	704.0
102	J-55		粗粒輝石安山岩	10.3	9.0	4.9	684.0

第2節 出土石器

103	J-85		粗粒輝石安山岩	12.3	7.7	4.6	740.0
104	J-94		粗粒輝石安山岩	15.2	8.4	4.9	865.0
105	J-96		石英閃緑岩	15.3	7.8	4.3	819.0
106	J-111		粗粒輝石安山岩	12.3	5.8	4.6	524.0
107	J-153		粗粒輝石安山岩	11.3	8.7	5.4	577.0
108	J-157		石英閃緑岩	10.9	7.0	4.5	510.0
109	J-162		粗粒輝石安山岩	10.9	7.2	3.9	409.0
110	J-186		石英閃緑岩	9.1	7.3	6.2	584.0
111	J-189		粗粒輝石安山岩	13.0	8.3	4.8	772.0
112	895-900		粗粒輝石安山岩	11.7	8.0	3.9	497.0
113	915-940		粗粒輝石安山岩	11.1	3.6	3.3	160.0
114	940-925		粗粒輝石安山岩	11.0	7.6	3.8	471.0
115	945-945		粗粒輝石安山岩	12.8	6.7	4.4	591.0
116	950-955		粗粒輝石安山岩	17.9	8.6	5.4	1424.0
117	表採		ホルンフェルス	13.4	9.9	2.7	614.0
118	表採		粗粒輝石安山岩	17.3	8.8	3.2	789.0
119	表採		粗粒輝石安山岩	9.9	6.8	3.4	364.0
120	表採		粗粒輝石安山岩	10.7	7.1	5.1	466.0
121	表採		粗粒輝石安山岩	16.1	9.2	4.7	1061.0
敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
122	J-55		ホルンフェルス	11.2	4.5	2.5	218.0
123	J-56		黒色頁岩	10.4	5.3	3.2	245.0
124	J-66		粗粒輝石安山岩	10.3	7.2	5.7	636.0
125	J-114		粗粒輝石安山岩	6.6	2.8	2.4	64.0
126	J-133		黒色頁岩	8.8	3.3	3.0	126.0
127	J-133		黒色頁岩	8.9	3.3	2.2	93.0
128	J-157		珪質頁岩	11.2	3.3	2.3	84.0
129	J-161		黒色頁岩	6.7	3.1	1.9	47.0
130	J-181		ホルンフェルス	13.4	5.0	3.3	254.0
131	915-935		粗粒輝石安山岩	4.9	1.8	1.9	26.3
132	920-950		粗粒輝石安山岩	7.1	6.3	5.0	242.0
133	925-925		砂岩	6.6	2.0	1.3	25.0
134	940-930		ひん岩	7.0	3.5	2.5	89.0
135	表採		変質玄武岩	5.9	2.4	1.7	39.0
136	表採		珪質頁岩	6.7	2.3	1.5	38.0
137	表採		細粒輝石安山岩	7.6	1.6	1.4	45.0
138	表採		ひん岩	10.0	4.9	3.1	229.0
139	13住		砂岩	12.4	6.1	2.9	321.0
凹石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
140	J-40		粗粒輝石安山岩	11.1	8.3	7.0	735.0
141	J-193		粗粒輝石安山岩	11.4	7.1	4.1	351.0
142	935-925		粗粒輝石安山岩	8.0	7.3	4.3	308.0
143	表採		粗粒輝石安山岩	9.3	7.1	3.9	182.0
凹石・磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
144	J-36		粗粒輝石安山岩	12.2	8.0	4.8	649.0
145	J-54		粗粒輝石安山岩	11.7	7.7	4.7	638.0
146	J-93		粗粒輝石安山岩	13.1	7.2	4.3	653.0
147	J-111		粗粒輝石安山岩	11.2	7.8	5.3	633.0
148	J-132		粗粒輝石安山岩	11.1	8.4	4.0	305.0
149	J-147		粗粒輝石安山岩	12.7	10.4	4.2	767.0
150	J-147		粗粒輝石安山岩	12.1	9.9	4.6	781.0
151	J-153		粗粒輝石安山岩	10.7	9.8	4.8	539.0
152	表採		粗粒輝石安山岩	11.7	8.1	4.8	637.0
砥石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
153	J-57		砂岩	9.3	6.0	1.8	105.0
154	J-133		牛伏砂岩	(4.1)	5.2	1.0	20.0
155	J-147		砂岩	9.8	10.6	1.7	199.0
156	J-180		牛伏砂岩	(7.1)	(5.4)	1.4	65.0

157	930-945		牛伏砂岩	4.8	4.4	1.0	29.0
158	935-910		牛伏砂岩	3.5	4.1	1.4	20.0
159	表採		砂岩	13.8	5.3	2.0	411.0
結晶片岩製石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
160	J-10		雲母石英片岩	(8.5)	4.3	1.2	78.0
161	J-93		雲母石英片岩	(7.7)	3.1	2.0	72.0
162	J-114		黒色片岩	(7.0)	(2.8)	1.6	49.3
163	J-123		黒色片岩	(7.5)	(3.5)	2.1	79.3
164	J-182		雲母石英片岩	(7.6)	(3.4)	1.6	63.5
165	J-257		雲母石英片岩	(8.6)	3.9	2.0	98.8
166	915-935		黒色片岩	(11.1)	3.7	1.6	109.4
167	925-905		黒色片岩	10.6	3.5	2.5	99.4
168	945-945		黒色片岩	(11.3)	3.5	2.0	130.7
169	955-945		黒色片岩	13.8	3.4	1.7	101.4
170	965-940		黒色片岩	(9.1)	3.2	1.3	62.4
171	表採		雲母石英片岩	(12.3)	3.7	2.2	154.5
打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
172	J-10	I	細粒輝石安山岩	10.4	5.5	1.9	107.2
173	J-10	I	黒色頁岩	8.9	3.8	1.2	54.7
174	J-18	I	変質玄武岩	8.0	5.0	1.2	42.1
175	J-18	I	黒色頁岩	8.5	4.3	1.5	59.1
176	J-20	I	細粒輝石安山岩	9.9	3.2	1.5	71.7
177	J-20	I	黒色頁岩	10.2	5.0	1.9	91.4
178	J-20	I	黒色頁岩	10.1	4.7	1.5	74.5
179	J-20	I	細粒輝石安山岩	10.6	3.8	1.4	59.9
180	J-36	I	黒色頁岩	10.5	3.3	2.2	99.7
181	J-36	I	黒色頁岩	(10.5)	4.8	1.6	63.5
182	J-40	I	細粒輝石安山岩	13.0	5.5	2.4	193.5
183	J-54	I	黒色頁岩	12.2	4.4	1.6	86.0
184	J-54	I	黒色頁岩	9.0	4.7	2.0	80.0
185	J-54	I	黒色頁岩	6.5	3.4	1.0	23.0
186	J-55	I	黒色頁岩	9.0	4.6	1.4	61.1
187	J-55	I	黒色頁岩	12.2	4.6	2.0	125.9
188	J-56	I	黒色頁岩	(12.6)	(7.0)	5.6	521.0
189	J-63	I	細粒輝石安山岩	7.6	5.0	1.9	84.5
190	J-66	I	黒色頁岩	12.8	4.4	2.9	155.2
191	J-74	I	黒色頁岩	9.1	4.7	1.8	77.6
192	J-93	I	黒色頁岩	12.2	4.4	2.0	121.0
193	J-93	I	ホルンフェルス	4.0	9.4	1.8	73.3
194	J-114	I	珪質頁岩	10.7	4.9	2.5	144.2
195	J-114	I	黒色頁岩	10.0	4.4	1.4	73.5
196	J-118	I	細粒輝石安山岩	10.4	5.2	1.7	103.3
197	J-123	I	黒色頁岩	8.8	4.3	1.9	57.2
198	J-125	I	黒色頁岩	9.2	4.3	1.5	60.0
199	J-133	I	黒色頁岩	10.8	4.6	1.6	70.7
200	J-133	I	黒色頁岩	14.3	4.9	1.9	156.5
201	J-133	I	粗粒輝石安山岩	11.1	5.3	2.2	142.3
202	J-134	I	黒色頁岩	13.5	4.4	2.0	154.3
203	J-139	I	黒色頁岩	10.2	3.8	1.0	51.8
204	J-147	I	黒色頁岩	9.2	5.5	2.0	115.6
205	J-153	I	細粒輝石安山岩	10.7	5.8	2.8	142.1
206	J-153	I	黒色頁岩	7.3	3.6	1.2	26.6
207	J-153	I	黒色頁岩	7.9	5.3	2.1	93.1
208	J-157	I	黒色頁岩	10.4	4.2	1.8	62.5
209	J-157	I	黒色頁岩	7.4	4.9	1.2	62.0
210	J-157	I	細粒輝石安山岩	9.9	3.7	1.4	47.2
211	J-157	I	黒色頁岩	7.0	5.1	2.3	101.6
212	J-157	I	黒色頁岩	10.8	4.3	1.8	86.8
213	J-158	I	黒色頁岩	12.1	4.0	2.2	109.8
214	J-161	I	黒色頁岩	10.2	4.3	1.1	51.7
215	J-168	I	黒色頁岩	13.2	4.6	2.1	146.6
216	J-175	I	砂岩	13.9	4.4	2.1	140.7

第6章 出土遺物

217	J-176	I	黒色頁岩	6.8	4.0	1.9	44.4
218	J-180	I	黒色頁岩	9.2	4.9	1.4	67.0
219	J-180	I	ホルンフェルス	11.7	4.1	1.7	92.2
220	J-228	I	黒色頁岩	7.5	3.6	1.5	43.6
221	J-259	I	細粒輝石安山岩	12.0	4.4	1.7	89.1
222	J-259	I	黒色頁岩	11.2	4.2	1.4	62.3
223	875-895	I	黒色頁岩	(4.7)	3.9	1.0	25.1
224	890-900	I	黒色頁岩	8.6	4.2	1.9	80.2
225	890-900	I	黒色頁岩	(9.5)	3.9	1.6	67.6
226	890-900	I	黒色頁岩	(12.5)	4.9	2.0	127.6
227	890-900	I	細粒輝石安山岩	(4.8)	4.1	0.9	24.8
228	890-905	I	ホルンフェルス	(5.5)	4.6	1.9	60.0
229	895-900	I	黒色頁岩	(8.2)	5.2	2.0	99.3
230	895-910	I	黒色頁岩	9.4	3.8	1.2	42.0
231	895-915	I	黒色頁岩	(4.8)	4.9	1.6	50.7
232	895-?	I	黒色頁岩	13.1	5.1	1.9	106.3
233	900-905	I	細粒輝石安山岩	(5.1)	4.4	1.4	42.2
234	900-915	I	細粒輝石安山岩	(5.6)	3.6	1.4	40.9
235	900-920	I	ホルンフェルス	10.9	4.6	2.0	110.6
236	905-905	I	細粒輝石安山岩	(5.7)	3.3	1.1	24.2
237	905-925	I	黒色頁岩	(7.9)	4.6	1.3	50.2
238	905-930	I	細粒輝石安山岩	10.6	4.5	1.4	71.9
239	905-930	I	黒色頁岩	9.1	4.6	1.0	38.9
240	905-930	I	ホルンフェルス	10.5	4.1	1.3	74.1
241	905-930	I	ホルンフェルス	(9.6)	6.5	2.9	145.2
242	905-935	I	細粒輝石安山岩	12.0	4.8	2.1	120.6
243	905-935	I	黒色頁岩	(6.6)	3.2	1.8	48.9
244	905-935	I	黒色頁岩	(6.1)	5.4	2.0	66.9
245	905-950	I	黒色頁岩	(7.8)	5.1	2.8	132.0
246	910-915	I	黒色頁岩	8.6	4.2	1.3	44.5
247	910-915	I	細粒輝石安山岩	(9.8)	4.8	1.5	89.3
248	910-915	I	ホルンフェルス	(7.6)	4.4	2.2	100.5
249	910-915	I	黒色頁岩	(5.2)	(4.8)	1.5	42.5
250	910-935	I	黒色頁岩	(5.3)	4.1	1.3	36.8
251	910-935	I	変質玄武岩	(4.4)	4.9	1.6	45.9
252	910-940	I	黒色頁岩	(5.4)	4.3	1.2	35.4
253	910-950	I	黒色頁岩	7.7	2.6	1.3	29.1
254	910-950	I	細粒輝石安山岩	(5.9)	4.4	1.3	40.5
255	910-950	I	砂岩	(5.0)	4.2	1.8	68.4
256	910-965	I	黒色頁岩	(6.1)	4.4	1.4	53.2
257	910-970	I	ホルンフェルス	9.5	3.5	0.9	41.8
258	915-910	I	細粒輝石安山岩	(5.3)	3.6	1.2	31.6
259	915-920	I	黒色頁岩	(7.5)	(4.4)	(2.2)	73.6
260	915-930	I	黒色頁岩	11.6	5.1	1.4	83.6
261	915-935	I	黒色頁岩	7.4	4.7	1.6	56.0
262	915-935	I	黒色頁岩	(10.5)	4.3	1.4	59.4
263	915-935	I	ホルンフェルス	10.6	4.3	2.2	113.9
264	915-935	I	黒色頁岩	(8.2)	(4.2)	1.7	57.2
265	915-940	I	黒色頁岩	(9.5)	5.1	1.5	86.5
266	915-940	I	細粒輝石安山岩	(7.5)	3.2	1.1	34.7
267	915-940	I	黒色頁岩	(9.0)	4.4	1.3	62.0
268	915-940	I	黒色頁岩	(8.0)	4.1	1.5	70.5
269	915-940	I	細粒輝石安山岩	(8.6)	4.7	1.1	69.0
270	915-940	I	黒色頁岩	7.6	6.1	2.1	95.4
271	915-945	I	珪質頁岩	11.5	4.3	1.7	91.1
272	915-945	I	黒色頁岩	(6.9)	4.6	1.4	47.1
273	915-950	I	黒色頁岩	(8.9)	5.9	2.9	168.0
274	915-950	I	黒色頁岩	8.4	3.8	1.2	39.7
275	915-950	I	黒色頁岩	(9.2)	4.6	1.5	88.7
276	915-950	I	黒色頁岩	(6.1)	3.6	1.4	41.0
277	915-950	I	黒色頁岩	(5.3)	5.1	(1.4)	44.5
278	915-960	I	珪質頁岩	9.9	4.0	1.6	73.9
279	915-960	I	黒色頁岩	(8.3)	4.2	2.0	79.5
280	915-960	I	黒色頁岩	(7.8)	(4.9)	1.5	61.0
281	915-965	I	黒色頁岩	10.8	4.3	1.5	83.4
282	915-965	I	黒色頁岩	8.6	5.6	2.0	93.5

283	915-965	I	黒色頁岩	(7.3)	4.1	1.6	50.0
284	920-895	I	黒色頁岩	(8.5)	4.2	1.6	73.8
285	920-920	I	黒色頁岩	(7.8)	4.1	2.0	77.5
286	920-925	I	細粒輝石安山岩	(8.4)	4.4	1.6	54.3
287	920-940	I	珪質頁岩	9.8	4.6	1.7	67.8
288	920-940	I	ホルンフェルス	(8.8)	6.1	2.5	179.0
289	920-940	I	砂岩	(5.1)	3.1	1.7	37.5
290	920-945	I	細粒輝石安山岩	(7.7)	4.7	1.2	63.5
291	920-945	I	細粒輝石安山岩	7.7	5.2	1.7	78.5
292	920-945	I	黒色頁岩	8.7	5.7	2.0	138.5
293	920-950	I	黒色頁岩	8.9	4.4	2.2	95.4
294	920-950	I	黒色頁岩	(5.7)	4.7	1.7	58.5
295	920-950	I	黒色頁岩	(9.8)	4.8	1.5	63.0
296	920-950	I	細粒輝石安山岩	(9.7)	5.7	1.6	98.6
297	920-950	I	黒色頁岩	(6.6)	4.6	1.9	62.0
298	920-950	I	黒色頁岩	12.4	5.7	1.4	98.2
299	920-950	I	黒色頁岩	13.2	5.3	2.1	150.2
300	920-950	I	黒色頁岩	10.2	4.1	1.4	70.2
301	920-960	I	黒色頁岩	(6.3)	4.3	1.7	54.8
302	920-965	I	黒色頁岩	11.5	4.2	2.1	117.2
303	925-925	I	細粒輝石安山岩	(6.2)	5.4	2.2	86.0
304	925-930	I	黒色安山岩	(8.6)	5.0	2.1	109.9
305	925-935	I	ホルンフェルス	(9.2)	6.6	2.4	157.0
306	925-950	I	細粒輝石安山岩	(9.6)	4.2	2.9	158.1
307	930-890	I	珪質頁岩	8.9	4.1	1.4	72.3
308	930-905	I	砂岩	(9.3)	5.5	2.3	95.8
309	930-910	I	細粒輝石安山岩	(4.4)	4.3	1.5	44.1
310	930-930	I	黒色頁岩	7.0	5.5	2.9	100.7
311	930-930	I	黒色頁岩	(5.9)	3.0	1.7	33.5
312	930-935	I	黒色頁岩	(10.5)	(5.6)	3.8	252.1
313	930-940	I	細粒輝石安山岩	(6.7)	4.6	3.2	103.1
314	930-940	I	細粒輝石安山岩	(3.7)	5.4	2.0	71.4
315	930-945	I	黒色頁岩	7.6	4.1	1.6	52.1
316	930-945	I	珪質頁岩	11.7	5.1	2.3	142.5
317	930-945	I	ホルンフェルス	13.2	5.7	2.4	222.3
318	930-945	I	黒色頁岩	8.6	3.8	1.1	44.0
319	930-950	I	黒色頁岩	10.2	5.0	1.1	57.7
320	930-950	I	細粒輝石安山岩	(8.3)	3.9	1.3	53.7
321	930-950	I	ホルンフェルス	(8.5)	5.0	2.4	138.1
322	930-960	I	細粒輝石安山岩	6.5	4.7	1.4	57.8
323	930-960	I	珪質頁岩	8.5	3.9	1.7	56.5
324	930-960	I	細粒輝石安山岩	(5.3)	4.7	1.5	43.2
325	930-960	I	細粒輝石安山岩	(10.2)	6.3	1.4	89.2
326	930-965	I	黒色頁岩	(5.8)	5.5	1.7	58.4
327	930-965	I	黒色頁岩	(10.6)	4.4	1.3	65.3
328	935-910	I	細粒輝石安山岩	(6.5)	4.9	2.0	77.8
329	935-915	I	ホルンフェルス	(7.5)	5.9	2.4	121.5
330	935-925	I	黒色頁岩	5.7	3.4	1.5	37.3
331	935-925	I	細粒輝石安山岩	(5.6)	5.8	2.1	62.9
332	935-930	I	黒色頁岩	(6.9)	5.3	3.1	148.7
333	935-935	I	細粒輝石安山岩	(6.7)	4.7	1.8	58.0
334	935-935	I	黒色頁岩	9.0	4.9	1.9	117.1
335	935-940	I	細粒輝石安山岩	(9.0)	4.1	1.4	68.8
336	935-945	I	細粒輝石安山岩	(7.9)	(4.1)	1.6	65.3
337	935-945	I	黒色頁岩	(6.2)	3.9	2.1	47.6
338	935-950	I	珪質頁岩	8.9	3.7	1.0	40.4
339	935-950	I	黒色頁岩	11.2	4.8	1.9	95.0
340	935-950	I	黒色頁岩	11.3	3.7	2.5	76.2
341	935-950	I	ホルンフェルス	(6.0)	5.4	1.7	77.0
342	935-950	I	細粒輝石安山岩	(7.8)	4.3	1.8	79.0
343	935-950	I	黒色頁岩	(5.5)	4.6	2.2	74.1
344	935-960	I	細粒輝石安山岩	(6.8)	3.9	1.5	49.9
345	940-900	I	細粒輝石安山岩	8.8	4.1	1.5	69.2
346	940-905	I	珪質頁岩	(7.6)	4.5	1.7	60.9
347	940-905	I	黒色頁岩	6.8	5.9	2.5	105.2
348	940-915	I	黒色頁岩	6.3	7.7	1.8	107.9

第2節 出土石器

349	940-930	I	ホルンフェルス	(6.4)	5.3	2.1	84.2
350	940-930	I	黒色頁岩	(6.0)	3.9	2.3	64.3
351	940-935	I	黒色頁岩	11.1	5.3	1.8	106.2
352	940-935	I	黒色頁岩	11.5	5.4	1.8	106.8
353	940-935	I	黒色頁岩	13.0	5.6	2.0	150.7
354	940-935	I	ホルンフェルス	14.1	10.9	3.7	579.9
355	940-940	I	黒色頁岩	11.0	4.6	1.5	79.6
356	940-940	I	細粒輝石安山岩	10.0	5.0	1.8	89.2
357	940-950	I	黒色頁岩	7.9	4.9	1.1	64.0
358	940-960	I	細粒輝石安山岩	(8.8)	(5.5)	2.1	119.1
359	945-865	I	ホルンフェルス	(8.2)	6.1	2.3	131.3
360	945-910	I	黒色頁岩	(6.8)	5.6	2.6	119.8
361	945-910	I	黒色頁岩	(8.2)	4.0	1.6	48.4
362	945-910	I	細粒輝石安山岩	(8.4)	5.9	2.9	177.3
363	945-915	I	細粒輝石安山岩	(6.1)	4.7	1.7	56.3
364	945-925	I	黒色頁岩	10.7	7.6	3.0	207.9
365	945-940	I	黒色頁岩	9.5	4.6	1.3	70.0
366	945-940	I	黒色頁岩	12.7	5.5	1.6	119.6
367	945-945	I	黒色頁岩	(8.5)	4.4	2.9	84.7
368	945-945	I	細粒輝石安山岩	9.1	(4.3)	1.1	43.3
369	945-945	I	細粒輝石安山岩	(7.2)	4.4	0.9	35.2
370	945-950	I	黒色頁岩	7.8	3.6	1.3	38.3
371	945-950	I	細粒輝石安山岩	9.4	4.7	2.4	113.6
372	945-950	I	黒色頁岩	5.3	3.9	0.9	20.0
373	945-950	I	黒色頁岩	7.0	4.1	1.5	41.3
374	945-950	I	黒色頁岩	(5.1)	5.1	2.3	61.1
375	945-950	I	黒色頁岩	9.7	3.4	1.7	52.1
376	950-890	I	黒色頁岩	(5.3)	5.7	1.4	50.1
377	950-940	I	黒色頁岩	(8.1)	4.9	2.1	92.9
378	950-950	I	細粒輝石安山岩	(5.1)	6.4	2.2	63.1
379	950-950	I	黒色頁岩	(8.9)	4.6	1.8	72.6
380	950-950	I	黒色頁岩	7.8	3.6	1.3	43.4
381	950-950	I	黒色頁岩	9.1	3.7	1.2	36.9
382	950-950	I	黒色頁岩	(6.8)	(4.1)	1.9	60.9
383	955-945	I	黒色頁岩	(7.2)	3.4	1.4	27.8
384	955-945	I	細粒輝石安山岩	12.4	5.2	2.3	169.7
385	955-950	I	黒色頁岩	(8.3)	4.3	1.6	67.7
386	955-950	I	黒色頁岩	(9.5)	4.8	2.4	138.4
387	955-965	I	黒色頁岩	(7.5)	4.5	3.0	95.3
388	955-965	I	ホルンフェルス	(9.7)	5.5	2.5	149.5
389	960-950	I	黒色頁岩	(5.9)	4.1	2.1	46.3
390	970-965	I	黒色頁岩	11.9	5.1	2.1	123.2
391	10住	I	黒色頁岩	8.5	3.7	1.7	42.7
392	11住	I	細粒輝石安山岩	10.3	5.2	1.8	114.0
393	14土	I	細粒輝石安山岩	6.1	3.0	1.5	27.9
394	表採	I	ホルンフェルス	11.6	6.2	1.8	134.1
395	表採	I	黒色頁岩	10.2	4.6	1.5	67.9
396	表採	I	黒色頁岩	14.1	5.8	2.6	246.4
397	表採	I	黒色頁岩	10.1	4.0	2.0	85.7
398	表採	I	黒色頁岩	11.8	3.3	2.3	103.3
399	表採	I	黒色頁岩	(8.6)	5.2	1.7	87.6
400	表採	I	黒色安山岩	(10.0)	5.1	2.8	131.0
401	表採	I	黒色頁岩	9.5	4.3	1.3	58.7
402	表採	I	黒色頁岩	10.2	3.7	1.6	86.2
403	表採	I	黒色頁岩	(7.8)	4.3	1.4	52.5
404	表採	I	黒色頁岩	11.2	4.5	1.8	99.3
405	表採	I	黒色頁岩	9.7	4.3	1.9	57.5
406	表採	I	黒色頁岩	(11.9)	5.2	1.5	108.8
407	表採	I	黒色頁岩	10.5	5.0	1.3	62.9
408	表採	I	黒色頁岩	9.2	4.7	1.2	61.4
409	表採	I	細粒輝石安山岩	(6.4)	(4.2)	1.5	57.1
410	表採	I	黒色頁岩	9.8	4.7	1.2	81.3
411	表採	I	黒色頁岩	(9.7)	5.3	3.1	204.6
412	表採	I	黒色頁岩	10.1	4.9	1.2	62.0
413	表採	I	黒色頁岩	10.2	5.3	2.3	118.9
414	表採	I	珪質頁岩	(7.2)	(3.8)	1.8	62.1

415	表採	I	細粒輝石安山岩	(7.9)	(4.9)	1.3	68.6
416	表採	I	ホルンフェルス	(7.6)	(4.1)	1.5	59.0
417	表採	I	黒色頁岩	(8.5)	4.1	1.5	57.5
418	表採	I	細粒輝石安山岩	(6.6)	4.5	1.6	76.7
419	表採	I	細粒輝石安山岩	(9.3)	4.1	1.7	80.2
420	表採	I	黒色頁岩	9.0	4.6	1.8	71.8
421	表採	I	細粒輝石安山岩	(9.6)	5.8	2.7	181.0
422	表採	I	細粒輝石安山岩	(8.4)	5.0	1.7	91.5
423	表採	I	細粒輝石安山岩	(7.3)	5.6	1.7	86.3
424	表採	I	黒色頁岩	(6.8)	6.7	1.8	52.3
425	表採	I	黒色頁岩	(6.8)	4.9	1.2	82.6
426	表採	I	黒色頁岩	7.7	4.2	3.2	105.5
427	表採	I	細粒輝石安山岩	(7.6)	4.2	1.6	55.2
428	表採	I	黒色頁岩	6.2	4.0	1.6	45.0
429	表採	I	ホルンフェルス	(6.7)	(4.0)	1.8	56.7
430	表採	I	黒色頁岩	(8.3)	3.3	1.3	39.3
431	表採	I	細粒輝石安山岩	(7.0)	(6.0)	2.7	110.9
432	表採	I	黒色頁岩	8.3	5.1	2.4	103.0
433	表採	I	細粒輝石安山岩	8.0	(4.7)	1.8	79.0
434	表採	I	黒色頁岩	(7.8)	4.1	2.2	61.1
435	表採	I	黒色頁岩	7.5	5.2	1.1	56.8
436	表採	I	ホルンフェルス	(7.7)	5.3	2.7	143.2
437	表採	I	黒色頁岩	(7.7)	3.9	1.4	52.0
438	表採	I	黒色頁岩	7.2	4.9	1.5	56.1
439	表採	I	細粒輝石安山岩	9.3	3.7	1.5	61.5
440	表採	I	黒色頁岩	11.6	5.1	2.1	126.7
441	表採	I	砂岩	14.7	5.6	2.4	178.4
442	表採	I	細粒輝石安山岩	(9.0)	4.3	1.9	73.2
443	表採	I	細粒輝石安山岩	(9.0)	5.9	2.0	124.2
444	表採	I	黒色頁岩	10.5	4.1	1.2	53.9
445	表採	I	黒色頁岩	15.7	7.3	3.1	336.4
446	表採	I	黒色頁岩	(11.5)	(4.4)	2.0	126.7
447	表採	I	ホルンフェルス	12.4	8.6	3.2	380.2
448	表採	I	細粒輝石安山岩	11.4	6.4	1.8	199.2
449	表採	I	砂岩	9.8	4.5	1.8	90.7
450	表採	I	黒色頁岩	11.8	5.4	2.4	141.2
451	表採	I	黒色頁岩	11.3	5.0	2.3	126.5
452	表採	I	細粒輝石安山岩	11.6	5.0	1.8	121.8
453	表採	I	砂岩	10.5	4.0	1.9	110.6
454	表採	I	黒色頁岩	11.0	4.7	2.0	100.9
455	表採	I	黒色頁岩	(9.3)	4.2	1.6	47.6
456	表採	I	細粒輝石安山岩	(8.8)	4.6	2.3	110.8
457	表採	I	細粒輝石安山岩	(8.5)	4.2	1.2	60.0
458	表採	I	細粒輝石安山岩	(8.6)	4.9	1.2	60.1
459	表採	I	黒色頁岩	(8.1)	5.0	2.5	125.0
460	表採	I	黒色頁岩	(8.3)	4.2	1.7	62.4
461	J-10	II	変質玄武岩	17.1	8.2	2.7	495.1
462	J-11	II	細粒輝石安山岩	11.9	5.8	2.2	130.6
463	J-11	II	黒色頁岩	8.9	7.0	2.3	131.1
464	J-14	II	黒色頁岩	(8.0)	5.2	2.0	73.6
465	J-45	II	黒色頁岩	(9.1)	8.2	2.5	207.6
466	J-53	II	黒色頁岩	9.3	7.6	1.8	120.2
467	J-120	II	黒色頁岩	7.5	6.4	1.5	74.7
468	J-120	II	蛇紋岩	11.7	7.8	2.1	199.1
469	J-123	II	細粒輝石安山岩	11.1	7.9	1.9	164.8
470	J-133	II	細粒輝石安山岩	9.8	4.9	1.4	82.0
471	J-133	II	変質玄武岩	11.4	6.1	1.6	120.4
472	J-157	II	細粒輝石安山岩	8.2	4.6	1.0	44.9
473	J-162	II	ホルンフェルス	11.9	6.4	2.2	166.7
474	J-180	II	黒色頁岩	14.1	7.5	2.4	265.5
475	910-895	II	細粒輝石安山岩	7.8	5.8	1.3	48.5
476	910-945	II	珪質頁岩	9.0	5.5	1.6	85.8
477	915-940	II	黒色頁岩	(5.8)	5.0	2.1	66.2
478	915-945	II	細粒輝石安山岩	(6.7)	(5.9)	1.4	55.4
479	915-950	II	砂岩	(6.7)	6.1	2.5	134.3
480	915-950	II	黒色頁岩	(7.9)	7.1	2.4	94.7

第6章 出土遺物

481	920-935	II	黒色頁岩	(5.6)	6.8	1.6	78.1
482	920-950	II	細粒輝石安山岩	11.3	5.3	2.2	137.4
483	920-970	II	黒色頁岩	(7.3)	7.9	1.8	127.1
484	925-900	II	黒色頁岩	(8.9)	6.9	1.6	104.4
485	925-960	II	ホルンフェルス	7.6	5.0	1.2	53.7
486	930-945	II	黒色頁岩	12.8	6.5	1.5	134.1
487	935-915	II	黒色頁岩	(5.4)	5.9	1.3	45.9
488	940-895	II	細粒輝石安山岩	(14.6)	6.9	2.2	184.5
489	945-915	II	黒色頁岩	11.4	6.4	2.2	164.8
490	945-950	II	ホルンフェルス	(6.5)	6.6	2.3	94.0
491	945-950	II	細粒輝石安山岩	(8.4)	6.6	2.1	127.1
492	表採	II	黒色頁岩	9.2	6.1	2.0	114.2
493	表採	II	ホルンフェルス	(8.9)	7.1	2.1	132.6
494	表採	II	細粒輝石安山岩	(7.1)	(6.5)	1.4	63.9
495	表採	II	黒色頁岩	8.5	6.1	1.7	84.3
496	表採	II	黒色頁岩	10.4	5.6	1.6	80.3
497	表採	II	黒色頁岩	(5.7)	5.5	1.7	53.3
498	表採	II	細粒輝石安山岩	(7.2)	5.7	1.6	62.1
499	表採	II	細粒輝石安山岩	(8.5)	8.2	2.8	183.4
500	表採	II	黒色頁岩	(11.0)	7.6	2.2	163.8
501	表採	II	黒色頁岩	(9.8)	(6.0)	(2.5)	222.7
502	表採	II	細粒輝石安山岩	(8.8)	(7.8)	2.6	231.4
503	表採	II	ホルンフェルス	(8.9)	6.4	2.7	151.0
504	表採	II	細粒輝石安山岩	(9.4)	(6.6)	2.4	122.0
三角錐形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
505	J-11		黒色頁岩	11.6	6.1	6.7	494.1
506	J-11		黒色頁岩	11.9	5.4	5.3	319.4
507	J-79		黒色頁岩	8.3	6.4	3.9	166.1
508	J-139		黒色頁岩	9.3	5.8	5.0	278.3
509	J-157		黒色頁岩	11.5	6.5	6.0	458.1
510	930-905		黒色頁岩	(8.6)	7.2	6.8	527.6
511	935-910		黒色頁岩	10.1	6.7	6.5	452.9
512	935-915		黒色頁岩	(7.7)	4.1	(5.0)	187.6
513	950-925		黒色頁岩	14.3	6.2	6.0	617.9
514	表採		黒色頁岩	10.0	4.9	3.7	172.8
515	表採		黒色頁岩	(8.1)	(3.6)	(3.9)	116.7
516	表採		黒色頁岩	8.7	5.9	3.8	200.9
517	表採		黒色頁岩	9.1	5.3	5.7	235.0
518	表採		黒色頁岩	10.2	6.5	3.7	224.2
519	表採		黒色頁岩	8.6	6.4	5.9	395.7
520	表採		黒色頁岩	10.5	(6.2)	4.3	249.0
磨製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
521	J-19		変玄武岩	(6.7)	(4.4)	3.2	131.0
522	J-53		変玄武岩	10.7	6.1	3.1	339.2
523	J-54		変質蛇紋岩	(4.9)	1.1	1.1	16.1
524	905-955		粗粒輝石安山岩	(4.7)	7.5	2.1	59.5
525	915-980		変玄武岩	(9.2)	5.1	3.7	255.9
526	935-945		変玄武岩	(5.7)	5.6	(2.9)	120.0
527	935-945		変玄武岩	9.5	5.2	3.2	317.5
528	955-940		変玄武岩	10.5	5.0	2.9	291.0
529	表採		蛇紋岩	4.2	2.4	0.9	16.5
530	表採		黒色頁岩	(6.4)	2.9	1.4	39.6
スクレイパー							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
531	J-10	I	黒色頁岩	5.3	7.2	1.6	59.1
532	J-10	I	黒色頁岩	2.4	4.0	1.1	7.1
533	J-11	I	黒色頁岩	2.8	3.9	1.0	7.1
534	J-11	I	黒色頁岩	6.1	4.9	1.2	44.2
535	J-11	I	黒色頁岩	6.8	8.4	1.8	96.9
536	J-14	I	黒色頁岩	5.0	6.0	2.5	68.7
537	J-14	I	黒色頁岩	6.1	4.6	1.3	26.7

538	J-15	I	黒色頁岩	6.9	(5.6)	2.7	99.1
539	J-36	I	黒色頁岩	8.5	3.3	2.1	38.5
540	J-53	I	黒色頁岩	6.0	8.0	1.5	82.2
541	J-54	I	黒色頁岩	6.1	7.4	2.1	98.5
542	J-55	I	黒色頁岩	6.7	5.4	2.2	68.8
543	J-56	I	黒色安山岩	2.6	5.4	1.0	14.8
544	J-65	I	黒色頁岩	6.2	5.7	1.6	56.4
545	J-66	I	黒色頁岩	5.1	8.0	1.5	57.3
546	J-93	I	チャート	1.9	2.7	0.7	2.6
547	J-97	I	黒色安山岩	5.1	2.8	1.6	21.9
548	J-106	I	珪質頁岩	3.4	6.0	0.8	13.2
549	J-108	I	黒色頁岩	2.8	6.6	1.5	26.3
550	J-114	I	黒色頁岩	4.7	6.3	1.2	35.6
551	J-114	I	黒色安山岩	2.8	2.9	0.9	6.9
552	J-120	I	細粒輝石安山岩	7.0	10.9	2.7	247.9
553	J-120	I	黒色頁岩	3.2	8.1	1.1	28.0
554	J-123	I	黒色頁岩	5.3	7.8	1.6	65.4
555	J-133	I	黒色安山岩	7.1	6.5	1.9	73.5
556	J-133	I	黒色頁岩	2.1	2.9	0.9	4.5
557	J-133	I	黒色頁岩	5.8	6.8	1.6	68.6
558	J-136	I	黒色頁岩	3.9	5.6	1.0	23.0
559	J-139	I	黒色頁岩	10.7	5.0	2.0	109.1
560	J-144	I	黒色頁岩	2.8	3.2	1.1	5.9
561	J-149	I	黒色頁岩	4.5	6.8	1.5	35.0
562	J-153	I	黒色頁岩	5.2	4.1	0.6	14.7
563	J-157	I	黒色頁岩	6.8	7.7	1.9	81.2
564	J-162	I	黒色頁岩	4.7	5.3	1.0	24.5
565	J-180	I	黒色頁岩	5.2	4.9	1.4	24.1
566	J-181	I	黒色頁岩	6.8	7.0	2.0	90.7
567	J-207	I	黒色頁岩	3.4	5.5	1.6	25.0
568	J-216	I	黒色頁岩	5.2	6.3	2.7	98.4
569	900-920	I	黒色頁岩	7.0	6.4	2.3	106.7
570	905-920	I	チャート	2.7	3.7	1.1	11.6
571	905-945	I	黒色頁岩	4.7	7.3	1.5	49.9
572	910-925	I	黒色頁岩	4.2	6.4	2.9	63.5
573	910-950	I	黒色頁岩	8.3	5.7	2.3	74.4
574	910-955	I	黒色頁岩	8.8	13.0	3.0	280.8
575	915-910	I	黒色頁岩	7.4	5.2	2.2	79.8
576	915-925	I	黒曜石	1.5	1.9	0.5	0.9
577	920-920	I	黒色頁岩	5.0	6.6	1.2	36.6
578	925-950	I	黒色安山岩	2.3	2.0	0.9	4.4
579	925-960	I	黒色頁岩	5.1	7.5	1.4	42.3
580	925-965	I	黒色頁岩	4.9	7.8	1.0	31.0
581	930-945	I	黒色頁岩	4.6	6.5	1.4	45.1
582	940-000	I	黒色頁岩	6.1	4.3	1.9	58.0
583	940-930	I	黒色頁岩	2.7	4.8	1.3	16.0
584	940-940	I	黒色頁岩	6.5	4.1	1.8	33.9
585	940-945	I	黒色頁岩	5.4	8.8	2.9	136.9
586	940-945	I	黒色頁岩	5.8	8.2	1.2	62.7
587	940-955	I	黒色頁岩	4.0	5.6	0.9	21.2
588	945-940	I	黒色安山岩	2.8	2.3	0.9	5.8
589	945-965	I	黒色頁岩	9.7	3.8	1.5	47.3
590	950-950	I	黒色頁岩	3.1	4.8	0.8	14.2
591	950-960	I	黒色安山岩	4.2	7.1	1.6	42.2
592	960-955	I	黒色頁岩	3.5	5.3	2.0	35.4
593	9住	I	黒色頁岩	3.4	3.8	1.5	16.7
594	表採	I	黒色安山岩	2.4	3.4	1.1	8.6
595	表採	I	チャート	2.1	2.6	0.6	2.8
596	表採	I	黒色頁岩	4.2	4.5	0.8	18.1
597	表採	I	黒色頁岩	5.4	3.8	1.5	31.0
598	表採	I	黒色頁岩	4.9	6.0	1.8	55.6
599	表採	I	黒色頁岩	3.8	6.6	2.4	62.0
600	表採	I	黒色頁岩	8.6	6.9	2.4	128.8
601	表採	I	黒色頁岩	9.3	7.9	2.1	138.1
602	表採	I	黒色頁岩	3.4	4.1	1.3	18.0
603	J-10	II	黒色頁岩	3.6	5.2	1.0	20.8

第2節 出土石器

604	J-11	II	珪質頁岩	2.4	3.1	1.5	11.0
605	J-20	II	黒色頁岩	4.8	4.8	1.6	30.9
606	J-36	II	黒色頁岩	12.1	13.7	2.5	490.2
607	J-40	II	黒色安山岩	4.6	5.4	1.0	24.1
608	J-40	II	黒色頁岩	2.2	3.5	1.0	7.7
609	J-54	II	黒色頁岩	7.0	6.7	1.8	79.8
610	J-74	II	黒色頁岩	5.1	7.6	1.4	58.0
611	J-96	II	黒色頁岩	4.2	8.1	1.8	48.5
612	J-133	II	黒色頁岩	3.9	5.6	1.2	31.4
613	J-134	II	黒色頁岩	5.7	6.1	2.0	65.9
614	J-140	II	黒曜石	1.4	2.2	0.6	1.3
615	J-159	II	黒色頁岩	2.5	4.9	0.7	5.4
616	J-167	II	黒色頁岩	3.9	5.1	1.2	24.0
617	J-178	II	黒色頁岩	5.2	7.0	1.8	51.0
618	J-180	II	黒色頁岩	3.1	6.0	1.3	20.7
619	J-182	II	黒色頁岩	3.4	8.2	1.3	28.8
620	J-183	II	黒色頁岩	6.9	4.0	1.9	48.5
621	J-188	II	黒色頁岩	9.1	6.7	3.0	210.2
622	J-191	II	黒色頁岩	4.0	4.0	1.4	18.8
623	J-202	II	黒色頁岩	5.8	6.0	1.6	65.2
624	905-935	II	黒色頁岩	5.6	9.4	2.4	142.7
625	910-950	II	黒色頁岩	3.4	3.4	1.0	12.5
626	910-955	II	黒色頁岩	5.1	8.9	2.6	132.7
627	915-935	II	黒色頁岩	6.4	12.0	1.0	75.8
628	915-935	II	黒色頁岩	6.8	6.0	1.8	63.9
629	915-935	II	黒色頁岩	3.1	4.6	2.0	18.6
630	915-940	II	黒色頁岩	4.9	6.2	1.7	41.2
631	920-935	II	黒色頁岩	4.9	7.0	1.9	63.2
632	920-965	II	黒色頁岩	5.0	8.1	2.2	103.4
633	925-950	II	チャート	4.6	7.4	1.9	57.2
634	930-950	II	黒色安山岩	4.0	4.5	1.2	22.8
635	930-955	II	黒色頁岩	5.4	6.5	1.9	76.7
636	930-960	II	黒色頁岩	3.1	5.1	1.6	18.3
637	935-935	II	黒色頁岩	6.1	11.0	2.2	150.5
638	935-940	II	黒色頁岩	4.4	7.1	1.5	44.5
639	935-955	II	チャート	2.4	1.7	0.7	2.5
640	940-900	II	チャート	2.7	3.9	1.2	10.1
641	940-950	II	黒色頁岩	4.3	4.8	2.3	35.0
642	940-950	II	黒色頁岩	4.5	5.7	1.6	41.3
643	940-960	II	黒色頁岩	5.9	5.7	2.1	56.4
644	940-965	II	黒色頁岩	5.0	6.4	2.1	56.2
645	945-930	II	黒色頁岩	6.0	8.2	1.7	80.5
646	945-930	II	黒色頁岩	3.6	5.9	1.2	27.4
647	950-945	II	チャート	3.1	5.1	1.3	18.7
648	950-945	II	黒色頁岩	5.0	8.3	1.4	46.0
649	955-945	II	黒色頁岩	4.7	5.4	1.8	37.9
650	955-950	II	チャート	2.7	3.5	0.9	6.7
651	965-945	II	黒色安山岩	3.6	6.0	1.3	24.3
652	970-965	II	黒色頁岩	8.3	8.6	1.5	124.4
653	5住	II	黒色頁岩	5.0	5.6	1.1	32.5
654	表採	II	黒色頁岩	5.1	5.7	1.6	52.2
655	表採	II	黒色頁岩	6.3	8.5	1.8	81.8
656	表採	II	黒色頁岩	4.1	4.3	1.6	24.8
657	表採	II	黒色頁岩	5.7	4.0	1.5	47.3
658	表採	II	黒色頁岩	7.2	10.5	1.9	172.5
659	表採	II	黒色頁岩	3.6	4.1	0.8	12.8
660	表採	II	黒色頁岩	5.7	3.5	0.8	15.7
661	表採	II	黒曜石	1.9	2.2	0.7	2.1
鋸齒縁石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
662	J-111		黒色頁岩	4.9	7.3	2.3	70.8
663	J-133		黒色頁岩	2.7	5.9	1.7	21.7
664	J-153		黒色頁岩	2.7	4.9	1.2	21.1
665	J-162		黒色頁岩	4.9	6.0	1.1	26.5
666	J-181		黒色頁岩	4.6	7.8	2.4	86.9

667	905-895		黒色頁岩	7.2	7.9	1.9	135.5
668	915-965		黒色頁岩	5.2	5.0	1.2	39.2
669	945-910		黒色頁岩	5.8	4.8	1.8	42.0
670	表採		チャート	1.9	2.6	0.5	2.5
671	表採		黒色頁岩	6.4	7.6	2.7	189.5
ノッチ							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
672	J-93		黒色頁岩	6.5	5.8	2.2	49.9
673	J-180		チャート	3.6	3.3	1.6	15.5
674	915-930		細粒輝石安山岩	7.8	4.6	0.8	26.6
不定形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
675	J-5		チャート	2.7	3.8	1.5	9.3
676	J-10		黒色頁岩	6.5	7.8	1.8	87.2
677	J-10		黒色頁岩	8.7	6.0	2.2	131.1
678	J-10		黒色頁岩	5.0	7.1	1.7	46.3
679	J-10		黒色頁岩	3.8	5.1	0.7	15.7
680	J-10		黒色頁岩	2.2	3.2	0.3	2.5
681	J-10		黒色安山岩	2.9	3.4	0.8	5.8
682	J-10		ホルンフェルス	10.7	8.8	4.3	483.4
683	J-10		黒色頁岩	4.3	3.4	1.1	13.0
684	J-10		黒色頁岩	5.9	5.4	1.4	42.1
685	J-11		黒色頁岩	3.7	3.5	1.8	20.3
686	J-11		黒色頁岩	3.7	3.9	2.7	43.2
687	J-11		黒色頁岩	3.6	4.6	1.0	17.7
688	J-11		黒色頁岩	2.9	4.7	0.6	8.2
689	J-11		黒色頁岩	3.2	3.8	0.6	6.1
690	J-11		黒色頁岩	6.2	6.6	2.7	117.5
691	J-11		細粒輝石安山岩	6.3	7.5	1.4	65.1
692	J-11		黒色頁岩	4.2	5.3	0.9	25.1
693	J-17		黒色頁岩	5.1	4.0	1.4	23.8
694	J-18		黒色頁岩	4.0	6.9	2.4	66.1
695	J-20		黒色頁岩	4.3	6.2	1.9	66.6
696	J-20		黒色頁岩	4.7	6.8	0.9	28.3
697	J-24		黒色頁岩	7.6	9.1	1.4	97.1
698	J-36		黒色安山岩	3.6	1.8	0.7	4.2
699	J-40		黒色頁岩	6.2	5.1	2.0	69.6
700	J-53		黒色頁岩	2.7	2.4	1.5	8.1
701	J-54		黒色安山岩	5.7	4.8	1.5	31.1
702	J-54		黒色頁岩	4.9	2.8	0.6	7.2
703	J-55		細粒輝石安山岩	6.4	6.0	1.7	72.4
704	J-58		黒色頁岩	6.3	7.5	2.0	104.3
705	J-65		黒色頁岩	(5.7)	4.6	1.2	33.7
706	J-66		黒色頁岩	2.2	4.0	1.2	9.2
707	J-74		黒色安山岩	(3.5)	4.9	1.3	20.6
708	J-74		黒色頁岩	7.2	6.6	2.6	145.7
709	J-94		黒色頁岩	4.7	4.2	0.9	20.1
710	J-98		黒色頁岩	2.7	1.8	0.7	2.8
711	J-99		黒色頁岩	6.2	6.0	2.0	71.0
712	J-114		黒色頁岩	7.4	7.3	3.1	232.8
713	J-114		黒色安山岩	4.7	3.6	1.6	22.4
714	J-123		黒色頁岩	3.7	2.1	0.7	6.2
715	J-123		チャート	3.3	2.3	1.0	7.7
716	J-123		チャート	2.0	3.8	1.3	9.1
717	J-126		黒曜石	2.4	1.8	0.9	3.7
718	J-133		黒色頁岩	5.1	4.5	1.2	15.8
719	J-133		珪質頁岩	3.9	3.3	1.0	11.9
720	J-133		黒色頁岩	4.2	5.4	1.1	26.2
721	J-133		黒色頁岩	5.3	3.1	0.8	10.4
722	J-133		黒色頁岩	1.8	2.5	0.9	3.3
723	J-139		黒色頁岩	5.4	3.2	0.7	10.8
724	J-139		黒曜石	1.4	1.9	0.4	0.8
725	J-147		黒色頁岩	4.3	4.4	2.0	43.5
726	J-153		黒色頁岩	1.9	2.5	0.9	3.5

第6章 出土遺物

727	J-155	黒色頁岩	10.1	6.5	3.4	243.6
728	J-157	黒色頁岩	5.2	6.6	1.6	47.6
729	J-158	黒色頁岩	7.8	4.7	1.7	46.8
730	J-158	珪質頁岩	12.7	3.6	2.9	130.7
731	J-161	黒色頁岩	4.0	4.1	1.3	15.5
732	J-176	黒色頁岩	3.0	4.6	1.1	19.7
733	J-180	黒色頁岩	4.0	4.6	1.4	25.4
734	J-180	黒色頁岩	2.7	3.5	1.3	9.6
735	J-182	黒色頁岩	7.6	5.6	1.8	94.1
736	J-191	黒色頁岩	9.0	6.6	2.2	127.1
737	J-216	黒色頁岩	6.1	3.4	1.1	23.5
738	J-217	黒色頁岩	7.1	4.8	2.0	64.7
739	905-915	黒色頁岩	4.7	6.3	1.6	46.3
740	905-930	黒色頁岩	3.3	3.9	1.2	10.2
741	905-935	変玄武岩	7.2	2.2	0.8	17.9
742	910-940	黒色頁岩	10.3	6.4	3.7	257.9
743	910-940	黒色頁岩	3.8	5.5	2.2	64.5
744	910-945	黒色頁岩	5.8	4.9	1.5	35.4
745	910-950	黒色安山岩	2.9	2.8	0.9	7.0
746	910-950	黒色頁岩	7.0	3.4	1.1	27.3
747	910-955	黒色頁岩	9.1	4.8	2.0	100.9
748	910-960	黒色頁岩	15.8	4.6	3.1	245.8
749	915-910	黒色頁岩	2.7	3.8	0.9	9.7
750	915-935	黒色頁岩	4.6	5.7	1.3	34.7
751	915-940	黒色頁岩	13.2	5.2	3.4	282.5
752	915-940	チャート	4.6	4.4	1.5	27.7
753	915-970	チャート	2.6	2.9	0.7	4.7
754	920-935	黒曜石	3.0	1.7	1.8	4.1
755	920-940	黒色頁岩	6.2	4.3	1.2	38.5
756	920-945	黒色頁岩	5.4	4.7	1.5	35.7
757	920-945	黒色頁岩	6.1	6.0	1.9	79.7
758	925-915	チャート	1.8	1.7	0.5	1.5
759	925-935	黒色頁岩	7.3	7.9	1.1	79.8
760	925-940	黒色頁岩	6.1	4.5	1.0	26.4
761	930-940	黒色頁岩	4.7	5.1	1.4	33.7
762	930-945	黒色頁岩	5.1	5.4	2.1	46.3
763	930-960	黒色頁岩	3.9	4.9	1.1	20.8
764	935-905	黒色頁岩	7.4	7.7	2.2	91.5
765	935-910	黒色頁岩	2.4	1.6	0.4	1.7
766	935-915	黒色頁岩	4.1	1.4	0.7	3.2
767	935-950	変質玄武岩	7.3	10.6	3.6	402.0
768	940-915	黒色頁岩	6.1	4.3	1.2	35.9
769	940-945	黒色頁岩	6.3	2.7	1.0	26.9
770	940-945	黒色頁岩	7.5	4.0	1.5	44.7
771	940-950	黒色頁岩	4.4	4.3	1.0	14.4
772	940-965	黒色頁岩	3.1	5.5	0.9	17.0
773	945-915	黒色頁岩	2.5	3.5	1.0	8.6
774	945-920	チャート	2.8	3.4	1.0	7.8
775	945-935	黒色頁岩	3.7	6.4	1.8	29.9
776	950-930	黒色頁岩	3.6	2.5	0.7	7.1
777	950-945	黒色頁岩	6.8	5.5	2.0	74.0
778	950-955	黒色頁岩	4.0	2.9	0.8	7.6
779	955-945	黒色頁岩	4.9	9.0	1.4	49.9
780	970-920	黒色頁岩	9.7	6.4	3.2	173.3
781	970-965	黒色頁岩	5.0	6.7	2.0	56.4
782	4住	チャート	2.1	2.4	0.9	4.6
783	10住	黒色頁岩	5.8	5.2	1.8	37.4
784	15土	黒色頁岩	3.1	3.5	1.1	11.0
785	表採	チャート	3.5	3.8	1.2	14.7
786	表採	黒色頁岩	5.4	6.2	2.0	71.0
787	表採	黒色頁岩	2.9	3.9	1.4	16.1
788	表採	黒色頁岩	10.5	5.5	2.9	130.4
789	表採	黒色頁岩	4.5	3.9	1.1	13.7
790	表採	黒曜石	3.0	1.3	0.7	1.7
791	表採	変玄武岩	5.3	5.6	1.2	52.3
792	表採	黒色頁岩	3.7	3.5	0.9	11.8

793	表採		黒色頁岩	4.1	5.1	1.3	32.8
794	表採		黒色頁岩	6.9	5.7	2.6	106.3
795	表採		黒色頁岩	4.3	6.1	2.0	55.0
796	表採		黒色頁岩	6.3	5.7	1.9	71.3
797	表採		黒色頁岩	3.4	4.2	1.3	17.4
798	表採		黒色頁岩	6.3	6.4	1.9	69.7
799	表採		チャート	2.8	2.6	0.8	6.3
800	表採		黒色頁岩	9.5	7.2	2.1	137.4
801	表採		黒色安山岩	5.5	5.1	1.6	42.9
802	表採		黒色頁岩	9.0	4.6	1.3	67.2
803	表採		黒色頁岩	15.2	4.5	3.8	247.0
804	表採		変玄武岩	13.2	3.2	2.0	118.6
石錐							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
805	J-10	I	チャート	2.0	1.8	0.4	1.2
806	J-11	I	チャート	5.2	2.4	0.9	5.1
807	J-11	I	黒色頁岩	4.1	2.2	0.9	7.9
808	J-11	I	黒曜石	1.8	1.5	0.4	0.7
809	J-36	I	黒色頁岩	3.1	2.3	0.9	5.5
810	J-36	I	チャート	1.4	1.8	0.4	0.6
811	J-55	I	黒色頁岩	4.3	1.9	0.7	5.1
812	J-133	I	黒色安山岩	2.0	1.8	0.5	1.5
813	J-133	I	黒色頁岩	3.0	2.1	0.5	2.7
814	J-133	I	チャート	4.2	3.0	1.1	10.5
815	J-139	I	黒色頁岩	3.1	1.9	0.8	4.1
816	J-139	I	黒色頁岩	3.7	2.2	0.6	3.0
817	J-139	I	黒曜石	2.7	2.2	0.6	2.5
818	J-153	I	黒曜石	1.8	1.0	0.6	0.8
819	J-154	I	黒色頁岩	(6.3)	5.3	1.4	19.3
820	J-171	I	チャート	3.4	2.6	1.0	6.4
821	J-180	I	黒曜石	2.3	1.0	0.8	1.2
822	905-930	I	チャート	3.2	2.5	0.8	3.6
823	915-960	I	黒曜石	2.3	1.6	0.7	2.0
824	915-965	I	黒色頁岩	4.7	3.3	1.1	11.0
825	920-940	I	黒曜石	2.1	1.3	0.5	0.9
826	940-945	I	黒色頁岩	4.4	4.3	0.7	15.1
827	8住	I	チャート	1.8	1.6	0.6	1.1
828	表採	I	黒色安山岩	3.9	3.1	1.1	9.9
829	表採	I	チャート	2.6	2.6	1.1	5.5
830	表採	I	チャート	1.8	1.9	0.7	1.9
831	J-10	II	黒色頁岩	2.9	1.4	0.6	2.3
832	J-10	II	黒色頁岩	7.6	3.0	1.3	33.8
833	J-10	II	黒色頁岩	2.6	1.5	0.6	1.9
834	J-11	II	チャート	2.7	2.1	0.7	3.5
835	J-15	II	チャート	3.8	2.6	1.0	6.5
836	J-20	II	黒色頁岩	3.2	1.6	0.7	3.7
837	J-36	II	黒色頁岩	5.6	3.5	1.5	24.9
838	J-54	II	黒色頁岩	6.7	4.0	0.7	11.4
839	J-54	II	黒色安山岩	3.0	1.9	0.5	1.8
840	J-56	II	黒曜石	1.9	1.0	0.4	0.4
841	J-58	II	黒色頁岩	2.4	1.6	0.8	2.3
842	J-66	II	チャート	3.1	2.5	0.8	5.7
843	J-85	II	黒色頁岩	7.0	4.9	1.5	46.7
844	J-94	II	黒色頁岩	3.9	2.5	0.5	4.2
845	J-114	II	黒色頁岩	2.7	1.6	0.6	2.1
846	J-114	II	黒色頁岩	3.9	2.6	1.0	9.8
847	J-114	II	黒色安山岩	2.1	1.0	0.3	0.9
848	J-133	II	チャート	3.2	1.7	0.6	3.2
849	J-139	II	チャート	2.9	1.5	0.6	1.7
850	J-147	II	黒曜石	2.4	1.3	0.6	0.9
851	J-147	II	黒色頁岩	5.0	5.0	1.9	41.5
852	J-150	II	黒色頁岩	6.5	5.8	0.9	26.1
853	J-181	II	黒色頁岩	2.8	2.9	0.7	3.9
854	J-181	II	チャート	2.0	2.0	0.7	2.3
855	J-220	II	黒曜石	2.2	1.7	1.0	2.9

第2節 出土石器

856	J-228	II	黒色頁岩	(4.4)	2.8	1.2	12.9
857	915-920	II	黒色頁岩	3.2	1.2	0.8	2.4
858	920-935	II	黒色頁岩	7.8	4.8	1.0	41.4
859	925-925	II	黒曜石	2.7	1.7	0.7	2.9
860	925-935	II	チャート	3.1	2.6	0.9	5.9
861	930-930	II	黒色頁岩	10.2	5.3	2.4	113.6
862	945-910	II	黒色頁岩	4.6	4.1	0.7	11.2
863	945-940	II	チャート	2.6	1.4	0.5	1.4
864	9住	II	黒曜石	2.6	2.3	0.4	1.5
865	表採	II	黒色頁岩	4.9	2.2	1.4	9.3
866	表採	II	チャート	2.7	1.9	0.7	3.6
867	表採	II	黒曜石	2.9	1.7	0.7	2.3
868	表採	II	黒曜石	2.3	1.5	0.5	1.2
869	表採	II	黒色頁岩	5.6	2.7	1.2	19.3
870	J-11	III	黒色安山岩	2.6	0.7	0.4	0.9
871	J-79	III	黒色頁岩	5.4	1.3	0.7	4.2
872	J-133	III	黒色頁岩	3.7	1.8	0.8	3.9
873	J-183	III	チャート	3.1	1.1	0.3	0.9
874	895-900	III	黒色頁岩	4.7	1.7	0.5	4.4
875	905-930	III	黒色頁岩	3.7	0.9	0.6	1.6
876	10住	III	チャート	2.7	1.0	0.4	1.7

楔形石器

№	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
877	J-10	I	黒曜石	1.4	1.6	0.6	1.2
878	J-20	I	黒色頁岩	4.0	1.7	1.0	9.3
879	J-145	I	チャート	2.3	2.4	0.9	5.5
880	J-157	I	黒色頁岩	2.2	2.2	0.8	4.5
881	J-158	I	黒色頁岩	4.7	5.4	1.0	32.5
882	J-162	I	チャート	3.5	2.4	1.7	14.3
883	J-180	I	黒色安山岩	7.6	5.8	1.4	69.8
884	J-181	I	黒色頁岩	5.0	5.0	2.2	56.2
885	J-263	I	チャート	2.6	1.9	0.7	2.9
886	915-935	I	チャート	1.9	1.7	0.5	2.1
887	925-940	I	黒色安山岩	3.1	2.9	1.0	11.0
888	J-18	II	黒色安山岩	3.1	4.2	0.8	11.2
889	J-133	II	チャート	2.3	2.2	0.8	4.8
890	J-238	II	黒色頁岩	3.2	2.3	0.7	6.7
891	920-925	II	黒曜石	1.9	1.6	0.6	1.8
892	935-960	II	黒色頁岩	4.2	2.9	1.1	16.9
893	表採	II	黒色頁岩	2.5	2.4	0.7	4.8
894	表採	II	黒色頁岩	3.2	3.4	1.4	23.6
895	J-93	III	黒色頁岩	4.0	3.8	1.9	32.2
896	920-965	III	チャート	3.5	2.4	1.1	9.5

石鏃

№	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
897	J-10	凹基	チャート	3.3	2.0	0.4	1.5
898	J-10	凹基	黒色頁岩	2.9	1.7	0.7	2.9
899	J-10	凹基	チャート	2.2	1.8	0.5	1.5
900	J-10	凹基	チャート	1.9	1.8	0.3	0.6
901	J-10	凹基	黒曜石	1.6	1.3	0.3	0.3
902	J-11	凹基	黒色安山岩	1.8	1.6	0.4	0.7
903	J-11	凹基	珪質頁岩	1.6	1.7	0.3	0.5
904	J-11	凹基	黒色頁岩	2.2	1.5	0.4	1.1
905	J-11	凹基	チャート	2.2	1.7	0.3	0.7
906	J-11	凹基	黒色安山岩	3.2	2.7	0.8	4.0
907	J-11	凹基	チャート	1.4	1.5	0.3	0.6
908	J-11	凹基	チャート	2.1	1.5	0.5	1.4
909	J-20	凹基	チャート	2.2	1.5	0.4	0.9
910	J-20	凹基	チャート	2.6	1.6	0.4	1.2
911	J-36	凹基	チャート	1.5	1.5	0.3	0.4
912	J-36	凹基	黒曜石	1.3	1.5	0.4	0.5
913	J-53	凹基	黒曜石	1.5	1.0	0.2	0.2
914	J-54	凹基	チャート	1.6	1.5	0.2	0.3
915	J-55	凹基	チャート	2.2	1.5	0.5	1.0

916	J-55	凹基	チャート	3.0	2.3	0.8	4.3
917	J-93	凹基	チャート	1.3	1.1	0.3	0.3
918	J-114	凹基	黒曜石	1.6	1.5	0.3	0.5
919	J-118	凹基	チャート	1.3	1.2	0.3	0.4
920	J-120	凹基	黒色頁岩	1.6	1.3	0.3	0.4
921	J-133	凹基	黒色安山岩	2.5	1.7	0.6	1.9
922	J-133	凹基	黒曜石	2.0	1.5	0.5	1.1
923	J-133	凹基	黒色安山岩	3.0	2.6	0.6	3.2
924	J-133	凹基	チャート	1.7	1.2	0.3	0.5
925	J-136	凹基	黒色安山岩	3.0	2.3	0.6	3.2
926	J-139	凹基	黒曜石	1.3	1.4	0.3	0.3
927	J-147	凹基	黒曜石	1.9	1.3	0.5	0.9
928	J-147	凹基	チャート	1.2	1.2	0.3	0.3
929	J-161	凹基	黒色頁岩	2.1	1.2	0.4	0.9
930	J-171	凹基	黒色安山岩	2.8	1.7	0.4	1.6
931	J-180	凹基	チャート	2.3	1.7	0.3	0.7
932	J-191	凹基	黒曜石	1.9	1.6	0.3	0.5
933	J-199	凹基	黒色安山岩	1.9	1.8	0.4	0.9
934	1住	凹基	黒曜石	1.1	1.3	0.3	0.2
935	895-895	凹基	黒色安山岩	1.7	1.1	0.4	0.5
936	895-900	凹基	黒曜石	2.1	2.0	0.5	1.4
937	895-910	凹基	黒色安山岩	2.8	1.6	0.5	1.4
938	895-910	凹基	黒色安山岩	1.5	1.8	0.4	0.9
939	900-895	凹基	チャート	2.7	1.4	0.3	1.0
940	900-925	凹基	黒曜石	1.9	1.7	0.5	1.2
941	900-930	凹基	黒曜石	1.8	1.5	0.6	0.7
942	905-895	凹基	黒色安山岩	2.0	1.5	0.5	0.7
943	905-900	凹基	チャート	2.1	1.4	0.3	0.6
944	905-905	凹基	黒曜石	2.1	1.7	0.4	1.1
945	905-920	凹基	黒色安山岩	3.1	1.9	0.5	1.8
946	905-920	凹基	黒色安山岩	2.5	2.0	0.5	1.6
947	905-925	凹基	チャート	2.1	1.5	0.3	0.5
948	905-925	凹基	チャート	1.4	0.9	0.2	0.1
949	905-925	凹基	黒色安山岩	2.1	1.9	0.4	1.1
950	905-930	凹基	チャート	1.8	1.3	0.2	0.3
951	905-935	凹基	黒曜石	1.7	1.1	0.3	0.3
952	910-900	凹基	チャート	1.3	1.8	0.3	0.5
953	910-920	凹基	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.3
954	910-920	凹基	黒曜石	1.4	1.3	0.3	0.4
955	910-920	凹基	黒曜石	3.3	2.3	0.8	3.3
956	910-930	凹基	チャート	2.2	1.8	0.4	1.2
957	910-940	凹基	チャート	1.5	1.3	0.4	0.7
958	910-945	凹基	黒色安山岩	2.6	2.0	0.4	0.9
959	910-945	凹基	黒曜石	1.8	1.0	0.3	0.4
960	910-960	凹基	黒色安山岩	2.4	1.6	0.5	2.0
961	910-960	凹基	黒色安山岩	3.0	1.8	0.4	1.6
962	915-930	凹基	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.3
963	915-945	凹基	チャート	2.3	1.7	0.4	0.8
964	915-945	凹基	黒色安山岩	2.1	1.2	0.4	0.8
965	915-950	凹基	チャート	2.4	1.5	0.4	0.8
966	920-925	凹基	黒色安山岩	1.9	1.9	0.4	0.8
967	920-925	凹基	黒色安山岩	1.1	1.1	0.3	0.2
968	920-950	凹基	チャート	2.1	2.1	0.4	1.2
969	920-950	凹基	黒色安山岩	2.8	1.9	0.6	2.2
970	920-950	凹基	黒色安山岩	1.7	1.8	0.4	0.4
971	920-950	凹基	珪質頁岩	2.0	1.7	0.4	0.6
972	920-970	凹基	黒色安山岩	3.4	2.3	0.4	2.4
973	925-935	凹基	チャート	3.5	1.5	0.5	1.9
974	925-940	凹基	黒曜石	1.7	1.4	0.4	0.5
975	925-950	凹基	黒色頁岩	1.9	1.2	0.3	0.5
976	930-935	凹基	チャート	1.2	1.9	0.3	0.6
977	930-945	凹基	チャート	1.9	1.8	0.4	1.0
978	930-945	凹基	黒曜石	2.2	1.5	0.4	0.9
979	935-895	凹基	黒曜石	2.4	1.4	0.6	1.2
980	935-905	凹基	黒色安山岩	1.5	1.7	0.4	0.7
981	935-920	凹基	チャート	2.6	1.7	0.5	1.6

第6章 出土遺物

982	935-925	凹基	黒曜石	1.6	1.2	0.5	0.6
983	935-930	凹基	黒色頁岩	2.3	1.7	0.5	2.1
984	935-940	凹基	チャート	2.1	1.4	0.5	0.8
985	935-945	凹基	黒色安山岩	2.4	1.5	0.4	1.2
986	935-960	凹基	チャート	1.5	1.2	0.4	0.6
987	935-965	凹基	黒色頁岩	1.9	1.6	0.3	0.6
988	935-965	凹基	黒色安山岩	1.9	1.6	0.3	0.7
989	935-965	凹基	黒色安山岩	1.7	1.4	0.3	0.4
990	935-965	凹基	黒曜石	1.7	0.9	0.3	0.3
991	935-965	凹基	チャート	2.3	1.8	0.6	1.8
992	935-965	凹基	黒色頁岩	2.5	1.7	0.4	1.1
993	940-900	凹基	チャート	4.4	2.0	0.6	3.7
994	940-910	凹基	チャート	1.6	1.4	0.4	0.6
995	940-915	凹基	黒曜石	1.6	1.0	0.3	0.5
996	940-940	凹基	チャート	2.4	1.4	0.5	1.0
997	940-945	凹基	黒色安山岩	1.9	1.8	0.4	0.9
998	940-950	凹基	チャート	1.8	1.4	0.3	0.5
999	940-950	凹基	黒色頁岩	1.7	1.8	0.4	1.6
1000	945-910	凹基	黒色頁岩	2.4	1.2	0.5	0.8
1001	945-925	凹基	黒曜石	2.5	1.6	0.5	1.3
1002	945-930	凹基	黒曜石	2.1	1.5	0.5	1.0
1003	945-935	凹基	黒曜石	2.0	1.2	0.3	0.4
1004	945-935	凹基	黒色安山岩	1.5	1.6	0.5	0.9
1005	945-940	凹基	黒色安山岩	2.3	1.4	0.4	1.0
1006	945-965	凹基	黒色頁岩	2.8	1.8	0.5	1.8
1007	950-950	凹基	黒色安山岩	2.4	1.3	0.4	0.8
1008	950-950	凹基	黒色頁岩	1.6	1.1	0.5	0.7
1009	950-960	凹基	黒色頁岩	3.1	1.4	0.5	1.6
1010	960-920	凹基	黒曜石	1.2	1.1	0.3	0.3
1011	985-905	凹基	黒曜石	2.0	0.9	0.3	0.4
1012	表採	凹基	チャート	2.8	1.7	0.4	1.5
1013	表採	凹基	黒曜石	1.8	1.6	0.4	0.7
1014	表採	凹基	黒色頁岩	2.1	1.6	0.4	1.1
1015	表採	凹基	チャート	1.6	1.2	0.2	0.2
1016	表採	凹基	チャート	2.0	1.2	0.4	0.8
1017	表採	凹基	黒曜石	1.7	1.0	0.3	0.3
1018	表採	凹基	チャート	2.3	1.3	0.3	0.6
1019	表採	凹基	黒曜石	1.8	1.5	0.3	0.5
1020	表採	凹基	チャート	2.1	1.6	0.5	1.1
1021	表採	凹基	チャート	1.8	1.5	0.4	0.2
1022	表採	凹基	チャート	1.8	2.0	0.2	0.5
1023	表採	凹基	珪質頁岩	2.5	1.7	0.6	1.8
1024	表採	凹基	チャート	1.8	1.5	0.4	0.8
1025	表採	凹基	チャート	2.0	2.0	0.5	1.6
1026	表採	凹基	黒曜石	1.9	1.2	0.3	0.4
1027	表採	凹基	チャート	2.0	2.0	0.6	1.9
1028	表採	凹基	黒曜石	1.9	1.1	0.3	0.4
1029	表採	凹基	黒曜石	1.4	1.0	0.3	0.2
1030	表採	凹基	チャート	1.2	1.1	0.3	0.3
1031	表採	凹基	黒曜石	1.0	1.0	0.4	0.3
1032	表採	凹基	黒色安山岩	1.4	2.3	0.5	1.0
1033	表採	凹基	黒色頁岩	1.7	1.3	0.3	0.5
1034	表採	凹基	黒曜石	1.6	1.8	0.4	0.5
1035	表採	凹基	黒曜石	2.3	1.4	0.5	0.8
1036	表採	凹基	黒色安山岩	2.6	1.9	0.5	2.2
1037	表採	凹基	黒色頁岩	2.4	1.5	0.4	1.2
1038	表採	凹基	黒色安山岩	3.1	1.9	0.6	2.4
1039	表採	凹基	チャート	1.7	1.5	0.4	0.4
1040	表採	凹基	チャート	2.9	2.0	0.4	1.5
1041	表採	凹基	黒色安山岩	2.0	2.1	0.4	1.4
1042	表採	凹基	チャート	3.0	2.1	0.4	1.3
1043	表採	凹基	チャート	1.9	1.2	0.3	0.5
1044	表採	凹基	黒曜石	1.4	1.7	0.3	0.6
1045	表採	凹基	黒色安山岩	2.1	1.5	0.4	0.6
1046	J-10	平基	黒色頁岩	1.2	1.1	0.3	0.3
1047	J-11	平基	チャート	2.9	2.1	0.8	3.5

1048	J-56	平基	黒曜石	1.8	1.3	0.5	1.0
1049	J-70	平基	黒曜石	1.8	1.7	0.5	1.5
1050	J-93	平基	黒色頁岩	2.4	1.8	0.6	2.2
1051	J-96	平基	黒曜石	1.8	1.2	0.5	0.7
1052	J-114	平基	チャート	2.6	2.1	0.8	2.9
1053	J-133	平基	黒色安山岩	2.6	2.0	0.5	2.2
1054	J-157	平基	黒色安山岩	3.3	2.3	1.0	7.1
1055	J-228	平基	黒曜石	2.3	1.8	0.8	2.3
1056	905-895	平基	チャート	2.0	1.9	0.5	1.4
1057	920-925	平基	チャート	1.6	0.9	0.3	0.3
1058	935-915	平基	チャート	1.9	1.8	0.5	1.3
1059	935-965	平基	チャート	1.7	1.4	0.5	0.8
1060	940-935	平基	チャート	2.1	1.7	0.5	0.8
1061	表採	平基	チャート	1.3	1.1	0.4	0.3
1062	J-55	凸基	チャート	2.1	1.8	0.7	2.5
1063	J-133	凸基	黒色頁岩	3.2	2.6	0.7	5.7
1064	J-190	凸基	黒色安山岩	3.3	2.5	0.9	7.6
1065	6住	凸基	黒色安山岩	2.6	1.0	0.3	0.7
1066	表採	凸基	黒曜石	2.1	1.4	0.5	1.0
1067	J-147	有基	チャート	3.6	1.5	0.6	1.7
1068	945-930	有基	黒色頁岩	2.1	1.1	0.4	0.7
1069	900-900	破片	黒曜石	2.3	1.7	0.6	1.7
1070	表採	破片	チャート	1.8	1.4	0.4	0.6

尖頭器

No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1071	J-11		黒色頁岩	3.5	2.6	1.2	8.4
1072	J-54		黒曜石	2.9	2.7	1.2	6.6
1073	915-950		チャート	3.5	2.9	0.9	7.1
1074	920-940		チャート	4.1	2.8	1.0	10.9
1075	表採		黒色安山岩	4.5	3.8	1.0	17.0

石核

No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1076	J-10		黒色安山岩	5.8	8.1	2.6	135.1
1077	J-10		黒曜石	1.8	1.5	0.6	1.3
1078	J-11		チャート	6.6	6.5	4.7	199.7
1079	J-11		黒曜石	2.1	3.0	1.4	5.3
1080	J-20		黒曜石	1.9	1.6	1.7	4.4
1081	J-36		黒曜石	1.3	2.3	2.0	5.2
1082	J-53		黒色頁岩	8.7	8.8	4.6	417.9
1083	J-55		黒曜石	1.3	2.4	1.0	2.6
1084	J-93		黒曜石	1.9	2.3	1.1	4.4
1085	J-114		黒曜石	2.0	2.1	1.7	6.9
1086	J-122		チャート	2.1	1.7	0.9	3.4
1087	J-123		黒色頁岩	6.4	8.6	3.5	238.3
1088	J-123		黒曜石	2.0	2.1	1.3	4.2
1089	J-133		黒曜石	2.0	2.2	1.7	5.2
1090	J-135		チャート	2.6	3.3	1.2	8.3
1091	J-139		チャート	2.5	2.7	1.0	6.1
1092	J-144		黒曜石	2.2	1.3	1.3	3.2
1093	J-157		黒曜石	2.0	1.8	2.0	7.5
1094	J-158		黒色頁岩	6.6	7.9	3.5	197.1
1095	J-181		黒色頁岩	5.8	4.6	3.2	98.8
1096	J-209		チャート	3.0	3.4	1.2	8.9
1097	905-925		黒曜石	1.9	2.3	1.8	6.6
1098	910-955		黒色頁岩	4.4	4.9	2.7	50.7
1099	915-960		黒曜石	1.6	2.7	1.6	5.6
1100	925-935		黒曜石	2.0	1.9	1.1	4.7
1101	930-935		チャート	3.7	4.3	2.2	36.0
1102	930-940		黒曜石	1.4	2.2	2.0	5.3
1103	935-900		石英	3.1	2.3	2.0	16.7
1104	935-930		黒色頁岩	7.1	6.2	2.2	80.2
1105	935-935		チャート	3.0	4.1	1.2	13.8
1106	935-945		黒曜石	1.4	2.1	1.4	4.1
1107	940-940		黒曜石	2.1	2.0	1.7	6.1

第2節 出土石器

1108	945-920		チャート	2.5	2.2	0.8	3.7
1109	955-945		黒曜石	2.0	2.1	1.5	6.1
1110	960-960		黒色頁岩	5.1	7.0	3.0	140.2
1111	4住		黒色頁岩	9.0	3.8	2.9	103.2
1112	10住		黒曜石	2.4	2.8	1.1	6.4
1113	13住		黒色頁岩	5.2	7.4	2.3	74.7
1114	表採		黒色頁岩	4.2	5.8	4.0	121.6
1115	表採		チャート	2.3	4.4	1.5	15.0
1116	表採		黒曜石	1.6	1.7	1.6	4.2
石棒							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1117	J-200		緑色片岩	(15.2)	6.1	5.3	494.9
1118	915-970		緑色片岩	(8.2)	2.9	2.2	88.2
1119	表採		緑色片岩	(12.7)	5.4	4.6	428.0
1120	表採		粗粒輝石安山岩	22.1	12.1	9.1	2023.0
石匙							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1121	J-30		黒色頁岩	5.9	2.6	0.9	12.9
1122	950-960		黒色頁岩	(4.3)	4.0	0.6	10.7
1123	表採		黒曜石	7.3	2.0	0.6	8.8
石錘							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1124	950-930		黒色頁岩	5.0	4.1	1.0	32.9
異形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1125	J-93		黒曜石	2.8	1.7	0.6	1.6

1126	J-114		粗粒輝石安山岩	2.6	2.4	0.9	2.9
1127	J-163		黒曜石	2.2	2.1	0.5	1.1
1128	940-895		チャート	3.4	3.3	0.8	6.6
石製円板							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1129	905-935		雲母石英片岩	3.9	4.1	0.7	13.0
垂飾品							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1130	J-54		軽石	7.2	5.7	1.5	25.2
1131	J-147		軽石	(7.0)	(6.3)	1.7	21.9
1132	935-915		珪質粘板岩	3.7	(2.5)	0.7	5.0
装飾品							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1133	J-125		軽石	(9.2)	7.0	1.9	83.0
乳鉢状石製品							
No.	出土位置	類型	石 材	高さ (cm)	口径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1134	915-955		軽石	4.7	7.5	—	42.9
研磨痕ある礫							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1135	950-940		黒色頁岩	6.0	3.1	1.3	31.4
1136	表採		細粒輝石安山岩	6.9	5.2	2.1	116.4

第6章 出土遺物

4 県側道3区出土石器の概要

出土石器は、993点のうち345点を図示した。各器種の利用石材構成は、p.323の県側道3区器種別石材構成表に示した。その多くは、縄文時代包含層遺構外出土のものである。以下、各器種についての概要を記述する。

台石 (第664・665図 PL270)

平坦面に敲打痕のあるもの、平坦面の一部に摩滅が観察されるものがある。(1)は、両面磨面がある台石で、敷石住居の接合部に置かれていた。(2、3)は、扁平な石で円錐状の窪みを持つ。石材は、粗粒輝石安山岩と石英閃緑岩である。

石皿 (第665・666図 PL270)

出土した9点のうち4点を図示した。破損品が多く、敷石住居などの敷石等に転用されている。形態は、有縁のものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩と緑色片岩である。

石皿・多孔石 (第666～669図 PL270～272)

出土した26点中11点を図示した。石皿の磨面と円錐状の窪みを併せ持つものである。石皿の形態は有縁で、石皿のみのもものと区別は出来ない。凹孔が穿たれるのは、主として裏面であるが、表面に凹孔が穿たれるものもある。その場合磨面ではなく、縁を利用して凹孔が穿たれる。(15)は、磨面に凹孔を有するが、破損した後凹石として転用されたために凹孔を穿ったと思われる。使用石材は、粗粒輝石安山岩が多く、溶結凝灰岩もある。

多孔石 (第670・671図 PL273・274)

出土した31点のうち9点を図示した。扁平な礫や円礫を使用している。窪みは円錐形の傾斜が比較的鋭角なものである。扁平な礫では、窪みは表裏に穿たれるが円礫では、側縁にも窪みが付けられる。窪みは、単独で複数付けられるものから窪みが重複するように密に穿たれるものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩が主であるが、他に雲母石英片岩もある。

凹石 (第672図 PL274)

出土した6点中3点を図示した。円礫に円錐形の窪みを持つ。窪みは、多孔石に穿たれていた窪みよりも大きく傾斜が緩やかなものを1～2個有する。使用石材は粗粒輝石安山岩である。

凹石・磨石 (第672図 PL274)

出土した7点中3点を図示した。窪みは、凹石と同様径の大きなものである。磨面は、表裏に見られた。使用石材は粗粒輝石安山岩である。

磨石 (第672・673図 PL274)

出土した12点中8点を図示した。細長い棒状のものから円礫、扁平な礫と形状は多様である。磨面は、表裏面に持つものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩、石英閃緑岩である。

磨石・敲打石 (第673～676図 PL274・275)

出土した56点中24点を図示した。形状は、棒状、円形、楕円形、方形等があり、面取りして形を整えているものもある。磨面は、表裏面に多い。敲打痕は、表裏面や側面につけられる。使用石材は、粗粒輝石安山岩が大部分で、ひん岩も利用されている。

敲打石 (第676・677図 PL275)

出土した17点中8点を図示した。円礫を使用しているものが多い。形状は、円形(67、71)、長楕円形(68、69)、大型の棒状(70)、小型の棒状(72～74)等がある。円形、楕円形のは、敲打痕が表裏面や側面に付け

られる。大型の棒状のものは、側縁に敲打痕を持ち、小型の棒状のものは、先端部に敲打痕を持つ傾向にある。使用石材は、粗粒輝石安山岩が主体であるが、小型の敲石は、砂岩や黒色頁岩である。

凹石・磨石・敲石 (第677・678図 PL275)

出土した17点中9点を図示した。形状は、円形に近いもの(76、79、83)や長楕円形(75、77、78、80、81)長方形(82)等がある。円錐形の窪み面を表裏に持ち、側縁に敲打痕を持つ。使用石材は、すべて粗粒輝石安山岩である。

砥石 (第678図 PL275)

縄文時代の砥石である。出土した5点を図示した。側縁は、丸味をもっている。表裏面に砥面を持つ。使用石材は、牛伏砂岩や砂岩、変質デイサイトを_usingしている。

結晶片岩製石器 (第679図 PL275)

出土した16点中11点図示した。雲母石英片岩、黒色片岩、緑色片岩製の扁平で棒状になるものである。面的加工痕を残すもの(88、89、91~93、98)、面的加工と剝離痕を残すもの(90、94、96、97)等がある。

打製石斧 (第680~685図 PL276・277)

破損品を含め280点出土し、79点を図示した。図示した打製石斧の類型別点数は、短冊・撥形70点、分銅形8点、他分類不可能のもの3点ほどである。使用石材は、ホルンフェルス、黒色頁岩、砂岩、細粒輝石安山

県側道3区器種別石材構成

器種 \ 石材	黒色頁岩	粗粒輝石安山岩	黒曜石	細粒輝石安山岩	チャート	砂岩	ホルンフェルス	雲母石英片岩	黒色片岩	溶結凝灰岩	緑色片岩	珪質頁岩	石英閃緑岩	変玄武岩	変質安山岩	変質玄武岩	牛伏砂岩	軽石	黒色安山岩	ひん岩	変質蛇紋岩	変質デイサイト	総計
台石		3											1										4
石皿		3									1												4
石皿・多孔石		10								1													11
多孔石		8						1															9
凹石		3																					3
凹石・磨石		3																					3
磨石		7											1										8
磨石・敲石		23																			1		24
敲石	2	5				1																	8
凹石・磨石・敲石		9																					9
砥石						3											1					1	5
結晶片岩製石器								4	5		2												11
打製石斧	55			17		1	4								1	1							79
三角錐形石器	3																						3
磨製石斧	1			1								1		1	1							1	6
スクレイパー	27		1	1	3														1				33
鋸歯縁石器	5																						5
ノッチ																			1				1
不定形石器	31		1	1	1		2					1				1			2				40
石錐	12		3		1														4				20
楔形石器	3		2																2				7
石鏃	3		8		10														4				25
尖頭器					2														1				3
石核	5		5		1	1													1				13
石棒								1		1				1									3
石匙	3																		1				4
石製円板						1																	1
垂飾品																		1					1
研磨痕ある剥片	1																						1
環状石製品										1													1
総計	151	74	20	20	18	7	6	6	5	3	3	2	2	2	2	2	2	1	1	17	1	1	345

第6章 出土遺物

岩、変質安山岩、変質玄武岩である。そのうち短冊・撥形とも黒色頁岩の使用点数が多く、類型による差はない。摩滅痕と線状痕を持つものが見られた。

三角錐形石器 (第685図 PL277)

出土した4点中3点を図示した。底面は、粗い複数回の剥離により台形状に作出される。基部は、正面稜線上からの剥離により、正面形が三角形に加工される。裏面に自然面を残す(178、179)ものと、全面剥離により成形されるものがある。使用石材は、黒色頁岩である。

磨製石斧 (第686図 PL277)

出土した8点中6点を図示した。器面全体に成形のための研磨が残る。(213)は、先端部を、(503)は基部、その他は、上半部を欠損している。使用石材は、変質蛇紋岩、変玄武岩、細粒輝石安山岩、珪質頁岩、黒色頁岩、変質安山岩などヴァリエティに富んでおり、打製石斧とは異なる傾向にある。

スクレイパー (第686～688図 PL278)

出土した118点中33点を図示した。素材の剥片を大きく加工して作り出すことなく、平面形状も翼状、三角形、方形、台形など様々である。背面に自然面を残す剥片もある。刃部は、側縁部あるいは端部に両面加工、片面加工して作り出している。使用石材は、チャート、黒色安山岩、黒色頁岩、細粒輝石安山岩、黒曜石などである。この中では、黒色頁岩の利用が多い。

鋸歯縁石器 (第688図 PL278)

出土した6点中5点を図示した。スクレイパーと同じく剥片の素材をそのままに加工する。裏面に自然面を残すものもある。刃部に鋸歯状の加工を行っている。使用石材は、黒色頁岩である。

ノッチ (第698図 PL278)

出土した1点を図示した。剥片の縁辺に2次加工により抉りを作り出している。図示したものは、黒色安山岩製の剥片で、一面からの剥離によって抉りが作られている。

不定形石器 (第689～691図 PL278・279)

出土した135点中40点を図示した。(209)は表裏に自然面を残し、一辺に加工が施される。(810)は表面に摩滅と線状痕が認められる。使用石材は、黒色頁岩が大部分を占めるがチャート、ホルンフェルス、珪質頁岩、黒色安山岩、黒曜石、細粒輝石安山岩、変質玄武岩なども利用されている。

県側道3区住居別器種構成

器種 出土位置	台石	石皿	石皿・多孔石	多孔石	凹石・磨石	磨石	磨石・敲石	敲石	凹石・磨石・敲石	結晶片岩製石器	打製石斧	三角錐形石器	スクレイパー	鋸歯縁石器	不定形石器	石錐	楔形石器	石鏃	石核	石匙	総計
1住	1	2	2			2	2	1	1		2				1	1					15
2住							1			1	2		1		3	1		1	1		11
4住						1					2				1	1					5
5住									1		1				1						3
6住										1	2		1						1		5
7住							1			1	4		2	2	2			1			13
8住															1			3			4
9住			1			1			1		5		2		3						13
10住							1				1		2					1	1	1	7
11住			1								5	1	2	2	1			1	1		14
12住			2	2	1				1				2		1	1	1	1			12
13住			1			1	1	1			2		1		1						8
総計	1	2	7	2	1	5	6	2	4	3	26	1	13	4	15	4	1	8	4	1	110

石錐 (第692・693図 PL279)

出土した54点中20点図示した。I類10点、II類9点、III類1点である。錐部の作出には、一側縁に折れ面を残し、片側に二次加工により作り出すものと、両側縁からの二次加工により作り出すものがある。使用石材は黒色頁岩、黒色安山岩、チャート、黒曜石などである。

楔形石器 (第694図 PL279)

出土した17点中7点を図示した。I類3点、II類1点、III類3点である。使用石材は、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩等である。

石鏃 (第695・696図 PL279・280)

出土した66点中25点図示した。凹基17点、凸基1点、平基6点、有茎基1点である。使用石材は、チャート、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩である。この中では、チャートと黒曜石の比率が高い。

尖頭器 (第696図 PL280)

出土した3点を図示した。使用石材は、チャート、黒色安山岩である。側縁を粗い剝離で加工するが、(320)は、側縁の一部を細かな剝離で加工している。

石核 (第696～698図 PL280～282)

出土した31点中13点を図示した。使用石材は、チャート、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩、砂岩である。石核の法量を比較すると黒色頁岩や黒色安山岩等は5cm～10cm、重さも50グラム～300グラムであるのに対して、黒曜石やチャートは、1cm～3cm、重さも5グラム～20グラムと小さいものである。これらのことから各石材によって作り出される器種が異なると推測される。

石棒 (第698図 PL282)

出土した3点を図示した。いずれも無頭で下部が欠損している。(334)は、土坑の覆土中から出土しているが、他はグリッド出土で遺構と関係していない。使用石材は、雲母石英片岩、変玄武岩、溶結凝灰岩である。

石匙 (第698・699図 PL282)

出土した4点を図示した。(377)は、底辺の刃部を片面からと側縁は両面加工で刃部を作っている。(339)は、横型で底辺を片面加工の刃部、(340)は、縦型で側縁を両面加工の刃部を持つ。使用石材は、黒色安山岩、黒色頁岩である。

環状石製品 (第700図 PL282)

出土した1点を図示した。表面は研磨され、中央部に穿孔時の打痕を持つ。土坑から出土しており、女性器を模倣したものと考えられる。使用石材は、溶結凝灰岩である。

石製円板 (第700図 PL282)

砂岩製で両面が磨かれている。

垂飾品 (第700図 PL282)

軽石製で研磨して磨製石斧状の形を作り出している。

第6章 出土遺物

県側道3区出土石器一覧表

台石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	1住		粗粒輝石安山岩	30.6	22.1	15.4	15600.0
2	38土		粗粒輝石安山岩	25.9	20.6	4.9	4026.0
3	41土		石英閃緑岩	21.1	19.8	5.0	3208.0
4	213土		粗粒輝石安山岩	22.9	16.0	19.4	11486.0
石皿							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
5	1住		粗粒輝石安山岩	(16.6)	(14.6)	(5.9)	1143.0
6	1住		粗粒輝石安山岩	(16.1)	(25.6)	(10.0)	3292.0
7	41土		粗粒輝石安山岩	20.2	(12.8)	5.9	2427.0
8	245土		綠色片岩	(21.2)	(9.5)	(5.8)	1333.0
石皿・多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
9	1住		粗粒輝石安山岩	32.8	25.5	10.5	11563.0
10	1住		粗粒輝石安山岩	(19.6)	(12.6)	8.0	2126.0
11	9住		粗粒輝石安山岩	24.0	21.5	8.6	5504.0
12	11住		粗粒輝石安山岩	24.6	32.3	8.5	6000.0
13	12住		粗粒輝石安山岩	(23.3)	(30.7)	10.0	7524.0
14	12住		粗粒輝石安山岩	27.7	21.0	9.2	5522.0
15	13住		粗粒輝石安山岩	(10.8)	(11.5)	(4.6)	466.0
16	32土		溶結凝灰岩	(18.1)	(26.9)	6.7	2786.0
17	63土		粗粒輝石安山岩	(11.4)	(11.8)	4.9	660.0
18	94土		粗粒輝石安山岩	(19.3)	(34.5)	7.7	6789.0
19	98土		粗粒輝石安山岩	(13.9)	20.5	5.8	1635.0
多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
20	12住		雲母石英片岩	19.4	18.3	2.8	1518.0
21	12住		粗粒輝石安山岩	25.4	21.0	8.9	5582.0
22	15土		粗粒輝石安山岩	13.8	12.3	10.3	1951.0
23	40土		粗粒輝石安山岩	18.5	13.4	7.6	2173.0
24	109土		粗粒輝石安山岩	(11.6)	11.9	4.0	721.0
25	322土		粗粒輝石安山岩	11.9	12.4	10.8	2942.0
26	348土		粗粒輝石安山岩	12.3	10.2	7.5	1148.0
27	950-890		粗粒輝石安山岩	15.2	10.7	8.2	1517.0
28	950-905		粗粒輝石安山岩	25.2	16.3	11.4	5566.0
凹石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
29	12土		粗粒輝石安山岩	9.4	8.9	4.9	475.0
30	955-910		粗粒輝石安山岩	10.8	8.3	4.9	491.0
31	965-940		粗粒輝石安山岩	10.7	8.4	6.0	629.0
凹石・磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
32	12住		粗粒輝石安山岩	12.8	9.1	4.6	736.0
33	960-925		粗粒輝石安山岩	10.6	8.9	6.8	766.0
34	960-950		粗粒輝石安山岩	10.5	9.7	5.1	682.0
磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
35	1住		粗粒輝石安山岩	9.0	8.4	6.8	703.0
36	1住		粗粒輝石安山岩	10.4	9.4	4.6	653.0
37	4住		粗粒輝石安山岩	13.7	5.3	4.0	484.0
38	9住		粗粒輝石安山岩	9.7	8.2	5.3	528.0
39	13住		石英閃緑岩	7.0	6.0	4.3	260.0

40	24土		粗粒輝石安山岩	11.5	7.3	6.6	891.0
41	49土		粗粒輝石安山岩	11.7	7.8	3.2	460.0
42	123土		粗粒輝石安山岩	5.6	5.1	2.8	93.0
磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
43	1住		粗粒輝石安山岩	8.6	8.5	4.5	395.0
44	1住		粗粒輝石安山岩	10.9	10.4	6.2	1127.0
45	2住		粗粒輝石安山岩	13.4	9.5	7.7	1168.0
46	7住		粗粒輝石安山岩	10.6	8.2	3.6	446.0
47	10住		粗粒輝石安山岩	9.1	7.1	4.7	360.0
48	13住		粗粒輝石安山岩	(11.6)	8.3	5.4	848.0
49	32土		粗粒輝石安山岩	8.6	7.0	4.2	359.0
50	52土		粗粒輝石安山岩	10.8	9.4	3.4	551.0
51	72土		粗粒輝石安山岩	14.0	8.8	4.6	654.0
52	87土		粗粒輝石安山岩	12.5	9.8	4.4	601.0
53	91土		粗粒輝石安山岩	10.6	7.1	4.2	473.0
54	110土		粗粒輝石安山岩	12.7	8.0	4.3	541.0
55	175土		粗粒輝石安山岩	10.5	7.5	4.3	575.0
56	181土		ひん岩	10.8	7.5	3.6	451.0
57	183土		粗粒輝石安山岩	9.4	6.3	4.0	397.0
58	212土		粗粒輝石安山岩	9.1	8.1	5.7	482.0
59	245土		粗粒輝石安山岩	8.7	6.3	4.7	391.0
60	303土		粗粒輝石安山岩	13.3	8.5	3.8	729.0
61	945-890		粗粒輝石安山岩	8.8	6.7	3.1	279.0
62	955-930		粗粒輝石安山岩	10.1	7.7	4.1	505.0
63	955-930		粗粒輝石安山岩	10.3	8.9	4.7	680.0
64	965-940		粗粒輝石安山岩	(8.2)	(7.0)	4.5	352.0
65	965-945		粗粒輝石安山岩	10.2	9.0	4.6	632.0
66	965-965		粗粒輝石安山岩	11.2	7.4	4.1	527.0
敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
67	1住		粗粒輝石安山岩	7.1	6.9	4.6	291.0
68	13住		粗粒輝石安山岩	11.3	7.7	5.4	636.0
69	10土		粗粒輝石安山岩	7.4	4.0	3.4	111.0
70	49土		粗粒輝石安山岩	20.2	7.2	4.3	839.0
71	915-910		粗粒輝石安山岩	12.0	9.9	6.9	933.0
72	960-945		砂岩	(6.7)	(3.5)	2.3	76.0
73	965-935		黒色頁岩	7.2	2.8	1.4	38.0
74	965-935		黒色頁岩	5.3	2.3	1.6	28.0
凹石・磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
75	1住		粗粒輝石安山岩	12.0	5.9	3.5	322.0
76	5住		粗粒輝石安山岩	11.7	9.3	4.7	614.0
77	9住		粗粒輝石安山岩	11.2	7.3	6.1	586.0
78	12住		粗粒輝石安山岩	12.1	9.1	5.1	776.0
79	24土		粗粒輝石安山岩	8.1	7.7	4.7	349.0
80	72土		粗粒輝石安山岩	14.1	8.1	5.5	821.0
81	147土		粗粒輝石安山岩	14.8	10.1	5.2	1029.0
82	955-930		粗粒輝石安山岩	(12.5)	8.7	6.1	1024.0
83	960-935		粗粒輝石安山岩	8.8	7.5	4.6	356.0
砥石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
84	945-890		砂岩	(7.5)	7.8	1.9	153.0
85	945-910		牛伏砂岩	4.0	6.5	1.1	26.0
86	950-910		砂岩	6.0	7.9	1.9	129.0
87	955-930		砂岩	5.7	6.0	2.3	83.0

第2節 出土石器

結晶片岩製石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
88	2住		黒色片岩	14.2	4.0	2.1	181.9
89	6住		黒色片岩	15.4	3.5	2.5	197.2
90	7住		雲母石英片岩	(9.8)	4.2	2.1	148.7
91	179土		黒色片岩	(12.3)	2.6	1.9	86.9
92	215土		黒色片岩	(12.2)	3.8	1.9	133.1
93	244土		雲母石英片岩	(7.0)	3.1	1.9	66.2
94	915-940		緑色片岩	(13.2)	3.6	2.2	144.9
95	950-890		黒色片岩	12.7	3.4	1.2	74.3
96	950-890		緑色片岩	10.6	5.3	1.5	144.7
97	960-940		雲母石英片岩	9.8	3.6	1.8	95.6
98	960-945		雲母石英片岩	12.9	3.4	1.4	112.1
打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
99	1住	I	黒色頁岩	11.0	4.6	1.6	94.5
100	1住	I	黒色頁岩	9.5	5.6	2.2	118.4
101	2住	I	黒色頁岩	9.3	4.7	1.3	62.0
102	2住	I	黒色頁岩	10.8	4.9	2.1	122.0
103	4住	I	黒色頁岩	8.0	4.7	1.7	59.6
104	5住	I	細粒輝石安山岩	9.8	6.0	1.9	87.7
105	6住	I	黒色頁岩	12.7	5.3	2.0	152.4
106	6住	I	黒色頁岩	10.6	4.0	2.1	98.0
107	7住	I	細粒輝石安山岩	12.7	6.9	2.3	215.4
108	7住	I	黒色頁岩	7.4	4.5	1.4	36.2
109	7住	I	黒色頁岩	10.4	4.0	1.7	86.6
110	9住	I	細粒輝石安山岩	10.0	4.3	0.8	41.1
111	9住	I	細粒輝石安山岩	11.6	6.2	2.8	172.5
112	9住	I	ホルンフェルス	10.6	7.0	2.3	169.8
113	9住	I	黒色頁岩	10.3	4.0	1.3	77.7
114	9住	I	黒色頁岩	9.2	4.8	2.1	76.8
115	10住	I	黒色頁岩	9.2	5.9	1.9	118.4
116	11住	I	黒色頁岩	11.1	4.8	2.5	151.3
117	11住	I	細粒輝石安山岩	13.4	6.8	2.8	264.4
118	11住	I	細粒輝石安山岩	9.6	3.9	1.4	70.7
119	11住	I	黒色頁岩	8.7	4.4	1.8	68.3
120	11住	I	黒色頁岩	7.7	6.1	2.5	111.8
121	13住	I	黒色頁岩	11.4	5.5	2.2	153.8
122	13住	I	黒色頁岩	10.1	5.6	1.6	96.8
123	12土	I	黒色頁岩	10.6	5.1	1.7	89.1
124	22土	I	黒色頁岩	9.6	5.5	1.7	97.8
125	27土	I	細粒輝石安山岩	10.9	46.0	1.7	101.4
126	31土	I	黒色頁岩	7.7	4.8	1.4	51.3
127	58土	I	黒色頁岩	7.2	3.7	1.1	25.4
128	69土	I	砂岩	8.9	4.4	1.4	72.8
129	72土	I	黒色頁岩	10.0	5.7	2.0	106.4
130	90土	I	黒色頁岩	12.3	6.9	2.6	244.7
131	109土	I	ホルンフェルス	10.8	5.0	2.0	122.9
132	112土	I	細粒輝石安山岩	9.8	5.5	2.2	128.1
133	187土	I	細粒輝石安山岩	8.8	4.3	2.1	91.1
134	195土	I	黒色頁岩	10.1	4.8	2.8	135.3
135	213土	I	黒色頁岩	13.1	4.4	2.2	130.6
136	220土	I	黒色頁岩	9.8	5.3	1.8	92.0
137	220土	I	細粒輝石安山岩	7.5	4.4	1.7	55.5
138	237土	I	細粒輝石安山岩	11.2	5.3	1.8	121.8
139	254土	I	黒色頁岩	(10.8)	4.4	2.3	112.4
140	256土	I	黒色頁岩	7.4	3.8	1.9	48.1
141	279土	I	黒色頁岩	11.1	6.5	1.3	99.6
142	281土	I	黒色頁岩	8.3	4.9	1.1	45.6
143	288土	I	細粒輝石安山岩	11.2	4.9	1.8	87.6

144	288土	I	黒色頁岩	7.4	4.9	1.7	70.8
145	308土	I	黒色頁岩	8.1	4.2	2.0	85.2
146	940-915	I	細粒輝石安山岩	(11.3)	5.3	1.9	87.9
147	950-885	I	黒色頁岩	9.9	5.4	1.5	101.5
148	950-890	I	黒色頁岩	(11.8)	5.6	2.3	176.7
149	950-915	I	ホルンフェルス	(8.9)	4.1	1.2	58.0
150	950-915	I	黒色頁岩	8.3	4.0	1.6	62.8
151	955-915	I	黒色頁岩	9.3	6.3	2.3	126.4
152	960-925	I	黒色頁岩	12.2	5.8	2.8	190.7
153	960-940	I	変質安山岩	12.0	5.5	2.3	189.6
154	960-940	I	黒色頁岩	9.8	4.4	1.4	81.5
155	960-940	I	変質玄武岩	7.1	3.3	1.1	32.6
156	960-945	I	細粒輝石安山岩	9.9	5.0	1.9	107.4
157	960-955	I	黒色頁岩	10.5	5.5	2.4	162.6
158	965-935	I	黒色頁岩	14.3	6.3	2.7	231.8
159	965-935	I	黒色頁岩	10.6	4.8	2.0	120.8
160	965-945	I	黒色頁岩	9.7	4.8	1.6	79.5
161	965-955	I	細粒輝石安山岩	9.5	4.9	1.9	81.7
162	965-965	I	黒色頁岩	8.5	4.1	1.6	65.6
163	970-945	I	黒色頁岩	9.0	5.4	1.7	99.3
164	970-950	I	黒色頁岩	9.8	4.5	1.3	78.4
165	表採	I	黒色頁岩	7.9	4.3	1.3	47.4
166	表採	I	黒色頁岩	9.2	4.0	1.8	72.6
167	4住	II	黒色頁岩	9.9	5.2	1.4	93.4
168	33土	II	黒色頁岩	7.9	5.3	1.4	52.6
169	35土	II	細粒輝石安山岩	7.6	5.8	1.7	93.5
170	945-890	II	黒色頁岩	11.6	5.1	2.2	145.8
171	945-890	II	黒色頁岩	8.7	6.0	1.4	55.9
172	950-905	II	黒色頁岩	9.6	6.7	2.5	170.6
173	960-915	II	ホルンフェルス	(9.4)	6.7	1.8	128.1
174	960-950	II	黒色頁岩	(8.7)	5.2	2.0	91.6
175	7住	不明	細粒輝石安山岩	(11.5)	5.1	2.9	171.6
176	960-940	不明	黒色頁岩	6.2	3.1	1.2	25.9
177	960-960	不明	黒色頁岩	6.3	6.1	3.0	103.4
三角錐形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
178	11住		黒色頁岩	8.9	4.4	4.5	170.9
179	955-930		黒色頁岩	6.8	4.6	4.4	191.6
180	表採		黒色頁岩	11.9	7.9	5.3	492.8
磨製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
181	8土		変質蛇紋岩	2.1	2.4	0.8	4.9
182	57土		変玄武岩	10.3	4.9	2.6	202.1
183	159土		細粒輝石安山岩	3.9	2.6	0.9	8.1
184	955-935		変質安山岩	8.6	5.5	2.4	184.4
185	960-930		珪質頁岩	4.9	3.3	1.0	24.2
186	965-930		黒色頁岩	(12.5)	5.6	3.5	338.0
スクレイパー							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
187	2住	I	黒色頁岩	4.8	4.7	1.3	34.0
188	6住	I	黒色頁岩	3.9	7.3	1.9	45.3
189	10住	I	黒色頁岩	7.7	4.0	1.6	52.6
190	11住	I	黒色頁岩	2.9	3.3	1.2	9.9
191	12住	I	黒色頁岩	4.9	7.7	1.5	59.2
192	12住	I	黒曜石	2.6	1.4	0.7	2.2
193	13住	I	黒色頁岩	5.0	7.9	2.9	121.2
194	54土	I	黒色頁岩	4.2	6.5	1.3	31.5
195	90土	I	黒色頁岩	3.8	3.8	1.9	28.4
196	102土	I	黒色頁岩	5.6	5.3	2.5	81.8

第6章 出土遺物

197	191土	I	黒色頁岩	9.3	5.8	1.5	67.4
198	192土	I	黒色頁岩	6.0	6.0	1.8	72.1
199	253土	I	黒色頁岩	6.1	11.1	3.3	181.3
200	253土	I	黒色頁岩	5.0	7.1	2.0	79.6
201	940-915	I	黒色頁岩	4.7	7.5	0.9	39.2
202	955-910	I	黒色頁岩	3.7	7.6	1.1	33.2
203	955-940	I	黒色頁岩	4.7	6.2	1.4	25.0
204	960-940	I	黒色頁岩	8.0	6.3	1.0	76.3
205	7住	II	黒色頁岩	4.4	4.5	1.6	41.3
206	7住	II	黒色頁岩	5.4	4.8	1.7	40.8
207	9住	II	黒色頁岩	5.1	7.4	2.1	87.1
208	9住	II	黒色安山岩	2.9	4.1	1.0	11.2
209	10住	II	黒色頁岩	3.5	7.4	1.2	26.5
210	11住	II	チャート	3.5	3.1	1.4	10.3
211	31土	II	黒色頁岩	2.9	5.7	1.1	19.7
212	39土	II	細粒輝石安山岩	5.1	7.3	1.3	63.8
213	228土	II	黒色頁岩	7.3	7.5	2.3	122.7
214	261土	II	黒色頁岩	2.0	3.1	0.9	6.0
215	301土	II	黒色頁岩	4.1	5.0	0.6	14.7
216	955-910	II	チャート	2.7	3.8	1.4	10.9
217	955-935	II	黒色頁岩	6.4	7.2	1.5	94.3
218	960-925	II	黒色頁岩	5.2	8.1	1.2	59.7
219	960-955	II	チャート	2.4	2.6	0.9	5.6
鋸齒縁石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
220	7住		黒色頁岩	6.1	6.6	1.6	61.5
221	7住		黒色頁岩	4.4	8.8	1.6	52.3
222	11住		黒色頁岩	5.9	7.6	2.5	88.8
223	11住		黒色頁岩	6.2	7.1	2.1	100.1
224	250土		黒色頁岩	6.5	5.6	2.0	65.2
ノッチ							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
225	14土		黒色安山岩	3.2	4.5	0.9	13.8
不定形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
226	1住		黒色頁岩	3.8	5.2	1.3	16.5
227	2住		黒色頁岩	7.0	12.6	3.6	345.4
228	2住		黒色頁岩	7.6	5.7	2.4	98.6
229	2住		黒色頁岩	4.4	7.0	0.7	16.6
230	4住		黒色頁岩	4.8	5.4	1.6	58.3
231	5住		黒色頁岩	4.6	6.2	2.1	54.2
232	7住		黒色頁岩	7.5	9.2	1.9	110.0
233	7住		珪質頁岩	16.1	4.5	2.7	223.6
234	8住		ホルンフェルス	5.0	8.9	2.5	120.0
235	9住		黒色頁岩	9.9	6.5	2.3	115.1
236	9住		細粒輝石安山岩	10.9	8.1	3.9	446.9
237	9住		黒色頁岩	6.1	6.0	2.0	92.5
238	11住		黒色頁岩	3.1	5.1	0.7	10.8
239	12住		黒色安山岩	4.4	3.1	1.4	20.6
240	13住		黒色安山岩	6.1	3.0	1.5	22.0
241	1土		黒色頁岩	4.9	6.0	1.7	44.2
242	8土		黒色頁岩	5.5	7.4	2.2	74.9
243	11土		黒色頁岩	4.8	5.6	1.8	53.5
244	27土		黒曜石	2.4	1.2	0.4	1.1
245	40土		黒色頁岩	6.0	6.1	2.5	121.7
246	54土		黒色頁岩	4.9	5.8	0.8	22.2
247	72土		黒色頁岩	12.9	5.4	2.6	129.2
248	72土		黒色頁岩	5.2	3.3	1.8	36.5
249	87土		黒色頁岩	6.2	4.8	2.2	60.1

250	111土		黒色頁岩	4.9	2.8	0.8	10.8
251	221土		黒色頁岩	3.8	7.0	1.4	29.2
252	222土		変質玄武岩	7.4	3.5	2.0	59.9
253	231土		黒色頁岩	3.4	5.4	2.0	33.8
254	237土		黒色頁岩	9.6	7.9	2.7	247.5
255	237土		黒色頁岩	5.7	8.0	2.3	104.7
256	243土		黒色頁岩	6.4	3.3	1.4	40.2
257	288土		黒色頁岩	4.5	5.8	3.5	86.1
258	945-900		黒色頁岩	6.8	5.8	1.9	80.2
259	950-900		黒色頁岩	5.3	2.9	1.0	10.9
260	950-905		ホルンフェルス	8.1	10.8	3.0	380.1
261	950-905		黒色頁岩	4.6	6.3	1.3	37.4
262	960-945		黒色頁岩	4.9	5.0	1.3	33.8
263	960-945		チャート	4.9	3.0	0.9	10.4
264	975-965		黒色頁岩	3.9	3.8	1.8	25.3
265	表採		黒色頁岩	4.0	3.5	0.8	12.6
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
266	2住	I	黒色頁岩	(3.6)	1.9	1.2	5.7
267	33土	I	黒曜石	3.3	1.4	1.0	3.5
268	57土	I	黒色頁岩	3.7	6.2	1.1	22.2
269	57土	I	黒色安山岩	4.7	3.9	1.3	18.9
270	77土	I	黒色安山岩	2.0	1.9	0.4	1.3
271	96土	I	黒色安山岩	2.6	1.6	0.7	2.0
272	250土	I	チャート	3.1	1.6	0.6	1.5
273	270土	I	黒色頁岩	5.3	3.6	1.1	14.0
274	960-930	I	黒色頁岩	4.5	5.3	1.0	20.8
275	965-955	I	黒色頁岩	(4.3)	3.4	0.7	8.3
276	1住	II	黒曜石	1.9	1.9	0.4	0.9
277	4住	II	黒色頁岩	6.6	2.8	0.9	14.9
278	12住	II	黒色頁岩	3.9	3.0	1.2	10.5
279	14土	II	黒色頁岩	9.0	4.4	2.4	83.6
280	99土	II	黒色頁岩	11.0	4.2	7.3	89.6
281	321土	II	黒色頁岩	5.7	2.7	0.9	10.7
282	945-915	II	黒色安山岩	3.0	2.7	1.1	7.2
283	950-915	II	黒色頁岩	4.7	2.7	1.1	12.6
284	965-945	II	黒曜石	2.1	1.8	0.8	2.4
285	表採	III	黒色頁岩	8.6	2.8	1.4	28.8
楔形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
286	12住	I	黒色頁岩	2.4	3.4	0.8	6.8
287	106土	I	黒曜石	1.5	1.9	0.6	1.7
288	950-905	I	黒曜石	1.6	2.0	0.6	1.8
289	表採	II	黒色頁岩	2.5	2.4	1.0	7.5
290	109土	III	黒色頁岩	4.5	4.8	0.8	19.1
291	955-940	III	黒色安山岩	5.0	4.1	1.0	24.0
292	965-965	III	黒色安山岩	2.5	2.4	0.8	4.6
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
293	2住	凹基	黒曜石	2.2	1.8	0.8	2.1
294	7住	凹基	チャート	2.0	1.6	0.4	0.7
295	8住	凹基	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.4
296	8住	凹基	チャート	1.8	1.1	0.4	0.5
297	8住	凹基	チャート	1.6	1.4	0.4	0.7
298	10住	凹基	チャート	1.6	1.2	0.4	0.6
299	12住	凹基	黒色安山岩	3.3	2.5	0.5	2.5
300	2土	凹基	黒曜石	1.6	1.0	0.3	0.4
301	940-890	凹基	チャート	2.3	1.4	0.5	1.0
302	945-890	凹基	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.5

第2節 出土石器

303	950-900	凹基	チャート	2.1	1.5	0.5	1.0
304	960-920	凹基	チャート	1.6	1.1	0.5	0.7
305	960-925	凹基	黒色頁岩	2.2	1.7	0.3	0.7
306	960-935	凹基	黒色安山岩	2.0	1.7	0.5	1.4
307	965-940	凹基	黒曜石	1.5	1.6	0.3	0.4
308	965-950	凹基	黒色安山岩	2.5	1.9	0.4	1.4
309	表採	凹基	黒曜石	1.6	1.1	0.5	0.7
310	11住	平基	黒色頁岩	3.4	2.6	0.8	5.4
311	250土	平基	黒曜石	1.7	1.3	0.5	0.9
312	950-905	平基	黒曜石	2.4	1.8	0.5	1.5
313	950-915	平基	チャート	2.2	1.7	0.4	1.1
314	表採	平基	チャート	2.3	1.3	0.5	1.1
315	表採	平基	チャート	1.7	1.3	0.5	1.0
316	970-960	凸基	黒色安山岩	3.2	2.6	0.9	6.1
317	955-940	有基	黒色頁岩	2.7	1.2	0.3	1.0
尖頭器							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
318	158土		チャート	5.7	2.8	1.1	13.9
319	955-930		黒色安山岩	3.7	2.5	0.9	9.6
320	965-965		チャート	4.2	1.5	0.7	5.3
石核							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
321	2 住		黒曜石	2.6	2.1	2.4	11.0
322	6 住		黒色安山岩	8.8	8.8	3.0	273.1
323	10住		黒色頁岩	5.7	4.3	2.6	59.4
324	11住		黒色頁岩	10.8	5.9	4.4	290.7
325	15土		黒色頁岩	4.9	4.3	2.4	55.1
326	44土		黒曜石	1.5	1.7	1.1	2.9
327	58土		黒曜石	1.0	1.8	1.1	2.0
328	63土		砂岩	7.3	6.0	3.5	176.2
329	77土		黒色頁岩	7.1	6.7	3.1	182.2
330	170土		黒曜石	2.1	2.1	1.6	5.1
331	945-885		黒色頁岩	5.5	6.7	3.1	126.9
332	975-965		黒曜石	2.0	2.0	1.4	5.7

333	表採		チャート	3.1	3.5	1.9	17.9
石棒							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
334	78土		変玄武岩	9.2	2.7	2.4	71.3
335	960-945		溶結凝灰岩	7.5	14.5	13.7	1734.7
336	960-965		雲母石英片岩	6.8	3.4	3.2	110.8
石匙							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
337	10住		黒色頁岩	5.0	6.1	1.1	28.7
338	85土		黒色頁岩	5.4	3.4	1.2	18.2
339	965-940		黒色頁岩	5.6	4.3	1.0	24.8
340	965-965		黒色安山岩	8.0	4.6	8.0	27.1
石製円板							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
341	61土		砂岩	4.4	4.0	1.3	33.0
垂飾品							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
342	217土		軽石	7.5	5.1	3.2	40.7
研磨痕ある破片							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
343	186土		黒色頁岩	7.3	1.7	0.7	10.9
環状石製品							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
344	277土		溶結凝灰岩	12.0	10.4	2.3	289.7
砥石 (中近世)							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
345	945-900		変質デイサイト	8.0	2.8	2.4	84.0

5 本線IV区出土石器の概要

出土石器は、1739点である。そのうち480点を図示した。各器種の利用石材構成は、p.332の本線IV区器種別石材構成表に示した。その多くは、縄文時代包含層遺構外出土のものである。以下、各器種についての概要を記述する。

台石 (第701図 PL283)

出土した10点のうち5点を図示した。平坦面に敲打痕のあるもの、平坦面の一部に摩滅の観察されるものがある。(2、4、5)は、磨面がある台石である。(1、3、4)は扁平な石で敲打痕の窪みと磨面を持つ。(3、4)は、配石遺構から出土している。石材は、粗粒輝石安山岩である。

石皿 (第702・703図 PL283)

出土した23点のうち6点を図示した。破損品が多い。形態は、有縁のものが多いが無縁のもの(9)もある。(8)は、有縁で脚を持つ。(8、9)は、配石遺構から(6、7)は、住居跡から出土している。使用石材は、粗粒輝石安山岩、角閃石安山岩、石英閃緑岩である。

石皿・多孔石 (第703～705図 PL283～285)

出土した36点中9点を図示した。石皿の磨面と円錐状の窪みを併せ持つものである。石皿の形態は有縁で、石皿のみのものと区別は出来ない。凹孔が穿たれるのは、主として裏面であるが、表面に凹孔が穿たれるものもある(16～20)。これらの場合、石皿が破損した後の転用とも考えられる。(15～17)は配石遺構から出土している。(12、13)は、住居跡出土である。その他、図示しなかったが、配石遺構に伴って出土するものが多い。これらのものは、いずれも破損品であった。使用石材は、粗粒輝石安山岩が多く、変玄武岩もある。

多孔石 (第706～711図 PL285～288)

出土した74点のうち19点を図示した。扁平な礫や円礫・角礫の自然石を使用している。窪みは円錐形の傾斜が比較的鋭角である。扁平な礫では、窪みは表裏に穿たれるが、円礫・角礫では側縁や稜線にも窪みが付けられる。窪みは、単独で複数付けられるものから窪みが重複するように密に穿たれるものがある。石皿・多孔石と同じく配石遺構に伴って出土するものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩が主であるが、他に角閃石安山岩もある。

凹石 (第712図 PL288)

出土した12点中5点を図示した。円礫に円錐形の窪みを持つ。大きさは、多孔石より小さく手に持って作業できる大きさである。窪みは、多孔石に穿たれていた窪みよりも大きく傾斜が緩やかなものを数个連結したものを有する。出土場所は、多孔石とは異なり住居、土坑や包含層出土のものが多い。使用石材は粗粒輝石安山岩、緑色片岩である。

凹石・磨石 (第712・713図 PL288)

出土した13点中5点を図示した。窪みは、凹石と同様に径の大きなものである。磨面は、表裏に見られた。窪みの後に磨面を持つものと磨面の後に窪みを持つものがある。大きさや形状も凹石とほぼ同じで、住居、土坑や包含層出土のものが多い。使用石材は粗粒輝石安山岩である。

磨石 (第713図 PL288・289)

出土した28点中7点を図示した。細長い棒状(54)のものから扁平な円礫(53)、丸味のある礫(52)と多様で凹石と比較して形状は一定しない。磨面は、片面の平坦部にあるものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

磨石・敲石 (第713～716図 PL289)

出土した69点中22点を図示した。形状は、棒状、円形、楕円形、方形等があり、面取りして形を整えているもの(58、62)もある。磨面は、表裏面に多い。敲打痕は、表裏面や側面につけられる。敲打痕が先に付けられるものと磨面が先に付けられるものがある。使用石材は、粗粒輝石安山岩が大部分で、砂岩も利用されている。

敲石 (第716・717図 PL289・290)

出土した27点のうち10点を図示した。形状は、円形(80、82～85)、長楕円形(81)、大型の棒状(83)、小型の棒状(86～88)等がある。円形、楕円形のもの、凹石と同様に敲打痕が表裏面や側面に付けられる。大型の棒状のものは、側縁に敲打痕を持ち、小型の棒状のものは、先端部に敲打痕を持つ傾向にある。このことから、形状により使用方法に違いがあると思われる。使用石材は、粗粒輝石安山岩が主体であるが、ひん岩、変玄武岩、溶結凝灰岩、緑色片岩などがある。

凹石・敲石 (第717図 PL290)

出土した5点中3点を図示した。形状は、円形に近いもの(89、91)や長楕円形(90)がある。窪みは、表裏面にあり、敲打痕は、側縁に付くものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

凹石・磨石・敲石 (第717・718図 PL290)

出土した14点中5点を図示した。形状は、円形に近いもの(94)や長楕円形(92、96)、長方形(93、95)等がある。円錐形の窪み面を表裏に持ち表裏・側縁に敲打痕を持つ。使用石材は、すべて粗粒輝石安山岩である。

砥石 (第718図 PL290)

縄文時代の砥石である。出土した8点中5点を図示した。比較的扁平で、砥面が僅かに窪む。側縁は、丸味をもっている。(101)は、砥面に筋が残る。使用石材は、デイサイト、砂岩、馬見岡凝灰岩を使用している。

結晶片岩製石器 (第719図 PL290)

出土した8点を図示した。雲母石英片岩、黒色片岩の扁平で棒状になるものである。使用面は、主に側面である。側縁に剝離痕を残しているもの(103～105、108、109)等は、側面を敲打によるものと推定される。

打製石斧 (第719～728図 PL290～292)

破損品を含め418点出土し、97点を図示した。図示した打製石斧の類型別点数は、短冊・撥形73点、分銅形24点、他分類不可能のもの2点ほどであった。一面に自然面を残すものが多く、中には両面に自然面を残すもの(135)もある。打製石斧の主要な石材である細粒輝石安山岩や黒色頁岩の石核は極少数出土することから、これらの打製石斧は、扁平な礫を直接素材として打製石斧を製作した可能性が考えられる。摩滅や線状痕の観察される石斧も多くあり特に、刃部付近に多く見られる。分銅形では、抉り部に摩滅痕が見られ柄部との接合を示すものと思われる。使用石材は、ホルンフェルス、珪質頁岩、黒色安山岩、黒色頁岩、細粒輝石安山岩、粗粒輝石安山岩、頁岩、変質玄武岩である。そのうち短冊・撥形とも黒色頁岩の使用点数が多く、類型による差はない。

三角錐形石器 (第728図 PL292)

出土した6点中5点を図示した。底面は、粗い複数回の剝離により台形状に作出される。基部は、正面稜線上からの剝離により、正面形が三角形状に加工される。(201)は、下半部を欠損している。一面に自然面を残す。使用石材は、黒色頁岩である。

磨製石斧 (第729図 PL293)

出土した13点中10点を図示した。器面全体に成形のための研磨が残る。(219)は、側面や先端面に敲打痕が

第6章 出土遺物

残ることから、先端の刃部を欠損した後に敲石として転用されたと思われる。(221)は、裏面が剝離している。刃部や基部からの折れを持つものが多く、石斧使用時の欠損と思われる。使用石材は、黒色頁岩、細粒輝石安山岩、蛇紋岩、粗粒輝石安山岩、変玄武岩、変質安山岩、変質玄武岩、緑色片岩などヴァリエティに富んでおり、打製石斧とは使用石材が異なる傾向にある。

スクレイパー (第730～732図 PL293)

出土した175点中38点を図示した。図示したスクレイパーの類型別集計は、I類15点、II類23点である。素材の剥片を大きく加工して作り出すことはなく、平面形状も翼状、三角形、方形、台形など様々である。背面に自然面を残す剥片もある。刃部は、側縁部あるいは端部に両面加工、片面加工して作り出している。使用石材はホルンフェルス、珪質頁岩、黒色安山岩、黒色頁岩などである。この中では、黒色頁岩の利用が多い。

鋸歯縁石器 (第733図 PL293)

出土した6点中5点を図示した。スクレイパーと同じく剥片の素材をそのままに加工する。裏面に自然面を残すものもある。刃部に鋸歯状の加工を行っている。使用石材は、黒色安山岩、黒色頁岩、細粒輝石安山岩である。

本線Ⅳ区器種別石材構成

器種 \ 石材	チャート	デイサイト	ひん岩	ホルンフェルス	雲母石英片岩	角閃石安山岩	玉髓	珪質頁岩	軽石	黒色安山岩	黒色頁岩	黒色片岩	黒曜石	砂岩	細粒輝石安山岩	蛇紋岩	石英閃緑岩	粗粒輝石安山岩	砥沢石	馬見岡凝灰岩	頁岩	変玄武岩	変質安山岩	変質玄武岩	変質蛇紋岩	溶結凝灰岩	流紋岩	緑色片岩	総計
台石																		5										5	
石皿						1												1	4										6
石皿・多孔石																			8				1						9
多孔石						1												18											19
凹石																		4									1	5	
凹石・磨石																		5											5
磨石																		7											7
磨石・敲石														1				21											22
敲石			1															6				1				1	1	10	
凹石・敲石																		3											3
凹石・磨石・敲石																		5											5
結晶片岩製石器					5							3																	8
打製石斧				3				1		3	75				11			1			1			2					97
三角錐形石器											5																		5
磨製石斧										1					1	3		1				1	1	1			1	10	
スクレイパー			1					1		2	34											1	1	1				38	
鋸歯縁石器										1	3				1														5
ノッチ										1			1																2
不定形石器	2									7	40		2	1															52
石錐	7							1			19		8																35
楔形石器										6	8		1																15
石鏃	23					1	4			16	10		31																85
尖頭器	1									1																			2
石核	2									3	1		4																10
原石													2																2
石棒																											1	3	4
石錘								1																					1
異形石器	1												1																2
石製円板				1																									1
球状耳飾																									1				1
装飾品									1																				1
研磨痕ある礫								1																					1
砥石		1												3						1	1								6
近世遺物																		1											1
総計	36	1	1	5	5	2	1	9	1	39	197	3	50	5	13	3	1	89	1	1	1	3	1	3	1	1	1	6	480

ノッチ (第733図 PL293)

出土した2点を図示した。剥片の縁辺に複数回の剝離によって抉りが作られている。黒曜石、黒色頁岩が使われている。

不定形石器 (第733～737図 PL294)

出土した264点中52点を図示した。(265、269)は、湾曲する面に刃部を作り出している。使用石材は、黒色頁岩が大部分を占めるがチャート、黒色安山岩、黒曜石、砂岩なども利用されている。

石錐 (第737～740図 PL294・295)

出土した112点中35点を図示した。類型別内訳は、I類14点、II類18点、III類3点である。錐部の作出には、一側縁に折れ面を残し、片側に二次加工により作り出すものと、両側縁からの二次加工により作り出すものがある。使用石材は黒色頁岩、珪質頁岩、チャート、黒曜石などである。I類では、黒曜石と黒色頁岩、チャートともほぼ同じ比率であるが、II類では黒色頁岩が多い。大型の石錐についても黒色頁岩製のものが多く、黒曜石製のものは、小型である。

楔形石器 (第740・741図 PL295)

出土した39点中15点を図示した。I類6点、II類2点、III類7点である。使用石材は、黒色安山岩、黒曜石、黒色頁岩である。

石鏃 (第742～746図 PL295～297)

出土した244点中85点を図示した。凹基64点、凸基3点、平基17点、有茎基1点である。使用石材は、チャート、玉髓、珪質頁岩、黒色安山岩、黒曜石、黒色頁岩である。この中では、チャートと黒色安山岩、黒曜石の比率が高い。黒色頁岩やチャート製の石鏃は、大型の重量のあるものが多い。

尖頭器 (第746図 PL297)

出土した2点を図示した。使用石材は、チャート、黒色安山岩である。側縁を粗い剝離で加工する。

石核 (第747・748図 PL297～299)

出土した40点中10点を図示した。使用石材はチャート、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩等である。石核の法量を比較すると黒色頁岩や黒色安山岩等は5cm～10cm、重さも100グラム～600グラムを超えるのに対して、黒曜石やチャートは1cm～3cm、重さも5グラム～20グラムと小さいものである。これらのことから各石材によって作り出される器種が

異なると推測される。

石棒 (第749図 PL299)

出土した7点のうち4点を図示した。(468～470)は、無頭で下部が欠損している。(471)は、有頭である。(469)は、側縁に円錐状の窪みを持つ。住居や土坑の覆土中から出土している。使用石材は、緑色片岩、流紋岩である。

石錘 (第750図 PL299)

出土した1点を図示した。

本線IV区住居別器種構成

器種 遺構番号	台石	石皿	石皿・多孔石	多孔石	凹石	凹石・磨石	磨石	磨石・敲石	敲石	凹石・磨石・敲石	打製石斧	磨製石斧	スクレイパー	不定形石器	石錐	楔形石器	石鏃	石核	石棒	総計
11住					1	1	1		1						1	1	2	1		9
16住											1		5	3	2		1			12
17住															1					1
19住								1		1							4			6
21住								1		1					2		1			5
22住		1	1	2	1			1			1			1					1	9
27住											1									1
29住				1																1
31住	2			1									1		1				1	6
34住			1								1			2	1					5
37住									1											1
40住												1								1
41住											1									1
総計	2	1	2	4	2	1	1	3	2	2	5	1	6	6	8	1	8	2	1	58

第6章 出土遺物

(472)は、両端から剝離による窪みを持つ。使用石材は、珪質頁岩である。

その他の石器 (第750図 PL299)

(474)は、異形石器 (三脚石器)。表裏からの剝離による成形で脚の一部が欠損している。使用石材は、黒曜石である。(475)は、円板状に周辺を両面から剝離成形している。裏面に自然面を残す。(476)は、変質蛇紋岩製の塊状耳飾りである。(478)は、扁平な棒状の礫を研磨している。

本線Ⅳ区出土石器一覧表

台石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	31住		粗粒輝石安山岩	22.9	14.5	8.4	3665.0
2	31住		粗粒輝石安山岩	13.0	15.7	11.0	3533.0
3	5配		粗粒輝石安山岩	26.3	24.4	8.4	7887.0
4	5配		粗粒輝石安山岩	28.2	19.2	10.6	7911.0
5	8配		粗粒輝石安山岩	21.3	15.0	9.0	7482.0
石皿							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
6	4住		角閃石安山岩	19.6	17.8	5.1	1569.0
7	22住		粗粒輝石安山岩	15.6	20.7	5.2	1106.0
8	1配		粗粒輝石安山岩	26.0	23.3	10.1	5535.0
9	8配		石英閃緑岩	29.5	16.5	7.6	5614.0
10	875-830		粗粒輝石安山岩	10.8	7.3	6.4	430.0
11	925-860		粗粒輝石安山岩	14.6	11.9	7.1	1038.0
石皿・多孔石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
12	22住		粗粒輝石安山岩	(24.2)	(25.2)	(8.3)	6663.0
13	34住		粗粒輝石安山岩	(18.1)	18.9	4.0	2118.0
14	203土		粗粒輝石安山岩	(6.7)	9.1	3.7	186.0
15	8配		粗粒輝石安山岩	29.5	25.9	7.9	7166.0
16	8配		粗粒輝石安山岩	(22.6)	22.4	10.9	5399.0
17	8配		粗粒輝石安山岩	(18.2)	(17.6)	8.0	2947.0
18	865-830		粗粒輝石安山岩	(19.4)	(15.8)	(5.7)	1873.0
19	900-865		変玄武岩	(13.7)	(14.0)	(4.3)	983.0
20	920-845		粗粒輝石安山岩	(22.7)	(19.9)	(6.8)	4614.0
多孔石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
21	8住		粗粒輝石安山岩	15.2	12.9	8.6	2048.0
22	22住		粗粒輝石安山岩	24.0	24.8	12.3	9282.0
23	22住		粗粒輝石安山岩	18.9	22.1	11.0	5837.0
24	29住		粗粒輝石安山岩	19.9	20.0	10.8	5229.0
25	31住		粗粒輝石安山岩	23.7	20.1	13.9	7143.0
26	203土		粗粒輝石安山岩	14.8	11.2	10.6	1962.0
27	254土		粗粒輝石安山岩	23.8	23.2	11.3	5205.0
28	355土		粗粒輝石安山岩	19.3	19.3	10.4	4516.0
29	1配		粗粒輝石安山岩	14.3	14.1	10.5	2787.0
30	1配		粗粒輝石安山岩	24.4	26.3	18.4	12150.0
31	1配		粗粒輝石安山岩	27.3	28.7	13.7	13400.0
32	1配		粗粒輝石安山岩	21.2	19.6	10.8	5550.0
33	5配		粗粒輝石安山岩	17.8	16.2	11.9	3682.0
34	5配		粗粒輝石安山岩	24.5	17.4	10.6	6525.0
35	8配		粗粒輝石安山岩	15.1	12.6	5.1	1168.0
36	895-840		粗粒輝石安山岩	17.3	14.5	7.4	2155.0
37	910-885		角閃石安山岩	16.7	13.4	8.1	2104.0
38	915-855		粗粒輝石安山岩	19.8	16.0	9.9	3799.0
39	表採		粗粒輝石安山岩	35.9	37.8	31.9	35500.0

凹石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
40	9住		粗粒輝石安山岩	13.3	9.2	6.2	970.0
41	11住		粗粒輝石安山岩	13.7	11.1	7.1	1250.0
42	22住		粗粒輝石安山岩	15.1	12.1	7.0	1495.0
43	865-830		粗粒輝石安山岩	9.4	8.2	6.0	573.0
44	915-820		緑色片岩	14.8	7.4	3.5	668.0
凹石・磨石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
45	11住		粗粒輝石安山岩	8.8	7.6	4.4	409.0
46	200土		粗粒輝石安山岩	10.1	7.7	6.4	659.0
47	275土		粗粒輝石安山岩	10.3	7.7	5.3	558.0
48	905-825		粗粒輝石安山岩	11.9	9.8	5.7	859.0
49	910-855		粗粒輝石安山岩	7.8	7.0	3.1	154.0
磨石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
50	11住		粗粒輝石安山岩	7.8	8.8	2.9	256.0
51	155土		粗粒輝石安山岩	6.4	4.3	2.7	114.0
52	180土		粗粒輝石安山岩	9.7	9.1	9.5	1011.0
53	355土		粗粒輝石安山岩	10.6	9.1	3.5	414.0
54	885-895		粗粒輝石安山岩	12.2	4.9	2.5	209.0
55	915-840		粗粒輝石安山岩	13.4	8.7	4.4	783.0
56	925-845		粗粒輝石安山岩	12.5	9.5	6.1	1082.0
磨石・敲石							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
57	19住		粗粒輝石安山岩	12.8	10.1	6.0	1017.0
58	21住		粗粒輝石安山岩	15.0	8.6	5.9	1130.0
59	22住		粗粒輝石安山岩	12.5	9.6	5.6	882.0
60	239土		粗粒輝石安山岩	8.2	7.2	4.8	414.0
61	253土		粗粒輝石安山岩	11.5	9.9	5.9	935.0
62	259土		粗粒輝石安山岩	16.0	9.2	4.5	972.0
63	1配		粗粒輝石安山岩	11.9	9.1	5.8	832.0
64	8配		砂岩	12.7	8.3	2.1	331.0
65	8配		粗粒輝石安山岩	9.2	5.7	3.8	290.0
66	9不明		粗粒輝石安山岩	9.9	7.9	4.1	384.0
67	10不明		粗粒輝石安山岩	9.8	7.7	4.4	451.0
68	875-860		粗粒輝石安山岩	11.0	8.3	5.5	814.0
69	885-845		粗粒輝石安山岩	13.9	10.7	4.1	605.0
70	890-835		粗粒輝石安山岩	10.1	6.6	4.3	451.0
71	900-835		粗粒輝石安山岩	10.0	7.2	3.9	438.0
72	900-840		粗粒輝石安山岩	14.2	6.4	3.6	498.0
73	900-885		粗粒輝石安山岩	11.0	9.9	4.5	690.0
74	910-865		粗粒輝石安山岩	10.4	8.9	5.7	748.0
75	915-870		粗粒輝石安山岩	13.6	9.3	6.1	1056.0
76	940-885		粗粒輝石安山岩	19.2	10.4	5.2	1450.0
77	表採		粗粒輝石安山岩	10.1	8.2	5.9	527.0
78	275土		粗粒輝石安山岩	10.2	7.1	3.5	389.0

第2節 出土石器

敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
79	11住		ひん岩	6.3	2.2	1.6	37.0
80	37住		粗粒輝石安山岩	7.7	6.0	4.1	205.0
81	277土		粗粒輝石安山岩	10.7	5.3	3.9	343.0
82	326土		粗粒輝石安山岩	10.4	8.9	7.6	916.0
83	2配		粗粒輝石安山岩	23.9	10.0	6.3	2243.0
84	8配		粗粒輝石安山岩	9.6	8.9	4.3	563.0
85	890-825		溶結凝灰岩	10.1	7.9	2.7	275.0
86	910-885		緑色片岩	(6.8)	(2.6)	(1.0)	30.0
87	910-925		変玄武岩	7.8	2.1	1.4	52.0
88	915-865		粗粒輝石安山岩	15.7	5.3	3.8	478.0
凹石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
89	341土		粗粒輝石安山岩	11.2	8.9	4.4	673.0
90	349土		粗粒輝石安山岩	10.5	6.4	4.7	337.0
91	895-855		粗粒輝石安山岩	12.4	10.4	6.5	1107.0
凹石・磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
92	19住		粗粒輝石安山岩	9.3	7.0	4.2	346.0
93	21住		粗粒輝石安山岩	12.1	7.4	4.3	636.0
94	885-840		粗粒輝石安山岩	9.9	8.4	4.5	478.0
95	905-830		粗粒輝石安山岩	13.2	8.9	4.6	518.0
96	915-830		粗粒輝石安山岩	10.6	7.9	3.6	380.0
砥石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
97	905-825		デイサイト	11.6	8.2	1.8	207.0
98	915-850		砂岩	3.8	2.9	1.0	12.0
99	920-820		砂岩	8.9	(6.4)	1.7	143.0
100	920-850		砂岩	11.1	9.4	1.8	239.0
101	930-860		馬見岡凝灰岩	16.7	13.1	9.2	2180.0
結晶片製石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
102	870-855		雲母石英片岩	10.0	3.2	1.7	85.8
103	885-875		黒色片岩	(9.7)	5.4	1.6	130.8
104	895-890		雲母石英片岩	(10.7)	3.2	1.6	97.7
105	920-845		雲母石英片岩	11.5	5.1	1.6	141.5
106	920-865		雲母石英片岩	(9.5)	(3.9)	0.9	45.7
107	920-870		黒色片岩	(6.6)	3.0	1.2	41.3
108	7溝		雲母石英片岩	(7.0)	3.4	1.2	45.1
109	表採		黒色片岩	(9.8)	3.3	2.0	102.9
打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
110	1住	I	黒色頁岩	9.2	4.8	1.4	74.2
111	7住	I	黒色安山岩	8.3	4.8	2.1	88.2
112	16住	I	細粒輝石安山岩	10.8	4.3	1.7	91.9
113	27住	I	細粒輝石安山岩	9.6	5.6	2.3	105.8
114	34住	I	黒色頁岩	7.8	4.7	1.2	55.8
115	41住	I	黒色頁岩	8.3	3.9	1.5	49.7
116	90土	I	黒色頁岩	10.5	4.7	2.0	87.6
117	78土	I	黒色頁岩	7.0	4.7	1.8	61.9
118	114土	I	黒色頁岩	10.5	4.1	2.2	87.8
119	198土	I	黒色頁岩	8.6	5.1	2.7	129.5
120	216土	I	細粒輝石安山岩	(7.8)	4.5	1.8	76.7
121	265土	I	黒色頁岩	7.9	3.7	1.7	66.3
122	276土	I	黒色頁岩	7.4	4.2	1.4	38.1

123	352土	I	黒色頁岩	7.6	4.1	1.4	60.7
124	1配	I	珪質頁岩	15.4	6.3	2.8	277.4
125	6配	I	黒色安山岩	5.6	3.6	1.4	26.9
126	875-830	I	黒色頁岩	11.1	3.8	1.7	84.6
127	875-830	I	黒色頁岩	10.8	5.1	2.1	123.7
128	875-875	I	黒色頁岩	10.1	4.5	2.0	91.4
129	885-830	I	黒色頁岩	11.4	5.9	2.2	128.9
130	885-860	I	細粒輝石安山岩	10.3	5.1	1.6	101.2
131	885-865	I	黒色頁岩	12.1	5.1	3.2	188.6
132	890-825	I	黒色頁岩	(7.5)	7.3	2.0	137.4
133	890-830	I	黒色頁岩	7.5	4.7	2.8	88.2
134	890-870	I	黒色頁岩	12.9	7.1	1.9	139.6
135	895-830	I	黒色頁岩	4.2	5.1	1.4	35.4
136	895-850	I	黒色頁岩	(8.6)	(4.2)	1.8	58.6
137	895-865	I	黒色頁岩	10.0	4.6	1.4	72.9
138	895-870	I	黒色頁岩	9.0	4.6	1.2	51.4
139	900-835	I	黒色頁岩	10.2	4.9	2.9	148.8
140	900-845	I	黒色頁岩	12.4	5.4	1.8	113.6
141	900-850	I	黒色頁岩	(10.8)	3.5	1.7	76.1
142	900-860	I	黒色頁岩	8.9	5.1	1.5	78.8
143	900-865	I	黒色頁岩	(11.2)	(5.9)	1.9	125.5
144	900-870	I	変質玄武岩	18.2	6.2	2.8	376.2
145	905-875	I	黒色頁岩	(16.0)	5.4	2.4	166.8
146	905-875	I	細粒輝石安山岩	12.6	6.1	1.9	113.1
147	910-825	I	ホルンフェルス	(8.6)	4.2	2.3	103.3
148	910-825	I	黒色頁岩	(9.0)	(4.4)	2.3	93.6
149	910-825	I	黒色頁岩	8.0	4.7	1.9	64.2
150	910-835	I	黒色頁岩	14.2	6.9	2.7	265.0
151	910-840	I	黒色頁岩	7.5	3.7	1.8	41.5
152	910-850	I	黒色頁岩	8.1	(4.9)	1.4	50.0
153	910-850	I	黒色頁岩	9.2	4.7	1.7	64.5
154	910-870	I	黒色頁岩	12.2	5.4	2.4	156.9
155	915-815	I	黒色安山岩	5.4	3.2	1.0	16.3
156	915-825	I	黒色頁岩	10.5	4.2	2.5	115.2
157	915-830	I	黒色頁岩	9.7	5.7	2.0	120.5
158	915-830	I	細粒輝石安山岩	10.2	5.6	1.4	90.6
159	915-835	I	黒色頁岩	6.5	4.7	2.1	67.9
160	915-845	I	黒色頁岩	14.4	6.6	2.6	255.7
161	915-845	I	黒色頁岩	10.8	4.8	2.1	104.1
162	915-850	I	黒色頁岩	(8.5)	6.8	2.8	157.2
163	915-855	I	頁岩	9.3	5.9	0.9	62.6
164	915-860	I	黒色頁岩	(8.3)	(4.4)	1.8	70.5
165	915-860	I	黒色頁岩	(7.6)	3.9	1.8	54.3
166	915-860	I	黒色頁岩	8.8	4.2	1.8	66.4
167	915-880	I	黒色頁岩	12.1	4.8	2.0	134.8
168	920-835	I	黒色頁岩	6.5	5.6	1.1	48.5
169	920-840	I	黒色頁岩	11.4	5.7	2.6	165.4
170	920-850	I	細粒輝石安山岩	10.1	4.9	1.6	68.3
171	920-850	I	黒色頁岩	8.3	4.7	2.0	78.5
172	920-860	I	黒色頁岩	10.0	6.4	3.5	220.9
173	920-880	I	黒色頁岩	9.6	5.2	1.3	63.1
174	925-830	I	黒色頁岩	10.0	4.5	1.6	68.3
175	925-835	I	細粒輝石安山岩	12.0	4.3	2.0	138.0
176	925-840	I	黒色頁岩	11.8	5.9	2.3	119.8
177	925-845	I	黒色頁岩	7.5	3.3	1.3	38.4
178	925-855	I	黒色頁岩	(8.6)	(4.7)	2.2	106.4
179	930-855	I	黒色頁岩	(8.8)	4.5	2.5	105.0
180	表採	I	黒色頁岩	11.3	4.8	3.2	185.9
181	表採	I	黒色頁岩	(7.7)	(4.6)	2.0	89.5
182	表採	I	黒色頁岩	8.7	5.1	2.3	104.0
183	8住	II	黒色頁岩	9.2	4.9	1.7	77.1
184	13住	II	粗粒輝石安山岩	10.8	6.3	2.4	158.0

第6章 出土遺物

185	22住	II	黒色頁岩	7.1	6.1	1.5	67.1
186	228土	II	細粒輝石安山岩 (10.1)	7.0	1.5	106.7	
187	6配	II	細粒輝石安山岩	8.6	6.4	1.6	98.5
188	6配	II	細粒輝石安山岩	12.6	6.0	2.2	191.4
189	815-850	II	黒色頁岩	11.5	7.5	2.2	159.6
190	870-835	II	黒色頁岩	10.7	6.0	3.2	175.3
191	870-845	II	黒色頁岩	7.4	4.1	0.9	32.7
192	880-820	II	黒色頁岩 (9.7)	6.7	1.5	99.8	
193	880-825	II	黒色頁岩	11.0	7.8	3.0	250.1
194	880-835	II	黒色頁岩	9.0	6.1	1.8	112.3
195	885-825	II	黒色頁岩	12.2	6.3	2.5	156.0
196	895-865	II	黒色頁岩 (11.9)	7.9	1.8	187.8	
197	895-890	II	黒色頁岩	10.7	5.7	2.6	147.2
198	900-820	II	黒色頁岩	10.0	5.9	1.4	99.3
199	900-875	II	黒色頁岩	11.9	7.3	3.4	268.6
200	905-820	II	黒色頁岩	11.7	6.1	2.3	137.2
201	905-855	II	ホルンフェルス	8.5	6.3	2.2	125.4
202	915-825	II	黒色頁岩	10.1	6.7	1.9	117.8
203	915-825	II	黒色頁岩	11.5	5.8	2.1	135.7
204	915-830	II	黒色頁岩	12.1	7.3	2.1	160.2
205	925-845	II	ホルンフェルス	14.4	9.0	3.0	387.5
206	表採	II	変質玄武岩	9.0	6.0	1.8	105.9

三角錐形石器							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
207	32住		黒色頁岩	10.4	4.2	5.1	226.7
208	875-855		黒色頁岩	9.2	3.7	5.1	184.9
209	890-870		黒色頁岩	7.1	5.1	3.7	166.5
210	930-865		黒色頁岩	9.8	6.2	5.0	353.3
211	935-860		黒色頁岩	9.1	4.7	6.3	231.7

磨製石斧							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
212	40住		蛇紋岩	(3.3)	(2.9)	(1.6)	19.8
213	1配		変質安山岩	(14.9)	6.5	4.4	628.6
214	5配		変質玄武岩	8.8	5.1	3.3	228.5
215	885-830		粗粒輝石安山岩	(8.8)	6.9	3.0	173.9
216	890-820		蛇紋岩	(8.9)	3.1	1.9	75.0
217	895-835		蛇紋岩	(7.5)	3.5	1.8	76.9
218	895-865		緑色片岩	5.2	2.4	0.8	20.4
219	905-895		変質玄武岩	10.7	6.1	3.5	418.8
220	930-865		細粒輝石安山岩	(8.3)	4.8	2.4	176.4
221	表採		黒色頁岩	(7.1)	4.7	2.5	116.2

スクレイパー							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
222	16住	I	黒色頁岩	8.2	8.0	1.7	92.5
223	16住	I	黒色頁岩	5.6	7.8	1.3	49.3
224	117土	I	黒色頁岩	5.3	5.9	1.9	50.6
225	119土	I	黒色頁岩	2.8	4.4	1.0	11.6
226	191土	I	黒色頁岩	2.4	4.0	1.3	12.9
227	267土	I	黒色頁岩	5.1	6.5	1.3	40.7
228	865-840	I	黒色頁岩	6.9	5.1	1.5	63.8
229	880-840	I	黒色頁岩	9.7	10.9	5.0	648.2
230	890-870	I	黒色頁岩	7.2	7.8	1.9	106.0
231	900-870	I	黒色頁岩	5.7	6.5	1.8	74.7
232	905-890	I	ホルンフェルス	3.1	6.3	0.9	23.7
233	910-895	I	黒色頁岩	4.4	9.3	1.8	68.0
234	915-825	I	黒色頁岩	8.0	6.3	1.1	34.7
235	915-845	I	黒色頁岩	5.7	6.4	2.4	72.1
236	915-860	I	黒色頁岩	7.6	3.1	1.6	26.2
237	1住	II	黒色頁岩	4.9	7.4	1.4	39.9

238	10住	II	黒色頁岩	4.1	6.6	1.6	38.4
239	16住	II	黒色頁岩	8.8	5.5	1.8	81.6
240	16住	II	黒色頁岩	5.8	2.2	1.0	10.7
241	16住	II	黒色安山岩	1.7	2.2	0.6	2.2
242	31住	II	黒色頁岩	3.7	7.2	1.8	41.0
243	158土	II	黒色頁岩	5.2	5.3	1.0	33.8
244	189土	II	黒色頁岩	5.5	5.1	2.0	72.0
245	287土	II	黒色頁岩	2.4	4.6	0.9	10.0
246	7配	II	黒色頁岩	5.9	8.8	1.2	86.8
247	890-840	II	黒色頁岩	4.4	6.8	1.7	41.3
248	905-865	II	黒色頁岩	5.4	8.2	1.7	58.8
249	910-835	II	黒色頁岩	8.5	4.4	1.9	72.3
250	910-850	II	黒色頁岩	3.3	6.8	1.1	23.9
251	920-835	II	黒色安山岩	4.5	8.8	2.0	72.7
252	920-835	II	黒色頁岩	7.4	4.1	1.4	60.2
253	920-840	II	黒色頁岩	8.6	8.3	3.7	297.6
254	920-840	II	黒色頁岩	8.1	3.1	1.7	54.8
255	925-840	II	黒色頁岩	5.9	9.4	1.3	75.7
256	925-850	II	黒色頁岩	7.4	9.0	2.6	165.0
257	925-850	II	黒色頁岩	7.2	3.9	1.4	42.5
258	925-855	II	珪質頁岩	3.0	6.5	1.2	19.9
259	表採	II	黒色頁岩	2.5	5.2	1.1	14.0

鋸歯縁石器							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
260	4住		黒色頁岩	5.0	6.8	2.2	91.0
261	895-865		細粒輝石安山岩	7.0	6.3	1.5	79.4
262	900-825		黒色頁岩	7.1	5.9	1.6	71.6
263	920-845		黒色頁岩	6.2	8.3	1.9	99.7
264	925-835		黒色安山岩	4.6	6.8	2.2	75.0

ノッチ							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
265	900-880		黒曜石	1.2	2.7	0.9	2.6
266	925-845		黒色頁岩	3.2	4.1	1.3	11.6

不定形石器							
No	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
267	1住		黒色頁岩	10.1	7.2	2.3	162.7
268	8住		黒色頁岩	4.0	5.4	1.6	23.9
269	16住		黒色頁岩	5.9	8.6	1.5	37.1
270	16住		黒色頁岩	3.9	5.8	1.3	22.4
271	16住		黒色頁岩	3.8	3.4	1.2	17.4
272	22住		黒色頁岩	5.7	5.2	1.0	26.2
273	34住		黒色頁岩	7.6	3.2	1.7	30.5
274	34住		黒色頁岩	5.0	6.0	2.4	85.2
275	36住		黒色安山岩	3.9	2.9	1.0	11.7
276	43住		黒色頁岩	6.4	4.3	2.2	45.1
277	101土		黒色頁岩	2.7	2.2	0.5	3.4
278	166土		黒色安山岩	5.5	8.0	2.1	113.5
279	198土		黒色安山岩	4.5	3.2	1.4	19.6
280	209土		黒曜石	2.8	1.7	0.6	1.7
281	216土		黒色頁岩	5.4	8.7	1.3	58.3
282	232土		黒色頁岩	4.4	7.2	1.0	32.4
283	287土		黒色安山岩	2.4	1.8	0.4	2.0
284	330土		黒色安山岩	7.0	7.5	2.4	100.5
285	348土		黒色頁岩	9.1	6.3	1.5	48.0
286	5配		黒色安山岩	5.5	3.6	1.2	18.5
287	6配		黒色頁岩	5.1	5.8	1.3	36.9
288	8配		黒色頁岩	6.2	4.8	1.5	56.0
289	8配		黒色頁岩	3.5	3.6	0.9	9.6
290	8配		黒色頁岩	5.3	4.8	1.3	34.3

第2節 出土石器

291	17不明		黒色頁岩	9.0	7.6	2.1	136.6
292	880-820		黒色頁岩	2.4	3.2	0.6	3.9
293	885-820		黒色頁岩	4.0	7.4	0.9	26.1
294	885-830		黒色頁岩	6.5	4.7	1.6	43.5
295	885-835		黒色頁岩	10.7	4.6	2.0	67.4
296	890-830		黒色頁岩	6.2	4.8	1.2	40.5
297	895-840		黒色頁岩	5.3	5.9	1.4	55.1
298	900-840		黒色頁岩	11.4	7.4	3.6	309.5
299	900-865		黒色頁岩	2.8	3.6	1.5	17.4
300	905-895		黒色頁岩	4.2	4.0	0.8	15.1
301	910-825		チャート	2.0	2.2	0.7	2.6
302	910-830		黒色頁岩	4.9	7.0	2.4	83.5
303	910-855		黒色頁岩	4.6	4.3	1.7	32.8
304	915-820		黒色頁岩	8.6	5.3	2.5	142.2
305	915-825		黒色頁岩	6.6	6.2	2.7	111.1
306	915-830		黒色頁岩	4.0	4.8	1.3	15.5
307	915-845		黒色頁岩	3.1	4.7	1.0	13.2
308	915-885		黒色頁岩	13.4	4.5	2.3	133.5
309	920-810		黒色頁岩	9.3	4.9	3.1	132.0
310	920-830		黒色頁岩	9.1	5.3	1.7	69.9
311	920-835		黒色安山岩	3.3	4.7	1.2	17.5
312	920-840		黒色頁岩	6.5	5.8	2.0	78.3
313	920-840		黒色頁岩	3.9	6.8	1.2	27.4
314	920-885		黒曜石	2.9	1.7	1.1	3.1
315	925-860		チャート	3.5	2.1	1.1	7.5
316	930-855		砂岩	23.0	5.6	2.7	504.5
317	930-855		黒色頁岩	8.7	4.3	2.1	64.9
318	12溝		黒色頁岩	7.0	5.5	2.2	85.1
石錐							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
319	11住	I	黒色頁岩	5.3	3.1	1.1	17.0
320	16住	I	黒曜石	2.3	1.3	0.6	1.2
321	20住	I	チャート	2.3	2.6	0.7	3.0
322	21住	I	黒曜石	2.7	1.4	0.6	1.2
323	31住	I	チャート	2.4	2.4	0.6	3.2
324	159土	I	黒曜石	1.9	1.2	0.5	1.1
325	885-830	I	黒色頁岩	7.0	3.8	1.5	34.3
326	900-855	I	黒曜石	1.8	1.8	0.7	1.3
327	910-860	I	チャート	2.0	1.3	0.4	1.0
328	925-845	I	黒曜石	2.0	1.1	0.5	0.5
329	925-845	I	黒色頁岩	2.8	2.7	0.5	2.4
330	930-870	I	珪質頁岩	6.0	2.6	1.3	13.5
331	940-870	I	黒色頁岩	4.0	2.5	0.6	4.3
332	表採	I	黒色頁岩	5.5	3.9	0.6	9.2
333	2住	II	黒色頁岩	5.3	4.4	0.8	15.1
334	8住	II	黒色頁岩	6.6	6.8	2.5	88.8
335	16住	II	黒曜石	2.0	1.6	0.6	1.3
336	21住	II	黒色頁岩	(1.8)	1.1	0.2	0.5
337	34住	II	黒色頁岩	5.5	4.5	1.4	22.5
338	127土	II	チャート	2.6	2.5	0.9	5.1
339	197土	II	黒色頁岩	6.1	2.7	0.8	11.1
340	875-825	II	黒色頁岩	4.7	2.5	1.1	11.0
341	885-895	II	黒色頁岩	4.7	3.2	0.7	9.4
342	900-835	II	黒色頁岩	2.8	1.8	0.8	3.3
343	900-845	II	黒色頁岩	3.6	2.5	0.8	5.4
344	900-860	II	黒色頁岩	5.0	2.0	0.8	7.2
345	905-840	II	チャート	3.6	2.1	0.9	6.6
346	905-850	II	黒色頁岩	5.2	2.1	0.8	6.6
347	915-870	II	チャート	3.1	1.4	0.5	1.8
348	915-875	II	黒色頁岩	3.7	2.3	0.8	5.1
349	1溝	II	黒色頁岩	6.0	3.6	0.9	15.1

350	表採	II	チャート	3.8	1.6	0.6	2.9
351	17住	III	黒色頁岩	8.2	3.2	1.3	36.6
352	920-840	III	黒曜石	2.1	0.9	0.7	1.2
353	925-850	III	黒曜石	2.6	0.7	0.8	1.4
楔形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
354	11住	I	黒色安山岩	2.2	2.5	0.7	3.6
355	176土	I	黒色安山岩	3.7	2.9	1.1	12.2
356	178土	I	黒色頁岩	5.8	3.5	1.6	38.1
357	885-835	I	黒色頁岩	3.1	2.9	0.8	7.6
358	900-840	I	黒色頁岩	3.5	3.4	0.9	13.6
359	905-825	I	黒色安山岩	2.5	2.7	0.9	6.6
360	8配	II	黒色安山岩	3.7	3.4	1.1	13.1
361	890-830	II	黒色安山岩	2.2	2.3	0.9	4.7
362	9住	III	黒曜石	1.7	1.6	0.8	1.5
363	25住	III	黒色頁岩	3.4	3.8	1.7	22.9
364	177土	III	黒色頁岩	3.0	2.7	1.0	9.8
365	880-880	III	黒色頁岩	5.0	6.1	2.0	70.9
366	900-855	III	黒色安山岩	2.7	2.7	0.8	6.3
367	905-835	III	黒色頁岩	3.6	3.6	1.4	20.3
368	920-830	III	黒色頁岩	5.4	4.8	2.5	80.6
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
369	1住	凹基	黒曜石	1.7	1.3	0.3	0.4
370	8住	凹基	黒色安山岩	1.6	1.2	0.4	0.6
371	10住	凹基	チャート	2.3	1.7	0.7	2.0
372	10住	凹基	黒曜石	1.5	0.9	0.4	0.3
373	16住	凹基	玉髄	2.0	1.8	0.5	1.6
374	19住	凹基	黒色安山岩	(2.6)	1.9	0.4	1.1
375	19住	凹基	黒曜石	1.3	(1.1)	0.4	0.3
376	21住	凹基	黒色安山岩	1.8	1.7	0.4	0.7
377	26住	凹基	黒曜石	1.8	1.3	0.4	0.8
378	26住	凹基	黒曜石	(1.9)	1.5	0.6	1.0
379	155土	凹基	黒曜石	1.6	1.1	0.4	0.5
380	197土	凹基	黒曜石	1.9	1.2	0.3	0.4
381	201土	凹基	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.5
382	274土	凹基	黒色安山岩	(2.3)	1.7	0.4	1.2
383	276土	凹基	黒曜石	1.9	1.6	0.3	0.4
384	287土	凹基	チャート	1.9	1.6	0.4	1.0
385	330土	凹基	黒色安山岩	(3.3)	2.4	0.6	3.6
386	8配	凹基	黒曜石	1.5	1.3	0.4	0.5
387	870-845	凹基	黒曜石	1.6	1.6	0.3	0.6
388	875-835	凹基	黒色頁岩	3.3	1.6	0.4	1.5
389	875-855	凹基	チャート	3.0	1.9	0.9	2.8
390	875-855	凹基	黒曜石	2.7	1.6	0.5	1.6
391	875-860	凹基	チャート	2.0	1.9	0.3	0.9
392	880-830	凹基	黒曜石	2.0	1.3	0.4	0.6
393	885-880	凹基	珪質頁岩	2.3	1.8	0.5	1.3
394	890-830	凹基	黒色安山岩	2.1	1.8	0.4	1.2
395	890-840	凹基	黒色安山岩	2.3	1.7	0.5	1.6
396	890-885	凹基	黒色安山岩	1.4	1.5	0.3	0.5
397	895-840	凹基	チャート	3.1	2.2	0.7	2.6
398	895-840	凹基	黒色安山岩	3.2	1.9	0.4	1.9
399	895-870	凹基	黒曜石	1.3	1.2	0.2	0.3
400	900-835	凹基	チャート	2.4	1.4	0.6	1.4
401	900-850	凹基	チャート	1.7	1.5	0.4	0.6
402	900-885	凹基	黒曜石	2.1	1.3	0.4	0.6
403	900-895	凹基	チャート	2.0	1.8	0.5	1.2
404	905-845	凹基	黒曜石	1.6	1.6	0.2	0.4
405	905-845	凹基	黒曜石	1.7	1.2	0.4	0.5

第6章 出土遺物

406	905-850	凹基	黒曜石	1.6	1.2	0.4	0.5
407	905-860	凹基	黒色安山岩	2.3	2.0	0.5	1.6
408	905-860	凹基	黒色頁岩	2.5	1.8	0.5	1.3
409	905-875	凹基	珪質頁岩	2.2	1.7	0.3	0.8
410	905-890	凹基	黒曜石	1.4	1.1	0.3	0.5
411	910-820	凹基	黒曜石	1.3	1.0	0.4	0.3
412	910-840	凹基	黒曜石	2.2	1.9	0.6	2.2
413	910-865	凹基	チャート	2.3	1.4	0.5	0.9
414	910-865	凹基	黒色安山岩	2.1	1.5	0.3	0.6
415	915-835	凹基	チャート	2.6	1.8	0.6	2.7
416	915-835	凹基	黒曜石	2.3	1.9	0.8	2.2
417	915-835	凹基	黒色安山岩	2.8	1.5	0.6	1.6
418	915-835	凹基	黒曜石	2.8	1.8	0.5	1.6
419	915-850	凹基	黒曜石	1.8	1.5	0.3	0.5
420	915-855	凹基	黒色安山岩	1.7	1.8	0.4	1.1
421	915-855	凹基	黒色頁岩	3.1	1.8	0.7	2.9
422	915-860	凹基	チャート	1.7	1.5	0.6	1.3
423	915-865	凹基	黒色頁岩	1.6	1.2	0.4	0.7
424	915-875	凹基	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.3
425	915-875	凹基	黒色頁岩	3.0	2.2	0.8	3.1
426	920-880	凹基	チャート	2.2	1.8	0.3	0.9
427	920-885	凹基	黒色頁岩	2.5	1.8	0.4	1.8
428	925-850	凹基	黒色安山岩	(2.9)	2.2	0.6	3.8
429	925-850	凹基	黒色安山岩	2.7	1.9	0.6	1.9
430	925-855	凹基	黒曜石	1.5	1.4	0.3	0.4
431	表採	凹基	チャート	2.7	1.4	0.4	1.1
432	9住	平基	黒曜石	1.4	1.3	0.4	0.5
433	11住	平基	チャート	3.7	2.9	1.3	12.0
434	11住	平基	チャート	2.0	1.8	0.8	1.9
435	19住	平基	チャート	1.5	1.4	0.5	0.7
436	20住	平基	黒色頁岩	2.2	1.6	0.4	1.1
437	26住	平基	チャート	4.2	3.0	1.3	14.9
438	162土	平基	珪質頁岩	1.9	1.0	0.4	0.5
439	197土	平基	黒曜石	2.0	1.5	0.3	0.7
440	298土	平基	黒色安山岩	3.5	2.7	0.7	5.5
441	6配	平基	珪質頁岩	3.0	2.6	0.8	4.9
442	870-840	平基	黒曜石	2.0	1.1	0.6	1.1
443	895-825	平基	黒曜石	1.9	1.2	0.5	0.7
444	895-840	平基	チャート	3.6	2.7	1.2	7.9
445	900-830	平基	黒曜石	2.1	1.7	0.8	2.4
446	900-845	平基	チャート	3.3	2.5	1.0	7.9
447	900-925	平基	黒色頁岩	3.6	2.9	1.0	9.9
448	915-820	平基	黒色頁岩	4.3	2.8	0.9	9.7
449	19住	凸基	チャート	3.3	2.2	1.1	6.6
450	905-845	凸基	チャート	3.6	2.2	1.0	5.8
451	表採	凸基	チャート	3.9	2.5	1.4	9.5
452	900-850	有基	チャート	2.0	1.2	0.4	0.6
453	905-865	有基	黒色頁岩	2.2	1.4	0.6	1.7
尖頭器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
454	870-850		チャート	3.7	2.9	1.2	8.9
455	910-825		黒色安山岩	5.2	4.1	1.2	19.6
石核							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
456	11住		黒曜石	1.9	2.1	1.9	6.6

457	12住		チャート	2.9	3.7	2.6	23.9
458	22住		黒色安山岩	9.2	7.5	7.0	610.3
459	218土		黒色安山岩	7.7	6.1	2.3	119.2
460	324土		黒曜石	2.1	3.1	1.5	7.1
461	6配		黒色頁岩	10.5	8.1	3.5	290.0
462	890-865		黒色安山岩	6.9	5.4	3.8	170.1
463	910-845		チャート	2.4	2.8	1.2	9.0
464	920-875		黒曜石	1.9	2.0	1.0	3.5
465	表採		黒曜石	1.4	1.9	1.4	4.4
原石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
466	895-895		黒曜石	3.2	2.2	1.2	8.5
467	925-870		黒曜石	2.5	1.3	1.1	3.7
石棒							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
468	13住		緑色片岩	(13.1)	6.5	(4.4)	614.2
469	31住		緑色片岩	25.9	9.5	7.9	2975.0
470	330土		流紋岩	12.8	12.9	13.2	2525.0
471	905-825		緑色片岩	(9.1)	5.2	(4.4)	311.3
石錘							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
472	870-850		珪質頁岩	3.7	3.5	0.9	15.5
異形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
473	900-865		黒曜石	2.8	1.7	0.5	1.5
474	920-855		チャート	2.5	(2.4)	0.5	1.6
石製円板							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
475	5溝		ホルンフェルス	6.7	6.2	2.0	101.2
球状耳飾							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
476	910-885		変質蛇紋岩	3.0	4.1	0.3	3.4
装飾品							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
477	875-860		軽石	6.1	4.3	1.3	17.6
研磨痕ある礫							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
478	910-820		珪質頁岩	8.5	2.4	1.4	31.3
砥石 (中近世)							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
479	915-840		砥沢石	4.6	3.8	3.3	83.0
石櫃 (近世)							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
480	915-830		粗粒輝石安山岩	16.7	14.4	11.8	1481.0

6 県側道4区出土石器の概要

4区で取り上げた石器は887点である。そのうち274点を図示した。各器種の利用石材構成は、p.341の県側道4区器種別石材構成表に示した。その多くは、縄文時代包含層出土のもので、住居、土坑等遺構出土のものもある。以下、各器種についての概要を記述する。

台石 (第751図 PL300)

出土した5点中1点を図示した。(1)は、比較的扁平な自然石の表裏面に敲打痕を持つ。多孔石に似るが、窪み部分が多孔石と異なり円錐状に窪まないことから台石とした。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

石皿 (第751図 PL300)

出土した5点のうち1点を図示した。(2)は、有縁の石皿で4分の3を欠損している。土坑から出土しているがグリッド出土のものと接合した。使用石材は、粗粒輝石安山岩。

石皿・多孔石 (第751・752図 PL300)

出土した16点中5点を図示した。石皿の磨面と円錐状の窪みを併せ持つものである。石皿の形態は有縁で、石皿のみのもとの区別は出来ない。凹孔が穿たれるのは、主として裏面であるが、表面に凹孔が穿たれるものもある。その場合磨面ではなく、縁を利用して凹孔が穿たれる場合が多い。(3)は、磨面に凹孔を有するが、磨面の後から窪みが穿たれている。(5、6)は、配石遺構から出土している。使用石材は、粗粒輝石安山岩が多く、緑色片岩もある。

多孔石 (第753～755図 PL300・301)

出土した33点のうち10点を図示した。丸味を帯びたやや扁平な礫や円礫を使用している。窪みは円錐形の傾斜が比較的鋭角なものである。窪みは、表裏に穿たれるが円礫では、側縁にも窪みが付けられる(16)。窪みは、単独で複数付けられるものから、窪みが重複するように密に穿たれるものがある。(13)は、中央に大きな窪みを穿ち、その回りに小形の窪みを穿っている。住居や不明遺構からの出土が多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

凹石 (第755図 PL301)

出土した6点中3点を図示した。円礫に円錐形の窪みを持つ。窪みは、多孔石に穿たれていた窪みよりも大きく傾斜が緩やかなもの(19)や僅かに窪むもの(18)もある。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

磨石 (第755・756図 PL302)

出土した9点中5点を図示した。細長い棒状のものから円礫、扁平な礫と形状は多様である。磨面は、表裏面に持つものが多い。使用石材は、粗粒輝石安山岩である。

磨石・敲石 (第756・757図 PL302)

出土した37点中14点を図示した。形状は、円形(37)、楕円形(39)、隅丸長方形に面取りして形を整えているもの(32、35)もある。磨面は、表裏面に多い。敲打痕は、表裏面や側面につけられる。磨石に比べ形が整ったものが多く見られる。使用石材は、粗粒輝石安山岩が大部分で、砂岩、変質安山岩である。

敲石 (第757・758図 PL302)

出土した14点中4点を図示した。自然面を残すものが多い。形状は、棒状(40、42、43)、長楕円形(41)等がある。棒状のものは、先端に敲打痕を持つ傾向にある。ハンマーの様に利用したと推測される。使用石材は、粗粒輝石安山岩、砂岩である。

凹石・磨石・敲石 (第758図 PL302)

出土した15点中6点を図示した。形状は、円形(46、48)や長楕円形(44、47、49)、長方形(45)等があり、

第6章 出土遺物

磨石・敲石と同様に形の整えられたものが多い。窪みは、円錐形の窪み面を表裏に持ち、側縁に敲打痕を持つ。中には、磨面に窪みと敲打痕を持つもの(47)がある。使用石材は、すべて粗粒輝石安山岩である。

砥石(第758図 PL302)

縄文時代の砥石である。出土した3点を図示した。扁平で側縁は、丸味をもっている。表裏面に砥面を持つ。使用石材は、砂岩を使用している。

結晶片岩製石器(第759図 PL302)

出土した8点中4点を図示した。雲母石英片岩、緑色片岩製の石器である。棒状になり、面的な加工痕を残すもの(54、55)、扁平な板状のもので磨面を持つもの(53、56)等がある。

打製石斧(第759～762図 PL303)

破損品を含め231点出土し、45点を図示した。図示した打製石斧の類型別点数は、短冊・撥形38点、分銅形7点であった。一面に自然面を残すものが多く、中には両面に自然面を残すもの(90)もある。打製石斧の主要な石材である細粒輝石安山岩や黒色頁岩の石核は極少数出土することから、これらの打製石斧は、扁平な礫を直接素材として打製石斧を製作した可能性が考えられる。摩滅や線状痕の観察される石斧も多くあり特に、刃部付近に多く見られる。分銅形では、抉り部に摩滅痕が見られ柄部との接合を示すものと思われる。使用石材は、黒色頁岩、細粒輝石安山岩、変質安山岩、ホルンフェルスである。使用石材は、短冊・撥形とも黒色頁岩の使用点数が多く、類型による差はない。

三角錐形石器(第762・763図 PL304)

出土した5点中3点を図示した。底面は、粗い複数回の剝離により台形状に作出される。基部は、正面稜線上からの剝離により、正面が三角形状に加工される。両面に自然面を残すもの(154)と、全面剝離により成形されるものがある。この石器についても石斧と同様に自然石を直接の素材として作り出していると考えられる。使用石材は、黒色頁岩である。

磨製石斧(第763図 PL304)

出土した6点中4点を図示した。器面全体に成形のための研磨が残る。(107)は、先端部を、(105、108)は、上半部を欠損している。(106)は、先端部に敲打痕が残る。使用石材は、変質蛇紋岩、変玄武岩、変質輝緑岩などで、打製石斧とは異なる傾向にある。

スクレイパー(第763～765図 PL304)

出土した107点中34点を図示した。図示したものの内訳は、I類22点、II類12点である。素材の剝片を大きく加工して作り出すことはなく、平面形状も翼状、三角形、方形、台形など様々である。背面に自然面を残す剝片もある。(187)は、両面に自然面を残す。刃部は、側縁部あるいは端部に両面加工、片面加工して作り出している。使用石材は、チャート、ホルンフェルス、黒色安山岩、黒色頁岩、細粒輝石安山岩などである。この中では、黒色頁岩の利用が多い。

鋸齒縁石器(第766図 PL304)

出土した2点を図示した。スクレイパーと同じく剝片の素材をそのままに加工する。片面に自然面を残すものもある。刃部に鋸齒状の加工を行っている。使用石材は、黒色頁岩である。

ノッチ(第766図 PL304)

2点出土し図示した。いずれも黒色頁岩製である。小型剝片の一边片面からの剝離と両面からの剝離により抉りを持つ。

不定形石器 (第766～769図 PL304・305)

出土した158点中50点を図示した。使用石材は、黒色頁岩が大部分を占めるがチャート、黒色安山岩、黒曜石、細粒輝石安山岩、変質玄武岩、溶結凝灰岩、珪質頁岩なども利用されている。

石錐 (第769～771図 PL305・306)

出土した47点中19点を図示した。図示したものの分類内訳は、I類5点、II類11点、III類3点である。錐部の作出には、一側縁に折れ面を残し、片側に二次加工により作り出すものと、両側縁からの二次加工により作り出すものがある。使用石材は黒色頁岩、黒色安山岩、チャート、黒曜石などである。

楔形石器 (第771図 PL306)

出土した11点中3点を図示した。I類1点、II類1点、III類1点である。使用石材は、黒色頁岩、黒色安山岩である。

石鏃 (第772・773図 PL306)

出土した100点中38点を図示した。凹基26点、凸基3点、平基9点である。重量は、0.2グラム～13グラムと幅がある。使用石材は、チャート、黒曜石、黒色頁岩、黒色安山岩、赤碧玉である。この中では、チャートと黒曜石の比率が高い。

石核 (第774・775図 PL307・308)

県側道4区器種別石材構成

器種 \ 石材	チャート	ダイサイト	ホルンフェルス	雲母石英片岩	珪質頁岩	黒色安山岩	黒色頁岩	黒曜石	砂岩	細粒輝石安山岩	赤碧玉	粗粒輝石安山岩	変玄武岩	変質安山岩	変質輝緑岩	変質玄武岩	変質蛇紋岩	溶結凝灰岩	緑色片岩	総計
台石												1								1
石皿												1								1
石皿・多孔石												4							1	5
多孔石												10								10
凹石												3								3
磨石												5								5
磨石・敲石									1			12		1						14
敲石									2			2								4
凹石・磨石・敲石												6								6
砥石									3											3
結晶片岩製石器				2															2	4
打製石斧			2				35			7				1						45
三角錐形石器							3													3
磨製石斧													2		1		1			4
スクレイパー	2		1			1	29			1										34
鋸歯縁石器							2													2
ノッチ							2													2
不定形石器	2				1	3	40	1		1						1		1		50
石錐	4					2	12	1												19
楔形石器						2	1													3
石鏃	17					4	5	11			1									38
石核	1						3	3												7
石棒													2						3	5
石匙	1					1		1												3
石製円板													1							1
石製品		1																		1
原石								1												1
総計	27	1	3	2	1	13	132	18	6	9	1	44	5	2	1	1	1	1	6	274

第6章 出土遺物

出土した16点中7点を図示した。使用石材はチャート、黒曜石、黒色頁岩である。石核の法量を比較すると黒色頁岩は5cm～10cm、重さも100グラム～300グラム程であるのに対して、黒曜石は1cm～3cm重さも5グラム～10グラムと小さいものである。これらのことから各石材によって作り出される器種が異なると推測される。

県側道4区住居別器種構成

器種	多孔石	凹石	磨石・敲石	凹石・磨石・敲石	砥石	結晶片岩製石器	打製石斧	三角錐形石器	磨製石斧	スクレイパー	ノッチ	不定形石器	石錐	楔形石器	石鏃	石核	石棒	総計
4住									1									1
6住															2		1	3
14住															1			1
15住	2						2			1			1		1		1	8
17住	1					1				2	1	2						7
24住			1														1	2
41住	3		1	2	1		3		1	3		2	1	1		1		19
42住		1						1				1						3
総計	6	1	2	2	1	1	5	1	2	6	1	5	2	1	4	2	2	44

石棒 (第775図 PL308)

出土した5点を図示した。有頭(264、266、267)、無頭(265、268)があり、いずれも下部が欠損している。(268)は、先端部に円錐状の窪みを持つ。(264～266)は、住居や土坑の覆土中から出土している。他は、グリッド出土で遺構と関係していない。使用石材は、変玄武岩、緑色片岩である。

石匙 (第776図 PL308)

出土した3点を図示した。(269)は、横型で底辺の刃部を両面加工で作っている。(270、271)は、縦型で側辺、底辺の刃部を両面加工で作っている。使用石材は、黒色安山岩、黒曜石、チャートである。

石製円板 (第776図 PL308)

1点を図示した。扁平で円形を呈する。表面の一部に擦痕がある。変玄武岩製である。

石製品 (第776図 PL308)

1点を図示した。細長く棒状である。特に使用痕などは確認できないが、土器などの器面調整具としての可能性が考えられる。使用石材は、デイサイトである。

県側道4区出土石器一覧表

台石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
1	3配		粗粒輝石安山岩	25.8	18.5	7.2	4374.0
石皿							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
2	311土		粗粒輝石安山岩	(19.6)	(15.6)	(9.9)	2458.0
石皿・多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
3	187土		粗粒輝石安山岩	16.3	11.9	5.5	975.0
4	316土		粗粒輝石安山岩	15.7	10.0	7.0	1250.0
5	2配		緑色片岩	28.6	19.3	5.1	3325.0
6	3配		粗粒輝石安山岩	25.0	17.9	7.9	4057.0
7	920-810		粗粒輝石安山岩	10.5	14.8	5.6	609.0
多孔石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
8	15住		粗粒輝石安山岩	21.5	12.3	9.7	3000.0
9	15住		粗粒輝石安山岩	14.5	8.4	5.9	1215.0
10	17住		粗粒輝石安山岩	19.7	13.8	9.6	3581.0
11	41住		粗粒輝石安山岩	15.0	14.2	9.8	2466.0
12	41住		粗粒輝石安山岩	16.7	11.0	6.1	1201.0
13	41住		粗粒輝石安山岩	52.0	43.8	33.5	71400.0
14	1不明		粗粒輝石安山岩	14.7	11.2	8.7	1646.0
15	1不明		粗粒輝石安山岩	23.1	16.7	11.5	5024.0
16	1不明		粗粒輝石安山岩	18.8	16.0	11.7	3642.0
17	935-855		粗粒輝石安山岩	12.9	12.7	10.9	2037.0
凹石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
18	42住		粗粒輝石安山岩	13.7	6.2	3.5	445.0
19	333土		粗粒輝石安山岩	11.9	9.4	3.9	374.0
20	930-830		粗粒輝石安山岩	14.8	11.8	6.8	1257.0
磨石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
21	1不明		粗粒輝石安山岩	13.0	7.3	7.1	851.0
22	12不明		粗粒輝石安山岩	17.4	10.3	4.7	1189.0
23	930-820		粗粒輝石安山岩	14.6	12.4	5.5	1160.0
24	930-835		粗粒輝石安山岩	7.7	6.6	3.7	268.0
25	935-855		粗粒輝石安山岩	8.2	7.5	5.5	494.0
磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
26	24住		粗粒輝石安山岩	9.8	9.4	5.1	773.0
27	41住		粗粒輝石安山岩	15.1	9.2	5.0	1041.0

第2節 出土石器

28	321土		粗粒輝石安山岩	13.7	9.5	6.1	1166.0
29	1不明		粗粒輝石安山岩	11.9	7.9	4.6	688.0
30	4不明		粗粒輝石安山岩	11.2	8.0	3.4	379.0
31	820-825		粗粒輝石安山岩	10.1	8.4	4.7	562.0
32	905-880		変質安山岩	13.5	7.4	3.8	563.0
33	920-815		粗粒輝石安山岩	10.7	6.4	4.3	289.0
34	930-830		粗粒輝石安山岩	9.6	7.1	4.6	393.0
35	930-850		砂岩	10.4	6.8	3.8	450.0
36	930-850		粗粒輝石安山岩	10.8	8.0	4.0	508.0
37	930-850		粗粒輝石安山岩	8.0	6.4	4.1	310.0
38	935-840		粗粒輝石安山岩	9.4	6.8	3.7	378.0
39	945-865		粗粒輝石安山岩	10.0	9.7	5.5	759.0
敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
40	10土		砂岩	15.9	5.7	2.3	315.0
41	10不明		粗粒輝石安山岩	8.3	5.0	4.7	290.0
42	940-865		粗粒輝石安山岩	8.2	2.6	2.6	60.0
43	940-865		砂岩	11.1	3.4	2.6	138.0
凹石・磨石・敲石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
44	41住		粗粒輝石安山岩	(11.7)	9.0	4.4	629.0
45	41住		粗粒輝石安山岩	(9.4)	7.6	4.0	340.0
46	1不明		粗粒輝石安山岩	8.1	7.5	5.1	401.0
47	1不明		粗粒輝石安山岩	11.5	7.6	3.8	389.0
48	925-825		粗粒輝石安山岩	10.2	8.7	5.9	677.0
49	950-885		粗粒輝石安山岩	11.8	8.9	5.3	688.0
砥石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
50	41住		砂岩	9.5	5.2	1.4	76.0
51	1不明		砂岩	(10.3)	(4.1)	1.7	69.0
52	12不明		砂岩	(6.7)	(10.7)	(2.2)	134.0
結晶片岩製石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
53	17住		雲母石英片岩	4.7	5.1	1.3	32.1
54	376土		雲母石英片岩	13.6	4.4	1.8	154.5
55	925-865		緑色片岩	7.7	4.4	1.0	38.8
56	940-855		緑色片岩	(9.9)	(2.7)	2.1	103.1
打製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
57	15住	I	黒色頁岩	9.1	4.8	1.9	85.4
58	15住	I	黒色頁岩	7.2	5.3	1.2	58.5
59	41住	I	黒色頁岩	(9.8)	5.0	3.0	174.9
60	62土	I	黒色頁岩	8.9	3.9	1.6	62.2
61	90土	I	黒色頁岩	10.0	5.8	2.0	134.0
62	93土	I	黒色頁岩	8.6	4.8	1.8	79.7
63	190土	I	黒色頁岩	10.4	5.0	1.8	102.4
64	3配	I	黒色頁岩	6.8	3.6	2.2	45.1
65	1不明	I	黒色頁岩	11.9	4.4	1.3	113.3
66	7不明	I	黒色頁岩	(7.9)	4.2	1.3	44.1
67	925-815	I	黒色頁岩	10.7	4.6	2.6	135.1
68	925-820	I	ホルンフェルス	10.0	5.2	0.9	56.2
69	925-830	I	黒色頁岩	11.1	4.6	2.6	120.5
70	925-835	I	黒色頁岩	11.7	5.2	1.8	116.8
71	925-835	I	黒色頁岩	11.6	4.9	1.5	103.3
72	930-825	I	黒色頁岩	10.6	4.0	1.8	84.1
73	930-830	I	黒色頁岩	14.5	4.4	2.5	109.3
74	930-835	I	黒色頁岩	7.9	4.2	1.8	76.3

75	930-835	I	黒色頁岩	5.9	4.2	1.5	48.2
76	930-840	I	細粒輝石安山岩	11.1	4.7	1.6	92.3
77	930-840	I	細粒輝石安山岩	12.1	4.3	2.1	139.0
78	930-845	I	ホルンフェルス	(10.8)	5.1	1.8	109.3
79	930-850	I	黒色頁岩	9.7	1.2	1.6	88.7
80	930-855	I	黒色頁岩	9.5	3.9	1.8	65.6
81	930-855	I	黒色頁岩	10.0	4.0	2.1	107.6
82	935-840	I	細粒輝石安山岩	11.0	4.9	2.0	140.1
83	935-845	I	黒色頁岩	(8.1)	4.0	1.8	38.8
84	935-850	I	黒色頁岩	6.0	4.4	1.5	46.3
85	935-865	I	黒色頁岩	8.9	5.3	2.0	100.3
86	935-950	I	黒色頁岩	7.5	4.3	1.9	54.8
87	940-860	I	黒色頁岩	8.8	4.2	1.5	65.0
88	940-860	I	黒色頁岩	(7.0)	3.9	1.0	28.8
89	940-870	I	黒色頁岩	9.8	4.5	1.5	57.7
90	945-870	I	変質安山岩	10.0	8.8	4.0	523.7
91	945-870	I	黒色頁岩	8.6	5.0	2.0	88.7
92	945-870	I	細粒輝石安山岩	11.3	4.9	1.7	105.3
93	表採	I	黒色頁岩	(7.3)	4.6	2.5	115.2
94	表採	I	黒色頁岩	10.5	4.0	1.3	57.8
95	41住	II	細粒輝石安山岩	15.7	7.1	3.0	309.2
96	41住	II	黒色頁岩	15.3	7.3	2.3	196.4
97	1不明	II	細粒輝石安山岩	14.9	9.1	2.4	323.1
98	4不明	II	黒色頁岩	6.9	5.0	1.5	38.9
99	12不明	II	黒色頁岩	9.7	6.4	2.0	135.2
100	835-870	II	細粒輝石安山岩	9.5	6.5	1.2	78.3
101	940-850	II	黒色頁岩	9.1	5.5	1.7	89.3
三角錐形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
102	42住		黒色頁岩	7.6	4.3	4.7	177.3
103	222土		黒色頁岩	11.4	8.0	4.5	519.5
104	3配		黒色頁岩	8.4	6.4	4.5	260.1
磨製石斧							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
105	4住		変質蛇紋岩	(4.3)	4.8	(2.6)	58.8
106	41住		変玄武岩	11.9	5.6	3.0	349.2
107	920-820		変玄武岩	(5.9)	(3.0)	(1.9)	48.4
108	935-860		変質輝緑岩	(7.6)	7.4	(3.7)	303.4
スクレイパー							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
109	17住	I	黒色頁岩	5.0	4.6	0.8	15.4
110	41住	I	黒色頁岩	6.5	7.6	1.8	92.1
111	41住	I	黒色頁岩	5.8	7.2	1.1	42.7
112	187土	I	黒色頁岩	7.4	6.4	2.5	114.6
113	190土	I	黒色頁岩	3.2	4.9	0.9	12.7
114	307土	I	黒色頁岩	3.7	5.7	1.4	28.4
115	370土	I	黒色頁岩	4.4	6.3	2.3	64.8
116	4不明	I	黒色頁岩	4.6	8.6	2.8	100.3
117	920-810	I	細粒輝石安山岩	4.7	6.0	1.0	26.3
118	920-825	I	黒色安山岩	4.4	3.6	1.0	19.3
119	925-825	I	黒色頁岩	5.8	7.6	1.5	66.5
120	925-835	I	黒色頁岩	7.1	10.2	3.3	224.4
121	935-840	I	黒色頁岩	7.0	8.0	1.2	59.9
122	935-840	I	チャート	1.6	3.4	0.7	3.0
123	935-850	I	黒色頁岩	4.7	8.7	2.2	98.5
124	940-845	I	黒色頁岩	2.7	3.0	1.1	8.3
125	940-850	I	黒色頁岩	6.6	8.1	3.0	171.8
126	945-875	I	黒色頁岩	3.8	6.0	1.2	29.7
127	950-880	I	黒色頁岩	4.1	6.1	0.7	23.0

第6章 出土遺物

128	3溝	I	チャート	2.0	2.3	0.6	2.3
129	12溝	I	黒色頁岩	6.2	4.4	1.6	42.0
130	表採	I	黒色頁岩	4.9	8.7	1.6	55.2
131	15住	II	黒色頁岩	4.5	5.7	1.6	37.6
132	17住	II	黒色頁岩	4.3	7.7	1.4	46.4
133	41住	II	黒色頁岩	5.5	3.3	1.1	19.8
134	347土	II	黒色頁岩	4.8	8.1	2.2	88.0
135	3配	II	黒色頁岩	8.4	5.8	2.9	170.1
136	3配	II	黒色頁岩	9.5	14.5	3.1	392.5
137	1不明	II	黒色頁岩	2.7	2.9	0.7	4.2
138	8不明	II	黒色頁岩	5.6	6.6	2.1	83.3
139	925-835	II	黒色頁岩	2.7	3.6	1.1	8.4
140	930-845	II	黒色頁岩	5.5	10.1	2.0	77.3
141	930-850	II	黒色頁岩	4.7	7.4	1.3	41.0
142	940-855	II	ホルンフェルス	5.7	10.7	1.3	123.5
鋸歯縁石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
143	203土		黒色頁岩	3.3	4.5	0.7	7.3
144	935-935		黒色頁岩	3.8	5.2	0.9	16.1
ノッチ							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
145	17住		黒色頁岩	5.6	4.8	1.3	31.1
146	347土		黒色頁岩	4.4	6.8	1.9	36.6
不定形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
147	17住		黒色頁岩	6.6	4.8	0.9	25.3
148	17住		黒色頁岩	4.2	2.8	1.1	10.7
149	41住		変質玄武岩	7.5	8.6	2.6	179.0
150	41住		黒色頁岩	6.6	7.3	1.8	88.4
151	42住		黒色頁岩	6.0	11.2	2.0	116.8
152	190土		黒色頁岩	3.7	2.7	0.8	9.6
153	127土		黒色頁岩	4.4	3.7	1.1	18.6
154	190土		黒色頁岩	7.9	6.4	2.5	97.1
155	203土		黒色頁岩	5.6	7.3	1.3	47.1
156	310土		細粒輝石安山岩	9.6	14.0	4.1	418.1
157	367土		黒色安山岩	6.0	5.3	2.3	69.0
158	1不明		黒色頁岩	8.7	9.4	1.7	142.6
159	1不明		黒色頁岩	11.4	5.4	2.6	142.9
160	1不明		黒色頁岩	4.2	1.5	0.7	6.4
161	7不明		黒色頁岩	5.0	5.4	2.1	60.6
162	9不明		黒色頁岩	4.1	5.5	1.3	29.3
163	920-815		珪質頁岩	9.3	6.1	1.7	75.6
164	920-815		黒色頁岩	8.0	6.2	3.7	151.5
165	920-815		チャート	3.7	3.3	1.1	14.2
166	925-825		黒色頁岩	6.6	3.9	1.6	33.5
167	925-835		黒色頁岩	5.0	8.6	1.3	47.2
168	925-845		黒色頁岩	6.6	5.0	1.4	50.1
169	930-820		黒色頁岩	7.1	5.6	2.5	85.2
170	930-825		黒色頁岩	4.2	5.2	1.3	30.5
171	930-830		黒色頁岩	5.3	4.8	1.0	28.3
172	930-835		黒色頁岩	9.5	5.7	2.1	121.6
173	930-835		黒色頁岩	9.0	6.5	3.5	225.4
174	930-840		黒色頁岩	8.2	8.1	2.9	145.9
175	930-845		黒色頁岩	4.5	5.7	1.4	47.4
176	930-855		黒色頁岩	3.3	2.6	0.8	8.9
177	935-845		黒色頁岩	5.0	3.5	0.9	20.6
178	935-850		黒色安山岩	3.7	4.5	0.9	17.5
179	935-850		黒色頁岩	4.3	2.8	1.1	12.9
180	935-855		黒色頁岩	9.3	12.9	3.6	486.4

181	935-855		黒色頁岩	6.1	7.1	1.9	107.4
182	940-845		黒色頁岩	5.1	5.7	1.3	39.0
183	940-850		黒色頁岩	7.3	4.4	1.2	36.0
184	940-850		黒色頁岩	9.0	5.5	2.3	99.0
185	940-850		黒色頁岩	4.9	2.7	0.8	9.9
186	940-855		黒色頁岩	5.4	3.0	0.7	10.3
187	945-865		黒色頁岩	6.2	5.1	1.5	49.2
188	945-870		黒曜石	3.8	2.1	1.0	4.5
189	945-875		チャート	4.3	3.0	1.0	11.1
190	12溝		溶結凝灰岩	6.2	9.3	2.7	162.0
191	12溝		黒色頁岩	9.9	7.1	3.2	268.0
192	表採		黒色頁岩	4.7	4.3	1.5	31.9
193	表採		黒色頁岩	1.9	3.6	0.8	5.5
194	表採		黒色頁岩	5.4	4.8	1.4	40.4
195	表採		黒色安山岩	2.5	2.3	0.9	5.0
196	表採		黒色頁岩	6.6	6.0	2.3	98.0
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
197	41住	I	黒色頁岩	5.4	3.5	1.1	16.2
198	62土	I	黒色頁岩	7.5	4.7	1.0	29.6
199	925-830	I	黒色頁岩	5.5	1.6	0.9	4.7
200	930-885	I	黒色頁岩	9.3	3.9	2.4	86.3
201	935-890	I	黒色頁岩	5.3	2.9	1.0	7.7
202	15住	II	黒色安山岩	5.7	4.7	1.1	21.5
203	191土	II	黒色頁岩	4.3	4.3	1.2	11.7
204	203土	II	黒曜石	2.9	1.2	0.6	1.3
205	915-815	II	チャート	3.7	2.3	0.9	4.8
206	930-880	II	黒色頁岩	9.2	3.1	1.1	27.8
207	935-845	II	黒色頁岩	4.2	2.4	0.7	4.3
208	935-870	II	チャート	3.2	2.5	0.8	5.7
209	935-875	II	チャート	2.8	1.8	0.5	2.5
210	940-855	II	黒色頁岩	4.5	4.1	1.1	18.6
211	6溝	II	チャート	3.6	1.5	0.9	3.8
212	表採	II	黒色頁岩	6.2	4.5	2.1	47.5
213	62土	III	黒色頁岩	7.3	2.8	1.3	20.4
214	940-845	III	黒色安山岩	3.3	1.1	0.6	1.7
215	940-860	III	黒色頁岩	5.1	0.8	0.6	2.5
楔形石器							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
216	920-835	I	黒色安山岩	4.1	2.4	0.6	8.4
217	41住	II	黒色安山岩	4.0	2.9	0.7	11.2
218	935-840	III	黒色頁岩	4.6	4.0	2.2	53.6
石鏃							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
219	6住	凹基	黒色頁岩	2.4	1.6	0.4	0.9
220	14住	凹基	黒曜石	1.9	1.2	0.4	0.6
221	15住	凹基	黒色頁岩	2.2	1.6	0.5	1.4
222	93土	凹基	チャート	2.3	1.7	0.5	1.4
223	93土	凹基	チャート	3.6	2.2	0.9	4.9
224	127土	凹基	チャート	1.3	1.4	0.3	0.4
225	4不明	凹基	チャート	2.1	1.9	0.3	0.6
226	910-815	凹基	黒曜石	1.3	1.3	0.3	0.4
227	920-815	凹基	黒色安山岩	3.7	2.8	1.1	8.7
228	925-830	凹基	黒曜石	1.4	1.3	0.4	0.6
229	925-830	凹基	チャート	2.3	1.4	0.5	1.5
230	930-825	凹基	黒曜石	1.2	1.8	0.4	0.8
231	930-825	凹基	黒曜石	2.0	1.7	0.4	1.1
232	930-830	凹基	黒曜石	1.2	1.0	0.4	0.3
233	935-830	凹基	チャート	1.9	1.0	0.3	0.3

第2節 出土石器

234	935-835	凹基	黒曜石	1.7	1.2	0.5	0.9
235	935-840	凹基	黒色頁岩	1.9	1.4	0.4	0.9
236	935-845	凹基	チャート	2.3	1.2	0.4	0.8
237	935-845	凹基	チャート	1.5	1.3	0.4	0.4
238	935-850	凹基	赤碧玉	2.1	1.5	0.4	1.1
239	940-855	凹基	黒曜石	1.6	1.0	0.4	0.7
240	940-860	凹基	チャート	1.8	1.4	0.4	0.6
241	940-865	凹基	チャート	2.1	2.0	0.6	1.7
242	940-870	凹基	黒曜石	1.7	1.2	0.5	0.7
243	表採	凹基	チャート	1.5	1.4	0.3	0.6
244	表採	凹基	黒色安山岩	1.3	1.2	0.2	0.2
245	6住	平基	黒色頁岩	3.3	1.7	0.6	2.8
246	311土	平基	チャート	2.2	1.9	0.7	2.4
247	920-820	平基	チャート	4.1	3.0	1.3	13.1
248	925-825	平基	黒色頁岩	3.5	2.7	0.9	7.1
249	925-830	平基	黒曜石	1.9	1.4	0.5	1.1
250	925-840	平基	チャート	2.5	2.1	0.7	2.8
251	930-840	平基	チャート	3.4	3.1	1.3	11.3
252	935-845	平基	黒色安山岩	1.9	1.5	0.4	0.9
253	945-880	平基	黒曜石	1.9	1.6	0.6	1.3
254	930-835	凸基	黒色安山岩	3.0	2.6	1.2	6.6
255	930-845	凸基	チャート	1.5	1.2	0.3	0.6
256	945-865	凸基	チャート	3.4	2.1	1.3	6.9
石核							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
257	24住		黒曜石	1.9	3.7	1.3	6.7
258	41住		黒曜石	1.8	2.6	1.5	5.8
259	307土		黒色頁岩	5.5	7.2	3.8	181.1
260	930-845		黒色頁岩	6.3	8.0	6.2	315.8

261	935-835		黒色頁岩	8.7	7.4	4.8	329.8
262	935-845		黒曜石	1.9	2.0	1.6	5.6
263	940-865		チャート	3.2	3.0	1.3	11.5
石棒							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
264	6住		緑色片岩	(8.1)	7.5	(4.0)	275.9
265	15住		変玄武岩	(6.2)	(3.2)	(4.0)	116.4
266	191土		変玄武岩	(4.2)	2.2	1.0	11.3
267	920-820		緑色片岩	(9.8)	8.3	(5.3)	560.8
268	930-835		緑色片岩	(22.2)	10.5	(6.5)	2260.0
石匙							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
269	371土		黒色安山岩	3.7	4.8	0.9	14.3
270	945-870		チャート	3.9	2.2	1.2	7.2
271	表採		黒曜石	3.5	3.4	0.7	5.1
石製円板							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
272	925-825		変玄武岩	3.7	3.5	0.5	11.3
石製品							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
273	920-815		デイサイト	7.8	1.9	1.2	17.7
原石							
No.	出土位置	類型	石 材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
274	表採		黒曜石	6.9	3.0	2.3	40.9

第7章 分 析

第1節 天ヶ堤遺跡出土黒曜石の産地推定

天ヶ堤遺跡と黒曜石原産地について

株式会社 アルカ

天ヶ堤遺跡では、旧石器8点と縄文石器213点の原産地分析を行った。旧石器の8点のうち6点は第3文化層出土の黒曜石で、すべて栃木県の高原山産であった。縄文石器はほぼ9割以上が長野県の諏訪星ヶ台産であり、1割弱は長野県和田峠産であり、数点が神津島恩馳島産となっている。

上記の見地からは、時期によって黒曜石の供給産地が限定されるようである。

特に縄文石器については、器種と原産地の関係についての特別な相関はなく、また押圧剥離の技術、素材形態なども原産地との相関はみられない。

つまり、黒曜石で作製される石器器種は、石鏃・石錐・楔形石器が主で、そこに一部の石匙・使用痕剥片・削器などが含まれ、これらの器種は独自の形態と技術で製作されているが、ここに原産地との相関はみられない。

この点でいえば、器種の製作技法が遺跡内で安定していることを示しており、天ヶ堤遺跡内で石器が製作・使用されていることを示している。

上記のような黒曜石製の器種組成や製作技法の安定などの現象は、山梨県下の八ヶ岳西南麓の縄文中期遺跡にも該当する。

こうした遺物の基礎事実からは、黒曜石が大量に消費されるために、大量に遺跡に持ち込まれたことを示しており、これらは縄文社会のなかで黒曜石原石を各々の集団が直接採取したというよりは、黒曜石そのものが広く流通していることを予想させるものである。

また、一遺跡の黒曜石が特定の原産地の「山」に集中すること、また神津島のような全く遠方からの黒曜石が僅少なから持ち込まれていることは、黒曜石を介在させたネットワークが複数あること、さらにネットワークに強弱があることも予想させる。

黒曜石だけでなく、おそらく他石材も同様のネットワークシステムを想定させるので、縄文社会は石材ネットワークシステムと集団のネットワークシステムを重ねている可能性も指摘できよう。

いずれにしろ天ヶ堤遺跡の縄文ネットワークのなかに、長野県の黒曜石原産地含むなんらかのシステムが組み込まれていることは事実であろう。

第1節 天ヶ堤遺跡出土黒曜石の産地推定

天ヶ堤遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果

区	No	推定産地	判別図	判別				分析			
				第1候補産地		第2候補産地		第1候補産地		第2候補産地	
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率	判別群	距離
本線III	576	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.5	1	SBIY	123.97	0		
本線III	614	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.18	1	SBIY	99.71	0		
本線III	661	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	15.11	1	SBIY	61.51	0		
本線III	717	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.15	1	SBIY	117.54	0		
本線III	724	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.07	1	SBIY	94.65	0		
本線III	790	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.66	1	TSHG	20.64	0		
本線III	808	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	20.07	1	SBIY	122.66	0		
本線III	818	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.3	1	SBIY	69.97	0		
本線III	823	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.81	1	SBIY	70.85	0		
本線III	825	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.11	1	SBIY	71.29	0		
本線III	840	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.94	1	SBIY	91.77	0		
本線III	850	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.37	1	SBIY	90.79	0		
本線III	868	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.14	1	SBIY	94.52	0		
本線III	877	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	14.29	1	KZSN	61.16	0		
本線III	891	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.47	1	SBIY	133.23	0		
本線III	901	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.54	1	WDTN	84.97	0		
本線III	912	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.24	1	SBIY	84.5	0		
本線III	913	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.16	1	SBIY	83.5	0		
本線III	918	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	8.24	1	WDTM	24.66	0		
本線III	922	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.4	1	SBIY	69.89	0		
本線III	926	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.54	1	WDTN	72.28	0		
本線III	927	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.17	1	SBIY	115.99	0		
本線III	932	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.93	1	SBIY	84.22	0		
本線III	934	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.07	0.1	TSHG	13.53	0		
本線III	936	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.16	1	SBIY	71.67	0		
本線III	940	和田小深沢群	WDKB	WDKB	4.2	0.1	WDTK	21.41	0		
本線III	941	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.37	1	SBIY	81.37	0		
本線III	944	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	12.83	1	SBIY	56.72	0		
本線III	951	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.3	1	SBIY	96.92	0		
本線III	953	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.81	1	SBIY	142.82	0		
本線III	954	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.37	1	SBIY	79.8	0		
本線III	955	和田小深沢群	WDKB	WDKB	13.59	1	WDTY	34.58	0		
本線III	959	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.31	1	SBIY	103.44	0		
本線III	962	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.45	1	SBIY	104.01	0		
本線III	974	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.86	0.1	WDHY	18.75	0		
本線III	978	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.04	1	SBIY	56.72	0		
本線III	979	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.14	1	SBIY	67.92	0		
本線III	982	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.15	1	SBIY	63.65	0		
本線III	990	和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.16	1	WDHY	20.95	0		
本線III	995	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.94	1	SBIY	95.89	0		
本線III	1001	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.48	1	SBIY	123.2	0		
本線III	1002	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	4.12	1	WDTN	39.55	0		
本線III	1003	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.36	1	SBIY	73.71	0		
本線III	1010	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.3	1	SBIY	89.43	0		
本線III	1011	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.19	1	SBIY	123.85	0		
本線III	1013	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	18.73	1	SBIY	41.43	0		
本線III	1017	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.24	1	SBIY	95.97	0		
本線III	1019	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	9.43	1	SBIY	74.29	0		
本線III	1026	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.05	1	SBIY	51.53	0		
本線III	1028	和田高松沢群	WOTM	WOTM	3.55	1	WOBD	39.72	0		
本線III	1029	和田小深沢群	WDKB	WDKB	10.51	0.999	WDTK	22.4	0.001		
本線III	1031	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.94	1	SBIY	88.13	0		
本線III	1034	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	16.6	1	SBIY	126.51	0		
本線III	1035	和田小深沢群	WDKB	WDKB	7.12	0.999	WDTY	22.75	0.001		
本線III	1044	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.82	1	SBIY	93.96	0		
本線III	1048	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.28	1	SBIY	56.18	0		
本線III	1049	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.73	1	SBIY	119.64	0		
本線III	1051	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	19.96	1	SBIY	63.41	0		
本線III	1053	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	14.18	0.1	TUTI	28.64	0		
本線III	1066	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.5	1	WDTN	82.02	0		
本線III	1069	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.62	1	SBIY	84.79	0		
本線III	1077	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.61	1	SBIY	97.1	0		
本線III	1079	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	11.98	1	SBIY	106.84	0		
本線III	1080	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.63	1	SBIY	78.69	0		
本線III	1081	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.7	1	SBIY	89.67	0		
本線III	1083	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.07	1	SBIY	60.87	0		
本線III	1084	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	13.46	1	SBIY	66.7	0		
本線III	1085	和田高松沢群	WOTM	WOTM	3.5	1	WOBD	33.23	0		

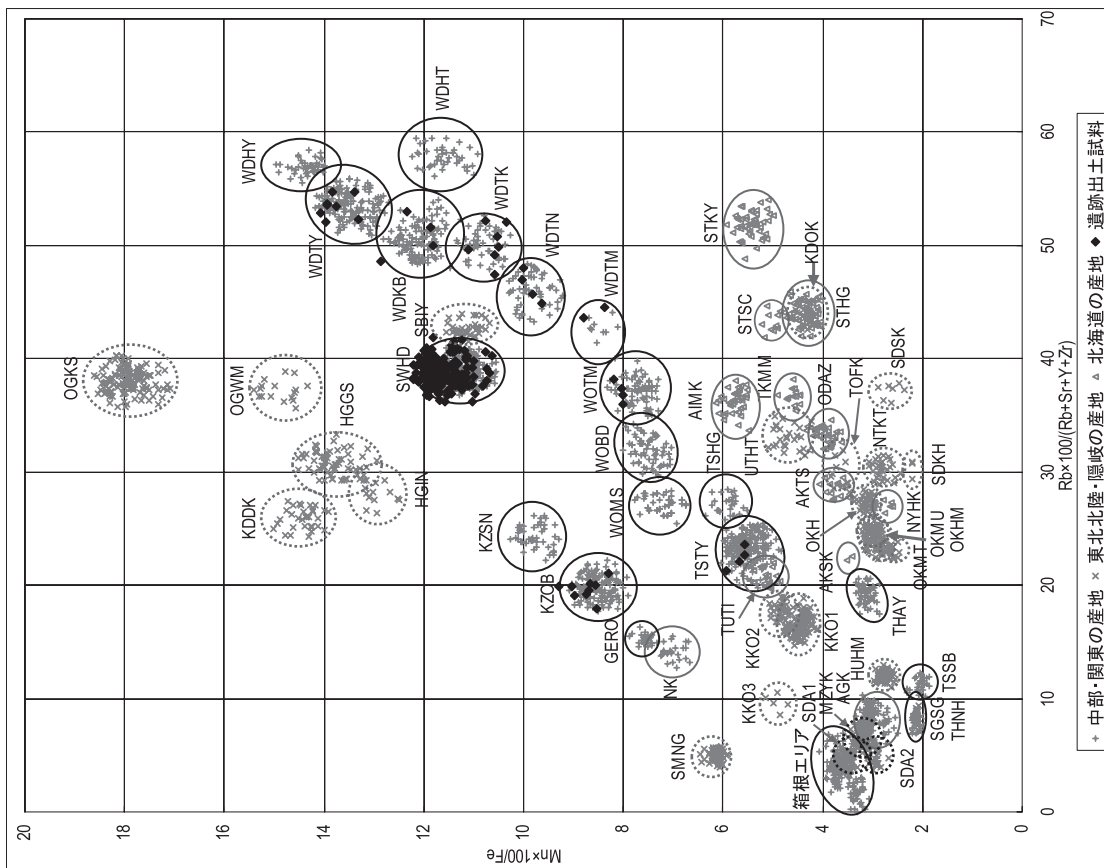
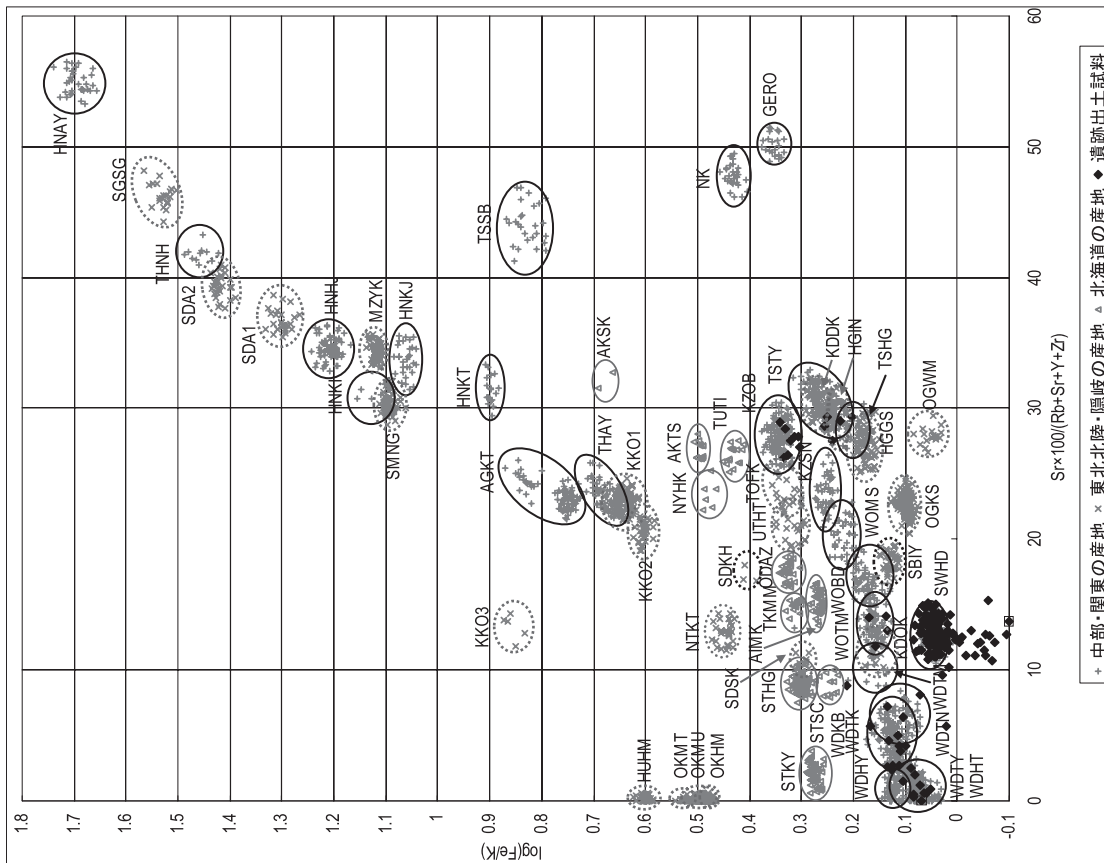
第7章 分 析

区	No	推定産地	判別図	判 別 分 析				
				第1候補産地		第2候補産地		
				判別群	距離	確率	判別群	距離
本線III	1088	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.41	1	SBIY	88.77	0
本線III	1089	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.53	1	SBIY	80.3	0
本線III	1092	和田土屋橋北群	WDTK	7.87	0.984	WDTN	16.37	0.016
本線III	1093	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.63	1	SBIY	98.32	0
本線III	1097	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.85	1	SBIY	114.63	0
本線III	1099	諏訪星ヶ台群	SWHD	10.67	1	SBIY	66.96	0
本線III	1100	諏訪星ヶ台群	SWHD	8.63	1	WDTN	78.16	0
本線III	1102	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.52	1	SBIY	95.67	0
本線III	1106	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.6	1	SBIY	123.93	0
本線III	1107	神津島恩馳島群	KZOB	2.6	1	KZSN	62.83	0
本線III	1109	諏訪星ヶ台群	SWHD	7.68	1	SBIY	78.63	0
本線III	1112	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.33	1	SBIY	89.69	0
本線III	1116	諏訪星ヶ台群	SWHD	11.06	1	SBIY	78.46	0
本線III	1125	和田土屋橋北群	WDTK	4.97	1	WDKB	36.06	0
本線III	1127	諏訪星ヶ台群	SWHD	5	1	SBIY	68.76	0
本線III	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	10.02	1	SBIY	123.39	0
本線III	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	8.45	1	SBIY	52.6	0
本線III	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.8	1	SBIY	105.31	0
本線III	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.04	1	SBIY	99.37	0
県側道3	192	諏訪星ヶ台群	SWHD	10.87	1	SBIY	114.01	0
県側道3	244	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.41	1	SBIY	93.71	0
県側道3	267	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.18	1	WDTN	112.98	0
県側道3	276	諏訪星ヶ台群	SWHD	2.88	1	SBIY	89.29	0
県側道3	284	諏訪星ヶ台群	SWHD	8.96	1	SBIY	122.17	0
県側道3	287	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.79	1	SBIY	108.17	0
県側道3	288	諏訪星ヶ台群	SWHD	12.07	1	SBIY	82.03	0
県側道3	293	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.55	1	SBIY	59.39	0
県側道3	295	諏訪星ヶ台群	SWHD	13.08	1	SBIY	78.05	0
県側道3	300	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.75	1	SBIY	82.86	0
県側道3	302	和田土屋橋北群	WDTK	4.32	1	WDTN	25.71	0
県側道3	307	和田鷹山群	WDTY	6.35	1	WDHY	23.86	0
県側道3	309	和田高松沢群	WOTM	7.1	1	WDTM	22.65	0.007
県側道3	311	諏訪星ヶ台群	SWHD	9.18	1	SBIY	54.61	0
県側道3	312	神津島恩馳島群	KZOB	0.83	1	KZSN	44.85	0
県側道3	321	諏訪星ヶ台群	SWHD	12.76	1	WDTN	86.63	0
県側道3	326	諏訪星ヶ台群	SWHD	16.67	1	SBIY	109.98	0
県側道3	327	諏訪星ヶ台群	SWHD	13.12	1	SBIY	112.86	0
県側道3	330	諏訪星ヶ台群	SWHD	14.98	1	SBIY	119.8	0
県側道3	332	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.62	1	SBIY	74.3	0
県側道3	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	16.34	1	SBIY	151.87	0
県側道3	未掲載	諏訪星ヶ台群	SWHD	10.25	1	SBIY	119.29	0
本線IV	265	諏訪星ヶ台群	SWHD	9.91	1	SBIY	92.25	0
本線IV	280	諏訪星ヶ台群	SWHD	11.03	1	SBIY	98.97	0
本線IV	314	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.41	1	SBIY	115.41	0
本線IV	320	諏訪星ヶ台群	SWHD	13.34	1	SBIY	112.82	0
本線IV	322	諏訪星ヶ台群	SWHD	17.23	1	SBIY	116.89	0
本線IV	324	諏訪星ヶ台群	SWHD	21.31	1	SBIY	45.03	0
本線IV	326	諏訪星ヶ台群	SWHD	11.54	1	SBIY	70.16	0
本線IV	328	推 定 不 可	推定不可			推定不可		
本線IV	335	諏訪星ヶ台群	SWHD	14.6	1	SBIY	114.47	0
本線IV	352	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.93	1	WDTN	106.85	0
本線IV	353	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.62	1	WDTN	78.54	0
本線IV	362	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.47	1	SBIY	74.31	0
本線IV	369	神津島恩馳島群	KZOB	9.28	1	KZSN	33.44	0
本線IV	372	推 定 不 可	推定不可			推定不可		
本線IV	375	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.45	1	SBIY	106.41	0
本線IV	377	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.17	1	SBIY	112.35	0
本線IV	378	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.1	1	SBIY	64.6	0
本線IV	379	諏訪星ヶ台群	SWHD	17.88	1	SBIY	155.92	0
本線IV	380	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.71	1	SBIY	82.34	0
本線IV	381	推 定 不 可	推定不可			推定不可		
本線IV	383	和田鷹山群	WDTY	5.45	1	WDHY	24.75	0
本線IV	386	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.56	1	SBIY	110.22	0
本線IV	387	諏訪星ヶ台群	SWHD	13.52	1	SBIY	111.54	0
本線IV	390	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.07	1	WDTN	115.63	0
本線IV	392	和田鷹山群	WDTY	3.62	0.1	WDHY	19.86	0
本線IV	399	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.27	1	SBIY	94	0
本線IV	402	諏訪星ヶ台群	SWHD	7.25	1	WDTN	121.28	0

第1節 天ヶ堤遺跡出土黒曜石の産地推定

区	No	推定産地	判別図	判別				分析						
				第1候補産地		第2候補産地		第1候補産地		第2候補産地				
				判別群	距離	確率	判別群	距離	確率	判別群	距離			
本線IV	404	諏訪星ヶ台群	SWHD	3.47	1	SBIY	76.33	0	SWHD	1.27	1	SBIY	80.1	0
本線IV	405	蓼科冷山群	TSTY	5.38	1	TSHG	25.76	0	SWHD	9.36	1	SBIY	126.14	0
本線IV	406	諏訪星ヶ台群	SWHD	2.94	1	SBIY	86.76	0	SWHD	17.7	1	SBIY	130.72	0
本線IV	410	諏訪星ヶ台群	SWHD	7.8	1	SBIY	88.54	0	WOTM	3.75	1	WOBD	36.86	0
本線IV	411	諏訪星ヶ台群	SWHD	12.19	1	SBIY	131.42	0	SWHD	14.04	1	SBIY	83.68	0
本線IV	412	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.96	1	SBIY	105.87	0	SWHD	12.69	1	SBIY	140.77	0
本線IV	416	諏訪星ヶ台群	SWHD	2.59	1	SBIY	95.18	0	SWHD	9.53	1	SBIY	100.53	0
本線IV	418	神津島恩馳鳥群	KZOB	6.61	1	KZSN	58.73	0	SWHD	6.92	1	SBIY	99.78	0
本線IV	419	諏訪星ヶ台群	SWHD	4.01	1	SBIY	83.65	0	SWHD	2.82	1	SBIY	74.53	0
本線IV	424	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.63	1	WDTN	121.11	0	SWHD	8.96	1	SBIY	136.76	0
本線IV	430	諏訪星ヶ台群	SWHD	2.05	1	SBIY	69.57	0	KZOB	3.82	1	KZSN	51.35	0
本線IV	432	諏訪星ヶ台群	SWHD	13.08	1	SBIY	98.09	0	WDTK	2.06	0.1	WDTN	20.43	0
本線IV	439	諏訪星ヶ台群	SWHD	6.87	1	SBIY	88.16	0	SWHD	4.87	1	SBIY	116.6	0
本線IV	442	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.86	1	WDTN	125.54	0	SWHD	11.15	1	SBIY	69.98	0
本線IV	443	諏訪星ヶ台群	SWHD	2.85	1	SBIY	86.92	0	SWHD	12.52	1	SBIY	133.75	0
本線IV	445	諏訪星ヶ台群	SWHD	8.41	1	SBIY	106.42	0	SWHD	9.73	1	SBIY	86.48	0
本線IV	456	推定不可	推定不可			推定不可			SWHD	8.84	1	SBIY	113.28	0
本線IV	460	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.3	1	SBIY	94.82	0	SWHD	6.02	1	SBIY	89.76	0
本線IV	464	諏訪星ヶ台群	SWHD	1.8	1	SBIY	108.51	0	SWHD	9.55	1	SBIY	84.29	0
本線IV	465	和田土屋橋南群	WDTM	6.85	0.998	WDTN	23.02	0.002	SWHD	3.07	1	TUTI	113.63	0
本線IV	466	和田土屋橋南群	WDTM	6.44	1	WDTN	49.35	0	THAY	5.59	1	TUTI	133.44	0
本線IV	467	諏訪星ヶ台群	SWHD	5.56	1	SBIY	76.3	0	THAY	6.58	1	NYHA	106.98	0
本線IV	473	諏訪星ヶ台群	SWHD	0.55	1	SBIY	83.06	0	THAY	4.26	1	TUTI	107.01	0
本線IV	未掲載	和田土屋橋北群	WDTK	17.73	1	WDTN	43.99	0	THAY	7.5	1	AGKT	133.31	0
本線IV	188	和田土屋橋西群	WDTN	2.05	1	WDTK	24.09	0	THAY	17.42	1	NYHA	95.9	0
本線IV	204	和田土屋橋北群	WDTK	5.19	0.1	WDKB	22.04	0.001	SWHD	6.13	1	WDTN	99.91	0

※黒曜石の産地分析手法および本線I・II区出土の黒曜石については天ヶ堤遺跡(1)P.508~512を参照。



第102図 判別図 (縄文時代)

第2節 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

天ヶ堤遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡・土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山2000）。

2. 試料

分析試料は、IV区南壁から採取された11点、およびII区、III区、IV区の土器内から採取された15点の、計26点である。試料採取箇所を分析結果図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1 g に対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02 g 添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1 gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1 g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10⁻⁵ g）をかけて、単位面積で層厚1 cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94（種実重は1.03）、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）、シバ属、Aタイプ（くさび型）、Bタイプ

〔イネ科—タケ亜科〕

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

〔イネ科—その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

〔樹木〕

はめ絵パズル状(ブナ科ブナ属など)、多角形板状(ブナ科コナラ属など)、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

1) IV区南壁

As-C混層(試料1)からAs-YP直下層(試料15)までの層準について分析を行った。その結果、As-YPの直下層(試料15)と直上層(試料14)では、ヨシ属、イネ科Bタイプ(ヌマガヤ属?)、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも少量である。As-Sjの下層(試料13)から上層(試料8)にかけては、ヨシ属が大幅に増加しており、クマザサ属型やミヤコザサ節型も増加しており、また、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型も出現している。As-Knの下層(試料6)からAs-Kn混層(試料4)にかけては、ススキ属型が大幅に増加しており、ヨシ属は減少している。As-Knの上層(試料3)からAs-C混層(試料1)にかけては、ネザサ節型が大幅に増加しており、ススキ属型はやや減少している。

おもな分類群の推定生産量によると、As-Sj直上層よりも下位ではヨシ属が優勢であり、とくにAs-Sj直上層ではヨシ属が圧倒的に卓越していることが分かる。また、As-Kn混層とその下層ではススキ属型、As-Knの上層からAs-C混層にかけてはネザサ節型が優勢となっている。

2) II区土器内部

縄文時代中期後半～後期初頭とされる土器の内部土壌(試料1～4)では、ネザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、クマザサ属型、ミヤコザサ節型なども検出された。また、試料2と試料4ではヨシ属も検出された。

3) III区土器内部

縄文時代中期後半～後期初頭とされる土器の内部土壌(試料5)では、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型などが検出されたが、いずれも比較的少量である。

4) IV区土器内部

古墳時代とされる土器の内部土壌(試料6～8)では、ススキ属型、ウシクサ族A、ネザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、メダケ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型なども検出された。また、試料6ではイネも検出された。イネの植物珪酸体密度は700個/gと低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている3,000個/gを下回っている。

縄文時代中期後半～後期初頭とされる土器の内部土壌(試料9～15)のうち、試料12～試料15ではススキ属型やネザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、ウシクサ族A、メダケ節型、クマザサ属型、ミヤコザサ節型なども検出された。試料9と試料10でも同様の分類群が検出されたが、これらの試料ではミヤコザサ節型が比較的高い値であり、ススキ属型は低い値である。また、試料11でも同様の分類群が検出されたが、ネザサ節型は比較的低い値である。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

(1) IV区南壁

浅間板鼻黄色軽石 (As-YP, 約1.3-1.4万年前) の直下層および直上層の堆積当時は、ヨシ属やヌマガヤ属などが生育する湿地的な環境であったと考えられ、周辺にはクマザサ属 (ミヤコザサ節を含む) などが生育していたと推定される。

浅間総社軽石 (As-Sj, 約1.1万年前) の下層から直上層にかけては、ヨシ属やヌマガヤ属などが多く生育する湿地的な環境であったと考えられ、とくに As-Sj 直上層ではヨシ属が繁茂する状況であったと推定される。また、この時期には周辺にススキ属やチガヤ属、およびクマザサ属 (ミヤコザサ節を含む) などが生育していたと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、メダケ率 (両者の推定生産量の比率) の変遷は、地球規模の氷期-間氷期サイクルの変動と一致することが知られている (杉山 2001)。ここでは、クマザサ属が卓越しており、メダケ率が 0~8% と低いことから、当時は比較的寒冷な気候条件であったと推定される。

その後、浅間六合軽石 (As-Kn, 約5,400年前) 混層にかけては、ススキ属を主体とした草原的な環境に移行したと考えられる。また、同層準ではメダケ率が50%以上に増加していることから、当時は比較的温暖な気候であったと推定される。

As-Kn の上層から浅間C軽石 (As-C, 3世紀終末~4世紀初頭) 混層にかけては、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節などを主体とした草原的な環境であったと考えられ、周辺にはヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。

(2) 土器内土壌

土器の内部土壌では、土器内に入れられた何らかの植物の検出が期待されたが、今回の分析ではこれを示唆するような明瞭な結果は得られなかった。

縄文時代中期後半~後期初頭とされる土器の内部土壌の堆積当時は、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節などを主体とした草原的な環境であったと考えられ、ヨシ属などが生育する湿地的なところも見られたと推定される。このような結果は、IV区南壁の As-Kn 直上層と類似している。なお、II区・III区の試料では、IV区の試料と比較して全体的に植物珪酸体密度が低いことから、調査区によって植生や堆積条件に違いがあった可能性も考えられる。

古墳時代とされる土器の内部土壌では、一部の試料から少量のイネが検出された。このことから、当時は周辺で稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形で土器内にイネの植物珪酸体が混入したと推定される。当時の遺跡周辺は、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節などを主体とした草原的な環境であったと考えられ、周辺にはヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。

文献

- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体. 富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.
杉山真二 (2001) テフラと植物珪酸体分析. 月刊地球, 23: 645-650.
藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) 一 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) 一 プラント・オパール分析による水田址の探査一. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

第2節 自然科学分析

表1 群馬県、天ヶ堤遺跡における植物珪酸体分析結果
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料		4区南壁											2区					
		1	2	3	4	6	8	9	11	13	14	15	1	2	3	4				
イネ科 Gramineae (Grasses)																				
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)																			
キビ旗型	Panicaceae type	42	15	15	51	14	22	14	14							14	15	7	7	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	21	22	29	29	90	237	129	115	68	37	52						7	15	
シバ属	<i>Zoisa</i>																			
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	119	132	102	206	271	86	14	7						22	36	7	37		
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	56	81	51	66	49	43	29	86	20					50	123	45	81		
ウシクサ属B	Andropogoneae B type	7	44	7	7										7	15		7		
Aタイプ(くさび型)	A type	7																		
Bタイプ	B type	21	7		15	7	93	79	58	34	7	37			29	15		7		
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)																				
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	21	37	36	29												22	22		
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	169	323	472	15	7	22		7	7					65	196	97	88		
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	28	29		37		57	65	58	27		15			14	7	30	59		
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	28	15	7	37	21	36	72	94	54	7	22			72	80	60	227		
未分類等	Others	14	125	145	15		22	22	43	47					115	138	37	234		
その他のイネ科 Others																				
表皮毛起源	Husk hair origin	14	29	15	7	7	43	29	43	14	7	7			14	7		7		
棒状珪酸体	Rod-shaped	380	823	892	602	292	610	488	411	223	75				331	603	90	747		
茎部起源	Stem origin						50	36	65	20	22	7			7	7	7	7		
未分類等	Others	77	331	370	250	104	208	380	65	108	37	67			79	123	60	169		
樹木起源 Arboreal																				
はめ絵パズル状(ブナ属など)	Jigsaw puzzle shaped (<i>Fagus</i> etc.)	7																		
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (<i>Quercus</i>)		7						7											
その他	Others																			
植物珪酸体総数	Total	1012	2021	2141	1366	863	1529	1363	1066	623	120	285			821	1394	464	1693		

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)																	
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	1.33	1.39	1.83	1.85	5.71	14.94	8.15	7.27	4.27	2.36	3.31				0.46		0.92
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	1.48	1.64	1.26	2.55	3.37	1.07	0.18	0.09						0.27	0.45	0.09	0.45
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	0.24	0.43	0.42	0.34											0.25	0.26	0.09
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.81	1.55	2.26	0.07	0.03	0.10		0.03	0.03					0.31	0.94	0.47	0.42
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.21	0.22		0.28		0.43	0.48	0.43	0.20		0.11			0.11	0.05	0.22	0.44
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.08	0.04	0.02	0.11	0.06	0.11	0.22	0.28	0.16	0.02	0.07			0.22	0.24	0.18	0.68

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>	18	19	16	43											17	23	5
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	60	69	84	9	35	16		5	8					49	63	41	26
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	16	10		35		67	69	58	51	63				17	4	20	27
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	6	2	1	14	65	17	31	38	41	100	38			34	16	16	42

表1 群馬県、天ヶ堤遺跡における植物珪酸体分析結果
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	地点・試料		4区														
		3区	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15					
イネ科 Gramineae (Grasses)																		
イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)																	
キビ旗型	Panicaceae type			7				7		21	7	7	36	14				
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	15		7	13	35	7	14	14	29	28	43	21					
シバ属	<i>Zoisa</i>			7						7								
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	30		173	150	188	36	36	160	257	124	100	186					
ウシクサ属A	Andropogoneae A type	38		144	215	84	65	116	104	64	76	71	86					
ウシクサ属B	Andropogoneae B type					13	7	15		14			21					
Aタイプ(くさび型)	A type							7					7					
Bタイプ	B type							14		7	7	14						
タケ亜科 Bambusoideae (Bamboo)																		
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			7	20	28	22	29	14	72	41	50	100					
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	15		151	339	223	312	159	104	200	401	363	593					
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	23		7	20	14	36	22	21	7	35	14	36					
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	76		50	7	7	167	137	132	79	55	78	86					
未分類等	Others	30		115	157	147	254	116	132	64	138	114	150					
その他のイネ科 Others																		
表皮毛起源	Husk hair origin	23		14	13	21	15	22	21	14	7	36	29					
棒状珪酸体	Rod-shaped	91		972	1005	767	1032	803	961	737	1175	684	1237					
茎部起源	Stem origin	8				28	7	7	7	7			7					
未分類等	Others	159		396	91	105	370	231	237	129	221	43	79					
樹木起源 Arboreal																		
はめ絵パズル状(ブナ属など)	Jigsaw puzzle shaped (<i>Fagus</i> etc.)																	
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (<i>Quercus</i>)					7												
その他	Others																	
植物珪酸体総数	Total	507		2088	2100	1695	2346	1707	1957	1674	2323	1638	2652					

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	<i>Oryza sativa</i> (domestic rice)			0.21														
ヨシ属	<i>Phragmites</i> (reed)	0.95		0.45	0.82	2.20	0.46	0.91	0.88	1.81	1.74	2.70	1.35					
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.38		2.14	1.86	2.34	0.45	0.45	1.99	3.19	1.54	1.24	2.30					
メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			0.08	0.23	0.32	0.25	0.34	0.16	0.83	0.48	0.58	1.16					
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	0.07		0.73	1.63	1.07	1.50	0.76	0.50	0.96	1.92	1.74	2.85					
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	0.17		0.05	0.15	0.10	0.27	0.16	0.16	0.05	0.26	0.11	0.27					
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	0.23		0.15	0.02	0.02	0.50	0.41	0.40	0.24	0.17	0.24	0.26					

タケ亜科の比率 (%)

メダケ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Medake</i>			8	11	21	10	20	13	40	17	22	26				
ネザサ節型	<i>Pleioblastus</i> sect. <i>Nezasa</i>	15		72	81	70	59	46	41	46	68	65	63				
クマザサ属型	<i>Sasa</i> (except <i>Miyakozasa</i>)	36		5	7	7	11	10	13	3	9	4	6				
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Miyakozasa</i>	48		15	1	1	20	25	33	11	6	9	6				

第7章 分析

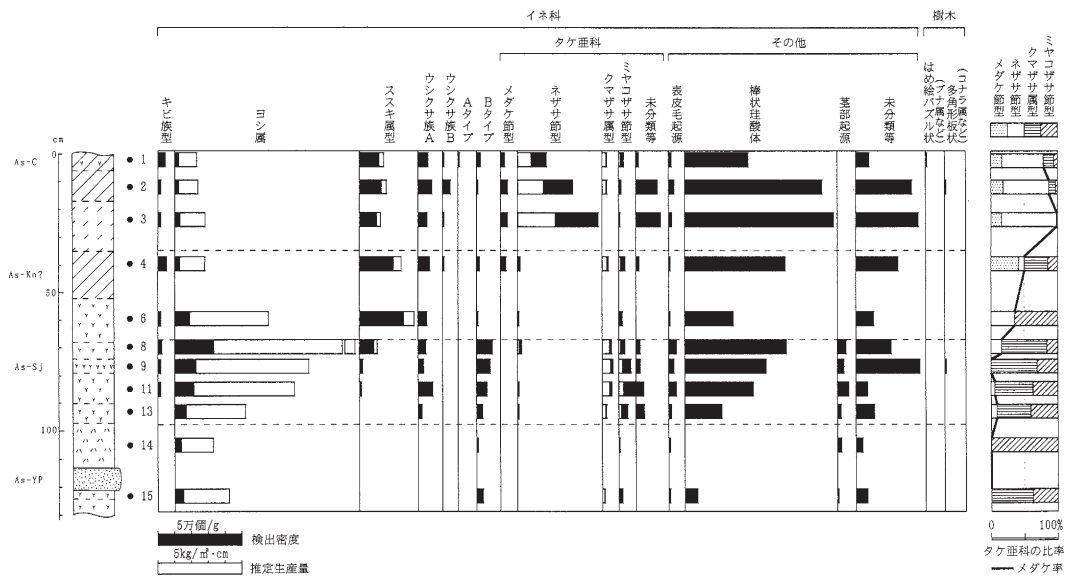


図1 群馬県、天ヶ堤遺跡Ⅳ区南壁地点における植物珪酸体分析結果

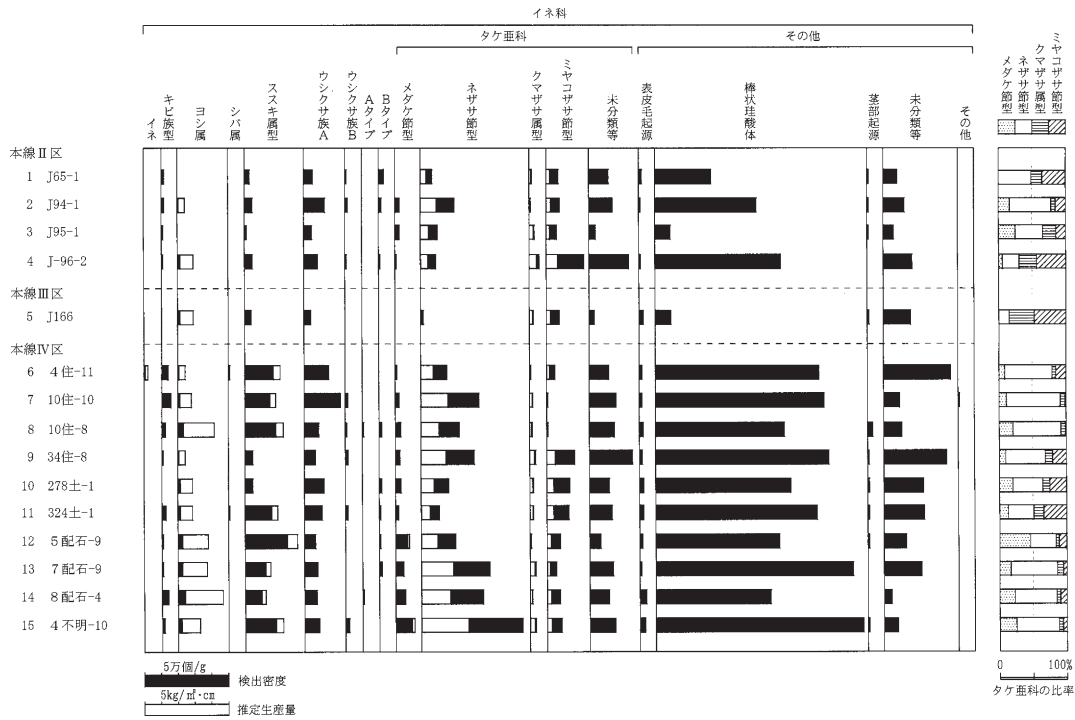
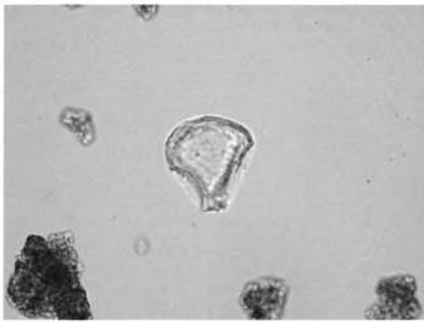
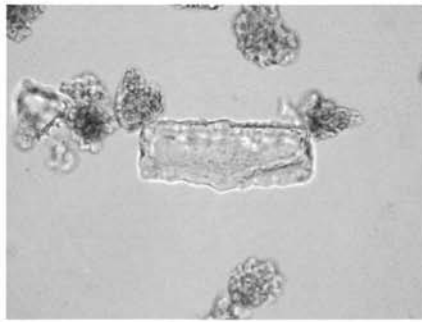


図2 群馬県、天ヶ堤遺跡Ⅳ区南壁地点における植物珪酸体分析結果



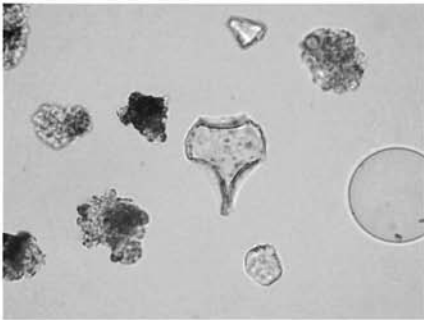
イネ (4住-11)



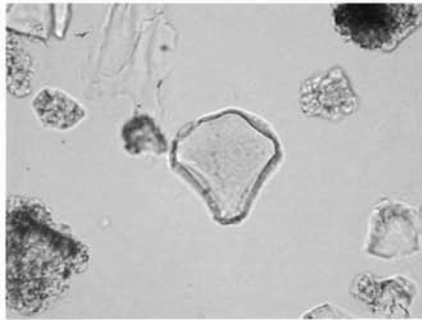
キビ族型 (8配石-4)



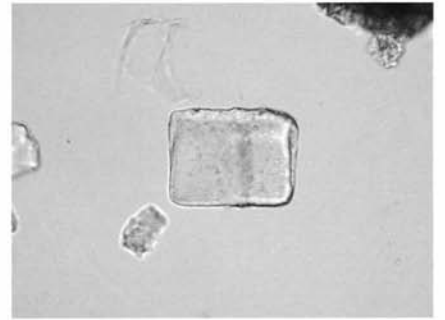
ヨシ族型 (IV区南壁 6)



シバ属 (4住-11)



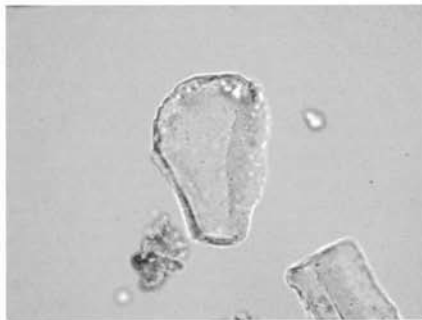
スキ属型 (IV区南壁 2)



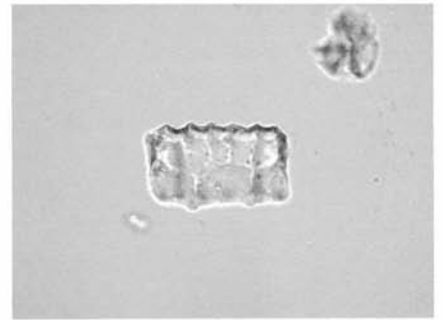
ウシクサ族 (4住-11)



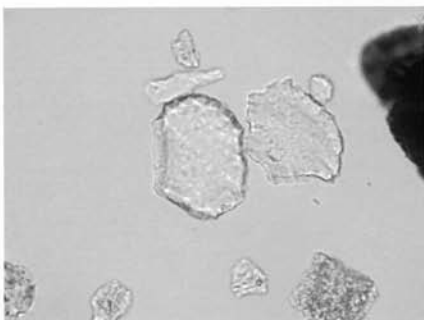
ウシクサ族B (IV区南壁 2)



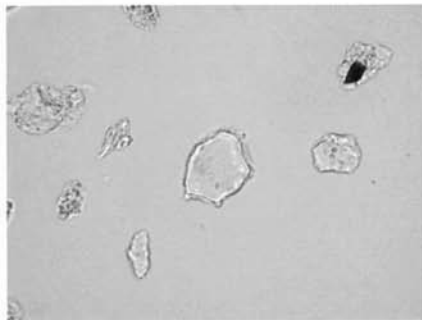
メダケ節型 (10住-10)



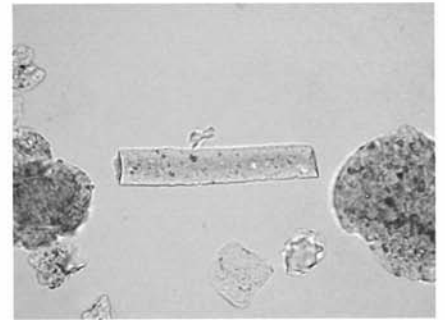
ネザサ節型 (IV区南壁 1)



クマザサ属型 (IV区南壁 8)



ミヤコザサ節型 (IV区南壁 9)



棒状珪酸体 (IV区南壁 8)

植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 —— 50 μ m

第7章 分 析

天ヶ堤遺跡における花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試 料

試料は、古墳時代とされる土器の内部土壌の試料7（IV区10住—No.6）、および縄文時代中期後半～後期初頭とされる土器の内部土壌の試料12（5号配石—No.9）の計2点である。

3. 方 法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示した。

4. 結 果

(1) 分類群

出現した分類群は、草本花粉2、シダ植物孢子1形態の計3である。分析結果を表1に示し、主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を記す。

〔草本花粉〕

イネ科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子

(2) 花粉群集の特徴

古墳時代とされる土器の内部土壌の試料7（IV区10住—No.6）では、草本花粉のヨモギ属とイネ科、およびシダ植物孢子の単条溝孢子が検出されたが、いずれも少量である。縄文時代中期後半～後期初頭とされる土器の内部土壌の試料12（5号配石—No.9）では、花粉、孢子とも検出されなかった。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

古墳時代とされる土器の内部土壌の試料7（IV区10住一No.6）では、花粉があまり検出されないことから植生や環境の詳細な推定は困難であるが、同試料の堆積当時はヨモギ属やイネ科、シダ植物などが生育する草原的な環境であった可能性が示唆される。花粉があまり検出されない原因としては、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で花粉などの有機質遺体が分解されたことなどが考えられる。

文献

中村純（1973）花粉分析。古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴。大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

表1 天ヶ堤遺跡における花粉分析結果

分類群		本線IV区	
		10号住居	5号配石
学名	和名	6	9
Nonarboreal pollen	草本花粉		
Gramineae	イネ科	2	
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	10	
Fern spore	シダ植物孢子		
Monolate type spore	単条溝孢子	5	
Arboreal pollen	樹木花粉	0	0
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	12	0
Total pollen	花粉総数	12	0
Unknown pollen	未同定花粉	0	0
Fern spore	シダ植物孢子	5	0
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)
	明らかな消化残渣	(-)	(-)

第7章 分 析

天ヶ堤遺跡の花粉・孢子



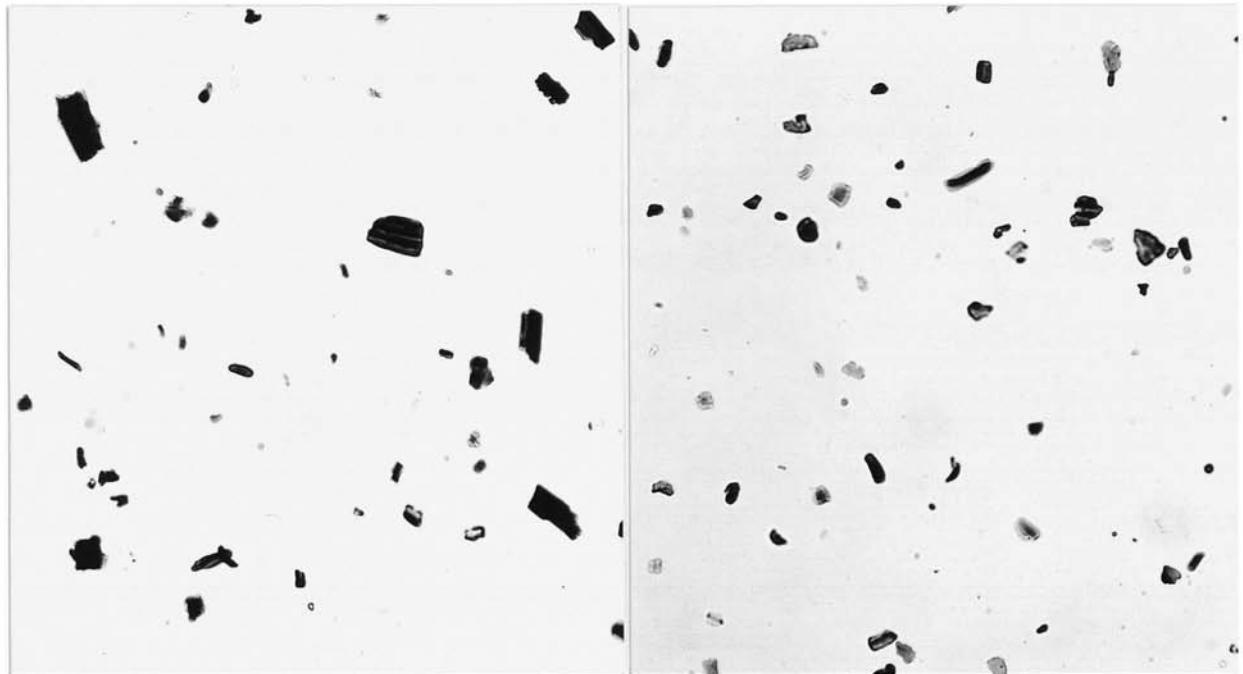
1 イネ科

2 ヨモギ属

3 ヨモギ属

4 シダ植物単条溝孢子

—10 μ m



5 試料7 (10住-6)

6 試料12 (5号配石-9)

—100 μ m

第8章 ま と め

第1節 旧石器時代

天ヶ堤遺跡では3時期の石器群が確認され、上位から第1、第2、第3文化層とした。第104図に文化層ごとに主要な石器を掲げた。ここでは、各文化層の様相をまとめ、編年上への位置付けを行いたい。

群馬県の旧石器時代編年については、1994年に岩宿フォーラム実行委員会によって4期に分ける編年案が提示された(岩宿フォーラム実行委員会 1994)。その後の資料の増加を受け、小菅将夫は5期に区分する編年案を示している(小菅将夫 2003、2004)。本稿では、小菅による5期編年に従って、各文化層の位置付けを行う。

第1文化層

総数38点という小規模な石器群である。大型の剥片や石核が多く、旧石器時代の石器群ではあまり多用されない石材が多いなど、特異な様相を呈している。剥片は比較的縦長の形状が多いが、両側縁が平行する石刃状のものは含まれない。ツールとしては、剥片素材の大型礫器(9)と、大型剥片の端部にわずかに調整を加えた石器(第6図1)が各1点あるが、それ以外は調整を加えられることなく廃棄されている。

剥片剥離技術としては、接合資料—1や7のように、分割面を打面として側面で剥片剥離を行っている個体がある。打面は上面に固定され、打面再生も行われる。この他の接合資料は、原石の平坦面を打面として粗割りし、分割した個体をさらに2～3点に分割しており、定型的な剥片の剥離を意図している様子はない。

出土層位は縄文時代の遺物包含層直下で、As-YPを二次的に含むローム層中である。

本石器群は定型的な石器を含まず、特徴的な剥片剥離技術も持たないため、石器群の内容から時期を特定するのは非常に困難である。そこで出土層位を比較すると、V期の細石刃石器群に相当する。V期では、市之関前田遺跡や柏倉芳見沢遺跡など、大型の剥片をツールの素材とする石器群が知られている。このうち柏倉芳見沢遺跡では、平坦打面の石核から連続して縦長剥片を剥離している接合資料が出土しているが、本石器群でも接合資料—1で同様な剥片剥離工程が認められる。また本石器群では礫器が1点出土しているが、市之関前田遺跡や、同じくV期に含まれる鳥取福蔵寺II遺跡でも礫器が伴う。ただし、後者の礫器は大半が円～亜円礫を素材とするのに対し、本石器群では礫を輪切りにしたような大型剥片を素材としている。

以上のように、V期の石器群との類似点は認められるが、細石刃関連の資料を全く含まないため、同時期の石器群とするには決め手に欠ける。同様に、縄文時代草創期に位置付けるにも決定的な根拠を持たない。現状では、V期石器群との類似点を評価して、V期の段階に位置付けておく。

第2文化層

1ブロック83点の小規模な石器群で、小型のナイフ形石器を特徴的に含む(1～6)。ナイフ形石器は一側縁加工のものを主体とし、先端を斜めに断ち切るように調整を加える「茂呂系」のナイフ形石器を含んでいる。この他に基部加工のものも1点含まれる(6)。素材は小型の剥片であるが、一部石刃素材と思われるものも認められる(5・6)。全6点中素材剥片の打面を基部に残置するものが3点あるが、いずれも平坦打面である。このような素材剥片の形状は、接合資料—1(第23図)で確認された剥片剥離工程によって剥出される剥片と一致する。ただし、本石器群においては石材が非常に欠乏しており、本来有している剥片剥離技術が一部潜在化しているおそれがある。事実石刃素材と思われるナイフ形石器を少量ながら伴っていることを考慮すれば、石刃技法を有していた可能性は高い。

第8章 ま と め

石材は9割以上がチャートであるが、大半が小型の剥片やチップである。遺跡が立地する大間々扇状地では、その基盤礫層中にチャートが含まれており、近隣の低地部で石器石材として利用可能な良質なものを採取することができる。それにもかかわらず、剥離の進行した小型の個体を搬入して極限まで剥片剥離を試みており、石材の採取行動を規制する要因の存在が窺える。

出土層位はAs-YPを含む4層からAs-BPグループ下部の軽石を含む7層までにわたるが、As-Ok1を含む5層下部からAs-BPグループ中・上部軽石を含む6層に集中している。

以上から、本石器群についてはIV期に位置付ける。これは「茂呂系」のナイフ形石器を含む一方、切出形のナイフ形石器や角錐状石器など、III期に特徴的な石器を組成しない点を根拠とした。出土層位の点からも矛盾はない。IV期はナイフ形石器が主体となる前半と、槍先形の尖頭器が主体となる後半段階に分けられるが、槍先形尖頭器を組成しないことから、本石器群はIV期の前半段階に含まれる。小規模な石器群であるため、石器装備の一部が欠落している可能性はあるが、ポイントフレックなどは出土しておらず、尖頭器の存在を窺わせるものは皆無である。従って、現段階では前述の位置付けが妥当なものと考えている。

第3文化層(II・III区)

一部未発掘の部分はあるが、円形に並ぶ9カ所のブロックが発見され、いわゆる「環状ブロック群」と確認された。ここでは定型的な石器が少なく、剥片の一部に調整を加えたのみの不定形な石器が多い。定型的なツールとしては2点の台形様石器があげられる(2・3)。ナイフ形石器は一側縁に浅く微細な調整が加えられるが、基部を欠損し、全体の形状は不明である(1)。この他には、ナイフ形石器の破片と思われる黒曜石製の小破片が3点出土している(第30図4～6)。また、背面に研磨面を有する斧形石器の調整剥片が1点出土し(24)、刃部磨製の斧形石器を石器組成に含んでいたことが確認できた。

出土層位はAs-BPグループ下部軽石を含む7層から暗色帯にあたる9層までで、大半は9層中に含まれていた。

以上のように、本石器群は「環状ブロック群」という特徴的な石器分布を呈し、台形様石器や刃部磨製石斧などを石器組成に含むことから、典型的なI期の石器群と捉えられる。

第3文化層(IV区)

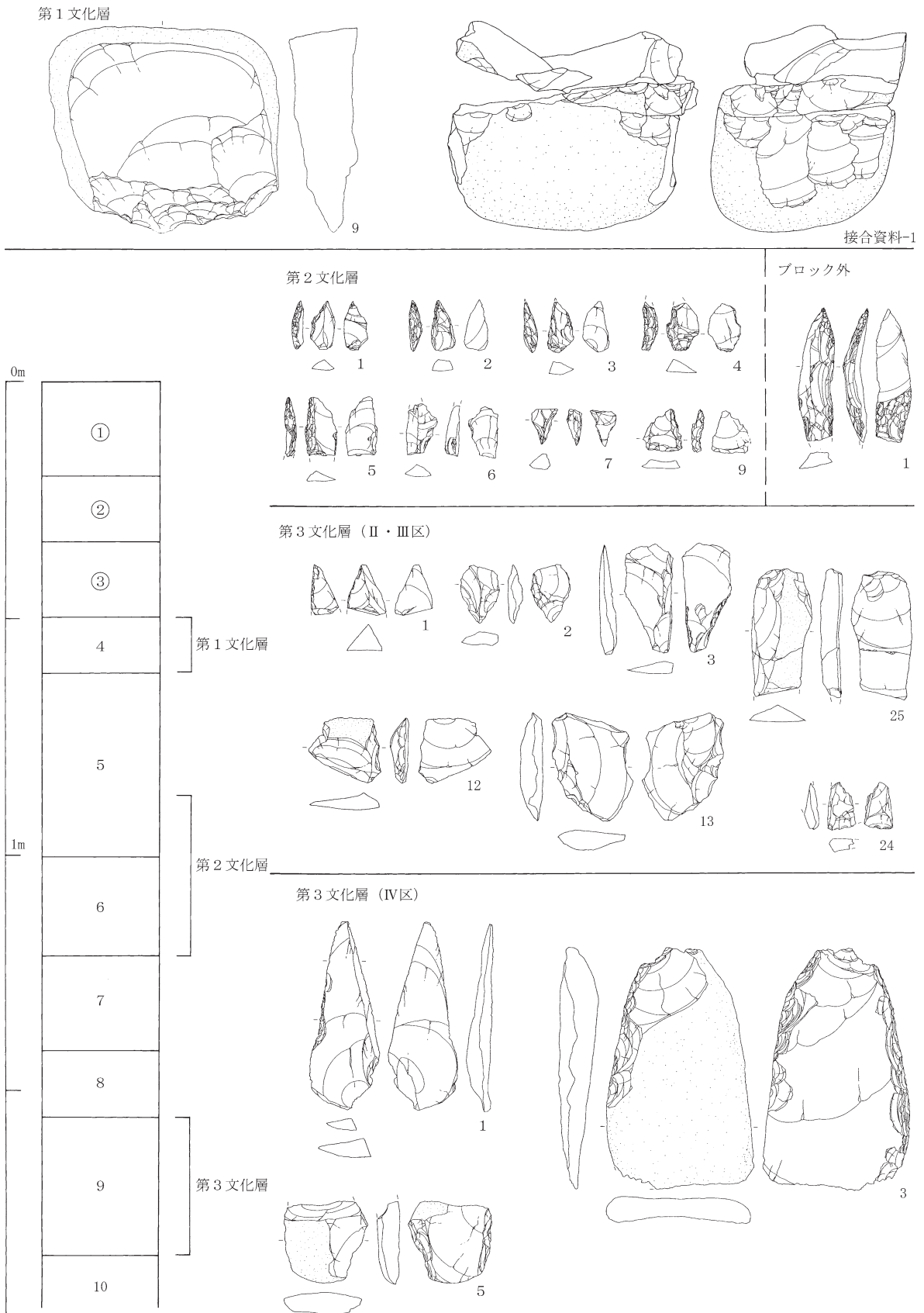
大半の石器が大型のブロック1カ所に集中していた。ここでも定型的なツールは少なく、ナイフ形石器と彫刻刀形石器、スクレイパー各1点、斧形石器2点が出土しているにすぎない(第67・68図1～5)。このうち3の斧形石器は、調整が両側縁に限られ刃部が未加工のまま残されている。通常当該期の斧形石器は、使用による損耗とその後の再調整によって大きく形態が変化していく。3の斧形石器は使用による損耗がほとんど認められず、石器として完成された段階の形状を保っている。

出土層位は基本土層の7～10層であるが、大半が暗色帯にあたる9層から出土している。

本石器群も暗色帯から出土しており、ナイフ形石器と斧形石器を伴うことから、I期の石器群に位置付けられる。(敬称略)

引用・参考文献

- 岩宿フォーラム実行委員会編 1994 『群馬の岩宿時代の変遷と特色』
小菅将夫 2003 「北関東との対比」『シンポジウム「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」 一発表資料一』 第15回長野県旧石器文化研究交流会
小菅将夫 2004 「四 石器群の移り変わり」『群馬の旧石器』 みやま文庫175
前橋市教育委員会 2005 『柏倉芳見沢遺跡・柏倉落合遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998 『鳥取福蔵寺II遺跡』
宮城村教育委員会 1991 『市之関前田遺跡I』



第104図 各文化層の主要な石器 (S=1/3)

第2節 縄文時代以降

平成12年度から調査の進められた天ヶ堤遺跡の面積は、21,818平方メートルと広大な面積である。整理事業は平成16年度からおこなわれた。昨年度報告分の天ヶ堤遺跡(1)で本線Ⅰ区・Ⅱ区を報告した。今回の報告は、本線Ⅲ区・Ⅳ区、県側道1区～4区である。これらを合わせて概観することでまとめをしたい。

1 縄文時代集落について

土器の概略変遷については、第4章に出土土器の概要で示したとおりで、土器の様式変化について概略を記し時間軸を設定した。これに沿って天ヶ堤遺跡の変遷を追ってみよう。

本遺跡における土器資料での初源は、撚糸文系土器群である。撚糸文系土器は、僅かに数点出土したのみである。遺跡からは、これらの遺構は検出されていない。この地は集落形成に至らず、キャンプ地、道・狩猟・採集の場としての性格が伺える。その後数型式の間、遺跡としての痕跡を見ない。次いで、遺跡として登場するのは、諸磯b式後半段階になってからである。遺跡の東谷を挟んだ対岸にある大上遺跡では、諸磯b式後半段階遺構の集落が形成される。これとほぼ同時期に、本遺跡でも遺構、遺物が散見するようになる。

この時期の遺構は、土坑が検出されているのみで住居は未検出である。出土遺物を見ると、諸磯b式や諸磯c式土器と共に浮島式・興津式土器が出土している。この地域での諸磯式と浮島・興津式土器の関係を見た場合、集落遺跡から伴って出土する例が多いことから、調査区外に住居跡があり小規模ながらも集落を形成していた可能性がある。或いは、谷を挟んだ東側の大上遺跡では、当該期の集落が検出されており、この地域をも含んだ一連の集落の可能性もある。

諸磯c式後、数型式の間この地では土器が見られない。次に縄文人の生活痕跡が天ヶ堤遺跡に認められるのは、阿玉台式土器以降である。阿玉台式土器の終わりに住居と共に集落が作られるようになる。特に、加曾利EⅠ式から住居が増加し、加曾利EⅢ式において最大規模になる。その後、中期末葉の加曾利EⅣ式から住居の減少化が起り、堀之内Ⅱ式期に本遺跡の集落としての役目を終える。

図105・106は、阿玉台式期から堀之内Ⅱ式期の住居分布変遷図であるが、時期により、遺跡内における住居の立地や集落の消長が見てとれる。以下各時期について概観する。

中期後半Ⅰ期（阿玉台～加曾利EⅠ式期）

この時期では、阿玉台期の住居は、2軒検出された。住居は、調査地の西と東に離れている。阿玉台の住居は、掘り込みが浅いもので遺構内の出土遺物も少ない。この住居の間に当該期の土坑も少数作られている。加曾利EⅠ式期では、遺跡のほぼ中央部北寄りに住居が見られる。土坑群は、住居群の南東側に分布するように作られている。伊勢崎市教育委員会により、本調査区の北側を調査した結果、当該期の遺構が検出されたことから、住居の分布は北側に広がる。

中期後半Ⅱ期（加曾利EⅡ式期）

加曾利EⅠ式期と同様の場所に立地する傾向にある。加曾利EⅠ式期の住居位置図と重ね合わせてみると、本時期の住居は、前段階の居住域を踏襲するような位置に作られている。

中期後半Ⅲ期（加曾利EⅢ式期）

遺構数が増大する時期である。現状では、30軒以上の住居跡が確認されているが、この時期の土器は、さらに三細分され、同時に存在した住居は十軒程である。これらの細分別住居分布を見ると、古い段階では、Ⅲ区のほぼ中央部に南北に列状に分布している。前段階の住居分布から南へ住居が延びていくように分布している。次の中段階、新段階になると東側の谷地部へ向かって開放される馬蹄形の分布形態を取り、さらに、

集落の東西を軸として南北に住居群が分布する傾向にある。

中期後半IV期（加曾利EIV式期）

本時期では、13軒の住居が検出されている。調査地の東西にほぼ分かれる形で住居が分布し、中央部に空間を作り土坑群が作られる。本遺跡では、柄鏡形住居もこの時期に出現している。1号配石は、この時期から作られる。

後期初頭I式期（後期加曾利EV期）

住居の数が大幅に減少する。調査区のほぼ中央南側に、3軒の住居が確認された。住居以外に配石遺構や不明遺構とした土器・石器の集中して出土する遺構がこの時期から多く見られるようになる。これらの遺構は、遺跡の東側谷地部にかかる傾斜地に多く分布している。

後期初頭II期（後期加曾利EV式期、称名寺I式期）

調査区のほぼ中央北側に、2軒の住居が確認された。その他、配石遺構や不明遺構からこの時期の遺物を多く出土している。これらの遺構も前段階と同様の位置に分布している。

後期初頭III期（後期加曾利EV式期、称名寺II式期）

減少傾向にあった住居がやや増加し、6軒の住居が検出された。調査区の東寄りの台地から谷地部へ傾斜する所に住居の分布がある。中央部にやや大きめの住居がありそれを取り囲むように住居が分布している。本段階でも配石遺構や不明遺構からの遺物出土が見られる。

後期初頭IV期（後期加曾利EV式期、称名寺II式期）

調査地の中央部と東側の谷地に至る低地部に住居の分布が分かれる。調査地の中央には、本遺跡最大規模の柄鏡形住居がある。配石遺構や不明遺構からの出土遺物は少なくなる。

後期初頭V期（堀之内I式期）

遺跡の中央部に南寄りに数件の住居が見られる。柄鏡形住居もこの段階まで見られる。遺跡東側の谷地部には、配石遺構などもこの段階まで残るが減少傾向にある。

後期初頭VI期（堀之内II式期）

住居が検出され、注口土器を単独で埋納した土坑などが検出された。谷地部では、注口土器の破砕されたものが出土する以外顕著な遺構が見られない。この段階以降、遺物・遺構の検出が無くなり、本段階で天ヶ堤遺跡の縄文時代集落は終焉を迎える。

2 古墳時代・奈良時代の集落について

天ヶ堤遺跡周辺で調査された古墳時代前期の遺跡は、三和工業団地I～IV、舞台、鯉沼東、上壱町田、下町田と多くの遺跡がある。これ以前の弥生時代の遺跡は周辺部には確認出来ていない。このことからこの地域は、在来の弥生集落が空白だった低湿地地域であり、古墳時代前期古段階（3世紀末）に東海西部・東部系土器・南関東系土器を主体的に保持する集団が進出し、開発したとされてきた。この古墳時代前期古段階の開発行為について、隣接する三和工業団地I遺跡などで、周溝の廻る住居が検出されている。これを坂口一氏は（坂口2004）、静岡県浜松市大平遺跡例との比較から、当地域への開発行為の背景に東海地方東部から当地域への直接的な移住を想定している。低湿地部に進出した外来集団を原動力とした、地域社会の大きな再編成が起こったとの考察である。一方、外来土器の出土することを集団の移動と連動させない解釈もある。交易や交流によって外来技法の受容・変革（友廣2003）とする文化伝播によるものとする意見である。どちらかに結論を一方づけるには、まだ研究の余地があると考えられ、天ヶ堤遺跡での遺構・遺物からも積極的

第8章 ま と め

に検証出来るものは検出されなかった。

天ヶ堤遺跡における古墳時代以後の集落は、古墳時代前期と奈良時代後半に分かれる。この間、古代集落景観には長期間の断絶がある。集落の継続に間断がともなうことは、様々な要因が考えられるが、土地利用の周期的な行動様式として捉えた場合、周辺遺跡の遺構検出状況や生産遺跡など地域内の遺跡について綿密な観察が必要になると思われる。当地域における土地利用等の研究については、後日に譲り、遺跡内の集落内に認められる分節構造について概観したい。

天ヶ堤遺跡から検出された古墳時代前期遺構の編年的位置は、第6章において説明したように、古墳時代前期新段階に相当することが、出土遺物から確認されている。古墳時代前期古段階の文化的変容から約1世紀後のことである。周辺遺跡において住居が減少する時期に本遺跡で集落が営まれるようになる。本遺跡での住居の分布は、Ⅲ区の南側にほぼ住居の主軸を同じくする10軒ほどの住居群とⅣ区東南側に主軸の方位にまとまりの欠いた12~13軒の住居群に分かれる。立地上の問題で言えば、Ⅲ区の住居群は、ローム台地の上に作られ、Ⅳ区の住居群は、谷地部の低湿地に作られている。この時期の住居形態は、周辺遺跡の古墳時代前期では、通常、正方形4本柱の形を標準形として報告されている。本遺跡から検出された当該期の住居には、正方形4本柱を呈する住居と長方形を呈し、柱穴のはっきりしない住居の2形態が確認された。

天ヶ堤遺跡では、古墳時代前期から数世紀の空白期間をもって8世紀後半の集落が現れる。奈良時代の住居は、Ⅲ区で1軒、Ⅳ区で5軒検出された。Ⅲ区検出の住居については、出土遺物がみられず時期確定が難しいが、Ⅲ区構外出土の遺物を含めて古代の土器は、8世紀後半段階の範囲に入るものである。Ⅳ区で検出された住居の出土遺物は、8世紀第3四半期頃のものとして推定される。検出された住居は、北向きのカマドを持つⅣ区3、6、7号住居と、東向きカマドを持つⅢ区13号、Ⅳ区18、43号住居に分けられる。

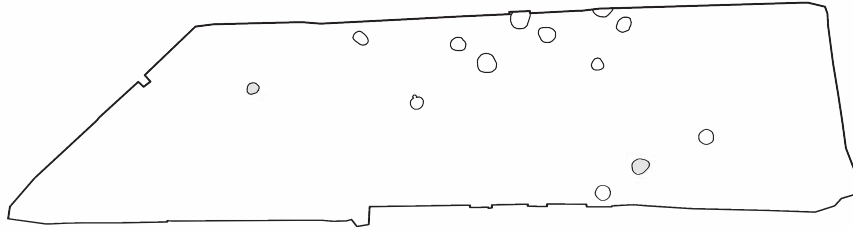
以上のように、天ヶ堤遺跡における住居のあり方を見ると、古墳・奈良時代の住居がⅢ区、Ⅳ区の2地点において、住居群としてまとまって存在し、遺跡内で二分する二大群に分けられることが理解できる。さらに、古墳時代の二大群は、方形・長方形という異なる住居形態をもつ二小群に分けられる。これらのことから、天ヶ堤遺跡の土地開発に関しては、二つの大きな集団からなり、さらにこの集団内に「出自集団」ごとの規則により住居形態を異にする集団が存在したと推定される。本遺跡周辺の三和工業団地遺跡群や舞台遺跡における当該期の集落が少しずつ時期を面して存在することなどから、この集団の背後に、土地利用について周期的に統括するものがあったと考えられる。

参考引用文献（年代順）

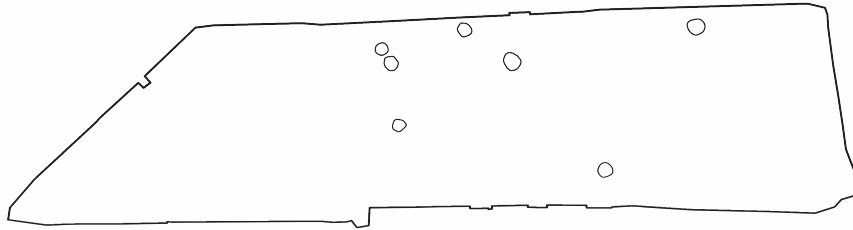
- 谷井 彪 1978 「加曾利EⅡ式土器の覚書」『紀要』5号 埼玉県立博物館
山内清男 1979 『日本先史土器の縄紋』先史考古学会
高崎市教育委員会 1981 『元島名将軍塚古墳』
石坂茂・藤巻幸男・桜岡正信 1988 「加曾利EⅠ式土器に関する一考察」『群馬の考古学』群馬県埋蔵文化財調査事業団
横浜市埋蔵文化財調査団 1990 「称名寺式土器に関する交流研究会の記録」『調査研究集録』第7冊 横浜市埋蔵文化財センター
石坂茂・藤巻幸男・桜岡正信 1991 「縄文時代後期初頭における加曾利EⅠ式系土器の一様相」『群馬県史研究』34 群馬県史編さん委員会
鈴木徳雄 1991 「称名寺式の変化と文様帯の系統」『土曜考古』16号 土曜考古学研究会
石井 寛 1992 「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊 横浜市ふるさと歴史財団 1992
海老原郁雄 1992 「北・東関東の揺籃期・加曾利EⅠ式土器」『研究紀要』第1号 栃木県文化振興事業団・埋蔵文化財センター
桜岡正信・藤巻幸男 1992 「三原田遺跡出土中期後半期の土器について」『三原田遺跡』第3巻 群馬県企業局
鈴木徳雄 1993 「称名寺式の変化と中津式」『縄文時代』第4号 縄文時代文化研究会
石井 寛 1994 「縄文後期集落の構成に関する一試論」『縄文時代』第5号 縄文時代文化研究会 1994
小林達雄 1994 『縄文土器の研究』小学館 1994
加納 実 1995 「下総台地における加曾利EⅢ式期の諸問題」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター
谷井 彪・細田 勝 1995 「関東の大木式・東北の加曾利EⅠ式」『日本考古学』第2号 日本考古学協会 1995

- 谷井 彪・細田 勝 1997 「水窪遺跡の研究」『研究紀要』 第13号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997
- 縄文セミナーの会 1998 『中期中葉から後葉の諸様相』 第11回 縄文セミナー資料集・記録集
- 縄文セミナーの会 1989 『縄文中期の諸問題』 第3回 縄文セミナー資料集
- 縄文セミナーの会 1990 『縄文後期の諸問題』 第4回 縄文セミナー資料集
- 今村啓爾 1997 「称名寺式土器の研究(上)」『考古学雑誌』 63巻1号 日本考古学会
- 今村啓爾 1997 「称名寺式土器の研究(下)」『考古学雑誌』 63巻2号 日本考古学会
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『白川傘松遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999 『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)―縄文・古墳・奈良・平安時代他編―』
- 山口逸弘 2000 「道訓前遺跡Ⅰ出土の「三原田型深鉢」について」『道訓前遺跡』 北橋村教育委員会
- 石坂茂・大工原豊 2001 「群馬県における縄文時代集落の諸様相」『列島における縄文時代集落の諸様相』 縄文時代研究会
- 大工原豊 2001 「中野谷地区遺跡群」『安中市史』 第四巻 安中市
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『波志江中野面遺跡(2)―古墳時代以降編―』
- 石坂 茂 2002 「縄文時代中期末葉の環状集落の崩壊と環状列石の出現」『研究紀要』 20号 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 山本輝久 2002 『敷石住居の研究』 六一書房
- 縄文セミナーの会 2002 『後期前半の再検討』 第15回 縄文セミナー資料集・記録集
- 友廣哲也 2003 「古墳社会の成立―北関東の弥生・古墳時代の地域間交流―」『日本考古学』 第16号 日本考古学協会
- 縄文セミナーの会 2003 『中期後半の再検討』 第16回 縄文セミナー資料集・記録集
- 石坂 茂 2004 「関東・中部地方の環状列石」『研究紀要』 22号 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『舞台遺跡(2)』
- 小林謙一 2004 『縄紋社会研究会の新視点』 六一書房
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅱ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅲ遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会 2004 『三和工業団地Ⅳ遺跡』
- 小林謙一 2005 『縄文研究の新地平』 六一書房
- 谷口康浩 2005 『環状集落と縄文社会構造』 学生社
- 若狭 徹・深沢敦仁 2005 「北関東西部における古墳出現期の社会」『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』 新潟県考古学会
- 鈴木保彦 2006 『縄文時代集落の研究』 雄山閣
- 深沢敦仁 2006 「利根沼田 古式土師器編年 覚書」『群馬考古手帳』 16号 群馬土器観会
- 安中市ふるさと学習館 2006 『ストーンサークル出現』
- 伊勢崎市教育委員会 2006 『天ヶ堤遺跡Ⅴ』
- 青木義脩 2006 「加曾利E式土器成立期に於ける埼玉およびその周辺の土器」『埼玉の考古学Ⅱ』 六一書房
- 秋田かな子 2006 「関東地方後期前・中葉土器文化にみる展開」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅣ』 縄紋社会研究会
- 今村啓爾 2006 「系統性という見方は土器研究に何をもたらすか?」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅣ』 縄紋社会研究会
- 鈴木徳雄 2006 「称名寺式における異系統土器の接触と変容」『異系統土器の出会い』 異系統土器の出会い研究班
- 戸田哲也 2006 「縄文土器型式の分布圏」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅣ』 縄紋社会研究会
- 本橋恵美子 2006 「縄紋時代中期後葉の柄鏡形住居出現期の様相」『埼玉の考古学Ⅱ』 六一書房
- 安斎正人 2007 『人と社会の生態考古学』 柏書房
- 金子直行 2007 「中期型環状集落の解体過程からみた縄文社会」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅤ』 縄紋社会研究会
- 鈴木徳雄 2007 「称名寺式と異系統土器の共存の問題」『縄紋社会をめぐるシンポジウムⅤ』 縄紋社会研究会
- 小林達雄 2007 『考古学ハンドブック』 新書館
- 縄文セミナーの会 2007 『中期終末から後期初頭の再検討』 第20回 縄文セミナー資料集・記録集
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『前道下遺跡(1)』

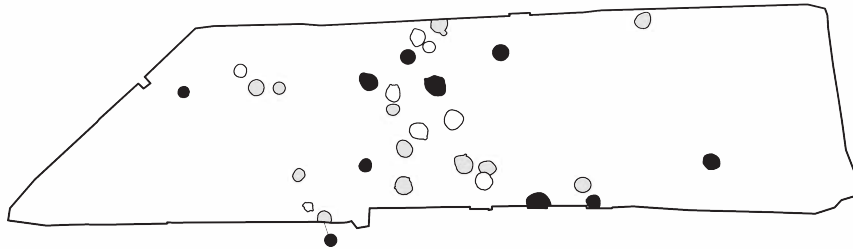
加曾利E I - ○ 阿玉台 - ●



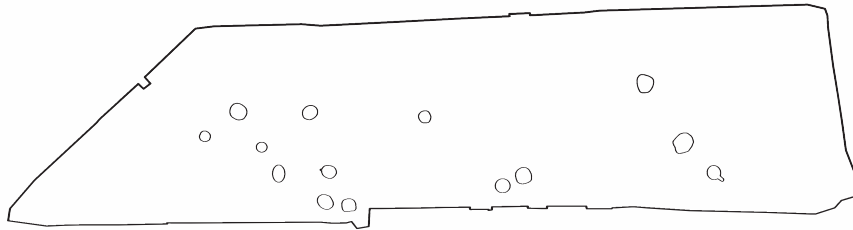
加曾利E II - ○



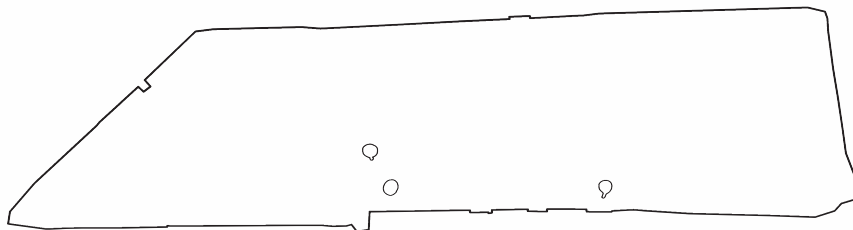
加曾利E III - 1... ○ 加曾利E III - 2... ● 加曾利E III - 3... ●



加曾利E IV... ○

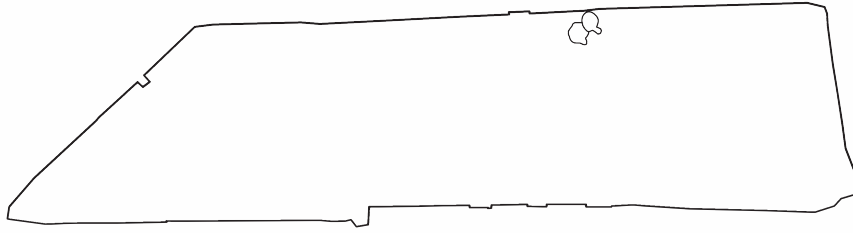


後期 I... ○

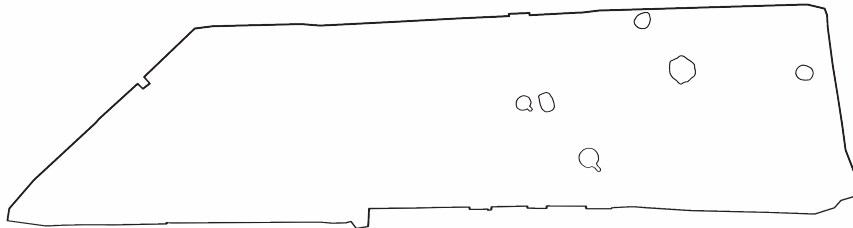


第105図 縄文時代住居の変遷図

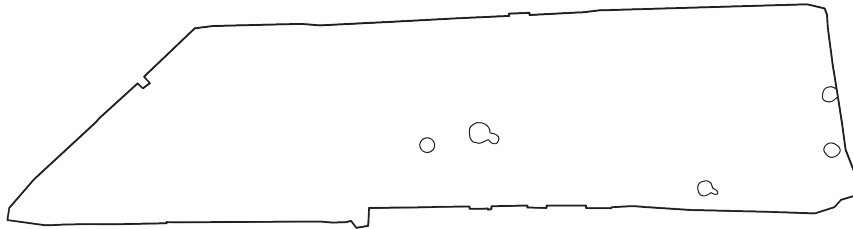
後期Ⅱ…○



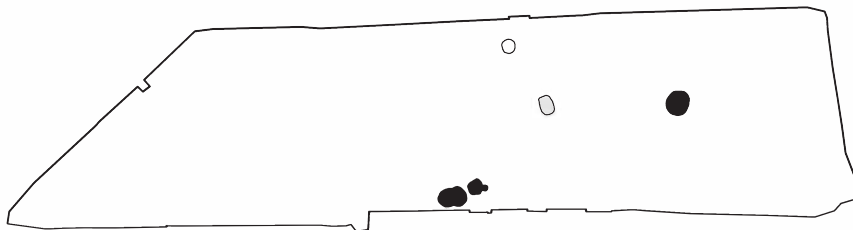
後期Ⅲ…○



後期Ⅳ…○



堀之内Ⅰ(古)…○ 堀之内Ⅰ(新)…● 堀之内Ⅱ…●



第106図 縄文時代住居の変遷図

第8章 ま と め

		阿玉台	加曾利 E I	加曾利 E II	加曾利 E III	加曾利 E IV	後期 I	後期 II	後期 III	後期 IV	堀之内 I (古)	堀之内 I (新)	堀之内 II
1	II区 J83												
2	IV区 30号住												
3	3区 2号住												
4	3区 6号住												
5	3区 7号住												
6	3区 13号住												
7	III区 J74												
8	III区 J123												
9	III区 J155												
10	IV区 15号住												
11	IV区 24号住												
12	IV区 29号住												
13	IV区 42号住												
14	3区 8号住												
15	3区 12号住												
16	III区 J93												
17	III区 J153												
18	III区 J162												
19	IV区 17号住												
20	IV区 40号住												
21	II区 J5												
22	II区 J44												
23	II区 J51												
24	II区 J65												
25	II区 J66												
26	II区 J68												
27	II区 J86												
28	II区 J91												
29	3区 5号住												
30	3区 9号住												
31	3区 10号住												
32	3区 11号住												
33	3区 15号住												
34	III区 J14												
35	III区 J40												
36	III区 J54												
37	III区 J55												
38	III区 J114												
39	III区 J133												
40	III区 J139												
41	III区 J157												
42	III区 J158												
43	III区 J161												

第107図 縄文時代住居の変遷表(1)

		阿玉台	加曾利 E I	加曾利 E II	加曾利 E III	加曾利 E IV	後期 I	後期 II	後期 III	後期 IV	堀之内 I (古)	堀之内 I (新)	堀之内 II
44	Ⅲ区 J178				■								
45	Ⅲ区 J180				■								
46	Ⅲ区 J181			■	■						■		
47	Ⅲ区 J188				■								
48	Ⅲ区 J216				■								
49	Ⅳ区 34号住				■								
50	Ⅳ区 14号住				■								
51	Ⅱ区 J2				■	■							
52	Ⅱ区 J32				■	■							
53	Ⅱ区 J67				■	■							
54	Ⅱ区 J72				■	■							
55	Ⅱ区 J75				■	■							
56	Ⅱ区 J92				■	■							
57	Ⅱ区 J93				■	■							
58	Ⅱ区 J98				■	■							
59	Ⅲ区 J20				■	■	■	■	■	■			
60	Ⅲ区 J36				■	■	■	■	■	■			
61	Ⅲ区 J228				■	■	■	■	■	■			
62	Ⅳ区 21号住				■	■	■	■	■	■			
63	Ⅳ区 27号住				■	■	■	■	■	■			
64	Ⅳ区 31号住				■	■	■	■	■	■			
65	Ⅲ区 J56			■	■	■	■	■	■	■			
66	Ⅲ区 J191				■	■	■	■	■	■			
67	Ⅲ区 J200				■	■	■	■	■	■			
68	3区 1号住				■	■	■	■	■	■			
69	Ⅳ区 41号住				■	■	■	■	■	■			
70	3区 14号住				■	■	■	■	■	■			
71	Ⅲ区 J18				■	■	■	■	■	■			
72	Ⅲ区 J53				■	■	■	■	■	■			
73	Ⅳ区 11号住				■	■	■	■	■	■			
74	Ⅳ区 13号住				■	■	■	■	■	■			
75	Ⅳ区 16号住				■	■	■	■	■	■			
76	Ⅲ区 J11				■	■	■	■	■	■			
77	Ⅲ区 J120				■	■	■	■	■	■			
78	Ⅳ区 22号住				■	■	■	■	■	■			
79	Ⅳ区 37号住				■	■	■	■	■	■			
80	Ⅳ区 38号住				■	■	■	■	■	■			
81	Ⅲ区 J10				■	■	■	■	■	■	■	■	■
82	Ⅲ区 J147				■	■	■	■	■	■	■	■	■
83	Ⅳ区 19号住				■	■	■	■	■	■	■	■	■
84	Ⅲ区 J16				■	■	■	■	■	■	■	■	■
85	3区 4号住		■									■	■
86	Ⅲ区 J263												

第107図 縄文時代住居の変遷表(2)

報告書抄録

書名ふりがな	あまがつつみいせき
書名	天ヶ堤遺跡（2）
副書名	北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	430
編著者名	関根慎二／小暮育秀／羽石智治／山賀和也／齊田智彦／相京建史
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20080314
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地 2
遺跡名ふりがな	あまがつつみいせき
遺跡名	天ヶ堤遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせさきしさんわちょう
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市三和町
市町村コード	10204
遺跡番号	IS077
北緯（日本測地系）	362058
東経（日本測地系）	1391351
北緯（世界測地系）	362109
東経（世界測地系）	1391339
調査期間	20001001-20030131
調査面積	8128
調査原因	道路建設工事
種別	集落
主な時代	縄文中期
遺跡概要	旧石器／集落－縄文－竪穴住居82＋土坑836＋埋甕15＋遺物集中箇所 8－縄文土器＋石器／集落－古墳－竪穴住居42＋土坑75／集落－奈良・平安－竪穴住居 2／集落－近世－土坑217＋溝13＋井戸 1＋石製品／生産－近世－畑跡 3
特記事項	旧石器時代の 3 枚の文化層を検出。大間々扇状地における湧水点の一つ「あまが池」周辺に位置し、隣接する三和工業団地II遺跡と合わせ縄文時代中期後半から後期初頭の集落と考えられる。後期初頭には、配石遺構や大形の柄鏡形住居も検出されている。遺構の配置を見ると、遺跡の西側から東側の谷地部へと集落の主体が移動しており、時期の推移と共に、集落の変遷過程が見て取れる。出土土器は、加曾利EⅢ式後半から後期堀之内式土器である。特に、加曾利EⅣ式から後期へと変遷する過程において、地域的特徴が見られる。後期初頭段階では、古式の称名寺式土器が見られず、加曾利EⅣ式土器とその系統を受け継ぐ土器が主体となっている所に本地域の特徴がある。古墳時代では、竪穴住居42軒も検出されている。特に、この地域では検出例が少ないS字口縁台付甕とそれに伴う一括資料に好例が見られる。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第430集

天ヶ堤遺跡(2) 一第1分冊 旧石器・本文編一

北関東自動車道（伊勢崎～県境）地域並びに
（一）香林羽黒線地方道路交付金事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年（2008年）3月3日 印刷

平成20年（2008年）3月14日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話（0279）52-2511（代表）

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社
